

## 災害科学国際研究所活動報告書 2019年度

著者	東北大学災害科学国際研究所
雑誌名	東北大学災害科学国際研究所活動報告書
ページ	1-361
発行年	2020-08-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00128913">http://hdl.handle.net/10097/00128913</a>



TOHOKU  
UNIVERSITY

2019年度

東北大学 災害科学国際研究所  
活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science

Tohoku University



IRIDES

# 目次

1	巻頭言	1
2	研究所の概要	
(1)	基本理念	3
(2)	沿革・設置目的	3
(3)	中期目標・中期計画	3
(4)	組織運営活動	4
(5)	研究活動	6
(6)	教育活動	8
(7)	社会貢献活動	9
(8)	自己評価	11
3	組織運営活動	
(1)	研究組織、人員配置及び会議・委員会	17
A	研究組織	17
B	研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等	18
C	教員数	18
D	教員等の配置	19
E	研究所内会議・委員会	24
(2)	研究資金	
A	歳出決算	27
B	研究者一人あたりの研究費	28
C	科学研究費補助金採択状況	29
D	外部資金受入状況	30
E	寄附金の受入状況	32
4	研究活動	
(1)	研究部門・研究分野の研究活動	35
(2)	プロジェクトエリア・ユニットの研究活動	57
(3)	共同研究プロジェクトの研究活動	69
(4)	専任教員の研究・教育・社会活動	135
①	災害リスク研究部門	135
②	人間・社会対応研究部門	168

③地域・都市再生研究部門	209
④災害理学研究部門	235
⑤災害医学研究部門	252
⑥情報管理・社会連携部門	293
⑦寄附研究部門	325
⑧広報室	335
<b>5 教育活動</b>	<b>337</b>
<b>6 研究成果の社会発信</b>	
（1）刊行物	339
（2）IRIDeS 金曜フォーラム	340
（3）展示	344
（4）各種メディアでの紹介	345
<b>7 国際交流</b>	<b>355</b>
<b>8 関係・協力団体</b>	<b>361</b>

# 1 卷頭言

## 巻頭言

災害科学国際研究所は、2019 年度も数多くの会議やイベントを企画・実施し、また、協力・参加させていただきました。国連防災機関による防災グローバルプラットフォーム(5 月、ジュネーブ)、国際会議である IUGG(7 月、モントリオール)、ぼうさいこくたい 2019(10 月、名古屋)、AIWEST および第 2 世界 BOSAI フォーラム(11 月、仙台)、アーカイブ国際シンポジウム(1 月、仙台)、かたりつぎ(3 月、大船渡)などを通じて、国内外で災害科学国際研究所の活動が認知・評価されてきました。本研究所が、Blended Hybrid Institutional Form(社会ニーズに応じた連携型の学際研究体制)というキーワードで学術論文(Yonesawa et. al、2019)によって紹介されたことから、活動が着実に発展していると実感しております。

2019 年度における最大の会議は、仙台市において実施された第 2 回世界 BOSAI フォーラム(11 月 9 日・前日祭、10~12 日・本体会議)であり、2017 年第 1 回フォーラムに引き続き、本研究所は重要な役割を果たしました。第 1 回フォーラムの実績を踏まえ、第 2 回フォーラムでは、「世界とつなぐ BOSAI の知恵ー仙台防災枠組の理念を未来へー」をキャッチフレーズに、東日本大震災をはじめ、近年、多発化・甚大化・複雑化する自然災害の現状を受け、世界と経験・教訓をより積極的に共有し、各国・地域で災害リスク軽減戦略を策定しながら減災に繋げていく BOSAI の知恵を議論しました。本体会議では、口頭セッション 50、基調講演 3、ポスター発表 47、フラッシュトーク 33、展示ブース 14 が展開されました。第 2 回フォーラムへは、インドネシア・フィリピン・アメリカ合衆国をはじめとする 38 の国・地域から 871 名の会議登録者が参加し、「仙台防災枠組 2015-2030」の推進、特にサブテーマであったグローバルターゲット E の達成に向けての議論を行い、質・量ともに世界的なフォーラムにふさわしい内容となりました。前日祭、本体会議、ならびに同時開催関連イベント「仙台防災未来フォーラム」「第 10 回震災対策技術展東北」の延べ来場者数は 8,000 人以上となり、第 1 回フォーラムに引き続き盛況となりました。

東日本大震災の被災地では、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、高田松原津波復興祈念公園・東日本大震災津波伝承館、名取市震災復興伝承館、いわき震災伝承みらい館が次々にオープンし、また、一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構、3.11 メモリアルネットワークも立ち上がり、経験や教訓の伝承活動が活発化しています。一方で、地球規模での気候変動の影響もあり、台風 19 号災害にみられるように、広域で甚大な被害が発生しており、さらに熱中症で犠牲になった方が 1,000 名を超えまし

た。そのうえ、コロナ禍が全世界に大きな影響を与え、被災各地での追悼と鎮魂、そして経験や教訓を伝承するイベントや取り組みも制限を余儀なくされ、新たな災害対応が求められています。

2021年3月11日で、東日本大震災から10年となります。本研究所は、これまでの活動を振り返りながら、震災から10年、そしてその先を見据えながら、国内外の安全で安心な地域を目指して、次へ何をすべきなのか議論し、戦略や計画を立てております。2021年度より、本研究所では新部門・分野体制を発足させる予定です。従来の防災の枠組みや考えに囚われない、現地からの発想による新しい活動が必要であると感じています。New Normalへの対応、防災の産業化も目指す防災ISO、災害からの生存学などの取り組みも始まっています。思いを言葉にし、具体的な行動に繋げたいと決意を新たにしております。

東北大学災害科学国際研究所  
所長 今村文彦

## 2 研究所の概要



## (1) 基本理念

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月に新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力し、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する自然災害科学研究とは、事前対策、災害の発生、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルにとらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした自然災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

## (2) 沿革・設置目的

### 沿革

2012年4月 研究所設置当初の7部門36分野で発足し、その後何度かの分野の再編を経て、2020年6月現在、下記の7部門36分野を擁する。

- 災害リスク研究部門(6分野)
- 人間・社会対応研究部門(5分野)
- 地域・都市再生研究部門(4分野)
- 災害理学研究部門(7分野)
- 災害医学研究部門(8分野)
- 情報管理・社会連携部門(4分野)
- 寄附研究部門(2部門)

### 設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることが設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。

## (3) 中期目標・中期計画

災害科学国際研究所の理念に則り、以下の重点戦略・展開施策を中期目標・計画に掲げ、活動を行っている。

### 1. 災害科学研究の世界的拠点

昨今の多様化、多発化する災害を受け、地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指す。

### 2. 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様である。それに応えるため、

分野横断的・学際融合的な研究を促進し、既存にはない新規の分野を開拓する。

### 3. 実践的防災学の構築

災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本および世界の防災対策にも積極的に貢献する。

### 4. 防災知識を身に付けた人材の育成

防災科学研究の成果を教育課程で積極的に展開する。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生のメカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせる。大学院の専門教育やリーディングプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進および新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組む。

### 5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠である。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取り組みを進めることができるよう、小中学校および高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及を図る。

### 6. 産官学および地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠である。自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界の間では防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発に取り組む。また社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取り組みを進める。

### 7. 国際社会との連携強化

2015年に仙台市で開催された国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」を推進する。また環太平洋大学協会(APRU: Association of Pacific Rim Universities)との共催で「APRU-IRIDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活発化させる。また、世界防災フォーラムを支援し、国内外および地元東北の多様な防災関係者らと「仙台防災枠組」の実施にむけ、活発な議論を行う。さらに災害対策技術の標準化に取り組む国際機関(国連等)や海外の研究機関との連携を通じて防災対策の国際標準化を目指し、本研究所が世界の減災対策向上へ先導的な役割を果たすことを目指す。

### 8. 共同利用・共同研究への取り組み

本研究所が有する資料、施設などを有効に利用するため、他機関との共同利用・共同研究を推し進める。本研究所のリソースを利用した共同研究プロジェクトを公募・実施し、卓越した実績および研究ネットワークの構築にも不断に取り組む。

### 9. 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」にむけた取り組み

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定されたことを受け、その中の災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創生し、体系化を図る。

## (4) 組織運営活動

本研究所の組織運営としては、本研究所の最高意志決定機関である運営会議の下に、予算委員会、研究企画委員会、広報・出版・図書委員会、教務委員会、施設・環境委員会、ハラスメント防止対策委員会、国内・国際連携委員会、総務委員会、倫理委員会などを設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針を策定して運営会議に諮った後に決定し、教授会や拡大全体会議で周知するという仕組みを確立している(3章(1)E 研究所内会議・委員会構成 p.24を参照)。

以前より全体会議の場を可能な限り効果的な情報交換、課題の共有化の場として活用するため、月1回の執行部会議と運営会議の後に、(1)専任教員、兼任教員、事務スタッフが対象の「全体会議」、(2)専任の講師・准教授以上が対象の「拡大教授会」、(3)専任の教授による「教授会」、という3つの会議を月例で開催している。本年度は、昨年度に引き続き3回の休会の月を設け、より効率的な運用とした。2019年度の重点的な取り組みを以下に記す。

本年度は新型コロナウイルスの発生により、年度末の活動の多くが制限された。1月30日は大学からの最初の注意喚

起がなされ、イベント開催や出張が大きく制限される中、オンラインでの情報交換などで一定の対応を行った。刻々と変化する状況に応じたレジリエントな活動の仕方を次年度以降も模索していく必要がある。

## 1) 広報室による社会発信機能の拡大・強化

広報室(専属助教 1、技術職員(限定)1、技術補佐員 2)は、社会発信の対外窓口・広報業務を集約し、広報・出版・図書委員会、社会連携オフィス、緊急調査ワーキンググループ(WG)、所内研究者等と緊密に連携しつつ、効果的・戦略的に社会発信・メディア対応等を行った。以下が主要な活動実績である。

1. 本研究所のウェブサイト(日本語)を、設立後7年間を経て発展した現状のニーズに合わせて全面改訂し、2月に公開した。異なる閲覧者毎に必要な情報が得られ、また、甚大な災害発生時には迅速な情報発信ができる仕様に切り替えられる特徴を有し、全体の構成、アクティビティレポートなど過去の情報の整理、さらに個々の構成員の発信情報を新規に作成し直した。なお、英語版サイトの改定は、次年度での対応とした。併せて、これまでパンフレットなどに使用してきたキャラクター「さいがい犬イリ」について、考案元の印刷業者と覚書を交わし、今後災害研キャラクターとして積極的に活用していくこととした。
2. ウェブサイトを通じた本研究所の全教員のアクティビティ(学会発表、受賞、取材、災害現地調査報告等)の発信を行った(2019年度はトピックス142件、報道869件を掲載)。また、記者会見・説明会3件(台風19号調査報告会含む)、プレスリリースは15件であった。
3. 災害発生時は、緊急特設ウェブサイトを開設し、また、公開報告会も行って積極的な社会発信を行った。特に2019年度は台風による甚大な被害が発生し、これに対応した「2019年台風19号(令和元年東日本台風)に関する災害特集ページ」を設け、調査報告会の案内、本研究所が実施した調査報告、報道発表資料などを現在も随時更新し続けている。10月15日にはIRIDeS棟にて台風19号公開報告会を行い、12月14日には岩手・宮城・福島3県に関する速報会を土木学会・地盤工学会・日本地すべり学会の各東北支部と共同で東北学院大学土樋キャンパスにて開催した。また、6月に発生した山形県沖の地震についても特設ページを設け、緊急報告会の案内、解説、メディア報道などを整理して発信した。
4. 日本語版と英語版のIRIDeS NEWS 2020の冊子版を作成すると共に、PDF版をウェブサイトで公開し、広く情報発信を行った。
5. 出前展示として、11月に仙台国際センターにて第10回「震災対策技術展」東北に参加した。
6. 本年度も青葉山新キャンパス広報連携企画会議に参加し、同キャンパスにある環境科学研究科、農学研究科、NICHeと連携し、7月のオープンキャンパスでは、多賀城高校の団体など本格的に来場者を受け入れた。この他、4月にはインドネシア大学副学長、5月には四川大学学長、「日中経済知識交流会」の中国側代表団の視察受け入れ等、数多くの対応をした。
7. 2019年度から、1階と2階の展示スペースの一般の方への常時公開を、昨年度末に定めた見学ルールに則り開始した。展示レイアウトなどを工夫したことにより、これまで特段の問題は発生せず、常時公開を軌道に乗せた。また、事前申請のあった国内外からの訪問・見学者(国内外の研究者、教育機関(小中高校生)、自治体関係者、企業など)を計49件受け入れた。オープンキャンパスのタイミングでは一般市民向け見学会を設け、展示スペースを活用した教員による研究活動紹介および3D映画「大津波3.11 未来への記憶」(今村所長監修)の上映を行った。
8. 2018年度に続き、朝日小学生新聞紙上における災害研研究者リレー記事(本年度は「クイズでわかる地球防災ラボ」、9~3月・全25回)に協力し、同連載記事のパネル化を実施した。パネルはスリーエム仙台市科学館に貸し出すなどして活用されている。また、スリーエム仙台市科学館にて特別展「地球と地震 48 のひみつ」が開催され、同特別展の中で使用された地球の構造や地震発生の仕組み、防災対策等に関する子ども向けパネル48枚の監修協力を行った。いずれも次世代へ災害科学を伝える良質の機会となった。

## 2) コンプライアンス推進体制の整備と強化

研究所として適切な研究が実施されるように、研究活動の不正防止や、個人情報の管理など、コンプライアンスを推進するための体制を整備・強化している。

1. 研究費管理運用の適正化、研究活動の不正防止のための全学的体制構築の方針を全体会議時に全教職員に説

明・周知(計2回)している。また、公的な研究資金の意義と公正な資金運用をふくめた研究倫理教育として、CITI—Japan が提供する遠隔教育プログラムを全教員および博士課程後期の大学院生が受講できる体制を整え、少なくとも外部資金を管理する立場にある研究者については2019年度内の受講を促した。

2. 2015年度から研究所倫理委員会により開始された倫理審査を月1回の頻度で開催しており、事前申請により人に関わる研究活動が円滑に行えるよう配慮するとともに、倫理委員会細則について、その遵守を全体会議において所員全員に周知した。
3. 「東北大学における公正な研究推進のための共同研究等実施指針」に基づき、本研究所の構成員が責任著者となる論文等の成果発表が公正なものであることを組織責任として担保するため、昨年度より継続して「研究成果発表確認シート」の提出を求めた。また、研究データの保存および管理状況の定期点検のため、研究分野単位で、点検表の提出を徹底させた。
4. 研究活動に対するコンプライアンスの徹底およびハラスメント防止に向け、全学の教育FDの受講を促し、所内企画としては所内新任教員および所内教員が指導する大学院生を対象とした研究倫理教育セミナーを9月に開催した。なお、3月に予定されていた第14回全学教育FDは新型コロナウイルスの影響で中止となった。

## (5) 研究活動

本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。

主たる研究活動は、2015年度末に開始し、2016年度から本格始動したニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制のもと実施されてきた。学問分野ごとの研究シーズに沿った部門・分野の枠組を超え、変化する社会からのニーズに対応した成果をタイムリーに生み出すことが期待されている。場、もの(施設や構造物)、人と社会集団、情報、生命と健康という5つの要素に関する疑問の解明と基本的な課題解決に重点を置く5つの研究エリアと、それらを総合して災害に強い地域社会システムの構築を目指す研究エリアにより構成される。これまでの4年間でニーズオリエンテッド型ならではの成果を生み出したことで、その役割を一定程度果たしたと判断し、次年度末でプロジェクトエリア・ユニット制を一旦見直すことが決まった。また、もととなる部門再編についても、研究部門と社会連携部門に大別し、よりコンパクトになるよう部門・分野を統合する方向で検討を重ねた結果、すでに新体制が固まりつつあり、2021年度より完全移行することが決定された。

前年度に引き続き、7月の共同利用成果報告会の際に、プロジェクトエリア・ユニットの報告も併せて行い、新たな活動の状況を広く他の研究機関や一般の人に紹介した。また、実践的防災学の体系化については、議論した成果が「リーディング大学院プログラム」の講義内容に反映されている。2019年度の取り組みや達成状況の概要は以下の通りである。

### 1) 災害科学研究の世界的拠点へ

地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築、防災人材育成など、分野毎の先端的研究を推進した。本年度中の成果として、273編の学術論文、著書20冊、総説・解説4編、学会における講演456件(うち基調講演・招待講演44件)を行った(表1、p.14)。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率が54%に達するとともに、学会等での受賞も20件を数えた(表2、p.15)。また、メディア報道への出演・執筆なども869件に達し、本研究所の社会的な認知度が確実に上がっていることが示された。

### 2) 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

東北大学と名城大学との連携協定を締結し、両大学がそれぞれの特色・教育研究資源を活かした相互連携および協力により、有為な人材の育成・教育の充実並びに研究の推進に寄与することが期待される。この協定は、災害科学分野の研究者交流を契機に成就したものである。また、ドイツ航空宇宙センターとの大学間学術交流協定を更新し、リモートセンシング等の宇宙技術を用いた災害把握および救出活動への貢献に関する研究をすすめた。さらに、本学の理学

研究科、国際文化研究科とともに、ニュージーランド・ビクトリア大学との大学間学術交流協定を結び、それぞれの分野での国際共同研究の推進および共同博士課程学生プログラムによる学生交流が活発化することとなった。この他、国連開発計画 (UNDP) との学術交流協定更新、インドネシア・ジャカルタ大学との部局間協定更新、など活発な交流が続いている。

災害科学に特化した査読付き国際学術雑誌 *Progress in Disaster Science* を Elsevier 社から発刊し、年間 4 冊の頻度で順調に版を重ねている。国連ジュネーブ本部で開催された「仙台防災枠組実現のための科学・政策フォーラム」でも、この雑誌の発刊に関するセッションが設けられ、今後の活発な投稿、引用が期待できる。

一方、本研究所創設から月に 1 回の頻度で続けている「IRIDeS 金曜フォーラム」は、今年度よりテーマを精査し、年間で 5 回の開催とした。今年度のテーマは、新任教員の研究から始まり、共同研究成果報告会、災害メモリアル、近年の災害の振り返り、「復旧・復興制度の勉強会」成果報告会であった。会場を会議・セミナー室に変更したが、一般の参加者も加え、多様な研究者らとより近い距離で討論が行われ、問題点を共有できた。

2016 年度から月 1 回開催している「災害と健康」学際研究推進セミナーを本年度も精力的に継続し、研究者から一般市民、県庁や保健所からも参加があり、セミナーへの関心の高さを伺わせた。3 月に予定されていたセミナーは新型コロナウイルスの影響で中止となったが、今後の新たな形での開催が望まれる。

### 3) 実践的防災学の構築

セコム財団からの外部資金として助成を受けて活動を開始した「南海トラフ地震の事前情報に関する組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトは、毎月、現象評価班・対応行動体系化班・社会影響研究班各班の進捗報告や活動の方向性に関する活発な議論の場を設け、いわゆる大震法に代わる南海トラフ地震の臨時情報が発表された際の、民間・役所のとるべき対応について検討を進めた。その成果は、京都で開かれた地震学会の公開セミナーで発表されたほか、香川県高松市でのワークショップ、対応のモデル地域としている高知市での中間報告会を開催し、実際に対応する行政・企業の担当者らと具体的な情報交換を行った。

2018 年より開始された日本電信電話株式会社 (NTT) とのビジョン共有に基づく共同研究では、リアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化等の研究テーマを設け、取り組みを深化させている。この技術は内閣府の災害対応システムとしても採用されており、大学発ベンチャーであり RTi-cast が運用の一部を担っている。また、同予測手法の海外への展開も視野に入れている。

「防災・業務継続計画 (BCP)」導入ガイドを活用して作成された本研究所の BCP に関し、組織・メンバーを変更し、前年度の災害対策本部訓練を受けて見直し、さらに BCP 雛形第 4 版との整合のため改定し、1.3 版とした。BCP の基本的な事項を定期的に学べる「BCP 月次オープン講座」を 6 月から 12 月にかけて 6 回開催し、BCP とは何か、被害想定、事業影響度分布、事業継続戦略、事前対策、訓練・維持管理のテーマについて解説した。また、実践的な避難訓練として、宮城県沖地震の発生日である 6 月 2 日に、仙台市のシェイクアウト訓練に登録し、参加した。

### 4) 国際社会との連携強化

仙台国際センターで開催された「第 2 回世界防災フォーラム」では、本研究所所長が国内実行委員長を務め、主要な役割を担い、多くの災害科学国際研究所関連イベント・セッションも企画した。日本を含め 38 の国および地域から 871 名、オーラルセッション 50、基調講演 3、ポスター発表 47、フラッシュトーク 33、展示ブース 14 が展開し、「仙台防災枠組 2015-2030」の推進、特に「グローバルターゲット E」の達成に向けての議論、および「BOSAI」のコンセプトを具体的なソリューションという形で共有し、世界へ浸透させることができた。また、併せて開催された「仙台防災未来フォーラム」、「第 10 回震災対策技術展 東北」の他、「Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR2019)」でも活発な議論が交わされ、海外からの参加者を被災地の巡検に案内し、現状の理解を図った。

仙台防災枠組の標準化のため、防災に関する国際認証制度「防災 ISO」の取得を目指し、仙台市、日本規格協会、経済産業省らと国内準備委員会を 1 月に設立し、関連する活動を本格化させた。第 2 回世界防災フォーラムにおいても、関連セッションを立ち上げ、計画を報告した。

2018 年のインドネシア・パル (スラウェシ島) 地震津波のその後の復旧・復興現状踏査に、本研究所の各分野の専門

家が参加し、国家開発計画庁とキックオフミーティング、中部スラウェシ州の被害状況の確認、被災地区の住民の生活環境の確認や恒久住宅計画地および住宅の建設状況を実査した。帰国前には、関係者への報告会をバンドン工科大学(バンドン市)で行った。

災害統計グローバルセンターでは、国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社らと定例会議を開催し、世界防災フォーラムでのセッションの立ち上げ、開発中の災害統計グローバルデータベース(GDB)について議論した。

環太平洋大学協会(APRU)マルチハザードプログラムにおいて、研究成果および科学技術を実践として活かすため、多くの国際機関や NGO などとの連携を強化し、意見交換をした。6 月には恒例のサマースクールを開催した。

## 5) 共同利用・共同研究の取り組み

本研究所は、部局ビジョンおよび第 3 期中期目標・中期計画のいずれにおいても、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを計画として掲げてきた。2016 年度から申請に向けた準備を進め、2017 年度共通政策課題(全国共同利用・共同実施分)の獲得に至ったが、最終的な全国共同利用拠点への採択は見送られた。新たな方針として、第 4 期中期目標・中期計画をにらみ、いくつかの申請形態を検討した。既に拠点認定を受けている東京大学地震研究所・京都大学防災研究所に加え、全国の災害関連の研究所らとの「ネットワーク拠点」、または単独拠点、あるいは両者を取り入れた単独+協力型などである。協力の一環として、本年度新潟大学災害・復興科学研究所との包括的連携に関する協定が締結された。

また、本研究所の財産ともいべき災害に関する多くの資料、設備、人的リソースを全国の研究者らに共有してもらうため、本年度も引き続き共同利用研究の公募を実施し、新規 25 件、継続 10 件、計 35 件の応募のうち 32 件を採択した。採択の審査は、所内のプロジェクト実施委員会+共同研究委員会が行った後、外部委員会によって最終的に決定された。7 月には 2018 年度採択分の成果報告会を開催した。

## 6) 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定され、災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、次の目標のもと、災害科学を「実践防災学研究領域」・「自然災害研究領域」・「災害人文学研究領域」・「災害医学研究領域」の 4 つの研究領域に分け、それぞれに関連部局からのコアメンバーが中心となって、活動を本格化させた。これらのコアメンバーで構成する会議を隔月で開催し、研究活動の報告、領域間の調整を行った。

活動目標として、災害対応サイクル理論の適用による 4 つの科学分野を融合。学内での学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域の創成、さらに、APRU 組織などで始まりつつある災害科学研究ネットワークの発展による、国際共同研究の強化や国際学術会議の開催を通じての「災害科学」の体系化が挙げられる。

本年度は、活動の一環として査読付き国際的なジャーナルである *Progress in Disaster Science* を発刊し、災害に関する多くの論文の投稿を得て版を重ねている。数値的な目標となる重要業績評価指標(KPI)について、掲載論文の本数・被引用数、アーカイブデータベースの点数、拠点ネットワーク機関数などの現状を取りまとめ、今後の活動戦略を検討した。本年度のメインイベントとして、9 月に一泊二日の日程で七ヶ浜ワークショップを領域横断企画として開催した。ワークショップには、七ヶ浜町役場からも参加いただき、東北大学として地域にどのような貢献が可能かを、七ヶ浜町の各地区の視察も交えつつ、集中的に討論した。その一つとしてメソスケールのピンポイントの気象状況を把握・予測するための「七ヶ浜気象観測計画」を立ち上げた。このような狭い範囲内に特化した観測データを蓄積することで、農業や漁業に対しきめ細かな情報提供が可能になる。

## (6) 教育活動

2019 年度の教育活動の成果に関しては、「5 教育活動」(p.337)を参照されたい。

## (7) 社会貢献活動

災害対策先進国として、これまで特に地震・津波対策で国際貢献を果たしてきた我が国が、東日本大震災後、どのように社会の安定を取り戻し、復興を果たしていくかは、世界的にも注目されている。事前対策、発災時の緊急対応、被災後の復旧・復興の一連の災害サイクルにおいて、世界で最も緻密かつ徹底した総合調査・研究を行い、その知見を普遍化して次世代の防災・減災技術構築の先導を果たすことが本研究所の責務である。被災地にある総合大学としての特徴を最大限に活かし、災害における社会問題の具体的解決のための実践的研究を指向するために、社会との連携や人材育成は必須である。

2019年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

### 1) 防災知識を身に付けた人材の育成

前年度で終了した「リーディング大学院(グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)」に引き続き、本年度よりスタートした「災害科学・安全学 国際共同大学院プログラム(GP-RSS)」への中心的な参画を継続し、本研究所の教員による多くの授業等を通して、多層的な視点からの課題・プロジェクト解決型学習能力が備わった人材育成を図った。また、学内の附置研究所・センター連携体で進められている「研究所若手アンサンブルプロジェクト」にも積極的に参画し、本年度のアンサンブルグラントとして、本研究所教員が代表する課題3件が採択された。これらの活動は、6月の若手研究者アンサンブルワークショップ、12月のアンサンブルプロジェクトリコレクションシンポジウムで発表された。所内では前年度新設された「災害科学国際研究所奨励賞」を本年度も継続し、災害研内での若手教員・職員の表彰を行い、優れた研究・活動を所としてプロモートした。本年度は、3件の表彰があった。

スリーエム仙台市科学館において、前年度の災害研教員と朝日学生新聞社が協働で作成した小学生向け災害科学解説パネルの継続展示に引き続き、特別展「地球と地震 48のひみつ」(2019年7月20日～8月25日)で展示するパネルの監修を行った。また、1月に仙台国際センターで開催された、第28回全国救急隊員シンポジウムに参加し、多数の講演・および研究成果の展示を行った。

地域の教育現場に対する出前授業、あるいは受け入れ研修として、5月の気仙沼市立階上中学校の防災学習の授業、7月に気仙沼高等学校 SGH プログラムのフィールドワークの受け入れ、ワシントン大学看護学院(米国・シアトル)の教員・大学院生の受け入れ、9月に教職員支援機構での学校安全指導者養成研修、10月に台湾防災教育代表団の受け入れ、11月に秋田県立横手高校での JSPS サイエンス・ダイアログの実施、インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)の職員研修、大河原教育事務所管内の防災主任研修会地域別研修会での講義、12月に「災害時学校支援チームみやぎ(養成研修 III)」の開催、1月に多賀市での「みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会/東日本大震災メモリアル day 2019」の開催、宮城教育大学附属小学校3年生に対する防災教室の開催など、広範にわたる活動を行った。また、活断層に関する市民向けの講演を延べ3回、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」を8回実施した。

前年度に引き続き、実践的防災学を学ぶためのオンライン学習教材である東北大学 MOOC「東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ」を提供し、一般に広く公開した。一方、隔年で開催されていた「片平まつり」(10月12～13日)は、例年通り準備が進められてきたが、台風19号の接近に伴う悪天候が予想されたことから、直前に中止の判断が下された。

### 2) 産官学および地域社会との連携および共同研究体制

宮城県教育委員会と共同主催で11月20日に岩沼市民会館において、「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム～多様な協働をとおして～」を開催した。国土交通省東北地方整備局、岩沼市教育委員会の共催も得ており、学校安全・地域安全に関わる教育関係者、研究者、実践者等、日本全国から535名が参加した。所長からの「東日本大震災の風化を防ぐ防災意識の再強化」と題する特別講演の他、多くの研究機関・行政機関から学校安全の充実に向けた、主に教育支援の側面からの情報提供が行われた。

災害科学研究拠点は、実践防災学、災害理学、災害人文学、災害医学の4研究領域からなるが、それらの共通の連携フィールド研究として、七ヶ浜町において2日間のワークショップを実施し、災害科学研究拠点と七ヶ浜町役場の相互理解を得、共同・協働研究の基盤が作られた。これは、東日本大震災からの復旧・復興だけでなく、地球規模の温暖化

の中での地域生活・産業のあり方について考えていくものである。七ヶ浜の各地区の視察などを通して、七ヶ浜のもつ「強み」と「課題」を数多く挙げて必要な情報を抽出し、地域に根ざした実践的な研究の展開を議論し、次年度に向けた計画を検討した。

2 つ目の寄附部門として、本年度 11 月 1 日付けで新たに「都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門」が応用地質株式会社との連携により設置された。11 月 6 日には、東北大学の理事・副学長、応用地質株式会社の取締役社長を招き、開設式が執り行われた。産学の得意な分野を活かし、発生が懸念される都市部直下型の内陸活断層大地震について、地形学・地質学・地震学・地震工学の知見から、具体的かつ実践的な防災・減災案を提示する研究をすすめている。また、日本電信電話株式会社(NTT)とのビジョン共有型共同研究として、リアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化に関する研究に取り組んだ。

本研究所と中国清華大学土木工学科の研究室の共同研究(Innovative Earthquake-resilient Structural System and Design Theory for High-rise Buildings)が東北大学ー清華大学共同研究ファンドプロジェクトに採択され、清華大学との交流活動として、北京におけるミニシンポジウムへの参画、東北大学生の清華大学への短期派遣、東北大学でのミニシンポジウムの開催などを実施した。ニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントンとの大学間学術交流協定を締結したことにより、各分野の共同研究を推進し、最先端の研究手法の導入や若手研究者の育成に大いに貢献できるとともに、国際共同プロジェクトの立ち上げが可能となった。国内では、名城大学、東洋英和女学院大学とのクロスアポイントメント制度に関する協定を結び、研究者の移動を容易にして研究交流の活発化を図った。また、イギリス・フランス・タイの大使館、UNISDR・UNDP 等の国連機関、タイチューラーロンコーン大学・インドネシアジャクアラ大学・米国ワシントン大学・英国 UCL 大学などとの連携を強化した。

連携協定・覚書等は、研究所発足以来の累計で民間企業と 19 件、地方自治体・学校・独法等とが 33 件を数え、地域社会への実装も着実に進展した。

### 3) 防災教育の社会的展開のためのシンポジウム等の開催

プロジェクト連携研究センターである「防災教育国際協働センター」を中心に、防災教育に関わる国内外の多様なステークホルダーとのネットワークを構築し、研究と実務の距離を縮め、防災教育の普及と高度化の実現をめざしている。被災地では、防災対策・津波避難計画への協力、防災教育への協力、防災文化講演会の開催のような活動により、地元に着した拠点の形成を強化した。また、自治体等の復興計画委員会委員やアドバイザー等として、防災・減災の研究成果を政策や地域計画に反映するとともに、研究所公開、模擬講義、IRIDeS 金曜フォーラム等を継続的に開催し、地域の社会教育へ貢献した。これらの実現のため、開催・参加したシンポジウムやイベントの一部を以下に列挙した。

- ・ みやぎ「災害とメディア」研究会で「被災者と報道者の「こころ」を守るワークショップ」を開催(河北新報社、5/21)
- ・ 第 21～25 回「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催(東北大学医学部、5/29, 7/5, 9/5, 11/29, 2/12)
- ・ 第 62～66 回「IRIDeS 金曜フォーラム」を開催(災害研、5/31, 7/20, 9/27, 12/13, 2/21)
- ・ 第 1 回宮城 MCLS マネジメントコース及び第 17 回宮城 MCLS 標準コースを開催(災害研、5/31-6/1)
- ・ 第 29 回防災文化講演会「大震災の教訓に基づいた個人・コミュニティ防災:取り組まれている事例紹介」を開催(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、6/8)
- ・ APRU マルチハザード・サマースクールを開催(災害研、7/22-25)
- ・ 中部サイエンスネットワーク第1回防災・減災ワークショップを実施(7/25)
- ・ 第 30 回防災文化講演会「親子で学べる防災教室～津波・地盤災害・土砂災害～」を開催(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、7/27)
- ・ 「台風ハイエンからの復興に関するシンポジウム」を開催(フィリピン・タクロバン市、8/1-4)
- ・ 「地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬」を共催(南相馬市民情報交流センター、8/2-3)
- ・ 「石巻市学校防災フォーラム～学校と地域、行政が連携して取り組む防災教育の推進と地域防災体制の充実～」を開催(石巻市遊学館、8/6)
- ・ 「博物館所蔵歴史資料の防災に関するワークショップ」を開催(北海道大学、8/26)
- ・ 第 31 回防災文化講演会「地域と災害の歴史を伝えるために」を開催(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、9/28)



- ・ 第 4 回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい 2019@NAGOYA)で「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」を主催(名古屋コンベンションホール、10/19-20)
- ・ 第 32 回防災文化講演会「国内外の災害ミュージアムの現在」を開催(気仙沼 市東日本大震災遺構・伝承館、11/16)
- ・ 「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム～多様な協働をとおして～」を開催(岩沼市民会館、11/20)
- ・ 第 2 回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会を開催(東北大、12/4-7)
- ・ 第 5 回気仙沼防災フォーラム(第 33 回防災文化講演会)を開催(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館、1/22)
- ・ 「宮城県自主防災組織育成・活性化支援モデル事業令和元年度成果報告会」を開催(災害研、2/18)
- ・ APRU マルチハザード・キャンパスセーフティワークショップを開催(災害研、2/12-13)
- ・ 南海トラフ地震臨時情報に関する学際的プロジェクトの中間報告会を開催(高知会館、2/19)

#### 4) 社会へのプレゼンスの強化

11 月 9～12 日に仙台国際センターで開催された第 2 回世界防災フォーラムでは、国内運営の主要な部分を担い、会議を成功に導いた。国内実行委員長を務めた所長から主要な場面での挨拶・発表があり、東北大学および災害科学国際研究所が復興に果たした役割等について国内外へ発信した。「Recent Progress of the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)」と題したセッションの他、本研究所が主導して Elsevier 社から発刊したばかりの国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」に関するセッション、本研究所が取り組んでいる防災 ISO に関するセッションなど、本研究所がホストを務める多くのセッションを立ち上げ、それぞれでオーラル・口頭発表を通して、本研究所の研究の最前線を紹介した。議長声明には上記の防災の ISO 標準化についても取り上げられ、関心の高さが伺われた。

昨年度に公開された Journal of Disaster Research 誌の特集号に続き、そのパート II として、同誌に特集号「Special Issue on the Development of Disaster Statistics Part 2」を刊行し、仙台防災枠組が設定する災害による人的・物的損失の削減に向けた結果目標のモニタリングについて、災害統計の立場から各国政府による科学的根拠に基づく政策立案に資する知見の提供に貢献した。

昨年度から参画した「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第 2 次)」では、本研究所ならではの文理融合型の研究課題も複数取り入れられ、全体計画の重要な部分を担っている。

3 月に予定されていた「東日本大震災 9 周年シンポジウム」は新型コロナウイルスの影響で延期となった一方、次年度で 10 周年の節目を迎えることから、多くのイベントの検討が始まった。その一つとして、東日本大震災 10 周年記念出版およびその出版に合わせた東日本大震災メモリアルシンポジウムを企画している。この書籍は、本研究所の学際的な多くのトピックについて一般向けに平易に書かれる予定で、一般の人が震災を振り返る契機になると期待される。

日経 SDGs フォーラム 特別シンポジウム 東京海上日動創立 140 周年・マングローブ植林 20 周年記念「地球の未来にかける保険『マングローブ植林』を通じた社会価値創出」(東商グランドホール・東京 10 月 8 日)等の注目を集めるイベントで、本研究所所長がパネリストを務めるなど、広い分野で本研究所が貢献した。

## (8) 自己評価

### 1) 2019 年度活動の総括

2019 年度は、大きく二つのフェーズに分けられる。2019 年 6 月の山形県沖地震や 10 月の巨大台風 19 号による風水被害など、自然災害中心の前中期のフェーズと、2020 年 1 月から今まで続き、いまだに収束の見通しが全く立たない世界的な新型コロナウイルス感染拡大による「パンデミック」という災害のフェーズである。「実践的防災学」を掲げる本研究所は、6 月や 10 月の甚大な自然災害に対し、迅速な緊急調査活動を展開し、さらに、報告会などで研究内容の社会発信を行った。一方、東日本大震災の経験も踏まえ、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることを設立理念とした本研究所は、設立時から災害感染症学分野を含めた災害医学研究部門を擁するなど、文・理・医の融合した学際的研究組織であり、多面的な顔を持つ災害に柔軟に対応できる体制を構築してきた。今年発生した「パンデミック」に対しても、研究所の特性を生かした文・理・医の学際研究などを迅速に開始しつつある。

2019 年度の本研究所での最大のイベントは、仙台市で開催された第 2 回世界防災フォーラムであったが、第 1 回と同様、多くの参加者を得て、有意義な議論が活発に交わされ、盛会のうちに終了した。さらに、従来からの研究、教育、

社会貢献活動のみならず、2017 年度発足の災害科学研究拠点の本格的活動、あるいは共同利用共同研究のさらなる拡充と第 4 期中期目標・中期計画での拠点申請に向けての準備など、多彩な活動が進められた。

その一方で、災害の複合化、広域化が見られる近年、これまでに経験の無い新しい形の災害に対応する上で、その設立趣旨の遂行のためには、常ならぬ組織の見直し、新陳代謝が求められる。従来の部門・分野制と並列して、2016 年から始動したニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制は 4 年目を迎え、その役割を十分に果たしたと判断し、次年度末で成果を総括することとなった。さらに、2022 年度開始の国の第 4 期中期計画を見据えた上で、本研究所の将来の方向性をどのように計画・実施するかという将来構想の検討が、前年度に引き続き行われた。長期間にわたる議論の上、今後は研究部門と社会連携部門という二つの大枠を設けること、2021 年度より部門・分野の再編を行った新部門・分野体制を発足させ、本研究所の活動を一層活性化させることが決定された。2021 年は東日本大震災から 10 年となる節目の年であるが、次の 10 年を見据えた新たな部門・分野体制が、今年度、形作られたといえる。

## 2) 活動水準の向上度の評価

研究所設立以降の 8 年間に、本研究所を取り巻く状況には様々な変化があったが、研究成果の状況は、おおむね安定した傾向を示している。過去 5 年間の年間の研究成果の推移(2015～2019 年度)をみると、学術論文(492 編→471 編→327 編→304 編→273 編)、著書(32 冊→33 冊→38 冊→19 冊→20 冊)(単著、共著、分担執筆含む)、総説解説(79 編→63 編→51 編→39 編→34 編)、学会における招待講演(92 件→75 件→53 件→71 件→44 件)、受賞(18 件→26 件→25 件→25 件→20 件)、特許(7 件→5 件→5 件→9 件→4 件)と毎年着実に実績をあげていることがわかる。学術論文の内訳では、国際誌では査読有論文比率が 54%(48%→51%→49%→50%→54%)と半分以上が査読有論文であり、国内誌査読有論文比率(29%→18%→24%→19%→16%)と合わせて、質の高い水準を保っている。また、受賞件数は例年同様の水準を保っているが、その内訳を見ると、2018 年度日本機械学会賞、国土交通大臣表彰、市制施行 130 周年記念表彰(仙台市)、第 4 回ステロイドホルモン学会研究奨励賞、さらに土木学会デザイン賞最優秀賞など、文・理・医学分野の研究から社会貢献と広範な領域に跨っており、それぞれが確実に実績を挙げ、社会的な評価に結び付いていると考えられる。

一方、過去 5 年間のメディア報道への出演・執筆・企画協力・資料提供(595 件→842 件→680 件→722 件→869 件)も安定した件数を示しており、さらに記者会見・説明会を 3 回実施し、プレスリリースも 15 件行うなど、社会への発信機能は確実に充実しつつある。2020 年 2 月には、本研究所のウェブサイトを 7 年ぶりに全面改訂した。このウェブは、甚大災害発生時には緊急特設ページにすぐアクセスできる仕様にするなど、本研究所ならではの工夫が凝らされており、今後は更なる効果的な情報発信が可能となる。2019 年度からは災害研展示スペースの一般公開を開始するなど、「市民に開かれた研究所」の機能も充実しつつある。

また産官学および社会地域との連携に関しては、連携協定・覚書が研究所発足以来の累計で、民間企業 19 件、地方自治体等とが 33 件となっており、地域社会への実装もさらに進展しつつある。

## 3) 世界トップレベル研究拠点

災害科学研究拠点では、「実践防災学研究領域」「自然災害研究領域」「災害人文学研究領域」「災害医学研究領域」の 4 つの研究領域を設け、本研究所および関連部局からのコアメンバーを中心に、活動を本格化させた。4 研究拠点の連携フィールド研究地域として七ヶ浜町を選定し、同町で 9 月にワークショップを開催し、拠点と七ヶ浜町役場の相互の共同・協同研究の基盤が作られたことは、地域密着型の新たな連携研究の形として特筆に値する。また、後述する世界防災フォーラムにおいても、拠点のセッションが設けられ、今後の方向性が議論された。さらに、拠点達成目標の重点のひとつに掲げた「世界をリードする国際的なジャーナル」を、Elsevier 出版から新しい学術誌「Progress in Disaster Science」として、2019 年春に創刊したことは大きな成果である。「災害科学」を世界に発信する機関紙を得たことで、今後の活動には、より一層の内外からの注目が集まるものと思われる。災害科学研究拠点に関する詳細は、拠点の HP (<http://dsmca.irides.tohoku.ac.jp>)を参照されたい。

## 4) 世界防災フォーラム

2019 年 11 月 9～12 日に仙台で開催された第 2 回世界防災フォーラムは、同時開催の「仙台防災未来フォーラム」

「第 10 回震災対策技術展東北」との連携の下、のべ参加人数は 8000 人以上を記録するなど、第 1 回フォーラムに続き、盛会の内に幕を閉じた。インドネシア、フィリピン、米国をはじめとする 38 の国・地域から 871 名の会議登録者が参加するなど、文字通り世界フォーラムの名にふさわしい国際学会としての足場を固めている。また、本研究所が積極的に取り組む「防災 ISO」の認証に関するセッションが設けられ、さらにそのことが議長声明で取り上げられるなど、有効な情報発信の場ともなっている。仙台、東北大、そして本研究所に関わる災害研究活動は、世界的に着実に認知されつつあるといえよう。第 3 回世界防災フォーラムは、2021 年、東日本大震災から 10 年の節目に開催される予定であり、更なる国内外との連携強化が図られると考える。

#### 5) 共同利用共同研究

本研究所は、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを設立当初から計画として掲げていた。平成 30 年度認可に向けた申請では、唯一、最終選考まで残るも、最終的に認可には至らなかった。これまで、本研究所では、共同利用共同研究体制強化のため、共同利用共同研究助成公募を 2016 年度から行っている。2016 年度 13 件、2017 年度 34 件、2018 年度 33 件、2019 年度 32 件と、4 年間で計 112 件を採択し、広範な共同利用共同研究活動を展開することで、継続的な研究者コミュニティの発展に寄与している。2020 年度も同様の公募を行い、34 件を採択した(2020 年 6 月)。現在は、第 4 期中期目標・中期計画での、再度の全国共同利用・共同研究拠点への申請を目指しており、それまでに、共同利用・共同研究の方向性と実績をより充実させていく必要がある。単独拠点あるいはネットワーク型など様々な申請形態を、文部科学省の動向を見つつ検討中であるが、2020 年 3 月に新潟大学災害・復興研究所と包括連携協定を締結するなど、共同利用研究体制強化に向けての体制整備は着実に進んでいると考える。

表1 災害科学国際研究所の研究成果（2019年度）の概要

学術論文	273 編
単著	24
共著（うち筆頭）	249（57）
著書	20 冊
単著	8
共著（うち筆頭）	8（2）
監修・編集・共編	4
総説・解説	34 編
学会発表	456 件
単独・筆頭	218
共同	238
うち基調講演・招待講演・特別講演	44
特許	4 件
受賞	20 件
科研費（代表）	44 件
その他の競争的資金（代表）	48 件
学術会議等の主催・共催・運営	95 件
シンポジウム	25
講演会・セミナー	21
研究会・ワークショップ	34
その他	15
セミナー・講演等の主催・共催・運営	123 件
シンポジウム	30
講演会・セミナー	61
研究会・ワークショップ	10
その他	22
講演・講義等	342 件
公開講座	39
講演会・セミナー	190
小中高との連携	72
展示会	6
ボランティア・その他	35
うち行政・企業との連携	154
うち基調講演・招待講演・特別講演	98

表 2 2019 年度 研究成果への受賞リスト

受賞者名は本研究所所属教員のみ記載

受賞名・学術賞名 <授与機関>	受賞者名	授与日
2018 年度(平成 30 年度)日本機械学会賞 <日本機械学会>	寺田賢二郎(グループ)	2019/4/18
平成 30 年度土木学会東北支部技術研究発表会研究奨励賞 <土木学会東北支部>	寺田賢二郎、森口周二	2019/5/17
技術賞 <地域安全学会>	佐藤翔輔(グループ)	2019/5/22
建設工学研究奨励賞 <一般財団法人建設工学研究振興会>	橋本雅和	2019/6/10
平成 30 年度土木学会論文賞 <土木学会>	水谷大二郎	2019/6/14
国土交通大臣表彰 <国土交通大臣>	奥村 誠	2019/6/19
市政施行 130 周年記念表彰 <仙台市>	奥村 誠	2019/7/1
2018 年度土木学会建設マネジメント委員会論文賞 <土木学会 建設マネジメント委員会>	水谷大二郎(グループ)	2019/8/1
学術講演会発表優秀賞 <日本自然災害学会>	橋本雅和	2019/9/21
IEEE GCCE 2019 Excellent Paper Award "Silver Prize" <IEEE GCCE 2019>	杉安和也(グループ)	2019/10/15
Costal Engineering Journal Citation Award <日本土木学会>	サッパシー アナワット・ 山下 啓・今村文彦	2019/10/23
第 9 回東北放射線医療技術学術大会学術奨励賞 <日本放射線 技術学会>	稲葉洋平	2019/10/26
第 3 回 JAAM 研究発表会 JAAM 賞 <日本アセットマネジメント 協会(JAAM)>	水谷大二郎	2019/10/31
第 4 回日本ステロイドホルモン学会研究奨励賞 <日本ステロイド ホルモン学会>	三木康宏	2019/11/2
優秀ポスター賞 <第 2 回日本放射線安全管理学会・日本保健 物理学会合同大会>	千田浩一(グループ)	2019/12
令和元年度土木計画学優秀論文賞 <土木学会土木計画学研究 委員会>	奥村 誠	2019/12/1
土木学会デザイン賞最優秀賞 <土木学会景観・デザイン委員会>	平野勝也(グループ)	2020/1/25
災害科学国際研究所奨励賞 <東北大学災害科学国際研究所>	森口周二	2020/3/9
災害科学国際研究所奨励賞 <東北大学災害科学国際研究所>	泉 貴子	2020/3/9
災害科学国際研究所奨励賞 <東北大学災害科学国際研究所>	佐々木宏之	2020/3/9

### 3 組織運営活動

(1) 研究組織、人員配置及び会議・委員会

A 研究組織

2020年3月31日現在

研究部門	研究分野	
災害リスク研究部門	地域地震災害研究分野	津波工学研究分野
	環境変動リスク研究分野	広域被害把握研究分野
	最適減災技術研究分野	低頻度リスク評価研究分野
人間・社会対応研究部門	災害認知科学研究分野	被災地支援研究分野
	歴史資料保存研究分野	防災社会システム研究分野
	災害文化研究分野	
地域・都市再生研究部門	都市再生計画技術分野	計算安全工学研究分野
	災害対応ロボテックス研究分野	国際防災戦略研究分野
災害理学研究部門	海底地殻変動研究分野	地震メカニズム研究分野
	火山ハザード研究分野	長期地殻変形・地質構造研究分野
	気象・海洋災害研究分野	宙空災害研究分野
	活断層研究分野	
災害医学研究部門	災害医療国際協力学分野	災害感染症学分野
	災害放射線医学分野	災害精神医学分野
	災害産婦人科学分野	災害公衆衛生学分野
	災害医療情報学分野	災害口腔科学分野
情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究分野	災害復興実践学分野
	社会連携オフィス	国際研究推進オフィス
地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門		
都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門		

## B 研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等

研究所長	今村 文彦	教授
副研究所長 (共同研究拠点・広報担当)	伊藤 潔	教授
教育研究評議員	丸谷 浩明	教授
研究所長補佐(評価・国内連携担当)	丸谷 浩明	教授
研究所長補佐(総務担当)	村尾 修	教授
研究所長補佐(研究戦略・国際連携担当)	寺田 賢二郎	教授
部門長		
災害リスク研究部門	五十子幸樹	教授
人間・社会対応研究部門	奥村 誠	教授
地域・都市再生研究部門	岩田 司	教授
災害理学研究部門	遠田 晋次	教授
災害医学研究部門	児玉 栄一	教授
情報管理・社会連携部門	佐藤 健	教授

## C 教員数

2020年3月31日現在

	教員数	教員数における性別内訳		教員数における 外国人教員数(%)
		男(%)	女(%)	
教授	18人	18人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
准教授	21人	17人(80.9%)	4人(19.0%)	4人(19.0%)
講師	2人	2人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
助教	16人	10人(62.5%)	6人(37.5%)	4人(25.0%)
助手	4人	2人(50.0%)	2人(50.0%)	0人(0.0%)
計	61人	49人(80.3%)	12人(19.6%)	8人(13.1%)



## D 教員等の配置

2020年3月31日現在

### 災害リスク研究部門

分野名	職名	氏名
地域地震災害研究分野	准 教 授	大 野 晋
	准 教 授	榎 田 竜 太
	事 務 補 佐 員	後 藤 由 美
津波工学研究分野	教 授	今 村 文 彦
	准 教 授	Suppasri Anawat
	助 教	門 廻 充 侍
	学 術 研 究 員	Pakoksung Kwanchai
	事 務 職 員 ( 限 定 )	伊 藤 智 栄 子
	事 務 補 佐 員	小 野 千 亜 希
	技 術 補 佐 員	村 山 真 由 美
環境変動リスク研究分野	教 授	越 村 俊 一 ( 兼 務 )
	准 教 授	有 働 恵 子
	助 教	橋 本 雅 和
	学 術 研 究 員	武 田 百 合 子
	技 術 補 佐 員	池 田 千 春
広域被害把握研究分野	教 授	越 村 俊 一
	教 授	佐 藤 源 之 ( 兼 務 )
	准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo
	准 教 授	太 田 雄 策 ( 兼 務 )
	学 術 研 究 員	阿 部 孝 志
	学 術 研 究 員	Moya Huallpa Luis Angel
	技 術 補 佐 員	遠 江 美 紀
最適減災技術研究分野	教 授	五 十 子 幸 樹
	助 教	郭 佳
	事 務 職 員 ( 限 定 )	石 野 友 恵
低頻度リスク評価研究分野	准 教 授	菅 原 大 助

### 人間・社会対応研究部門

分野名	職名	氏名
災害認知科学研究分野	教 授	邑 本 俊 亮
	教 授	杉 浦 元 亮
	学 術 研 究 員	平 野 香 南
被災地支援研究分野	教 授	奥 村 誠
	准 教 授	井 内 加 奈 子
	助 教	水 谷 大 二 郎
	技 術 補 佐 員	齋 藤 緑
	技 術 補 佐 員	山 口 誉 子
歴史資料保存研究分野	准 教 授	佐 藤 大 介
	准 教 授	川 内 淳 史
	助 教	安 田 容 子

防災社会システム研究分野	教	授	丸谷浩明
	教	授	島田明夫(兼務)
	教	授	増田聡(兼務)
	教	授	吉田浩(兼務)
	准 教	授	佐藤翔輔
	助	教	Fulco Flavia
	技 術 補 佐 員		田中希唯
	技 術 補 佐 員		森實香純
	技 術 補 佐 員		五十嵐和美
	技 術 補 佐 員		高橋久美子
災害文化研究分野	准 教	授	蝦名裕一
	技 術 補 佐 員		花巻美紗

地域・都市再生研究部門

分野名	職名	氏名	
都市再生計画技術分野	教	授	岩田司
	准 教	授	姥浦道生(兼務)
	技 術 補 佐 員		管野輝美
	技 術 補 佐 員		須藤靖子
	技 術 補 佐 員		眞野美穂
計算安全工学研究分野	教	授	寺田賢二郎
	准 教	授	森口周二
	助	手	山口裕矢
	技 術 職 員 ( 限 定 )		芳賀麻由美
災害対応ロボテックス研究分野	教	授	田所論(兼務)
国際防災戦略研究分野	教	授	村尾修
	准 教	授	泉貴子
	技 術 職 員 ( 限 定 )		加藤園子
	技 術 補 佐 員		小池慧子
	技 術 補 佐 員		小林さやか
	事 務 補 佐 員		小野恵

災害理学研究部門

分野名	職名	氏名	
海底地殻変動研究分野	教	授	木戸元之
	教	授	日野亮太(兼務)
	准 教	授	福島洋
	助	教	川田佳史
	技 術 補 佐 員		榎本郁美
地震メカニズム研究分野	教	授	趙大鵬(兼務)
	准 教	授	内田直希(兼務)
	准 教	授	岡田知己(兼務)

火山ハザード研究分野	教 授	三 浦 哲(兼務)
	准 教 授	山 本 希(兼務)
	助 教	市 來 雅 啓(兼務)
長期地殻変形・地質構造研究分野	准 教 授	武 藤 潤(兼務)
気象・海洋災害研究分野	教 授	須 賀 利 雄(兼務)
	教 授	山 崎 剛(兼務)
宙空災害研究分野	教 授	小 原 隆 博(兼務)
	准 教 授	三 澤 浩 昭(兼務)
	助 教	土 屋 史 紀(兼務)
活断層研究分野	教 授	遠 田 晋 次
	助 教	石 澤 堯 史
	技 術 職 員 ( 限 定 )	國 分 園 子

災害医学研究部門

分野名	職 名	氏 名
災害医療国際協力学分野	教 授	江 川 新 一
	准 教 授	佐々木 宏 之
	技 術 補 佐 員	川 崎 弘 嗣
	技 術 補 佐 員	佐 藤 真 理
	技 術 補 佐 員	千 田 蓉
	技 術 補 佐 員	藤 原 莉 沙
災害感染症学分野	教 授	児 玉 栄 一
	助 教	大 江 千 紘
	学 術 研 究 員	河 治 久 実
	技 術 職 員 ( 限 定 )	臼 井 恵 美 子
	技 術 補 佐 員	笹 野 美 奈
	事 務 補 佐 員	高 橋 由 美
	事 務 補 佐 員	初 貝 ゆう子
災害放射線医学分野	教 授	千 田 浩 一
	教 授	細 井 義 夫(兼務)
	講 師	鈴 木 正 敏
	助 教	稲 葉 洋 平
	技 術 補 佐 員	中 嶋 詩 織
災害精神医学分野	教 授	富 田 博 秋(兼務)
	助 教	兪 志 前
	助 教	臼 倉 瞳
災害産婦人科学分野	教 授	伊 藤 潔
	講 師	三 木 康 宏
	講 師	齋 藤 昌 利(兼務)
災害公衆衛生学分野	教 授	栗 山 進 一
	技 術 補 佐 員	渡 辺 明 美
災害医療情報学分野	教 授	中 山 雅 晴(兼務)
	准 教 授	藤 井 進

災害口腔科学分野	教 授	小坂 健(兼務)
	准 教 授	鈴木 敏彦(兼務)

情報管理・社会連携部門

分野名	職 名	氏 名
災害アーカイブ研究分野	教 授	今村 文彦(兼務)
	准 教 授	柴山 明寛
	助 教	Gerster-Damerow Julia
	技 術 補 佐 員	土屋 美津子
	技 術 補 佐 員	日當 徹
災害復興実践学分野	教 授	佐藤 健
	教 授	小野田 泰明(兼務)
	准 教 授	平野 勝也
	准 教 授	本江 正茂(兼務)
	助 教	定池 祐季
	学 術 研 究 員	小野 円
	事 務 補 佐 員	松浦 いく子
社会連携オフィス	教 授	小野 裕一
	助 教	佐々木 大輔
	事 務 補 佐 員	伊藤 可奈
	事 務 補 佐 員	八木 美夏
国際研究推進オフィス	教 授	小野 裕一(兼務)
	教 授	寺田 賢二郎(兼務)
	准 教 授	Boret Sebastien Penmellen
	准 教 授	Maly Elizabeth Ann
	准 教 授	泉 貴子(兼務)
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo(兼務)
	技 術 補 佐 員	齋藤 緑

地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	職 名	氏 名
	教 授	今村 文彦(兼務)
	准 教 授	山下 啓
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	助 手	宮本 龍
	学 術 研 究 員	武田 真一
	技 術 補 佐 員	保田 真理
	技 術 職 員 ( 限 定 )	佐藤 雅美
	事 務 補 佐 員	杉浦 加奈子

都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	職 名	氏 名
	教 授	遠田 晋次(兼務)
	助 手	吉見 瑤子
助 手	乗松 君衣	

国際共同大学院	職名	氏名
	助 教	杉 安 和 也

広報室	職名	氏名
	特 任 助 教	中 鉢 奈津子
	技 術 職 員 ( 限 定 )	鈴 木 通 江
	技 術 補 佐 員	小 森 光
	技 術 補 佐 員	福 島 愛 子

事務部

事 務 長	曾 根 芳 則
専 門 員	栗 原 尚 志
総 務 係	係長:前盛 和重、一般職員:赤坂 絵津子、 事務補佐員:大野 祐子、久保田 千恵、武田 加奈子
経 理 係	係長:杉山 力、 事務補佐員:菅原 千織、鈴木 由布子、村山 桃
用 度 係	係長:後藤 逸人、主任:佐藤 恭子、事務補佐員:曾我 俊徳
専 門 職 員	金山 志都、事務補佐員:松澤 千賀子

## E 研究所内会議・委員会

### 1.会議

会議名	構成員	審議事項
教授会	専任の教授	研究所の組織及び研究体制、人事、予算、その他重要事項
運営会議	研究所長、副研究所長、教育研究評議員、研究所長補佐、部門長	研究所の組織運営に関する事項についての企画及び調整
拡大教授会	専任の教授、准教授、講師	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換
全体会議	専任の教授、准教授、講師、助教、助手、その他	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換

### 2.委員会

委員会名	委員長	主な所掌内容
安全衛生委員会	今村 文彦 教授 (所長)	職員の健康障害防止
予算委員会	今村 文彦 教授 (所長)	研究所予算
総務委員会	村尾 修 教授 (所長補佐)	研究所総務
評価委員会	丸谷 浩明 教授 (所長補佐)	部局評価
広報戦略委員会	木戸 元之 教授	研究成果の社会発信、出版物
ハラスメント防止対策委員会	佐藤 健 教授	防止対策と発生時の対応
男女共同参画委員会	佐藤 健 教授	男女共同参画推進啓発
教務委員会	五十子幸樹 教授	教育、安全、活動の企画・運営
国内連携委員会	丸谷 浩明 教授 (所長補佐)	産官学連携、自治体連携
国際連携委員会	寺田 賢二郎 教授 (所長補佐)	国際連携、APRU
共同利用・共同研究委員会	伊藤 潔 教授 (副所長)	プロジェクトの計画、採択
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	伊藤 潔 教授 (副所長)	プロジェクトの実施
研究企画委員会	寺田 賢二郎 教授 (所長補佐)	研究の企画・運営、体制構築
研究倫理委員会	邑本 俊亮 教授	研究倫理審査、倫理教育企画
公正研究活動推進委員会	寺田 賢二郎 教授 (所長補佐)	公正な研究活動の推進
施設・環境委員会	村尾 修 教授 (所長補佐)	施設・環境整備保全、安全
消防・防災委員会	丸谷 浩明 教授 (所長補佐)	災害対策の策定、防災訓練

### 3.委員会名簿

2020年3月31日現在

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
安全衛生委員会	◎今村教授	小川産業医、伊藤教授、山下准教授、サッパシー准教授、水谷助教、泉准教授、福島准教授、佐々木大助教、事務長、用度係長、総務係長、総務係員	
予算委員会	◎今村教授 ○伊藤教授	丸谷教授、寺田教授、村尾教授、森口准教授、事務長、経理係長	
総務委員会	◎村尾教授 ○丸谷教授	今村教授、柴山准教授、総務係長	ライブラリ運営WG ★今村教授、柴山准教授、佐藤大准教授
評価委員会	◎丸谷教授 ○寺田教授	五十子教授、奥村教授、岩田教授、遠田教授、児玉教授、佐藤健教授	教員選考審査基準検討WG ★村尾教授、丸谷教授、寺田教授、遠田教授、児玉教授
			教員表彰WG ★丸谷教授、村尾教授
広報戦略委員会	◎木戸教授 ○伊藤教授	千田教授、サッパシー准教授、有働准教授、マス准教授、蝦名准教授、福島准教授、中鉢特任助教、広報室職員 ※各WGに広報室職員参画	情報発信WG ★川田助教、柴山准教授、マリ准教授、兪助教、中鉢特任助教
			ニューズレターWG ★中鉢特任助教、森口准教授、ボレー准教授、マリ准教授、三木講師
			年次報告書WG ★寺田教授、中鉢特任助教
			展示WG ★マリ准教授、川田助教、佐々木宏准教授、稲葉助教、兪助教、佐藤翔准教授、ボレー准教授、定池助教、水谷助教、佐々木大助教、中鉢特任助教、門廻助教、橋本助教、山口助手、安田助教
			ノベルティグッズWG ★福島准教授、岡田助教、中鉢特任助教
			東日本大震災10周年出版企画WG ★奥村教授、☆伊藤教授、森口准教授、木戸教授、江川教授、佐藤健教授、柴山准教授、中鉢特任助教
ハラスメント防止対策委員会	◎佐藤健教授 ○村尾教授	栗山教授(教授代表)、有働准教授(准教授・女性代表)、佐々木大助教(助教代表)、岡田助教(過半数代表者)、総務係長	
男女共同参画委員会	◎佐藤健教授 ○村尾教授	栗山教授(教授代表)、有働准教授(准教授・女性代表)、佐々木大助教(助教代表)、岡田助教(過半数代表者)、総務係長	
教務委員会	◎五十子教授(工) ○村尾教授(工)	越村教授(工・リ)、邑本教授(情)、江川教授(医)、後藤准教授(理)、佐藤大准教授(環)	GP-RSS運営WG ★村尾教授、江川教授、今村教授、児玉教授、サッパシー准教授、泉准教授、柴山准教授、佐藤大准教授
			高度医療人材養成プログラムWG ★江川教授、村尾教授、泉准教授、佐々木宏准教授
国内連携委員会	◎丸谷教授 ○岩田教授	江川教授、小野教授、蝦名准教授、森口准教授、三木講師	産官学連携WG ★丸谷教授、岩田教授、小野教授、佐藤健教授、定池助教
			気仙沼分室WG ★佐藤翔准教授、丸谷教授、岩田教授、栗山教授、児玉教授、蝦名准教授、森口准教授、サッパシー准教授、マリ准教授
			3.11からの学び塾WG ★佐藤健教授、☆定池助教、奥村教授、丸谷教授、岩田教授、平野准教授、佐々木准教授

国際連携委員会	◎寺田教授 ○小野教授	サッパシー准教授、マス准教授、泉准教授、マリ准教授、ボレー准教授	APRU運営WG ★泉准教授、村尾教授、サッパシー准教授、マス准教授、マリ准教授、ボレー准教授 世界津波の日WG ★今村教授、越村教授、小野教授、サッパシー准教授、マリ准教授、ボレー准教授、中鉢特任助教 世界防災フォーラムWG ★今村教授、寺田教授、村尾教授、丸谷教授、福島准教授、大野准教授、マリ准教授、ボレー准教授、マス准教授、サッパシー准教授、泉准教授(小野教授)
共同利用・共同研究委員会	◎伊藤教授	越村教授、邑本教授、千田教授、佐藤健教授、蝦名准教授	
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	◎伊藤教授	サッパシー准教授、柴山准教授、泉准教授、三木講師	
研究企画委員会	◎寺田教授(地) ○児玉教授(医)	五十子教授(リ)、奥村教授(人)、岩田教授(地)、遠田教授(理)、佐藤健教授(情)、森口准教授、福島准教授、杉浦教授	金曜フォーラムWG ★門廻助教、岩田教授、マス准教授、稲葉助教、マリ准教授、佐藤翔准教授、定池助教、橋本助教、水谷助教、佐々木大助教、川田助教、安田助教、広報室職員 緊急調査WG 津波(国内):山下准教授、門廻助教 津波(海外):マス准教授、サッパシー准教授 高潮・洪水:橋本助教、有働准教授 地震:大野准教授 土砂・火山:★森口准教授 保健・医療:佐々木准教授、兪助教 歴史資料保護:佐藤大准教授、蝦名准教授、川内准教授 構造物:柴山准教授、大野准教授 社会情勢・ロジ: 情報支援:佐藤翔准教授、中鉢特任助教、広報室職員 マッピング:マス准教授、有働准教授 EV管理・活用WG ★今村教授、柴山准教授、佐藤翔准教授、用度係長 ソフトウェア管理WG ★越村教授、マス准教授 KPI評価・推進WG ★今村教授、伊藤教授、寺田教授、佐藤健教授、小野教授、福島准教授、柴山准教授、事務長、経理係長 研究所若手アンサンブルWG ★佐々木大助教、橋本助教、水谷助教、山口助教、川田助教
研究倫理委員会	◎邑本教授 ○奥村教授	伊藤教授、栗山教授、有働准教授、ボレー准教授	
公正研究活動推進委員会	◎寺田教授(地) ○奥村教授*(人)	五十子教授(リ)、邑本教授*(人)、遠田教授(理)、千田教授*(医)、平野准教授(情) *研究公正アドバイザー	
施設環境委員会	◎村尾教授 ○平野准教授	大野准教授、柴山准教授、用度係長	施設管理WG ★平野准教授、岩田教授、村尾教授、大野准教授、柴山准教授、用度係長 ネットワークWG ★大野准教授、柴山准教授、寺田教授 デザインコードWG ★村尾教授、平野准教授、用度係長
消防・防災委員会(自衛消防隊)	◎丸谷教授 ○伊藤教授	今村教授、邑本教授、村尾教授、佐藤健教授、江川教授、大野准教授、佐藤大准教授、柴山准教授、平野准教授、事務長	防災計画策定WG ★丸谷教授、佐藤健教授、江川教授、邑本教授、柴山准教授、山下准教授、総務係長、用度係長
東日本大震災シンポジウム	◎児玉教授 ○奥村教授	井内准教授、福島准教授	



## (2) 研究資金

### A 2019年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位:百万円)

区分	決算額	備考
運営費交付金	493	
教員人件費	389	
教育研究費	103	
一般管理費	0	
運営費交付金(機能強化)	67	
間接経費	47	
外部資金	490	
寄附金	81	・寄附部門含む
受託研究費	102	
共同研究費	47	
受託事業費	46	
科学研究費補助金	128	
その他補助金	85	
合計	1,095	

※単位未満四捨五入

※特殊要因経費除く

## B 研究者一人あたりの研究費

2020年3月末現在(単位:千円)

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人 あたりの研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	103,454	57	1,815	
運営費交付金(機能強化)	67,397	57	1,182	
受託研究費等	362,221	57	6,355	寄附金、受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	127,904	57	2,244	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	660,976	57	11,596	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数

※単位未満四捨五入

C 2019年度科学研究費補助金採択一覧表

文科学研究費

2020年3月末現在

番号	課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	研究者	研究年度
1	17H06108	基盤研究(S)	理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	30,700,000	9,210,000	39,910,000	越村 俊一	H29 ~ H33
2	17H00840	基盤研究(A)	東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化	8,000,000	2,400,000	10,400,000	江川 新一	H29 ~ H32
3	17H01631	基盤研究(A)	巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化	6,800,000	2,040,000	8,840,000	今村 文彦	H29 ~ H33
4	18H03801	基盤研究(A)	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	6,000,000	1,800,000	7,800,000	村尾 修	H30 ~ H34
5	19H01094	基盤研究(A)	地盤を支える機能から流れる性質までの統合表現による数値シミュレーション	15,200,000	4,560,000	19,760,000	寺田 賢二郎	2019 ~ 2021
6	16H05752	基盤研究(B)	よりよい生活再建に向けた移転再定住計画プロセスの解明:台風ハイン被災地を対象に	3,000,000	900,000	3,900,000	井内 加奈子	H28 ~ H31
7	17H02065	基盤研究(B)	東日本大震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究	3,000,000	900,000	3,900,000	柴山 明寛	H29 ~ H31
8	17H03358	基盤研究(B)	災害や地域の特性に対応した木造応急仮設住宅の供給手法に関する研究	3,200,000	960,000	4,160,000	岩田 司	H29 ~ H31
9	18H01538	基盤研究(B)	気候変動による河川から海岸への土砂供給量変化を考慮した確率海岸線変化モデルの開発	3,100,000	930,000	4,030,000	有働 恵子	H30 ~ H33
10	18H01577	基盤研究(B)	変位制御設計に有効な複素減衰を模擬する免震用高性能バンプ減衰デバイスの開発	5,000,000	1,500,000	6,500,000	五十子 幸樹	H30 ~ H32
11	18H01579	基盤研究(B)	リアルタイム地震観測情報を用いた即時地震動・建物応答予測の研究	2,100,000	630,000	2,730,000	大野 晋	H30 ~ H32
12	18H01672	基盤研究(B)	斜面災害シミュレーションの具体的なV&Vの例示	3,400,000	1,020,000	4,420,000	森口 周二	H30 ~ H32
13	19H01293	基盤研究(B)	研究者ネットワークによる巨大災害被災地での歴史文化環境再生の研究	6,900,000	2,070,000	8,970,000	佐藤 大介	H31 ~ R3
14	19H03701	基盤研究(B)	ストレス応答生成と化学修飾を融合した多様な天然物による難治性疾患治療薬の開発	5,700,000	1,710,000	7,410,000	児玉 栄一	H31 ~ R3
15	19H03894	基盤研究(B)	アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と自閉スペクトラム症の戦略的病態解明	5,800,000	1,740,000	7,540,000	栗山 進一	H31 ~ R3
16	17K11266	基盤研究(C)	子宮内膜癌での性ステロイド合成 keyenzyme:CYP17の役割とその制御	800,000	240,000	1,040,000	伊藤 潔	H29 ~ H31
17	18K03795	基盤研究(C)	活断層の「端」と「間」の変形機構の解明	300,000	90,000	390,000	福島 洋	H30 ~ H32
18	18K04381	基盤研究(C)	潜在記憶・無意識の観点から見た生活景の認知特性	700,000	210,000	910,000	平野 勝也	H30 ~ H32
19	18K04650	基盤研究(C)	中小企業の事業継続力を向上させる新要素の抽出とその強化方策の研究	1,100,000	330,000	1,430,000	丸谷 浩明	H30 ~ H32
20	19K01219	基盤研究(C)	Managing Mass Death and Grief in Disaster Communities: Lessons Learned from Japan, Indonesia and France	1,700,000	510,000	2,210,000	ボレ セバ スチ ャ ン	H31 ~ R3
21	19K02035	基盤研究(C)	大規模広域災害に備えるためのNPOの実績評価と今後の展望	1,100,000	330,000	1,430,000	泉 貴子	H31 ~ R3
22	19K02879	基盤研究(C)	被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発	500,000	150,000	650,000	邑本 俊亮	H31 ~ R5
23	19K04784	基盤研究(C)	Coordination of NGO and Government Roles in Housing Provision after Mega Disasters in Urban Areas: the Cases of Houston	800,000	240,000	1,040,000	マリ エリザベス	H31 ~ R4
24	19K07453	基盤研究(C)	ストレスホルモン代謝と癌化ポテンシャル	1,100,000	330,000	1,430,000	三木 康宏	H31 ~ R3
25	19K10478	基盤研究(C)	全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にするBCM診断・支援ツールの開発	1,700,000	510,000	2,210,000	佐々木 宏之	H31 ~ R3
26	19K12860	基盤研究(C)	水晶体被爆を可視化する医療用ウェアラブル防護デバイスの開発	1,000,000	300,000	1,300,000	稲葉 洋平	H31 ~ R3
27	19K00443	基盤研究(C)【特設】	大規模災害発生時におけるSNS利用実態の解明とそのリテラシー向上	3,000,000	900,000	3,900,000	佐藤 翔輔	R1 ~ R3
28	19K21085	研究活動スタート支援	海洋レーダを用いた津波減災技術の構築～警報解除および避難被災地探索の迅速化～	900,000	270,000	1,170,000	門廻 充侍	H31 ~ R1
29	19K21444	研究活動スタート支援	自然災害の被害にあった地域での精神医療・保健体制の構築に関する研究	100,000	30,000	130,000	奥山 純子	H31 ~ R1
30	19K23126	研究活動スタート支援	The integration of negative heritage in rehabilitation strategies in Fukushima Prefecture: Bosai Tourism and Social Services Improvements in depopulated regions in Futaba, Namie, Minamisoma and Soma.	1,100,000	330,000	1,430,000	Gerster Julia	H31 ~ R2
31	18K13844	若手研究	画一的維持管理ルールに基づくインフラマネジメント手法の開発	1,500,000	450,000	1,950,000	水谷 大二郎	H30 ~ H31
32	19K15259	若手研究	津波脆弱性評価の深化に向けた津波土砂移動貯留モデルの標準化	2,700,000	810,000	3,510,000	山下 啓	H31 ~ R2
33	19K20540	若手研究	アチエにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けた新展開	1,100,000	330,000	1,430,000	佐々木 大輔	H31 ~ R3
34	17K13841	若手研究(B)	災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究	900,000	270,000	1,170,000	定池 祐季	H29 ~ H31
35	17K14404	若手研究(B)	東北日本前弧域における中新世以降の地殻伸張量・水平短縮量の定量化	600,000	180,000	780,000	岡田 真介	H29 ~ H31
36	17K17598	若手研究(B)	蒐集と博物学: 松森胤保の蒐集活動と博物図譜の作成に関する研究	700,000	210,000	910,000	安田 容子	H29 ~ H31
37	17K18944	挑戦的研究(萌芽)	嫌悪施設の包摂的立地による地域防災力向上への挑戦	1,800,000	540,000	2,340,000	奥村 誠	H28 ~ H31
38	19K21645	挑戦的研究(萌芽)	高齢者・地域住民に歴史資料保全活動が及ぼす心理社会的影響に関する調査研究	1,800,000	540,000	2,340,000	佐藤 大介	H31 ~ R3
39	19K22002	挑戦的研究(萌芽)	深層学習による強震動評価・即時予測の新展開	2,300,000	690,000	2,990,000	大野 晋	H31 ~ R3
40	17J05235	特別研究員奨励費	時空間マルチスケール新理論による津波防災施設の最適設計への挑戦	900,000	0	900,000	野村 怜佳	H29 ~ H31
41	18F18761	特別研究員奨励費	認識論的不確定性を考慮した構造物地震時応答制御用エネルギー吸収デバイスの最適設計	1,100,000	0	1,100,000	五十子 幸樹	H31 ~ R2
42	18J20339	特別研究員奨励費	連続スケール間で一貫した最適化を実現する事前落石対策事業スキームの創出	900,000	0	900,000	菅野 蓮華	H30 ~ H32
43	19J11299	特別研究員奨励費	複素減衰モデルの実現による長周期構造物の地震時応答変位・加速度同時低減への挑戦	1,000,000	0	1,000,000	ルオ ハオ	H31 ~ R2
合計				141,100,000	41,160,000	182,260,000		

D 2019年度外部資金受入状況

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託研究/競争的資金	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	リモートセンシングによる津波被害の把握と脆弱性評価	2019/4/1	2020/3/31	4,500,000	450,000	4,950,000
受託研究/競争的資金	児玉 栄一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	Epstein-BarrウイルスによるT/NK白血病・リンパ腫治療薬候補S-FMAUの前臨床試験	2019/4/1	2020/3/31	99,769,231	26,330,768	126,099,999
受託研究/競争的資金	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	B:地震・津波モデリングに基づく地震・津波シナリオの構築(B-2)	2016/4/1	2021/3/31	2,860,000	858,000	3,718,000
受託研究/競争的資金	有働 恵子	国立研究開発法人科学技術振興機構	6:沿岸セクターにおける適応機会とその効果の評価	2016/4/1	2021/3/31	770,000	231,000	1,001,000
受託研究/競争的資金	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	広域・高分解能リアルタイム津波浸水シミュレーションによる津波到達前の量的被害予測と被災地支援策の検討	2014/10/1	2020/3/31	12,200,000	3,660,000	15,860,000
受託研究/競争的資金	栗山 進一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究	2019/4/15	2020/3/31	18,930,000	570,000	19,500,000
受託研究/競争的資金	小野 裕一	国立研究開発法人科学技術振興機構	インクルーシブ防災の実現に向けた包括的な災害リスクアセスメントの実証	2019/11/15	2021/3/31	200,000	60,000	260,000
受託研究/競争的資金	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	超ハイテン材の変形・破壊シミュレーション技術の開発	2019/9/2	2020/8/31	300,000	90,000	390,000
受託研究/競争的資金	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	コロンビアにおける津波被害予測	2015/4/1	2020/3/31	5,000,000	1,500,000	6,500,000
受託研究/競争的資金	伊藤 潔	学校法人慶應義塾	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	2019/4/1	2020/3/31	50,000	15,000	65,000
受託研究/競争的資金	鈴木 正敏	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	低線量・低線量率放射線被ばくによる臓器別酸化ストレス状態の検討	2019/10/18	2020/3/31	8,581,804	1,415,836	9,997,640
受託研究/競争的資金	児玉 栄一	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	HIV感染症制御のための新規薬剤の評価と開発	2019/4/1	2020/3/31	2,000,000	600,000	2,600,000
受託研究/競争的資金	村尾 修	国立研究開発法人科学技術振興機構	研究題目2:都市の災害脆弱性を評価する物理モデルの構築/研究題目3:都市環境と社会の変化に応じて将来の災害脆弱性を動的に評価するシナリオ解析システム	2015/4/10	2020/3/31	600,000	180,000	780,000
受託研究/一般	水谷 大二郎	国立大学法人大阪大学	下水道施設のマネジメントにおけるPPP/PFI導入効果の定量的評価に関する研究	2019/8/28	2020/2/28	886,810	88,681	975,491
受託研究/一般	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	樹脂の硬化プロセスを考慮したCFRPのマルチスケール解析手法の開発	2018/11/1	2021/3/31	4,440,000	666,000	5,106,000
受託研究/一般	今村 文彦	国立研究開発法人海洋研究開発機構	南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト	2019/4/1	2020/3/31	7,066,364	706,636	7,773,000
受託研究/一般	今村 文彦	原子力規制委員会原子力規制庁	津波痕跡データベースの情報拡充	2019/7/1	2020/3/13	13,249,757	1,324,975	14,574,732
受託研究/一般	山下 啓	国立研究開発法人防災科学技術研究所	大潮の河川遡上を考慮したリアルタイム浸水予測モデルの開発	2019/5/23	2021/3/31	8,694,000	1,304,100	9,998,100
受託研究/一般	鈴木 正敏	公益財団法人原子力安全研究協会	不溶性セシウム粒子による生物影響の解明に向けた分野横断的共同研究	2019/4/1	2020/3/31	9,055,464	861,454	9,916,918
受託研究/競争的資金	鈴木 正敏	国立大学法人弘前大学	放射線影響モデル動物を利用した生物影響解明のための多元的アプローチ	2019/4/1	2020/3/31	2,312,768	693,830	3,006,598
小計						201,466,198	41,606,280	243,072,478
共同研究	寺田 賢二郎	中部電力株式会社	数値解析に基づく不確実性を考慮した津波リスクの空間相関評価	2018/6/25	2020/3/27	4,909,680	490,320	5,400,000
共同研究	今村 文彦	WILLIS LIMITED[イギリス]	Tsunami Risk Modelling	2010/10/1	2020/9/30	4,058,180	441,820	4,500,000
共同研究	蝦名 裕一	凸版印刷株式会社	二本松城跡(三ノ丸御殿)復元調査に向けた市内寺院内書庫の調査業務	2019/12/1	2020/3/31	400,000	80,000	480,000
共同研究	小野 裕一	パシフィックコンサルタンツ株式会社	仙台防災枠組と関連した災害研の国際連携活動の推進に向けた調査研究	2018/10/1	2019/9/30	0	0	0
共同研究	今村 文彦	一般財団法人河川情報センター	河川津波での避難情報のあり方等に関する研究	2019/10/11	2020/3/31	400,000	80,000	480,000
共同研究	小野 裕一	富士通株式会社	災害統計グローバルデータベース・プロジェクト	2017/6/12	2019/6/11	0	0	0
共同研究	今村 文彦	復建調査設計株式会社	津波に対する養場再生条件とその再生予測への適用性に関する研究	2019/4/1	2020/3/31	960,000	132,000	1,092,000
共同研究	定池 祐季	厚真町	北海道胆振東部地震からの復興に関する実践的研究	2019/4/1	2020/3/31	1,663,109	332,621	1,995,730
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2019/6/6	2020/6/5	720,000	144,000	864,000
共同研究	小野 裕一	パシフィックコンサルタンツ株式会社	仙台防災枠組と関連した災害研の国際連携活動の推進に向けた調査研究	2019/10/1	2019/12/31	183,300	36,700	220,000
共同研究	児玉 栄一	富士フイルム株式会社	感染症対策における共同研究	2019/8/1	2020/7/31	417,000	83,000	500,000
共同研究	寺田 賢二郎	ナミックス株式会社	樹脂の硬化収縮応力解析手法の確立	2017/8/1	2020/7/31	3,636,000	364,000	4,000,000
共同研究	佐藤 翔輔	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	自治体の災害対応の技能継承手法に関する研究	2019/11/25	2020/2/29	167,000	33,000	200,000
共同研究	今村 文彦	パシフィックコンサルタンツ株式会社	非地震性津波災害のリスク評価にかかる共同研究	2019/8/1	2020/3/25	2,083,000	417,000	2,500,000
共同研究	児玉 栄一	国立大学法人北海道大学	災害としての感染症リスクに対する分野融合型イノベーションと地球規模の早期対応に関する研究	2019/4/1	2020/3/31	2,877,000	0	2,877,000
共同研究	佐藤 大介	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	日本の地域社会における歴史文化資料の調査研究と資料保全を目的とする全国広域ネットワーク事業	2019/4/1	2020/3/31	12,000,000	0	12,000,000
共同研究	越村 俊一	日本電信電話株式会社	リアルタイム津波浸水被害予測を活用した意思決定支援手法の研究	2019/5/29	2020/3/23	2,727,000	273,000	3,000,000
共同研究	佐藤 翔輔	株式会社復建技術コンサルタンツ	河川維持管理ソフト「e-River」の高度化および水防災教育等に関する研究	2019/4/1	2020/3/31	2,120,000	212,000	2,332,000
共同研究	木戸 元之	国立大学法人東京大学	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)	2019/4/1	2024/3/31	7,238,000	0	7,238,000
共同研究	今村 文彦	株式会社富士通研究所	リアルタイム津波災害予測技術の研究開発	2019/9/1	2020/3/31	2,500,000	500,000	3,000,000
共同研究	五十子 幸樹	株式会社奥村組	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2019/4/1	2022/3/31	500,000	100,000	600,000
共同研究	児玉 栄一	富士フイルム株式会社	感染症に関係する領域における共同研究	2014/6/26	2019/6/27	0	0	0
共同研究	丸谷 浩明	東急ファンリテイサービス株式会社	仙台空港をはじめとする空港事業の事業継続力強化に関する研究	2019/4/1	2020/3/31	720,000	144,000	864,000
共同研究	五十子 幸樹	有限会社シズメテック	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2019/4/1	2022/3/31	0	0	0
共同研究	今村 文彦	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北	気候変動等による高速道路の災害リスク評価	2019/6/1	2020/3/31	2,400,000	600,000	3,000,000
小計						52,679,269	4,463,461	57,142,730

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託事業/ 学術指導	柴山 明寛	株式会社近畿日本ツーリスト東北	防災観光プログラム開発	2018/3/20	2021/2/28	1,350,000	150,000	1,500,000
受託事業/ 学術指導	江川 新一	日本無線株式会社	Alertmarkerの災害情報に係るAI多言語翻訳に関する研究	2019/4/1	2021/3/31	900,000	100,000	1,000,000
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	青森県「学校と地域が一体になった防災教育推進事業」	2020/3/9	2020/12/30	302,841	33,649	336,490
受託事業/ 学術指導	定池 祐季	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会	被災者支援、生活支援相談員業務に関わる学術指導	2019/4/1	2020/3/31	225,000	25,000	250,000
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2019/4/1	2021/3/31	450,000	50,000	500,000
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	みんなの防災手帳	2014/11/28	2022/11/27	0	0	0
受託事業/ 学術指導	栗山 進一	DSCサポートクラブ株式会社	プロトタイプの有効性評価及び改良	2018/2/6	2023/1/31	0	0	0
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	株式会社インバスケ研究	危機管理インバスケ	2018/7/13	2020/3/31	0	0	0
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	ぼくのわたしの防災手帳	2019/12/1	2020/11/30	49,500	5,500	55,000
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	一般社団法人AZ-COM丸和・支援ネットワーク	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2019/4/1	2021/3/31	450,000	50,000	500,000
受託事業	佐藤 健	宮城県	平成31年度宮城県自主防災組織育成・活性化支援業務	2019/4/26	2020/3/31	11,440,000	1,144,000	12,584,000
受託事業	平野 勝也	株式会社建設環境研究所	旧北上川河口部かわまちづくり検討支援	2019/6/7	2020/3/23	146,880	0	146,880
受託事業	柴山 明寛	岩手県	令和元年度自主防災組織活性化モデル事業	2019/8/19	2020/3/27	645,000	64,500	709,500
受託事業	柴山 明寛	大船渡市	令和元年度大船渡市震災伝承イベント開催業務	2019/9/27	2020/3/31	2,037,037	0	2,037,037
受託事業	柴山 明寛	河北新報社	河北新報震災アーカイブシステム保守業務	2019/4/1	2020/3/31	1,000,000	0	1,000,000
受託事業	今村 文彦	経済産業省	令和元年度産業標準化推進事業委託費(戦略的国際標準化加速事業:国際ルールインテリジェンスに関する調査(世界BOSAIフォーラムにおける地産地防のフレームの国際標準化提案に向けた調査))	2019/8/30	2020/3/31	10,603,169	267,730	10,870,899
受託事業	越村 俊一	内閣府	津波浸水被害推計システム拡張業務(H31単年度)	2019/3/26	2020/3/31	4,860,000	972,000	5,832,000
受託事業	柴山 明寛	多賀城市	平成31年度多賀城市震災アーカイブシステム保守点検作業	2019/4/1	2019/3/31	152,777	0	152,777
受託事業	今村 文彦	独立行政法人国際協力機構	研修員受け入れ	2019/10/1	2020/3/31	888,000	125,000	1,013,000
受託事業	泉 貴子	独立行政法人国際協力機構	地域コミュニティ安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災強化プロジェクト(草の根パートナー型)	2018/6/15	2022/8/31	13,516,000	2,295,000	15,811,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	2018-2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務	2018/4/1	2023/3/31	2,452,500	245,250	2,697,750
小計						51,468,704	5,527,629	56,996,333
合計						305,614,171	51,597,370	357,211,541

## E 2019年度寄附金の受入状況

受入総額:94,594,022円

### ○研究助成金

2020年3月末現在

No.	助成金名称	寄付者名	受入教員	寄附金額
1	CAEに関する研究助成金	(株)メカニカルデザイン	寺田賢二郎	1,000,000
2	発生から50年経過した洪水災害の伝承実態に関する研究助成金	河川財団	佐藤 翔輔	932,800
3	津波工学研究助成金	(株)東京建設コンサルタント	今村 文彦	1,000,000
4	活断層に関する研究助成金	一般財団法人 地域地盤環境研究所	岡田真介	300,000
4 月 計			4件	3,232,800
5	検診受信者に資する放射線被ばく管理システム構築に向けた研究助成金	一般財団法人 宮城県予防医学協会	稲葉 洋平	200,000
6	放射線生物影響研究助成金	鈴木 正敏	鈴木 正敏	50,000
7	津波工学研究分野研究助成金	五洋建設(株)	今村 文彦	500,000
8	放射線検査学研究助成金	(株)千代田テクノ	千田浩一	150,000
5 月 計			4件	900,000
9	JSCESスカラーシップアワード研究助成金	山口 裕矢	山口 裕矢	100,000
10	2019年度 東芝国際交流財団 公益事業助成金	公益財団法人 東芝国際交流財団	フルコ・フラヴィア	1,000,000
11	津波工学研究分野研究助成金	一般社団法人 東北地域づくり協会	今村 文彦	3,000,000
12	APRU-IRIDeSマルチハザードプログラム活動助成金	APRU(香港)	泉 貴子	1,613,550
13	都市間交通に関する研究助成金	(株)ANA総合研究所	奥村 誠	500,000
14	2019年度 東芝国際交流財団 公益事業助成金	富山大学からの移し換え	フルコ・フラヴィア	40,876
6 月 計			6件	6,254,426
15	活断層に関する研究助成金	一般財団法人 地域地盤環境研究所	岡田 真介	1,800,000
16	放射線生物影響研究助成金	鈴木 正敏	鈴木 正敏	50,000
17	放射線検査学研究助成金	東レ・メディカル(株)	千田浩一	200,000
7 月 計			3件	2,050,000
18	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	医療法人鳴瀬中央医院	江川 新一	100,000
19	CAEに関する研究助成金	サイバネットシステム(株)	寺田賢二郎	1,000,000
20	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	大沼 利行	江川 新一	100,000
21	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	医療法人 社団国手医仁会	江川 新一	300,000
22	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	福岡大学 坂田 直昭	江川 新一	10,000
23	災害アーカイブ研究助成金	日本総合システム(株)	柴山 明寛	100,000
24	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	高橋 優	江川 新一	500,000
8 月 計			7件	2,110,000

No.	助成金名称	寄付者名	受入教員	寄附金額
25	災害医学や災害感染症対策強化活動等支援金	早坂 得良	江川 新一	20,000
26	鋼構造の耐震化に関する研究助成金	エフ・エムブリッジ(株)	五十子幸樹	1,500,000
9 月 計			2件	1,520,000
27	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	358,000
28	衛星データを用いた活断層研究助成金	福島 洋	福島 洋	39,887
29	放射線検査学研究助成金	第一三共(株)	千田浩一	300,000
30	公益財団法人カシオ科学振興財団助成金	公益財団法人 カシオ科学振興財団	佐藤 翔輔	1,000,000
10 月 計			4件	1,697,887
31	災害アーカイブ研究助成金	(株)キャッセン大船渡	柴山 明寛	100,000
32	津波工学研究分野研究助成金	(株)東京建設コンサルタント	今村 文彦	1,000,000
33	地域防災力評価手法の開発研究	佐藤 健	佐藤 健	58,909
34	避難シミュレーションに関する研究助成金	日本工営(株)	エリック・マス	500,000
35	災害アーカイブ研究助成金	橋爪商事(株)	柴山 明寛	100,000
36	災害アーカイブ研究助成金	大船渡レミコン(株)	柴山 明寛	50,000
37	災害アーカイブ研究助成金	高田レミコン(株)	柴山 明寛	50,000
38	災害アーカイブ研究助成金	さいとう製菓(株)	柴山 明寛	300,000
11 月 計			8件	2,158,909
39	災害アーカイブ研究助成金	凸版印刷(株)東日本事業本部	柴山 明寛	200,000
40	災害アーカイブ研究助成金	大船渡温泉 (株)海楽荘	柴山 明寛	50,000
41	平成31年度特定領域研究助成(2年目)	公益財団法人セコム科学技術振興財団	福島 洋	12,800,000
12 月 計			3件	13,050,000
42	災害アーカイブ研究助成金	株式会社サクラダ	柴山 明寛	50,000
43	熊本地域の活断層調査に関する研究助成金	(株)三和地質コンサルタント	遠田 晋次	300,000
1 月 計			2件	350,000
44	耐震工学共同研究助成金	五十子 幸樹	五十子幸樹	1,270,000
3 月 計			1件	1,270,000
合計			44件	34,594,022

○寄附部門

No.	助成金名称	寄付者名	件数	寄附金額
1	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
2	都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門助成金	応用地質(株)	1件	30,000,000
合計			2件	60,000,000

## 4 研究活動

### (1) 研究部門・研究分野の研究活動



## 2019 年度の部門活動報告

部門名	災害リスク研究部門	報告者氏名	五十子 幸樹
部門目標			
東日本大震災の被害の全容と教訓を踏まえ、世界の防災・減災技術の再構築を目指す。地震や津波、風水害の被害の発生メカニズムの解明、観測データの統合・同化、先端的センシング技術を活用しながら、将来の巨大災害の発生が予想されている地域の災害リスクの軽減やさらなる備えを支援し、災害の脅威を軽減さらには防ぎ止めるだけでなく、人間・社会が賢く備えて対応するための実践的研究に取り組む。			
2019 年度の部門活動報告			
5 つの分野で構成される災害リスク研究部門の活動を以下に列挙する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>地震観測記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングのための研究やリアルタイム地震防災技術に関する研究を推し進めた他、動的サブストラクチャ振動実験のための合理的制御器設計法を構築した。(地域地震災害研究分野)。</li> <li>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開に向けた取り組みを行い、成果を国際的に発信した。Coastal Engineering Journal Citation Award 他を受賞。(津波工学研究分野)。</li> <li>気候変動の影響評価と適応策、洪水氾濫数値解析などの研究を実施し、自然災害学会発表優秀賞、UAV を用いた中小河川管理手法に関する研究に対して受賞した。令和元年台風 19 号、21 号に関連して、土砂生産量予測を行った。(環境変動リスク研究分野)。</li> <li>G 空間情報を基盤として、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術、ソーシャルセンシング技術を高度に融合し、リアルタイムシミュレーション・広域被害把握技術を社会に実装するための基礎・応用研究を推進した。(広域被害把握研究分野)。</li> <li>構造物の地震被害低減を目的として、従来の構造物振動制御の原理とは異なる複素減衰の考え方を基礎とした制御手法の理論を発展させ、複素減衰の因果的近似モデルに関する既往モデルの統一理論を展開した。(最適減災技術研究分野)。</li> </ul>			

## 2019 年度の分野活動報告

分野名	地域地震災害研究分野	報告者氏名	大野 晋
分野目標			
地域展開した地盤及び建物の強震観測網、振動実験や構造モニタリング技術に基づき、地域の地震・地盤条件を反映した耐震対策及びリアルタイムに得られる地震動や建物被害等の災害情報を用いた地震被害低減技術の開発を目的とする。			
2019 年度の方野活動報告			
<p>東北地方に展開した微動から強震まで連続観測可能な建物内リアルタイム観測網及び仙台市内のトリガー型地域強震観測網の観測を継続し、それに基づいてリアルタイム地震防災技術及びマイクロゾーニングに関する研究を行った。特に、仙台平野を対象とした長周期地震動特性の検討、領域最適化手法による長周期地震動評価のための地下構造モデルの高精度化の検討、機械学習による地震動スペクトル及び建物応答評価手法に関する検討をそれぞれ実施した。</p> <p>国際協力としては、MJEED(モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム)における地震工学関連プロジェクトのカウンターパートとして、構造物ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムのウランバートルへの展開と技術協力も行なっている。また、2019 年 6 月に発生した山形県沖の地震の現地被害調査も実施した。</p> <p>地震被害を受けた構造物の物理量を推定できる時系列区分線形化法(PLiTS: Piecewise linearization in time series)を開発した。この手法を E-Defense で実施された振動台実験の構造物に応用することで、減衰と剛性を時刻歴で同定できることを示した。これによって、構造物が吸収したエネルギーも時刻歴で表現した。</p>			

分野名	津波工学研究分野	報告者氏名	今村 文彦
分野目標			
今年度の目標は次の通り 5 つである。1) 災害発生時対応も含めた国内外の津波ハザード研究の深化、2) 東日本大震災における宮城県自治体での死因の傾向分析、3) 世界津波の日などを通じた津波研究成果の国際的な発信、4) 共同研究拠点の確立に向けた他分野・他大学との連携の強化、5) 地震津波研究(東京海上日動) 寄附部門との連携した実践的な防災学の展開			
2019 年度の分野活動報告(800 字程度)			
<p>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開を目標としている。研究成果として;1) 東日本大震災関連では、IUGG(カナダ)、AOGS(シンガポール)、海岸工学講演会(鹿児島県)、AGU(アメリカ)等で研究成果を発表し、東日本大震災で指摘された課題に対しての取組を紹介できた。2016 年に投稿された東日本大震災からの教訓に関する論文が CEJ Citation Award を受賞した。2) 宮城県警察本部から提供された東日本大震災における犠牲者情報(9527 名分)を用いて、犠牲者の位置情報を中心に分析を行うことで、東日本大震災における遺体発見場所に基づく実際の犠牲者分布と各死因の空間分布を示し、地域特性との関係を示した。研究成果は多くのマスメディアに取り上げられた。3) 国外において UNISDR、UNDP と今年も連携し、グローバル津波ハザード・リスク評価を進展させた。研究成果を活かした東南アジア・太平洋諸島での津波避難訓練も実施している。また、JICA を通じた被災地復興支援として 9 月にスラウェシ島と 12 月にスダ海峽で発生した津波の現地調査と数値解析より、津波発生メカニズムを解明し津波の評価や防災のアドバイスをを行い、NHK スペシャル等にも紹介された。4) 他分野・大学との連携、大使館(イギリス、フランス、タイ)、国連機関(UNISDR、UNDP)、大学(チューラーロンコーン、ジャクアラ、ワシントン、UCL)等と連携を強化出来た。5) 防災推進国民大会(10 月)、世界防災フォーラム(11 月)、仙台防災未来フォーラム(3 月)での共同企画により、企画セッション発表、展示の企画等を実施出来た。</p> <p><b>【教育、人材育成】</b>          東北大学工学研究科長賞、土木工学専攻ベストプレゼンテーション賞受賞(新家(修士学生))          東北大学工学部・水理系優秀発表者賞受賞(鎌田(学部生))</p>			

分野名	環境変動リスク研究分野	報告者氏名	有働 恵子
分野目標			
高波、高潮、津波、洪水などの災害の被災メカニズムを明らかにし、災害リスクを定量化するとともに、効率的な被害軽減技術を開発することを目標とする。将来は気候変動に伴う海面上昇、降雨特性の変化などが災害に及ぼす影響も危惧されており、そのリスク評価と適応策は特に重要な課題と位置付けている。			
2019 年度の分野活動報告			
<p><b>主な研究内容:</b>          有働准教授は、気候変動の砂浜への影響評価と適応策、タイにおける気候変動への適応戦略、砂浜-砂丘長期変形モデルの開発、河川からの土砂供給を考慮した長期海岸侵食モデルの開発、高速道路における気候変動の影響評価、ダムにおける堆砂メカニズムに関する研究を行った。特筆すべき成果として、砂浜地形変化モデルで重要なパラメータである土砂移動限界水深 DoC に関する国際共同研究成果が Scientific Reports (Udo ら, 2020) に掲載された。</p> <p>橋本助教は、UAV-SfM を用いた中小河川管理のための三次元点群データの可視化手法の開発、洪水氾濫数値解析と衛星画像解析技術を用いた浸水家屋推定の高度化、バングラデシュ農村地域における水防災と環境共生技術の開発に関する研究を行なった。</p> <p><b>国際交流・フィールド調査等:</b> オランダ、エジプト、タイ、バングラデシュの研究者と共同研究を行い、国内外で調査、研究打ち合わせを行った。2020 年 1 月にバングラデシュ北西部のシラジガンジにて、バンドル型水制設置サイトの調査を行なった。</p> <p><b>国内災害対応:</b> 2019 年 10 月の台風 19 号の災害について、広域被害予測(土砂生産量予測)を行い、災害研の災害対応ホームページにて公開した。また、鳴瀬川水系吉田川と阿武隈川水系新川・内川・五福谷川周辺で現地調査を行なった。さらに、それぞれの調査について震災対策技術展や世界防災フォーラムで報告した。その他、豪雨災害が発生した際に被災地周辺の河川水位・累積降雨等の情報を収集して緊急調査 WG で共有した。</p>			

分野名	広域被害把握研究分野	報告者氏名	越村 俊一
分野目標			
災害発生直後のリアルタイムシミュレーションと、センシング、ジオインフォマティクスを融合した新しい「広域被害把握技術」の基盤を構築し、その成果を国際社会で共有するとともに、効果的な災害救援活動に資する。			
2019 年度の分野活動報告			
<p>専任教員の越村俊一教授と Erick Mas 准教授は、G 空間情報を基盤として、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術、ソーシャルセンシング技術を高度に融合し、広域被害把握技術を社会に実装するための基礎・応用研究を推進した。リアルタイム津波浸水被害予測技術は、内閣府の災害対応システムとして採用され、大学発ベンチャーとして設立された RTi-cast がシステム運用の一役を担っている。また、災害医学分野との連携を強化し、科学研究費基盤 S による共同研究を推進した。</p> <p>新たな産学連携研究は、NTT とのビジョン共有型共同研究として、リアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化に関する研究に取り組んだ。</p> <p>国際共同研究については、ドイツ航空宇宙センター(部局間協定、リモートセンシング研究)、ワシントン大学(津波研究、リモートセンシング研究)、ペルー国立工科大学日本ペルー地震防災センター(部局間協定)との連携研究を推進した。また、メキシコ、コロンビアでの津波リスク評価に関する共同研究(SATREPS)を推進した。特に、コロンビアにおいては、津波浸水被害予測手法の標準化、新しい津波警報システムの開発に貢献した。</p> <p>兼任教員の佐藤源之教授は、電波科学を応用した衛星・航空機マイクロ波リモートセンシング(SAR)、地中レーダ(GPR)などの開発と応用に継続的に取り組み、国際的にも卓越した成果を得た。</p> <p>成果の発信は、ハイインパクトな国際ジャーナル論文の出版に加え、2019 年 11 月に仙台で開催された World Bosai Forum において企画セッション 3 件を主催するなど、成果の国際的な発信と研究交流を深めた。</p>			

分野名	最適減災技術研究分野	報告者氏名	五十子 幸樹
分野目標			
近年その数が増えつつある超高層建築物や免震建物、長大構造物のような都市の構成要素として存在感を増している長周期構造物において、東日本大震災を初めとする長周期／長継続時間地震動が与える影響が懸念されている。当分野では、このような社会的課題に対して振動制御技術及び構造ヘルスマニタリング技術の高度化による対策技術を提案する。			
2019 年度の分野活動報告			
<p>2019 年度、当研究分野では下記に纏めるように、超高層建築物や免震構造物のような長周期構造物の更なる高耐震化を目指した研究活動と国際交流活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>長周期構造物の高耐震化に関する研究 <ol style="list-style-type: none"> <li>従来の構造物地震時応答低減に用いられてきた制御原理とは異なる原理として複素減衰が長周期構造物の制御に有効であることを明らかにし、この考え方を取り入れた新しい制御デバイスの開発を進めた。今年度は特に、複素減衰の因果的近似モデルと知られていたものが、非整数時微積分モデルによって一つのモデルで表現出来ることを明らかにし、複素減衰の因果的近似に関する統一理論の足がかりを構築した。</li> <li>超高層建物の架構主軸に対して斜め方向に地動が入射した場合において、建物下層部分において捻れを伴う塑性座屈に起因する変形集中現象の発生が新たに指摘されている。今年度は、そのような激烈で危険な現象の発生を抑制する対策技術としてダイナミック・マスによるモード制御技術の有効性を明らかにした。</li> </ol> </li> <li>国際共同研究枠組みの強化 <p>当研究室と清華大学土木工学科の紀教授らのグループの共同研究(Innovative Earthquake-resilient Structural System and Design Theory for High-rise Buildings)が東北大学ー清華大学共同研究ファンドプロジェクトに採択され、清華大学との交流活動として、北京におけるミニシンポジウムへの参画、東北大学生の清華大学への短期派遣、東北大学でのミニシンポジウムの開催などを実施した。この他、米国とは、フロリダ大学の Brian Phillips 准教授を受け入れ、制振構造に関する合同セミナーも開催している。</p> </li> </ol>			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	人間・社会対応研究部門	報告者氏名	奥村 誠
部門目標			
<p>災害への人間と社会の対応を研究する。具体的には、人間の災害認知と行動のメカニズムを把握し、被災地支援のための技術を提供し、地域の歴史や文化を災害から守りつつ災害対応に活かし、災害対応力を高める社会システムや法制を提案し、歴史的視点で防災や復興を再評価して、内外の地域に有効な方策を提案する。</p>			
2019 年度の部門活動報告			
<p>部門内勉強会、南海トラフ地震対応、BCP 研究会への参加や、科研費プロジェクト、シンポジウム、社会貢献事業を通して、分野横断的な活動が活発に行われた。分野ごとの特徴的な活動は以下の通りである。</p> <p>災害認知科学研究分野は、災害を生きる力8因子について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用を進め査読論文 4 報を公開した。新たに災害伝承・防災教育システムの開発に関する科研費研究を開始し、大学生の被災地での学びから教育実践に至るプロセスでの学生たちの認知・心理面の変化の研究を進めた。</p> <p>被災地支援研究分野は共同研究体制を活用し、災害対応を考慮した地域施設の維持・更新マネジメントの研究、Big Data による災害影響の把握の研究を進めた。また、アジア・欧米・日本国内での大規模災害からの復興計画と実施、居住地移転、住宅復興に関する現地大学・現地政府・国際援助機関との連携研究を行った。</p> <p>歴史資料保存研究分野は、2019 年台風 19 号での宮城県南部の被災歴史資料の救援、自然災害での被災資料の応急処置方法の研究、自然科学分野と連携した歴史災害研究、臨床心理学者チームの被災者のアイデンティティ回復に関する研究、間文化研究機構、神戸大学との連携事業で北日本の大学との連携構築を行った。</p> <p>防災社会システム研究分野は、事業継続計画(BCP)の連続講座の開催などの普及活動や、既往災害の社会経済的分析、教訓の研究・発信、地域産業復興の研究に取り組んだ。2019 年 11 月 30 日に都市住宅学会学術講演会を開催し、被災地を含めた「人口減少社会における都市住宅政策の在り方」について発表と議論を行った。</p> <p>災害文化研究分野は、文理融合災害研究のシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開III」を開催し、講演・報告をまとめた報告書を刊行した。また年度内に発生した自然災害に対して、「文化財マップ」を作成し、被害推定情報を文化財関係者と共有するとともに、これを活用した史料の被災状況調査を実施した。</p>			

## 2019 年度の分野活動報告

分野名	災害認知科学研究分野	報告者氏名	邑本 俊亮
分野目標			
<p>本研究分野では、複雑な物理・社会的環境における人間の知覚・判断・行動の認知過程について、様々な心理学・認知科学・脳科学的手法を用いた基礎研究を行うとともに、その成果をより人間の認知特性に適した防災・減災・復興のシステム設計に反映させる応用研究を行う。</p>			
2019 年度分野活動報告			
<p>東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8因子(人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力)(Sugiura et al., 2015)について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度は、査読付き論文が国際学術雑誌に 3 報、国内雑誌に1報採択されたほか、学会報告(国内)も1件おこなった。また学術論文英文3報、和文2報が投稿準備中である。</p> <p>科研費基盤研究(C)「被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発」が採択され、研究を開始した。東北大学にて震災や復興について学び、被災地(名取市閑上)を訪問して現場実習(慰霊碑等を見学、語り部さんの講話を聴く、被災者の方々と交流)を行った 10 名の大学生が、地域と世代を超えて震災伝承を行うために、自分たちの力で災害伝承・防災教育の出前授業を企画し、11 月 9 日に東京都の中学校で実施した。当該の活動実践に関しては地方紙に掲載された(河北新報 2020 年 2 月 11 日付)。また、2020 年 3 月 4 日には兵庫県の高校で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。しかしながら、大学生によって構築された複数の防災教育授業案が蓄積された。なお、防災出前授業の企画開始から中学校での授業実践までのプロセスと学生たちの認知・心理面での変化に関して、2020 年 3 月に第 26 回大学教育研究フォーラム(オンライン開催)にて発表した。</p>			

分野名	被災地支援研究分野	報告者氏名	奥村 誠
分野目標			
<p>巨大な災害に襲われた地域ではインフラや各種の機能が麻痺し、自らの力で救命、救急、復旧、復興を行うことが難しく、被災地の真のニーズを外部に伝えることも困難である。そのため被災地外の地域において、被災地の平常時の社会経済状況を踏まえてニーズを想定し、効果的な支援を迅速に計画するための方法を研究する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>(1) 供用期間中に災害によって機能が失われるリスクを加味したインフラの最適更新戦略を求めるモデルを構築し、インフラマネジメントに防災の考え方を導入する道筋を示した。国内外で口頭発表を行った。</p> <p>(2) 福祉系の施設を地域の防災力の向上に活用するための共同研究を 2017 年度から科研費挑戦的研究として実施し、教育機能と避難機能の維持を目指した小中学校の維持更新計画に関する複数の査読論文を発表した。</p> <p>(3) インドネシア、フィリピン、米国(NY)の災害復興過程を引き続き調査し、東北の復興過程との比較やガバナンスの国際比較研究を行い、世界防災フォーラムなどの場で成果発表とディスカッションを行った。</p> <p>(4) 携帯電話位置情報ビッグデータから災害時の通勤の取りやめなどの対応状況を把握する方法に関する災害研共同プロジェクト研究の成果を、国内で口頭発表した。</p> <p>(5) 近年の地方圏の被災地において、復旧・復興状況の視察とヒアリングを実施し、計画と実行における問題を掘り起こす活動を行っている(平成 30 年 7 月西日本豪雨、令和 1 年 8 月佐賀豪雨、10 月東日本豪雨など)。それらの知見を国内研究会で報告し、論文発表を行っている。</p> <p>(6) 被災地自治体等での直接的な活動は多くないが、東北地方整備局、宮城県、仙台市、亶理町において複数の委員会委員を務め、その中で防災・減災の視点を反映させるように心がけた。</p>			

分野名	歴史資料保存研究分野	報告者氏名	佐藤 大介
分野目標			
<p>東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全活動を通じて、日本列島の文化的特質である未指定の文書記録資料の防災・災害対応に資する技法、および組織を検討する。あわせて、文化財・歴史分野内での対応を超え、人文学的な災害・再生支援としての歴史資料の救済保全の意義を研究する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>2019 年度は、2019 年 10 月 12 日の台風 19 号に伴い被災した宮城県内の各地、特に県南の宮城県丸森町、白石市、角田市で個人所蔵の歴史資料の救援を、行政、市民、さらに学生ボランティアとの協働で実施し、約 3 万点の被災資料を救援した。あわせて、東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全活動を、NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワークとの協力の下で実施した。のべ 223 人の市民ボランティアの参加を得て、約 1500 点の処置を完了した。また、中央大学のゼミ約 10 名を受け入れ、応急処置の体験実習を施した。</p> <p>本所と人間文化研究機構、神戸大学との包括協定に基づく歴史文化資料保全ネットワーク事業では、2019 年 8 月に北海道大学との共催で、北海道地区と東北地区との若手自治体職員による災害対応経験の共有ワークショップを主催するとともに、9 月には宮城県丸森町の個人所蔵史料の共同調査を学生の調査実習と兼ねて行った。歴史再生のための連携として、江戸時代の商人・小津久足の紀行文「陸奥日記」の共同研究を実施しており、今年度は福島県南部および栃木県域の内容を検討する研究会を 2 回開催した。なお、2020 年 3 月に予定していた北日本協議会は、新型コロナウイルスの感染拡大により開催できなかった。</p> <p>歴史災害研究としては、2019 年 5 月の日本地球惑星科学連合大会でのポスター発表、同年 11 月の森林経済学会秋季大会での査読つき発表で、19 世紀初頭の北上川流域での洪水発生と、その遠因としての山林資源の枯渇、河底上昇との関係について考察した。また西暦 1858 年・1859 年の東北地方太平洋岸における「やませ」の状況について、災害研共同研究の一環として、地元の郷土史家の協力を得て約 1000 件のデータを収集した。</p> <p>客員教授の上山眞知子ら臨床心理学者との共同で取り組む心理社会的支援としての研究については、2019 年 9 月の国際ドキュメンテーション委員会(CIDOC2019 京都市)での査読付き報告や、2019 年 11 月の仙台英才会議でのポスター発表にて、被災者のレジリエンス涵養に歴史資料保全が持つ固有の意義について国内外の関係者と共有した。</p>			

分野名	防災社会システム研究分野	報告者氏名	丸谷 浩明
分野目標			
防災・減災及び災害復興の実現に向けた社会システムのあり方を研究する。具体的には、東日本大震災や既往災害の社会経済分析、事業継続計画(BCP)や地域防災計画の研究、経済学研究科と連携した地域産業復興や防災対応力強化の研究、防災における産官学民の取組や連携の研究などを通じて、政策提言や情報発信を行う。			
2019 年度の分野活動報告			
<p>1) 企業・公的組織の事業継続の研究として、宮城での事業継続計画(BCP)の普及に貢献するため、宮城県庁、仙台市役所とも連携して BCP 月次オープン講座を 6 回連続で実施し、最大 82 名の参加を得た。科研費で中小企業の BCP の必須要素の研究を継続し、独自開発した BCP 導入ガイドも含めて「企業・組織の BCP/防災勉強会(@仙台)」等の場で議論をした。中央省庁の BCP の評価・改善のヒアリングに有識者委員として参画した。</p> <p>2) 災害伝承・災害情報に関する研究・支援: 災害伝承および災害情報の効果検証を、東日本大震災や台風 19 号を対象にした実証的な研究を継続している。宮城県庁における東日本大震災の対応検証事業の立ち上げとプロジェクト推進や、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館の企画・運営を全面的に支援した。政府・県・県内市町における災害情報・震災伝承・震災復興に関する 12 の検討会の有識者委員として参画した。</p> <p>3) 東日本大震災の被災地の語り部の研究の継続し、東日本大震災の教訓を広めるため、複数の国際共通研究に参加し、ワシントン大学公衆衛生学部との連携、カンタベリー大学及び神戸大学との連携を開始した。イタリアでの Silk Cities 2019 や和歌山大学での 2nd International Conference Critical Tourism Studies - Asia Pacific で発表した。</p> <p>4) 2019 年 11 月 30 日に都市住宅学会学術講演会を開催し、被災地を含めた「人口減少社会における都市住宅政策の在り方」について、外部有識者も含めて発表と議論を行った。</p> <p>5) 震災復興シンポジウム「みやぎボイス 2019: 復興の終わりの始め方」、日本学術会議シンポジウム「復興のいまとこれから: 社会的モニタリングと震災アーカイブの役割」を後援・共催で開催した。</p> <p>6) 東日本大震災 9 年後の地域住民の健康状態を知るため、1 月 31 日～2 月 10 日に被災地 3 県ほか 1,133 件にパネル追跡調査を行い公表した TERG, Discussion Paper No.417。 <a href="http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/dp/terg/terg417.pdf">http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/dp/terg/terg417.pdf</a></p>			

分野名	災害文化研究分野	報告者氏名	蝦名 裕一
分野目標			
東日本大震災をはじめとし、過去の自然災害に関する歴史文書や伝承といった「災害文化」に関連する資料の収集・記録化を進めるとともに、これらの情報を活用し他分野と連携した学際的研究を展開・実践することで文理融合形の災害科学の構築を目指すとともに、これらの研究の成果を活用した防災活動の展開・普及をはかる。			
2019 年度の分野活動報告			
<p>・2019 年 7 月 21 日に歴史文化遺産ネットワーク事業東北大拠点の活動として文理融合シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開III—日本の災害文化—」を主催・運営し、首藤伸夫氏による基調講演ほか、蝦名の含めた 5 人の研究者による研究報告をおこない、約 130 名の参加者を得た。あわせて 2020 年 3 月に同シンポジウムの報告書を刊行した。また、2020 年 2 月 27 日に「公開フォーラム 被災地と史料をつなぐII」を開催・運営し、台風 19 号被害における各地の被災情報と被災資料の救済技術の共有をはかった。</p> <p>・災害文化に関連した史料調査として、2019 年 9 月に岩手県住田町における戸長文書の調査、2020 年 2 月に秋田県象潟町における名主文書の調査を実施し、5000 コマを撮影した。また、企業との連携研究として、相馬市教育委員会が所蔵する絵図史料の高精細スキャニングや凸版印刷と連携した二本松市域における歴史資料調査などを実施した。</p> <p>・2019 年 10 月の東日本台風被害における対応として、宮城県・福島県・茨城県・長野県の国や自治体の指定する文化財マップを作成し、各地の資料保全団体に共有するとともに、宮城県内において文化財マップに基づいた台風被害状況調査を実施した。・災害時の被災資料救済の開発と手法について、「ひかり拓本」による石碑データベースを構築・公開するとともに、2019 年 10 月 23 日に東北大埋蔵文化財調査室と連携し東北大学植物園にて、また 2020 年 2 月 28 日に公開フォーラムのエクスカージョンとして丸森町で技術講習会のワークショップを実施した。</p> <p>本年度の当分野における各種成果は、論文 4(含共著)、学会発表 10、講演 8、メディア対応 6(うち全国紙 2)であった。</p>			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	地域・都市再生研究部門	報告者氏名	村尾 修
部門目標			
被災地域の状況を的確に把握するための調査・計測技術、都市のレジリエンスデザインを指向した数値解析・可視化技術、持続可能な地域を創るための計画技術、災害時におけるロボット活用技術などの開発と合わせ、安全・安心を保持するための実践的な防災・減災・再生技術に関する多様な研究を、国際協力の積極的な推進と中長期的な戦略のもとで行う。			
2019 年度の部門活動報告			
<p><b>「都市再生計画技術分野」:</b>「都市再生計画技術分野」:ハワイ島のキラウエア火山噴火災害、四川大震災の歴史的街区の住民参加による復興過程、日本大震災被災地域における嵩上げ型土地区画整理事業の事業前後の土地利用の変化、木造災害公営住宅外部空間とコミュニティ活動の関係、応急仮設住宅の終修繕履歴に関する研究を行った。またダッカの耐震性補強の効率的実施のための国際共同プロジェクトに参加するとともに、中国の大学と国際会議、国際ワークショップを開催した。<b>「計算安全工学研究分野」:</b>災害に関連する物理現象のメカニズム解明を目的とした精緻な数値モデルの構築、高精度な数値解析手法や確率論的リスク評価手法の開発、逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発、数値解析結果から得られる空間モードを活用した災害リスク評価、および 2019 年に発生した各種災害の被害調査と分析などの研究を実施した。また、国際学生ワークショップを 1 回実施した。<b>「災害対応ロボティクス研究分野」:</b>「災害対応ロボティクス研究分野」:がれき内調査ロボ、火災火元消火ロボ、救助犬の情報強化、老朽化インフラ点検用球殻ヘリ、災害復旧工事用遠隔操作に関する研究開発を行った。復興庁教育研究拠点、World Robot Summit、福島原発対応ロボットに関する取り組みに協力した。<b>「国際防災戦略研究分野」:</b>ミャンマー、マレーシア、インドネシア等において、地震、洪水、噴火による広域被害などの共同研究を実施した。環太平洋大学協会 (APRU) のマルチハザードプログラムを主導し、シンポジウムやサマースクール、そしてキャンパス・セーフティのワークショップなどを実施し、アジア太平洋における防災情報の共有など中心的な役割を担った。また同プログラムの一環として、UCLA および科学未来館と共に Arch DR3 Initiative (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience) を立ち上げ、建築と災害マネジメントの融合に向けた取り組みを始めた。</p>			

## 2019 年度の分野活動報告

分野名	都市再生計画技術分野	報告者氏名	岩田 司
分野目標			
発災後の復旧復興のための住宅・都市計画、住宅・都市政策に関する研究、日常的な不断の持続ある地域社会を形成するための地域の住文化に根ざした個性豊かな住まい・まちづくりや地域運営に関する研究、次なる災害に備えた再生可能な地域の強靱化に関する研究、さらにこれらの研究、実践のための情報の蓄積とその手法に関する研究を行う。			
2019 年度の分野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>①ハワイ島のキラウエア火山噴火災害による住宅を中心とした被害状況、応急仮設住宅の現地調査を実施するとともに、ハワイ大学の協力を得てハザードマップや被災地図、ハワイ州における災害時の住宅政策等の情報を収集し、日本、中国、イタリアとの比較研究を行った。②東日本大震災被災地域における嵩上げ型土地区画整理事業の事業前後の土地利用の変化と、特に空き地の発生要因を明らかにした。③四川大震災後の都江堰の住民参加型復興手法について調査を行い、その有効性や問題点を明らかにした。④宮城県内の木造災害公営住宅の外部空間の段階構成によるコミュニティ活動への影響に関する調査を行い、有効性を検証した。⑤福島県住宅課と協力し、東日本大震災における応急仮設住宅の修繕履歴を解析し、修繕を減らすための手法を検討した。⑥全国の地域型住宅を調査し、その成立要件を明らかにした。</p> <p><b>【社会活動】</b>①石巻市総合計画審議会の会長として次期総合計画策定を行った。②被災地 5 地区の復興土地区画整理事業の審議会会長として、事業の実施に関与した。③仙台市東部沿岸地区の防集事業跡地利用の事業者選定委員会の委員長として、跡地利用の検討に関与した。④国土交通大学校、北海道庁職員研修等で災害後の住宅政策、地域型復興住宅や東日本大震災からの復興の実態と課題に関する講義、講演を行った。</p> <p><b>【国際関連】</b>①ダッカの耐震性補強の効率的実施のための国際共同プロジェクトに参加し、GIS を用いた建物の脆弱性推定を行った。②四川大学において Steering Committee of Alliance of Alliances for Research and Education for Water and Disasters に災害科学国際研究所代表として参加し、Alliance of Alliances の行動計画を決定した。③中国華中科技大学との共同で、山形県金山町において両大学の学生による災害にも強いサステナブルな地方都市のまちづくり国際ワークショップ、及び一般参加者も交えたシンポジウムを開催した。</p>			

分野名	計算安全工学研究分野	報告者氏名	寺田 賢二郎・森口 周二・山口 裕矢
分野目標			
<p>災害の予測や被害想定、および災害に関連する物理現象のメカニズム解明を目的とした、精緻な数値モデルの構築、高精度な数値解析技術、次元削減・代理モデルの構築および確率論的リスク評価手法などの開発を行う。特に、現象の規模が連続的につながるマルチスケール災害シミュレーションや逐次破壊を伴うマルチステージ災害シミュレーションの枠組みを構築する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発            構造物、地盤、斜面などの初期状態から破壊領域挙動までを統一的に扱うマルチステージ災害シミュレーション手法の開発に取り組んだ。</li> <li>2. 地盤材料の大変形問題および透水問題を高精度に表現するための手法の開発            土と水の相互作用を考慮した上で初期から大変形・破壊までを統一的に扱える手法を導入し、斜面崩壊や堤防決壊などの工学的問題に対する有用性を確認した。</li> <li>3. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の開発            津波、落石、雪崩に関して、高精度な 3 次元シミュレーションの結果に基づいて、確率論的にリスクを評価・可視化する手法の開発および高度化を進めた。また、パラメータや不確実性の寄与度の定量化に取り組んだ。</li> <li>4. 広域の斜面災害を対象とした数値解析手法の開発            2018 年北海道胆振東部地震および 2019 年台風 19 号の丸森町の土砂災害を対象として、3 次元円弧すべり計算による数値解析の有用性を検証した。</li> <li>5. 2019 年台風 19 号の災害対応と被害分析            台風 19 号について、特に東北地方を中心に災害対応を行った。また、その被害の分析を行った。</li> <li>6. 代理モデルおよび次元縮約モデルによるリアルタイム災害シミュレーション手法の開発            固有直交分解を利用した代理モデルを構築し、災害シミュレーション手法の効率化を実現した。            その他、11 月に災害研で Han 教授 (Yonsei University) と共同で学生ワークショップを開催した。</li> </ol>			

分野名	災害対応ロボティクス研究分野	報告者氏名	田所 諭
分野目標			
<p>東日本大震災はロボティクスが様々な形で活用された歴史上初めての大災害であった。ロボティクスに対する期待は、人間ではできないことを安全かつ効率的に行うこと、災害に対するリスクを低減すること、防災のコストを下げることである。本分野は、災害緊急対応、災害予防、災害復旧に役立つロボティクスの研究を推進する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) がれき内調査ロボット: 空気噴射により浮上してがれき内を調査する能動スコープカメラを改良する研究開発を行うとともに、神戸市消防局との実証試験を実施した。</li> <li>2) 火災火元消火ロボット: 水噴射により浮上して移動し、建物内の火元まで移動できる索状ロボットについて、安定して長い距離を飛行して火元に到達するための研究開発を行った。消火試験によって、噴射水とミストの消火効果を定量的に検証した。</li> <li>3) 救助犬の情報強化: 救助犬の収集する情報をデジタル化するサイバー救助犬スーツの実用化のために、改良を行った。日本救助犬協会ほかのユーザと共に、合同での訓練や試験を実施した。</li> <li>4) 超小型球殻ヘリによる老朽化インフラの点検: 球殻を有する超小型ヘリが橋梁の構造内部に入り込み、映像情報を収集するシステムの研究開発を行い、国交省のプログラムや NEXCO 東日本等のユーザとともに全国の橋梁で試験を行うとともに、企業と共に事業化に向けた取り組みを進めた。</li> <li>5) 復興庁が計画する教育研究拠点の実現に向け、その実施プランを検討し、提言を行った。</li> <li>6) 経産省が計画する World Robot Summit インフラ・災害カテゴリーに関して、その実施に関する内容の検討や準備を進めた。</li> <li>7) 福島第一原発廃炉のための課題に対して、企業とともに取り組んだ。</li> <li>8) UAE が実施する Mohamad Bin Zayed International Robot Competition において、災害対応に関する競技の計画と実施に協力した。</li> <li>9) THW が中心となった HORIZON2020 の CURSOR プログラムにおいて、瓦礫内を探索する小型ロボットのハードウェアの研究開発に取り組んだ。</li> </ol>			



分野名	国際防災戦略研究分野	報告者氏名	村尾 修
分野目標			
<p>都市の防災と復興に関する国際的な戦略策定を目指し、学際的な視点に立ち、防災および復興戦略の観点から各地域の特性を分析し、事前、事後の両面から現状の問題点と課題を明らかにすることを目的としている。これを踏まえて、各地域の自然・経済・社会状況の特性に適合したリスク管理・防災・復興戦略および国際的協力体制のあり方について研究を進めている。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>①東日本大震災後の復興過程の定量的分析等を行い、"Recovery Curves for Housing Reconstruction from the 2011 Great East Japan Earthquake and Comparison with Other Post-disaster Recovery Processes" (<i>International Journal of Disaster Risk Reduction</i>)として発表した。②ヤンゴンの脆弱性評価のシナリオを用いた将来分析を行い、"Earthquake Building Collapse Risk Estimation for 2040 in Yangon, Myanmar" (<i>Journal of Disaster Research</i>)として発表した。③マレーシア工科大学とのプロジェクトにおいて、「スランゴール州の洪水と地滑りのリスク報告書」を作成し、8月に州政府へのハンドオーバーセレモニーを開催し、約70名が参加した。④APRU サマースクールとキャンパスセーフティワークショップを企画・運営した。⑤噴火による広域避難対応についてウダヤナ大学(インドネシア)と共同研究を行った。⑥IEEE GCCE2019にてExcellent Paper Awardを受賞した。</p> <p><b>【社会活動】</b>①南相馬市にて東日本大震災連続ワークショップを企画・運営した。②川崎市および佐伯市にて市民に対する防災研修を実施した。③市民の仙台防災枠組への理解を深めてもらうために仙台市と共催で、「仙台防災枠組市民講座」を開催し、昨年に引き続き、枠組について市民に向けて講演した。④NISSAN と連携し、電気自動車活用・世界津波の日に関する講演を大阪・横浜で行った。⑤台風19号でのいわき市の初動対応について、震災対策技術展にて講演、12月より同市の災害対応検証委員会委員を務める。</p> <p><b>【国際交流】</b>①ヤンゴン工科大学との共同研究を行なった。②第17回世界地震工学会議2020の企画に携わった。③APRU マルチハザードプログラムのサマースクールおよび防災政策会合を企画・運営した。④APRUのMH-Programの一貫として、UCLA および科学未来館と共に Arch DR3 Initiative (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience)を立ち上げた。</p>			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	災害理学研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
本研究部門は、巨大地震やそれによる津波をはじめ、火山噴火、気候変動、風水害、宙空災害まで、地球規模のさまざまな自然災害の発生メカニズムの解明に取り組み、短期的および中長期的にそのハザードを予測する。			
2019 年度の部門活動報告			
<p>東北沖地震の余効変動場について、海中音速の不均質を考慮した解析手法で粘弾性緩和範囲、余効すべり分布を明らかにした。また、海底間音響測距観測により、海溝軸の固着状態を世界で初めて実測した。さらに、レイテ島のフィリピン断層で非地震性すべりが近接固着域を刺激し M6.5 の地震を発生させたことを突き止めた。地震メカニズムにおいては、東北沖地震の震源域の 3 次元構造を調査し、比較的柔らかい岩盤が海溝まで続くことがわかり、大すべり・大津波発生に寄与していたことを明らかにした。一方で、南海トラフでは、繰り返し地震とスロー地震が相補的に分布していることを突き止めた。長期的な地殻変動の観点からは、東北沖地震の余効変動をモデル化し、太平洋沿岸部の隆起が震源部深部の余効すべりによって引き起こされていることを示した。内陸活断層の評価では、熊本地震や長野県北部地震などの調査を通じて、短い活断層は必ずしも独自の大地震を起こすわけではなく受動的に変位することを示し、短い活断層は小規模ながら頻繁に地表変位を繰り返し、断層変位ハザード(確率)を上昇させることを指摘した。火山ハザード研究では、噴火準備過程を明らかにするために、主として吾妻山、蔵王山、十和田で地震・各種測地観測を実施し、地下数 km までの詳細なマグマの動きと関連する地震活動を明らかにした。気象・海洋災害研究では、平成 27 年関東・東北豪雨、平成 30 年西日本豪雨などについて、数値気象予報モデルによるメカニズムを検討した。特に、エンベロープ地形といわれる尾根をつなぐような地形の採用で、予報誤差をほぼ解消できることが分かった。また、世界の海洋の大部分において、海面から 200 メートル深までの密度成層が、地球温暖化の進行に伴って 1960 年代以降に有意に強化していることを発見した。宙空災害研究では太陽放射線のスパイク的増加現象を研究し、コロナ質量放出の前面に形成される衝撃波による背景プロトンの顕著な加速を明らかにした。</p>			

## 2019 年度の分野活動報告

分野名	海底地殻変動研究分野	報告者氏名	木戸 元之
分野目標			
巨大な地震や津波を引き起すプレート境界の巨大地震の発生様式、および関連する海陸の地震への影響、海底浅部の構造を、測地学的手法・各種海底調査、および得られるデータに基づいたモデリングにより明らかにすることにより、地震・津波発生ポテンシャルの評価につなげる。さらに、海域観測技術の高度化を図り、地震時の津波即時予測をするための研究開発を推進する。			
2019 年度の子分野活動報告			
<p>東北沖地震後の余効変動場について、これまでに蓄積してきた GNSS-A 計測データを、新たに開発した海中音速の不均質を考慮可能な解析手法で再処理することで、より信頼性の高い推定が可能となった。得られた茨城沖から青森沖にかけての各観測点の動きから、粘弾性緩和のおよぶ範囲、余効すべりの分布が明らかになった他、岩手沖ではスローイベントに言及できる結果を得た。また、海溝軸の固着状態をこれまで取り組んできた海底間音響測距観測により、世界で初めて実測により明らかにした。さらに、M9 クラスの地震発生の可能性が指摘された千島海溝での海底測地観測を開始した。</p> <p>レイテ島におけるフィリピン断層の研究において、断層の非地震性すべりが断層固着域への応力荷をもたらし、固着域を破壊させる地震 (Mw6.5) が 2017 年に起こったことを示した。さらに、この断層上の領域は 70 年程度の間隔で繰り返し地震を起こしてきたという仮説を提示した。フランスのグループと共同で、InSAR を用いた mm レベルの変動検出手法開発に着手した。南海トラフ地震臨時情報の社会対応について、研究代表者として研究を統括すると同時に、大地震が一旦発生して臨時情報が発出された後の地震活動の見通しを可視化し整理するための枠組みを考案した。</p> <p>古い太平洋プレートが沈み込む日本海溝海側にある新しい海底火山「プチスポット」の周囲で地殻熱流量測定を行い、プレート年代から予想される値から外れた高熱流量および低熱流量を得た。観測結果に質量・エネルギーバランス計算を適用し、1つの山が関与する熱放出量および水循環量の推定を行った。また、海底熱水鉱床で観測される負の自然電位異常の原因を調べるために、鉱床を模した系(砂、塩水、鉄棒)での砂箱実験を行った。予備的な実験を行い、鉄棒の上に主に負の電位異常が生じることを確認した。</p>			

分野名	地震メカニズム研究分野	報告者氏名	趙 大鵬
分野目標			
地震学的手法を用いて大地震の発生メカニズムを解明することによって実践防災学に貢献する。プレート境界地震の応力蓄積・発生過程の解析研究を進展させることにより、来る東海・東南海・南海地震など低頻度巨大災害への備えの向上を目指す。			
2019 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・S-netで記録された走時データを用いて東北地方太平洋沖地震(Mw 9.0)の震源域の3次元構造を調査した結果、この大地震の破壊は、深い側の硬い岩石と浅い側の柔らかい岩石との構造境界から開始したことがわかった。浅い側の比較的柔らかい岩石は太平洋プレートが沈み込む日本海溝にまで続いており、このような柔らかい岩石では破壊を止めることができず、海溝近傍まで大きなすべりが及び、大津波が発生したと考えられる(Hua &amp; Zhao et al. 2020. <i>Nature Communications</i> 11, 1163).</li> <li>・2011年東北地方太平洋沖地震によるプレート境界の繰り返し地震を用いて、プレート境界のゆっくりすべり(東北沖地震の余効すべり)の時空間分布を示すとともに、東北沖地震の余効すべりに伴う繰り返し地震の震源パラメータの時空間変化を見出すとともに、プレート境界の摩擦特性の空間変化との関係を指摘した(立岩, 東北大学修士論文, 2019).</li> <li>・南海トラフにおいて繰り返し地震および他のスロー地震からそれらが、空間的に相補的に分布することおよび、300km に渡る長距離のスロースリップの移動現象があることがわかった(Uchida et al., 2020. <i>Earth and Planetary Science Letters</i>).また、トルコのアナトリア断層において、繰り返し地震を発見し、固着の分布に関するモデルを作成した(Uchida et al., 2019. <i>Tectonophysics</i>).</li> </ul>			

分野名	火山ハザード研究分野	報告者氏名	三浦 哲
分野目標			
起こりうる火山噴火災害の軽減・事前対策に資するため、主として地球物理学的諸観測に基づいて火山活動の推移把握や噴火発生にいたる物理プロセスの解明を進める。特に、東北地方太平洋沖地震以後、火山活動に活発化が見られ噴火リスクの高まりが懸念されている東北地方の活火山において観測研究の強化を図る。			
2019 年度の分野活動報告			
<p>火山噴火準備過程等に関する理学的研究を中心としつつ、2019 年度から始まった「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)」が目指す防災・減災を意識した研究を進めた。2019 年 5 月～6 月に噴火警戒レベル2が発表された吾妻山において、既設の稠密地震観測や仙台管区気象台、気象研究所などとの共同観測により、火口直下浅部の熱水系のイメージングを行い、その時間変化を明らかにした。また、理学研究科固体地球物理学講座と共同で国交省が敷設した光ファイバを借用して震動観測を実施し、火山性地震の観測に世界で初めて成功した。蔵王山では、周辺の GNSS 連続観測データの再解析を実施し、2015 年 1 月～6 月の半年間に御釜の東約 1 km(馬の背カルデラ内)、海拔下約 4 km で増圧現象が起きていたことを明らかにした。過去約 2 千年間の噴火が地下約 4～6 km の珪長質マグマに深部由来の苦鉄質マグマが注入・混合したことによって発生したとされていることから、この活動も浅部マグマ溜まりへマグマが供給されたことによるものと示唆される。さらに、深さ約 20～35 km において発生している深部低周波地震の活動を精査し、浅部火山活動に先行した深部マグマ活動の様相を明らかにした。また、災害科学国際研究所共同研究として、北海道大学等とともに御釜周辺の水文学的・気象学的観測を行い、火山浅部における熱収支の解明に重要な御釜の水収支に関する知見を得た。仙台管区気象台と合同での全磁力繰り返し観測も引き続き実施し、2018～2019 年は磁化から見た熱活動は非常に静穏であったことが判明した。十和田火山の噴火ポテンシャル評価のためシミュレーションを行い、十和田湖底に観測機器を設置する必要があることと、1 辺が 10km 程度の立方体状の低比抵抗体があれば電磁気観測により検出可能であることを明らかにした。その他にも、阿蘇山・草津白根山など、東北地方以外の活火山において関係機関と協力して観測を行い、火山活動推移把握に資するデータを得た。</p>			

分野名	長期地殻変形・地質構造研究分野	報告者氏名	武藤 潤・岡田 真介
分野目標			
<p>活断層の地表から深部に至る形状・性状，形成・発生プロセスなどを明らかにすることを目的として研究を進めている。以下の研究は，内陸活断層にともなう地震を評価する上で，基礎的情報となり，地域の防災・減災計画に対しても重要な役割を担っている。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>東北沖地震後の余効変動解析を行い、震災後に隆起している東北日本太平洋沿岸部の隆起を含む余効変動をモデル化した。震災後、6 年間の水平・垂直変位場およびその時系列を再現することに成功し、隆起が震源域深部の余効すべりによって引き起こされていることを明らかにした。この成果は、Sci. Adv.に報告され、日経オンラインなどでも取り上げられた。また、東北日本弧全体での短波長重力異常が地下の地質・岩体分布だけでなく、断層に起因する密度構造を反映することを明らかにした。特に 2008 年岩手宮城内陸地震震源域では、短波長重力異常の空間勾配が非常に大きな場所に震源断層が分布し、これらはかつてのカルデラ構造を引き継いでいることがわかった。</p> <p>青森湾西岸断層帯において活断層運動に伴う地下地質構造の解明を行う上で、調査地域周辺の岩石密度サンプリングの追加調査を行った。また、仙台湾周辺では、地下の地質構造をより正確に捉え、陸域の伏在活断層による地殻の水平短縮変形量を見積もるために、亙理町～角田町に至る約 6.5 km の測線において CSAMT 探査を実施した。その結果、既存の反射法地震探査とも整合的な結果が得られ、鮮新世以降に約 300 m の水平短縮を伴った断層運動が生じていることが明らかになった。国土地理院の全国活断層情報整備検討委員会では、跡津川断層の北東延長部を含む立山図幅のクロスチェックを行い、図幅として公表した。また、2018 年 9 月の北海道胆振東部地震の震源地域周辺である鶴川図幅において写真判読を行った。1804 年の象潟地震による隆起量を定量化するために、離水地形を GNSS 測量により明らかにし、震源断層の推定を行った。社会貢献としては、市民センターにおいて、仙台市に分布する長町一府線断層帯についての講演を行い、防災・減災に資する啓発を行った。</p>			

分野名	気象・海洋災害研究分野	報告者氏名	山崎 剛・須賀 利雄
分野目標			
<p>大気・海洋結合系における諸現象を解明し、ハザードの評価を行うための研究を進める。具体的には、数値気象予報モデルの高度利用、豪雪・異常低温の原因となる寒気流出、豪雨のメカニズム、災害科学への陸面過程モデルの利用等に関する研究を行う。また、気候変動適応および海象災害対策に資する海洋情報の収集とその活用手法の開発を行う。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>平成 27 年 9 月関東・東北豪雨、平成 30 年 7 月豪雨(西日本豪雨)などの災害をもたらした豪雨事象について、数値気象予報モデルにより再現を行い、豪雨メカニズムに関する検討を行った。また、これらの豪雨について日本域高解像度領域再解析による再現性の確認もを行い、過去の顕著な豪雨災害時の大気状況の再現可能性を検討した。関東で強い雨や雪をもたらすことがある沿岸前線に関する数値気象予報モデルでの系統的な予報誤差について解析を行った。エンベロープ地形といわれる尾根をつなぐような地形を採用することにより、予報誤差をほぼ解消できることが分かった。将来の大規模アンサンブル気候予測データを作成し、極端に強い降雪現象(豪雪)の将来予測を行った。日本海側の中部山岳地域では、温暖化すると現在よりも強い豪雪が起りうることを示した。</p> <p>気象災害をもたらす台風の発達に影響を与えたり、水産業へダメージを与えたりする海面水温の異常高温現象の背景となる海洋表層の成層の長期変化を調査した。全世界の研究機関によって採取された水温・塩分の鉛直プロファイル観測データベースから、可能な限り多くのデータを抽出して用い、1960 年代以降の密度成層の変化を詳細に分析した。その結果、世界の海洋の大部分において、海面から 200 メートル深までの密度成層が、地球温暖化の進行に伴って 1960 年代以降に有意に強化していることを発見した。密度成層強化の進行速度は海域によって大きく異なること、全球平均の成層強化の進行速度は、IPCC 第 5 次評価報告書および海洋・雪氷圏特別報告書による従来の見積もりよりも速い可能性を示した。成層の強化は、異常高温現象の発生頻度の増加につながる可能性があることを指摘した。</p>			

分野名	宙空災害研究分野	報告者氏名	小原 隆博
分野目標			
宙空環境におけるハザードの分析を行い、宇宙科学研究と宇宙開発の現場に存在するギャップを埋めることを目的とし、以下の研究を進める。 1.宇宙環境保全(宇宙放射線、宇宙デブリ)に関する研究 2.磁気嵐など地球磁場変動によるハザード予測 3.太陽活動危険状況監視のための太陽電波定常観測の実現			
2019 年度の分野活動報告			
以下のテーマについて、研究を実施した。 ・ <u>太陽放射線のスパイク的増加現象の研究(小原隆博教授)</u> : CME(コロナ質量放出)の前面に形成される衝撃波による、背景プロトンの加速について研究し、30MeV までプロトンが加速されることを明らかにした。 【発表論文】: Obara, JAXA report, 2019, Obara et al. EPS (submitted) ・ <u>太陽嵐発生素過程の研究(三澤浩昭准教授)</u> : 地上からの高分解電波観測に基づき、太陽嵐(フレア等)の発生に伴い出現する特徴的な電波現象を解析し、人類の宇宙活動や人工衛星搭載機器の脅威となる太陽高エネルギー粒子との関係を査定した。また、高分解電波スペクトルの公開データ・ベースを整えた(土屋准教授との共同活動) 【発表論文】: Misawa, Tsuchiya, Obara et al., JpGU2020, 2020(予定). ・ <u>地球放射線帯観測(土屋史紀准教授)</u> : 北米・北欧に独自に展開した低周波電波観測網を使用し、宇宙空間中の電磁場による散乱により、放射線帯の閉じ込めが破れて高エネルギー電子が中層大気に降り注ぎ、大気を電離させている様子を明らかにした。 【発表論文】: Miyashita, T., H. Ohya, F. Tsuchiya et al. 2020, Radio Science Bulletin, (in printing) 【受賞】: URSI-J Student Paper Competition 3rd prize, Mr. Miyashita, T.			

分野名	活断層研究分野	報告者氏名	遠田 晋次
分野目標			
活断層の地表変位による被害軽減のための基礎的研究として、平成 26 年長野県北部の地震、平成 28 年熊本地震、平成 28 年茨城県北部地震などを中心に、現地地表踏査と地殻変動データを再検討し、断層出現ゾーンの広がりや地震動を伴わない誘発断層すべりについてとりまとめ、短い断層や断層変位ハザード評価に関する新たな提案を行う。			
2019 年度の分野活動報告			
【断層変位ハザードの研究】マグニチュード(M)7前後以上の内陸地殻内地震は必ずしも既知の活断層から発生しない。1995 年兵庫県南部地震以降の約 25 年間で発生した内陸大地震は伏在活断層や短い活断層によっても生じ、その評価が課題となっている。2016 年熊本地震では、衛星測地技術によって震源となった日奈久断層北部、布田川断層だけではなく、その他の約 200 個所以上で小変位が検出された。このなかには、既知の活断層も多数含まれ、地表調査やモデル計算によって、これらは熊本地震の静的応力変化や地震動によって誘発されたことがわかった。同様の事例は干渉 SAR, 差分 LiDAR などによって国内外で報告されており、短い活断層は必ずしも独自の大地震を起こすわけではなく受動的に変位することがわかった(例えば, Ishimura, Toda, et al., 米国地震学会誌, 2019)。このことから、地震動を生成させる短い活断層の総数は減るが、小規模ながら頻繁に地表変位を繰り返すという意味では断層変位ハザード(確率)は上昇することを指摘した(遠田・石村, 第四紀研究, 2019)。今後は誘発受動変位の観点からも断層ハザード評価を検討する必要がある。 【熊本地震の活動間隔の再評価】南阿蘇村黒川地区における昨年度の熊本大学・福岡大学とのトレンチ調査結果(遠田ほか, 活断層研究, 2019)や、熊本地震後の地表踏査や災害復旧工事などから、過去 1 万年程度の布田川断層の活動間隔は約 2000 年~3000 年程度で最新活動が約 2000 年前であったことを突き止めた。熊本地震前の評価では、活動間隔は約 8000 年~26000 年とされており、活断層の活動性評価には 1 断層につき多数の古地震調査が必要であることが再認識された。			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	災害医学研究部門	報告者氏名	児玉 栄一
部門目標			
<p>発生時期が予測困難かつこれまで経験のない規模で発生する災害が、グローバル化を背景に世界の生命を危機に晒している。災害における医学の役割は言うまでもなく不可欠であり、今後起こり得る未曾有の災害に備える必要がある。東日本大震災の経験から得た知恵を結集し、医療のみならず保健福祉まで包括するような、平時からの医療体制の整備に必要な基盤を、災害医学部門全体で構築し社会へ還元することを目標とする。</p>			
2019 年度の部門活動報告			
<p><b>研究:</b> 分野全体で取得した外部研究費の総額は1億を超え、地域・行政・他大学/研究機関はもちろん、厚労省・文科省・環境省などの国内政府機関から、WHO、NIH、JICA まで、世界に幅広く共同研究の場を広げた。東北メディカルメガバンク事業の大規模疫学調査から、東日本大震災の暴露と低出生体重児の出産と早産との関連を明らかにする研究を行い、研究結果から大規模災害後の支援の在り方に関する政策提言を行った(災害公衆衛生学)。東日本大震災と子宮がん検診の受診率に与えた影響など、津波被災地域とそれ以外に地域格差があることを見出し、論文化した(災害産婦人科学)。放射線災害発生時における放射線被ばくストレス定量法の確立等を推進し論文化・投稿を行った(災害放射線医学)。七ヶ浜町・東北大学共同「七ヶ浜健康増進プロジェクト」の第9次年被災住民健康調査を実施し、米国マウントシナイ大学と共同で行動に基づくレジリエンス評価指標を開発した(災害精神医学)。WHOと連携した HEDRM 研究ネットワークのコアメンバーとして、健康危機・災害リスク管理の研究ガイドラインの日本災害医療研究に関するケーススタディーを執筆した(災害医療国際協力学)。収集した乳歯(6976 本)の解析から、福島県の子供の脱落乳歯の放射線量が低いことを確認した(災害口腔科学)。<b>災害対応:</b> 2019 年台風 19 号による丸森町を中心とした豪雨災害に対する放射線放射能測定(災害放射線医学)や避難所での感染対策支援(災害感染症学)、2019 年 12 月から国際規模で発生している新型コロナウイルス感染症対策について、地域医療機関・東北大学と連携し対応を行った。<b>学内・行政:</b> みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)に協力し東北大学病院を中心に診療情報のバックアップを推進し、総バックアップ数は延べ 1400 万人を超えた(災害医療情報学)。<b>教育:</b> 災害医療に携わる人材の教育、災害医療コーディネーターの育成や災害派遣精神医療チーム講習会を行った。</p>			

## 2019 年度の分野活動報告

分野名	災害医療国際協力学分野	報告者氏名	江川 新一
分野目標			
<p>災害に強い医療供給体制を構築することをミッションとし、災害時の保健医療システムの破たん、それに備える病院 BCP・受援力のあり方、医療ニーズの質的量的変化に対する備え、保健医療コーディネーション・意思決定メカニズムを研究する。先端技術を活用しながら仙台防災枠組の保健医療面での実現をめざし、人々のこころとからだの健康を守る実践的防災学の一部として災害保健医療の教育を行う。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科研費基盤Aで南三陸町の匿名化診療記録 10464 件に基づく被災地医療ニーズを論文化した(Suda, TJEM2019)。気仙沼市立病院の約 6000 件、石巻圏の診療記録約 14000 件の災害診療記録を匿名データベース化した。南三陸町における睡眠障害の疫学解析を投稿中である。基盤Sで広域被害把握技術と災害医療の深化について総説(江川、BioClinica)を執筆した。</li> <li>● WHO と連携した HEDRM 研究ネットワークのコアメンバーとなり、健康危機・災害リスク管理の研究ガイドラインの日本の災害医療研究に関するケーススタディーを執筆した(in press)。</li> <li>● AI-WEST 2019, World Bosai Forum, 災害統計グローバルセンターのワークショップに参加し、災害における保健医療の重要性と他クラスターとの協働の重要性について発信した。</li> <li>● 厚生労働省の病院事業継続計画(BCP)の班研究に参加するとともに、東北大学病院のBCP委員会の副委員長、委員としてBCM(リスク抽出と改善)を行い、BCP 第3版にむけたモデル病棟でのBCP策定を支援し、新型コロナウイルス感染症に対する病院BCP改訂も行った。病院BCPの総説を投稿した。</li> <li>● Chinese University of Hong Kong, University of Piemonte Orientale, Harvard University などとともに保健医療人材育成に関する共同研究でWHOの競争的資金に応募し採択された(18か月総額100,000米ドル)。</li> <li>● TOMODACHI イニシアチブと共催で災害看護研修を支援し、セミナー、報告会を開催した。</li> <li>● 東北大学防災 UPDATES においてエフエム仙台でのラジオ講演をのべ4回行った。COVID-19 災害に関して Nikkei Asian Review に Opinion が掲載された。</li> <li>● ヒューマンセキュリティ、国際共同大学院 GP-RSS、卓越大学院 SyDE の運営委員・授業提供を行った。</li> </ul>			

分野名	災害感染症学分野	報告者氏名	児玉 栄一
分野目標			
<p>発生時期や拡大規模が予測困難であり、時には自然災害以上に人々の生活や健康を脅かす感染症はまさに災害であり、平時から行政や地域の病院と連携しその対策を行うことで、感染症災害の影響を最小限に抑えるための基盤構築を目指す。特に未知・既知の感染症に対する治療薬の開発を推進し、感染症災害に対する社会貢献の一端を創薬の分野からリードすることを目標とする。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p><b>研究:</b>2017 年から AMED 橋渡し加速ネットワークプログラムの継続として革新的ガン研究に採択され、アジア・アフリカ系人種に頻度の高いウイルス慢性感染によるリンパ腫・白血病に対する治療薬を開発、その臨床応用に向けた安全試験を行った。時に小規模ながらアウトブレイクを引き起こす麻疹に対し、ワクチンに頼らない治療薬の開発を京都大学薬学部と共同開発した。インフルエンザやアデノウイルスなどの病原ウイルスに対する治療薬開発のためのウイルス培養法の改良を行った。<b>教育:</b>医学部学生に対する HIV や輸入感染症についての講義や指導を行った。基礎修練 2 名を受け入れ指導した。医学博士号取得の副主査・副査第一を担当した。4 つの連携講座の世話教授を担当し、12 名の博士課程学生の指導を行い、うち 3 名の博士学位論文を指導した。2019 年 12 月から世界規模のパンデミックとなった新型コロナウイルスに対応するための臨時講義を担当した。<b>学内・病院:</b>総合感染症科兼務のため新患外来を担当し臨床業務に従事した。感染対策委員長として病院内の感染対策業務を行い、特に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対しては院内関連部署との調整など中心的な役割を担った。感染症 BCP 第 1 版の作成を行った。東北メディカルメガバンク機構と連携し、被災地の個別化医療や予防のための研究計画を立案し実施した。<b>社会貢献:</b>仙台市・宮城県と連携し、仙台市病院ネットワーク協議会、宮城県結核協議会 (副委員長)、仙台市感染対策委員会 (副委員長)、仙台市病院感染症ネットワーク委員、仙台市性感染症委員会 (副委員長) を拝命し、その実務に従事した。<b>学会活動:</b>災害時感染症対策委員 (4 大感染症関連学会) として、自衛隊・内閣府と協調して disaster infection control team (DICT) の立ち上げから参加し、DICT の活動の一環としてクルーズ船における COVID-19 感染対策の助言・提言を行った。国際的には JICA の感染症対策チーム作業部会員として活動した。</p>			

分野名	災害放射線医学分野	報告者氏名	千田 浩一
分野目標			
<p>被曝測定防護に関する医学的研究 (特に水晶体被曝研究)、福島原発事故関連の生物影響調査と線量計測法、放射線等に対する正しい理解の普及、災害時等における画像診断システム開発等々を行う。当該領域での教育および研究者育成を行い、さらに分野横断的な共同研究を通じて、新しい技術を開発し世界へ情報を発信し成果を社会に還元する。千田兼担の大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同保健学科の研究教育等を推進する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p><b>研究等:</b>厚労省労災疾病臨床研究 (不均等被曝関連) を実施。科研費「基盤 B」及び 7 件の「基盤 C・若手」を行った。放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究 (福島県立医大) を実施。国内学会賞 3 件受賞。計 14 編 (英文 9、和文 5) の査読論文掲載。災害研共同研究助成および産総研との共同研究を実施し成果は論文掲載。産学共同研究を積極的に実施 (特許等)。「英知を結集した原子力研究」にて福島での生体試料解析と生物影響研究を実施し論文掲載。<b>国際交流等:</b>北米放射線学会 (RSNA、最大の放射線医学系国際学会) で関連演題を 3 題発表。他に AOCR や ECR 等にて発表した。<b>教育等:</b>千田兼担の医学部講義 (主に放射線技師育成) を通年週 3 コマ、学生実験 (通年週 2 回) 担当し、さらに他学科分担講義や全学教育における集中講義等を継続して多数担当し、加えて保健学専攻大学院講義 (含む医学物理士育成) を通年週 2 コマ、その他集中講義等を継続して多数担当。以上は当分野の人材養成の基盤になる。当該年度は当分野に、院生 20 名 (博士課程 10 名、修士課程 10 名)、研究生 2 名、学部生 (卒業研究) が 5 名在籍し研究指導等を行った。更に主査として修士 1 名と学士 6 名の学位を出した (副査として博士 2 名と修士 7 名)。学部学生等の就職進路指導担当教員としてキャリア支援を引き続き精力的に行った。<b>特許:</b>国内特許出願・公開・取得、及び国際特許出願・取得を行った (本年度は計 3 件)。<b>社会活動等:</b>放射線障害防止法改正等へ向け活動した (厚労省検討会等での政策提言や意見具申等)。原子力規制庁の水晶体被曝ガイドライン班員としてガイドライン作成に貢献した。仙台市防災会議専門委員 (及び原子力防災部会委員)。JST 研究成果最適展開支援専門委員。JST マッチングプランナー専門委員。また放射線教育のための多数の講演活動等 (福島県主催等) やパンフレット作成等を引続き行い、また電子教材を開発した。東北大学病院緊急被曝医療訓練 (核テロ訓練) を実施。宮城県 DMAT 活動拠点本部活動を実施。台風 19 号による豪雨災害対応における丸森町の放射線放射能測定を実施。</p>			

分野名	災害精神医学分野	報告者氏名	富田 博秋
分野目標			
<p>(1) 災害が及ぼす心理社会的影響に関する情報を包括的に集積・分析することで、影響からの回復を効果的に促進するための情報の抽出を行うこと</p> <p>(2) 心の健康の観点から災害に有効に備えるための知見を集積・抽出すること</p> <p>(3) 被災地域の課題となるうつ病、心的外傷後ストレス障害等に対するより有効な診療技術の開発を行うこと</p>			
2019年度の分野活動報告			
<p>(1) 東日本大震災が被災住民に及ぼしている心理社会的影響を包括的に分析する研究の一環として、宮城県七ヶ浜町との間の協定の元、第9次調査を実施した。米国マウントシナイ大学からの留学生を受け入れ、行動内容に着目した新たなレジリエンスの評価尺度を開発し、地域住民対象に実施した。これまでに集積されているデータを元に、運動習慣、飲酒習慣、睡眠習慣、対人交流習慣、就労、災害メディア暴露、レジリエンに関して解析を進めた。また、七ヶ浜町と災害研の共同ワークショップや町報等での地域への研究成果の還元、被災後ケアに関するパンフレットの英語版の策定配布を行う等、国際的な普及啓発に活かした。(2) 東北3県の多様な組織が行なった東日本大震災後の中・長期のメンタルヘルス支援活動の内容に関する調査結果について質的研究を行って、抽出した自然災害後中長期のメンタルヘルス支援の内容と課題を <i>BMC Psychiatry</i> 誌に掲載した。(3) 被災地域の課題である産後うつ状態支援体制向上の切り口の一つとなる産後うつ状態の客観的評価を可能にする技術開発に向けて、産後うつとの相関する妊産婦の分娩前後の血漿中の代謝産物や炎症性サイトカインを特定した。更に、新たに開発した妊産婦用の心拍モニタリング装置やスマートフォンアプリを用いて、妊娠中の心拍変動と気持ちを記録する研究を継続し、約150名の妊産婦の登録を終えた。地域・都市再生研究部門との共同研究として津波来襲のヴァーチャル・リアリティ映像への曝露による心理的側面や自律神経機能などへの影響を生体指標計測装置を用いて客観的に評価し、津波避難、および、その訓練に際して、情動や自律神経の変化に影響されない形で、目的を遂行することができる避難のあり方を検討するための研究に着手した。</p>			

分野名	災害産婦人科学分野	報告者氏名	伊藤 潔
分野目標			
<p>災害産婦人科学分野は、災害科学として、産婦人科疾患を災害の視点から捉え直すことを目指す分野である。甚大な災害が、婦人科がん検診体制を中心とした保健医療体制に及ぼす影響、婦人科特有の疾患に及ぼす影響を、多面的かつ長期的に解析・検討し、災害地の女性の健康を図ることを第一の目的に、大災害が母子に及ぼす影響を分析し、今後に対応できる国際的基準を確立することを第二の目的としている。</p>			
2019年度の分野活動報告			
<p><b>1.震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析</b>          ストレスホルモンやその関連因子(男性ホルモンであるアンドロゲンなど)が婦人科がんのホルモン産生・代謝や生命予後と関わることを明らかとする研究を続行した。それらの成果により、「婦人科疾患とホルモン動態」で、三木講師が2019年11月「第4回日本ステロイドホルモン学会研究奨励賞」を受賞した。</p> <p><b>2.災害が宮城県などでの婦人科がん検診体制や女性の健康に及ぼす影響の解析</b>          東日本大震災が宮城県での子宮がん検診の受診率にどう影響したか、また津波被災地域では震災以降も受診率の回復が見られないなど、津波被災地域とそれ以外で地域格差があることを、2020年3月11日付けで国際査読誌 <i>PLOS ONE</i> に掲載(Miki Y, et al)するとともにプレスリリースを行い、内外の記事(<i>Science Daily</i>, <i>The ASCO Post</i>, 日本経済新聞など)で上げられた。          効率的な子宮頸がん検診に関する検診手法と考えられる液状化検体法を、被災地を中心に広めるとともに、その結果を、日本対がん協会との共同研究として、全国的レベルで調査検討を行い、国際査読誌 <i>Jpn J Clin Oncol</i> に掲載(Ito K, et al)した。この論文は、この領域での全国規模での初めての調査研究結果である。</p> <p><b>4.社会および教育活動</b>          震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの検診関連団体の委員会で役職を務め、積極的に活動している。また、日本産科婦人科学会の災害・復興対策委員会でも活動し、災害時の母子救援活動のあり方を検討している。          さらに「ペットと防災」に関わる啓発活動として「ペットと災害—災害起きたらペットも一緒に避難—」を朝日小学生新聞2020年2月号に掲載(三木講師)した。</p>			



分野名	災害公衆衛生学分野	報告者氏名	栗山 進一
分野目標			
<p>研究活動においては、東北メディカル・メガバンク事業の大規模疫学調査(三世代コホート調査)データを用い、大規模疫学調査の手法によって大規模災害が中長期的健康に与える影響をより明らかにしていく。知見が得られれば速やかにこれを情報発信する。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>2019 年度の研究活動においては、東北メディカル・メガバンク事業の大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(三世代コホート調査)によって、東日本大震災の曝露と低出生体重児の出産および早産との関連を明らかにする研究を主として行った。妊娠初期に 2010/3/11 を含む妊婦を震災非曝露群、妊娠初期に 2011/3/11 を含む妊婦を震災曝露群、妊娠初期に 2012/3/11 を含む妊婦を震災曝露後群として比較したところ、震災曝露後群において震災曝露と低出生体重児の出産との間に有意な関連が認められた。また、妊娠初期の震災曝露と早産との間に、有意ではないものの、点推定値の上昇が認められた。本研究の結果が得られた理由として、震災後のストレスの多い環境が継続していたことや、震災直後の被災地の妊婦に対する専門家による健康相談などの手厚い支援が、時間の経過とともに薄くなっていくことが推測され、今後大規模災害後の支援の在り方に関して政策提言を行った。</p> <p>教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM 演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニングI」、などの講義を行い、大学院生3名の指導を行った。学外の社会活動においては、公益財団法人宮城県対がん協会の宮城県新生物レジストリー委員会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員などを務めている。</p>			

分野名	災害医療情報学分野	報告者氏名	中山 雅晴
分野目標			
<p>「平素を充実させることで災害に備える」という方針の下、病院情報システム等の充実や院内 BCP を含め広く活動する。臨床現場での効率を高めるシステムやツールの提供や集積されるデータが医療行為を正しく反映しているかの検証、そして災害時に活用できるのか、その対象や手段の検討を行う。運用レベルでの確認やデータの2次活用までを取り扱う。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>・災害時のための情報バックアップや地域連携システムの応用に関する活動を主に行った。</p> <p>① みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)に協力し、宮城県における診療情報のバックアップを促進。東北大学病院中心に MMWIN 加入患者の促進を行い、同意患者登録数は 10 万人、総バックアップ人数も延べ 1400 万人を超えた(2020 年 3 月末時点)。</p> <p>②全国の国立大学病院情報バックアップシステムの非常時運用 WG として運用管理を行った。</p> <p>③東北大学病院 BCP 事務局メンバー、並びに委員会に参加し、診療支援システムとの課題調整を行った。</p> <p>・学術的な活動</p> <p>④日本医療情報学会等など、幅広く国内外で MMWIN などの発表。周知・啓発活動に尽力した。</p> <p>⑤日本救急医学会の「救急統合データベース活用管理委員会:救急患者標準診療録および SS-MIX2 拡張ストレージ整備プロジェクト WG」委員。救急患者標準診療録ならびに項目設定・フォーマット整備の活動。</p> <p>⑥WADAM2021 の国際学術集会のプログラム委員への就任。</p> <p>・社会貢献・学内外・その他の活動</p> <p>AMED の「医療機器開発の重点化に関する WG」、厚労省委託事業「保健医療記録共有サービスの基盤整備に係わる調査」における「実証事業専門家会議」委員、東北大学医学系研究科の中長期計画のひとつであるビッグデータメディシンセンター副センター長として活動。また 12 月より専任の准教授を採用し体制強化を図った。次年度に向けて、個人向けの BCP など対象を広げるべく研究活動の更なる活性化を図った。</p>			

分野名	災害口腔科学分野	報告者氏名	小坂 健
分野目標			
1) 歯からの放射線被ばくの推定 2) 岩沼プロジェクトを主体とした被災地の健康支援の有り方の提案 3) 地域包括ケアシステムによる防災体制について研究を進めると共に提言			
2019 年度の分野活動報告			
1) 環境省の事業により 2020 年 2 月まで収集した乳歯 6,976 本についてイメージングプレートの QL 値(Quantum Level)を指標に放射線量のスクリーニングならびに核種の推定などを行った。これまでのところ、福島第一原発事故の前後や他の地域との比較においても、 <b>福島県の子供達の脱落乳歯の放射線量が低いことが確認された。</b>			
2) <b>岩沼プロジェクト</b> は、NIH の予算を用いて、震災前からの住民の暮らしと健康についての調査を実施するもので震災前から 3 年ごとに調査を行っている。2019 年は調査の年であり、様々なメディアを通じた暴露などを通じて啓発をはかり、回答率は 70%以上で有り、当初の計画を上回った。			
3) 地域包括ケアシステムによる災害対応を一步進めて、これからは BCP ではなく地域での継続のマネジメントとしての CCP(community continuity management)という概念を提言し、日本公衆衛生学会や国際学会などで報告した。 ○Goodwin R, Sugiyama K, Sun S, Aida J, Ben-Ezra M. Psychological distress after the Great East Japan Earthquake: two multilevel 6-year prospective analyses. Br J Psychiatry. 2019 Dec 2:1-7. ○Kusama T, Aida J, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K. Infrequent Denture Cleaning Increased the Risk of Pneumonia among Community-dwelling Older Adults: A Population-based Cross-sectional Study. Sci Rep 2019; 9: 13734. ○草間太郎、相田潤、東大介、佐藤弥生子、小野寺保、杉山賢明、坪谷透、高橋達也、小坂健. 宮城県の東日本大震災被災者の健康状態の経年推移: 応急仮設住宅等入居者 健康調査より. 日本公衆衛生学会雑誌 2020; 67 巻 1 号: pp26-32.			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	情報管理・社会連携部門	報告者氏名	佐藤 健
部門目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外連携による自然災害デジタルアーカイブの構築のための研究を実施する。</li> <li>東日本大震災の被災地における復興まちづくりと包括的学校安全に関する実践と探究を行う。</li> <li>実践的防災学の構築のため、研究所の成果を産官学民の連携で国内外に広く発信する。</li> <li>国際的な研究機関との共同研究をコーディネートし、国際的プレゼンスの向上を図る。</li> </ul>			
2019 年度の部門活動報告			
<p>災害アーカイブ研究分野は、ハーバード大との共同研究による三者間連携システムの構築を行い、震災記録の保有数が最多の岩手県と次に多い宮城県との連携を実施した結果、60 万点以上のメタデータ連携を実現した。社会連携・地域貢献として、岩手県の東日本大震災津波伝承館の監修し、開館から 4 ヶ月で 10 万人の来場者を記録した。また、東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムや語りベシンポジウム「かたりつぎ」を実施した。</p> <p>災害復興実践学では、石巻市の復興事業に関して、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。また、平野准教授が女川町復興まちづくりデザイン会議委員長を務める女川町復興まちづくりのデザインが土木学会デザイン賞(最優秀賞)を受賞した。さらに、石巻市の災害復興/防災教育プログラムの普及と高度化、宮城県内へ展開するとともに、『復興・防災マップづくり』実践の手引き』の英語版を発刊した。</p> <p>社会連携オフィスは、仙台防災枠組実施のために以下の活動を行った。1) 5 月に 2019 防災グローバルプラットフォーム(ジュネーブ)に出席。2) 11 月に第 2 回世界防災フォーラムを仙台で開催し、38 の国・地域から 871 名の会議登録者が参加。主な参加機関は、国連を含む国際機関、国内外の政府・大学等研究機関、地方自治体、企業等で、災害研からも複数のセッション等が企画され、研究所の活動の成果を世界発進することができた。</p> <p>国際研究推進オフィスの主な活動は 1) 国際会議およびワークショップの開催と参加、2) 協定締結(MOU)の支援と作成、および 3) 国際学術雑誌の出版であった。世界防災フォーラム 2019 において米国ワシントン大学およびチリ国 CIGIDEN と共同で学術セッションを開催し、また WBF 関連イベントとして第 12 回 The 12th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR2019)を運営した。さらに、ドイツのダルムシュタット大学の emergenCity プログラムと ILO 事務局との 3 者間協定を成立させた。</p>			

## 2019 年度の方野活動報告

分野名	災害アーカイブ研究分野	報告者氏名	柴山 明寛
分野目標			
<p>本分野では、近年の自然災害を中心に様々な貴重な記録(映像、写真、証言など)の収集・整理・保存するとともに、災害記録の体系化の確立や国際標準の自然災害メタデータスキーマの確立、災害記録の自動分類方法の確立、アーカイブ連携方法の確立などの基礎研究を実施する。</p>			
2019 年度の方野活動報告			
<p>本年度の方野活動としては、①自然災害の記録の収集・整理方法の研究、②自然災害アーカイブの国際標準化に向けたメタデータスキーマの研究、③自然災害アーカイブ連携に関する研究、④自然災害記録を用いた防災教育、防災観光に関する研究、⑤情報共有・発信のためのシンポジウム等の実施、を実施した。</p> <p>本年度の成果としては、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害アーカイブの記録の収集として、2019 年山形県沖地震、2019 年台風 19 号の記録の収集を実施した。さらに、過去の自然災害や東日本大震災についても継続して収集を実施した。</li> <li>アーカイブの国際標準化に向けた取組として、国内外の自然災害アーカイブのメタデータ分析を実施した。</li> <li>自然災害アーカイブの連携として、三者間連携システムを用いて岩手県「いわて震災津波アーカイブ～希望～」、宮城県「東日本大震災アーカイブ宮城」のメタデータの収集を行い、ハーバード大学 JDA にメタデータ連携を行った。今年度のメタデータの連携総数は、約 40 万点となる。</li> <li>自然災害アーカイブの構築支援として、熊本大学及び岐阜大学、厚真町などの継続支援を実施した。また、震災伝承施設等の支援は、岩手県陸前高田市「東日本大震災津波伝承館(愛称:いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)」の監修を実施し、2019 年 9 月 22 日に開館し、4 ヶ月弱で 10 万人の来場者を達成した。</li> <li>仙台市と宮城県の「防災観光」を一昨年及び昨年に引き続きに支援を行った。</li> <li>女優竹下景子さんを招聘した語り部シンポジウム「かたりつぎ」を大船渡市で開催し、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、無観客でネット配信を実施した。東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを開催し、ハワイ津波博物館の館長の特別講演を行い、170 人の参加があった。</li> </ul>			

分野名	災害復興実践学分野	報告者氏名	佐藤 健
分野目標			
<p>実践的防災学確立と復興・防災に関する実践的な展開を大目標に、具体的には以下の二点を目標としている。1) 防災教育国際協働センターを中心に、国内外の大学や研究機関、行政機関等との連携を推進し、地域に根ざした防災・復興教育モデルの開発と実践、その高度化と普及。2) 復興事業の実務的支援を通じた実践的な復興まちづくりのあり方の探究。</p>			
2019年度の分野活動報告			
<p>佐藤健教授・定池祐季助教は、宮城県教育委員会と共催した「災害時学校支援チームみやぎ養成研修会」や「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」、「みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会」のほか、「日本安全教育学会第20回山形大会」などの企画・運営を行った。また、佐藤健教授は、石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化に取り組むとともに、宮城県内への実践モデルの普及を継続し、「復興・防災マップづくり」実践の手引き～郷土の自然と暮らしを知るために～の英語版を発刊し国際発信した。京都大学防災研究所地域防災実践型共同研究(特定)「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究」にも取り組んだ。さらに、定池祐季助教は、福島大学の防災教育プロジェクトに参画し、避難所運営に関する教材開発と人材育成に努めているほか、北海道胆振東部地震の被災地厚真町に継続的に関わり、厚真町との共同研究等で心のケアと防災教育や復興計画の支援を行い、「心のサポート・防災学習推進協議会」設立の協力を行った。加えて、厚真町社会福祉協議会生活支援相談員のスーパーバイザーとして被災者支援の助言を継続している。</p> <p>また、小野田泰明教授(兼務)・平野勝也准教授は、昨年度から引き続き、姥浦道生准教授(兼務)などとともに、石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。なお平野准教授が女川町復興まちづくりデザイン会議委員長を務める女川町復興まちづくりのデザインが土木学会デザイン賞(最優秀賞)を受賞した。その一方で、新しいL1防潮流高を決める方法論づくりに関する共同研究を実施している。また、本江正茂准教授(兼務)は、災害教訓の継承の知見を生かし、仙台市(震災復興メモリアル等検討委員会)・山元町(震災伝承検討委員会)において震災伝承への助言を行っている。</p>			

分野名	社会連携オフィス	報告者氏名	小野 裕一
分野目標			
<p>防災・減災・復興の取り組みの中に、科学の知見を反映させること。具体的には、東日本大震災の経験をもとに実践的防災学を旨として、研究成果が政策として用いられ、社会実装するお手伝いをする。、本研究所と社会の様々な連携活動を強化・促進するにあたり、“繋ぎ役”としての活動を主として海外でおこなっていく。</p>			
2019年度の分野活動報告			
<p>社会連携オフィスは、仙台防災枠組実施のために様々な活動を行ったが、中でも以下の2つのイベントに出席し、研究所の活動を世界発信した。1) 5月に2019防災グローバルプラットフォーム(ジュネーブ)に出席し、アジア防災センター(ADRC)が開催する世界災害共通番号GLIDE(GLOBAL unique disaster IDENTIFIER)の関係者会議に出席し、災害統計の活用可能性等について議論を行った。また、仙台市とともにUNDRRのDirector Kirsi Madiを表敬訪問し、併せてSendai Framework Voluntary Commitmentsや世界防災フォーラムの取り組み等について意見交換を行った。更に当研究所の公式声明(official statement)を会場で読み上げることで、当研究所のこれまでの実績等を世界に向けて広く発信した。2) 11月に第2回世界防災フォーラムを開催した。本体会議では、口頭セッション50、基調講演3、ポスター発表47、フラッシュトーク33、展示ブース14が展開され、「仙台防災枠組2015-2030」の推進、特にサブテーマであったグローバルターゲットEの達成に向けての議論を行い、「BOSAI」の具体的な解決策を共有し、東日本大震災の教訓の発信も含めて、質量ともに世界的なフォーラムにふさわしい内容となった。日本を含む38の国・地域から、871名の会議登録者が参加した。会議登録者の主要な所属機関は、国連を含んだ国際機関、国内外の大学等の研究機関、国内外の政府関係者、地方自治体、企業等であった。9日(土)前日祭(無料・一般公開)では、一般市民や報道関係者、登壇者・出演者なども含め、約450名が参加した。上記前日祭、本体会議、ならびに同時開催関連イベント「仙台防災未来フォーラム」および「第10回震災対策技術展東北」の延べ来場者数は8,000人となり、盛況となった。仙台市主催のスタディツアーでは、閉会式では、「Chair's Summary」を発表し、世界防災フォーラム2019における議論の主要テーマ・傾向を明らかにし、次回に向けた課題を述べた。</p>			

分野名	国際研究推進オフィス	報告者氏名	マリ エリザベス・ ボレー ペンメレン セバスチャン
分野目標			
<p>北米およびヨーロッパ・アフリカ地区における主な機関・拠点校と本研究所との共同研究をコーディネートし本研究所の国際的プレゼンスの向上を図るための様々なプロジェクトの推進・実施の中心的役割を担う。具体的には、1) 国際会議、およびワークショップの開催や参加、2) 部局間協定締結(MOU)に向けた具体的な交渉、3) 国際学術雑誌への投稿・出版等を支援あるいは実行する。</p>			
2019 年度の分野活動報告			
<p>世界防災フォーラム(WBF)2019 において、米国ワシントン大学やチリ CIGIDEN と学術セッションを共催し、WBF 関連イベントとして AIWEST-DR2019 を企画と運営に携わった。また、ドイツのダルムシュタット大学の emergenCity プログラム、ILO 事務局との3者間協定を成立させた。さらに、「The Practicalities and Ethics of Dealing with Disaster Remains &amp; Cultural Heritage」に関する国際ワークショップを開催し、UNESCO の第14回緊急無形文化遺産条約に参加した。並行して、所内研究者と連携して University of Washington (UW)、University College London (UCL)、Syiah Kuala University などとは、共同研究に積極的に参画し、将来的な協働やイベント等を立案・企画した。また、国連大学・環境と人間の安全保障研究所(ドイツ・ボン)とは将来的な協力体制について議論した。本所アーカイブ分野と協力し、国際災害アーカイブや博物館との国際協力開発や学術深化を図った。さらに、ハワイの太平洋津波博物館、岩手伝承館と災害研との連携体制構築、アチェ津波博物館やハーバード災害デジタルアーカイブとの交流強化促進に尽力した。APRU サマースクール、キャンパス安全プログラムなど、多岐にわたる国際活動には積極的にプレゼンスを高めた。なお、本オフィスはデータベース開発を進めており、広報室と連携することで IRIDeS における国際協力の現状を明確化、今後の国際誌投稿論文数や出版物を戦略的に増やす努力を継続している。</p>			

## 2019 年度の部門活動報告

部門名	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門	報告者氏名	今村 文彦
部門目標			
<p>東日本大震災の被害実態を考慮した地震・津波災害のリスク評価や実用的な防災・減災システムの検討、さらに防災教育・啓発などの社会課題の解決に向けた取組など、リスクを軽減するための総合的な活動を産学連携で推進し、同分野の研究開発や人材育成を強化するとともに、研究成果や得られた情報を広く社会に提供して、社会の防災・減災に資することを目標とする。</p>			
2019 年度の部門活動報告			
<p><b>地震津波リスク評価に関する研究:</b> 国外の研究機関と連携しながら、東日本大震災や 2018 年スラウェシ島津波及びスダ海峡津波で指摘された課題に対しての取組を、IUGG(カナダ)、AOGS(シンガポール)、海岸工学講演会(鹿児島県)等で紹介できた。2016 年に投稿された東日本大震災からの教訓に関する論文が CEJ Citation Award を受賞した。津波統合モデル解析の高度化に向けて、気仙沼湾における被災後海底の実態調査の他、高密度市街地氾濫モデルの高度化や国際共同研究による津波土砂移動モデルを構築した。また総合的な水災害被害軽減に向け国家プロジェクト SIP に参画し、リアルタイム高潮高波浸水予測システムの構築とシステム社会実装の産官学連携研究を開始した。産業を対象とした津波リスク定量評価手法の高度化として、東日本大震災での津波被災企業のデータを基にした企業資産の津波損傷度曲線を作成するとともに、東日本大震災での建物被害データを基にした任意の建物情報を反映可能な津波損傷度評価手法を構築した。<b>防災教育活動:</b> 宮城県、仙台市、福島県、三重県鳥羽市各教育委員会と連携し、減災意識啓発の出前授業を実施した。教育ツールとして、防災・減災スタンプラリー(都市部バージョン)や、「減災」英語バージョンも作成した。台湾台中市で開催された 9.21 大地震 20 周年:日台防災教育及び復興経験交流フォーラムで、防災教育の取り組みについて講演し国際的に発信した。宮城教育大学に新設された「311 いのちを守る教育研修機構」と連携し、全国教職員対象の視察研修、災害とメディアの関係を探る共同研究などを実施したほか、産学官民・メディア連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」の活動を継続し、震災伝承と防災啓発の発信基盤づくりに努めた。<b>情報発信活動:</b> 国内外の学会やメディア、防災推進国民大会・WBF2019・仙台防災未来フォーラムの防災イベントにおけるセッションやブース展示を通じて、産学連携による当部門の研究・防災教育等の知見や活動を広く社会に発信した。</p>			

## 4 研究活動

### (2) プロジェクトエリア・ユニットの研究活動

## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【場】海溝型巨大地震・津波の発生メカニズムの解明プロジェクトエリア
エ リ ア 長	木戸 元之
<b>【研究の概要】</b> 調査・観測に基づくモデルに立脚した地震・津波などの自然災害の発生要因究明およびハザード評価を行い、その成果を利用してリスク予測から減災までの手法・取組を提案する。リアルタイム観測、痕跡データベースや歴史資料からの知見などとの融合により推定の精度を向上させ、最先端計算機科学・IT 技術を駆使したリスク予測・評価の提供を行う。その上で、被害やリスクの軽減のために、地域での結果の利活用法(災害伝承モデルを含む)を検討する。	
ユニット名・活動内容	
ハザード評価	観測やモデリングに基づき大規模地震・津波・火山噴火等の自然災害の統合的ハザード評価を行う。
被害予測と軽減	リアルタイム観測、データベースや歴史資料などを融合させ、ハザード・リスクの予測手法を提案し、地域での利活用法を検討する。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	ハザード評価ユニット
ユ ニ ッ ト 長	木戸 元之
研究組織 主:木戸元之、遠田晋次、福島 洋、岡田真介、川田佳史、石澤堯史、吉見瑤子、乗松君衣 副:千田浩一、寺田賢二郎、越村俊一、蝦名裕一	
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> M9 クラスの巨大地震発生の可能性が指摘された千島海溝沿いで、GNSS-A を始めとする海底測地観測を文科省のプロジェクトとも連携して開始し、今後のハザード評価に向けた観測体制を軌道にのせた他、無人機を用いた自律観測システムの実証試験を行い、ほぼ期待通りの性能を得た。海溝に沈み込む海洋プレートの熱構造に影響するプチスポットと呼ばれる海底火山における熱水循環を考慮した熱収支の推定を行った。フランスグループと共同で InSAR による地殻変動検出精度向上を目指した解析手法の開発に着手した。 2016 年熊本地震の研究を継続し、震源断層以外にも、既知の断層を含む多くの受動的小変位が見られたことから、断層変位バザードが再評価され得ることを示した他、南阿蘇村黒川地区での熊本大学・福岡大学との共同トレンチ調査の結果や地表踏査や災害復旧工事などから、地震前の評価と大きく異なる活動間隔および最新活動次期を明らかにし、活断層のハザード評価には、多数の古地震調査が必要であることを再認識した。 青森湾西岸断層帯での岩石密度サンプリングの追加調査により断層運動が形成する地下地質構造を解明した他、仙台湾周辺での CSAMT 探査を実施し鮮新世以降に伏在活断層による約 300 m の水平短縮があったことを明らかにした。国土地理院の全国活断層情報整備検討委員会で、跡津川断層の北東延長部を含む立山図幅のクロスチェックを行い、図幅として公表した。 仙台市市民センターにおいて、長町—利府線断層帯についての講演を行い、防災・減災に資する啓発を行った。南海トラフ地震臨時情報の社会対応について、研究を統括すると同時に、大地震が一旦発生して臨時情報が発出された後の地震活動の見通しを可視化し整理するための枠組みを考案した。	



ユ ニ ッ ト 名	被害予測と軽減ユニット
ユ ニ ッ ト 長	今村 文彦
研究組織	
主:今村文彦、サッパシー・アナワット、佐藤翔輔、保田真理 副:越村俊一、森口周二、蝦名裕一、門廻充侍	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>学際研究を推進することで災害の多様性を理解し、その予測とリスク評価を実現した上で、減災の対策を検討し、地域での防災・減災の啓発や防災教育に役立てることを目的としている。今年も歴史が導く災害科学の新展開のシンポジウムを開催し、第3回目としては、日本の災害文化をテーマとした。過去の経験の中で、共有・伝承されていく中で生まれる災害への対応や技術的な知見等について議論した。2019年10月台風19号においては、広域で甚大な被害が発生したため、緊急対応会議を実施し、雨量データによる浸水領域予測、突発災害調査および被害分析を関係学会と合同で実施した。個々では、被害実態、避難状況、避難所運営支援を行い、さらに、文化財の位置情報と推定被害を重ね合わせた被災文化財マップを作成し、被災地の関係者に共有するとともに、緊急報告会等において随時発表をおこなった。また、2019年6月に発生した山形沖の地震津波について、新潟県村上市と山形県鶴岡市において住民アンケート調査を行い、即時的に調査結果を公開することで、教訓や課題を広く社会に共有した。被害予測については、その成果も活用しながら大雨洪水・土砂被害の減災意識啓発ビデオを作成し、今後の被害軽減のために、東北大学減災教育「結」プロジェクトで内陸部小学生用の教材として活用した。</p>	

## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【情報】 自然災害アーカイブシステムの構築・運用プロジェクトエリア
エ リ ア 長	佐藤 健
<b>【研究の概要】</b> 情報エリアは、アーカイブ、災害統計、防災教育・人材育成の 3 ユニットで構成されており、各ユニットのミッションに応じたアクティブな活動を展開していると同時に、多くのメンバーがエリア内の他ユニットの副メンバーとなっているため、ユニット間連携が推進しやすい状況となっている。さらなる学際研究を展開するために、情報基盤としての自然災害アーカイブシステムの構築に加えて、その効果的な利活用のモデルについてエリア全体で検討している。	
ユニット名・活動内容	
ア ー カ イ ブ	自然災害に係わる資料の収集・整理・保存の後、アーカイブの構築と活用をはかり、そのシステムの国際標準化を目指す。
災 害 統 計	国内外の災害被害統計を収集・分析し、防災政策の立案を推進することで仙台防災枠組の実施に貢献する。
防災教育・人材養成	多様な研究資源と災害アーカイブに基づいて防災教育と人材育成のモデル開発・社会実装を行う。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	アーカイブユニット
ユ ニ ッ ト 長	今村文彦
<b>研究組織</b> 主:佐藤大介、柴山明寛、蝦名裕一、ボレー・セバスチャン、今村文彦、川内淳史、安田容子、ゲルスタ・ユリア 副:伊藤 潔、佐藤翔輔、兪 志前、マリ・エリザベス、定池祐季	
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> 本ユニットでは、震災・歴史資料アーカイブ構築と国際化に向けて、①自然災害全般の資料の収集・整理・保存・公開の実施、②国内外の関係機関と連携の実施、③その他関連事項の実施、などを行った。 ①自然災害全般の資料の収集・整理・保存・公開に関しては、東日本大震災の復興関係の記録の収集、2019 年山形県沖地震や 2019 年台風 19 号関連の自然災害記録の収集、古文書等の記録の収集を 1 万 5,000 点以上(古文書関係を約 5,000 点、自然災害関係を約 1 万点)行った。 ②国内外の関係機関と連携としては、岩手県「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の 25 万点、宮城県「東日本大震災アーカイブ宮城」の 20 万点の計 45 万点の震災デジタルアーカイブのメタデータ連携を実施し、ハーバード大学のアーカイブシステム(JDA)との三者間連携を行った。インドネシア・アチェ津波博物館及びアメリカ・ハワイ太平洋津波博物館と災害研での東日本大震災 10 周年の企画展示を 2020 年度中に実施することとなった。震災アーカイブを活用した防災教育として、2020 年 3 月 28 日、29 日にハーバード大学と宮城教育大学との合同ワークショップを開催し、国内の小中高校、大学の教員の 20 名が参加した。 ③その他関連事項の実施として、2019 年 7 月 21 日歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ—日本の災害文化—を実施し、約 130 名の参加、2020 年 1 月 11 日令和元年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム—震災伝承施設と震災アーカイブ—を実施し、約 170 名の参加があった。	

ユ ニ ッ ト 名	災害統計ユニット
ユ ニ ッ ト 長	小野裕一
研究組織	
主:小野裕一、奥村 誠、佐々木大輔 副:丸谷浩明、江川新一、サッパシー・アナワット	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>2019年度は、引き続き国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社等と共同し、災害統計の整備に係る能力強化や災害統計分析のためのグローバルプラットフォームの開発、仙台防災枠組の推進に関する独立した科学的分析の実施等に向けて取組を加速させた。</p> <p>5月には、2019 防災グローバルプラットフォーム(2019 Global Platform for Disaster Risk Reduction)において、アジア防災センター(ADRC)が開催する世界災害共通番号 GLIDE(GLobal unique disaster IDentifier)の関係者会議に出席し、災害統計の活用可能性等について議論を行った。8月には、国連開発計画(UNDP)と共同で、ネパール連邦民主共和国におけるフィールド調査を実施した。そして11月には、世界防災フォーラムにおいて、「Recent Progress of the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)」と題したセッションを開催し、これまでの研究成果等について発表を行った。</p> <p>組織構成員が災害統計に関する研究を円滑に推進できるよう、研究プラットフォームとしての機能も重視しており、災害統計に関する様々な学際研究の成果を取りまとめた Journal of Disaster Research (JDR) (Web of Science Core Collection 及び Scopus にも掲載されている英文オープンアクセスジャーナル) 特集号 Vol.14 No.8 (Special Issue on the Development of Disaster Statistics Part 2) を公刊した(ゲストエディター:小野・佐々木、全9篇の査読付き論文を収録)。</p> <p>以上のように、当ユニットでは、国内外の共同研究機関等と連携を密に取りながら、災害統計の発展、仙台防災枠組の実施への貢献、そして Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標、SDGs) の達成に向けて、着実に研究活動等を進めている。</p>	



ユ ニ ッ ト 名	防災教育・人材育成ユニット
ユ ニ ッ ト 長	佐藤 健
研究組織	
主:佐藤 健、邑本俊亮、杉浦元亮、定池祐季	
副:佐藤大介、柴山明寛、蝦名裕一、佐藤翔輔、三木康宏、稲葉洋平	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>アーカイブ(歴史資料・デジタル)を活用した復興教育／防災教育モデルの普及と高度化に向けて、石巻市教育委員会との連携による石巻市内のモデル校を中心とした実践的研究を継続した。福島県教育委員会が推進する放射線教育・防災教育を支援するため、災害と健康ユニットの千田浩一教授、稲葉 洋平助教と連携し、令和元年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」に協力した。北海道胆振東部地震被災地の厚真町にて、小中学校で心のケアと防災教育に関する授業を継続して実施したほか、「心のサポート・防災学習推進協議会」の設立と運営支援に携わった。</p> <p>また、東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8因子 (Sugiura et al., 2015)について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度は、査読付き論文が国際学術雑誌に3報、国内雑誌に1報採択されたほか、学会報告(国内)も1件行った。また学術論文英文3報、和文2報が投稿準備中である。</p> <p>さらに、被災地(閉上)を訪問して震災や復興について学んだ10名の大学生が、地域と世代を超えて震災伝承を行うために、自分たちの力で災害伝承・防災教育の出前授業を企画し、11月9日に東京都の中学校で実施した。当該の活動実践に関しては地方紙に掲載された(河北新報 2020年2月11日付)。大学生による複数の防災授業案が構築され、蓄積された。</p> <p>加えて、主に防災主任をはじめとした学校教員向けの「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」などの企画運営を行い、防災人材育成にも貢献した。</p>	

## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【組織】被災地支援・受援を効率化する組織と技術プロジェクトエリア
エ リ ア 長	越村 俊一
<b>【研究の概要】</b> 被災地支援・受援を効率化する組織と技術の研究について、継続的に取り組んだ。災害空間情報解析ユニットは、リアルタイムシミュレーションによる被害予測の高度化、リモートセンシング技術を活用した災害対応支援のための情報獲得、処理技術の高度化を進めた。2019年の台風第19号災害における調査・解析において卓越した成果を得ることができた。減災・復興支援技術ユニットは、南海トラフ地震津波、2019年10月台風19号水害を念頭に置き、不確実かつ時々刻々変化する状況下の資源、人員の活用を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を進めた。	
ユニット名・活動内容	
減災・復興支援技術	減災・復興支援に関する数理計画・空間計画手法と、社会・経済的情勢のシミュレーション手法を研究する。
災害空間情報解析	センシング技術・予測情報を活用した災害対応支援のための情報獲得、処理技術の構築を行う。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興支援技術ユニット
ユ ニ ッ ト 長	奥村 誠
<b>研究組織</b> 主:奥村 誠、水谷大二郎 副:杉浦元亮、井内加奈子、平野勝也	
<b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b> 災害対応・復旧・減災地域づくりにおける様々な意思決定において、限られた情報、錯綜し相矛盾する情報しか入手できない中での決定を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を行っている。	
(1) 2019年10月の台風19号水害において交通事業者は資産退避行動をとった。この意思決定は本ユニットが対象とすべき典型的な事例であり、理論的分析を学会にて口頭発表した。 ・奥村誠,森合一輝:緊急時資産退避作業のゲーム論的検討,平成31年度東北地域災害科学研究集会,2019.12.27,山形大学。	
(2) 南海トラフ地震津波のような将来高い確率で発生する災害のために、平常時に使われない避難・復旧の施設を別途用意することは困難であり、むしろ平常時に別の機能を有する施設の維持・更新計画の中で、災害時の機能の維持を考慮することが重要である。この観点からの成果を2編の査読付き論文として発表した。 ・須ヶ間淳,奥村誠:公共施設の削減方針が洪水避難場所に与える影響,2019.12,土木学会論文集 D3,75(5), pp. I_223-I_232.・須ヶ間淳,奥村誠:多機能公共施設の更新戦略最適化,2019.10,都市計画論文集, 54(3), pp.758-765.	
(3) 従来から蓄積してきたインフラマネジメント研究において、災害リスクの低減を考慮した拡張を試みてきた。その研究成果を2編の査読付き論文として発表した。 ・櫻谷慶治,水谷大二郎,小濱健吾,貝戸清之,音地拓:高速道路斜面災害に対する降雨時通行規制基準値の設定方法,2019.4,土木学会論文集 F6,75(1), pp.12-30.・Daijiri Mizutani: Reduction of seismic risk of infrastructure via daily management works, International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE) Congress, Session D.4, New York, USA, 2019.9.	
また、2つの科学研究費による他機関研究者との共同研究を進め、所期の成果を得た。	

ユ ニ ッ ト 名	災害空間情報解析ユニット
ユ ニ ッ ト 長	越村 俊一
研究組織	
主:越村俊一、有働恵子、マス・エリック、橋本雅和 副:奥村 誠、富田博秋、木戸元之、川田佳史	
<p>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</p> <p>概要:社会の災害に対する回復力(レジリエンス)の向上に資するため、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、被害の全容を迅速に予測・把握するためのシミュレーション・リモートセンシング技術を高度に融合し、被害の全容から必要な支援の質と量を明らかにするための広域被害把握技術の深化に取り組んだ。</p> <p>(1) 本学理学研究科, サイバーサイエンスセンター, 大阪大学等との連携および産学連携研究により, リアルタイム津波浸水・被害予測技術を高度化した. リアルタイム予測システムは, 現在, 鹿児島県から茨城県を予測領域としており, 大学発ベンチャーとして設立した RTi-cast 社が運用の一役を担っている.</p> <p>(2) リモートセンシングによる広域被害把握を目的とした, 機械学習による画像解析手法の高度化と, その有効性を実証した. Remote Sensing 分野の上位 1-3 位の国際誌に論文が 3 編掲載されるなど, 卓越した成果が得られた.</p> <p>(3) 2019 年の台風第 19 号災害において, 広域的な被害調査, 土砂生産量の推定, 衛星リモートセンシングによる広域被害把握に取り組んだ. 得られた成果は学会等のシンポジウムや災害研のウェブページを通じて発信することができた.</p> <p>(4) 気候変動に伴う将来の砂浜消失予測と適応策に関する研究を継続的に推進した. 特に, 海岸管理を行う上でも重要な土砂移動限界水深の推定手法が Scientific Reports に掲載されるなど, 卓越した成果を得ることができた.</p>	

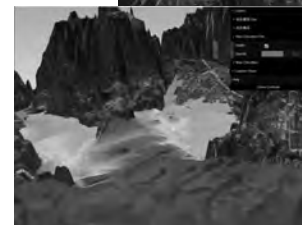
## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【もの】構造制御技術と多重防御技術による地域・都市レジリエンスの向上プロジェクト エリア
エ リ ア 長	寺田 賢二郎
【研究の概要】 地震観測網の活用によるマイクロゾーニング・地震動評価・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと革新的な構造制御・実験技術の高度な融合により都市・建築の高耐震化を実現し、人的・物的被害を軽減する技術を提案・開発する。また、多重防御機能を備えた社会基盤設計のツールとして、数値シミュレーション援用のための情報基盤プラットフォーム(X-GIS)の開発を行うとともに、これを利用した確率論的リスク評価技術および防災教育・防災意識の向上・総合減災における意志決定に資する災害情報の見える化技術を提案する。	
ユニット名・活動内容	
人的・物的被害軽減	次世代地震警報と構造制御技術の融合による人的・物的被害最小化技術を開発する。
レジリエント社会基盤	数値シミュレーションと多次元見える化技術に基づき、多重防御機能を備えた社会基盤設計を研究する。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	人的・物的被害軽減ユニット
ユ ニ ッ ト 長	五十子 幸樹
研究組織	
主:五十子幸樹、大野 晋、榎田竜太、郭 佳 副:丸谷浩明、村尾 修、佐藤 健	
【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】	
1. 研究概要 地震観測網の活用による地震動評価・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと、革新的な構造制御技術及び非線形構造物を対象としたハイブリッド実験技術の高度な融合による地震時の人的被害と社会資本の財産的価値毀損を最小化する技術を提案・開発する。	
2. 研究成果 深層学習による地震動評価・早期地震警報、地震被害を受けた構造物の物理量推定手法を開発した他、動的サブストラクチャ振動台実験の合理的制御器設計法を構築した。 また、長周期構造物において懸念されている地震時の過大応答変位の低減に有効な複素減衰について、既往の因果的近似モデルを統一的に説明できる非整数時微積分モデルを提案した。今年度の研究成果は国際共著論文(審査付き)として国際 Journal に 4 編発表した。	
3. 波及効果など モンゴルでは構造ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムを展開している。また当研究ユニットで開発している被害軽減技術(免震用ダンパー)について準大手建設会社が耐震改修への採用を検討しており、共同研究契約を締結して研究を進めている。	

ユ ニ ッ ト 名	レジリエント社会基盤ユニット
ユ ニ ッ ト 長	寺田 賢二郎
研究組織	
主: 寺田賢二郎、森口周二、山口裕矢 副: 村尾 修、有働恵子、大野 晋、マス・エリック、杉安和也	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>1. X-GIS(災害シミュレーション機能を実装した災害情報基盤プラットフォーム)の機能強化</p> <p>これまで引き続き開発を進めてきた X-GIS についてプレスリリースを行い、一部地域を対象として、地震動と津波の数値シミュレーションの入力データ作成、シミュレーションの実行、結果表示までの一連のプロセスが可能なプロトタイプを構築した。右の図は青森県八戸市を対象として行った津波遡上計算の結果であり、建物情報を反映した計算メッシュを用いたシミュレーション結果を GIS 上で可視化したものである。また、オルソ画像を利用した 3 次元可視化機能が追加され、その可視化結果の例も示している。更に、道路ネットワーク情報を利用した避難シミュレーションの機能も追加された。</p> <p>2. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の適用</p> <p>地震動と津波の数値解析結果を利用し、主成分分析から得られる空間モードを利用したリスク評価に取り組んだ。入力パラメータを変化させた複数のシナリオに対して数値解析を実施し、固有直交分解により数値解析結果を特徴量の係数と固有ベクトルの線形結合から成る代理モデルで表現することで、リアルタイム被害予測手法を構築した。</p>	





## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【健康】広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立プロジェクトエリア
エ リ ア 長	児玉 栄一(平成 30 年 12 月、富田博秋・教授より交代)
【研究の概要】	
本エリアでは、科学研究を基盤とするエビデンスに基づく広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立に向けて、(1) 東日本大震災を含む大災害の被災住民の健康への長期の影響の検証研究、(2) 災害医療保健対策の効果の科学的検証研究、(3) 災害に関連する健康問題の客観的評価や改善のための技術開発研究の 3 つのアプローチからなる災害と健康プロジェクトユニットの取り組みが行われた。	
ユニット名・活動内容	
災 害 と 健 康	エビデンスに基づく有効な災害医療保健対応の体制整備のための知見集積、技術開発、学理構築を行う。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	災害と健康ユニット
ユ ニ ッ ト 長	児玉 栄一(平成 30 年 12 月、富田博秋・教授より交代)
研究組織	
主:伊藤 潔、江川新一、栗山進一、児玉栄一、千田浩一、富田博秋、中山雅晴、細井義夫、小坂 健、國井泰人、藤井 進、佐々木宏之、鈴木敏彦、鈴木正敏、三木康宏、齋藤昌利、稲葉洋平、兪 志前、大江千紘、臼倉 瞳 副:今村文彦、小野裕一、越村俊一、佐藤 健、杉浦元亮、寺田賢二郎、丸谷浩明、村尾 修、邑本俊亮、佐藤翔輔、ボレー・セバスチャン	
【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】	
<p>【研究の概要】上記のとおり。【具体的な成果】震災後の沿岸部の診療記録をデータベース化、WHO-HEDRM 研究ネットワーク形成、災害統計グローバルセンターとの共著論文掲載、七ヶ浜町第 9 次被災住民健康調査の実施、東日本大震災後の心理社会支援の実態と課題に関する調査結果の論文掲載、被災妊婦では低出生体重児が多く、妊娠高血圧症候群を伴うと自閉傾向が強くなること等の論文掲載、エボラウイルス感染のシミュレーション、「フロートパック」の津波水理実証実験準備、仮想現実技術を用いた津波避難時の自律神経機能評価実験準備、被災後の婦人科がん検診受診率の評価に関する論文発表等、学際的研究の実施成果・成果発表、プレスリリースを行った。また、他領域研究者を招いて 8 回 に渡り「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催する等学際連携を推し進めた。研究成果を市民向けに取りまとめた「被災後ケア」について都道府県庁、市町村役場、NPO 法人に対し満足度調査を行い、「満足」31.9%、「やや満足」49.1%の結果を得た。2019/7/22～2019/7/29 の期間にワシントン大学看護学院のスタッフならびに大学院生の受け入れ、2019/8/30 にアインシャムス大学リハビリテーション学科の教員受け入れを行い、国際共同研究の体制を築いた。【波及効果】災害科学拠点事業の七ヶ浜町ワークショップに参加、情報提供を行い、七ヶ浜町役場との連携による今後の防災対策、共同研究のスタートを切った。世界防災フォーラム 2019 をはじめとする学際的事件を通じ、国内外への発信を行った。日本精神神経学会・日本薬学会・放射線医学系国際学会・日本ステロイドホルモン学会等の学会賞を受賞した。</p>	

## 2019 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【総合減災】総合的減災システムのデザインと社会実装プロジェクトエリア
エ リ ア 長	丸谷 浩明
<b>【研究の概要】</b> エリア会合を毎月定例で開催し、減災や復興のあり方やその社会実装について議論し、メンバーの研究内容の発表と意見交換を継続している。2020年1月25日に当研究所多目的ホールで、研究所主催(当エリア事務局)の「第4回実践的防災学シンポジウム 復興まちづくりにおける土木・建築・都市計画コラボレーションの実態と課題」を開催し、外部有識者も含めて発表と議論を行った。当エリアホームページも引き続き運営している。	
ユニット名・活動内容	
減災・復興デザイン	国内外の地域と都市を対象とし、事前の被害抑止策から復旧・復興活動に至る総合的な減災システムの提案を行う。
減災社会実装	国内外の社会に対する総合的な減災及び復興システムについて研究し、実装を図る。

## 2019 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興デザインユニット
ユ ニ ッ ト 長	村尾 修
研究組織 主:岩田 司、村尾 修、井内加奈子、泉 貴子、平野勝也、マリ・エリザベス 副:寺田賢二郎、増田 聡、杉安和也	

### 【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】

本ユニットは、国内外の地域と都市を対象とし、被害抑止策と防災・復興計画に関する研究を進めるとともに、実戦的防災学の体系化を踏まえ、災害対応の各段階に応じた様々な要素技術を有機的に連携させた総合的減災システムの提案を行うことを担っている。2019年度は、2011年東日本大震災をはじめとして、2008年四川地震(中国)、2010年ラクイラ地震(イタリア)、2013年台風ハイエン(フィリピン)、2018年キラウェア火山噴火後の復興調査研究、ならびにミャンマー、バングラデシュ、マレーシア、インドネシア等において、地震、水害、噴火等を対象とした都市の脆弱性と避難に関する共同研究を実施した。

また2018年度に立ち上げた復旧・復興制度勉強会を継続的に開催し、これまでにエリア・ユニットのメンバーが携わってきた石巻や女川等における復興まちづくり等の知見に基づき、議論を交わし、こうした成果を共有するために、2020年1月15日に第4回実践的防災学シンポジウム「復興まちづくりにおける土木・建築・都市計画コラボレーションの実態と課題」(図)を開催した。さらにコロラド大学のKathleen Tierney教授をお招きし、「Disaster Research: A Sociological Perspective」と題して、4回 DRM Colloquiumを「総合的減災システムのデザインと社会実装エリア」として主催した。



第4回実践的防災学シンポジウム  
2020年1月15日開催

ユ ニ ッ ト 名	減災社会実装ユニット
ユ ニ ッ ト 長	丸谷 浩明
研究組織	
主:丸谷浩明、フルコ・フラヴィア 副:岩田 司、佐藤 健、五十子幸樹、島田明夫、佐々木宏之、マリ・エリザベス	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>当プロジェクトユニット(PU)は、国内外の社会に対する総合的な減災及び復興システムを研究し、実装を図る役割を担っている。活動計画の「研究内容の横断的な把握、総合的な減災システムの社会実装方策の共同検討」を、エリアのメンバーで議論し進めている。</p> <p>個別研究では、「緊急災害対応・マネジメントの研究・社会貢献」のため、宮城県庁、仙台市役所と連携して当研究所内でBCP月次オープン講座を6回連続で開催し、最大82名の参加を得た。仙台市の社会福祉施設向けセミナーなどの様々なBCPに関する講師も務めた。</p> <p>南海トラフ地震の研究では、高知県、高知市とも連携して半割れ発生時の組織の対応について研究を進め、高知商工会議所主催の半割れ時のBCPや対応方法の講師を務めた。</p> <p>東日本大震災の被災地の語り部の研究では、震災の教訓を広めるため、複数の国際共通研究プロジェクトに参加し、ワシントン大学公衆衛生学部サマースクールや、カンタベリー大学と神戸大学と連携を開始し、イタリアでのSilk Cities 2019や和歌山大学の2nd International Conference Critical Tourism Studies - Asia Pacificで発表した。</p> <p>2019年11月30日に都市住宅学会学術講演会を開催し、被災地を含めた「人口減少社会における都市住宅政策の在り方」について、外部有識者も含めて発表と議論を行った。</p>	
	
	都市住宅学会メインシンポジウム

## 4 研究活動

### (3) 共同研究プロジェクトの研究活動

## 2019年度 共同研究助成 採択課題 一覧

研究課題名	研究代表者	所属機関
<b>①災害アーカイブ学</b>		
1. 被災した紙媒体資料を対象とした安定的な保全技術活用の検討(継続)	天野真志	国立歴史民俗博物館 研究部
2. 地域での活用を前提とした災害アーカイブの開発と活用プラットフォームの構築(継続)	小山真紀	岐阜大学 流域圏科学研究センター
3. 東日本大震災における災害対応に関する災害アーカイブスの社会実装方法に関する研究(継続)	田中聡	常葉大学 大学院環境防災研究科
4. 被災地間連携による歴史・災害資料の保存・活用技術の比較検討と共有(継続)	奥村弘	神戸大学 大学院人文学研究科
5. 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究(新規)	廣内大助	信州大学 学術研究院 教育学系
6. 自然災害伝承碑アーカイブの構築(新規)	上相英之	国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
7. 保健師の防災対策ガイドラインの有効性に関する考察 ～「みちのく震録伝」とフィールドワークを組み合わせた日タイの情報学的地域間比較研究～(新規)	松田正己	東京家政学院大学 人間栄養学科
<b>②津波減災学</b>		
1. 津波統合モデルを用いた津波による地形変化の確率的評価手法の構築(継続)	有川太郎	中央大学 理工学部
2. 災害研の設備を活用した古津波履歴・規模評価の高精度化(新規)	菅原大助	ふじのくに地球環境史ミュージアム 学芸課
3. 津波発生時の局所避難情報伝達手段の基礎検討(新規)	山崎達也	新潟大学
4. 巨大地震津波を対象とした津波統合モデル解析の展開(新規)	高橋智幸	関西大学 社会安全学部
5. X-GIS による三陸沖北部地震の津波に対する八戸市のレジリエンスデザイン分析(新規)	高瀬慎介	八戸工業大学 工学部 土木建築工学科
6. 川崎臨海部における災害デジタルツインによる次世代防災システムの検討(新規)	大石裕介	富士通研究所 人工知能研究所
<b>③災害医学・医療</b>		
1. 「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」確立にむけた国際共同研究:東京・台北における私立校教職員への調査(継続)	坪内暁子	順天堂大学 大学院医学研究科 研究基盤センター
2. 東日本大震災と熊本地震の比較分析による精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究(継続)	野崎裕之	大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科
3. 放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスの定量(新規)	盛武敬	産業医科大学 産業生体科学研究所
4. VR 津波体験装置による「逃げ遅れ」解消に向けた心理学的侵襲性モニタリング(新規)	浅井光輝	九州大学
5. 原子力災害によりサクラ樹皮に付着した含放射性セシウム粒子による被ばくリスク研究(新規)	杉浦広幸	福島学院大学 短期大学部 保育学科

研究課題名	研究代表者	所属機関
-------	-------	------

#### ④防災人材育成学

1. 多次元統合可視化システムを用いた防災教育効果の検証－短期大学幼児教育科における正統的周辺参加論を基調とした学習を中心に－(継続)	田久昌次郎	いわき短期大学 生涯教育研究所(地域防災教育研究会)
2. 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築(新規)	林田由那	早稲田大学
3. 学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発(新規)	桜井愛子	東洋英和女学院大学 国際社会学部
4. 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明(新規)	本多明生	静岡理工科大学 情報学部 情報デザイン学科
5. 災害時要配慮者の避難移動・避難生活・生活再建の各過程をヨコ串にした災害時ケアプラン作成・実施のための福祉防災人材育成プログラムの開発と実践(新規)	立木茂雄	同志社大学 社会学部
6. 被災地の学校における心のケアと防災教育の融合プログラムの有効性と課題 -東日本大震災と北海道胆振東部地震被災地での実践から(新規)	富永良喜	兵庫県立大学 大学院 減災復興政策研究科
7. 地域住民によるワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育プログラムの開発(新規)	森太郎	北海道大学 大学院工学研究科

#### ⑤災害科学の発展に寄与するその他の研究

1. 原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育の在り方(継続)	大葉隆	公立大学法人福島県立医科大学 医学部 放射線健康管理学講座
2. 防災教育教材・郷土災害資料と災害教育実践事例の収集・分析(継続)	西山昭仁	東京大学地震研究所 地震予知研究センター
3. 火山地域で生じる地震動による斜面崩壊の規模予測に関する比較研究(新規)	奥野充	福岡大学 理学部
4. 記者と研究者は、「被災者」とどうかかわるかーみやぎ「災害とメディア」研究会での討議を通じてー(新規)	小田隆史	宮城教育大学
5. 蔵王・御釜における水・熱・化学物質収支から見た地下水流動系の解明	知北和久	北海道大学 北極域研究センター
6. 東日本大震災後の水産加工業の早期復旧・復興への事業・制度的な支障とその軽減(新規)	寅屋敷哲也	ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター
7. 東日本太平洋側に冷夏をもたらす気候場の長期復元に向けた基礎研究(新規)	市野美夏	情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文オープンデータ共同利用センター

災害アーカイブ学(2019年度)

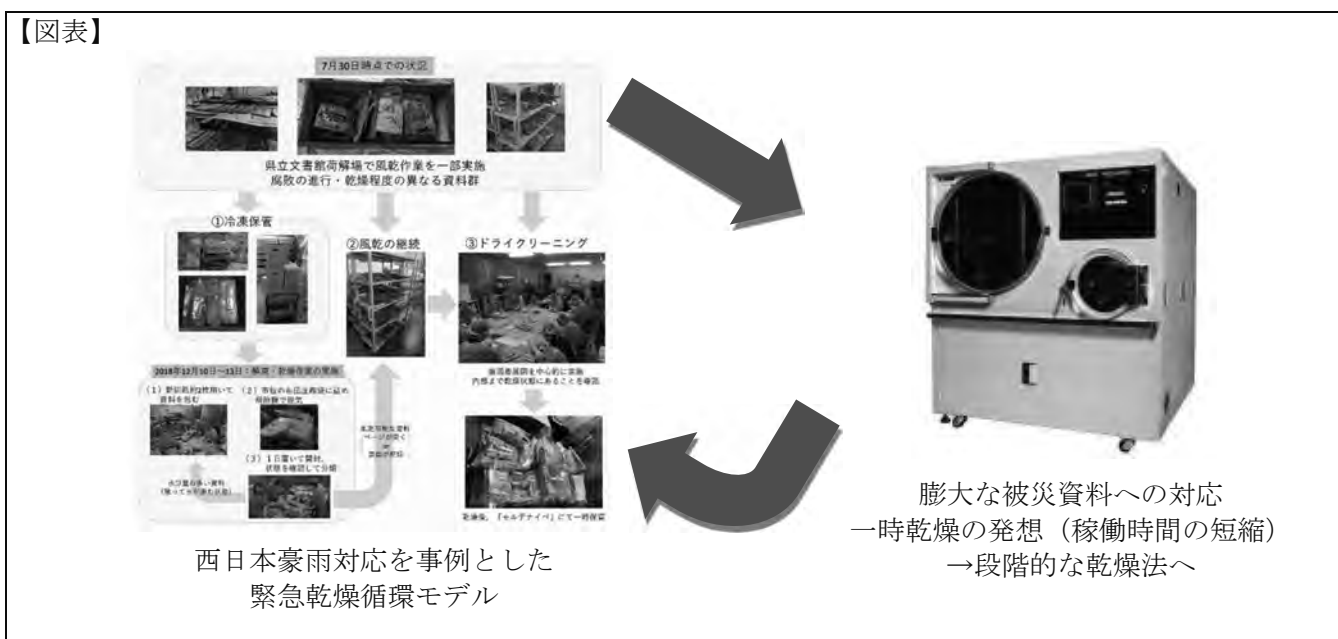
研究課題名	1. 被災した紙媒体資料を対象とした安定的な保全技術活用の検討	研究課題	①
研究代表者	天野 真志		
所属機関等・職名	国立歴史民俗博物館・特任准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎天野真志(国立歴史民俗博物館)男、○佐藤大介(災害研)男、川内淳史(災害研)男、安田容子(災害研)女、松下正和(神戸大学)男、加藤諭(東北大学)男、添田仁(茨城大学)男、内田俊秀(京都造形芸術大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	792,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 災害から歴史資料を救済するために用いられてきた諸技術について、被害種類や規模に応じた技術選択を可能にするため、乾燥・保管方法の技術検証をおこなう。特に、真空凍結乾燥法に代表される大規模設備の応用的利用法を検討し、被災地の状況に即応した技術活用のあり方について検討する。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 前年度に引き続きサンプルを用いて水損程度に応じた真空凍結乾燥時間の調整に加え、材質の異なる紙媒体資料の特徴を踏まえた乾燥法を検討し、文化財保存修復学会において実践的な方法論として被災資料乾燥法のモデルケースを提起することができた。また、2019年台風15号、19号で被害を受けた長野県、千葉県、神奈川県で本共同研究で得た成果を応用的に実践し、大規模乾燥法としての真空凍結乾燥と緊急対応法との技術選択の手法を発信することができた。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年4月18日～4月19日(1人)</li> <li>・2019年7月19日～7月20日(1人)</li> <li>・2019年8月8日～8月11日(4人)</li> <li>・2019年9月10日～9月12日(1人)</li> <li>・2019年10月29日(1人)</li> </ul>	真空凍結乾燥機 E504 演習室	30 時間 12 時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年8月8日～8月11日(4人)</li> <li>・2019年9月10日～9月12日(1人)</li> <li>・2019年10月29日(1人)</li> </ul>	小会議室 5,E504 演習室 E504 室	24 時間 15 時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年11月18日～11月21日(1人)</li> <li>・2020年1月23日～1月24日(1人)</li> </ul>	E504 演習室,真空凍結乾燥機 真空凍結乾燥機 小会議室 5,E504 演習室	10 時間 72 時間 12 時間
延べ訪問回数 18 回		合計 175 時間

成果として発表した論文
天野真志・吉川圭太・加藤明恵・西向宏介・下向井祐子、西日本豪雨で水損被害を受けた文書資料乾燥法の検討—広島県における大量の紙資料乾燥法の実践事例—、第41回文化財保存修復学会ポスター発表、2019年6月23日、於帝京大学、査読有、国内

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2019年12月22日/ワークショップ/国内/研究者・社会人/地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋「地域資料保全のあり方を考える」ワークショップ/被災した紙媒体資料の緊急対応方法を考えるとともに具体的な対応法を検討/参加人数 50人

合計(1)件



災害アーカイブ学(2019年度)

研究課題名	2. 地域での活用を前提とした災害アーカイブの開発と活用プラットフォームの構築	研究課題	①
研究代表者	小山 真紀		
所属機関等・職名	岐阜大学・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎小山真紀(岐阜大学)女, ○柴山明寛(災害研)男, 村岡治道(岐阜大学)男, 平岡守(かわべ防災の会)男, 荒川宏(特定非営利活動法人ドゥチュウ)男, 伊藤三枝子(清流の国ぎふ女性防災士会)女

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	796,000 円
----	----------------------	----	-----------

**【研究の概要】**  
 地区防災計画などの策定に利用できる災害アーカイブのプラットフォーム構築を目的とする。防災ワークショップを通じたデータの収集とデータベース化, 保管したデータの再利用法までを合わせて提案することで, 恒常的にデータの収集と活用が可能な災害アーカイブの構築とその効果を検討した。岐阜県内で行った4回のワークショップを通じて, データ収集, データ入力, ワークショップ運営までの手法の確立を行った。参加者アンケートより, 実際に経験した災害の記憶の継承の場となっていること, 従来の DIG よりも災害イメージを作りやすいことなどが確認された。これにより, 災害アーカイブのプラットフォームは概ね構築できたと思われる。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 ワークショップの開催を通じて, その地域の過去の災害資料の収集と, 住民参加による被災当時写真の位置情報の付与および現在状況の写真収集を行うことができるようになった。大量ではないが, 確実に活用できるデータの蓄積が可能になった。ワークショップを通じて, 過去の災害を経験した人が, 地域にその情報を伝える機会となり, 本手法によって地域内での記憶と記録の伝承が広がりつつある。実施地域では, 繰り返しての実施を希望しており, 今後, 地区防災計画の策定への活用も期待できる。このような効果が確認されたことから, 他地域でも, 災害アーカイブワークショップの実施希望がでており, 災害データの収集と活用をセットにした災害アーカイブプラットフォームが実現できている。

**【図表】**

表. データ投入状況




図. e コミマップ上でのデータ表示例

災害名	市町村	投入済み		未投入
		災害時写真	現在写真	災害時写真
飛騨川バス転落事故(1968年)	川辺町	78	7	0
平成23年9月豪雨	多治見市	13	13	0
9.12水害(1976年)	大垣市	14	10	0
荒崎水害(2002年)	大垣市	5	0	0
昭和56年7月13, 14日集中豪雨	郡上市	6	6	0
水害	郡上市	18	0	0
平成30年7月豪雨	関市	0	0	126
濃尾地震(1891年)	岐阜市他	0	0	32

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年7月20日(1)</li> <li>・2019年7月21日(1)</li> <li>・2019年2月23日(4)</li> </ul> <p>※災害アーカイブサーバーは災害研に設置しているため、サーバー利用は常に行っている状況である</p>	エントランスホール 多目的ホール 柴山研究室	8時間 3時間 3時間
延べ訪問回数 3回		合計 14時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山真紀, 柴山明寛, 平岡守, 荒川宏, 伊藤三枝子, 村岡治道:地域主導による災害アーカイブの蓄積と活用に向けた試み, 令和元年度土木学会全国大会第74回年次学術講演会, 2019, IV-58, 査読無, 国内</li> <li>・小山真紀, 柴山明寛, 平岡守, 荒川宏, 伊藤三枝子, 井上透, 村岡治道:防災ワークショップを活用した災害写真の収集とデータベース化:災害アーカイブぎふの取り組みから, 【デジタルアーカイブ学会第4回研究大会(COVID-19流行により中止), 2020, 査読無, 国内</li> </ul>

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020/2/2, 国内, 地域にお住まいの方なら誰でも, 災害アーカイブワークショップ in 根本, 平成23年(2011年)9月豪雨の写真資料と地図を用いて, 当時の被災状況と現在のまちの状況についてグループディスカッションを行った, 参加者35名</li> <li>・2020/2/15, 国内, 地域にお住まいの方なら誰でも, 災害アーカイブワークショップ in 墨俣, 9.12水害(1976年安八水害)の写真資料と地図を用いて, 当時の被災状況と現在のまちの状況についてグループディスカッションを行った, 参加者52名</li> <li>・2020/2/16, 国内, 地域にお住まいの方なら誰でも, 災害アーカイブワークショップ in 八幡, 地域内で過去に発生した水害の写真資料を用いて, 当時の被災状況と現在のまちの状況や, 災害時に活用できる情報について全体で議論した, 参加者10名</li> <li>・2020/2/23, 国内, 大和西小学校PTA関係者, 災害アーカイブワークショップ in 大和, 昭和56年(1981年)7月13, 14日集中豪雨の写真資料と地図を用いて, 当時の被災状況と現在のまちの状況についてグループディスカッションを行った, 参加者28名(うち, 子ども12名)</li> </ul>

合計(4)件

災害アーカイブ学(2019年度)

研究課題名	3. 東日本大震災における災害対応に関するアーカイブスの社会実装方法に関する研究	研究課題	①
研究代表者	田中 聡		
所属機関等・職名	常葉大学大学院環境防災研究科・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎田中聡(常葉大学大学院環境防災研究科)男、○佐藤翔輔(災害研)男、重川希志依(常葉大学大学院環境防災研究科)女、阿部郁男(常葉大学大学院環境防災研究科)男、河本尋子(常葉大学大学院環境防災研究科)女

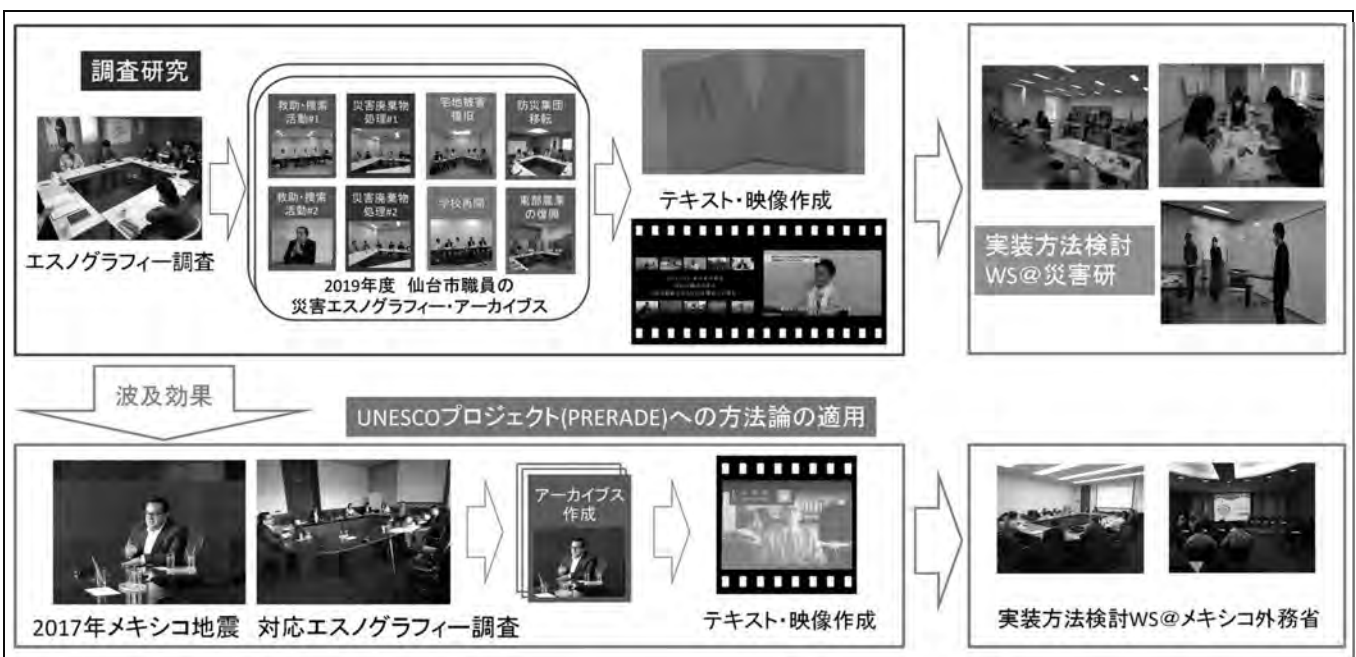
期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	786,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

本研究では、仙台市と共同で職員の災害対応のアーカイブのデータ収集・構築を継続するとともに、これまで蓄積されてきた災害アーカイブスを活用し、仙台市の職員研修を事例に、研修内容、研修方法、研修教材を検討し、プロトタイプを作成した。このプロトタイプを仙台市職員研修やセミナーで試行し、その効果を検証した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

- 1) 仙台市職員の災害対応について、学校再開、救助捜索活動、震災廃棄物処理、東部農業の復興、防災集団移転の対応、宅地被害の復旧などのテーマについてエスノグラフィー調査を実施し、アーカイブスを作成した。
- 2) 仙台市役所など関係機関と合同でワークショップを実施し、災害アーカイブスの活用方法や教訓の伝達の方法など、具体的な社会実装の方法について議論した。
- 3) 本研究で開発した手法が、UNESCOのプロジェクトに採用された。2017年メキシコ地震の災害対応における災害エスノグラフィーの収集、編集、ならびに活用方法の検討のためのワークショップの開催など、本研究の成果が海外の事例に展開された。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年 7 月 20 日(2 名) 研究成果報告会</li> <li>・令和 2 年 3 月 20 日(2 名) エスノグラフィー活用ワークショップ</li> </ul>	防災社会システム研究分野 演習室 A	3 時間 3 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 6 時間

成果として発表した論文
1. 柳谷理沙, 鈴木由美, 佐藤翔輔, 田中聡, 重川希志依:「Team Sendai(チームセンダイ)」による被災自治体職員の災害対応の承継に関する研究 ～その2, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.8, pp.11-14, 2019, アブストラクト査読有, 国内.

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>2020 年 3 月 20 日, ワークショップ, 国内, 研究者・行政職員, 「エスノグラフィー活用講座」, エスノグラフィー調査の手法を用いて、仙台市職員の震災体験を追体験・共有化する手法の検討をおこなった, 参加人数:10 人</p> <p>【新型コロナウイルス感染症防止に伴う中止】2020 年 3 月 21 日, ワークショップ, 国内, 行政職員・一般, 「あれから 9 年スペシャル 仙台市職員の震災体験を 100 年後の人たちへ」, 参加予定人数:200 人, 東北大学災害科学国際研究所・多目的ホール</p>

合計 ( 1 ) 件

災害アーカイブ学(2019 年度)

研究課題名	4. 被災地間連携による歴史・災害資料の保存・活用技術の比較検討と共有	研究課題	①
研究代表者	奥村 弘		
所属機関等・職名	神戸大学大学院人文学研究科教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎奥村 弘(神戸大学大学院人文学研究科)男 ○川内 淳史(東北大学災害科学国際研究所)男 蝦名 裕一(東北大学災害科学国際研究所)男 大林 賢太郎(京都造形芸術大学歴史遺産学科)男 今津 勝紀(岡山大学社会文化科学研究科)男 山内 利秋(九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科)男 三村 昌司(防衛大学校人文社会科学群人間文化学科)男 熊谷 誠(岩手大学地域防災研究センター)男 加藤 明恵(神戸大学大学院人文学研究科)女 小野塚 航一(神戸大学大学院人文学研究科)男 尾立 和則男 大銚地 駿佑(中央大学大学院文学研究科)男 堀田 慎一郎(名古屋大学大学文書資料室)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	796,000円
----	----------------------	----	----------

<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>本研究は、阪神淡路大震災と東日本大震災のふたつの大規模災害において、神戸大学・東北大学をはじめとした様々な研究機関で蓄積された被災資料レスキューの手法、破損・汚損した史料の処置や下張り文書の保全技術、史資料の記録撮影の手法などについて比較検討し、これらの技術を深化させるとともに、現在展開している東日本大震災の被災資料に対する保全およびこれらを活用した災害研究の促進をはかる。</p>
---

<p><b>【研究の具体的な成果・波及効果】</b></p> <p>本研究では大きく分けて2つの研究、すなわち①被災歴史資料の保全技法についての研究、②歴史的災害資料の保全・活用についての研究を実施した。</p> <p>①被災歴史資料の保全技法の研究については、実践的手法の確立のため、昨年度に引き続き、東日本大震災で被災した大船渡市個人所蔵の保全作業(クリーニングおよびデジタル化作業)を実施した。また、令和元年10月に発生した台風19号に際して展開された、被災地における被災歴史資料・文化財救出活動を通じて、本研究で培ってきた保全技法を応用し、実地での救出活動に適用、多くの被災資料の救出・保全を行うことが出来た。またそうした効果や、新たな技法の共有を目指して、令和2年2月27日(木)東北大学災害科学国際研究所において公開フォーラム「被災地と史料をつなぐII—令和元年度台風19号における被災資料レスキューと現状—」を実施し、共同研究メンバーのみならず広く市民とも情報・技術の共有をすることができた。</p> <p>②歴史的災害資料の保全活用についての研究としては、令和元年9月に岩手県気仙郡住田町の根岸吉田家所蔵資料の調査・保全活動を実施した。本資料群については全点デジタル化作業を行った後、地域住民と共に活用する方法について今後検討する予定である。また、1804年象潟地震に関連した歴史資料の調査として、にかほ市関村において名主家に伝来した関村伝来史料について調査・撮影作業を実施した。</p> <p>なお、令和2年28日(金)には、前述の公開フォーラムの関連企画として、岩沼市・亘理町・丸森町をめぐる巡見を実施し、東日本大震災や台風19号に関する被災歴史資料の保全活用や、災害史に関する実地調査、歴史資料保全の新技法の実演(ひかり拓本)などを実施し、メンバー間での情報・技術の共有をすることができた。</p>
--

【図表】



象潟での史料調査



公開フォーラム



ひかり拓本講習会

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 12 月 16 日～12 月 17 日 (3)	歴史資料データ保存・閲覧用ストレージ	10 時間
・令和 2 年 2 月 27 日 (9)	歴史資料データ保存・閲覧用ストレージ、超高精細スキャン	10 時間
・令和 2 年 3 月 16 日～20 日 (3)	歴史資料データ保存・閲覧用ストレージ	35 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 45 時間

成果として発表した論文

蝦名裕一、東北地方太平洋沿岸の災害文化：記憶と忘却をめぐって、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書 2019、2020.3.31、24-29 頁、査読無、国内

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

令和 2 年 2 月 27 日 / 公開フォーラム / 国内 / 研究者・社会人 / 「被災地と史料をつなぐⅡ—令和元年台風 19 号における被災資料レスキューと現状— / 2019 年台風 19 号における被災資料の救済・保全活動の実施状況およびデジタルデータを用いた資料保全の実践紹介・ワークショップ / 約 40 名

合計 ( 1 ) 件

災害アーカイブ学(2019年度)

研究課題名	5. 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究	研究課題	①
研究代表者	廣内 大助		
所属機関等・職名	信州大学学術研究院教育学系・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎廣内大助(信州大学)男、○柴山明寛(災害研)男、竹内裕希子(熊本大学)女、稲本義人(熊本大学)男、田中尚人(熊本大学)男、星野裕司(熊本大学)男、山尾敏孝(熊本大学)男、三原峻太郎(熊本大学)男、井形康太郎(熊本大学)男、渡邊萌(熊本大学)男、奥山加蘭(信州大学)女、小保田春加(信州大学)女

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	667,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
本研究では、東日本大震災で構築された震災アーカイブや防災教育の知見を活用し、2014年神城断層地震、2016年熊本地震の震災アーカイブを構築(一部運用開始)し、この自立的運用を目指した利活用方法を防災教育と生涯学習の側面から検討し、そのプログラムを試行的に実践することを目的とする。

【研究の具体的な成果・波及効果】
<p>本ファンドを活用して陸前高田や気仙沼、石巻におけるアーカイブの活用と市民との関わりを学ぶことができたが、これら地域での知見に基づいて、2014年11月の神城断層地震を記録した震災アーカイブを構築し、2019年度から試行的に小谷小学校、白馬中学校における防災教育への利用を開始した。中学生でもすでに地震の記憶が不明瞭であり、アーカイブから改めて震災を理解し、授業の中で被災者への聞き取りや被災当時と現在を比較するなど、震災への理解と今後取るべき方向を自ら考え行動し理解していく学びを促すことができた。引き続きアーカイブを活用した被災地ならではの学習の定着を支援すると共に、取組み自体が周辺地域の防災学習へ波及が期待できる。</p> <p>一方 2016年に熊本地震を経験した熊本でもいくつかの震災アーカイブが立ち上がっている。その中で熊本大学が取組む「ひのくに災史録」は東北大学の支援により構築をすすめている。「ひのくに災史録」の特徴は、大学自体の震災記録を保存し、学内の看板設置などを通じて学生や教職員への教育への活用を目指している点にある。2019年度には、東北大学の取組みや東松島市のアーカイブ、石巻市防災教育などの事例を参考にしながら、新入生への防災教育必須化に向けて準備を進めている。</p>

【図表】

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
令和元年 11 月 17-19 日(訪問者数:11 名) 令和 2 年 2 月 28-29 日(訪問者数:2 名)	会議室 会議室	5 時間 10 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 15 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Kotaro IGATA, Naoto TANAKA, Yukiko TAKEUCHI, Toshitaka YAMAOKA, Study on Construction and Digital Archive System about 2016 Kumamoto Earthquake, Using the Japan Digital Archive in the Classroom, Harvard University, 2019.12</li> <li>・井形康太郎・田中尚人, 学び方から見た災害アーカイブの活用に関する研究, 土木学会西部支部研究発表会概要集, IV-5, 2020.3.9(九州大学伊都C)</li> <li>・井形康太郎・田中尚人, 学生を主体とした初学者のための防災学習プログラムの開発, 土木計画学研究発表会・講演集, Vol.61, 2020.6.(掲載予定)</li> <li>・小保田春加, 震災デジタルアーカイブを活用した防災教育カリキュラム開発—2014 年神城断層地震を事例に, 日本地理学会 2020 年春季学術大会, 2020.3</li> </ul>

学術論文 合計( 5 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年 9 月 5 日, 国内, 企業・諸団体, 信州大学見本市知の森総合展 2019, 震災デジタルアーカイブ(2014 年神城断層地震の記録と記憶の継承事業), 100 名</li> <li>・2019 年 9 月 5 日, 国内, 企業・諸団体, 信州大学見本市知の森総合展 2019, Web-GIS システムとリンクした防災教育用アプリの開発と実践, 100 名</li> <li>・2019 年 11 月 21 日, 国内, 一般, 2014 年神城断層地震 震災アーカイブ報告会, 神城断層地震 5 年間をふりかえる, 80 名</li> <li>・2019 年 1 月 23 日, 国内, 学生及び一般, 信州大学知の森昼ときセミナー, 震災の記憶をどう受け継ぐか? — 2014 年神城断層地震震災アーカイブの取組み, 60 名</li> <li>・2020 年 3 月 6 日, 国内, 一般, 「熊本大学デジタルアーカイブシンポジウム～『ひのくに災史録』に期待すること～」(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止)</li> <li>・2020 年 3 月 7 日, 国内, 一般, 「わたしがつくる つぎの防災・減災 2020」メディア・アーカイブから防災・減災を考えるシンポジウム(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期)</li> </ul>

合計 ( 6 ) 件



災害アーカイブ学(2019年度)

研究課題名	6. 自然災害伝承碑アーカイブの構築	研究課題	①
研究代表者	上相 英之		
所属機関等・職名	奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター アソシエイトフェロー		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎上相英之(奈良文化財研究所)男、○蝦名裕一(災害研)男、多仁照廣(若狭路文化研究所)男、北原糸子女

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 本研究では、現在津波碑を対象として構築中の東北大学災害科学国際研究所の「ひかり拓本データベース」のデータの対象を、津波碑以外の水害碑や飢饉碑といった自然災害伝承碑全般に拡大し、総合的な自然災害伝承碑のデータベースとして拡充することを目的とする。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 本調査により計 31 基を撮影した。内訳は以下の通りである。釜石 8 基、陸前高田の 4 基、気仙沼の 8 基、歌津 5 基、大槌 6 基を撮影し、ひかり拓本データベース (<https://takuhon.lab.irides.tohoku.ac.jp>) に登録した。ひかり拓本データベースは、アクセス解析を始めた 2019 年 8 月から、新規ユーザー数は 949、ページビュー総数は 6,674 となっている。  
 本研究で使用するひかり拓本技術を使用して可読性の高い碑文画像を提供する事で、より資料的価値の高い自然災害伝承碑のデータベースとなる。結果として、利便性や資料的価値の高い碑文画像を提供することで、第三者による検証や翻刻、横断検索による面での研究を促進する。

**【図表】**



図1 ひかり拓本データベース Top ページ



図2 詳細ページ

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 8 月 3 日(二人)	災害文化研究分野・ひかり拓本データベース	3 時間
・令和元年 11 月 19 日(三人)	災害文化研究分野・ひかり拓本データベース	3 時間
・令和元年 12 月 17 日(二人)	災害文化研究分野・ひかり拓本データベース	3 時間
延べ訪問回数 3 回		合計 9 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上相英之, ひかり拓本を利用した簡便な凹凸記録法の提案, 文化財の壺, VOL.7, 2019, pp.10-11, 査読無, 国内</li> <li>・上相英之, ひかり拓本による石造物画像の資源化, 東京大学史料編纂所附属画像資料解析センター通信, 第 86 号, 2019, pp.12-21, 査読無, 国内</li> <li>・Hideyuki Uesugi, Development and Improvement of Image Processing Scheme for Archiving Inscription, Proceedings of the 16th Conference on Digital Preservation, iPRES2019, 2019, pp.10-11, 査読無, 国際</li> <li>・上相英之, ひかりデータベースの構築, 日本情報考古学会講演論文集, Vol.23, 2019, 査読有, 国内</li> </ul>

学術論文 合計( 4 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年 10 月 23 日／セミナー／国内／一般・研究者・学生／ひかり拓本による石碑撮影講座／ひかり拓本技術による撮影実践／40 名</li> <li>・令和 2 年 2 月 28 日／セミナー／国内／研究者／丸森町被災調査におけるひかり拓本の実践／20 名</li> </ul>

合計 ( 2 ) 件

災害アーカイブ学(2019年度)

研究課題名	7. 保健師の防災対策ガイドラインの有効性に関する考察 ～「みちのく震録伝」とフィールドワークを組み合わせた日タイの情報学的地域間比較研究～	研究課題	①
研究代表者	松田 正己		
所属機関等・職名	東京家政学院大学・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎松田正己(東京家政学院大学)男、○柴山明寛(災害科学国際研究所)男、栗山進一(災害科学国際研究所)男、原正一郎(京都大学東南アジア地域研究研究所)男、太田勝正(名古屋大学大学院医学系研究科)男、カニタ・ヌンタポット(タイ国コンケン大学看護学部地域保健開発研究所)女、フレイ・ウルスラ(京都大学東南アジア地域研究研究所)女、亀田堯宙(京都大学東南アジア地域研究研究所)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	562,000 円
----	----------------------	----	-----------

【研究の概要】
東日本大震災で効果を発揮したとされる東北地方の保健師の防災ガイドラインの特徴を、「震災時における運用の『実態』」と「平常時の保健活動の『あり方』」の両面から明らかにする。『実態』については「みちのく震録伝」と現地調査から再構築を試みる。『あり方』については地域保健活動が活発なタイとの比較を試みる。

【研究の具体的な成果・波及効果】
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東日本大震災時の保健師の防災ガイドラインの有無(宮城県は作成中、仙台市はあり、東松島市あり)</li> <li>2. 新聞データの分析を試みた。朝日新聞、河北新報の震災当時の関連記事の内容を調べ、地震直後から何がおこり、人々は何をしたのか、それを保健師の防災ガイドラインと関連付けて検討した。</li> <li>3. フィールド調査 データベースより収集したデータを補完するために現地調査を実施した(宮城県東松島市、静岡県三島市)。</li> <li>4. 新しい視点の登場 東日本大震災の後、熊本県の震災などの経験から、山梨県などで「受援体制」という考え方が出てきている。また、ガイドラインの「ニーズとフェーズ」に加え、高知県(南海トラフ)では「ターニング・ポイント」という視点も、保健師の防災ガイドラインに組み込まれていることが分かった。</li> </ol>

<p>【図表】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> </div> <div style="width: 45%;"> </div> </div>
<p><b>河北新報の保健師関連の記事</b>          保健師の防災ガイドラインのフェーズに対応          (フェーズ0-1、フェーズ2、フェーズ3)          (48時間、2週間、1年)          津波、地震、避難⇒避難、津波、避難所⇒復興、津波、避難、放射線</p>
<p><b>朝日新聞の保健師関連の記事</b>          (同左)</p>

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年年3月13日(2名)</li> <li>・令和2年年3月16日(2名)</li> <li>・令和2年年3月17日(2名)</li> </ul>	会議室 1 研究室 研究室	3時間 4時間 2時間
延べ訪問回数 3回		合計 9時間

成果として発表した論文
<p>松田正己、カニタ・ヌンタボット、原正一郎、太田勝正、ピラポン・ブンサワドグルチャイ、フレイ・ウルスラ、反町吉秀、地域保健における脆弱性と災害時レジリエンス(自然回復力)について—東日本大震災における青森県の防災対策、保健師ガイドラインの例から—、生存科学、30—1、2019、15—35、査読あり</p> <p>松田正己、フレイ・ウルスラ、原正一郎、江口晶子、太田勝正、カニタ・ヌンタボット、AIの視点から見た東日本大震災の新聞データの解析と保健師ガイドラインの関連性について(予定、生存科学、2020)</p>

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

津波減災学(2019年度)

研究課題名	1. 津波統合モデルを用いた津波による地形変化の確率的評価手法の構築	研究課題	②
研究代表者	有川 太郎		
所属機関等・職名	中央大学 理工学部・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎有川太郎(中央大学)男, ○門廻充侍(災害研)男, ○山下啓(災害研)男, 今村文彦(災害研)男, 高橋智幸(関西大学)男, 菅原大助(災害研)男, 木瀬晃周(中央大学)男, Ceren Ozer Sozdinler(香川大学)女, 渡部真史(中央大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	714,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

津波統合モデルが開発されたことにより、津波による複合的で複雑な津波挙動・被害を再現することが可能となった。本研究では、開発した津波統合モデルを活用し、津波による漂砂現象のバラツキを評価し、地形変化を確率的に評価する手法を検討する。そして、南海トラフ巨大地震津波を対象に、提案手法の検証を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】

1. 既存の非静水圧波動モデルと球面座標上に拡張した津波移動床モデルを統合し、津波による土砂移動・地形変化解析のための新たなツールを開発した。そして、砂浜斜面での孤立波遡上による地形変化の既往実験によるモデル検証の他、土砂輸送パラメタの感度分析を実施した。また、2011 東北津波による地形変化の近地及び遠地事例に適用してカップリングモデルの高い有用性を示した。2011 東北津波や 2004 年スマトラ津波に関連する様々なケーススタディだけでなく、古津波堆積物をモデリングすることで、世界的な津波リスクを評価するためのフレームワークを提供することが期待される(図 1,2)。
2. 波源および格子サイズによる浸水域のばらつきを評価するため、南海トラフ巨大地震津波における三重県沿岸地区を対象に、格子サイズおよび波源の異なる計算を数百ケース行った。そして、浸水深の違い、度数分布を算出し、地形、津波高、堤防高の違いによる影響を検証した。その結果、地形により格子サイズの影響が異なることなどが明らかとなり、今後、このようなデータベースを作る際の指標となることが期待される(図 3)。
3. インドネシアのスラウェシ島で生じた地震津波およびクラカタウ島で生じた火山による津波に対して、地滑り性津波を表すことのできる 2 層モデルをもちいて、波源を数十ケース変えて計算を行い、メカニズムを解明した。(図 4)

【図表】

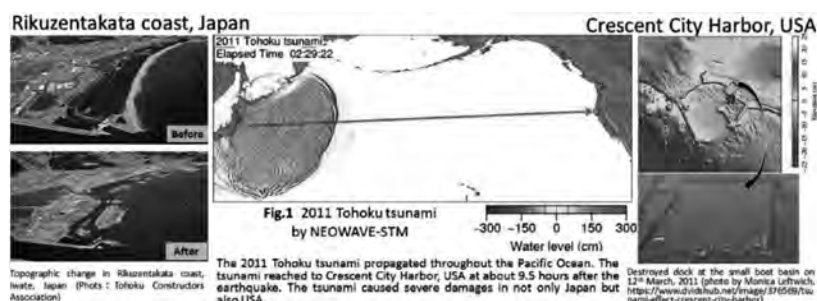


図 1:2011 年東北津波による陸前高田市と米国クレセントシティ港での地形変化

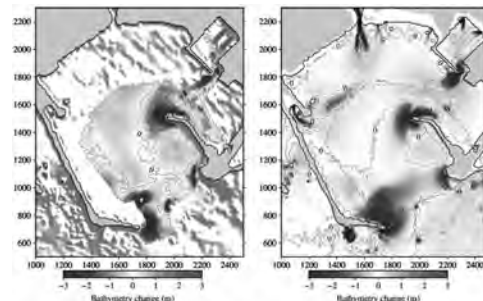


図 2:クレセントシティ港での地形変化 (左:既往の調査結果, 右:計算結果)

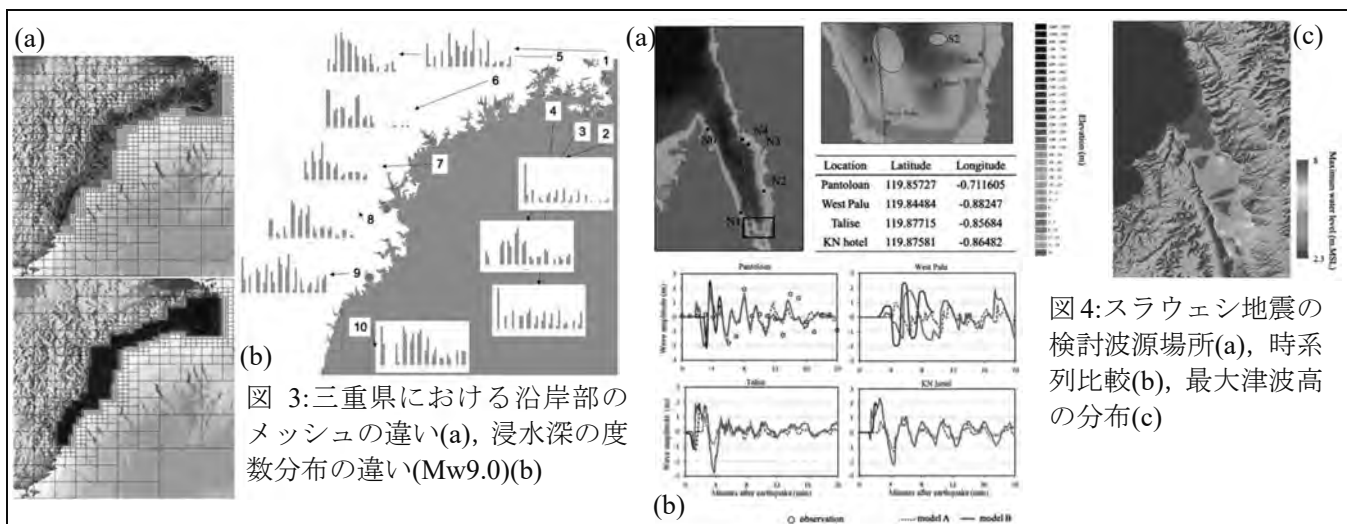


図 3:三重県における沿岸部のメッシュの違い(a), 浸水深の度数分布の違い(Mw9.0)(b)

図 4:スラウェシ地震の検討波源場所(a), 時系列比較(b), 最大津波高の分布(c)

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・2019年7月20日(2名) ・災害解析用計算機へ所外アクセス	多目的ホール, 会議セミナー室 災害解析用計算機システム	8時間 592137.515(CPU core × hour)
延べ訪問回数 1回		合計 8時間 + 592137.515(CPU core × hour)

成果として発表した論文
<b>【学術雑誌(査読有)】</b> 1. 山下 啓, 菅原 大助, 門廻 充侍, 有川 太郎, 高橋 智幸, 今村 文彦: 高知県における最大クラスの津波による地形変化と潜在的影響の評価, 土木学会論文集 B2(海岸工学), 2019, 75 巻, 2 号, p. I_685-I_690.
<b>【国際会議・シンポジウム】</b> 2. Kei Yamashita, Yoshiki Yamazaki, Yefei Bai, Tomoyuki Takahashi, Fumihiko Imamura, Kwok Fai Cheung, Coupled non-hydrostatic flow and sediment transport model for Investigation of coastal morphological changes caused by tsunamis, 27th IUGG General Assembly, Montreal, 2019. 3. Taro Arikawa, Abdul Muhari, Shota Takeda, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Kaori Nagai, Masashi Watanabe, Sensibility analysis for the inundation tsunami height due to 2018 Sulawesi earthquake and tsunami, JpGU, 2019 4. Kaori Nagai, Abdul Muhari, Masashi Watanabe, Pakoksung Kwanchai, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Taro Arikawa, Numerical simulation of tsunami induced by submarine landslide inside of the Palu Bay, Sulawesi Island, Indonesiam, AGU, 2019 5. HUANG Pan, Yusuke Sakata, Taro Arikawa, Estimation of allowable time for evacuation starts under the volcanic type tsunami at Anak Krakatau 2018, AGU, 2019
<b>【国内学会・シンポジウム】</b> 6. 梶谷亮太, Suppasri Anawat, 山下啓, 今村文彦, Gouramanis Chris, Leelawat Natt, タイ・プラトーン島を対象とした 2004 年インド洋大津波による海浜侵食とその回復要因の検討, 第 66 回海岸工学講演会, 鹿児島, 2019. 7. 宮内俊晴, 有川太郎, 津波浸水データベースの作成における格子解像度の影響について, 第9回 巨大津波災害に関する合同研究集会, 2019

学術論文 合計(7)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 (0) 件のうち, A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
特になし

合計 (0) 件

津波減災学(2019年度)

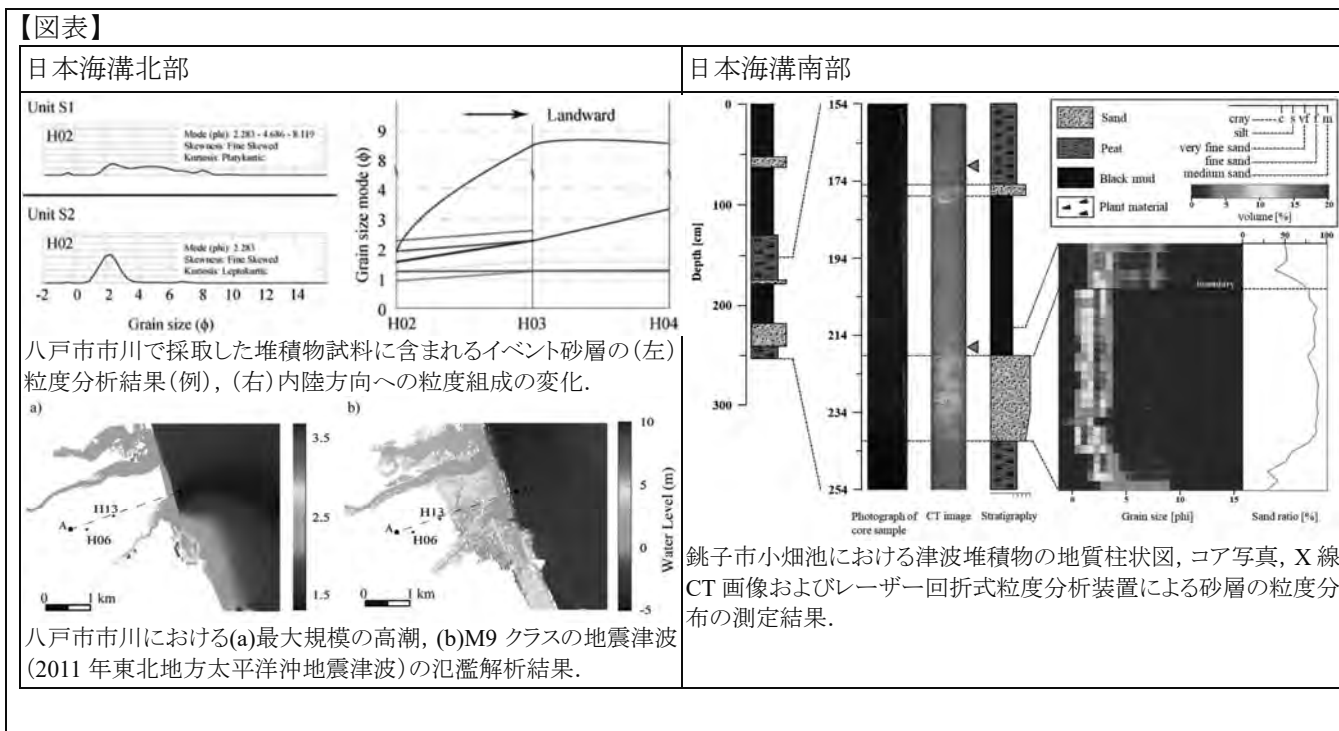
研究課題名	2. 災害研の設備を活用した古津波履歴・規模評価の高精度化	研究課題	②
研究代表者	菅原 大助		
所属機関等・職名	ふじのくに地球環境史ミュージアム・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎菅原大助(ふじのくに地球環境史ミュージアム)男、○アナワット・サツパシー(災害研)男、○遠田晋次(災害研)男、後藤和久(東京大学)男、石村大輔(首都大学東京)男、石澤堯史(災害研)男、渡部真史(中央大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	757,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 本研究では、災害研が所有する計算機及び分析機器を活用することにより、千島海溝から日本海溝にかけての古津波履歴と規模を高精度かつ迅速に推定する手法の検討を行う。これは、申請者らのこれまでの実績の上に立脚したものであり高い研究成果と防災への貢献が見込める。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 日本海溝北部では、八戸市市川の試料に含まれる多数のイベント砂層に対し、粒度組成を計測し、その結果に基づいて砂層の分布を高精度に推定した。また、数値解析で高潮と津波による浸水範囲を比較し、高い確度でイベント砂層の多くを津波起源として認定した。日本海溝南部では、銚子市小畑池の試料に含まれる砂層について粒度分布を計測し、津波堆積物として認定するとともに、津波土砂移動解析により古津波の波源を検討した。これらの成果について、学術論文および会議で発表した。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年7月19日(1人)	E303 研究室	5時間
・令和元年8月28日(1人)	E303 研究室	5時間
・令和元年9月24日(1人)	E303 研究室	5時間
・令和元年10月11日(1人)	E303 研究室	5時間
・令和元年11月21日～22日(1人)	E303 研究室	10時間
・令和元年12月17日(3人)	E303 研究室、小会議室1	5時間
・令和2年1月10日(1人)	E303 研究室	5時間
・令和2年2月12～13日(1人)	リスク保管室、自動粒子形状測定装置	10時間
延べ訪問回数 8回		合計 50時間

成果として発表した論文
Velasco R. E.R, <u>Goto K.</u> , <u>Sugawara D.</u> , Nishimura Y., 2019. A scheme proposal for an effective selection of survey sites in paleotsunami research, Hachinohe case, Aomori Prefecture, Japan. CWMD International Conference 2019. くまもと水循環・減災研究教育センター, 熊本大学. 2019/09/19.

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
該当なし

合計 ( 0 ) 件



津波減災学(2019年度)

研究課題名	3. 津波発生時の局所避難情報伝達手段の基礎検討	研究課題	②
研究代表者	山崎 達也		
所属機関等・職名	新潟大学・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎山崎達也(新潟大学)男、○佐藤翔輔(災害研)男、○今村文彦(災害研)男、小林直輝(新潟大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	611,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 津波発生時に迅速な避難を促すために、公共交通機関と無人航空機を組み合わせた局所的な避難情報の伝達手段を検討する。マルチエージェントシミュレーションを用いて、提案手法の有効性を統計的に検証した後、新潟市を対象とした避難誘導計画の策定を行う。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 新潟市のように海岸に近い都市部では、津波発生時の避難場所などの情報を知らない観光客なども多く、被害が大きくなる可能性がある。この場合、防災行政無線やエリアメールのような広域情報伝達手段ではきめ細かい情報伝達が困難である。そのため本研究では、公共交通機関の一例としてタクシーを局所的な情報発信源として利用することを提案した。提案方式は図1に概略を示すように、複数のタクシーが都市に散在することを想定し、近くを通る避難者に避難所までの経路を提供するものである。提案方式では、避難効率がタクシーの台数や配置位置によって影響すると考えられるため、シミュレーション実験により実証を行った。避難シミュレーションはマルチエージェントシステム上で実施し、避難者は数千人単位で自律的に避難行動をする。新潟市を対象とした避難シミュレーションの環境を図2に示す。  
 移動可能なタクシーから情報発信する場合と、固定されたコンビニエンスストア(以下、コンビニ)から情報発信する場合を比較実験し、コンビニの場合では全避難者の83.8%、タクシーの場合では最大99.6%が避難完了でき、タクシーの移動性に優位が確認された。比較実験の一例を図3に示す。  
 この結果を研究紹介ビデオにまとめ、各種イベントで紹介し、成果を波及することができた。

**【図表】**

図1 提案方式の概略

図2 新潟市を対象としたシミュレーション環境

図3 比較実験における避難完了者数の推移

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年9月24日～令和元年9月25日(2名)</li> <li>・令和2年3月25日～令和2年3月26日(1名)</li> </ul>	災害研5階研究室 災害研5階研究室	3時間 2時間
延べ訪問回数 2回		合計 5時間

成果として発表した論文
小林直輝, <u>山崎達也</u> , 避難シミュレーションにおける局所的情報発信源の配置に関する検討, 電子情報通信学会技術報告, 119巻, 125号, 2019年, pp.45-49, 査読無, 国内 小林直輝, <u>山崎達也</u> , <u>佐藤翔輔</u> , 固定発信源と移動発信源による避難情報伝達の効率性の比較, 電子情報通信学会技術報告, 119巻, 226号, 2019年, pp.11-16, 査読無, 国内 <u>Naoki Kobayashi</u> , <u>Tatsuya Yamazaki</u> , A Narrow-Area Specific Messaging System for Tsunami Evacuation, IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2019), 2019年, 査読有, 国内 小林直輝, <u>山崎達也</u> , <u>佐藤翔輔</u> , 地域の人口分布を考慮した避難シミュレーションにおける避難情報伝達の有効性の検討, 2020 電子情報通信学会総合大会基礎・境界/NOLTA 講演論文集, A-19-5号, 2019年, p.160, 査読無, 国内 学術論文 合計(4)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし
合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし
合計(0)件

津波減災学(2019年度)

研究課題名	4. 巨大地震津波を対象とした津波統合モデル解析の展開	研究課題	②
研究代表者	高橋 智幸		
所属機関等・職名	関西大学 社会安全学部・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎高橋智幸(関西大学)男, ○門廻充侍(災害研)男, ○山下啓(災害研)男, 今村文彦(災害研)男, 有川太郎(中央大学)男, 馬場俊孝(徳島大学)男, 大石裕介(富士通研究所)男, 嶋原良典(防衛大学)男, 中田健嗣(気象研究所)男, 対馬弘晃(気象庁)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	732,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

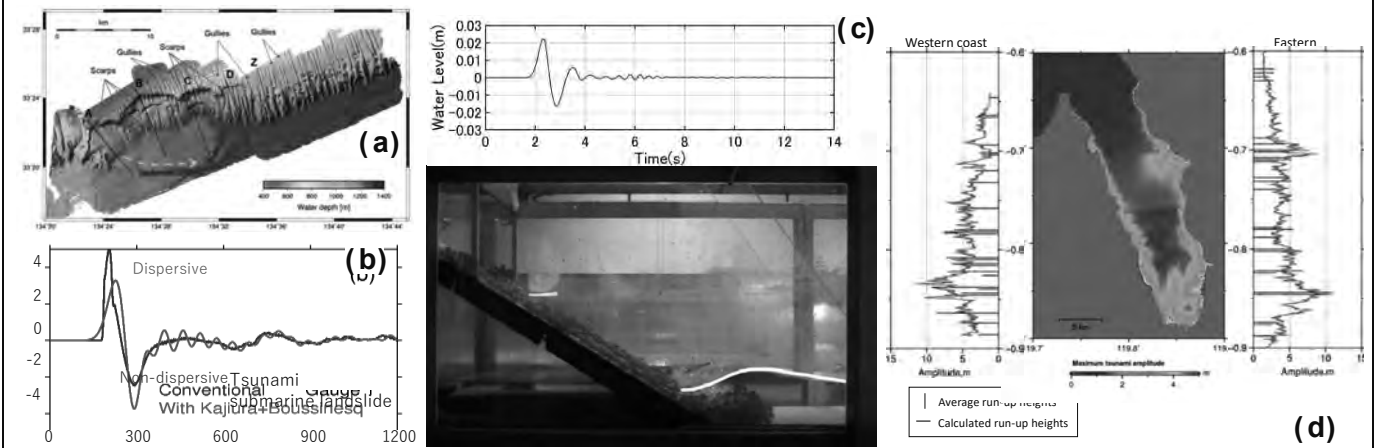
津波統合モデルが開発されたことにより, 津波による複合的で複雑な津波挙動・被害を再現することが可能となった. 本研究では, 開発した津波統合モデルの展開(機能拡張)に焦点を当て, 非地震性津波を対象とした検討を実施した.

【研究の具体的な成果・波及効果】

1. 四国沖大陸棚斜面に存在する崩壊地形の詳細地形データを取得し, その崩壊による津波を二層流モデルによって計算した(図 a). 浅水波理論と分散波理論の比較から, 海底地すべり津波では分散性を考慮しなければならないケースが存在することを確認した(図 b).
2. 陸上地すべりによる津波発生・伝播に関する水理実験: 水理模型実験により, 土砂突入によって発生する津波の発生・伝播メカニズムを検討した. 発生する津波の性質は, 突入する材料および形状の違いにより大きく異なることが明らかになった(図 c).
3. 2018年9月に発生したスラウェシ島の地震時の津波について, これまでに発表された地震断層モデルのみでは, 津波高や潮位データの説明が難しいことを量的に示した. また, 単純化した数値モデルを用いて, 津波高を説明でき, できるだけ数の少ない波源モデルとして, 各種津波データと整合する湾北部と南部の海底地すべりモデルを推定した(図 d).

以上のように, 非地震性津波を対象とした検討を実施した. これらの成果を活用することにより, 津波統合モデルの機能拡張に繋がるのが期待される. そして, 対応がより難しい津波複合被害に対する, 被害軽減策や事後の対応計画の策定, 並びに, リスクコミュニケーション・防災啓発・教育への貢献が期待される.

【図表】



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・2019年7月20日(2名) ・所外より災害解析用計算機システムへアクセス	多目的ホール, 会議セミナー室, 災害解析用計算機システム	8時間 592137.515 (CPU core × hour)
延べ訪問回数 1回		合計 8時間 + 592137.515 (CPU core × hour)

<p>成果として発表した論文</p> <p>【学術雑誌(査読有)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Saito, T., T. Baba, D. Inazu, S. Takemura, E. Fukuyama: Synthesizing sea surface height change including seismic waves and tsunami using a dynamic rupture scenario of anticipated Nankai trough earthquakes, <i>Tectonophysics</i>, <a href="https://doi.org/10.1016/j.tecto.2019.228166">https://doi.org/10.1016/j.tecto.2019.228166</a>, published online, 2019.07.</li> <li>Baba, T., Y. Gon, K. Imai, K. Yamashita, T. Matsuno, M. Hayashi, H. Ichihara: Modeling of a dispersive tsunami caused by a submarine landslide based on detailed bathymetry of the continental slope in the Nankai trough, southwest Japan, <i>Tectonophysics</i>, 768, 228182, <a href="https://doi.org/10.1016/j.tecto.2019.228182">https://doi.org/10.1016/j.tecto.2019.228182</a>, 2019.08.</li> <li>山下啓, 菅原大助, 門廻充侍, 有川太郎, 高橋智幸, 今村文彦: 高知県における最大クラスの津波による地形変化と潜在的影響の評価, <i>土木学会論文集 B2(海岸工学)</i>, 75 巻, 2 号, p. I_685-I_690, 2019.</li> </ol> <p>【国際会議】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Yoshinori Shigihara, Kentaro Imai, Hiroyuki Iwase, Koji Kawasaki, Makoto Nemoto, Toshitaka Baba, Naotaka Chikasada, Yu Chida, and Taro Arikawa: Variation analysis of multiple tsunami inundation models, 27th IUGG General Assembly, 2019.</li> <li>Shuji Seto, Tomoki Serikawa, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Examining the relationship between the cause of death and the location of the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Kesenuma in Miyagi prefecture, AGU Fall Meeting 2019, 2019.</li> </ol> <p>【国内学会・シンポジウム】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>嶋原良典, 今井健太郎, 岩瀬浩之, 川崎浩司, 根本信, 馬場俊孝, 近貞直孝, 千田優, 有川太郎: Investigation of variation in multiple tsunami inundation modeling, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 2019.</li> <li>中田 健嗣, 勝間田 明男, Abdul Muhari: 2018 年スラウェシ島地震時の津波の海底地滑り波源の可能性, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 2019.</li> <li>中田健嗣, 勝間田明男, Abdul Muhari: 2018 年インドネシア・パル津波の複数の種類の津波記録から推定された海底地すべり源, 日本地震学会 2019 年度秋季大会, 2019.</li> <li>安齋実, 嶋原良典, 福谷陽, 江口友規: 水理実験による陸上地すべり津波の発生・伝播特性の検討, 第 47 回土木学会関東支部技術研究発表会, 2020. (他 4 編)</li> </ol>
--

学術論文 合計(13)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>・第 9 回巨大津波災害に関する合同研究集会 開催期間:2019 年 12 月 19 日~20 日, 区分:研究集会(国内), 対象:研究者・社会人・学生 名称:第 8 回巨大津波災害に関する合同研究集会, 参加人数:73 名 概要:本研究集会は, 津波災害に関する研究に取り組む様々な分野の研究者や学生による学術的な交流を通じて, 津波研究の発展と防災・減災に資することを目的とした研究集会である。</p>

合計 ( 1 ) 件

津波減災学(2019年度)

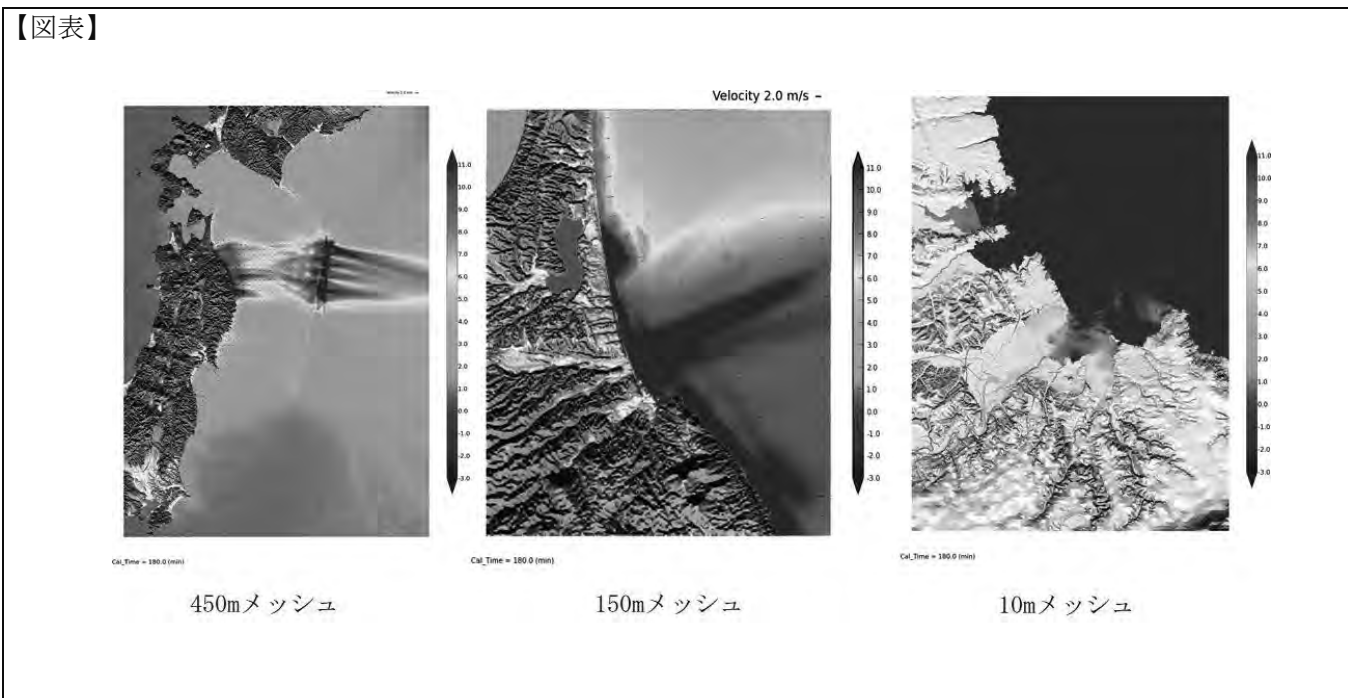
研究課題名	5. X-GIS による三陸沖北部地震の津波に対する八戸市のレジリエンスデザイン分析	研究課題	②
研究代表者	高瀬 慎介		
所属機関等・職名	八戸工業大学工学部土木建築工学科・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)  
 ◎高瀬慎介(八戸工業大学)男, ○森口周二(災害研)男, 寺田賢二郎(災害研)男, 山口裕矢(災害研)男, 櫻庭雅明(日本工営株式会社先端研究開発センター)男, 野島和也(日本工営株式会社先端研究開発センター)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	352,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 三陸沖北部地震を想定した八戸市における津波遡上解析は自治体を中心に検討が行われている。本研究では、災害シミュレーションの統一プラットフォームとして開発が進んでいる X-GIS (eXtended GIS) を用いて、構造物を考慮した津波遡上解析を行い、八戸市における津波遡上被害の検討を行う。また、八戸市における都市のレジリエンスデザインについても検討を試みる。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 X-GIS を用いた三陸沖北部地震を想定した八戸市における津波遡上解析を行った。もともと危険が想定を考え、防潮堤などが存在しない条件で解析を行った。新設された八戸市津波防災センターのある地点での水位分布を確認したが、避難場所である2階部分の床面高さが約 11m であり、解析での浸水高さが 6.12m となり、被害が大きくなる最悪の場合でも、津波防災センターは十分に機能することがわかった。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年7月9日(訪問者数:3名)	小会議室3	4時間
・令和元年7月20日(訪問者数:3名)	小会議室3	4時間
・令和元年11月8日(訪問者数:3名)	小会議室3	4時間
・令和2年1月16,17日(訪問者数:3名)	小会議室3	4時間
・令和2年2月27日(訪問者数:3名)	小会議室3	4時間
延べ訪問回数 5回		合計20時間

成果として発表した論文
・中村優真, 高瀬慎介, 野島和也, 桜庭雅明, 山口裕矢, 森口周二, 寺田賢二郎, 三陸沖北部地震を考慮した八戸市における X-GIS を用いた津波遡上解析, 東北地域災害科学研究, 第56巻, 2020, pp.179-182, 査読無, 国内

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・プレスリリース, サイバー空間でレジリエントな地域・都市のデザインを支援する X-GIS (eXtended GIS) の開発, 2019年8月9日

合計(1)件

津波減災学(2019年度)

研究課題名	6. 川崎臨海部における災害デジタルツインによる次世代防災システムの検討	研究課題	②
研究代表者	大石 裕介		
所属機関等・職名	富士通研究所		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎大石裕介(株式会社富士通研究所/富士通株式会社/東京大学地震研究所/東北大学災害科学国際研究所)男、○今村文彦(災害科学国際研究所)男、山下啓(災害科学国際研究所)男、古村孝志(東京大学地震研究所)男、西出則武(株式会社富士通研究所/東北大学理学研究科)男、牧野嶋文泰(株式会社富士通研究所)男、飯塚豊(川崎市総務企画局危機管理室)男、大村誠(川崎市総務企画局危機管理室)男、三原宜輝(川崎市総務企画局危機管理室)男、坪夏主馬(川崎市総務企画局危機管理室)男、村瀬満高(富士通株式会社)男、山本善久(富士通株式会社)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	798,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 迅速かつ安全な津波対策の実現に向けて、人工知能とシミュレーションによるモデル化により災害の状況をリアルタイムに写像し、近未来の災害状況を可視化する災害デジタルツインを川崎臨海部において構築し、発災時の適切な避難誘導を含む対策を可能にする次世代防災システムの検討を産官学共創により進める。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 本研究では、人工知能(AI)による災害予測情報、カメラ映像からAIがカウントした避難完了者数、地域の被災状況に関する住民からの投稿情報を集約し災害デジタル空間を構築した。さらに、令和元年度川崎市津波避難訓練において、災害デジタル空間からの情報を、スマホアプリにより効果的に避難者に伝達する手段の検討を行った。スマホで取得した避難者の行動特性や実験後のアンケート結果に基づいて、周辺住民の避難完了状況の情報や、住民同士での災害情報の交換が、避難の意欲向上と安全で効率的な避難に有効であることを確認した。一方で、災害予測情報には高い要望があるものの、避難行動に直結させる情報伝達方法のさらなる検討が必要である。今年度の研究から得た知見は、今後のデジタル防災の社会実装に向け有益であると考えられ、これまでの成果と課題を踏まえた、さらなる継続研究が必要である。なお、本研究はメディア注目度も高く関連するTV放映が2019年度に8件あったほか、他自治体からの問合せや行政視察もあり、社会的影響が大きかった。

**【図表】**




図1 災害デジタル情報を伝達するスマホアプリ




図2 スマホアプリを使用する住民




図3 スマホアプリで取得した住民の避難行動

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 7 月 23 日 (2 名) ・令和元年 9 月 11 日 (8 名)	小会議室 5 小会議室 4 ・ 5 災害解析用計算機システム	2 時間 4 時間 119,990 コア時間
延べ訪問回数 2 回		合計 6 時間

成果として発表した論文
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>大石裕介</u>、古村孝志、今村文彦、三原宜輝、牧野嶋文泰、山下啓、東山孝生、後藤知範、大村誠、永山実幸、リアルタイム防災情報を活用した効率的な津波避難の検討、日本地球惑星科学連合 2019 年大会、2019、口頭発表(査読無、国内)</li> <li>2. <u>Oishi, Y.</u>, Furumura, T., Imamura, F., Mihara, Y., Makinoshima, F., Yamashita, K., Higashiyama, T., Gotou, T., Omura, M., Nagayama, N., A Pilot Tsunami Evacuation Drill towards Efficient Tsunami Evacuation Using a Smartphone Application, 27<sup>th</sup> IUGG General Assembly, Montreal, Canada, 2019, Poster (査読無、国際)</li> <li>3. <u>Makinoshima, F.</u>, Sato, S., Imamura, F., Nakagawa, M., Analysis of Human Behavior Patterns in the 2011 Tohoku Tsunami Focusing on Response Behaviors, 27<sup>th</sup> IUGG General Assembly, Montreal, Canada, 2019, Poster (査読無、国際)</li> <li>4. <u>大石裕介</u>、古村孝志、今村文彦、三原宜輝、牧野嶋文泰、山下啓、東山孝生、後藤知範、大村誠、永山実幸、スマートフォンアプリによるリアルタイム災害情報を活用した津波避難の有効性と課題、土木学会論文集 B2(海岸工学)、Vol. 75(2)、I_1381-I_1386、2019(査読有、国内)</li> <li>5. <u>山下啓</u>、<u>大石裕介</u>、古村孝志、今村文彦、臨海都市部における津波により低質移動に起因した災害リスク評価に向けて、第 66 回海岸工学講演会、2019、口頭発表(査読有、国内)</li> <li>6. <u>Makinoshima, F.</u>, Joint Project Aiming for Tsunami Disaster Risk Reduction Using ICT in the Kawasaki Coastal Area, WORLD BOSAI FORUM/IDC2019, Sendai, Japan, 2019, Oral (査読無、国際)</li> <li>7. <u>Higuchi, H.</u>, <u>Makinoshima, F.</u>, Fujitsu's Disaster Risk Reduction Technologies using AI and Supercomputing, World Bank Seminar, Washington DC, USA, 2019, Oral (査読無、国際)</li> <li>8. <u>三原宜輝</u>、津波にどう立ち向かうか、かわさき市民アカデミー2019年前期講座、2019、口頭発表(査読無、国内)</li> <li>9. <u>三原宜輝</u>、AIを防災に役立てる、国交省関東地方整備局地域連携勉強会、2019、口頭発表(査読無、国内)</li> </ol>

学術論文 合計( 9 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2019 年 11 月 17 日 9:00-10:00/実証実験/国内/地域住民/川崎市津波避難訓練における実証実験/災害でデジタルツインによる減災効果を評価するために実証実験を川崎市避難訓練と併せて実施/109 人</li> <li>2. 2019 年 11 月 17 日 11:00-12:00/防災講座/国内/地域住民/川崎市津波避難訓練後の防災講座/実証実験の振り返りと、先端デジタル技術に関する住民への防災啓発を実施/211 人</li> </ol>

合計 ( 1 ) 件



災害医学・医療(2019年度)

研究課題名	1.「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」確立にむけた国際共同研究:東京・台北における私立校教職員への調査	研究課題	③
研究代表者	坪内 暁子		
所属機関等・職名	順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター・助教		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎坪内 暁子, 順天堂大学大学院医学研究科, 女  
 ○佐藤 健, 東北大学災害科学国際研究所, 男  
 ○佐々木宏之, 東北大学災害科学国際研究所, 男  
 内藤 俊夫, 順天堂大学医学部, 男  
 奈良 武司, 医療創生大学薬学部, 男  
 仲田 悦教 株式会社 山手情報処理センター, 男  
 Chia-Kwung Fan, Taipei Medical University, School of Medicine, 男  
 Yuarn-Jang Lee, Taipei Medical University, School of Medicine, 男  
 Po-Ching Cheng, Taipei Medical University, School of Medicine, 男  
 Chia-Mei Chou, Taipei Medical University, School of Medicine, 女

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

本研究では、大川小の教訓等を受け、「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」の確立を目指し、1)災害発生直後の避難誘導・避難所受入れ、2)避難所生活、での関連死・重症化等、特に身体的弱者等の被害低減に向けて、深刻な被害が予測される国際都市「東京・台北の私立校教職員」への感染症等の知識に関する調査を実施する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

日本と台湾の私立校8校の教職員を対象に知識と意識に関する調査を実施した結果については昨年度すでに報告済みであるが、約半年遅れではあるが、令和元年度に、性格が異なるグループ校3校を抱える京華学園に対しても同じ形式で調査を行うことができたため、日台の調査結果を再分析した。今回は、終息の見通しが立たない新型コロナウイルス「COVID-19」の流行の状況を受け、感染症関係の設問に焦点をあてて、休校中には生徒の行動についても指導を行わなくてはならない教員の知識や意識について分析並びに考察を行った。学校保健安全法、感染症法、学校感染症を知っているかの設問では、感染症法に関する知識で、SARS 流行の経験の有し、WHO には中国との関係から加盟できないまま、独自に対策を行っている台湾との差異が明らかとなった(図1)。また、感染症の影響によって持病が悪化するリスクの知識でも、コロナ発生前の調査実施の段階では、日本側は半数が「知らない、あまり知らない」と回答していた(図2)。本課題を通して、地震等の災害に加え新興感染症という災害に関する教職員への研修や生徒への教育の重要性を再認識した。

【図表】図1

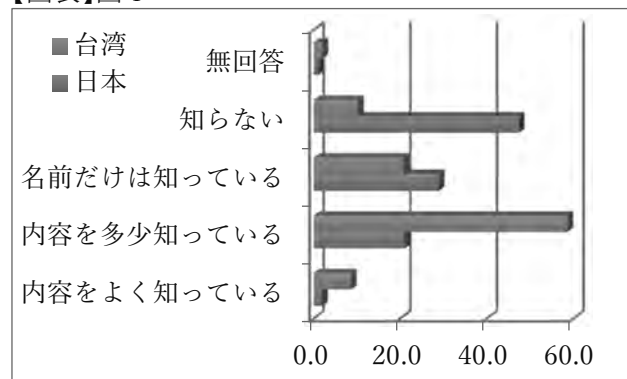
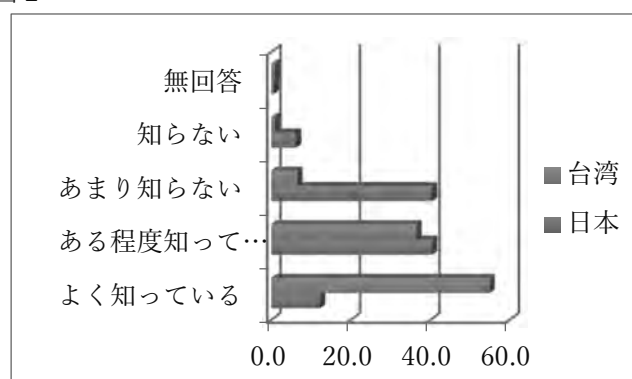


図2



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年7月20日(1名) ・令和2年3月16日～平成2年3月18日(6名)	会議室 1F, プロジェクター等 会議室 3F, プロジェクター等	8時間 8時間
延べ訪問回数 2回		合計 16時間

成果として発表した論文
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤健, 佐々木宏之, 仲田悦教, 栗原卯田子, 村岡信二, 土屋勝, 里吉邦子, 金子政巳, 矢野勝之, 向山晴子, 有賀平, 沖山雅彦, 柳澤吉則, <u>Fan Chia-Kwung</u>, 佐伯潤, 大槻公一, 今村文彦, 丸井英二, 奈良武司, 少子高齢化時代の都市型災害対策; Health・Coexistence・Well-being を意識した社会基盤システムの検討, 生存科学, Vol.30(2), 印刷中</li> <li>2. 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤健, 佐々木宏之, 今村文彦, 仲田悦教, 范家堃, 奈良武司, 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型肺炎 COVID-19 予防策, 地域ケアリング, Vol.22(4), 2020</li> <li>3. 坪内暁子, Tokyo 2020 Olympic &amp; Paralympic 開催を踏まえた国際都市におけるリスクマネジメント - Mass gathering と感染症 -, 危機管理システム研究会第 19 回年次大会予稿集, p.1-pp.5, 2019</li> <li>4. 坪内暁子, <u>Fan Chia-Kwung</u>, 佐藤健, 仲田悦教, <u>Cheng Po-Ching</u>, <u>Lee Yuarn-Jang</u>, <u>Chou Chia-Mei</u>, 佐々木宏之, 内藤俊夫, 奈良武司, 私立校の教職員を対象とした防災教育に関する日台比較調査, 日本安全教育学会第 20 回山形大会予稿集, pp.106-107, 2019</li> <li>5. 坪内暁子, 災害時の身体的・社会的弱者への支援体制 — 東京山手線内の私立学校避難所の取り組み事例 —, 地域ケアリング, 5月号, vol.21(5), pp.58-65, 2019</li> <li>6. 坪内暁子, 災害リスク低減に向けた情報環境の整備 — 新宿区における災害対策研究からの提言 —, 生存科学, Vol.29(2), pp.83-99, 2019</li> </ol>

学術論文 合計( 6 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
・該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>名称 : 災害対策について「伴に」考える研究会、参加者数(延べ人数):約 100 名  開催期間; 令和元年 6 月、12 月(2 回実施)、区分 : 研究会, 国際  運営者 : 坪内暁子(座長;内藤俊夫, コアメンバー:佐藤健・佐々木宏之等研究班メンバー)  対象者 : 産学官民から成る, 各組織の代表もしくは災害対策専門家, 避難所運営者, 地域住民等  概要 : 地域に内在する多種多様なリスクを把握した上での医療・保健・福祉システムを協働で策定。  第 22 回定例会:災害前の高齢者等への感染症対策 — 肺炎球菌ワクチン接種のススメ —、内藤俊夫、第 23 回定例会:統一テーマ: 災害から命を守る!、1)災害時要援護者支援登録制度と地域の各避難所の役割、2)机上訓練 避難所シミュレーション:地域みんなで考える避難所マップ、坪内暁子ほか</p> <p>名称 : 本研究課題研究会議、参加者数(延べ人数):9 名  開催期間; 令和 2 年 3 月(1 回実施)、区分 : 研究会, 国際  運営者 : 坪内暁子(座長;佐藤健, コアメンバー:佐々木宏之・奈良武司等研究班メンバー)  対象者 : 本研究組織メンバー、産学共同研究対象企業メンバー  概要 : 1)災害分野・感染症分野での最新情報や知見紹介、2)本研究課題での追加調査 3 校分を含む日台 11 校で実施した調査の比較分析、3)2020 年度の新規研究課題とする産学共同研究に関する討論</p> <p>名称 : 成城避難所女子会、参加者数(延べ人数):約 140 名  開催期間; 令和 2 年 7~令和 2 年 2 月(7 回実施)、区分 : 研究会, 国内  運営者 : 坪内暁子(会長・メンバー:地域の居住者・勤務者(学校教職員を含む))  対象者 : 女子会メンバー  概要 : 女性目線で、弱者等への支援等、地域の問題点やリスク要因を洗いだし、検証実験等を実施、リスク低減策を成城学校避難所運営管理協議会への提案・討議を経て新宿区の公式な対策へ。  成城避難所マップ(女子会版)の作成ほか、女子会メンバー  ※ 令和元年度東京都女性活躍推進大賞(地域部門)受賞、2019 年  ※ テレビ朝日「東京サイト 女性が輝く社会 — 防災に女性目線 -」出演、2020 年</p>

合計 ( 11 ) 件

災害医学・医療(2019年度)

研究課題名	2. 東日本大震災と熊本地震の比較分析による精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究	研究課題	③
研究代表者	野崎 裕之		
所属機関等・職名	大東文化大学 スポーツ・健康科学部看護学科 助教		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎野崎裕之(大東文化大学)・男、○児玉栄一(災害研)・男、富田博秋(災害研)・男、村田ひとみ(大東文化大学)・女、北田志郎(大東文化大学)・男、吉村直仁(大東文化大学)・男、杉森裕樹(大東文化大学)

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	800,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
東日本大震災地域(宮城県・福島県)と熊本地震地域(熊本県)にて、精神病棟を有する総合病院および精神科単科病院を対象に、災害時発生した感染症の問題点と講じた対策の実態を面談調査し、課題を明らかにする。それを踏まえて精神科病棟における感染症対策マニュアルの構築・整備を目指す。

【研究の具体的な成果・波及効果】
<p>令和2年3月24日現在、現地調査として熊本地震の被災地域に立地するA施設、B施設、C施設を訪問し、さらに東日本大震災被災地域である、福島県のD施設、E施設、F施設、および宮城県のG施設、H施設の計8施設の調査を完了した。今回の調査においては、①各地震の精神科病院における災害時の実態把握、②各地震の精神科病院の災害時感染症および感染症対策の実態、の2つの視点に分けて成果を下記に記す。</p> <p>1. 熊本地震(平成28年4月16日発生)被災地域の精神科病院における災害時の実態</p> <p>C施設については、病院自体はほぼ機能を保っており、被災病院からの患者受け入れ先となっていた。一方で、A施設とB施設は震源地にも近く、他医療機関への転送対応を余儀なくされた。A施設では、転院においてはSNSなど使った通信手段を活用し、自衛隊やDPAT、熊本精神科病院協会の協力を得て患者搬送を行った。熊本地震は一極集中型であったことから、他県から早急に受け入れ体制があり、鹿児島、宮崎など、遠方からも支援があった。またインタビューの中で、B施設やC施設には災害時避難マニュアルがあったが、A施設においては災害時の詳細な患者避難マニュアルを作成していなかった。さらにA施設では、オートロックが開錠されることもあり、おのずと確認することになるのでマニュアルの必要性がない、と述べており、今後感染症対策マニュアルに加えて、行動制限患者などがいる精神科病院特有の災害時マニュアルも作成していく必要性が確認された。物流については、熊本地震では安定せず、益城町周辺にて過剰となり、他地域では物資が行き届かなかったという報告もあり、支援物資の偏りが確認された。B施設も同様に病院自体が被災し、DMATなどが患者の他施設転送を行った。しかし、インタビューの中で、DMATのスタッフ自体が十分な教育を受けて来た人ばかりではないため、大きな課題であると思われる、という意見もあり、一般科ではなく、精神疾患患者を抱えた施設における、精神科特有の事象に対応するための、支援を受け入れる施設側、支援をする側の災害時の支援体制などの指示系統のマニュアル化の必要性も示唆された。</p> <p>2. 熊本地震(平成28年4月16日発生)被災地域の精神科病院の災害時感染症および感染症対策の実態</p> <p>C施設では、震災に関連した感染症発生はなかった。A施設では、手指消毒は使い捨てのウェットティッシュを使用した。肺炎や感染性胃腸炎などの発症者は1日しか避難所におらず、十分な情報は聴取できなかった。経過について被災時患者転送した他病院に確認し、高齢により亡くなった1例のみであった。物資が届いてからは、ウェルフォームの手指消毒やマスクを使用した。患者転送までB施設においては、トイレに井戸水、便は新聞・オムツなど利用し処理していた。感染症に関しては4月17日にB施設関連施設にて対策チームを立ち上げて行動していた。土足厳禁、手洗い徹底などの最低限のレベルであった。また、阿蘇の精神科病院で感染症発症があったとの情報を得たが、詳細は不明であった。今回訪問調査を行った3施設では、いずれの施設でも通常の院内感染症マニュアルはあるものの、災害時感染症マニュアルは存在しない現状が明らかとなった。</p>

3. 東日本大震災(平成 23 年 3 月 11 日発生)被災地域の精神科病院における災害時の実態  
 福島県の D 施設では、医療機器は問題がなかったが建屋の破損および天井の一部が落下した。D 施設では、建物の築年数を示す図があり、震災時活用できるように一覧になっていた。震災当時、患者用リストバンドがなく、ガムテープ等で代替していたが、現在は震災の教訓を得てリストバンドを導入している。また当時は、患者の所在が分かるようにホワイトボードに患者の所在を把握していた。物流が滞って役場に行くこともあった。また同病院では、年に数回、災害時避難訓練を実施していた。宮城県の G 施設では、津波により建物の 1 階部分に被害を受け、2 階にいた患者を屋上へ避難させた。260 人の患者と 100 人のスタッフが被災した。施設の電気はすぐ復旧せず、津波が引いた後に車からガソリンを抜いて暖を取ったり、がれきを集めて燃料にして、施設裏の沢水沸かして利用していた。

4. 東日本大震災(平成 23 年 3 月 11 日発生)被災地域の精神科病院の災害時感染症および感染症対策の実態  
 宮城県の G 施設では、近隣火災の影響で 5 キロ先の小学校に避難しなければいけない状況になり、小学校の体育館に避難した。その後、感染症関連としては、体育館にて低体温症から 20 名が肺炎に罹患し、10 名が亡くなった。感染症対策としては、ディスポの手袋を使用して作業をおこないアルコール消毒を行っていた。G 施設および H 施設の両施設では、院内の感染マニュアルはあるものの、災害時感染症対策に関するマニュアルは現時点で存在しない。今後両施設とも、災害時に具体的に動くことが出来るマニュアルや、精神科特有の事情を考慮した支援を受け入れなどの指標を希望していた。

なお、令和 2 年 3 月に熊本県の A 施設や B 施設等を再度訪問し、災害感染症対策の現状を追跡調査する予定であったが、新型コロナウイルスの蔓延によって調査を行うことができなかった。今後の本研究の展望としては、特に災害時感染対策としてノロウイルスに対して重点を置いて対策を行っていた施設もあったため、ノロウイルス対策を含めた災害時に活用できる感染症マニュアルを継続して開発する。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 7 月 19 日～7 月 20 日(訪問者数 2 名)	児玉研究室(研究打合せ) 図書館 大会議室 1(成果報告会参加)	3 時間 2 時間 5 時間
・令和 2 年 3 月 23 日～3 月 24 日(訪問者数 1 名)	災害研震災展示室など 児玉研究室(研究打合せ)	1 時間 6 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 17 時間

成果として発表した論文(学会発表)
①野崎裕之,吉村直仁,北田志郎,村田ひとみ, 精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究, 第 50 回日本看護学会-看護管理-学術集会抄録集,50,2019,頁 196-196,査読有.
②野崎裕之,吉村直仁,村田ひとみ, 北田志郎,杉森裕樹,児玉栄一, 熊本地震と東日本大震災の比較分析による精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究, 第 35 回日本環境感染症学会総会・学術集会抄録集,35,2020,頁 222-222,査読有.
③野崎裕之,児玉栄一,東日本大震災と熊本地震の比較分析による精神科病棟における被災時感染症対策の実態についての研究,第 25 回日本災害医学会総会・学術総会抄録集,25,2020,頁 112-112,査読有.

学術論文(学会発表) 合計( 3 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

災害医学・医療(2019年度)

研究課題名	3. 放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスの定量	研究課題	③
研究代表者	盛武 敬		
所属機関等・職名	産業医科大学産業生態科学研究所放射線衛生管理学的研究室・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎盛武敬(産業医科大学)・男、○千田浩一(災害研)・男、稲葉洋平(災害研)・男、孫略(産総研)・男、茂呂田孝一(産業医科大学)・男、永元啓介(産業医科大学)・男、松崎賢(産業医科大学)・男、中上晃一(産業医科大学)・男、阿部利明(産業医科大学)・男、長谷川有史(福島県立医科大学)・男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	900,000 円
----	----------------------	----	-----------

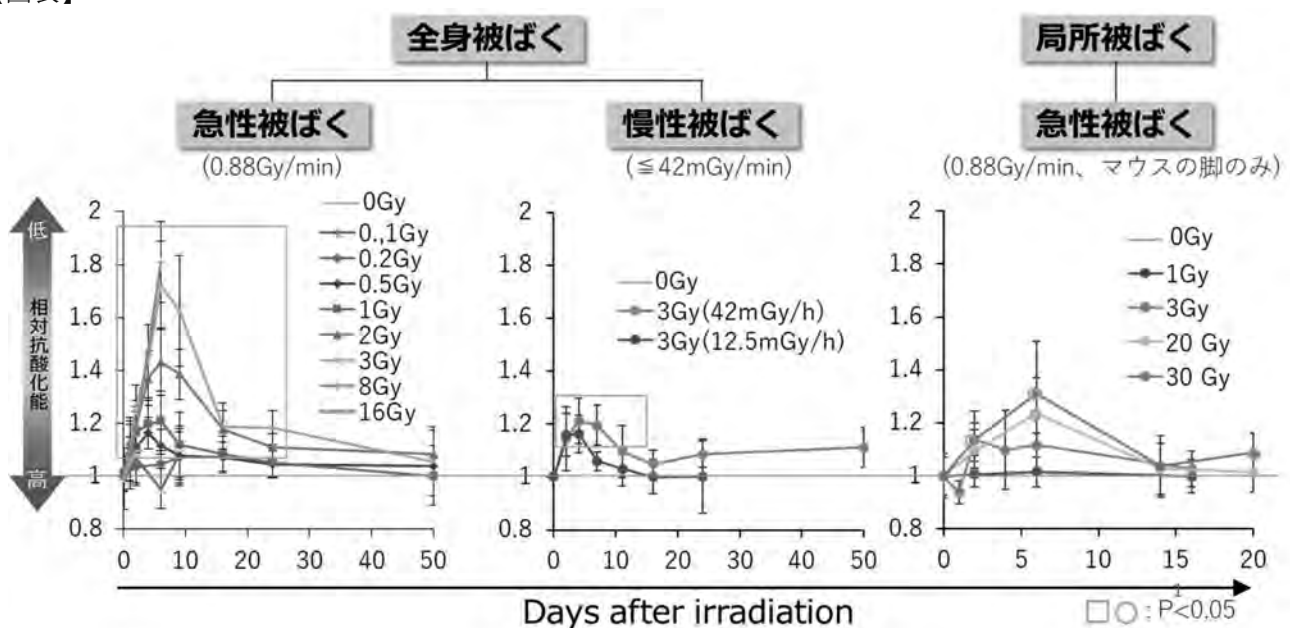
【研究の概要】

申請者らはこれまでに、i-STrap 法を用いた血中抗酸化能の測定により、急性放射線被ばくの線量を事後に推定することに成功し、それをトリアージ指標として利用できることを明らかにした。本研究では、福島原発事故で問題となっているような慢性的な放射線被ばくにおいても、i-STrap 法による被ばく線量の推定が可能か解析した。また、医療被ばくで想定されるような急性局所被ばくについても、i-STrap 法による被ばく線量の推定が可能か解析を行った。さらに、急性放射線被ばく後の血球中の代謝物の量を測定した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

- ①《全身慢性被ばく》マウスに線量率 42mGy/h で 3 日間、または線量率 12.5mGy/h で 10 日間(いずれも総線量 3Gy) 照射後、経時的に採血し、i-STrap 法を用いて血液抗酸化能を測定した。照射後 2 日までは急性被ばくと同程度の抗酸化能低下が見られたが、照射後 7 日以降は線量率の低い方に抗酸化能低下の抑制が見られた。
- ②《局所急性被ばく》線量依存的な抗酸化能低下が観察され、これを応用するための特許を出願した。
- ③ 急性放射線被ばく後の血球中の代謝物の量を測定した論文が International Journal of Molecular Sciences に採択&出版された。

【図表】



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 7 月 19 日～令和元年 7 月 20 日(1 名)	E201(災害医学研究部門共通室)および多目的ホール	6 時間
・令和元年 9 月 23 日～令和元年 9 月 24 日(8 名)	E201(災害医学研究部門共通室)、保健学科大会議室・実験室	8 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 14 時間

成果として発表した論文
Sun, L., Inaba, Y., Kanzaki, N., Bekal, M., <u>Chida, K.</u> , & <u>Moritake, T.</u> / Identification of Potential Biomarkers of Radiation Exposure in Blood Cells by Capillary Electrophoresis Time-of-Flight Mass Spectrometry/ International Journal of Molecular Sciences/ 2020/ 21(3), 812/ 査読あり/ IF=4.183

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
A 出願 特許/放射線被ばくによる皮膚炎発生の予測/孫略、 <u>盛武敬</u> 、 <u>稲葉洋平</u> 、 <u>千田浩一</u> /産総研、産業医大、東北大/特願 2020-072182/2020 年 4 月 14 日/国内

合計 ( 1 ) 件のうち、A 出願 計( 1 )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2019 年 9 月 5 日/セミナー/国内/学内関係者/第 10 回 東北大学災害科学研究拠点セミナー 第 23 回「災害と健康」学際研究推進セミナー/30 名程度 2019 年 9 月 23 日～2019 年 9 月 24 日/勉強会/国内/学内関係者・産業医大関係者・産総研関係者・東北地方病院関係者/災害と放射線防護/30 名程度

合計 ( 1 ) 件

災害医学・医療(2019年度)

研究課題名	4. VR 津波体験装置による「逃げ遅れ」解消に向けた心理的侵襲性モニタリング	研究課題	③
研究代表者	浅井 光輝		
所属機関等・職名	九州大学大学院工学研究院社会基盤部門・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎浅井光輝(九州大学)男、○富田博秋(東北大学・災害研兼任)男、○寺田賢二郎(東北大学・災害研)男、○森口周二(東北大学・災害研)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	800,000円
----	----------------------	----	----------

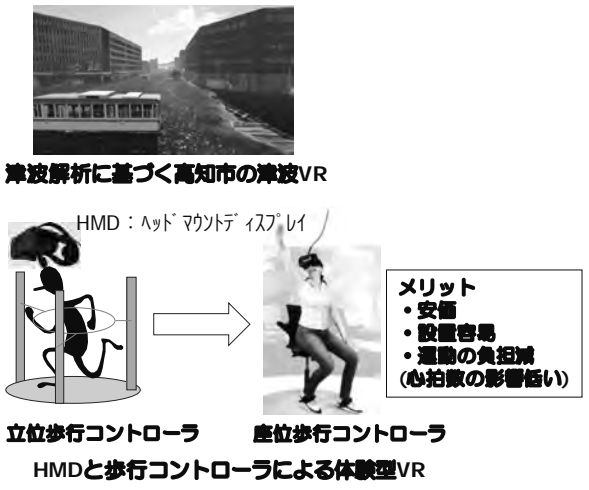
**【研究の概要】**  
 3D 津波遡上解析の結果をベースとした VR 津波体験装置を用いた仮想的な被災体験を通して、災害規模と侵襲性の感度(ストレスの感じやすさ)をモニタリングする。また心理ストレスのモニタリング結果を、過去の被災経験、年齢層、地域性ごとに整理・分析することで、各個人に適した合理的な避難訓練を模索し、逃げ遅れゼロの実現を目指す。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**

VR 津波被災体験より得られる心理ストレス状態のモニタリングに向けて、特に以下の2つの内容(右図を参照)を実施した。

1) 心理学的侵襲性感度の指標化に向けた VR コンテンツ作成と災害研への VR システムの導入

これまで大きな災害後にうつ状態に陥る危険性およびそのタイミングには個人差がある。逃げ遅れの原因分析するためには、まずは各個人のストレス疾患に陥る危険性(=心理学的侵襲性の感度)を把握する必要がある。この目的のために、歩行コントローラを使った VR 体験システムを東北大学病院・精神科医局へと導入した。通常、心理学的侵襲性を計測するには、心拍数を測定するが、これまでの立ったままの状態では運動の負担が大きく、心拍数が運動そのもので変化してしまうことを確認した。そこで、運動の負担がなく、同様な VR 体験が可能な座位歩行コントローラを新規に導入した。また VR コンテンツもこれまでの津波から豪雨災害までを疑似体験できるように拡張した。



2) 侵襲性モニタリングの準備

上記の体験型 VR システムの導入により、侵襲性モニタリング機器の準備は整った。あとはコンテンツの使用手順(どのような手順で映像体験をし、心拍数を計測するか)などの具体的な方法の議論を繰り返すことで、本番のモニタリングで使用するコンテンツを確定した。(モニタリング手順も VR で指示する。)あとは、同時に心理分析を適切に行うためのアンケート調査項目の議論も重ね、アンケート内容も定まった。

以上、侵襲性モニタリングの準備が整い、2020年3月に被験者を募り計測を行う予定であったが、東北大学の倫理審査が通らず(再提出)、またコロナウィルスの被害拡大防止のための出張自粛が重なり、計測までは実施できなかったことから、その内容を含めた発展を2020年の継続申請内容とした。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年8月19日(二人) ・令和2年1月6日～令和2年1月7日(二人)	会議室 会議室1	3時間 4時間
延べ訪問回数 2回		合計 7時間

成果として発表した論文
Li Yi, Mitsuteru Asai, Bodhinanda Chandra, Masaharu Isshiki, Energy-tracking impulse method for particle-discretized rigid-body simulations with frictional contact, Journal of Computational Particle Mechanics  浅井光輝, 原倅平, 磯部大吾郎, 田中聖三, ASI-Gauss 法による骨組み崩壊解析に基づく阿蘇大橋崩壊メカニズムの推定, 構造工学論文集  2件とも, 本研究に必要となるVR作成に向けた計算技術の論文であり, 間接的にしか関与していないため, 謝辞の記載は見送った.

学术论文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち, A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件



災害医学・医療(2019年度)

研究課題名	5. 原子力災害によりサクラ樹皮に付着した含放射性セシウム粒子による被ばくリスク研究	研究課題	③
研究代表者	杉浦 広幸		
所属機関等・職名	福島学院大学短期大学部 教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)  
 ◎杉浦広幸(福島学院大学短期大学部)男、○千田浩一(災害研)男、渡部浩司(サイクロترونラジオアイソトープセンター)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	421,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 福島県北部を中心に、庭木表面に付着している放射性セシウムを含む不溶性汚染粒子(セシウムボール)について、イメージングプレート法と SEM を用いて調査する。それらの汚染粒子が、どの地域に、樹木のどの部位・樹種にどのくらい付着しているかを調査する。得られた調査結果から、汚染粒子の吸引等による取り込みによる被ばくリスクを予想する。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 成果:サクラ樹皮から強い放射線を放つスポットについて、粒子の SEM 画像による確認に成功した。当初は、福島原発の事故で飛来した放射性セシウムの粒子(セシウムボール)が降下し、粗皮の割れ目等に固定されたものと思われた。しかし、画像や成分から判断すると、塩化物となって溶けた液状のセシウムが粗皮に浸み込み、水分が蒸発して析出し、結晶化した可能性が推察された。この SEM 画像に関する報告は他に無く、世界初と思われる。  
 波及効果:セシウムボールであれば粒子の吸引による肺内部組織への長期間付着による被曝が心配された。しかし、塩であれば水に溶けて体外に排出されるので、危険性は下がったと思われ、子どもの屋外遊びの推奨が期待される。

**【図表】**

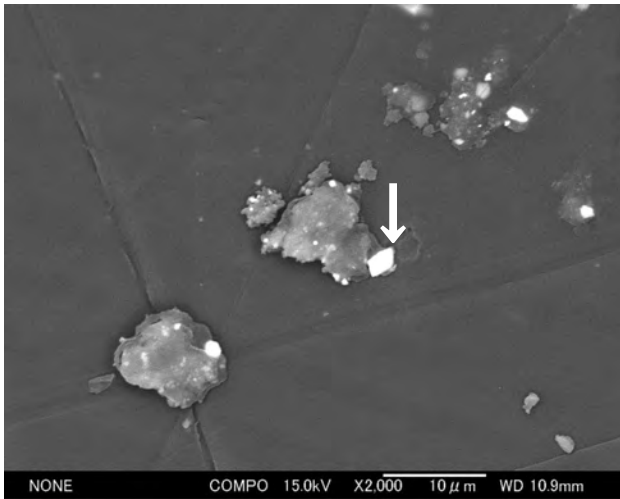


図1 SEMで確認された四角柱状の含セシウム粒子(↓)

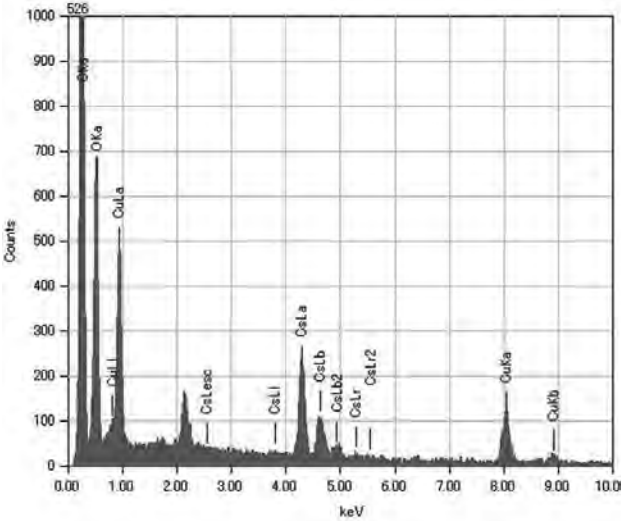


図2 SEMで確認された含セシウム粒子のスペクトル

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年6月24日(訪問者数1名)	医学部保健学科	1時間
・令和元年7月9日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	5時間
・令和元年7月16日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	5時間
・令和元年7月24日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	5時間
・令和元年8月5日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年8月19日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年8月20日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年8月27日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和元年9月4日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和元年9月11日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年9月12日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年9月18日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年10月8日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年10月15日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年10月28日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和元年12月2日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和元年12月5日(訪問者数1名)	青葉山新キャンパス	8時間
・令和元年12月23日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月4日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月5日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月17日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月18日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和2年2月19日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月20日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	4時間
・令和2年2月26日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年2月28日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年3月2日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	4時間
・令和2年3月3日(訪問者数1名)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年3月12日(訪問者数1名、予算外)	サイクロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年3月18日(訪問者数1名、予算外)	テクニカルサポートセンター	8時間
延べ訪問回数 30回		合計 216時間

成果として発表した論文
・杉浦広幸・渡部浩司・千田浩一, 福島のサクラ粗皮に付着したスポット状の放射性セシウム汚染の調査. 第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会. 1A2-1.

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

防災人材育成学(2019年度)

研究課題名	1. 多次元統合可視化システムを用いた防災教育効果の検証—短期大学幼児教育科における正統的周辺参加論を基調とした学習を中心に—	研究課題	④
研究代表者	田久 昌次郎		
所属機関等・職名	いわき短期大学生涯教育研究所・所長／学長		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎田久昌次郎(いわき短期大学)男、○今村文彦(災害研)男、○保田真理(災害研)女、新国佳佑(新潟青陵大学)男、鈴木まゆみ(いわき短期大学)女、藁谷俊史(いわき短期大学・福島県防災士会)男、小穴久仁(いわき短期大学・Dochubu)男、林丈雄(いわき短期大学・府中市市民活動センター プラッツ)男、遠藤崇広(東日本国際大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	361,000 円
----	----------------------	----	-----------

【研究の概要】

- ・いわき市内の保育施設(幼稚園・保育所・認定保育園)を対象に、防災教育の実態調査を質問紙方式で実施した。調査期間は平成30年12月、調査対象施設数117施設のうち回答施設数は71施設であった(回収率60.7%)。
- ・上記実態調査の結果を踏まえ、学生を主体とする活動として幼児向けの減災絵本を制作した。絵本の完成は令和2年3月である。
- ・絵本を用いた防災教育の実証研究については、次年度の研究課題とする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

- ・保育施設を対象とした実態調査では、日頃取組んでいる対策(図表1)・防災教育で必要とする教材(図表2)において施設の種別・回答者の勤務年数別で統計的有意差を認めなかったが、自由記述の分析から4つのグループ特性を抽出した。いわき市内保育施設での防災教育の特徴としては、防災訓練は土砂災害・台風・津波を中心に実施し、防災教育は既存のDVD教材に頼っている。また、保護者を交えた授業参観などの機会を通して訓練や教育を行っている。そして防災絵本・紙芝居の必要性を訴える施設も多いことが判った。本調査結果の詳細については本学紀要に報告した(田久、他:2020年)。次年度は調査対象数を増やし、対象地域を拡大して実施する予定である。
- ・減災絵本制作は、災害研・保田講師ならびに防災専門家の助言を得て、製本化(図表3)するに至り160冊を印刷した。その制作プロセスについては、本学紀要にて考察を行った(鈴木・保田:2020年)。今後、実態調査に協力して頂いた保育施設に絵本を献本する予定である。この絵本を用いた子どもたちの反応は、20年3月、福島県広野町立認定こども園「広野こども園」3歳・4歳・5歳児約90名を対象に、学生が園児に向けて読み聞かせを行った。次年度の研究課題の一つは子どもたちの反応・保育者の評価を地域内保育施設において調査する予定であり、絵本を通じた防災教育効果検証の足掛かりとする。

【図表】

図表1 日頃取組んでいる対策(頻度順)

順位	項目	割合
①	避難訓練	98.5% (保:100%、幼:96.0%)
②	読み聞かせ	92.5% (保:97.6%、幼:84.0%)
③	行動計画	67.2% (保:69.0%、幼:64.0%)
④	連絡体制	58.2% (保:47.6%、幼:76.0%)
⑤	備蓄	53.7% (保:54.8%、幼:52.0%)
⑥	防災教育	44.8% (保:45.2%、幼:44.0%)
⑦	情報交換	25.4% (保:28.6%、幼:20.0%)
⑧	その他	10.4% (保:11.9%、幼:8.0%)

図表2 防災教育で必要・不足する教材(頻度順)

順位	項目	割合
①	ヒヤリハット	56.7% (保:54.8%、幼:60.0%)
②	台風	52.2% (保:50.0%、幼:56.0%)
③	土砂災害	50.7% (保:52.4%、幼:48.0%)
④	津波	44.8% (保:47.6%、幼:40.0%)
⑤	災害全般	38.8% (保:40.5%、幼:36.0%)
⑥	原子力災害	32.8% (保:33.3%、幼:32.0%)
⑦	大震災	26.9% (保:33.3%、幼:24.0%)
⑧	帰宅困難	26.9% (保:28.6%、幼:24.0%)
⑨	避難方法	22.4% (保:19.0%、幼:28.0%)
⑩	地震	20.9% (保:16.7%、幼:28.0%)
⑪	自助	17.9% (保:19.0%、幼:20.0%)
⑫	不要	4.5% (保:4.8%、幼:4.0%)
⑬	その他	3.0% (保:4.8%、幼:0.0%)

(図表3)減災絵本表紙



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年7月20日(2名)、共同研究成果報告会		6時間
延べ訪問回数 1回		合計 6時間

成果として発表した論文

- ・(口頭発表) 田久昌次郎、今村文彦/多次元統合可視化システムを用いた防災教育効果の検証-短期大学幼児教育科における正統的周辺参加論を基調とした学習を中心に/東北大学災害科学国際研究所 IRIDeS 金曜フォーラム 平成30年度共同研究成果報告会/2020年/P.41-42/
- ・田久昌次郎、藁谷俊史、小穴久仁、林文雄/保育施設における防災教育実施状況に関する基礎的分析/いわき短期大学研究紀要/第53号/2020年/P.15-27/査読なし/国内
- ・鈴木まゆみ、保田真理/幼児教育科学生による減災絵本制作の取り組みに関する考察/いわき短期大学研究紀要/第53号/2020年/P.39-64/査読なし/国内

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権

発行物:減災絵本「へんしん! スマイルにんじゃ ひなんくんれんのまき」/発行 いわき短期大学 減災絵本サークル/  
発行日 2020年3月25日/印刷所 長瀬印刷/国内

合計(1)件のうち、A出願 計(0)件 B取得 計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

・2019年9月~2019年12月/公開講座/国内/社会人・学生/「地域防災計画学II」(防災士養成講座)/学内で開講する前記授業を社会人にも開放している。今期は学生を含めて約20名が受講、防災士資格試験には15名が受験、13名が合格した。11月30日には災害科研・プロジェクト講師保田真理先生に講師を務めて頂く/20名

合計(1)件

防災人材育成学(2019年度)

研究課題名	2. 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築	研究課題	④
研究代表者	林田 由那		
所属機関等・職名	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ・ 講師		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎林田由那(早稲田大学)女、○佐藤健(災害研)男、戸田芳雄(学校安全教育研究所)男、小田隆史(宮城教育大学)男、村岡太(宮城県教育庁スポーツ健康課)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	896,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
本研究は、宮城県の公立学校において実施されている避難訓練について、学校・行政・研究者の協働により共通の評価の指標を開発し、当該指標に基づき県内全校・園の避難訓練を評価し、更にそれを三者が平素から協働し持続可能な形で改善していくことで、学校を拠点に地域の防災人材の育成に寄与することを目指すものである。

【研究の具体的な成果・波及効果】
これまで宮城県内においても、全国的にも、統一の評価指標のなかった学校での避難訓練に対する評価指標の開発をすすめており、今回の研究期間内で、県内の小・中学校、高等学校における幅広い試行(安全担当主幹教諭、防災主任、指導主事等が参画)を実施し、第一期試行(～2019.12)、第二期試行(～2020.3)の試行期間を経て、下段に記載のチェック項目を完成させた。評価指標の開発段階においても、避難訓練に関する現場での議論の深化を促し、避難訓練を観察する際の視点が施行に参画した教員に浸透している。

【図表】避難訓練のチェック項目(評価の指標)2020.4.14時点				
	キーワード	チェック項目	◎ ○ △	統括評価
児童生徒の取組	(1)的確な初期対応	発達段階に応じて自らの命を守るための初期対応を考え、すすんで初期行動をとることができている。		A/B/C
	(2)的確な二次対応	二次対応の必要な場面においては、発達段階に応じて、状況に応じた避難行動を選択したり、他の児童生徒等と協力(手をつなぐ・声かけ等)した避難行動をとることができている。		
	(3)積極的な参加	避難訓練の目標を理解し、すすんで参加している。		
	(4)指示の聞き方	教職員からの指示があった場合、落ち着いてその指示を聞くことができている。		
教職員の取組	※独自項目			
	①避難行動への的確な声かけ	初期対応の際に、児童生徒等が自ら「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所をみつけ、命を守るための行動をとることができるように意識した声かけをしている。		10点中
	②安心させられるような声かけ	児童生徒等に、事前学習等で身につけた知識・技能を十分に発揮させ、児童生徒等を安心させられるような声かけをしている。		点
	③明確な指示	二次対応等が必要な際は、利用可能な手段を活用し、児童生徒等に明確な指示を行っている。		
	④創意工夫	児童生徒等が、自ら判断し、行動することができるような場面を設定するなど創意工夫をした避難訓練を実施している。		
	※独自項目			
	⑤安全な避難行動	児童生徒等の安全を優先するとともに、教職員自らの安全も確保しながら、避難行動をとっている。		10点中
	⑥本部の設置	迅速に本部の設置を行っている。		
	⑦情報の入手・整理	避難行動の選択・検討に有効な情報を正確に入手し、整理できる体制を整えている。		点
	⑧非常持ち出し袋	必要な物資を入れた非常持ち出し袋を避難の際に持ち出している。		
⑨避難経路の周知	避難経路及び校舎・学校周辺の状況の確認を迅速に行い、使用可能な避難経路を児童生徒等に周知している。			
⑩児童生徒等の検索	児童生徒等の検索を迅速かつ正確に行っている。			
⑪不測の事態への対応	不測の事態(傷病者・安否不明者への対応、校内放送・避難経路の使用不可等)に柔軟に対応できる体制をとっている。			
※独自項目				
組織活動	⑫各自の役割の遂行	教職員一人ひとりが、避難計画等に基づく各自の役割を認識し、着実に遂行している。		10点中
	⑬教職員同士の協力	教職員が他の教職員の役割を理解し、声をかけ合うなどして協力し避難訓練に臨んでいる。		点
	⑭家庭地域等との協働の想定	連絡体制を確認するなど、家庭・地域、関係機関、近隣の学校等との協働を念頭に置いた避難訓練を実施している。		
	⑮家庭地域等との実際の協働	家庭・地域、関係機関、近隣の学校等と、実際に円滑な協力をして避難訓練を実施している。		
※独自項目				

学校で実施される避難訓練について、前頁の図の通り、児童生徒等の取組および教職員の取組のそれぞれに分け、教職員の取組については、「防災教育」「防災管理」「組織活動」の3つの観点から評価するという方法を開発し、各学校の避難訓練を第三者(他校の安全担当主幹教諭、防災主任、専門家、保護者、地域住民等)の視点で評価する手法を構築した。加えて、避難訓練の実施中のみならず、避難訓練の事前学習・事前指導、避難訓練のふり返りに関する評価指標も開発している。それぞれの評価指標については、実効性を更に高めるため、新年度より保護者、地域住民等も加え、宮城県内全域における大規模な試行を予定している。また宮城県のみならず、他県での展開についても、具体的に着手することとなった。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 6 月 11 日(訪問者数 1)	佐藤研究室	5 時間
・令和元年 7 月 22 日(訪問者数 2)	佐藤研究室	5 時間
・令和元年 9 月 25-26 日(訪問者数 3)	佐藤研究室	10 時間
・令和元年 10 月 21 日(訪問者数 2)	佐藤研究室	5 時間
・令和元年 12 月 23-24 日(訪問者数 3)	佐藤研究室	10 時間
・令和 2 年 3 月 9-10 日(訪問者 3)	佐藤研究室	10 時間
延べ訪問回数 9 回		合計 45 時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・2019.10/講演会/国内/生徒(中学二年生)・保護者・地域住民/東京都立両国高校附属中学校道徳地区公開講座/東日本大震災以降の被災地域および被災地域の学校の防災等についての講演/約 140 名

合計 ( 1 ) 件

防災人材育成学(2019年度)

研究課題名	3. 学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発	研究課題	④
研究代表者	桜井 愛子		
所属機関等・職名	東洋英和女学院大学・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎桜井愛子(東洋英和女学院大学国際社会学部)女、○佐藤 健(東北大学災害科学国際研究所)男、柴山 明寛(東北大学災害科学国際研究所)男、村山 良之(山形大学教職大学院)男、小田 隆史(宮城教育大学防災教育研修機構)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	796,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

本研究では、地形図、ハザードマップ、災害記録アーカイブ等を活用した学校区の災害リスク理解のための教員研修/評価モデルを開発した。教員が学校区の災害リスクを理解することは、地域に根ざした学校防災の必須要件である。研修経験を学校防災の改善に活用することにより、実践的 school 防災の推進に寄与することを目指した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

- 「学校区の地形に基づく災害リスクの理解」に関する教員研修プログラムを開発した。
- 石巻市防災主任研修会において、防災主任教員ならびに安全担当主幹教諭 54 名を対象に実施した。地理院地図、地方整備局、石巻市等の各種地図、ハザードマップ等を活用した 3 時間の研修において、読図スキルを取得し、中学校区単位でのグループワークで学校区地図、各種ハザードマップを重ね比較を通じて学校区の災害リスクを理解し、安全な緊急避難場所を確認した(表、図参照)。事前事後での参加教員による学校区の災害リスクの記述分析を通じ研修効果を把握した。
- 石巻市での研修を踏まえて、研修内容の改善を図り、令和 2 年度には宮城県において安全主幹教諭を対象とした同様の研修を実施する予定である(波及効果)。

【表:研修プログラムの構成】

#	主要なポイント
1	地域の地形図を読み取るためのポイントを知る
2	微地形の理解を深めるために治水地形分類図の使用が有効なことを知る
3	自分の学区の地形図を読み取る
4	地形から学校区の想定される自然ハザードを理解する
5	自分たちの学区の自然ハザード、災害が発生しやすい場所を(A)～(C)の地図から読み取る
6	学区の緊急避難場所・避難生活避難場所を確認する



【図 稲井中学校区(左)治水地形分類図(中)旧北上川洪水浸水想定区域図(右)土砂災害ハザードマップ】

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 6 月 1 日(5)	佐藤健研究室、小会議室 1	8 時間
・令和元年 7 月 20 日(5)	多目的ホール、佐藤健研究室	8 時間
・令和元年 8 月 7 日(5)	小会議室 1	4 時間
・令和元年 10 月 3 日(30)	多目的ホール、佐藤研究室	4 時間
・令和 2 年度 2 月 23～24 日(6)	佐藤健研究室、小会議室 1	8 時間
・令和 2 年度 3 月 18～19 日(1)	佐藤健研究室、防災教育国際協働センターHP	5 時間
延べ訪問回数 7 回		合計 37 時間

成果として発表した論文
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. International Collaborating Center of Disaster Education Research and Implementation: The practical guide to a “Reconstruction and Disaster Risk Reduction (R-DRR) Mapping”, 2019.</li> <li>2. 桜井愛子, 北浦早苗, 村山良之, 佐藤 健: 地域に根差した災害復興・防災教育プログラムの開発ー石巻市立学校での「復興・防災マップづくり」5 年間の実践を踏まえてー, 安全教育学研究, 18(1), 2019 年 6 月, pp.23-36 (査読有)</li> <li>3. 佐藤 健, 桜井愛子: 学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造ー大崎市立岩出山小学校の実践事例ー, 安全教育学研究, 18(1), 2019 年 6 月, pp.83-91(査読有)</li> <li>4. 小田隆史, 桜井愛子, 村山良之, 佐藤健, 北浦早苗, 加賀谷碧: 地図リテラシーとハザード理解ー教員研修の評価から, 日本安全教育学会第 20 回大会, 山形, 2019 年 9 月</li> <li>5. 小田隆史, 村山良之, 桜井愛子, 佐藤健, 北浦早苗, 加賀谷碧: 「教職員のハザード理解と防災リテラシー向上のための読図演習」, 東北地理学会・北海道地理学会合同秋季学術大会, 札幌, 2019 年 9 月</li> <li>6. Aiko Sakurai, Takashi Oda, Yoshiyuki Murayama and Takeshi Sato: Development of A Teacher Training Program for Understanding Community Disaster Risk by Utilizing E-11 Geographic Maps, Book Abstracts of the 12th Annual International Workshop and Expo on Sumatra Tsunami Disaster and Recovery AIWST-DR 2019, 2019.11, pp.28(国際)</li> <li>7. 村山良之・小田隆史・佐藤健・桜井愛子・北浦早苗・加賀谷碧: 防災のための地形ミニマム・エッセンシャルズを求めて 2 酒田市教育委員会防災教育研修会, 日本地理学会 2020 春大会, 東京, 2020 年 3 月</li> <li>8. 桜井愛子: 大震災被災地における災害復興・防災教育ーサバイバーの子どもへのアプローチー, 死生学年報 2019, 2020 年(印刷中)(依頼原稿)</li> <li>9. Aiko Sakurai, Takeshi Sato, Yoshiyuki Murayama: Impact Evaluation of a School-Based Disaster Education Program in a City Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami Disaster, International Journal of Disaster Risk Reduction, Special Edition on School Safety, 2020 (採用決定済)(査読有)</li> </ol>

学術論文 合計( 9 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>・石巻市学校防災フォーラム／国内(石巻市防災主任、全国教員／研究者)／石巻市教育委員会主催、災害研後援／2019 年 8 月 6 日 於石巻市遊学館／参加者約 100 名／パネル討議「学校と地域、行政の連携による学校区の災害リスクの理解」にて、佐藤、桜井がパネリスト、コーディネータとして参加。</p> <p>・令和元年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム／国内(宮城県安全主幹教諭・防災主任、全国教員／研究者)／宮城県教育委員会・災害研主催／2019 年 11 月 20 日 於岩沼市民会館／参加者 535 名／桜井愛子「学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発」</p> <p>・復興・防災マップづくりコンクール／国内(石巻市内小中学校児童・生徒、教員、保護者)／石巻市教育委員会主催、災害研共催／授賞式 2020 年 1 月 21 日 於石巻市防災センター／出展数: 小中学校 17 校 96 点</p> <p>・台湾防災教育代表団との意見交換会の開催／国内(災害科学国際研究所多目的ホール)／災害科学国際研究所防災教育国際協働センター主催／2019 年 10 月 2 日開催／参加者約 30 名／台湾教育部資訊及科技教育司が企画した台湾国内の防災教育に携わる研究者、NGO、学校教員等で構成される一行との意見交換会</p>
合計 ( 4 ) 件



防災人材育成学(2019年度)

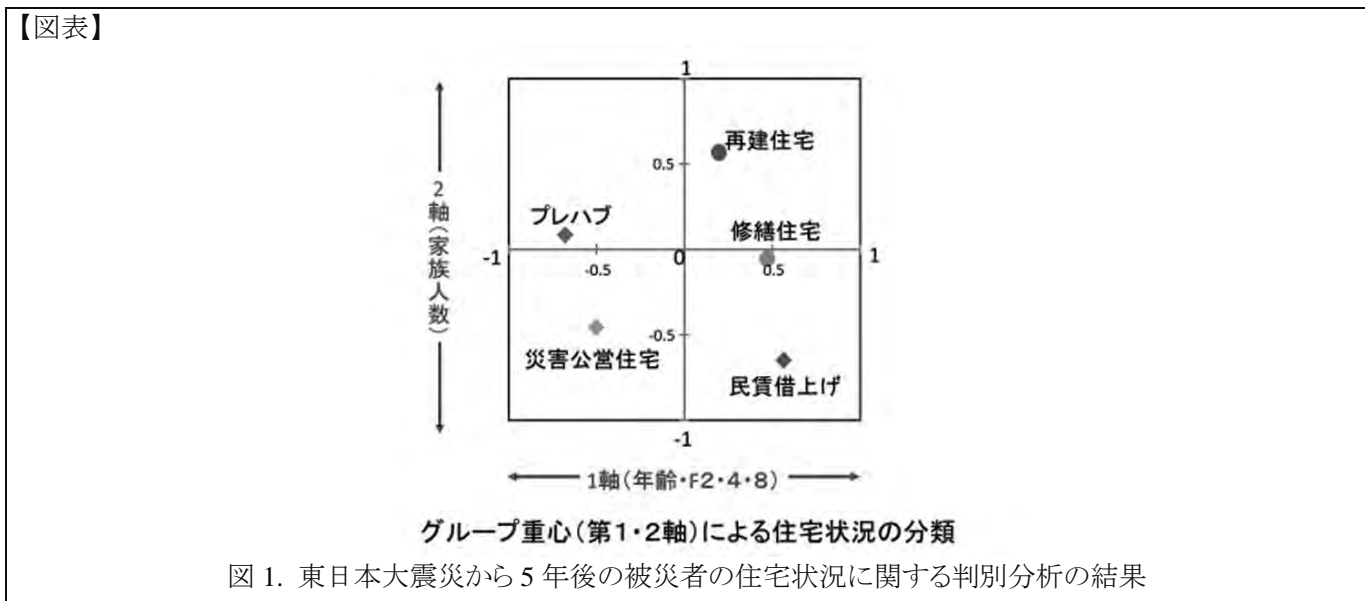
研究課題名	4. 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明	研究課題	④
研究代表者	本多 明生		
所属機関等・職名	静岡理工科大学・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎本多明生 (静岡理工科大学)男, ○杉浦元亮(災害研)男, 佐藤翔輔(災害研)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	406,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 大規模災害では、復興事業の長期化に伴い、被災者間で生活再建のスピードに差が生じる傾向がある。本研究は、東日本大震災被災者の住宅再建に寄与した災害を生きる力因子(Sugiura et al., 2015)を検討し、その災害を生きる力因子が住宅再建になぜ寄与するのかという原理の説明を心理学の見地から行う。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 データが膨大で詳細な分析が未着手の状態となっていた、東日本大震災被災者調査等を分析することによって、東日本大震災の被災者の住宅再建に寄与した災害を生きる力因子の特定と関連要因の検討を行った。東日本大震災から5年後の被災者の住宅状況と、年齢、家族人数、災害を生きる力因子の関係に注目して、判別分析を行った結果、住宅状況は、年齢と災害を生きる力因子から構成された軸と、家族人数から構成された軸で、説明できることがわかった。例えば、災害公営住宅の居住者は、年齢が高めで(高齢者)、災害を生きる力因子「問題解決(F2)」「頑固さ(F4)」「能動的健康(F8)」が低く目で、家族人数が少なめ(単身者)である傾向があること、などの特徴があることが示された。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・2019年7月20日(訪問者数2名) ・2020年1月28日(訪問者数5名) ・2020年2月26日(訪問者数4名) ・2020年3月26日(訪問者数4名)	災害研ロビー 会議室5 会議室5 会議室5	2時間 2時間 2時間 2時間
延べ訪問回数 4回		合計 8時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Honda, A., Sugiura, M., Abe, T., &amp; Muramoto, T. (2019). Personality Determinants of Power to Live with Disasters: Gratitude, Grit, and Grace. The 31st APS (Association for Psychological Science) Annual Convention, May 23-26, 2019, Washington DC, USA.</li> <li>● 本多明生・杉浦元亮・阿部恒之・邑本俊亮 (2019). 災害を生きる力因子に寄与するパーソナリティ特性:感謝特性, グリット, セルフコントロール. 日本感情心理学会第27回大会, 2019年6月28-30日, 東海学園大学.</li> <li>● 本多明生 (2019). 災害を生きる力因子を特徴づけるパーソナリティ特性の解明. 東北大学災害科学国際研究所 IRIDes 金曜フォーラム;平成30年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会, 2019年7月20日, 東北大学.</li> </ul>

合計(3)件

防災人材育成学(2019年度)

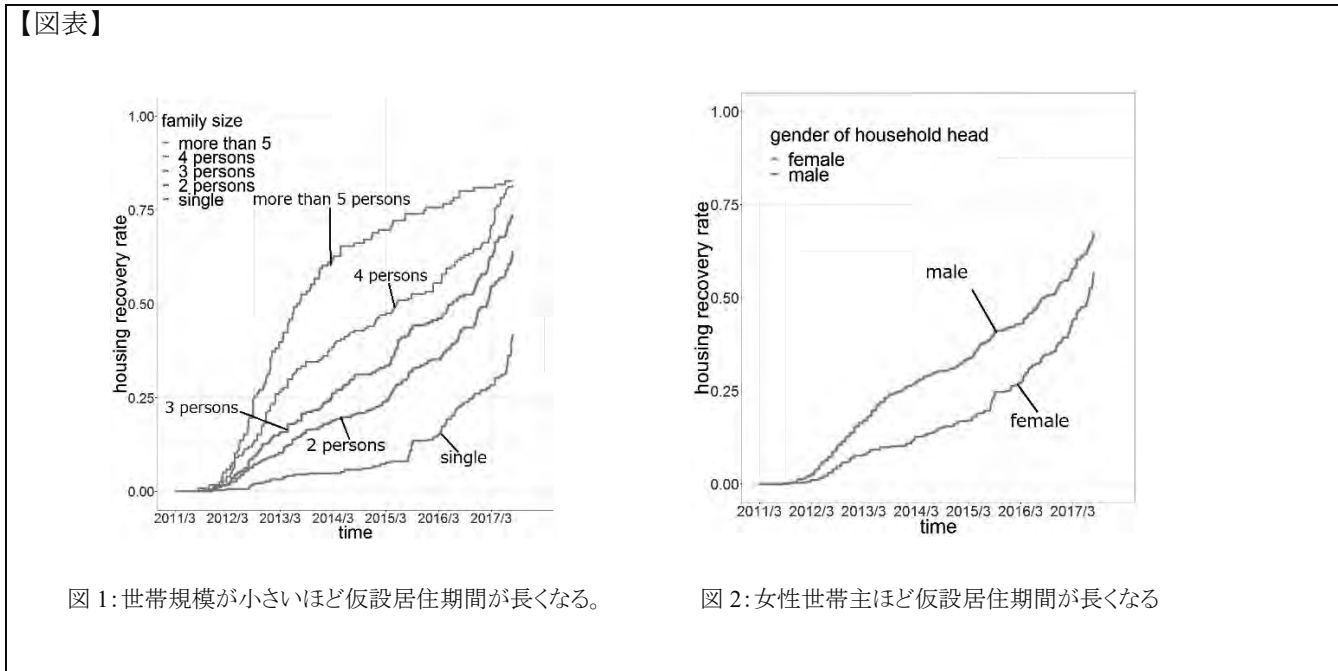
研究課題名	5. 災害時要配慮者の避難移動・避難生活・生活再建の各過程を ヨコ串にした災害時ケアプラン作成・実施のための福祉防災人材 育成プログラムの開発と実践	研究課題	④
研究代表者	立木 茂雄		
所属機関等・職名	同志社大学		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)  
 ◎立木茂雄(同志社大学)男、○佐藤翔輔(東北大学災害研)男、松川杏寧(人と防災未来センター)女、菅野拓(京都経済短期大学)男、川見文紀(同志社大学大学院)男、井内加奈子(東北大学災害研)女、北村美和子(東北大学災害研大学院)女。

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	797,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 名取市被災者台帳データベースより、仮設住宅入退去日データ(2017年8月時点)を抽出し、どのような要因が仮設住宅居住期間の長短と関係するのか生存時間分析によって検討した。その結果、被災前から社会生活上の脆弱性の高い層ほど仮設住宅入居期間が長くなることを突きとめた。たとえば世帯規模が小さいほど、世帯主が女性であるほど、仮設住宅入居期間が長くなっていた。したがってこのような脆弱性を示す被災者には、被災直後から生活再建支援を積極的にすすめることが有効である、ということを示した。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 災害時要配慮者の生活再建上の困難と、被災前の社会生活の脆弱性がヨコ串に連動することを、福祉専門職向けの被災者支援のための研修に盛り込むことによって、より適切で、スピード感のある生活再建支援をすすめることが可能になる、という示唆を得た。このような示唆の妥当性は2020年1月27日に東北大学災害科学国際研究所で共催したコロラド大学キャサリン・ティアニー名誉教授(本研究費により1月23日から26日にかけて東北被災地の復興状況を巡検した)のセミナーでも、指摘された。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年7月20日(立木)</li> <li>令和2年1月27日(ティアニー教授)</li> </ul>	多目的ホール	4時間 3時間
延べ訪問回数 2回		合計 7時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Fuminori Kawami, Anna Matsukawa, Shosuke Sato, Shigeo Tatsuki: How Do Pre-Disaster Social Vulnerabilities Affect Temporary Housing Residency, 44th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop, 2019.7.</li> <li>・松川杏寧, 辻岡綾, 川見文紀, 藤本慎也, 佐藤翔輔, 立木茂雄:生活再建ケースマネジメント支援手法のキーワード分析—生活再建課題とその対応—, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.8, p. 69-72, 2019.8.2</li> <li>・川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄:被災前の世帯の脆弱性がすまい再建に与える影響, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.8, p. 51-56, 2019.8.2</li> <li>・川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄:借り上げ仮設住宅施策はすまいの再建を早めたか—宮城県名取市のデータを用いた因果推論—, 地域安全学会論文集, No.35, pp. 217-224, 2019.11.</li> </ul>

学術論文 合計(4)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
特になし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2020年1月27日に東北大学災害科学国際研究所と共催したコロラド大学キャサリン・ティアニー名誉教授のセミナー

合計(1)件

防災人材育成学(2019年度)

研究課題名	6. 被災地の学校における心のケアと防災教育の融合プログラムの有効性と課題-東日本大震災と北海道胆振東部地震被災地での実践から	研究課題	④
研究代表者	富永 良喜		
所属機関等・職名	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎富永良喜(兵庫県立大学)男、○定池祐季(災害研)女、佐藤健(災害研)男、柿原久仁佳(北星学院大学)女、田中英三郎(兵庫県こころのケアセンター)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	800,000円
----	----------------------	----	----------

<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>本研究課題は、東日本大震災と胆振東部地震の被災地における心のケアと防災教育を融合した授業実践の有効性と課題を明らかにすることを目的として実施する。申請者らは東日本大震災以降当該プログラムの開発と実践に携わっており、アンケート調査と面接調査から個々の評価と被災地間の比較を行い、より汎用的なプログラムへと発展させることを目指している。2019年度は、東日本大震災の被災地における心のケアと防災教育を融合した授業実践の有効性と課題を明らかにすることを目的として、宮城県と岩手県でアンケート調査を実施した。</p>
---

<p><b>【研究の具体的な成果・波及効果】</b></p> <p>2019年度に行った宮城県(11月)、岩手県(2月)の調査のうち、宮城県のアンケート結果は論文投稿を行うほか、宮城県教育委員会への資料提供を行い、今後の教員研修等に活用していただく予定である。岩手県の調査については現在単純集計が終了しており、今後分析を進める状況にある。</p> <p>2019年11月に実施したアンケート調査では、宮城県教育委員会・東北大学災害国際科学研究所防災教育国際協働センター主催「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」(2019年11月20日開催)参加者のうち364名から回答を得た。また2020年2月に岩手県教育委員会小中高等学校特別支援学校教員650名に郵送調査を行った。その結果、次の3点が明らかになった。(1)防災教育と心のケアの融合的活動は支持された。(2)発災から1年間に津波の映像を見せることは被災体験の表現を促す活動は支持されず、国内外の心のケアガイドラインと一致していた。(3)予告なし・ありの避難訓練の是非については認識が分かれる結果となった。この結果については、次ページの図で示す。</p> <p>発災直後の被災地では、余震等の危険性が続いているため、防災教育のニーズはある一方で、防災教育は辛い経験を思い出させるトリガーとなり得るため、実施の有無や内容についての葛藤が生じやすいという声は現場ではよく聞かれるものの、被災地での防災教育と心のケアの現状と課題に着目した調査研究は不足していることから、本研究成果の発信を行うことで学術的・実践的な貢献が期待できる。</p> <p>また、この結果について岩手県・宮城県の教育委員会に情報提供を行うことで、教員研修や資料作成のニーズ把握の支援を行うことができると考えられる。</p> <p>上記の研究活動に加え、申請者のうち富永・柿原・定池は胆振東部地震被災地の心のケアと防災教育の実践に携わり、授業実施・資料提供・助言等を行った。</p>
---

【図表】

宮城県教員 346 名の結果は、災害から1年間、「項目6;防災教育の実施前にトラウマ反応の心理教育の実施」は 95.7%が「そう思う」と回答しており、「項目2;予告なしの津波の映像をみせる」は 81.7%が「そう思わない」と回答している。

Table 防災教育8項目における各尺度得点の割合(%)と全員の平均値と標準偏差

項目番号	項目	全くそう思わない(0)	そう思わない(1)	どちらかといえば、そう思わない(2)	どちらかといえば、そう思う(3)	そう思う(4)	非常にそう思う(5)	全員 (n=346)	
								平均値	標準偏差
1	災害(余震など)はいつ起こるかわからないので、予告なしの避難訓練を実施するとよいと思う。	4.6%	11.6%	5.8%	15.3%	31.2%	31.5%	3.51	1.50
2	予告なしに地震や津波の映像を見せることが防災教育には有効だと思う。	26.3%	32.9%	22.5%	10.7%	3.8%	3.8%	1.44	1.29
3	語り継ぐ防災教育につなげるため、被災後のできるだけ早い時期に、被災体験の表現活動(作文を書く、絵を描く)は行うことが有効だと思う。	9.0%	25.1%	31.5%	20.2%	10.7%	3.5%	2.09	1.24
4	余震が頻発する状況では、授業の中でリラックス法を取り入れ、余震への対処法を話し合い、備える方法を分かち合うことが有効だと思う。	0.3%	2.9%	7.2%	35.3%	41.6%	12.7%	3.53	0.93
5	クラス単位で避難経路を散策するといった活動を行ったのちに、予告して避難訓練を実施するとよいと思う。	0.6%	2.9%	3.2%	27.5%	48.8%	17.1%	3.72	0.92
6	避難訓練や防災学習を行う際に、つらいことを思いだしたりドキドキすることは自然な反応であることを予め伝えるとよいと思う。	0.3%	1.4%	2.6%	19.7%	45.4%	30.6%	4.00	0.89
7	避難訓練や防災学習の前後に、呼吸法などの気持ちを落ち着ける練習をするとよいと思う。	0.0%	3.8%	5.8%	33.2%	38.7%	18.5%	3.62	0.97
8	「地震」「津波」という言葉はつらいことを思い出させるけど、言葉自体は家を壊さない、安全なものだよね」と児童生徒に声をかけるとよいと思う。	5.8%	10.7%	22.8%	36.4%	17.6%	6.6%	2.69	1.24

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
令和1年8月5日(訪問者2名;富永・柿原、参加者・定池・SKYPE参加者・田中)  ※2020年3月に訪問を予定していたが、新型コロナウイルスの状況を鑑みて、訪問を中止し、メール会議に切り替えた。	小会議室1	5時間
延べ訪問回数 1回		合計5時間

成果として発表した論文 Sadaike,Y., Tominaga,Y., Kakihara,K. , Tanaka,E. and Sato,T. Disaster preparedness and psychological care among teachers in the stricken prefecture after the Great East Japan Earthquake. <i>Journal of Disaster Research</i> (投稿審査中)
---

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権 本共同研究に関わる特許・実用新案・その他産業財産権はありません。
---

合計(0)件のうち、A出願 計(0)件 B取得 計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催 なし
---------------------------

合計(0)件

防災人材育成学(2019 年度)

研究課題名	7. 地域住民によるワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育プログラムの開発	研究課題	④
研究代表者	森 太郎		
所属機関等・職名	北海道大学大学院工学研究院・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎森太郎(北海道大学)男、○定池祐季(災害研)女、草苺敏夫(釧路工業高等専門学校)男、佐藤健(災害研)男

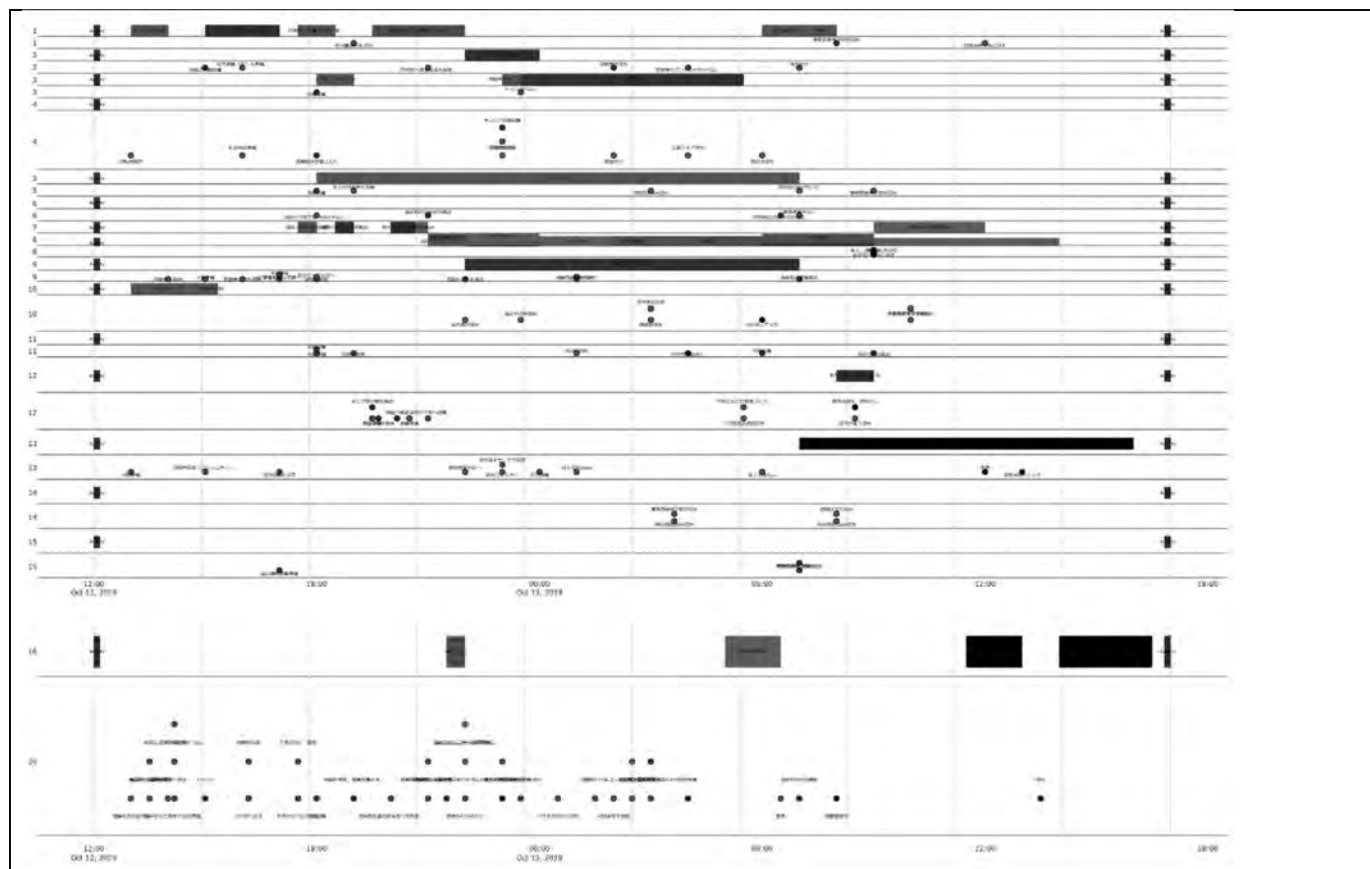
期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	672,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

研究では、地域に内在化する災害に関する生活知を共有し伝承する仕掛けとして、地域住民が参加し資料調査とまちあるき、マッピングと localwiki の更新をセットとした「災害 Wikipedia タウン」というワークショップの手法を開発し、その有効性を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

今年度は上記ワークショップを 3 月上旬に実施する予定で福住町町内会と準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により断念し、町内会と調整の上、台風 19 号時に関する世帯別行動記録の分析を行った。下図は福住町の住民の防災行動に関するタイムラインである。それぞれの世帯の防災活動の実態を可視化することができた。他の要素(地図、気象データ等)と重ね合わせることでワークショップの知見を今後の防災活動に生かすことができると考えられる。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年7月19日～20日 2名(2名) (20日は共同研究発表会に参加)</li> <li>・2019年12月15日(1名)</li> <li>・2020年1月15日(2名)</li> </ul>	小会議室 2  S304、みちのく震録伝 S304	4時間  2時間 3時間
延べ訪問回数 4回		合計 9時間

<p>成果として発表した論文(本共同研究の成果である旨の Acknowledgement(謝辞)を記載してください)</p> <p>2019年台風19号時の仙台市福住町の防災行動, 森太郎, 草刈敏夫, 定池祐季, 佐藤健, 第93回日本建築学会北海道支部研究報告集(予定)</p>
---

学術論文 合計(1)編

<p>特許・実用新案・その他の産業財産権</p> <p>なし</p>
------------------------------------

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

<p>シンポジウム・講演会・セミナー等の開催</p> <p>・福住町町内会との意見交換会(場所:菅原動物病院研修室)          日時:2020年2月1日 10:30～12:30、参加者:10名          種別:意見交換会(国内)、対象:福住町町内会役員、共同研究メンバー          概要:3月1日に予定していたワークショップのプログラムに関する打ち合わせと、台風19号の対応に関する意見交換</p> <p>※2020年3月1日に開催予定であった「福住町町内会まちあるきワークショップ」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止をし、2020年度中の開催を検討することにした。</p>
--

合計(1)件



災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	1. 原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育の在り方	研究課題	⑤
研究代表者	大葉 隆		
所属機関等・職名	福島県立医科大学 医学部 放射線健康管理学講座・助教		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎大葉 隆(福島県立医科大学・男)、○千田 浩一(災害科学国際研究所・男)、稲葉 洋平(災害科学国際研究所・男)、坪倉 正治(福島県立医科大学・男)、村上 道夫(福島県立医科大学・男)、津山 尚宏(福島県立医科大学・男)、大津留 晶(福島県立医科大学・男)

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	350,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

原子力災害において防災教育を考えた場合、放射線被ばく低減を目的とした放射線防護に関する教育という観点が必要となる。本研究の目的は、現在の高校生における福島の復興を通じた放射線被ばくにおける健康影響への認識を調査することである。2019年度の本研究は2年目であり、福島県の中通り地方、会津地方と千葉県内、広島県の高校生を対象として、グループインタビュー形式により高校生の持っている放射線へのイメージについて、5グループの計23名へ聞き取り調査を実施した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

下図より、グループ1(福島県内)の発言は放射線被ばくの対策の認識を示していた。グループ2で2018年度と2019年度の広島市の高校生の違いは学習の一環で福島を訪問した(2018年度)と福島を訪問無し(2019年度)であり、グループ2の発言は「原爆」に関する学習経験から放射線被ばくの健康影響に関して共通して述べていた。一方で、グループ3(宮城県や千葉県)は「原爆」や「甲状腺」などに関連した発言に乏しく、あいまいな放射線の健康影響のイメージを話していた。これらの発言の違いにおける背景は日常生活や学校で学んだ知識の違いが考えられ、全体的な放射線被ばくの健康影響に関する知識が偏っている状態であった。つまり、放射線被ばくの健康影響に関する認識は、高校生を取り巻く現在の知識を整理する対応により、放射線防護に関するバランスのよい教育になると考えられた。

【図表】

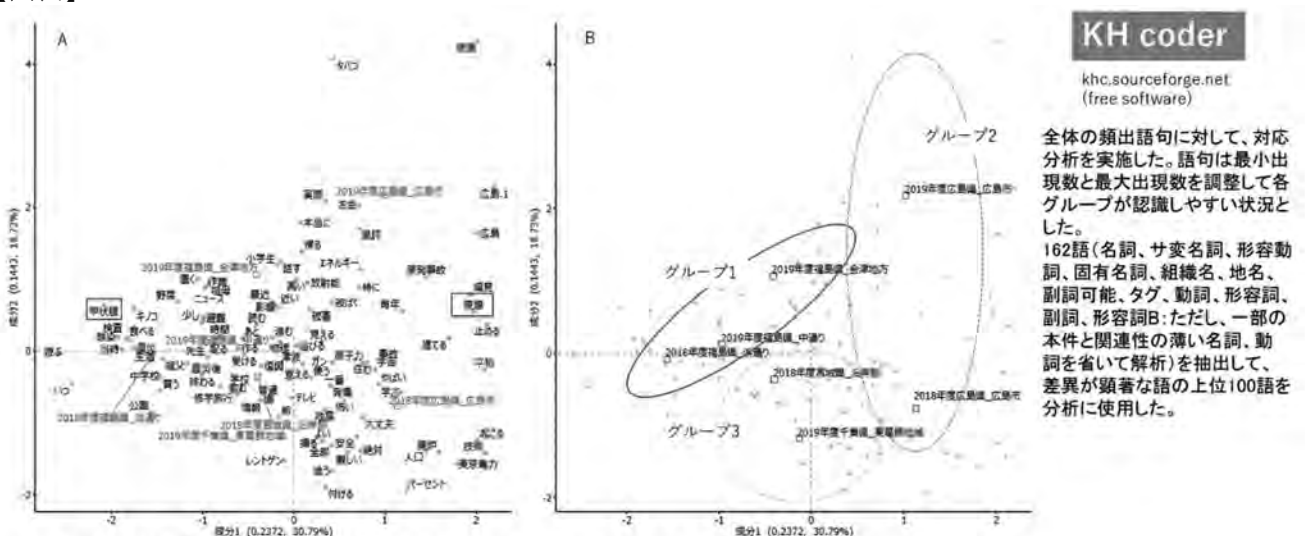


図 2018年度、2019年度に実施した高校生へのインタビューに関する全体の傾向  
A:単語の表記あり、B:図Aにおける単語の表記を除き、グループの傾向を表示

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
令和1年7月20日(1名) 令和1年12月5日(1名)	災害研 打ち合わせスペース 災害研 打ち合わせスペース	1時間 1時間
延べ訪問回数 2回		合計 2時間

成果として発表した論文
該当せず

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当せず

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年9月15日(日)/学会(第35回日本診療放射線技師学術大会:大宮市)/国内/研究者/高校生における放射線に関する知識の特徴と放射線防護へ向けた教育/2018年度の研究成果において地域ごとの発言傾向を解析/50名程度</li> <li>2020年1月10日(金)/勉強会(広島学院高等学校:広島市)/国内/社会人/研究成果報告会/広島学院高等学校の生徒さんのインタビュー結果を担当教員へ報告/7名</li> <li>2020年3月28日(土)/学会(第90回日本衛生学会学術総会:盛岡市)/国内/研究者/高校生のインタビューから見た放射線被ばくの認知の地域間差異/2018年度の研究成果において学年ごとの発言傾向を解析/新型コロナ問題により学会が開催されず、紙面上での要旨閲覧のみ。</li> </ul>

合計 ( 3 ) 件

災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	2. 防災教育教材・郷土災害資料と災害教育実践事例の収集・分析	研究課題	⑤
研究代表者	西山 昭仁		
所属機関等・職名	東京大学地震研究所 地震予知研究センター		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎西山昭仁(東京大学地震研究所)男、○蝦名裕一(災害科学国際研究所)男、佐藤健(災害科学国際研究所)男、北原糸子(立命館大学歴史都市防災研究所客員研究員)女、川島秀一(災害科学国際研究所)男、柴山明寛(災害科学国際研究所)男、定池祐季(災害科学国際研究所)女、保田真理(災害科学国際研究所)女

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	345,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
本研究では、東日本大震災に対応した自治体や寺院などの関係者からヒヤリングを実施し、東日本大震災の発生当時、どのような対応をおこなったかを調査する。また、東日本大震災の体験や教訓が今日どのように伝えられているか、自治体の担当者や建設が進められている伝承館使節などで調査・ヒヤリングを実施し、地域の防災力との関連性を検討する。

【研究の具体的な成果・波及効果】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月26日-27日、陸前高田市の浄土寺で聞き取り調査を実施し、東日本大震災の被害情報や寺院再建に関する情報を得た。また、釜石市仙寿院で聞き取り調査を実施し、東日本大震災において釜石仏教会を立ち上げ市民救済活動を実施したこと、死者の埋葬について当局との交渉があったことなどの情報を得た。</li> <li>・7月9日-10日、東松島市において前市長阿部氏から伝承館の建設や嵩上げ・駅移転工事について聞き取りをおこない、東松島建設業界会長橋本氏から遺体仮埋葬地の設営について聞き取りをし、情報を得た。</li> <li>・9月10日、岩沼市の前市長・井口氏に聞き取りをおこない、東日本大震災における市政の対応や避難所の設置、復興にむけた行政の動きや千年希望の丘の建設について情報を得た。</li> <li>・10月25日、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪問し、佐藤克美艦長と面会し、旧向洋高校の震災遺構および震災関連の展示を見学し、同館において展開している東日本大震災の経験を継承するための展示・取り組みについて情報を得た。</li> <li>・11月19日-20日、陸前高田市役所を訪問し、東日本大震災における遺体の保存・仮装などの対応状況について解答を得るとともに、東日本大震災津波伝承館の展示を見学した。</li> <li>・12月17日-18日、大槌町前町長碓川豊前町長に、東日本大震災発生当時の町長としての全般的な対応について聞き取りをおこなった。また陸前高田市の東日本大震災津波伝承館・斎藤上席専門官から、伝承館全体の構成や現状について聞き取りをおこなった。</li> </ul> <p>以上の聞き取り調査の実施から、東日本大震災の被災自治体が発行している報告書類では詳細が記されない大量に発生した死者、遺体処理などについて聞き取りによる多くの知られざる事実が明らかになった。</p> <p>なお、上記の調査を中心的に実施した本研究分担者である北原糸子氏は、本研究を含めた被災地に密着した調査研究を長年展開してきた功績により、2020年3月に第30回南方熊楠賞(人文の部)を受賞した。</p>

【図表】



2019年9月10日・岩沼市前市長井口氏聞き取り

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年6月26日	災害文化研究分野	2時間
・令和元年7月9日	災害文化研究分野	2時間
・令和元年9月10日	災害文化研究分野	3時間
・令和元年10月25日	災害文化研究分野	2時間
・令和元年11月19日	災害文化研究分野	2時間
・令和元年12月17日	災害文化研究分野	2時間
延べ訪問回数 6回		合計 13時間

成果として発表した論文

「東日本大震災がもたらした死者に関わる問題群」歴史学研究会編『歴史を未来につなぐ』東京大学出版会、2019年、(東北大学災害科学国際研究所の「防災教育教材・郷土災害資料と災害教育実践事例に関わる研究プロジェクト」による研究助成成果の一部)。

「東日本大震災と仏教系メディア—死者をめぐる情報を中心に—」『メディア史研究』47号、2020年(査読付き)

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

メディア史研究大会シンポジウムパネリスト報告「東日本大震災と仏教系メディア—死者をめぐる情報を中心に—」(於立教大学、2019年8月31日、参加者60人)

信濃史学会近世史セミナー基調講演「日本震災史—今問われていること」(於長野県立歴史館、2019年12月19日、参加者100人)

災害文化研究会第4回大会基調講演「自然災害と大量死—死者はどのように葬られてきたか」(於岩手大学テクノホール、2019年12月24日、参加者150人)

合計(3)件

災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	3. 火山地域で生じる地震動による斜面崩壊の規模予測に関する比較研究	研究課題	⑤
研究代表者	奥野 充		
所属機関等・職名	福岡大学理学部・教授		

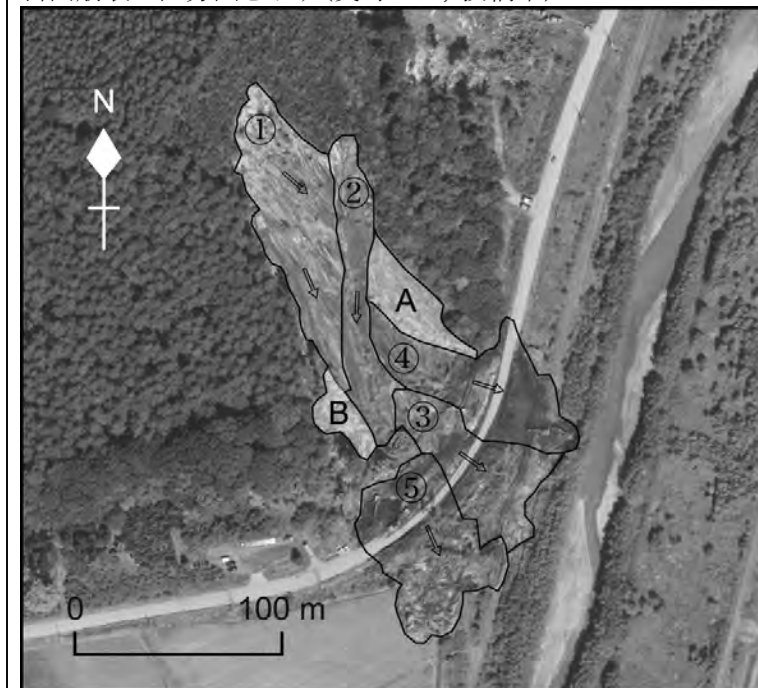
研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎奥野充(福岡大学)男、○遠田晋次(災害研)男、鳥井真之(熊本大学)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

**【研究の概要】**  
 2018年北海道胆振東部地震(主に厚真町)と2016年熊本地震(主に南阿蘇村)によって崩壊した斜面の地質調査を実施した。これらの崩壊は、地震時に多段階に渡って発生したものが連結してできたことを明らかにした。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 地震などによって生じる斜面崩壊が、強振動時に多段階に渡り、それが連結して見かけ上、大規模な崩壊に見えることを示した。崩壊(地すべり)堆積物と人工埋積土の区別が非常に難しいこともわかり、土地利用などの履歴も含めて総合的に検討する必要がある。

**【図表】**  
 斜面崩壊の区分図を示す(奥野ほか, 投稿中)。



災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
延べ訪問回数 0 回		合計 0 時間

成果として発表した論文
奥野 充・鳥井 真之・古市 剛久・北園 芳人・遠田 晋次(投稿中)2018 年北海道胆振東部地震による斜面崩壊の順序:厚真町桜丘での調査結果. 自然災害科学.

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( 0 )件 B 取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019 年度)

研究課題名	4. 記者と研究者は、「被災者」とどうかかわるか —みやぎ「災害とメディア」研究会での討議を通じて	研究課題	⑤
研究代表者	小田 隆史		
所属機関等・職名	国立大学法人宮城教育大学防災教育研修機構 副機構長／准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎小田 隆史(宮城教育大) 男、○佐藤 翔輔(災害研) 男、佐々木 宏之(災害研) 男、 武田 真一(宮城教育大／災害研) 男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	350,000円
----	----------------------	----	----------



**【研究の概要】**  
 本研究は、発災直後に現地に往訪し被災者から取材やフィールド調査を行う報道関係者や大学研究者が、被災者の人権や心情にどのような配慮をしながらかかわるべきかについて考察する。共同研究者が運営主体となっている「みやぎ「災害とメディア」研究会」でのこれまでの討議を整理し、フォローアップ調査を通じて実証する。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**  
 本研究は、日頃必ずしも密な交流があるわけではないが、災害の現場にそれぞれの立場で深くかかわっているメディアと研究の関係者が、東日本大震災後に災害研の研究者らにより宮城において形成された任意研究会のプラットフォームを活用して、東日本大震災の経験と教訓を導引して被災地の被災者とうまく関わるかをテーマに交流を深化させるというものである。  
 災害研が有する専門分野の多様性や国内外の研究機関とのネットワークを有効に活用し、学界と報道機関の両方が、災害報道・調査の本来的意義を確認するため、研究会(ワークショップ)を2回、合宿研究会を1回開催し、所謂「メディア・スクラム」「調査公害」を払拭し、被災関係者との信頼関係を向上させる取り組みに帰結した。

**ワークショップ(2019年5月21日, 場所 河北新報社)**  
 「災害が起きたとき、報道関係者、研究者は被災地、被災者の心身や人権をどう踏まえて活動するのか」  
 講演／ワークショップ形式で議論。  
 東北大学院医学研究科精神神経学分野富田博秋教授  
 東北大災害研災害医学研究部門 佐々木宏之助教(研究分担者)

**合宿視察(2020年2月5-6日)**  
 ◎台風19号被災をめぐる取材報道について丸森町と意見交換  
 ◎山元町・旧中浜小震災遺構を視察  
 ◎震災報道のあり方について、311メモリアルネットワーク企画者と意見交換  
 ◎双葉町視察  
 ◎山元町被災地視察

メディア側は河北、朝日、読売、毎日、共同、東北放送、NHK、日本テレビから総局長、デスク、記者、アナウンサーら、研究者側は東北大災害研、宮教大、行政機関は仙台管区气象台、第二管区海保、その他311メモリアルネットワーク合計28名参加

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
本共同研究費から旅費を支弁しての災害研訪問実績はないが、本研究にかかる打合せのため、研究代表者が、合計6回、宮教大から訪問したのをはじめ、宮教大及び災害研の両方に所属する分担者・武田が研究の遂行・調整にあたった。		
延べ訪問回数 6回		

成果として発表した論文
2019年10月19日のぼうさいこくたい2019@名古屋の報道セッション「本音で語り合う!巨大台風・地震への備え」において、武田がパネラーとして参加し、研究会の活動を報告した。 研究会合宿視察の様子が2020年2月6日の河北新報朝刊で報道された。

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>◎2019年5月21日セミナー(場所 河北新報社) 「災害が起きたとき、報道関係者、研究者は被災地、被災者の心身や人権をどう踏まえて活動するのか」 講演/ワークショップ形式で議論。 企画提案者 東北大学院医学研究科精神神経学分野 富田博秋教授 東北大災害研災害医学研究部門 佐々木宏之助教(研究分担者) 参加者 50名</p> <p>◎2019年8月23日セミナー(場所 河北新報社) 「名古屋の民放4社による『へり共同取材覚書締結』の意義と見通し」 CBC テレビ報道局デスク 西田征弘氏 「報道機関と研究、行政機関との連携の意義と課題」 江戸川大教授 隈本邦彦氏(名古屋大減災連携研究センター客員教授) 参加者 50名</p> <p>◎2019年11月23日例会(仙台市内) 震災報道のあり方についてワークショップ 伝承連携組織「3.11メモリアルネットワーク」若者プロジェクト主催「メディアコラボ」に参加 参加者 40名(研究会から新聞、放送のデスク、記者ら14人参加)</p>

合計(3)件



災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	5. 蔵王・御釜における水・熱・化学物質収支から見た地下水流動系の解明	研究課題	⑤
研究代表者	知北 和久		
所属機関等・職名	北海道大学北極域研究センター		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)

◎知北和久(北海道大学北極域研究センター)男、○三浦 哲(災害研)男、○山本 希(災害研)男、後藤章夫(東北大学東北アジア研究センター)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	392,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】

2013年以來活動度の高い状態が続いている蔵王山で、現在は活動がないとされる火口湖「御釜」の水・熱・化学物質収支を定量的に求め、地下水系の動的状態を探る。これにより、現在および今後の蔵王火山の活動度評価に資するとともに、物理観測で得られた地下構造との対比や、発生が懸念される火山泥流の検討に有用な情報を得ると考える。

【研究の具体的な成果・波及効果】

地下水系の動的状態を探るためには、まず、御釜での地下水流入・流出を量的に評価する必要がある。このため、湖畔に気象ステーションを設けて湖面蒸発量・降水量を求め、沖合に水位計を設置して御釜の貯水量変化を求めた(図1)。他方、MD地点(最深点)などで船上から水質プロファイラーを下し、御釜の水温・電導度・溶存酸素の垂直分布を求め、これら3項目の立体構造の時間変化を探った。また、MD地点に水温ロガーを設置し、採水により湖水・川水のpH測定や化学分析を行った。なお、御釜での気象ステーションの設置許可申請を2019年6月に行ったが、認可が下りたのは同年9月下旬である。結果として、湖畔気象データは10月に2週間程度しか得られなかった(図2)。しかし、この間の水収支はある程度評価できたので、得られた地下水流入・流出量と水温・電導度・溶存酸素の季節変化について、2020年度地惑連合大会(AGUとの共同セッション)で発表予定である。また、2019年10月に大黒天観測施設に温湿度・気圧ロガーを設置し計測を開始した。2020年はこれに風力センサーを加え、同時に得る湖畔気象データとの相関を求めることで、結氷期を含めた通年の水・熱・化学成分収支評価が可能となる。

【図表】

図1. 御釜周辺の地形図と分水界(一点鎖線は御釜の分水界、破線は濁川源頭部の分水界)。MDは最深点、湖畔黒点は気象ステーションの位置。

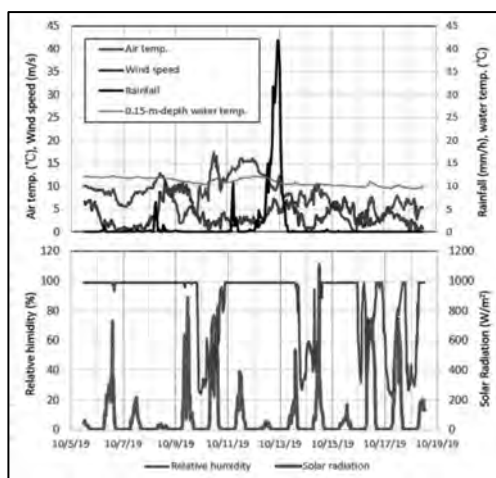
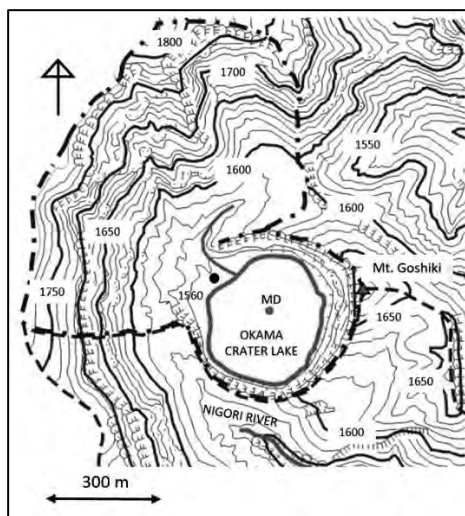


図2. 御釜湖畔での気象と湖面水温の時間変化。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
・令和元年 11 月 25 日(2)	東北大, 地震・噴火予知センター・会議室・討論会	3 時間
延べ訪問回数 1 回		合計 3 時間

成果として発表した論文
・本共同研究に関わって発表した学術論文 1) 知北和久・大八木英夫・牧野 昌・漢那直也・刀根賢太・坂元秀行・波多俊太郎・安藤卓人・白井裕子/ 山岳湖沼における結氷現象と気候変動との関係/陸水物理学会誌/第 2 巻 1 号/2020/3-13/査読あり/国内

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( 0 )件 B 取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	6. 東日本大震災後の水産加工業の早期復旧・復興への事業・制度的な支障とその軽減方策の研究	研究課題	⑤
研究代表者	寅屋敷 哲也		
所属機関等・職名	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター・主任研究員		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎寅屋敷哲也(人と防災未来センター)男、○丸谷浩明(災害研)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	399,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
東日本大震災の後、沿岸部の一部地域に建築制限が実施され、かつ土地のかさ上げ事業が行われた宮城県の北部沿岸市町を対象として、同制度・事業の考え方や実態を把握し、これら区域に所在していた被災企業への現地での復旧・復興への支障を明らかにし、将来の津波被災地の行政が産業の復旧・復興に対して配慮すべき点等を分析する。

【研究の具体的な成果・波及効果】
気仙沼市、女川町、石巻市における同制度・事業の実態を調査し、特に大規模な水産加工業施設の集積地区の土地のかさ上げ事業等が行われた気仙沼市において、その影響を受けたと考えられる被災企業7社にヒアリング調査を実施した。その結果、集積地区のかさ上げ事業の長期化により企業の事業に生じた影響として、①販路の減少、②工場の分散、また、土地区画整理事業等に伴う工場の移転による影響として、③二重にコストがかかる、造船団地の移設計画による影響として、④工場を拡張できなかった、という影響を抽出できた。これらの影響を軽減するために、行政が配慮すべき点としては、基盤整備事業を早くすること、仮の生産拠点を用意する支援を行うこと、二重に係る資金に対する支援が重要であると考えられる。

【図表】			
	事業・制度的な支障		軽減方策(案)
集積地区	①集積地区の基盤整備の長期化による販路拡大の支障	➔	・基盤整備事業を早くする ・仮の生産拠点の整備を支援する
	②集積地区で復旧できないため別の土地で工場を作り、スペースが足りないので集積地区の基盤整備が完了してからもう一つ工場を建て、工場が分散した		要検討
集積地区以外	③土地区画整理事業に伴う集積地区への工場の移転について自費の持ち出しが生じた		移転に伴う費用補償の充実
	④造船団地が移設してくる計画により、そこで復旧した工場を拡張できなかった		要検討

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年7月5日(1人)</li> <li>・令和元年8月30日(1人)</li> <li>・令和2年2月25日(1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸谷研究室</li> <li>丸谷研究室</li> <li>丸谷研究室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3時間</li> <li>1時間</li> <li>3時間</li> </ul>
延べ訪問回数 3回		合計 7時間

成果として発表した論文
<p>以下、今年度投稿予定の論文</p> <p>寅屋敷哲也・丸谷浩明／気仙沼市の水産加工業の復興過程に関する分析—生産工場の立地変化に着目して—(仮)、地域安全学会梗概集／No.46／2020／査読無</p> <p>寅屋敷哲也・丸谷浩明／東日本大震災後の気仙沼市の水産加工業の復興における事業・制度的な支障の研究(仮)／地域安全学会東日本大震災特別論文集／No.9／2020／査読無</p>

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

災害科学の発展に寄与するその他の研究(2019年度)

研究課題名	7. 東日本太平洋側に冷夏をもたらす気候場の長期復元に向けた基礎研究	研究課題	⑤
研究代表者	市野 美夏		
所属機関等・職名	情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター・特任助教		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名・性別)
◎市野美夏(情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター)女、○佐藤大介(災害研)男、野澤恵(茨城大学理学部)男、宮崎将(茨城大学理工学研究科)男、田中秀憲(茨城大学理学部)男、平野淳平(帝京大学文学部)男、増田耕一(東京都立大学都市環境学部)男、三上岳彦(東京都立大学都市環境学部)男、財城真寿美(成蹊大学経済学部)女、北本朝展(情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター)男

期間	2019年6月1日～2020年3月31日	経費	340,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】
東日本太平洋側では、「やませ」などの北東流の影響による冷夏が凶作などの被害をもたらすことがある。1857年および1858年夏季の水戸の資料から得られた北東気流の発生と東北および全国的な天候および大気場の解明を目指し、東北太平洋側の歴史資料に記録された天気情報と、気象災害や収穫量等の付加情報を収集した。東北大学災害科学国際研究所歴史資料保存研究分野の佐藤大介准教授が収集している宮城県・東北南部の古文書記録・近代観測記録の所在情報および解読テキストデータを活用し、天気情報をデータ同化し気候場を推定する方法(古天気再解析)への利用のためのデータ整備も進めた。

【研究の具体的な成果・波及効果】
研究計画に基づき、以下のような成果および波及効果を報告する。
<b>1.対象資料の所在調査</b>
1857年および1858年夏季の宮城県・東北南部の古文書記録・近代観測記録の所在情報を調査した。1857年、1858年については、78件の資料を得ることができた。これは、仙台市博物館および1830年代から70年代の古気候関係記録の収集に取り組む、宮城県栗原市の郷土史家・小野寺健太郎氏からの提供による。想定を超える資料数となり、今年度内に整備を終了することができなかった。また、やませの復元には太平洋側だけではなく、日本海側の天候情報も重要であり、秋田県立公文書館で資料の有無のみ調査し、収集は今後進める予定である。
これまで、本研究が目指すやませの解析において、19世紀以前の東北地方の天候情報量は不十分であったが、本調査により、高密度な天候情報量が期待できることがわかった。それに伴い、関連する古天気再解析モデル開発プロジェクトにおいても、これまで以上に空間分解能を細かくするため、理化学研究所の京または富岳とNICAM(Nonhydrostatic ICosahedral Atmospheric Model、非静力学正20面体格子大気モデル)を利用する方向で検討が始まっている。これは、歴史気候学だけではなく気象災害の研究の発展につながり、近年頻発する洪水被害に対する貢献も期待できる。
<b>2.対象資料のデータ構造化およびメタデータの整備</b>
収集した資料のうち、翻刻済またはデジタルテキスト済を優先し、データの整備を進めた。デジタル化が完了した9件について、データ同化に利用するためのコード化が完了した。また、冷夏の解析に利用する、「寒暖」、「風向」の記録を抽出し、整備した。現在においても8月の水戸の風向は北から東の方向が50%を超える。整理した記録からは「北東風」と「冷氣」が対で書かれていることが多く、観測された気温は数度低い傾向があった。しかし、収集したデータを利用した古天気再解析については、いくつかの障害があり気候場の復元が困難となり、東北を含めた広域的な気候場との関連は明らかになっていない。
一方、2019年末11月に、National Centers for Environmental Prediction(NCEP)がNOAA-CIRES-DOE Twentieth Century Reanalysis V3(NCEP20世紀再解析v3)を公開した。データ期間は1836年～2015年で、約60kmメッシュと高空間分解能である。このV3の再現性について、現在、世界中の気候学者がさまざまな気候情報との比較を行っ

ている。本研究が収集した高密度で多量の天候情報は、1857年 1858年の3時間の大気場データの検証に利用でき、国際的な貢献に繋がると期待できる。月単位のデータ解析では、1858年の8月については冷夏傾向が見られた。やませなどの解析のためには、より時間分解能の細かい日単位のデータを利用し、歴史資料の風および寒暖の情報との詳細な統合解析が求められ、令和2年度の研究計画に含める。

データ構造化のさまざまな段階において、代表者の研究機関(CODH)が進めている「人文学ビッグデータにおける構造化ギャップの克服と分野横断的利用の検証」プロジェクトと連携している。まず、収集した資料のメタデータについては、CODHで開発中のれきすけ(書誌情報共有システム)への登録を進めている。本システムの大規模な改修により、登録および公開は令和2年度に行う。

また、所在調査で未翻刻の資料が複数発見された。これらは、国立歴史民俗博物館と京都大学古地震研究会が開発を進めている「みんなで翻刻」での翻刻デジタルテキスト化を検討した。共同研究者の所属機関茨城大学が所蔵する資料および帝京大学平野准教授が収集した資料のデジタル画像を「みんなで翻刻」を利用しデジタルテキスト化を試みた。これまでは地震資料が中心であった「みんなで翻刻」に気象災害も加わり、自然災害を包括的に扱う方向に発展した。さらに、本研究を含めたさまざまな取り組みは、歴史学者も巻き込んだ分野横断的な歴史自然災害研究という新しいフェーズを拓ききっかけになっている。

さらに、収集した資料と気象災害記録、凶作の情報などを抽出した。CODHが開発した歴史的災害データベースも利用し、1857年、1858年の災害情報を広域的に確認した。1857年については気象災害、冷夏、凶作などの情報は得られていない。1858年(安政5年)は関東から東北にかけて、風水害などが発生していた。また、収集した資料では、例えば、安政5年6月の江戸から東北にかけての各地で、洪水が記録されていた。そこで、令和2年度からは、1858年に加え、新たな複数年を対象期間とし、歴史資料の天候情報および多様な歴史的記録と、古天気再解析およびNCEP20世紀再解析v3との統合解析方法を検討し、気候場を捉えるための解析を進める。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年8月9日(訪問者数4名)</li> <li>・令和元年10月9日～令和元年10月10日(訪問者数3名)</li> </ul>	会議室 会議室・公用車	3時間 9時間
延べ訪問回数 2回		合計 12時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

## 4 研究活動

### (4) 専任教員の研究・教育・社会活動

## 大野 晋 准教授

OHNO Susumu

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1986	3	東北大学大学院	工学研究科	1988	3	博士(工学)	1999	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	2003	3	鹿島建設技術研究所	
2	2003	4	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 災害制御研究センター	准教授
3	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	土木学会	Seismological Society of America				

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会	委員	20170400
2	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会地震動小委員会	委員	20040400
3	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会強震観測小委員会	主査	20190400
4	日本建築学会	卒業論文等顕彰事業委員会	委員	20181200
5	日本建築学会	災害委員会	委員	20190400
6	IAEE/IASPEI Working Group of the Effect of Surface Geology on Seismic Motion	ESG6 Local Organizing Committee	Member	20190500

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	地震工学	強震動地震学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	学位プログラム推進機構	リーディングプログラム部門教務委員会	委員	20154000
2	評価分析室	評価分析室	室員	20190401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

国内外で東北地方太平洋沖地震に代表される超巨大地震の発生が危惧されており、日本全国で蓄積された強震記録を用いて超巨大地震を含む地震動予測手法の高精度化の研究を進めた。また、当分野で展開している強震観測網の記録を用いて、仙台市での地下構造モデルの高精度化の検討を実施した。仙台市内及び宮城・岩手・山形の自治体建物で継続的な振動特性モニタリングを実施するとともに、機械学習による強震動評価・即時予測手法の検討に着手した。2019年6月に発生した山形県沖の地震の被害調査を実施した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	現在		強震動予測に関する研究	国内
2	1988	4	現在		強震観測・建物振動特性評価に関する研究	国内
3	2003	4	現在		地下構造モデル評価手法に関する研究	なし
4	2006	4	現在		地震動分布の準リアルタイム評価手法に関する研究	なし
5	2011	4	現在		地震動特性と建物被害に関する研究	国内
6	2018	4	現在		地震工学への機械学習の適用に関する研究	なし



論文

単著	1	筆頭共著		その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	2
----	---	------	--	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2019年山形県沖の地震による仙台市内の地震動特性	大野晋	東北地域災害科学研究	56		153	156	20200301
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2019年6月18日山形県沖の地震における木造住宅の地震応答について	三辻和弥, 大野晋	東北地域災害科学研究	56		157	162	20200301

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	5	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第54回地盤工学研究発表会	桑野二郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	大宮ソニックシティ	大宮	日本	20190716	20190718	20190716	山形盆地西部における杭基礎建物の常時微動観測	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
2	国内	日本建築学会大会	永野 紳一郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学	金沢	日本	20190903	20190906	20190906	小規模建築物基礎設計のための常時微動観測の利用について	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
3	国内	日本地震工学会大会	五十嵐晃	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20190919	20190920	20190919	常時微動記録に見られる隣接地点間の空間変動特性	<u>徳光亮二</u> , 青木雅嗣, 五十嵐ひでか, 内山泰生, 大野晋
4	国内	日本地震工学会大会	五十嵐晃	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20190919	20190920	20190919	2019年6月18日山形県沖の地震の初動調査と地盤の常時微動観測	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
5	国内	東北地域災害科学研究集会	風間 基樹	単名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	2019年山形県沖の地震による仙台市内の地震動特性	<u>大野晋</u>
6	国内	東北地域災害科学研究集会	風間 基樹	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	2019年6月18日山形県沖の地震における木造住宅の地震応答について	<u>三辻和弥</u> , 大野晋

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の全学教育, 工学部建築・社会環境工学科および工学研究科都市・建築学専攻において, 地震災害, 建築構造, 地盤震動に関する計11科目の講義を担当した。その中で, 東日本大震災や最近の被害地震の揺れおよび被害の実態と教訓に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
3	建築・社会環境工学演習E	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
5	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	8
6	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	4
7	建築数理基礎論I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	4
8	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
9	応用システム開発論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
10	地盤環境と地震災害	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
11	実践的防災学V	東北大学	リーディング大学院			前期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

秋田北高校で高校生向け模擬授業を実施した。山形県沖の地震について報道対応を行うとともに, 山形県議会委員会研修会で講演を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	大学模擬授業	講義	20190711	20190711	都市と建築の地震防災	小中高	秋田北高校	秋田北高校	秋田市	日本	60
2	講演会	山形県議会 防災減災・県土強靱化対策特別委員会研修会	講演	20190926	20190926	山形県沖地震の分析を踏まえた・今後の防災・減災対策	行政	山形県議会	山形県議会	山形市	日本	20

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	一般財団法人 世界防災フォーラム		理事	20181219

# 榎田 竜太 准教授

## ENOKIDA Ryuta

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学		2007	3	京都大学	工学研究科建築学専攻	2009	3	工学研究科建築学専攻	2012	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2010	3	京都大学防災研究所	リサーチアシスタント
2	2010	4	2012	3	京都大学防災研究所	日本学術振興会特別研究員DC2
3	2012	4	2014	3	京都大学建築学専攻 (2012年6月よりBristol大学機械工学科にVisiting research fellowとして滞在)	日本学術振興会特別研究員PD
4	2016	4	2016	3	Bristol大学機械工学科	日本学術振興会海外特別研究員
5	2016	4	2019	9	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	特別研究員
6	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授
7	2012	6	2019	3	Bristol大学機械工学科	Visiting research fellow

### 学会活動

所属学会

学会名 1
日本建築学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
耐震構造学	制御工学	トライボロジー

### B. 研究活動

研究活動の概要

・Hybrid Simulation法とDynamical Substructuring System法を動的サブストラクチャ振動台実験に用いた場合の、それぞれの制御器の合理的な設計手法を構築した。  
 ・地震被害を受けた構造物の物理量を推定できる時系列単純区分線形化法(SPLITS: Simple Piecewise Linearisation in Time Series)を開発した。この手法をE-Defenseで実施された振動台実験の構造物に応用することで、減衰と剛性を時刻歴で同定できることを示した。さらに、構造物が吸収したエネルギーを時刻歴で表現できることを示した。  
 ・小中地震動に対しては通常の耐震構造物として振る舞い、大地震時には免震機能を発揮する直置き型構造物に関して、その地震後の残留変形を抑制する手法を構築した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	4	現在		非線形制御手法を応用した振動試験装置の高性能制御	両方
2	2012	6	現在		非線形制御を用いた動的サブストラクチャ実験による構造物の応答検証	国外
3	2010	4	現在		黒鉛潤滑を用いた直置き型構造物の開発	国内
4	2016	4	現在		建物応答の逆解析から検知する損傷同定手法の開発	両方

### 論文

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著		合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無		国内査読有		国内査読無	
----	---	------	---	--------	--	----	---	----	-------	---	-------	--	-------	--	-------	--

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
2	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Nonlinear signal-based control for single-axis shake tables supporting nonlinear structural systems	Ryuta Enokida, Koichi Kajiwara	Structural Control and Health Monitoring	26	9			20190619
3	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Basic examination of two substructuring schemes for shake table tests	Ryuta Enokida	Structural Control and Health Monitoring	27	4			20200128
4	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A comparative study of hybrid simulation and dynamical substructuring system schemes for shake table tests	Ryuta Enokida	Journal of Physics: Conference Series	1264				0000

### 学会発表

単名	1	筆頭連名		その他の連名		合計	1
----	---	------	--	--------	--	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチャエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	International Conference on Recent Advances in Structural Dynamics (RASD)	Emiliano Rustighi	単名	いいえ	口頭(一般)	Valpré	Lyon	France	20190415	20190417		A comparative study of hybrid simulation and dynamical substructuring system schemes for shake table tests	<u>Ryuta Enokida</u>

# 今村 文彦 教授

## IMAMURA Fumihiko

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1984	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1990	12	東北大学 工学部土木工学科	助手
2	1991	3	1992	11	東北大学 工学部附属災害制御センター	講師
3	1992	12	2000	7	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	助教授
4	1993	8	1995	9	アジア工科大学院	助教授(派遣)
5	1997	6	2000	3	京都大学防災研究所 附属巨大災害研究センター	客員助教授(併任)
6	2000	8	2012	3	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
8	2012	4	2014	3	東北大学 災害科学国際研究所	副研究所長
9	2012	4	2015	3	東北大学	総長特別補佐
10	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	所長
11	2015	4	現在		東北大学	副理事(震災復興推進担当)
12	2016	6	現在		東北大学 災害復興新生研究機構	副機構長
13	2017	9	現在		東北大学 高等研究機構 災害科学世界トップレベル研究拠点	拠点長

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	土木学会	日本地震学会	日本自然災害学会	Int. Tsunami Society	American Geophysical Union	デジタルアーカイブ学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会		理事及び評議員	0000
2	日本地震学会		代議員	0000
3	デジタルアーカイブ学会		理事及び評議員	0000
4	防災教育普及協会		副会長	0000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	津波工学	海岸工学	土木工学	自然災害科学	防災科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学	入学試験審議会	委員	20180401
2	東北大学	高等研究機構運営委員会	委員	0000
3	東北大学	電気通信研究機構諮問委員会	委員	0000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

東日本大震災での津波被害に関する研究として、河川津波、遡上津波などの関連データ及び解析を実施している。また、津波統合モデルの高精度向上と機能の拡大を実施し、複合現象のリスク評価への適用を検討している。防災に関する国際標準化(ISO化)についても概念規格と個別テーマ企画について検討している。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		津波発生メカニズムと伝播予測に関する研究	
2	1992	4	現在		津波総合防災に関する研究	
3	1997	10	現在		災害情報と認知に関する研究	
4	2011	3	現在		実践防災学の構築に関する研究	

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	23	合計	24
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	8	国内査読無	6
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Recent occurrences of serious tsunami damage and the future challenges of tsunami disaster risk reduction	Imamura, F., Boret, S.P., Suppasri, A. and Muhari, A.	Progress in Disaster Science	1		100009		20190515
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災時に発信された災害情報内容の推移とその受容に関する分析	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会梗概集	44		93	94	20190500
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Simulation of the Submarine Landslide Tsunami on 28 September 2018 in Palu Bay, Sulawesi Island, Indonesia, Using a Two-Layer Model	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.	Pure and Applied Geophysics	176	8	3323	3350	20190604
英語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	Statistical analysis of tsunami evacuation behavior complementing tsunami victim's data	Anna Shinka, Shosuke Sato, Daijiro Mizutani, Fumihiko Imamura	Proceedings of IUGG19-2073, The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)					20190700
英語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	Analysis of human behaviour patterns in the 2011 Tohoku tsunami focusing on response behaviours	Fumiyasu Makinoshima, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Masaharu Nakagawa	Proceedings of IUGG19-2073, The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)					20190700
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	学術論文にみる東日本大震災: 関連学会論文を対象にした比較分析	佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		89	92	20190802
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Estimating Tsunami Economic Losses of Okinawa Island with Multi-Regional-Input-Output Modeling	Pakoksung, K., Suppasri, A., Matsubae, K. and Imamura, F.	Geosciences	9	8	349		20190809
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Load-resistance analysis: An alternative approach to tsunami damage assessment applied to the 2011 Great East Japan tsunami	Suppasri, A., Pakoksung, K., Charvet, I., Chua, C. T., Takahashi, N., Ornthammarath, T., Latcharote, P., Leelawat, N. and Imamura, F.	Natural Hazards and Earth System Sciences	19		1807	1822	20190820
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Time Series Disaster Emergency Response Plan for International Organizational Management; Case Study of Royal Thai Embassy, Tokyo, Japan	Thamarux, P., Suppasri, A., Leelawat, N., Matsuo, M. and Imamura, F.	Journal of Disaster Research	14	7	959	971	20191001
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	芹川 智紀, Anawat SUPPASRI, 門廻 充侍, 今村 文彦	土木学会論文集B2 (海岸工学)	75	2	I_1363	I_1368	20191017
日本語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	2018年スラウェシ島地震によるパル湾西部でのビデオ映像を用いた津波発生状況の分析	阿部 郁男, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, 今村 文彦	土木学会論文集B2B2 (海岸工学)	75	2	I_337	I_342	
日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	芹川 智紀, Anawat SUPPASRI, 門廻 充侍, 今村 文彦	土木学会論文集B2 (海岸工学)	75	2	I_1363	I_1368	
日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	船舶海上ネットワークを考慮したグローバル津波リスクに関する検討	大竹 拓郎, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦	土木学会論文集B2 (海岸工学)	75	2	I_1321	I_1326	
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の津波情報の受容状況と津波避難開始に関する分析	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2 (海岸工学)	75		I_1393	I_1398	20191100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波被災後の沿岸観光地における来訪者の津波に対する意識・備え	馬場亮太, 佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2 (海岸工学)	75		I_1399	I_1404	20191100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	仙台市震災復興メモリアル施設の利用実態と利用評価に関する調査分析—せんたい3.11メモリアル交流館と震災遺構仙台市立荒浜小学校—	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集	35		191	198	20191100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	思考・行動の変化に着目したインタビュー調査による津波避難行動過程の事例分析—東日本大震災時の気仙沼市波路上エリアを対象にして—	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会梗概集	45		93	96	20191100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究	佐藤翔輔, 畠本俊亮, 新国佳祐, 今村文彦	地域安全学会論文集	35		115	124	20191100
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Challenge to Build the Science of Human Survival from Disaster Starting from Analysis for the 2011 Tohoku Tsunami	Seto, S., Imamura, F. and Suppasri, A.	Journal of Disaster Research	14	9	1323	1328	20191201
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Survival-oriented personality factors are associated with various types of social support in an emergency disaster situation	Motoaki Sugiura, Rui Nouchi, Akio Honda, Shosuke Sato, Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura	PLOS ONE	15	2	e0228875		20200200

21	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Today in Thailand: Multidisciplinary Perspectives on the Current Tsunami Disaster Risk Reduction	Leelawat, N., Latcharot, P., Suppasri, A., Sararit, T., Srivichai, M., Tang, J., Chua, T., Kumnertrut, D., Saengtabtim, K. and Imamura, F. (2019)	Geological Society of London	501				20200207
22	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災の教訓浸透度の試行評価	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307
23	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	高知県と岩手県における津波碑の比較分析	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307
24	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	発災から50年後の被害被災地の記憶と備えの実態分析:羽越水害を経験した新潟県関川村	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	1	単著	1	筆頭 共著		共著	1	合計	3	うち	国際		国内	2
----------	---	----	---	----------	--	----	---	----	---	----	----	--	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1	日本語 最新科学が明かす 明和大津波	単行本	20200115	今村文彦, 後藤和久, 島袋綾野, 得能壽美, 正木謙, 宮城邦昌, 木村育恵	共著	南山舎	なし	
2	日本語 逆流する津波 -河川津波のメカニズム・脅威と防災-	単行本	20200328	今村文彦	単著	成山堂書店	なし	
3	日本語 災害記録を未来に活かす	単行本	20190815	今村文彦(監修), 鈴木親彦(責任編集)	監修	勉誠出版	なし	

学会発表

単名	0	筆頭 連名	0	その他 の連名	32	合計	32
----	---	----------	---	------------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連 合2019年大会	近貞 直孝	その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190528	東日本大震災における宮城県市町村での 死因の特徴	門廻充侍, 今村文彦
2	国際	The 27th IUGG General Assembly	-	その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	PALAIS DES CONGRÈ S DE MONTRÉ AL	Montreal	カナダ	20190709	20190717	20190713	Classifying the cause of death in Miyagi prefecture in the Great East Japan Earthquake	Shuji SETO, Fumihiko IMAMURA
3	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他 の連名	はい	口頭(招待)	Palais des Congrès	ケベック 州モントリ オール	カナダ	20190708	20190718	20190714	The 22 December 2018 Sunda Strait Tsunami: Analysis from Field Observation Data, Spectral Analysis and Numerical Model	A. Muhari, F. Imamura, T. Arikawa, M. Heidarzadeh, A. Suppasri, K. Pakoksung, A. Wijanarto, A. Hakim
4	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	Palais des Congrès	ケベック 州モントリ オール	カナダ	20190708	20190718	20190714	Proposing tsunami magnitude scale based on a perspective of cascading disasters	A. Suppasri, M. Kitamura, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander
5	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	Palais des Congrès	ケベック 州モントリ オール	カナダ	20190708	20190718	20190714	Consideration of Variation of Tsunami Force by using the Numerical Simulation - Case Study of the 2018 Sulawesi Earthquake Tsunami	A. Muhari, T. Arikawa, S. Takeda, F. Imamura, A. Suppasri
6	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	Palais des Congrès	ケベック 州モントリ オール	カナダ	20190708	20190718	20190713	Application of Two-layer Model on Submarine Landslide Tsunami Simulation in 28 September 2018 Palu Bay, Indonesia	K. Pakoksung A. Suppasri, F. Imamura, A. Omang, C. Athanasius, A. Muhari
7	国際	The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) 2019		その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	モントリ オール国際 会議会場	Montreal	カナダ	20190708	20190718		Analysis of human behaviour patterns in the 2011 Tohoku tsunami focusing on response behaviours	Fumiyasu Makinoshima, Shousuke Sato Fumihiko Imamura Masaharu Nakagawa
8	国際	The 16th Annual Meeting AOGS2019	David HIGGITT	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	SUNTEC Singapore	シンガ ポール	シンガ ポール	20190728	20190802	20190801	Assessing global tsunami risk through the perspective of global port network	Takuro Otake, Anawat SUPPASRI Fumihiko IMAMURA

9	国際	The 16th Annual Meeting AOGS2019	David HIGGITT	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20190728	20190802	20190801	Statistical Analysis of Building Damage: the 2013 Super Typhoon Haiyan Case	Natt LEELAWAT, Tanaporn CHAIVUTTORN, Thawalrat TANASAKCHAROEN, Jing TANG, Carl Vincent C. CARO, Alfredo Mahar LAGMAY, Anawat SUPPASRI, Jeremy BRICKER, Carine J. YI, Fumihiko IMAMURA
10	国際	the AOGS 16th Annual Meeting 2019	-	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	SUNTEC Singapore	Suntec	シンガポール	20190728	20190802	20190801	Feasible Study for Predicting Tsunami Height by Using Oceanographic Radar Installed in Wakayama Prefecture	Shuji SETO, Tomoyuki TAKAHASHI, Hirofumi HINATA, Ryotaro FUJII, Fumihiko IMAMURA
11	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	学術論文にみる東日本大震災:関連学会論文を対象にした比較分析	佐藤翔輔, 今村文彦
12	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	草苺敏夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	北海道釧路市	日本	20190920	20190922	20190921	遺伝的アルゴリズムを用いた沖合津波観測網の最適配置探索手法	倉本和俊, 牧野嶋文泰, Suppasri Anawat, 今村文彦
13	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	本間 基寛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	東日本大震災における宮城県内での犠牲者住所・遺体発見場所およびそのタイプの分類解析	門廻充侍, 今村文彦
14	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	本間 基寛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	東日本大震災における犠牲者住所に基づく死因の空間分布—宮城県石巻市の事例—	芹川智紀, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦
15	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191023	2018年スラウェシ島地震によるパル湾西部でのビデオ映像を用いた津波発生状況の分析	阿部 郁男, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, 今村文彦
16	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191024	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	芹川 智紀, Anawat SUPPASRI, 門廻 充侍, 今村 文彦
17	国内	第66回海岸工学講演会	Anawat SUPPASRI	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191024	宮城県仙沼市における震災データを活用による犠牲率と黒い津波外力との関係	門廻充侍, 山下啓, 高橋智幸, 今村文彦
18	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191024	船舶海上ネットワークを考慮したグローバル津波リスクに関する検討	大竹 拓郎, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
19	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191025	タイ・プラトーン島を対象とした2004年インド洋大津波による海浜侵食とその回復要因の検討	証谷 亮太, Suppasri Anawat, 山下啓, 今村文彦, Gouramanis Chris and Leelawat Natt
20	国内	地域安全学会・2019年度 第45回 研究発表会(秋季)	越山健治	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県立大学	静岡	日本	20191101	20191102	20191101	震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響:語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究	佐藤翔輔, 邑本俊亮, 新国佑祐, 今村文彦
21	国際	AIWEST-DR2019	今村 文彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Cascading Disasters Perspective Of Tsunami	A. Suppasri, M. Kitamura, Syamsidik, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander
22	国際	AIWEST-DR2019	今村 文彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Tsunami simulation in the 28 September 2018 Palu bay, Indonesia, using Submarine landslide source and twolayer depth-integrated modeling	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.
23	国際	世界防災フォーラム 2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Cascading effects of tsunami disasters	A. Suppasri, M. Kitamura, Syamsidik, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander
24	国際	世界防災フォーラム 2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Tsunami Simulation in the 28 September 2018 Palu Bay, Indonesia, Using Submarine Landslide Source and Two-layer Depth-integrated Modeling	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.
25	国際	世界防災フォーラム 2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	A proposed framework for clarifying consequence impacts chain of tsunami hazards on global seaborne network	Cheng, A.C., Otake, T., Suppasri, A. and Imamura, F.

26	国際	世界防災フォーラム 2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Typhoon Wind Speed VS. Storm Surge Inundation: Understanding Risk of Building Damage from Statistical Analysis	Natt LEELAWAT, Tanaporn CHAIVUTITORN, Thawalrat TANASAKCHAROE N, Jing TANG, Carl Vincent C. CARO, Alfredo Mahar LAGMAY, Anawat SUPPASRI, Jeremy BRICKER, Carine J. YI, Fumihiko IMAMURA
27	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	The cause of death analysis based on the deceaseds data in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Miyagi prefecture	Shuji SETO, Tomoki SERIKAWA, Hirokazu KAMATA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
28	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	The analysis of location data related to the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Miyagi prefecture	Shuji SETO, Hirokazu KAMATA, Tomoki SERIKAWA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
29	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	Spatial distribution of cause of death based on resident address of the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Ishinomaki City, Miyagi prefecture	Tomoki SERIKAWA, Shuji SETO, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
30	国際	AGU Fall Meeting 2019	-	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Moscone Center	San Francisco	アメリカ	20191209	20191213	201912	Examining the relationship between the cause of death and the location of the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Kesennuma in Miyagi prefecture	Shuji SETO, Tomoki SERIKAWA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
31	国内	土木学会東北支部令和元年度技術研究発表会	日野智	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	秋田大学	秋田	日本	20200307	20200307	20200307	東日本大震災における遺体発見場所に基づく死因傾向の分析ー宮城県自治体での事例ー	鎌田統一, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 芹川智紀
32	国内	土木学会東北支部令和元年度技術研究発表会	日野智	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	秋田大学	秋田	日本	20200307	20200307	20200307	東日本大震災における遺体発見場所に基づく死因の空間分布ー宮城県石巻市の事例ー	芹川智紀, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 5 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催 機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワーク ショップ	東北大学災害 科学国際研究 所・仙台市	私たちの仙台防災枠組講座シ リリーズ	20180518	20180519	スタンダード会議 室 仙台一番町 ホール店	仙台市	日本	100		講師	IRIDeS共催	仙台市	国内
2	国内	ワーク ショップ	東北大学災害 科学国際研究 所・仙台市	私たちの仙台防災枠組講座シ リリーズ	20180825	20180825	エル・パーク仙台	仙台市	日本	40		講師	IRIDeS共催	仙台市	国内
3	国内	その他	東北大学災害 科学国際研究 所	パネルディスカッションin震災 対策技術展	20180830	20180830	AERビル	仙台市	日本				IRIDeS主催・ 共同主催		国内
4	国内	シンポジウム	東北大学災害 科学国際研究 所	東日本大震災8周年シンポジ ウム	20190310	20190310	仙台国際センター	仙台市	日本			講演者	IRIDeS主催・ 共同主催		国内
5	国内	その他	東北大学災害 科学国際研究 所・仙台市	私たちの仙台防災枠組講座シ リリーズ	20190310	20190310	仙台国際センター	仙台市	日本	48			IRIDeS共催	仙台市	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

研究室内では、東日本大震災の経験と教訓をしっかりと理解した上で、個人々の研究を実施し、主体的な問題解決能力を高める。さらに、講義等では、授業計画をしっかりと定める。レポート等課題を与え、個人・グループで発表の機会を設けた。講義材料としては、データそのものや最新でビジュアルな資料を提供している。特に、教科のテーマや意義を出来るだけ明確にすることを心がけ、かつ、自主的な学習態度を取れる支援を工夫した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	スベクトル解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
2	防災システム論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	
3	防災論	東北大学	国際文化研究科	土木工学専攻		後期	
4	水環境創造のフロンティア	東北大学	工学部	土木工学専攻		前期	
5	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	土木工学専攻		後期	
6	グローバル安全学 I	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	
7	東日本大震災後の災害科学部分野の発展と課題	復興大学					2
8	映画文化特殊講義II (環境・災害・技術)	日本映画大学	教養				6

D. 社会活動

社会活動の概要

国などの行政機関(中央防災会議, 文科省地震調査委員会)での各種委員会・審議会に加えて, 地域での活動を支援する活動, 震災の経験や教訓を活かす取組(生きる力市民運動)を行った。学術的には津波研究の向上を目指して, 日本学術会議でのIRDR分科会への参加, 地震調査研究推進本部における地震調査委員会津波評価部会, さらに宮城県での復興検証の検討などが主なものとして挙げられる。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 8 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	公益社団法人 日本道路協会	道路政策に関する講演会	20190527	20190527	灘尾ホール	東京都	日本	講演者	300	なし	講演会	
2	国内	第31回日本老年 学会総会事務局	第31回日本老年学会総会	20190606	20190606	仙台国際セ ンター	仙台市	日本	講演者	1000	なし	シンポジウム	
3	国内	一般社団法人 情報処理学会	DICOMOシンポジウム	20190704	20190704	ホテル華の 湯	郡山市	日本	講演者	400	なし	講演会	
4	国内	一般社団法人 溶接学会	溶接学会秋季全国大会	20190917	20190917	東北大学工 学部	仙台市	日本	講演者	100	なし	講演会	
5	国内	三重県・三重大 学 みえ防災・減 災センター	昭和南海地震75周年(みえ地震 対策の日)シンポジウム	20191215	20191215	御浜町中央 公民館	三重県南 牟婁郡	日本	講演者	600	なし	シンポジウム	
6	国内	宮城県教育委員 会	未来へつなぐ学校と地域の安全 フォーラム	20191120	20191120	岩沼市民会 館	岩沼市	日本	講演者	600	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	
7	国内	一般社団法人 防災教育普及協 会	SDGsと仙台防災枠組の視点か ら考える企業の防災・減災	20191203	20191203	東京大学山 上会館	東京都	日本	講演者	100	IRIDeS主催・ 共同主催	セミナー	
8	国内	一般財団法人 救急振興財団	第28回全国救急隊員シンポジウ ム	20200130	20200130	仙台国際セ ンター	仙台市	日本	講演者	7000	IRIDeS協力	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	震災伝承後援会	講演	20190520	20190520	学の立場からの専門性を含めた震災伝 承の重要性	行政	三陸地区国 道協議会	グリーンピア三 陸みやこ	宮古市	日本	100
2	講演会	一般社団法人日本 応用地質学会東北 支部 第26回研究 発表会	特別講演	20190719	20190719	最近の津波災害の特徴	なし	一般社団法 人 日本応 用地質学会 東北支部	せんだい メディアテーク	仙台市	日本	100
3	講演会	河合塾『知の広場』 後援会	講演	20190724	20190724	東日本大震災の経験と教訓を世界に発 信する	なし	河合塾 仙台校	河合塾 仙台校	仙台市	日本	50
4	講演会	令和元年度全国が んセンター協議会 施設長会議	講演	20191108	20191108	東日本大震災の教訓と今後の防災のあ り方について	なし	地方独立行 政法人宮城 県立がんセ ンター	ホテルメロ ポリタン仙台	仙台市	日本	100
5	講演会	世界防災フォー ラムのICHARMセ ッション	講演	20191111	20191111	将来的な減災に向けた2011年東北地震 及び津波からの教訓	なし	国立研究開 発法人土木 研究所	仙台国際 センター	仙台市	日本	50



6	講演会	コースタル・テクノロジー2019	特別講演	20191118	20191118	巨大津波の時代における防災・減災の取り組みー3.11など最近の災害経験を踏まえて	なし	一般財団法人 沿岸技術研究センター	星陵会館	東京都	日本	180
7	小中高との連携	令和元年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	基調講演	20200125	20200125	東日本大震災の教訓と最近の災害の特徴	小中高	宮城県教育委員会	多賀城市文化センター	多賀城市	日本	141

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府 宮城県	女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会	構成員	20181016
2	国・政府 国土交通省 東北地方整備局	名取川水系河川整備学識者懇談会	委員	20181101
3	その他 独立行政法人 国際協力機構	インドネシア国「中部スラウェシ州復興計画策定及び実施支援プロジェクト」国内支援委員会	委員	20181128
4	その他 国立研究開発法人 防災科学技術研究所	戦略的イノベーション創造プログラム第2期評価委員会	委員	20181219
5	その他 国立研究開発法人 防災科学技術研究所	経営諮問会議	委員	20181227
6	国・政府 文部科学省	地震調査研究推進本部地震調査委員会	委員	20190401
7	その他 国立研究開発法人 海洋研究開発機構	「海域における断層情報総合評価プロジェクト」評価助言委員会	委員	20190401
8	国・政府 国土交通省 東北地方整備局	国土交通省社会資本整備審議会	臨時委員	20190401
9	国・政府 宮城県 水産林政部	塩釜漁港東防波堤に関する検討会	委員(座長)	20190422
10	民間・NPO 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 関東支社	地域防災力の向上を目指すアドバイザーボード	委員	20190423
11	国・政府 宮城県教育委員会	宮城安全教育推進ネットワーク会議	委員	20190426
12	国・政府 宮城県	宮城県総合計画審議会	委員	20190527
13	国・政府 名古屋大学減災連携研究センター	社会連携推進会議	委員	20190614
14	民間・NPO 公益社団法人 土木学会東北支部	津波評価に関する技術検討会	委員	20190621
15	国・政府 岩手県	岩手県津波防災技術専門委員会	委員	20190715
16	国・政府 内閣府	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会	委員	20190920
17	その他 公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構	有識者会議	委員	20190930
18	国・政府 気象庁	津波予測技術に関する勉強会	委員	20191101
19	その他 独立行政法人 日本学術振興会	ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2021運営委員会	委員	20200101

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
20191107	東北大学災害科学国際研究所	国外	東北大学災害科学国際研究所インドネシア・ジャクアラ大学との部局間学術交流協定の更新	研究機関	ジャクアラ大学	0000	

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 日本工営中央研究所	菱沼志朗	20191031	講演	日本工営株式会社	つくば	講演・発表	50
2 国立研究開発法人 建築研究所	長谷川広美	20200131	講演	建築研究所	つくば	講演・発表	50

サッパシー アナワット 准教授  
**SUPPASRI Anawat**  
 災害リスク研究部門 津波工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	チュラーロンコーン大学	工学部	2005	3	東北大学大学院	工学部研究科	2010	9	博士(工)	2010	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	10	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター	リサーチ・フェロー
2	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海岸工学委員会 CEJ小委員会	会員	20140401
2	Global Risk Forum GRF Davos	IJDRR Journal Editorial board	Member	20141201
3	土木学会	海岸工学委員会 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	会員	20150000
4	アジア・オセアニア地球科学学会		Section secretary	20160000
5	IUGS GeoHazard Task Group		Treasurer	20170000
6	MDPI Publishing	Geosciences	Member	20180700
7	アジア・オセアニア地球科学学会	Geoscience Letters Editorial board	Member	20181000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	海岸工学	防災学	災害リスク

B. 研究活動

研究活動の概要

国内外(特に東南アジア:タイ、インドネシア、フィリピン)において総合的に津波工学の観点から津波または地震・沿岸災害の防災研究について活動している。主に、津波被害予測、ハザード・リスク評価、津波避難、防災教育に関して研究し、国内外で発表し、多数の国際共著で学術雑誌に掲載されている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	10	現在		インド洋・太平洋における津波ハザードマップ研究	国外
2	2007	10	現在		津波被害関数構築に関する研究	両方
3	2009	10	現在		津波避難に関する研究	両方
4	2012	4	現在		防災教育に関する研究	両方
5	2013	11	現在		2013年に発生したハイエン台風に関する研究	国外
6	2016	4	現在		世界津波ハザード評価に関する研究	両方
7	2018	9	現在		スラウェシ島津波・スンダ海峡津波に関する研究	国外

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	10	合計	11	うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Recent occurrences of serious tsunami damage and the future challenges of tsunami disaster risk reduction	Imamura, F., Boret, S.P., Suppasri, A. and Muhari, A.	Progress in Disaster Science	1		100009		20190515
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Simulation of the Submarine Landslide Tsunami on 28 September 2018 in Palu Bay, Sulawesi Island, Indonesia, Using a Two-Layer Model	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.	Pure and Applied Geophysics	176	8	3323	3350	20190604

3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Estimating Tsunami Economic Losses of Okinawa Island with Multi-Regional-Input-Output Modeling	Pakoksung, K., <u>Suppasri, A.</u> , Matsubac, K. and <u>Imamura, F.</u>	Geosciences	9	8	349		20190809	
4	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Load-resistance analysis: An alternative approach to tsunami damage assessment applied to the 2011 Great East Japan tsunami	<u>Suppasri, A.</u> , Pakoksung, K., Charvet, I., Chua, C. T., Takahashi, N., Ornthammarath, T., Latcharote, P., Leclawat, N. and <u>Imamura, F.</u>	Natural Hazards and Earth System Sciences	19			1807	1822	20190820
5	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Time Series Disaster Emergency Response Plan for International Organizational Management; Case Study of Royal Thai Embassy, Tokyo, Japan	Thamarux, P., <u>Suppasri, A.</u> , Leclawat, N., Matsuoka, M. and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	14	7	959	971	20191001	
6	日本語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	2018年スラウェシ島地震によるバル湾西部でのビデオ映像を用いた津波発生状況の分析	阿部 郁男, <u>Anawat SUPPASRI</u> , Kwanchai PAKOKSUNG, 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	I_337	I_342		
7	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	芹川 智紀, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 門田 充侍, 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	I_1363	I_1368		
8	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	船舶海上ネットワークを考慮したグローバル津波リスクに関する検討	大竹 拓郎, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	I_1321	I_1326		
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Challenge to Build the Science of Human Survival from Disaster Starting from Analysis for the 2011 Tohoku Tsunami	<u>Seto, S.</u> , <u>Imamura, F.</u> and <u>Suppasri, A.</u>	Journal of Disaster Research	14	9	1323	1328	20191201	
10	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Today in Thailand: Multidisciplinary Perspectives on the Current Tsunami Disaster Risk Reduction	Leclawat, N., Latcharote, P., <u>Suppasri, A.</u> , Sararit, T., Srivichai, M., Tang, J., Chua, T., Kummertrut, D., Saengtattim, K. and <u>Imamura, F.</u> (2019)	Geological Society of London	501				20200207	
11	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The 22 December 2018 Mount Anak Krakatau Volcanogenic Tsunami on Sunda Strait Coasts, Indonesia: tsunami and damage characteristics, Natural Hazards and Earth System Sciences	Syamsidik, Benazir, Luthfi, M. <u>Suppasri, A.</u> and Comfort, L. K.	Natural Hazards and Earth System Sciences	20		549	565	20200224	

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	18	合計	21
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他の連名	はい	口頭(招待)	Palais des Congrès	ケベック州モントリオール	カナダ	20190708	20190718	20190714	The 22 December 2018 Sunda Strait Tsunami: Analysis from Field Observation Data, Spectral Analysis and Numerical Model	<u>A. Muhari, F. Imamura, T. Arikawa, M. Heidarzadeh, A. Suppasri, K. Pakoksung, A. Wijanarto, A. Hakim</u>
2	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Palais des Congrès	ケベック州モントリオール	カナダ	20190708	20190718	20190714	Proposing tsunami magnitude scale based on a perspective of cascading disasters	<u>A. Suppasri, M. Kitamura, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander</u>
3	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Palais des Congrès	ケベック州モントリオール	カナダ	20190708	20190718	20190714	Consideration of Variation of Tsunami Force by using the Numerical Simulation - Case Study of the 2018 Sulawesi Earthquake Tsunami	<u>A. Muhari, T. Arikawa, S. Takeda, F. Imamura, A. Suppasri</u>
4	国際	The 27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Palais des Congrès	ケベック州モントリオール	カナダ	20190708	20190718	20190713	Application of Two-layer Model on Submarine Landslide Tsunami Simulation in 28 September 2018 Palu Bay, Indonesia	<u>K. Pakoksung, A. Suppasri, F. Imamura, A. Omang, C. Athanasius, A. Muhari</u>
5	国際	The 16th Annual Meeting AOGS2019	David HIGGITT	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20190728	20190802	20190801	Assessing global tsunami risk through the perspective of global port network	<u>Takuro Otake, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA</u>
6	国際	The 16th Annual Meeting AOGS2019	David HIGGITT	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20190728	20190802	20190801	Statistical Analysis of Building Damage: the 2013 Super Typhoon Haiyan Case	<u>Natt LEELAWAT, Tanaporn CHAIVUTTORN, Thanawat THANASAKCHAROEN, Jing TANG, Carl Vincent C. CARO, Alfredo Mahar LAGMAY, Anawat SUPPASRI, Jeremy BRICKER, Carine J. Yi, Fumihiko IMAMURA</u>
7	国際	The 16th Annual Meeting AOGS2019	David HIGGITT	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20190728	20190802	20190801	Governing Flow Characteristics in Influencing Port Structure Damage in 2011 Great East Japan Tsunami	<u>Constance Ting CHUA, Adam SWITZER, Anawat SUPPASRI, Linlin LI, Kwanchai PAKOKSUNG, David LALLEMANT</u>
8	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	草薙敏夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	北海道釧路市	日本	20190920	20190922	20190921	遺伝的アルゴリズムを用いた沖合津波観測網の最適配置探索手法	<u>倉本和俊, 牧野嶋文泰, Suppasri Anawat, 今村文彦</u>

9	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191023	2018年スラウェシ島地震によるパル湾西部でのビデオ映像を用いた津波発生状況の分析	阿部 郁男, Anawat SUPPASRI, Kwanchai PAKOKSUNG, 今村 文彦
10	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191024	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	岸川 智紀, Anawat SUPPASRI, 門庭 充侍, 今村 文彦
11	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191024	船舶海上ネットワークを考慮したグローバル津波リスクに関する検討	大竹 拓郎, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
12	国内	第66回海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島市	日本	20191023	20191025	20191025	タイ・プラトーン 島を対象とした2004年インド洋大津波による海浜侵食とその回復要因の検討	植谷 亮太, Suppasri Anawat, 山下 啓, 今村 文彦, Gouramanis Chris and Leelawat Natt
13	国際	AIWEST-DR2019	今村 文彦	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Cascading Disasters Perspective Of Tsunami	A. Suppasri, M. Kitamura, Syamsidik, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander
14	国際	AIWEST-DR2019	今村 文彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Development of tsunami damage fragility functions for port infrastructure based on observations from the 2011 Tohoku tsunami	Constance Chua, Adam Switzer, Anawat Suppasri, Kwanchai Pakoksung, Linlin Li, David Lallemand, Susanna Jenkins, Amanda Yee Lin Cheong
15	国際	AIWEST-DR2019	今村 文彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Tsunami simulation in the 28 September 2018 Palu bay, Indonesia, using Submarine landslide source and twolayer depth-integrated modeling	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.
16	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Cascading effects of tsunami disasters	A. Suppasri, M. Kitamura, Syamsidik, A. Muhari, F. Imamura, D. Alexander
17	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Tsunami Simulation in the 28 September 2018 Palu Bay, Indonesia, Using Submarine Landslide Source and Two-layer Depth-integrated Modeling	Pakoksung, K., Suppasri, A., Imamura, F., Athanasius, C., Omang, A. and Muhari, A.
18	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	A proposed framework for clarifying consequence impacts chain of tsunami hazards on global seaborne network	Cheng, A.C., Otake, T., Suppasri, A. and Imamura, F.
19	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Investigating Planned Elevated Road for Mitigating Impacts of Tsunami on Banda Aceh, Indonesia	Syamsidik, Tursina, Suppasri, A., Musa A'fala, Mumtaz Luthfi and Comfort, L. K.
20	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Typhoon Wind Speed VS. Storm Surge Inundation: Understanding Risk of Building Damage from Statistical Analysis	Natt LEELEAWAT, Tanaporn CHAIVUTITORN, Thawalrat TANASAKCHAROEN, Jing TANG, Carl Vincent C. CARO, Alfredo Mahar LAGMAY, Anawat SUPPASRI, Jeremy BRICKER, Carine J. YI, Fumihiko IMAMURA
21	国際	世界防災フォーラム2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Response of port infrastructure to tsunami impacts: Damage observations from the 2011 Tohoku tsunami	Constance Chua, Adam Switzer, Anawat Suppasri, Kwanchai Pakoksung, Linlin Li, David Lallemand, Susanna Jenkins, Amanda Yee Lin Cheong

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 …… 2 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のち外観)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	研究会	IRIDeS, TDMRC	AIWEST-DR2019	20191107	20191108	災害科学国際研究所	仙台	日本	100(70)	工学	Organizing Committee	IRIDeS主催・ 共同主催	TDMRC	国外
2	国際	シンポジウム	WBF国内実行委 員会及びWBF国 際実行委員会	世界防災フォーラム	20191109	20191112	仙台国際センター	仙台	日本	900		Poster session	IRIDeS主催・ 共同主催		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の工学研究科土木工学専攻及び工学部建築・社会環境工学科の学生へ、卒業論文・修士論文の研究または学会発表への指導、土木工学水系の専門である授業も幾つか担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	
2	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	5
3	水環境演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
4	工学倫理	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	2
5	実践的防災Ⅱ	東北大学	リーディング大学院				6
6	自然災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	短期留学生受入プログラム (JYPE)提供科目				6
7	流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	4

D. 社会活動

社会活動の概要

主に在東京タイ王国大使館、国連開発計画(UNDP)と共に防災活動において防災講演会、防災訓練を実施している。国内のメディアにもラジオ、テレビにおいて情報発信している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所、 気仙沼市	気仙沼文化講演会	20190608	20190608	気仙沼市気仙 沼向洋高校	気仙沼市	日本	WG担当	30	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	
2	国内	災害科学国際研究所	歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ －日本の災害文化－	20190721	20190721	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	運営担当	100	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	
3	国内	防災推進国民大会 2019実行委員会	防災こくたい	20191019	20191020	名古屋コンベン ションホール	名古屋市	日本	ポスター展示 対応	15,000	IRIDeS協力	その他	
4	国際	WBF国内実行委員 会及びWBF国際実 行委員会	世界防災フォーラム	20191109	20191112	仙台国際セン ター	仙台市	日本	セッション開催	900	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	磐城高校SSHの大学 訪問	講演者	20190419	20190419	東日本大震災からの教訓・津波防災対策	小中高	磐城高校	東北大学工学 部建築・社会 環境工学科	仙台	日本	50
2	講演会	DRR Women's Leadership Training Programme	講演者	20191031	20191031	地震・津波の基礎知識と防災	行政	UNITAR	国際ホテル	仙台	日本	40
3	講演会	古川黎明高校SSHの 大学訪問	講演者	20190201	20190201	東日本大震災からの教訓・津波防災対策	小中高	古川黎明高校	災害科学国際 研究所	仙台	日本	20

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20191107	多目的ホール・災害科学国際研究所	国外	東北大学災害科学国際研究所とジャクアラ大学数理学部との部局間学術交流協定	研究機関	ジャクアラ大学数理学部	20191107	5
2	20191107	多目的ホール・災害科学国際研究所	国外	東北大学工学研究科とジャクアラ大学工学研究科との部局間学術交流協定	研究機関	ジャクアラ大学工学研究科	20191107	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	在東京タイ王国大使館	サッパシー・アナ ワット	20190607	その他	勾当台公園	仙台	その他	20

## 門廻 充侍 助教

### SETO Shuji

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	システム理工学部	2012	3	関西大学	大学院社会安全研究科	2014	3	修士(学術)	2014	3
					関西大学	大学院社会安全研究科	2017	3	博士(学術)	2017	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	2017	3	日本学術振興会 特別研究員DC2(関西大学 大学院社会安全研究科 防災・減災専攻)	特別研究員
2	2017	4	2018	1	日本学術振興会 特別研究員PD(関西大学 社会安全学部 安全マネジメント学科)	特別研究員
3	2018	4	現在		関西大学 社会安全学部	非常勤講師
4	2018	2	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	日本自然災害学会	American Geophysical Union

#### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	総務部門 全国大会委員会 プログラム編成会議 2019年度	第II部門委員	20190425

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波災害における死因	海洋レーダ	GPS波浪計	津波工学

#### B. 研究活動

研究活動の概要

宮城県警察本部から提供された犠牲者情報(9527名分)を用いて、東日本大震災における宮城県での犠牲者に関する位置情報(犠牲者住所、遺体発見場所)を分析し、各自治体での犠牲者分布を示した。また遺体発見場所タイプの分析を行い、遺体発見時の状況を9種に分類できることを示した。12分類の死因と犠牲者の位置情報を組み合わせ、宮城県自治体における死因の傾向を示した。宮城県気仙沼市および石巻市を対象に、遺体発見場所に基づき詳細な犠牲者分布を示した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	2019	7	東日本大震災における宮城県での犠牲者の位置情報に関する研究	国内
2	2019	4	現在		東日本大震災における宮城県気仙沼市での犠牲者に関する研究	国内
3	2019	4	現在		東日本大震災における宮城県石巻市での犠牲者に関する研究	国内
4	2019	7	現在		東日本大震災における宮城県自治体での死因に関する研究	国内
5	2019	4	現在		海洋レーダを用いた沿岸部における津波高推定法の検討	国内

#### 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
0	1	2	3		1	0	2	0

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高知県における最大クラスの津波による地形変化と潜在的影響の評価	山下 啓, 菅原 大助, 門廻 充侍, 有川 太郎, 高橋 智幸, 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	1_685	1_690	20191017
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災での想定浸水域外におけるハザードマップおよびリスク認知と避難実態	芹川 智紀, Anawat SUPPASRI, 門廻 充侍, 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	1_1363	1_1368	20191017
3	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Challenge to Build the Science of Human Survival from Disaster Starting from Analysis for the 2011 Tohoku Tsunami	Shuji Seto, Fumihiko Imamura, Anawat Suppasri	Journal of Disaster Research	14	9	1323	1328	20191201

学会発表

単名	5	筆頭連名	6	その他の連名	5	合計	16
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合 2019年大会	近貞 直孝	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190528	東日本大震災における宮城県市町村での死 因の特徴	門廻充侍, 今村文彦
2	国内	第5回東北大学若手研究 者アンサンブルワーク ショップ	鈴木 一行	単名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20190607	20190607	20190607	東日本大震災における宮城県での死因分類	門廻充侍
3	国際	The 27th IUGG General Assembly	-	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	PALAIS DES CONGRÈS DE MONTRE AL	Montreal	カナダ	20190709	20190717	20190713	Classifying the cause of death in Miyagi prefecture in the Great East Japan Earthquake	Shuji SETO, Fumihiko IMAMURA
4	国際	the AOGS 16th Annual Meeting 2019	-	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	SUNTEC Singapore	Suntec	シンガ ポール	20190728	20190802	20190801	Feasible Study for Predicting Tsunami Height by Using Oceanographic Radar Installed in Wakayama Prefecture	Shuji SETO, Tomoyuki TAKAHASHI, Hirofumi HINATA, Ryotaro FUJI, Fumihiko IMAMURA
5	国内	第38回日本自然災害学 会学術講演会	本間 基寛	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生 涯学習セ ンター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	東日本大震災における宮城県内での犠牲者 住所・遺体発見場所およびそのタイプの分類 解析	門廻充侍, 今村文彦
6	国内	第38回日本自然災害学 会学術講演会	本間 基寛	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生 涯学習セ ンター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	東日本大震災における犠牲者住所に基づ く死因の空間分布 - 宮城県石巻市の事例 -	芹川智紀, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
7	国内	第66回海岸工学講演会	Anawat SUPPASRI	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県 民交流セ ンター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191024	宮城県気仙沼市における震災データを活用 による犠牲率と黒い津波外力との関係	門廻充侍, 山下啓, 高橋 智幸, 今村文彦
8	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	The cause of death analysis based on the deceaseds data in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Miyagi prefecture	Shuji SETO, Tomoki SERIKAWA, Hirokazu KAMATA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
9	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	The analysis of location data related to the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Miyagi prefecture	Shuji SETO, Hirokazu KAMATA, Tomoki SERIKAWA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
10	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	Spatial distribution of cause of death based on resident address of the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Ishinomaki City, Miyagi prefecture	Tomoki SERIKAWA, Shuji SETO, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
11	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	Investigation of typhoon no. 19 induced flood damages and historical characteristics of flood hazards around Yoshida River in Miyagi Prefecture, Japan	Masakazu HASHIMOTO, Shuji SETO, Ryu MIYAMOTO, Saroj KARKI
12	国内	World Bosai Forum/IDRC 2019	-	単名	いいえ	その他	仙台国際 センター	仙台	日本	20191109	20191113	20191110	Analyzing the victim data in the Great East Japan Earthquake provided by Miyagi Prefectural Police	Shuji Seto
13	国内	2019年度水域の災害・ 環境問題に関する 研究集会	-	単名	いいえ	口頭(一般)	徳島大学	徳島	日本	20191122	20191122	20191122	東日本大震災における宮城県での犠牲者に 関する研究～死因と犠牲者位置情報の分析～	門廻充侍
14	国際	AGU Fall Meeting 2019	-	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Moscone Center	San Francisco	アメリカ	20191209	20191213	201912	Examining the relationship between the cause of death and the location of the deceased in the 2011 Tohoku Tsunami: A case study of Kesennuma in Miyagi prefecture	Shuji SETO, Tomoki SERIKAWA, Anawat SUPPASRI, Fumihiko IMAMURA
15	国内	土木学会東北支部 令和元年度技術研究発 表会	日野智	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	秋田大学	秋田	日本	20200307	20200307	20200307	東日本大震災における遺体発見場所に基づ く死因傾向の分析 - 宮城県自治体での事 例 -	鎌田純二, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦, 芹川智紀
16	国内	土木学会東北支部 令和元年度技術研究発 表会	日野智	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	秋田大学	秋田	日本	20200307	20200307	20200307	東日本大震災における遺体発見場所に基づ く死因の空間分布 - 宮城県石巻市の事例 -	芹川智紀, 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名外種人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	指定国立大 災害 科学世界トップレ ベル研究拠点	東北大学 災害科学 世界ト ップレベル研究拠点 ～連携 フィールド第1弾～ 七ヶ浜ワークショップ	20190912	20190913	七ヶ浜町 七ヶ浜町中央公民 館	宮城県七ヶ浜町	日本	-	工学	運営	なし	なし	国内
2	国内	研究会	指定国立大 災害 科学世界トップレ ベル研究拠点	第2回世界防災フォーラム IDRC 2019 Cross-cutting the Disaster- Related Sciences: Challenges of a Multidisciplinary Team in Tohoku University	20191110	20191110	仙台国際センター	宮城県仙台市	日本	-	工学	運営	なし	なし	両方
3	国内	研究会	愛媛大学, 関西大 学, 徳島大学, 東 北大学, 琉球大学	2019年度水域の災害・環境問 題に関する研究集会	20191122	20191122	徳島大学 常三島キャンパス	徳島県徳島市	日本	30	工学	運営	なし	なし	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

関西大学社会安全学部の2年次生を対象に、災害調査実習を担当した。実習では、災害調査の目的および注意点、測量機器の使用法を学び、河川氾濫を想定し、大阪府高槻市の芥川において測量を実践した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	災害調査実習	関西大学	社会安全学部	安全マネジメント学科	2	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

①高校生や地域住民を対象とした防災に関する講演会に登壇した。②小児がん経験者の活動として、明治安田生命の社内向け講演会に登壇した。③関西大学において、留学を終了した学生を対象としたワークショップを行った。④研究に関するメディア対応を行い、9件以上取り上げられた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第29回防災文化 講演会	講演	20190608	20190608	フrootバックを用いたアプローチ ー津波から生き残るためにー	行政	東北大学災 害科学国際 研究所	気仙沼市 東日本大震災 遺構・伝承館	気仙沼	日本	45
2	展示会	令和元年度東北大学 懇話会 「萩のタベ」	展示ブースで の説明	20190828	20190828	災害科学の歩み, 発展, 社会への貢献	なし	東北大学 総務企画部 社会連携課	大手町プレイ ス カンファレン ス センター	東京	日本	-
3	ボランティア	留学帰国後ワー クショップ	ファシリテ ーター	20190831	20190831	自分自身の留学を振り返ろう	なし	関西大学 国際部	関西大学 梅田キャン パス	大阪市	日本	-
4	小中高との連携	東京音楽大学付 属高等学校	講演	20190905	20190905	わたしと防災, わたしと東北 気仙沼 ～津波防災に携わった8年～	小中高	東京音楽大 学付属高等 学校	東北大学 災害科学国際 研究所	仙台市	日本	-
5	講演会	小児がんに関する講 演会	講演	20200120	20200120	わたしと小児がん ～10+20年の歩み～	企業	明治安田 生命	明治安田生 命 本社ビル	東京	日本	50



## 有働 恵子 准教授

UDO Keiko

災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群基礎工学類	1998	3	筑波大学大学院	工学研究科	2003	3	博士(工学)	2003	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	2006	3	独立行政法人港湾空港技術研究所	研究官
2	2006	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助手
3	2007	4	2010	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助教
4	2010	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	准教授
5	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2
	土木学会	日本地球惑星科学連合

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海洋開発委員会 海洋開発論文集査読小委員会	委員	20090000
2	土木学会	海岸工学委員会 編集小委員会	委員	20100000
3	土木学会	海洋開発委員会	委員兼幹事	20140000
4	土木学会	Coastal Engineering Journal	Associate Editor-in-Chief	20190700
5		Journal of Marine Science and Engineering	Editor	20190200

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	海岸工学	水工水理学	地球環境学

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	男女共同参画委員会	委員	20140401
2	工学研究科土木工学専攻	環境施設整備委員会	委員	20180401
3	工学研究科土木工学専攻	大学院入試ワーキンググループ	委員	20180401
4	工学系研究科	女性研究者育成支援推進室 (ALicE)	副室長	20190000
5	全学	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	20190000

### B. 研究活動

研究活動の概要

今年度は、「地形乱流場における飛砂メカニズムの解明」(科研費国際共同研究強化)、「気候変動による河川から海岸への土砂供給量変化を考慮した確率海岸線変化モデルの開発」(科研費基盤研究(B))、「気候変動に伴う将来の砂浜消失予測」(文科省SI-CAT, JST/JICA SATREPS)等の研究プロジェクトを通して、気候変動による砂浜消失リスクに関する研究および海岸砂丘変形メカニズムに関する研究を行った。
--

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	現在		飛砂メカニズムの解明と砂浜-砂丘地形変化予測モデルの開発	国外
2	2010	4	現在		気候変動の砂浜への影響評価と適応策立案	国外
3	2011	4	現在		巨大津波前後の海浜変形およびその後の回復特性の解明	なし
4	2014	4	現在		衛星画像計測による沿岸被害把握技術の開発	なし
5	2016	4	現在		流砂系の土砂収支に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	吉野川流域における長期の土砂収支の推定	寺中吉輝, 有働恵子, 竹林洋史	土木学会論文集B1(水工学)	75	2	1_739	1_744	20190000
2	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	An assessment of measured and computed depth of closure around Japan	Keiko Udo, Roshanka Ranasinghe, Yuriko Takeda	Scientific Reports	10		2987		20200124
3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	Projections of Future Beach Loss along the Mediterranean Coastline of Egypt Due to Sea-Level Rise	Mahmoud Samy Ahmed Sharaan, Keiko Udo	Applied Ocean Research	94		101972		20200000
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	Impact of sea level rise on tourism carrying capacity in Thailand	Nidhinarangkoon, P., S. Ritphring, and K. Udo	Journal of Marine Science and Engineering	8		104		20200000

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	CECAR8 (第8回アジア土木技術国際会議)	茅野正恭	単名	はい	口頭(一般)	ホテルメトロポリタン池袋	東京	日本	20190416	20190419	20190416	Development of economic evaluation framework for adaptation to future beach loss	Keiko Udo and Ryo Kinokuni
2	国内	JpGU2019 (日本地球惑星科学連合2019大会)	齋藤	筆頭連名	はい	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	気候変動に伴う全国の砂浜消失将来予測と不確実性評価	有働恵子, 武田百合子
3	国際	第16回AOGS会議	David Higgitt	単名	はい	口頭(一般)	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre	Suntec	Singapore	20190728	20190802	20190729	Sediment Balance from Mountains to Coasts in Japan: Huge Impact of Past River Mining	Keiko UDO, Yuriko TAKEDA, Yoshiyuki YOKOO

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度は、4名の学部生、4名の修士学生、ならびに1名の博士学生を指導した。うち1名は国際学会での口頭発表を行った。また、パキスタンから短期留学生およびブラジルから学部研究生を受け入れた。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	1
2	地球環境学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	1
3	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	水理学Aおよび同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	12
5	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	7
6	流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	4

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、気候変動の砂浜への影響に関連して朝日新聞社の取材を受け掲載された。また、国土交通省の委員を3件、仙台市の委員を2件、科学技術振興機構の委員を3件、他を務めている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	Special Lecture	講義	20190503	20190503	Development of economic evaluation framework for adaptation to future beach loss	なし	フィジー国立大学	フィジー国立大学	スバ	フィジー	100
2	講演会	第36回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム	講演	20200111	20200111	気候変動に伴う海面上昇による 全国の砂浜消失将来予測と適応策	なし	土木学会海岸工学委員会	東京海洋大学	東京都港区	日本	100

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省 東北地方整備局		リバーカウンセラー	20100426
2	地方自治体	仙台市	広瀬川清流保全審議会	委員	20130201
3	民間・NPO	建設工学研究振興会		非常勤研究員	20130401
4	国・政府	国土交通省 東北地方整備局	阿武隈川水系河川整備委員会	委員	20161228
5	国・政府	科学技術振興機構	SATREPS平成31年度公募選考・審査委員会(防災分野)	委員	20181119
6	地方自治体	仙台市水道局	水道事業基本計画検討委員会	委員	20181130
7	国・政府	科学技術振興機構	国際科学技術協力推進会	委員	20190218
8	国・政府	国土交通省	気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会	委員	20190906

# 橋本 雅和 助教

## HASHIMOTO Masakazu

災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山梨大学	工学部	2009	3	山梨大学	医学工学総合教育部	2011	3	修士(工学)	2011	3
2					山梨大学	医学工学総合教育部	2014	3	博士(工学)	2014	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2015	3	京都大学 防災研究所	特定研究員
2	2015	4	2018	3	京都大学 防災研究所	特任助教
3	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	土木学会	自然災害学会	水文・水資源学会	International Association for Hydro-Environment Engineering and Research	American Geophysical Union

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会		20181001

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	洪水氾濫解析	数値シミュレーション	水文疫学	河岸侵食

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

主に二つの軸で研究を進めており、それぞれ「UAV-SfMによる三次元点群データを用いた越水地点推定」と「降雨流出氾濫モデルへの非矩形ネスティング計算法の適用」である。前者は国内学会発表で学術発表賞を受賞しており、後者は国内査読付き学術論文に掲載された。その他、Bangladeshの農村地域における環境問題に関する研究を国際共同研究として進め、令和元年台風第19号で被災した吉田川で洪水氾濫シミュレーションを行なった。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		Bangladeshを対象とした洪水ハザードマップの作成	両方
2	2015	4	現在		洪水氾濫を起因とした有害物質の拡散に関する研究	両方
3	2018	9	現在		洪水氾濫数値解析と衛星画像解析による浸水家屋判別手法の高度化	両方
4	2016	4	現在		Bangladeshにおける洪水に伴う人の移動に関する研究	両方
5	2014	6	現在		洪水氾濫解析におけるネスティング計算法の適用	国内
6	2011	4	現在		洪水氾濫解析手法と社会疫学的分析手法を用いた浸水形態と下痢症の関係解析	両方

#### 論文

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	うち			
																単著	筆頭共著	1	その他の共著
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	洪水氾濫解析における非矩形領域ネスティング計算法の適用	橋本雅和, 川池健司, 出口知歌, 中川一	土木学会論文集B1(水工学)		2	1_1284	1_1289	20191100				

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	武藤裕則	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	仙台	日本	20190905	20190906	20190905	UAVによる三次元点群データを用いた洪水氾濫流の越水地点推定	橋本雅和, 佐藤翔輔, 市川健, 植田晋, 佐藤慶治, 天谷香織, 那須野新
2	国際	世界防災フォーラム	なし	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191111	20191111	20191111	Investigation of typhoon no. 19 (Hagibis) induced flood damages and historical characteristics of flood hazards around Yoshida River in Miyagi Prefecture, Japan	橋本雅和, 門廻充侍, 宮本龍, Saroj Karki
3	国際	The 7th International Symposium on Water Environment Systems 2019	なし	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20191115	20191115	20191115	Estimation of vulnerable spots for overtopping by using 3-D point cloud data generated by UAV-SfM approach	橋本雅和, 佐藤翔輔, 市川健, 植田晋, 佐藤慶治, 天谷香織, 那須野新
4	国内	東北地域災害科学研究集会	片岡俊一	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	山形	仙台	日本	20191226	20191226	20191226	台風19号における丸森町の被害調査報告	柴山明寛, 森口周二, 橋本雅和
5	国内	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会 2020年3月7日 公益社団法人土木学会東北支部	川越清樹	単名	いいえ	口頭(一般)	秋田大学手形キャンパス	仙台	日本	20200307	20200307	20200307	令和元年台風19号に伴う豪雨による鳴瀬川水系小西川および身洗川の氾濫実態	橋本雅和

C. 教育活動

教育活動の概要

建築・社会環境工学科水環境デザインコースの博士および修士ゼミ、所内の博士ゼミ、研究室でのゼミ等において学生発表の聴講および質疑を行った。また、講義については創造工学研修、水環境デザイン演習IIを担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	創造工学研修	東北大学	工学部		1	2	15
2	水環境デザイン演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	5セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

令和元年台風19号に関連して9件のメディア対応を行った。また、水害に対する日頃の備えと情報取捨について3件を一般向け講演、1件を震災技術対策展で報告した。さらに、小学生向け新聞で記事を執筆した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	5件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	宮城県小河原管内 防災主任研修会地域別研修会 講演	講演	2019/11/1	2019/11/1	近年の河川災害の特徴と被害状況	なし	宮城県総合教育センター	宮城県大河原合同庁舎	宮城県角田市	日本	200
2	セミナー	第10回「震災対策技術展」東北 セミナー 講師	講演	2019/11/11	2019/11/11	台風19号の被害概要および吉田川現地調査	なし	「震災対策技術展」事務局	仙台国際センター	仙台市	日本	30
3	講演会	名城大学・東北大学連携協定キックオフイベント	講演	2020/1/8	2020/1/8	台風19号による記録的な大雨の気象要因および鳴瀬川水系吉田川の調査報告	なし	名城大学自然災害リスク軽減研究センター	名城大学太白キャンパス	名古屋市	日本	500
4	その他	みやぎ「災害とメディア」研究会 2020年合宿視察(第9回例会)現地案内役	現地ガイド	2020/2/5	2020/2/5	丸森町で起きた洪水氾濫のメカニズム	なし	みやぎ「災害とメディア」研究会	丸森町内川・新川	宮城県丸森町	日本	20
5	講演会	大郷町 治水セミナーin おおさと	講演	2020/2/16	2020/2/16	河川堤防を考える	なし	宮城県大郷町	大郷町文化会館	宮城県大郷町	日本	300

## 越村 俊一 教授

### KOSHIMURA Shunichi

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1995	3	東北大学大学院	工学研究科	2000	3	博士(工学)	2000	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2002	3	日本学術振興会(東京大学地震研究所, 米国海洋大気局)	特別研究員
2	2002	4	2005	3	阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター	専任研究員
3	2005	5	2012	4	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター	准教授
4	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
5	2009	4	現在		神戸大学大学院 海事科学研究科, 国際海事研究所	客員教授
6	2018	3	現在		株式会社RTi-cast	CTO
7	2018	8	現在		理化学研究所 革新知能統合研究センター	客員研究員
8	2019	4	現在		東北大学タフ・サイバーフィジカルAI研究センター	教授(兼務)

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	地域安全学会	日本計算工学会	日本地震工学会	American Geophysical Union	European Geoscience Union

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本土木学会	海岸工学委員会	委員	20130401
2	日本土木学会	原子力土木委員会	委員	20140401
3	地域安全学会		理事	20110401
4	日本土木学会	海岸工学委員会・津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	副小委員長	20150000
5	日本土木学会	海岸工学委員会・減災アセスメント小委員会	委員	20150000
6	The International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	Tsunami Commission	委員	20110000
7	Journal of Disaster Research		ゲストエディタ	20190000
8	日本計算工学会		代表会員	20180000
9	17th World Conference on Earthquake Engineering	Organizing Committee	委員(WG長)	20180000
10	Coastal Engineering Journal		ゲストエディタ	20190000
11	Remote Sensing (Journal)		ゲストエディタ	20141000
12	International Tsunami Symposium		実行委員	20190000

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	リモートセンシング	空間情報科学	数値シミュレーション

#### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	大学院教務委員会	委員	20190401
2	全学	プロボスト室員	WGリーダー	20180000
3	サイバーサイエンスセンター	共同利用連絡会議	委員	20170000

#### B. 研究活動

研究活動の概要

リアルタイムシミュレーション, リモートセンシング, 空間情報処理を融合した広域被害把握技術の高度化に取り組んだ。特に, サイバーサイエンスセンター, 理学研究科, 大阪大学, 東京大学, および民間事業者と産学連携で取り組んだリアルタイム津波浸水被害予測技術の高度化に取り組んでいる。科研費基盤研究S, JST CREST プロジェクトの代表を務め, 災害医学との連携, ソーシャルセンシング・ビッグデータ解析との融合による, 新しい災害シミュレーションの創出にも取り組んだ。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011		現在		東日本大震災の被害全貌の解明と, 震災の教訓を踏まえた次世代災害予測・減災システムに関する研究	両方
2	2012		現在		災害リモートセンシングによる広域被害把握に関する研究	両方

3	2014	現在	センシングとシミュレーションの統合による広域被害把握技術の深化に関する研究	両方
4	2017	現在	広域被害把握技術の災害医療への展開に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	13	合計	15	うち	国際査読有	13	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami analytical fragility curves for the Colombian Pacific coast: A reinforced concrete building example	Medina, S., Lizarazo-Marriaga, J., Estrada, M., <u>Koshimura, S.</u> , Mas, E., Adriano, B.	Engineering Structures	196	5	109309		20190614
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Drawback in the change detection approach: False detection during the 2018 western Japan floods	Moya, L., Endo, Y., Okada, G., <u>Koshimura, S.</u> , Mas, E.	Remote Sensing	11	19	1	19	20191005
英語	筆頭共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Tsunami Debris Mapping by Optical and LiDAR Remote Sensing	<u>Koshimura, S.</u> , Fukuoka, T.	The 29th International Ocean and Polar Engineering Conference					20190715
英語	筆頭共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Remote Sensing Approach for Mapping and Monitoring Tsunami Debris	<u>Koshimura, S.</u> , Fukuoka, T.	IGARSS 2019 - 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium			4829	4832	20190728
英語	共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Advanced Polarimetric Stereo-Sar for Tsunami Debris Estimation and Disaster Mitigation	Koyama, C. N., <u>Koshimura, S.</u> , Sato, M.	IGARSS 2019 - 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium			4837	4840	20190728
英語	共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Estimating Tsunami Inundation Depth Using Terrasar-X Data	Gokon, H., <u>Koshimura, S.</u> , Meguro, K.	IGARSS 2019 - 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium			4845	4848	20190728
英語	共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Cross-Domain-Classification of Tsunami Damage Via Data Simulation and Residual-Network-Derived Features From Multi-Source Images	Adriano, B., Yokoya, N., Xia, J., Baier, G., <u>Koshimura, S.</u>	IGARSS 2019 - 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium			4947	4950	20190728
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Study on the Intensity and Coherence Information of High-Resolution ALOS-2 SAR Images for Rapid Massive Landslide Mapping at a Pixel Level	Ge, P., Gokon, H., Meguro K., <u>Koshimura, S.</u>	Remote Sensing	11	23			20191127
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Validation of the MRT-LBM for three-dimensional free-surface flows: an investigation of the weak compressibility in dam-break benchmarks	Sato K., <u>Koshimura, S.</u>	Coastal Engineering Journal	62		53	68	20191127
日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	強震動と津波ハザードの連続性を考慮した橋梁・盛土構造物の信頼性評価法の提案と南海トラフ地震を想定したケーススタディ	石橋寛樹, 小島貴之, 秋山充良, 越村俊一	土木学会論文集A1(構造・地震工学)	76	1	41	60	20200120
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Statistical analysis of earthquake debris extent from wood-frame buildings and its use in road networks in Japan	Moya, L., Mas, E., Yamazaki, F., Liu, W., <u>Koshimura, S.</u>	Earthquake Spectra	36	1	209	231	20200201
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	A comparative study of empirical and analytical fragility functions for the assessment of tsunami building damage in Tumaco, Colombia	Paez-Ramirez, J., Lizarazo-Marriaga, J., Medina, S., Estrada, M., Mas, E., <u>Koshimura, S.</u>	Coastal Engineering Journal					20200219
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Semiautomatic Pixel-Object Method for Detecting Landslides Using Multitemporal ALOS-2 Intensity Images	Adriano B., Yokoya, N., Miura, H., Matsuoka, M., <u>Koshimura, S.</u>	Remote Sensing	12	3	1	19	20200208
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Detecting urban changes using phase correlation and ℓ1-based sparse model for early disaster response: A case study of the 2018 Sulawesi Indonesia earthquake-tsunami	Moya, L., Muhari, A., Adriano, B., <u>Koshimura, S.</u> , Mas, E., Marval-Perez, L. R., Yokoya, N.	Remote Sensing of Environment	242	6	111743		20200227
日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	南海トラフ地震により生じる津波災害廃棄物量のリスク評価	小島貴之, 石橋寛樹, 秋山充良, 越村俊一	構造工学論文集	66	A	159	169	20200300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	2	編集		単著		筆頭共著		共著		合計	2	うち	国際	2	国内	0
----	---	----	--	----	--	------	--	----	--	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Special Issue "Advances in Remote Sensing for Disaster Research: Methodologies and Applications", Remote Sensing	編集本(編集者・Editor)	20190000	<u>Erick Mas, Shunichi Koshimura</u>	編集	MDPI	国外	
英語	Special Issue "Tsunamis in Latin American Countries", Coastal Engineering Journal	編集本(編集者・Editor)	20190000	<u>Erick Mas, Shunichi Koshimura</u>	編集	Taylor & Francis	国外	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者合)	区分	所外連携
日本語	リアルタイム津波予測の発展	その他	無	はい	日本地震工学会誌	38		23	26	20191000	越村俊一	単著	国内
日本語	津波の広域被害把握技術の進化と災害医療支援システムの革新にむけて	学術雑誌	無	はい	BIO Clinica	35	3	81	90	20200210	江川新一, 越村俊一	共著	国内

学会発表

単名	4	筆頭連名	3	その他の連名	0	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	European Geoscience Union General Assembly 2019		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Austria Center Vienna	Vienna	Austria	20190407	20190412	20190411	Field Survey of the 28 September Earthquake Tsunami of Sulawesi, Indonesia	<u>Shunichi Koshimura</u> Abdul Muhari, Bruno Adriano, Luis Moya, Desti Ayunda, Bagus Afriyanto, Erick Mas
2	国際	The Twenty-ninth (2019) International Ocean and Polar Engineering Conference		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Hilton Hawaiian Village	Honolulu	USA	20190616	20190621	20190619	Tsunami Debris Mapping by Optical and LiDAR Remote Sensing	<u>Shunichi Koshimura</u> Takumi Fukuoka
3	国際	27th IUGG General Assembly (International Union of Geodesy and Geophysics)		筆頭連名	はい	口頭(招待)	Palais des congrès de Montréal	Montreal	Canada	20190708	20190718	20190712	Real-time Tsunami Inundation and Damage Forecasting in Japan - Present and Future	<u>Shunichi Koshimura</u> Takuya Inoue, Yusaku Ohta, Ryota Hino, Akihiro Musa, Yoichi Murashima, Masayuki Kachi, Yoshihiko Sato, Hiroaki Kobayashi
4	国際	27th IUGG General Assembly (International Union of Geodesy and Geophysics)		単名	はい	口頭(招待)	Palais des congrès de Montréal	Montreal	Canada	20190708	20190718	20190714	Integrating real-time simulation, earth observation, and geo-informatics for assessing tsunami impact	<u>Shunichi Koshimura</u>
5	国内	第30回廃棄物資源循環学会		単名	はい	口頭(基調)	東北大学	仙台	日本	20190919	20190921	20190919	津波の被害予測と瓦礫量の推定	<u>Shunichi Koshimura</u>
6	国際	SENALMAR 2019		単名	はい	口頭(基調)	Universidad del Atlántico	Barranquilla	Colombia	20191022	20191025	20191024	Lessons from the 2011 Tohoku earthquake tsunami disaster and advances of tsunami numerical simulation and risk analysis	<u>Shunichi Koshimura</u>
7	国際	US - Japan Relationship Conference Series		単名	はい	口頭(招待)	Tulane River Center	New Orleans	USA	20200218	20200218	20200218	How Modeling and Simulation Can Help Improve Coastal Communities' Preparation, Defense, and Recovery from Disaster: Insights from Japan's Experiences	<u>Shunichi Koshimura</u>

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	1 件
----	-----

種別	国内国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1 特許	国内	復旧計画策定装置, 復旧計画策定方法および復旧計画策定プログラム	越村俊一, 寺田賢二郎	特願2019-142331	20190801			学外共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	World Bosai Forum	World Bosai Forum 2019 Organized Session "Innovative Remote Sensing Technologies for Enhancing Disaster Management"	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台	日本	50 (20)	環境&地球科学	Organizing Committee, Chair	IRIDeS主催・共同主催		両方
2	国際	シンポジウム	World Bosai Forum	World Bosai Forum 2019 Organized Session "New Horizon of IRIDeS-NTT Innovative Research"	20191111	20191111	仙台国際センター	仙台	日本	50 (20)	環境&地球科学	Organizing Committee, Co-Chair	IRIDeS主催・共同主催	NTT	両方
3	国際	シンポジウム	World Bosai Forum	World Bosai Forum 2019 Organized Session "Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science"	20191112	20191112	仙台国際センター	仙台	日本	50 (20)	環境&地球科学	Organizing Committee, Co-Chair	IRIDeS主催・共同主催	University of Washington	両方



C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災の教訓を踏まえ、学生と協働するという意識の元、広域被害把握技術の枠組みを構築した。学生には、研究成果の発信の重要性を伝え、国内外での積極的な発表を心がけるよう指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1	基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	全学		1	1セメ	3
2	基礎ゼミ(災害の科学)	東北大学	全学		1	2セメ	2
3	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4	沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	7
5	防災システム論	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		後期	7
6	流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	工学部研究科	土木工学		後期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

災害科学国際研究所の理念に則り、被災地の復興への貢献と東日本大震災の教訓の発信、新しい減災研究のパラダイムを創成するという目標のもと、社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	チリ国中南米防災人材育成拠点化支援プロジェクト(KIZUNAプロジェクト)	講義	20190509	20190510	Lessons from the 2011 Tohoku earthquake tsunami disaster	なし	Pontificia Universidad Catolica de Valparaiso (PUCV)	Pontificia Universidad Catolica de Valparaiso (PUCV)	Valparaiso	Chile	30
2	講演会	海岸・津波防災地域づくり研修	講義	20190614	20190614	津波と高潮	なし	国土交通省	国土交通大学校	小平市	日本	30
3	講演会	浜松市令和元年度「防災講演会」	招待講演	20190726	20190726	東日本大震災の教訓と巨大災害への備え	なし	浜松市防災協会	アクトシティ浜松コンgresセンター	浜松市	日本	200
4	セミナー	中米津波警報センター能力強化プロジェクト	講義	20190902	20190903	Lecture on Tsunami Modeling Technology	なし	Instituto Nicaragüense de Estudios Territoriales (INETER)	Instituto Nicaragüense de Estudios Territoriales (INETER)	Nicaragua	Nicaragua	2
5	その他	国際地震工学センター研修	講義	20200306	20200306	津波ハザード評価ー津波・浸水予測ー	なし	建築研究所国際地震工学センタ	建築研究所	つくば誌	日本	2

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	委員	20130000
2	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	委員	20110000
3	民間・NPO	東北電力	津波評価に関する技術検討会	委員	20130000
4	国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	20130000
5	国・政府	文部科学省	国立研究開発法人防災科学技術研究所部会	委員	20150000
6	国・政府	気象庁	津波予測技術勉強会	委員	20090000
7	国・政府	国土交通省	海岸技術懇談会	委員	20080000
8	地方自治体	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	委員	20140000
9	地方自治体	福島県	技術検討会	委員	20140000
10	地方自治体	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	委員	20140000
11	民間・NPO	特定非営利活動法人・大規模災害対策研究機構		理事	20060000

マス サマネス エリック アルトゥロ 准教授

MAS SAMANEZ Erick Arturo

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	国立工科大学(ペルー)	土木工学部	2004	12	東北大学大学院	工学研究科土木工学専攻	2012	9	博士	2012	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	6	2007	4	カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
2	2007	4	2008	4	カヤオ県庁(ペルー国)	災害防災研修コース担当者
3	2007	9	2009	3	ラ・プンタ市役所(ペルー国)	市長の災害防災アドバイザー
4	2008	4	2009	3	カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
5	2009	10	2012	9	東北大学(日本国)	大学院生(博士)
6	2012	10	2016	5	東北大学 災害科学国際研究所(日本国)	助教
7	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所(日本国)	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	Council of Engineering of Peru (CIP)	日本地球惑星科学連合(JpGU)	American Geophysical Union (AGU)	土木学会(JSCE)	Institute for Systems and Technologies of Information, Control and Communication (INSTICC)

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会・海岸工学委員会	津波小委員会	会員	20150700

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	災害リスク管理	地理情報システム	エージェントベースモデリング

B. 研究活動

研究活動の概要

今年度では当方の主な活動について報告いたします。(1)国際共同研究、SATREPS コロンビアとメキシコプロジェクトにより国外連携の活動をした。(2)共同受託研究で数値シミュレーション及び避難シミュレーションを行った。(3)災害医療との連携によりエージェントベース技術を用いて災害救護対応システムを研究した。(4)量子アニーリングに関するプロジェクトではリアルタイム避難誘導に関する研究をしておりませ。(5)また、多数の外国人来客に被災地をご案内をした。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2020	3	[協力者] JST-JICA-SATREPS Colombia:コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発	国外
2	2014	4	2020	3	[協力者] CREST:大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出	国内
3	2015	6	現在		[協力者] JST-JICA-SATREPS Mexico:メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究	国外
4	2017	9	現在		[分担者] 理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	国内
5	2018	4	現在		[分担者] 平成30年度次世代領域研究開発(高性能汎用計算機高度利用事業費補助金):量子アニーリングアシスト型次世代スーパーコンピューティング基盤の開発	国内
6	2018	4	現在		[分担者] 平成30年度 挑戦的研究(萌芽):「自分は大丈夫」という心理を考慮した避難行動メカニズムの解明と避難促進政策設計	国内
7	2019	11	現在		[代表者] 避難シミュレーションに関する研究助成金	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami analytical fragility curves for the Colombian Pacific coast: A reinforced concrete building example	Medina, S., Lizarazo-Marriaga, J., Estrada, M., Koshimura, S., Mas, E., Adriano, B.	Engineering Structures	196	5	109309		20190614
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Drawback in the change detection approach: False detection during the 2018 western Japan floods	Moya, L., Endo, Y., Okada, G., Koshimura, S., Mas, E.	Remote Sensing	11	19	1	19	20191005
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Statistical analysis of earthquake debris extent from wood-frame buildings and its use in road networks in Japan	Moya, L., Mas, E., Yamazaki, F., Liu, W., Koshimura, S.	Earthquake Spectra	36	1	209	231	20200201
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	A comparative study of empirical and analytical fragility functions for the assessment of tsunami building damage in Tumaco, Colombia	Paez-Ramirez, J., Lizarazo-Marriaga, J., Medina, S., Estrada, M., Mas, E., Koshimura, S.	Coastal Engineering Journal					20200219
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Detecting urban changes using phase correlation and l1-based sparse model for early disaster response: A case study of the 2018 Sulawesi Indonesia earthquake-tsunami	Moya, L., Muhari, A., Adriano, B., Koshimura, S., Mas, E., Marval-Perez, L. R., Yokoya, N.	Remote Sensing of Environment	242	6	111743		20200227

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Global trends in advancing tsunami science for improved hazard and risk understanding	その他	無	はい	Global Assessment Report on Disaster Risk Reduction 2019 (UNDRR)					2019	Løvholt, F., Fraser, S., Salgado-Galvez, M., Lorito, S., Selva, J., Romano, F., Suppasri, A., Mas, E., Polet, J., Behrens, J., Canals, M.	共著	国外

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	5	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	2nd International Symposium on Transportation Studies in Developing Countries (ISTSDC 2019)		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Halu Oleo University	Kendari	Indonesia	20191101	20191103		Identification of Factors Influencing the Evacuation Walking Speed in Padang, Indonesia.	<u>Yosritzal</u> , Putra, H., Kemal, B M., Mas, E., Purnawan
国内	DPRI Annual Meeting 2020		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200221		Evacuation drills under different scenarios based on tsunami inundation simulation-Practices of primary school in Zihuatanejo, Mexico	<u>Nakano, G.</u> , Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E., Koshimura, S.
国際	EGU General Assembly 2019		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Austria Center Vienna	Vienna	Austria	20190407	20190412		Field Survey of the 28 September Earthquake Tsunami of Sulawesi, Indonesia	<u>Koshimura, S.</u> , Muhari, A., Adriano, B., Moya, L., Ayunda, D., Afriyanto, B., Mas, E.
国際	2019 Annual Meeting of the Union Geofisica Mexicana		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Hotel Sheraton Bungavillas	Puerto Vallarta	Mexico	20191027	20191101		Fusion of evacuation drill with tsunami inundation simulation-Development and effect of the tsunami educational material	<u>Nakano, G.</u> , Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E., Koshimura, S.
国内	22nd CEReS Environmental Remote Sensing Symposium		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Chiba University	Chiba	Japan	20190220	20190220	20190220	Automatic Landslide Mapping Using Peak Ground Velocity and Sentinel-1 Imagery: The case of the 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake	<u>Moya, L.</u> , Liu, W., Yamazaki, F., Koshimura, S., Mas, E.
国際	12th Aceh International Workshop on Sustainable Disaster Recovery		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Tohoku University	Sendai	Japan	20191107	20191108		Analysis of Tsunami Evacuation Simulation with Minimum Congestion and Higher Survivability using Reinforcement Learning Algorithm	<u>Mas, E.</u> , Moya, L., Koshimura, S.

C. 教育活動

教育活動の概要

本研究室では4年生の卒論テーマに当たって指導していました。そこで、エージェントベース技術を用いて災害医療救護活動について研究を行なった。また、津波予測システムを向上ためデータベース技術について研究した。さらに、建物被害推定の向けリモートセンシング技術により機械学習について研究を行なった。学生指導以外には学部授業を担当しておりました。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	建築社会環境工学演習	東北大学			2	3セメ	12
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	International Lecture on Global Disaster Mitigation I	東北大学	工学部研究科	リーディング大学院		前期	7
4	実践的防災学II	東北大学	工学部研究科	リーディング大学院		前期	3
5	数学物理学演習	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	前期	16
6	Tsunami Evacuation Planning	建築研究所	研修コース	津波工学			3
7	災害制御学特論	東北大学	工学部研究科	土木工学			2

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度、当方の社会活動について以下のようにです:(1)国際連携として南米の国に講演を行なった。(ペルー、チリ、エクアドル、メキシコ、コロンビア)(2)さらに、アジア防災センターと青年海外協力協会の協力で外国の来客に東日本大震災の教訓について講義と被災地案内をした。

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	国際航業株式会社	吉永 由美佳	20190905	講演	仙台市・東北大学災害国際科学研究所	仙台市	講演・発表	15

## 五十子 幸樹 教授

## IKAGO Kohju

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1990	3	京都大学大学院	工学研究科	2005	9	博士(工学)	2005	9

## 職歴

	期間			勤務先	職名
	開始年	月	終了年		
1	1992	4	2004	12	(株)日建設計 構造設計部員
2	2005	1	2008	5	(株)日建設計 構造設計主管
3	2008	6	2013	1	東北大学大学院 工学研究科 准教授
4	2013	2	現在		東北大学 災害科学国際研究所 教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本建築学会	日本地震工学会	米国土木学会 (ASCE)

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	建築物の構造振動制御情報小委員会	委員	20080600
2	日本地震工学会	第15回日本地震工学シンポジウム運営委員会委員	委員	20180901

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	最適設計	免震構造	制振構造	耐震構造	構造制御

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部	オープンキャンパス実施委員会	委員	20190401
2	工学部	国際関係担当	主担当	20190401
3	工学部	設計教育委員会	委員	20160401
4	工学部	将来計画タスクフォース	委員	20160401
5	全学	学生生活支援審議会	委員	20180401
6	全学	学務審議会	委員	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

主として免震構造物を対象に地震時応答変位の抑制に有効な複素減衰を因果的に近似する方法について研究した。既に提案していた双一次型の因果的デジタルフィルタをMaxwell体とそれに並列に配置された負剛性要素の組み合わせで実現できることを理論的に明らかにした。また、このモデルがよく知られているBiotのモデルや、Makrisのモデルの特殊な場合に相当していることを理論的に明らかにした上で、これらのモデルを統一的に表現出来る数理モデルを非整数階微積分表現で提示した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	6	現在		同調粘性マスダンパー制震システムの開発	国内
2	2010	4	現在		回転慣性質量ダンパーを用いた免震制御技術の開発	国内
3	2013	4	現在		高層建築物の地震時下層部変形集中現象の解明と制御技術の開発	国内
4	2014	4	現在		多目的遺伝アルゴリズムによる免震制御デバイスの創生	国内
5	2013	12	現在		振動制御デバイスのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化	国内
6	2014	4	現在		力学変分原理の逆問題定式化と構造最適化	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	-------	-------

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experimental characterization and performance improvement evaluation of an electromagnetic transducer utilizing a tuned inerter	Keita Sugiura, Yuta Watanabe, Takchiko Asai, Yoshikazu Arai, Kohju Ikago	Journal of Vibration and Control					20190900
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Theoretical Study on a Cable-Bracing Inerter System for Seismic Mitigation	Liyu Xie, Xinlei Ban, Songtao Xue, Kohju Ikago, Jianfei Kang, Hesheng Tang	Applied Sciences	9	19			20190900
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Rate-Independent Linear Damping for the Improved Seismic Performance of Inter-Story Isolated Structures	Keivan Ashkan, Zhang Ruiyang, Keivan Darioush, Phillips Brian M, Ikenaga Masahiro, Ikago Kohju	Journal of Earthquake Engineering			1	24	20200000
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Damping enhancement principle of inerter system	Zhang Ruiyu, Zhao Zhipeng, Pan Chao, Ikago Kohju, Xue Songtao	Structural Control and Health Monitoring			e2523		20200122

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	慣性質量ダンパーとその応用	その他	無	いいえ	鉄鋼技術					20190000	五十子幸樹	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	3	その他の連名	8	合計	11
----	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	日本建築学会東北支部研究報告会	CUADRA CARLOS	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナいわて県民情報交流センター	盛岡	日本	20190629	20190629	20190629	A first-order approximation of Biot's model to realize rate-independent linear damping Part1: A review of the state of the art	五十子幸樹, 羅浩, 福田伊織, 李大偉
国内	日本建築学会東北支部研究報告会	古川幸	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナいわて県民情報交流センター	盛岡	日本	20190629	20190629	20190629	Theoretical Analysis of a Novel Eddy Current Inerter Damper Part1: Study of mechanical behavior	李大偉, 薛松濤, 五十子幸樹, 謝麗宇, 羅浩
国内	日本建築学会東北支部研究報告会	古川幸	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナいわて県民情報交流センター	盛岡	日本	20190629	20190629	20190629	Theoretical Analysis of a Novel Eddy Current Inerter Damper Part2: Parameter Analysis	李大偉, 五十子幸樹, 薛松濤, 謝麗宇, 羅浩
国内	日本建築学会東北支部研究報告会	Buntara Sthenly GAN	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナいわて県民情報交流センター	盛岡	日本	20190629	20190629	20190629	立体単純骨組の振れを伴う全体塑性座屈解析—その1 降伏後並進剛性がある場合の解の唯一性と分岐解—	五十子幸樹, 福田伊織
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	大塚貴弘・宮木彩乃	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190904	超高層建築物における振れ座屈現象の数値解析による検証 その1 一層の直方体骨組を用いた数値解析	菊地慶豊, 安田良河, 福田伊織, 五十子幸樹
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	大塚貴弘・宮木彩乃	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190904	立体単純骨組の振れを伴う全体塑性座屈解析 その2 速度解の唯一性と整合性の検討	五十子幸樹, 福田伊織
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	白山敦子・伊藤真二	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190905	減衰性能可変オイルダンパーによる免震構造物の地震時応答変位制御 その2 性能可変オイルダンパーまたは既往セミアクティブダンパーを適用した設計比較	倉重万梨乃, 伊藤拓海, 五十子幸樹
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	白山敦子・伊藤真二	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190905	液圧で駆動する歯車モータを利用した回転慣性質量ダンパーの開発 その5 可変質量効果を持つiHGD 試験体の概要	木田英範, 池永昌容, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	白山敦子・伊藤真二	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190905	液圧で駆動する歯車モータを利用した回転慣性質量ダンパーの開発 その6 可変質量効果を持つiHGD 試験体の加振実験	池永昌容, 木田英範, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	貝谷淳一・福井弘久	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190905	heoretical Analysis and Experimental Validation of a Novel Eddy Current Inerter Damper Part 1: Semianalytical Method for Eddy Current Effect	Dawei LI, 五十子幸樹, 薛松濤, Hao LUO
国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	貝谷淳一・福井弘久	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学扇が丘キャンパス	野々市	日本	20190903	20190906	20190905	Theoretical Analysis and Experimental Validation of a Novel Eddy Current Inerter Damper Part 2: Nonlinear Simulation and Experimental Validation	薛松濤, Dawei LI, 五十子幸樹, Hao LUO

C. 教育活動

教育活動の概要

全学、工学部、大学院工学研究科、リーディング大学院の講義を担当した他、工学部の卒業研修生、工学研究科博士前期課程および後期課程学生を指導した。災害科学国際研究所提供の科目としては全学教育科目である「災害と科学」、工学部専門教育科目としては、「創造工学研修」、「都市・建築エンジニアリング」、「建築・社会環境工学演習E」、「建築設計AI」、「建築設計D」を博士課程では前期課程の「最適減殺技術学」を後期課程では「災害制御特論」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	5
2	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	3
3	建築設計AI	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	4セメ	15
4	建築信頼性工学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
5	実践防災学V	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	2
6	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	2
7	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	14
8	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
9	建築設計I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	3

D. 社会活動

社会活動の概要

社会貢献活動としては、宮城県および福島県の耐震診断判定委員会および耐震改修計画評価委員会の委員として、各県の既存不適格建築物の耐震化促進に貢献している。新築建築物については、宮城県土木部および福島県建築安全機構の構造計算適合性判定委員として、構造計算の法令適合性の判定作業を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	東北工業大学主催 パリVal de Seine建 築大学との国際ワー クショップ	講師	20190418	20190418	構造工学の最先端に関する講義	なし	東北工業大学	東北工業大学	仙台市	日本	40
2	その他	オープンキャンパス 模擬講義	講師	20190730	20190731	トポロジー最適化と構造デザインからコン ピュータで『かたち』をつくる	なし	東北大学	東北大学	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	20080000
2	民間・NPO	独立行政法人日本学術振興会	特別研究等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委 員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面 評価員	委員	20190701
3	民間・NPO	一般社団法人福島県建築安全機構	構造計算適合性判定評価委員会及び技術監視委員会	副委員長	20160401

# 郭佳 助教

GUO Jia

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	中国清華大学	工学部	2009	7	京都大学大学院	工学研究科	2019	9	博士(工学)	2019	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	10	現在	現在	東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1
日本建築学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
耐震工学	画像計測	システム同定	損傷評価

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

My research interests include advanced signal processing and vision-based techniques to structural dynamics, finite element model updating, structural damage identification and their applications, with an emphasis on structural safety against natural and man-made hazards. Recent research focus on monitoring global earthquake-induced dynamic displacement responses of building structures and nonlinear system identification by freely moving cameras, which greatly lowers the barriers to the application of generally positioned cameras from strictly stationary cameras.

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	9	現在	現在	Structural damage identification by minimum constitutive relation error and sparse regularization	国内
2	2019	4	現在	現在	Monitoring Global Earthquake-Induced Dynamic Responses Using vision-Based Sensors	国内
3	2020	2	現在	現在	AIを用いたブラックボックスモデルアプローチによる粘弾性ダンパー構成則モデル化手法	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A spectrum-driven damage identification by minimum constitutive relation error and sparse regularization	Guo Jia, Jiao Jian, Fujita Kohei, Takewaki Izuru	Mechanical Systems and Signal Processing	136		106496		20191118



## 邑本 俊亮 教授

## MURAMOTO Toshiaki

人間・社会対応研究部門 災害認知科学研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	1984	3	北海道大学大学院	文学研究科	1992	3	博士(行動科学)	1996	12

## 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	1990	6	1993	3	北星学園大学 文学部心理学研究室	非常勤助手
2	1993	4	1994	3	北海道大学 文学部	助手
3	1994	4	1996	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	講師
4	1996	4	2001	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	助教授
5	2001	4	2010	12	東北大学 大学院情報科学研究科	助教授(2007~准教授)
6	2011	1	2012	3	東北大学 大学院情報科学研究科	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本心理学会	日本教育心理学会	日本認知科学学会	日本認知心理学会	日本基礎心理学会	日本読書学会	東北心理学会	北海道心理学会	日本公衆衛生学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本読書学会		理事・編集委員	20110401

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	認知心理学	言語心理学	教育心理学	学習科学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	情報科学研究科	学術振興・広報委員会	委員	20160401
2	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター	大学教員準備プログラム(PFFP)・新任教員プログラム(NFP)	先達教員	20131000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

科研究費基盤研究(C)「被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発」が採択され、研究を開始した。被災地(関上)を訪ねて震災や復興について学んだ10名の大学生が、自分たちの力で災害伝承・防災教育の出前授業を企画し、11月9日に東京都の中学校で実施した。2020年3月4日には兵庫県の高校で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。大学生による複数の防災授業案が構築され、蓄積された。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1984	4	現在		人間の言語理解に関する認知心理学的研究	
2	1996	4	現在		文章からの学習に関する教育心理学的研究	
3	2003	4	現在		大学教育における授業づくりと授業運営に関する実践的研究	
4	2006	4	2012	3	対人コミュニケーションにおける読解力に関する研究	
5	2006	10	2012	3	医療用文書のわかりやすさと安心感に関する研究	
6	2008	4	現在		災害時の人間の認知・判断・行動に関する研究	
7	2012	4	現在		災害体験談の認知的科学的分析と防災教育への展開	
8	2019	4	現在		学び手が伝え手になる震災伝承・防災教育システムの構築	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Psychological processes and personality factors for an appropriate tsunami evacuation	Sugiura, M., Sato, S., Nouchi, R., Honda, A., Ishibashi, R., Abe, T., Muramoto, T., & Imamura, E.	Geosciences	9	8		326	20190725
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響:語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究	佐藤翔輔, 邑本俊亮, 新国佳祐, 今村文彦	地域安全学会論文集		35	115	124	20191100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地域住民を対象とした防災情報の理解度等に関する基礎調査と可能最大洪水を想定した防災対応の提案	呉修一, 千村紘徳, 地引泰人, 佐藤翔輔, 森口周二, 邑本俊亮	自然災害科学	38	4	449	467	20200200

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	「自分は大丈夫」は危ない! 災害時の心理	その他	無	はい	2020年版 暮らしの豆知識			28	29	20190800	邑本俊亮	単著	なし
日本語	災害時の人間の心理	学術雑誌	無	はい	季刊 消防防災の科学		139	18	23	20200131	邑本俊亮	単著	なし

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第26回大学教育研究フォーラム		単名	いいえ	その他	オンライン		日本	20190318	20190319	20190318	学び手が伝え手になる ―大学生による防災出前教育の企画と実践―	邑本 俊亮

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育では、心理学、言語表現の世界、科学と情報、災害の科学、基礎ゼミ、人間と文化(展開ゼミ)と、多様な科目を担当した。大学院教育では学習情報学と人文情報科学概論およびゼミナールを担当、他大学でも、心理言語学、コミュニケーション論など幅広い領域の教育を行っており、多くの科目においても積極的にアクティブラーニングを取り入れている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	9
2	「復興」を学際的に考える	東北大学	全学		1	2セメ	9
3	科学と情報	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	言語表現の世界(1クォーター)	東北大学	全学		1		15
5	言語表現の世界(2クォーター)	東北大学	全学		1		15
6	心理学(1クォーター)	東北大学	全学		2		15
7	心理学(3セメスター)	東北大学	全学		2	3セメ	15
8	人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	1
9	学習情報学	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻・応用情報科学専攻		後期	15
10	人間社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	60
11	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	保健福祉学科	1	前期	15
12	コミュニケーション論 I	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科・看護学科	1	前期	15
13	総合コースD(コミュニケーション)	宮城学院女子大学	全学部	全学科	2~4	後期	7
14	心理言語学	北星学園大学	文学部	心理・応用コミュニケーション学科	2~4	前期	15

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

ことばとコミュニケーション、授業づくり、防災・減災教育という3種類のテーマで複数の講演を行い、社会教育・社会貢献を行った。今年度はとくに、コミュニケーションに関する講演が多くなった。

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 11 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	令和元年度亘理町総合防災訓練講演会	講演	20190609	20190609	どうして自分だけは大丈夫!? 水害と心理学	行政	亘理町	亘理町立逢隈中学校体育館	亘理町	日本	1000
2	小中高との連携	東北大学高度教養教育・学生支援機構と福島県立会津高等学校との教育連携に関する協定に基づく東北大学研修	講義	20190720	20190720	言葉と心とコミュニケーション	小中高	東北大学高度教養教育・学生支援機構、会津高等学校	東北大学川内キャンパス講義棟C102	仙台市	日本	26
3	講演会	東進ハイスクール主催・大学学部研究会講演	講演	20190810	20190810	言葉と心とコミュニケーション	企業	東進ハイスクール	TKPガーデンシティ高輪	東京都	日本	250
4	講演会	令和元年度泉区民生委員児童委員研修会	講演	20190826	20190826	言葉の不思議 コミュニケーションが生み出す地域力	行政	仙台市泉区	仙台銀行ホールイブズミティ21	仙台市	日本	240
5	講演会	仙台明治青年大学	講義	20190911	20190911	言葉とコミュニケーションの心理学		明治青年大学	仙台市太白区文化センター2階楽楽ホール	仙台市	日本	650
6	セミナー	東北大学PDP 教育関係共同利用拠点提供プログラム 教授技術論:L-04	講義	20190918	20190918	授業づくり:準備と運営	なし	東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター	東北大学川内キャンパス教育・学生総合支援センター東棟4階大会議室	仙台市	日本	50
7	公開講座	令和元年度学都仙台コンソーシアム復興大学事業県民講座	講義	20190928	20190928	「災害と人間の心理」「将来に備える～私たちが一人一人にできること～」(計2コマ)	行政	学都仙台コンソーシアム復興大学	東北工業大学	仙台市	日本	30
8	公開講座	東北大学祭模擬講義	講義	20191104	20191104	言葉と心とコミュニケーション	なし	東北大学祭実行委員会	東北大学川内北キャンパス講義棟B202	仙台市	日本	30
9	講演会	仙台市消防局研修会	講演	20191225	20191225	人間の心のクセを知るーヒューマンエラーを減らすためにー	行政	仙台市消防局	仙台市消防局7階講堂	仙台市	日本	150
10	講演会	第5回気仙沼市防災フォーラム基調講演	基調講演	20200122	20200122	災害に備えて「心理」を学ぶ	行政	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	100
11	講演会	令和元年度青葉区こころの健康づくり事業講演会	講演	20200128	20200128	伝える力～気持ちを伝えるコミュニケーション～	行政	仙台市青葉区	仙台市青葉区役所4階会議室	仙台市	日本	60

# 杉浦 元亮 教授

## SUGIURA Motoaki

人間・社会対応研究部門 災害認知科学研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1996	3	東北大学大学院	医学系研究科	2000	3	博士(医学)		

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2001	4	東北大学 加齢医学研究所	リサーチアシリエイト
2	2001	5	2001	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	リサーチアシリエイト
3	2001	10	2002	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	助手
4	2002	9	2004	8	ユーリヒ研究センター(ドイツ) 医学研究所	研究員(日本学術振興会 海外特別研究員)
5	2004	9	2006	9	宮城教育大学 教育学部	助教授
6	2006	10	2008	1	自然科学研究機構 生理学研究所	助教授
7	2008	2	2016	3	東北大学 加齢医学研究所	准教授
8	2012	4	2016	3	東北大学 災害科学国際研究所	准教授(兼務)
9	2016	4	現在		東北大学 加齢医学研究所・災害科学国際研究所(クロスアポイントメント)	教授

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	Society for neuroscience	Organization for Human Brain Mapping	日本神経科学学会	日本心理学会

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	脳科学	認知神経科学	社会脳科学

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	広報連絡会議・広報連絡員	委員	20190401
2	全学	学生生活支援審議会	委員	20190401
3	全学	(医)大学院合同運営委員会	委員	20190401
4	全学	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会・安全管理RI利用部会	委員	20190401
5	加齢医学研究所	総務・人事委員会	委員	20190401
6	加齢医学研究所	共同利用・共同研究運営委員会	委員	20190401
7	加齢医学研究所	広報情報運営委員会	委員長	20190401
8	加齢医学研究所	出版委員会	委員	20190401
9	加齢医学研究所	広報情報責任者(委員長代行)	主任	20190401
10	加齢医学研究所	ハラスメント相談員	相談員	20190401
11	加齢医学研究所	学生相談員	相談員	20190401
12	加齢医学研究所	男女共同参画WG	委員	20190401

## B. 研究活動

研究活動の概要

心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究を多彩な分野に応用している。災害分野では2011年の東日本大震災の被災者を対象とした「災害を生きる力」の大規模質問紙調査の分析/論文化、生きる力8因子の脳基盤研究などを順調に続けている。査読付き国際誌に3報採択、学会報告国内1件をおこなった。また学術論文和文2報、英文3報が投稿準備中である。それ以外にも生きる力8因子のコンセプトや研究方法論は加齢医学分野や社会認知神経科学分野、また産学連携共同研究など、多彩な波及効果を現し始めている。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	現在		人間脳科学(人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを解明)	
2	2008	4	現在		加齢人間脳科学(人間らしい生き方、若い方、社会のあり方を脳科学的に提言し、超高齢社会におけるスマート・エイジングの技術を開発)	
3	2012	4	現在		災害人間脳科学(災害の様々な状況を生き抜く人間の力について脳科学的に解明し、新しい教育・災害対応プロトコルを提案)	

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	10	合計	12	うち	国際査読有	11	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A sweet voice: The influence of crossmodal correspondences between taste and vocal pitch on advertising effectiveness.	Kosuke Motoki*, Toshiaki Saito, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	Multisensory Research	32	4-5	401	427	2E+07
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Neural responses to action contingency error in different cortical areas are attributable to forward prediction or sensory processing	Tatsuo Kikuchi, <u>Motoaki Sugiura</u> *, Yuki Yamamoto, Yukako Sasaki, Sugiko Hanawa, Atsushi Sakuma, Kazunori Matsumoto, Hiroo Matsuoka, Ryuta Kawashima	Scientific Reports	9			9847	20190708
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Psychological Processes and Personality Factors for an Appropriate Tsunami Evacuation	<u>Motoaki Sugiura</u> *, Shosuke Sato, Rui Nouchi, Akio Honda, Ryo Ishibashi, Tsuneyuki Abe, <u>Toshiaki Muramoto</u> , Fumihiko Imamura	Geosciences	9	8		326	20190725
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Does incidental pride increase competency evaluation of others who appear careless? Discrete positive emotions and impression formation	Toshiaki Saito*, Kosuke Motoki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	PLoS ONE	14	8		e0220883	20190808
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A concise psychometric tool to measure personal characteristics for surviving natural disasters: Development of a 16-item Power to Live questionnaire	Ryo Ishibashi*, Rui Nouchi, Akio Honda, Tsuneyuki Abe, <u>Motoaki Sugiura</u> *	Geosciences	9			366	20190823
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tasting names: Systematic investigations of taste-speech sounds associations	Kosuke Motoki, Toshiaki Saito, Joewoo Park, Carlos Velasco, Charles Spence, <u>Motoaki Sugiura</u>	Food Quality and Preference					20190926
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Common neural value representations of hedonic and utilitarian products in the ventral striatum: An fMRI study	Kosuke Motoki, <u>Motoaki Sugiura</u> , Ryuta Kawashima	Scientific Reports	9	1	1	10	20191030
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The pitfall of empathic concern with chronic fatigue after a disaster in young adults	Seishu Nakagawa*, <u>Sugiura Motoaki</u> , Atsushi Sekiguchi, Yuka Kotozaki, Carlos Makoto Miyachi, Sugiko Hanawa, Tsuyoshi Araki, Atsushi Sakuma, Ryuta Kawashima	BMC Psychiatry					20191104
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Performance and Material-Dependent Holistic Representation of Unconscious Thought: A Functional Magnetic Resonance Imaging Study	Tetsuya Kageyama*, Kelsy Hitomi dos Santos Kawata, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	Frontiers in Human Neuroscience					20191206
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Loneliness modulates automatic attention to warm and competent faces: Preliminary evidence from an eye-tracking study.	Toshiaki Saito*, Kosuke Motoki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	Frontiers in Psychology	10			2967	20200117
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Survival-oriented personality factors are associated with various types of social support in an emergency disaster situation	Motoaki Sugiura, Rui Nouchi, Akio Honda, Shosuke Sato, Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura+AA72:AF78	PLoS One	15	2		e0228875	20200212
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	複雑な社会技術システムにおける想定外事象対応の機能的MRI:課題成績と問題対応特性は問題解決脳領域の低活動と関連する	三浦直樹, 吉井慶人, 高橋信, <u>杉浦元亮</u> , 川島隆太	ヒューマンインタフェース学会論文誌	22	1	43	54	20200225

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	単著	1	筆頭共著	共著	合計	1	うち	国際	国内	1
------	----	---	------	----	----	---	----	----	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	認知神経科学(人工知能AI辞典[第3版])	編集本(著者・Author)	20191231	杉浦元亮(中島秀之, 浅田稔, 橋田浩一, 松原仁, 山川宏, 栗原聡, 松尾豊)	単著	近代科学社	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	脳の自己3層モデルと加齢・災害人間脳科学	学術雑誌	無	はい	東北医学雑誌	131	2	1	4	20191225	杉浦元亮	単著	なし

学会発表

単名	3	筆頭連名	0	その他の連名	9	合計	12
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	25th Annual Meeting of the Organization of Human Brain Mapping (OHBM)	Vince Calhoun	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Auditorium Parco Della Musica	Italy	Rome	20180609	20180613	20190613	Neural Correlates of Spiritual Feelings	Kanan Hirano, Yoko Katayori, Tomohiko Muratsubaki, Miyuki Shiratori, Sugiko Hanawa, Keyvan Kashkoui Nejad, Daisaku Tamura, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura, Shin Fukudo
2	国内	日本感情心理学会第27回大会	河野和明	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東海学園大学名古屋キャンパス	名古屋	日本	20190628	20190630	20190630	災害を生きる力因子に寄与するパーソナリティ特性:感謝特性, グリット, セリフコントロール	本多明生, 杉浦元亮, 阿部恒之, 邑本俊亮
3	国際	The 11th Annual Meeting of Society for the Neurobiology of Language	Manuel Carreiras	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Finlandia Hall	Helsinki	Finland	20190820	20190822	20190821	Processing linguistic complexity in Japanese scrambled sentences: an fMRI study.	<u>Kaoru Koyanagi</u> , Hyeonjeong Jeong, Fuyuki Mine, Yoko Mukoyama, Hiroshi Ishinabe, Haining Cui, Kiyoko Okamoto, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura
4	国際	33rd Annual Conference of the European Health Psychology Society	Josip Lopizic	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Valamar Lacroma Dubrovnik Hotel	Dubrovnik	Croatia	20190903	20190907	20190905	Individual difference in the optimism change by reminiscence and its underlying neurocognitive mechanism	<u>Kenro Oba</u> , Marie Barthel, Koichi Abe, Kanan Hirano, Ryo Ishibashi, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura
5	国際	日本認知科学会第36回大会	伊東幸宏	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	静岡大学浜松キャンパス	浜松	日本	20190905	20190907	20190905	車室内デザイン評価の因子構造	<u>樋田浩一</u> , 越智光, 田中君明, 杉浦元亮
6	国内	日本心理学会第83回大会	佐藤隆夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	立命館大学大阪いばらきキャンパス	大阪	日本	20190911	20190913	20190912	中高齢者向け「意欲」測定尺度の開発	石橋達, 大場健太郎, 千凡晋, 杉浦元亮
7	国内	計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2019	高橋真吾	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉	日本	20191123	20191125	20191123	脳活動からの自動車運転危険予測: シミュレータfMRI実験	大場健太郎, 浜田康司, 廣瀬正明, 川島隆太, 杉浦元亮
8	国内	東北大学アンサンブルプロジェクトコレクションシンポジウム		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学加齢医学研究所	仙台市	日本	20191218	20191219	20191218	心理学と脳科学の融合による回想法の効果メカニズムの解明	大場健太郎, Marie Barthel, 阿部光一, 平野香南, 石橋達, 野内類, 川島隆太, 杉浦元亮
9	国内	第15回日本感性工学会春季大会	福本誠	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	福岡工業大学	福岡市	日本	20200305	20200306	20200305	自動運転化時代の車室内デザインの評価構造 - 性別と世代による感性軸の比較 -	<u>樋田浩一</u> , 越智光, 田中君明, 杉浦元亮
10	国際	National Taiwan Univ. - Tohoku Univ. Symposium on Neuroscience		単名	はい	口頭(招待)	Tohoku University	Sendai	Japan	20191125	20191125	20191125	Understanding Human Behavior from the Perspective of Self-Cognition	<u>Motoaki Sugiura</u>
11	国際	ESRC UK-Japan Symposium: Neurocognitive Foundations of Foreign Language Learning		単名	はい	口頭(招待)	University College London	London	UK	20191203	20191204	20191203	From Sensorimotor Integration to Social Interaction	<u>Motoaki Sugiura</u>
12	国内	高知工科大学フューチャー・デザイン研究所研究セミナー	伊藤文人	単名	はい	口頭(招待)	高知工科大学フューチャー・デザイン研究所	高知市	日本	20191217	20191217	20191217	未来予想装置としての脳-脳機能イメージングで見えてきたその実態	杉浦元亮

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 5 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%非属人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	The 42th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	The 42th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society Symposium "Non-linguistic bases of language and its acquisition: Music, Mathematics, Executive Function, Information Technology, and Social Cognition"	20190727	20190727	Toki Messe	Niigata	Japan	50 (10)	人文社会系	Symposium Chairperson	なし		両方
2	国内	シンポジウム	日本心理学会第83回大会	日本心理学会第83回大会 公募シンポジウム「今」を意味づけるもの	20190911	20190913	立命館大学大阪いばらきキャンパス	茨城	日本	50 (5)	人文社会系	企画代表者, 司会者	なし		国内

3	国際	セミナー	第9回人間脳科学セミナー	Lecture by Dr. Adam Tierney	20190426	20190426	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (10)	人文社会系	企画代表者、司会者	なし		両方
4	国際	セミナー	第10回人間脳科学セミナー	Synergy of Second Language Acquisition and Cognitive Neuroscience	20191115	20191115	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (10)	人文社会系	企画代表者、司会者	なし		両方
5	国内	セミナー	第11回人間脳科学セミナー	音韻性作動記憶の認知メカニズムを反映した語彙環境の構造	20200214	20200214	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (10)	人文社会系	企画代表者、司会者	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを、脳機能計測と生理・行動計測を駆使して明らかにし、基礎から応用まで、人間性に関わるあらゆる学問領域をつなぐ「ハブ」となる脳科学の学術・研究技術指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	【基礎ゼミ】脳機能マッピング入門	東北大学	全学基礎科目		1-2	前期	15

D. 社会活動

講演・講義等(研究活動以外)

合計 : 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第86回 知の拠点セミナー	招待講演	20190517	20190517	人間の心と行動の不思議～その裏側を脳機能イメージングでひも解く		国立大学共同利用・共同研究拠点協議会	東京大学地震研究所	東京都	日本	50
2	その他	第104回東北医学会総会、教授就任記念講演会	招待講演	20190603	20190603	脳の自己3層モデルと加齢・災害人間脳科学	なし	東北医学会総会	医学部百年開設記念ホール 星陵オーデトリウム	仙台市	日本	100
3	小中高との連携	数理教育推進	招待講演	20190622	20190622	脳の機能地図を作る	小中高	学校法人桐蔭学園、桐蔭学園高等学校	学校法人桐蔭学園、桐蔭学園高等学校	横浜市	日本	50
4	セミナー	スマート・エイジング・カレッジ東京第5期(コースII)講師	講義	20191121	20191121	脳機能イメージングによる人間理解とその新発想を製品・サービスの開発に活かす	なし	東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京	東北大学東京分室	東京都	日本	50
5	講演会	東北大学減災教育『結』プロジェクトの出前授業	講義	20190829	20190829		小中高	亶理町立高屋小学校	亶理町立高屋小学校	亶理町	日本	20

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市	仙台市教育委員会	学習意欲の科学的に関するプロジェクト委員	00000000

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 : 62 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20190408	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
2	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20190507	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
3	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20190617	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
4	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20190902	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
5	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20190908	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4

6	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文	20191006	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
7	帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション科	田中尚文	20200225	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
8	東北工業大学	三浦直樹	20190619	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	3
9	東北工業大学	三浦直樹	20191118	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	3
10	東北工業大学	三浦直樹	20191225	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	3
11	東北工業大学	三浦直樹	20200311	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	3
12	NTT	木村	20190402	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	6
13	NTT	木村	20190716	共同研究	東北大学加齢医学研究所-NTT web会議	仙台	企画	6
14	NTT	木村	20190926	共同研究	東北大学加齢医学研究所-NTT web会議	仙台	企画	6
15	デンソー		20190401	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	5
16	デンソー		20190424	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議			5
17	デンソー	田中 君明 越智 光	20190610	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	5
18	デンソー	田中 君明 越智 光	20190626	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
19	デンソー		20190701	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
20	デンソー		20190703	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
21	デンソー	武内 裕嗣 林田 篤 金森 賢樹 田中 君明 越智 光	20190704	共同研究	東北大学 東京分室, 会議室A	仙台	企画	9
22	デンソー		20190705	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
23	デンソー		20190731	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
24	デンソー	越智 光	20191108	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
25	デンソー	越智 光	20191115	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
26	デンソー	越智 光	20191122	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
27	デンソー	越智 光	20191213	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
28	デンソー	越智 光	20191220	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
29	デンソー	越智 光	20191227	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
30	デンソー	越智 光	20200110	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
31	デンソー	越智 光	20200117	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
32	デンソー	越智 光	20200120	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
33	デンソー	越智 光	20200124	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
34	デンソー	越智 光	20200131	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
35	デンソー	越智 光	20200207	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
36	デンソー	越智 光	20200213	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5
37	デンソー	越智 光	20200214	共同研究	東北大学加齢医学研究所-デンソー web会議	仙台	企画	5



38	デンソー	越智 光	20200217	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
39	デンソー	越智 光	20200221	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
40	デンソー	越智 光	20200227	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
41	デンソー	越智 光	20200228	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
42	デンソー	越智 光	20200306	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
43	デンソー	越智 光	20200313	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
44	デンソー	越智 光	20200327	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	5
45	デンソー	浜田 康司	20190731	共同研究	Denso刈谷本社	仙台	企画	9
46	デンソー	浜田 康司	20190828	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	6
47	デンソー	浜田 康司 SS16: 兆しセンシング	20191123	共同研究	千葉大学	千葉	企画	3
48	デンソー	浜田 康司	20191127	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	6
49	デンソー	浜田 康司	20200306	共同研究	東北大学加齢医学研究所－デンソーweb会議	仙台	企画	6
50	日産	菊地	20190508	共同研究	東北大学加齢医学研究所－日産web会議	仙台	企画	7
51	日産	菊地	20190523	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
52	日産	菊地	20190604	共同研究	日産横須賀	横須賀	企画	6
53	日産	菊地	20190605	共同研究	日産横須賀	横須賀	企画	6
54	日産	菊地、八重樫、谷田	20190710	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
55	日産	菊地	20190904	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
56	日産	菊地	20191024	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
57	日産	菊地	20191120	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
58	日産	菊地	20191213	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
59	日産	菊地	20200213	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
60	日産	菊地	20200218	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7
61	日産	外池	20200305	共同研究	日産横須賀	横須賀	企画	6
62	日産	菊地	20200331	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	7

## 奥村 誠 教授

## OKUMURA Makoto

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1984	3	京都大学大学院	工学研究科修士課程	1986	3	博士(工学)	1991	11

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1992	3	京都大学 工学部	助手
2	1992	4	1995	3	京都大学 工学部	講師
3	1995	4	2001	3	広島大学 工学部	助教授
4	2001	4	2006	3	広島大学大学院 工学研究科	助教授
5	2006	4	2012	3	東北大学 東北アジア研究センター	教授
6	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本地域学会	応用地域学会	日本計画行政学会	日本都市計画学会	Regional Science Association International	East Asian Society of Transportation Studies (EASTS)	スケジューリング学会	交通工学研究会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	土木学会論文集編集委員会	委員長	20180601
2	日本都市計画学会	東北支部	支部長	20190531
3	応用地域学会		副会長	20190401

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	社会システム工学・安全システム	交通工学・国土計画	都市間交通	都市計画

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	キャンパス計画委員会・運輸交通専門委員会	副委員長	20100401
2	工学研究科	キャンパスマスタープラン検討委員会	委員	20140401
3	工学部	入試対策委員会	委員	20190401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

人口データを用いて災害の直接的な影響とその後の回復プロセスを把握する方法を研究し、転出入人口の年齢構成に着目した統計分析手法に関して国内で発表した。自動車を用いた避難計画を課題として、最適化モデルを用いたリスク分担方法の研究に取り組んで、その内容を報告した。さらに、科学研究費により地域の福祉施設や物流ネットワークを最大限活用した災害時の対応方法と、そのための施設計画に関する研究を進め、国内外での発表と査読論文の公表を行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	現在		都市間交通ネットワークの計画方法の研究	両方
2	2012	4	現在		自動車を利用した津波避難計画に関する研究	国内
3	2013	4	現在		携帯電話位置情報ビッグデータによる災害影響把握手法の研究	国内
4	2017	4	現在		災害対応施設の整備計画に関する研究	国外

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	10	合計	11	うち	国際査読有	1	国際査読無	1	国内査読有	2	国内査読無	7
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	需要拡大期の都市間旅客交通ネットワーク計画のための最適化モデル	細正隆,奥村誠	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	59			162	20190609
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	公共施設更新における平常時の利便性と洪水避難条件のトレードオフ構造	須ヶ間淳,奥村誠	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	59			59	20190609
英語	共著	国内	いいえ	国際会議Proceedings	無	いいえ	Multi-functional Optimization Model for Sustainable Facilities Management Coping with Decreasing Population	Atsushi SUGAMA, Makoto OKUMURA	International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (ICAPPS2019)				3-4	20190823
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議Proceedings	有	いいえ	Multimodal Intercity Network Manageable on the Collected Fare --- Optimization Model Approach ---	Makoto Okumura Masataka Hosoi, Huseyin Tirtom	Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	12				20190909
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	須ヶ間淳, 奥村誠:多機能公共施設の更新戦略最適化	須ヶ間淳,奥村誠	都市計画論文集	54	3	758	765	20191000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	年齢別人口移動NMFモデルのベイズ推定	元井初音,奥村誠,水谷大二郎	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	60			26-8	20191130
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	昭和8年三陸津波後の新聞資料に基づく津波対策の策定・実施経緯の分析	西脇 千瀬, 奥村 誠	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	60			44-01	20191130
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	都市間旅客交通におけるネットワーク構造と費用負担構造の同時最適化	吉田智貴,奥村誠,細正隆	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	60			12-06	201901201
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	都市圏外部における多モード公共交通の空間構成最適化モデル	須ヶ間淳,奥村誠	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	60			21-02	20191202
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	携帯電話位置情報を用いた災害情報に対する人の移動行動分析	銭谷直樹,山口裕通,奥村誠,中山晶一朗	土木計画学研究・講演集(CD-ROM)	60			31-08	20191202
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	公共施設の削減方針が洪水避難場所に与える影響	須ヶ間淳,奥村誠	土木学会論文集 D3(土木計画学)	75	5	1_223	1_232	20191231

学会発表

単名	1	筆頭連名	4	その他の連名	0	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	令和元年度土木学会全国大会年次学術講演会	小林稔	単名	いいえ	口頭(一般)	香川大学	高松	日本	20190903	20190905	20190904	土木計画学における災害研究の役割に関する一考察	奥村 誠
国内	第14回防災計画研究発表会	畑山満則	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学防災研究所	宇治	日本	20190916	20190917	20190916	自動車による津波避難計画におけるリスク分担に関する研究	奥村 誠, 竹居広樹
国内	スケジューリングシンポジウム2019	吉瀬章子	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	筑波大学	つくば	日本	20190919	20190920	20190919	災害対応施設の更新スケジューリング	奥村誠,須ヶ間淳
国内	応用地域学会研究発表会	亀山嘉大	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学	佐賀	日本	20191123	20191124	20191124	整備費用の利用者負担を考慮した最適都市間旅客交通ネットワーク構造	奥村誠,細正隆, Tirtom Huseyin
国内	平成31年度東北地域災害科学研究集会および講演会	村山良之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	緊急時資産退避作業のゲーム論的検討	奥村誠,森合一輝

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
国内	研究会	日本都市計画学会東北支部	令和元年度学術研究発表会	20200229	20200229	東北大学	仙台	日本	44	工学	実行委員長	IRIDeS共催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先である大学院工学研究科土木工学専攻の学生の指導を行った。また講義は、同専攻の専門科目、演習科目のほか、リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの専門科目、工学部建築・社会環境工学科の専門科目と演習科目を担当した。さらに災害研に割り当てられている全学教育オムニバス科目の日程・成績管理を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	計量行動分析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		後期	15
2	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	6
4	地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
5	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	8
6	災害の科学ー災害の波及と対応	東北大学	全学		1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動の目的である、災害に強く、支援をしやすい地域づくりを行うための基礎として、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的に行っている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	土木学会出版委員会	東日本大震災合同調査報告書全巻 刊行記念シンポジウム	20190726	20190726	土木学会	東京都 新宿区	日本	コーディネーター	80	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動 内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	復興大学県民講座	公開講義	20190713	20190713	自動車を用いた安全な津波避難方法を考える・災害後の人口転出パターン	なし	学都仙台コンソーシアム	東北工業大学 八木山キャンパス	仙台市	日本	40
2	講演会	令和元年度一般開放講演会	特別講演	20191025	20191025	地域をけん引する大都市・仙台の特徴と都市計画の方向	企業	一般社団法人宮城県不動産鑑定士協会	TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口	仙台市	日本	110
3	セミナー	第7回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ	パネリスト	20191211	20191211	近年の豪雨災害を踏まえた流域管理の視点	行政	土木学会流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会	土木学会講堂	東京都	日本	120

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省	第7回幹線旅客純流動調査委員会	委員兼幹事	20190701
2	地方自治体	宮城県	大規模公共事業評価委員会	専門委員	20090401
3	地方自治体	宮城県	国土利用審議会	委員長代理	20110401
4	地方自治体	仙台市	都市計画審議会	会長	20140701
5	地方自治体	仙台市	総合計画審議会	会長	20181001
6	地方自治体	仙台市	大規模小売店立地専門委員会	委員	20090401
7	地方自治体	仙台市	大規模事業監視委員会	委員長	20130501
8	地方自治体	気仙沼市	地域公共交通会議	委員	20170401
9	地方自治体	亘理町	入札監視委員会	委員長代理	20170701
10	地方自治体	伊達市	都市計画審議会	会長	20180701

# 井内 加奈子 准教授

IUCHI Kanako

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群社会工学類	1994	7	コーネル大学大学院	都市・地域計画学科	2006	5	MRP(地域計画)	2006	5
2					イリノイ大学大学院	都市・地域計画学科	2010	9	PhD(地域計画)	2011	5

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	6	2004	7	株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナル 開発計画部	上級技師
2	2004	8	2006	5	コーネル大学 都市・地域計画学科	授業・研究助手
3	2006	8	2010	9	イリノイ大学 都市・地域計画学科	研究助手
4	2010	10	2013	2	世界銀行 金融・経済・都市開発部	都市専門家
5	2013	3	2018	8	東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	准教授
6	2018	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 被災地支援研究分野	准教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	American Planning Association	Earthquake Engineering Research Institute	日本都市計画学会	地域安全学会	American Association of Geographers

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Natural Hazards Research and Application Workshop	Organizing Committee	Member	20200128

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
復興計画・政策	コミュニティ移転・再定住	復興ガバナンス	国際開発計画

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学本部事務機構	情報公開・個人情報開示等審査委員会	委員	20190401

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

2019年度は、フィリピン(レイテ島)やインドネシア(アチェ地域・メラビ地域)、日本(東北)、ニューヨーク(マンハッタン)などを対象とした移転・再定住の研究が終盤を迎え、各地域での活動のまとめに向けての調査と分析を行った。さらに、異なる研究対象地域の比較分析も行い、レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組みの構築に向けて研究活動を行った。論文と研究発表は、移転ガバナンス論、フィリピンの不法居住と移転プロセス、東北の土地利用と復興・生活再建再定住に関するブックが中心となった。加えて、次年度以降の研究のために、インドネシアの2018年中部スラウェシ地震の復興研究に着手した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	12	現在		フィリピンにおける台風ハイアンからの復興計画と移転・再定住の研究	両方
2	2014	11	現在		米国ハリケーンサンディ後の復興計画と実施の実態に関する研究	国外
3	2016	4	現在		東日本大震災におけるすまいの再建に関わる復興の研究	国内
4	2018	2	現在		レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組み構築に向けた研究	国外
5	2019	11	現在		インドネシア中部スラウェシ地震からの復興計画と移転・再定住の研究	国外

### 論文

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有		国内査読無	
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	--	-------	--

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	なし	はい	その他	有	はい	Rhetoric of recovering resilient - unveiling how building back safer transforms into development for prosperity: A case of post-Yolanda rebuilding	Kanako Iuchi	Lincoln Institute of Land Policy, Descriptive Case Study					20191022

2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Exploratory analysis of the relationship between livelihood disruptions and displacement intentions following a volcanic eruption: A case from the 2014 Mt. Kelud eruption	Yasuhiro Jibiki, Dicky Pelupessy, & Kanako Iuchi	Journal of Disaster Research	14	8	1066	1071	20190823
3	英語	単著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Resettlement of informal coastal residents after typhoon Haiyan: Communities' perspective from a five-year ethnographic observation	Kanako Iuchi	Proceedings of the 59th Association of Collegiate Schools of Planning (ACSP) Annual Conference	58	1	522	524	20191024
4	英語	共著	国外	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	An investigation of the reality of community-building in Post-Yolanda relocation areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi	Progress in Disaster Science					20191100
5	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Governing community relocation after major disasters: An analysis of three different approaches and its outcomes in Asia	Kanako Iuchi, John Mutter	Progress in Disaster Science	6	2020	100071	Open Access	20200306

学会発表

単名	4	筆頭連名	1	その他の連名	4	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国際	The 2019 National Planning Conference, American Planning Association	Robert Olshansky	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	George R. Moscone Convention Center	San Francisco	United States	20190413	20190416	20190416	Planning for recovery after great disasters	Robert Olshansky, Laurie Johnson, Kanako Iuchi, Bala Balachandran
2	国際	At what point managed retreat? Climate Adaptation Initiative	Anamaria Bukvic	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Columbia University	New York	United States	20190619	20190621	20190621	Unpacking relocation challenges after devastation an assessment from a governance perspective	Kanako Iuchi, John Mutter
3	国際	Environmental Design Research Association (EDRA) 50th Conference: Sustainable Urban Environments	Linda Nubani	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	New York University	New York	United States	20191024	20190526	20190524	An Investigation of the Reality of Community-Building in Post-Yolanda Relocation Areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi
4	国際	59th Association of Collegiate Schools of Planning Annual Conference	Ivis Garcia	単名	いいえ	口頭(一般)	Hyatt Regency Greenville	Greenville	United States	20191024	20191027	20191026	Resettlement of informal coastal residents after typhoon Haiyan: Communities' perspective from a five-year ethnographic observation	Kanako Iuchi
5	国際	59th Association of Collegiate Schools of Planning Annual Conference	Ge Vue	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Hyatt Regency Greenville	Greenville	United States	20191024	20191027	20191024	Spark Innovation in Learning Design (A case of post-Yolanda rebuilding)	Kanako Iuchi
6	国際	12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Sebastian Boret	単名	いいえ	口頭(一般)	Tohoku University	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Observation on the grassroot efforts in the fisheries industry after the Great East Japan Earthquake	Kanako Iuchi
7	国際	12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Sebastian Boret	その他の連名	はい	口頭(一般)	Tohoku University	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	An Investigation of the Reality of Community-Building in Post-Yolanda Relocation Areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi
8	国際	World Bosai Forum 2019: Is relocation an effective solution to increased coastal community resilience? Sharing international perspectives	Kanako Iuchi	単名	はい	口頭(一般)	Sendai International Center	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Reemerging informal settlements after disasters: Coastal residents' perspective after typhoon Yolanda	Kanako Iuchi
9	国際	72nd (2020) EERI Annual Meeting	-	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Sheraton San Diego Hotel & Marina	San Diego	United States	20200302	20200306	20200306	EERI Reconnaissance Trip to Palu, Indonesia: Preliminary Observations and Findings	Robert Olshansky, Gazala Naem, Kanako Iuchi, Rhama Hanifa

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	
				開始年月	終了年月										
1	国際	シンポジウム	International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Eastern Visayas State University	Symposium on Yolanda recovery - Reflections and considerations on the rebuilding processes -	20190801	20190801	Eastern Visayas State University	Tacloban	The Philippines	100 (97)	人文社会系	Organizer	IRIDeS主催・共同主催	Eastern Visayas State University	国外
2	国際	その他	IRIDeS, Tohoku University	Is relocation an effective solution to increased coastal community resilience? Sharing international perspectives	20191111	20191111	Sendai International Center	Sendai	Japan	50 (35)	人文社会系	Session Organizer	IRIDeS主催・共同主催	Technical University of Dortmund, United Nations University, University of Indonesia, University College London	国外

3	国際	講演会	IRIDeS	第4回総合減災プロジェクトエリア特別講演会 (DRM Colloquium): Kathleen Tierney	20200127	20200127	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	40 (30)	人文社会系	Organizer	IRIDeS主催・共同主催	University of Colorado at Boulder	両方
---	----	-----	--------	--	----------	----------	---------------------------	--------	-------	---------	-------	-----------	---------------	-----------------------------------	----

C. 教育活動

教育活動の概要

リーディング大学院の「実践的防災学VII」の講義では、国際防災政策の現状を理解するために、海外(特に途上国)における防災の実態について具体的な写真や事例を交えながら説明を行った。全学対象の、「災害の科学(災害の波及と効果)」では、ビデオなどによるメディアの活用にて、災害と復興を身近に感じることができるような試みを行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	実践的防災学VII(分野横断:国際機関、キャリアパス)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー養成プログラム		1セメ	2
2	災害の科学(災害の波及と効果)	東北大学	全学		4	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

2019年度の社会活動は、主に「東北の復興過程と現状」や「災害後の移転・再定住」のトピックスについて、海外の聴衆に向けたシンポジウムやセミナーの開催と講演を行った。さらに、海外での活動者を招聘し、国内で情報共有を推進した。海外では、台湾、フィリピン、インドネシアを主として、研究者、行政職員、一般を対象に講演した。また経済産産省を後援として、ISO関連のセッションを世界防災会議(2019年)で担当した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	工学研究科土木 工学専攻・災害科 学国際研究所	男女共同参画セミナー(マダム、これが俺たちのメロだ! ~技術で世界を拓く! 女性土木技術者の奮闘記~)	20191016	20191016	東北大学工学 研究科	仙台	日本	幹事	50	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	
2	国際	災害科学国際研 究所	2019世界防災会議(セッション:「地産地防を踏まえた取組を国際標準化へ-仙台防災枠組みの実現化、仙台・宮城・東北からの発信」)	20191111	20191111	仙台国際セン ター	仙台	日本	幹事	50	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	台湾・日本防災情報交換	招待講演	20190529	20190529	Challenges Ahead: examining recovery actions and outcomes over the eight years past the Great East Japan Earthquake and Tsunami	行政	国家災害防救 科技中心/国 立台湾大學	国家災害防救 科技中心	台北	台湾	20
2	講演会	災難土地興文化莫拉克災後南台湾原住民部落環境変遷與社群復振之研究	招待講演	20190530	20190530	Two tales of community relocation in Japan: The cases of post Tohoku 3.11 (2011) and post Chuetsu earthquake (2004)	行政	義守大學/国 立台湾大學	長治百合部落 霧臺郷公所	高雄市	台湾	40
3	セミナー	Symposium on Yolanda recovery - Reflections and considerations on the rebuilding processes -	招待講演	20190801	20190801	A Six-Year Rebuilding Effort after Yolanda	行政	東北大学 IRIDeS/ Eastern Visayas State University	Eastern Visayas State University	Tacloban	フィリピン	100
4	公開講座	The Disaster Riskscape Across Asia-Pacific: Asia-Pacific Disaster Report 2019	招待講演	20191112	20191112	Can risk informed land use plan help the poor?	行政	UNESCAP	仙台国際セン ター	仙台	日本	100
5	講演会	Lecture: Learning from Earthquakes	招待講演	20191121	20191121	Looking inside: Rebuilding Safer After the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 2011	なし	Bundung Institute of Technology	Bundung Institute of Technology	Bundung	インドネ シア	40
6	セミナー	Seminar on Spatial Planning and Relocation for Build Back Better (BBB) in Post-Disaster Contexts	招待講演	20191217	20191217	Spatial planning and relocation after great disasters - Lessons and insights from world-wide experiences -	行政	国際協力機構	国家計画庁 (BAPPENAS)	Jakarta	インドネ シア	60
7	講演会	Forum on community relocation after large scale disasters: Reflections on a six-year post-Yolanda rebuilding effort in Leyte/Tacloban	特別講演	20200226	20200226	Community Relocation after Large-scale Disasters - Reflections on a six-year post-Yolanda rebuilding effort in Leyte	なし	University of the Philippines Visayas, Tacloban College	UP Tacloban	Tacloban	フィリピン	100

# 水谷 大二郎 助教

## MIZUTANI Daijiro

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	大阪大学	工学部	2012	3	大阪大学	工学研究科	2014	3	修士(工学)	2014	3

### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2016	3	日本学術振興会	特別研究員DC-1
2	2015	10	2015	11	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Visiting Scholar
3	2016	4	2017	3	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Research Associate
4	2017	4	2017	7	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻	特任研究員(常勤)
5	2017	8	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2
土木学会	日本アセットマネジメント協会

### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本アセットマネジメント協会	情報発信小委員会	委員	20180000
2	日本アセットマネジメント協会	アプリケーション小委員会	委員	20180000
3	土木学会	構造工学でのAI活用に関する研究小委員会	委員	20180000

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
インフラマネジメント	リスクマネジメント	最適化	統計学	計量経済学

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部	入試広報委員会	委員	20180401

### B. 研究活動

研究活動の概要

橋梁、高速道路、上下水道施設などのインフラのマネジメント(アセットマネジメント)と災害科学の融合に主眼を置き、研究活動を行ってきた。
--

### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		インフラマネジメントにおける、統計的劣化予測モデルの高度化とマルコフ連鎖モンテカルロ法によるモデル推定手法の体系化に関する研究。統計的劣化予測モデル推定時間の短縮に関する研究。	両方
2	2014	4	現在		社会基盤施設のネットワーク特性を考慮したアセットマネジメント手法の開発。組合せ爆発が問題となる補修・更新プログラム最適化問題の定式化とその解法の開発。	両方
3	2017	4	現在		斜面災害に着目した降雨時高速道路通行規制基準の最適化に関する研究。	国内
4	2017	8	現在		災害発生を考慮したアセットマネジメント手法の開発。災害統計ビッグデータ分析。	国内
5	2017	6	現在		確率的フロンティアモデルを用いた下水道事業の管理効率性/費用効率性分析。	国内

### 論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高速道路斜面災害に対する降雨時通行規制基準値の設定方法	櫻谷慶治, 水谷大二郎, 小濱健吾, 貝戸清之, 音地拓	土木学会論文集F6(安全問題)	75	1	12	30	20190420
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	長期記憶性を考慮した時系列データによる構造物劣化過程のモデル化	小林潔司, 貝戸清之, 水谷大二郎, 坂井康人	土木学会論文集D3(土木計画学)	75	4	233	249	20191120



3	英語	単著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Reduction of seismic risk of infrastructure via daily management works	Daijiro Mizutani	International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE) Congress				20190000
4	日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	階層的隠れマルコフ劣化モデルの状態推移確率の解析解について	水谷大二郎, 上野渉	土木学会論文集D3(土木計画学)	登載決定			20200000
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	連続主体ポテンシャル・ゲームの確率的進化動学と定常分布推定方法	長江剛志, 水谷大二郎	土木学会論文集D3(土木計画学)	登載決定			20200000

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE) Congress	Joseph F. Tortorella	単名	いいえ	口頭(一般)	Javits Centre	ニュー ヨーク	米国	20190904	20190906	20190905	Reduction of seismic risk of infrastructure via daily management works	<u>Daijiro Mizutani</u>
2	国内	第3回JAAM研究発表会	小林潔司	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	TKP東京 駅八重洲 カンファ レンスセ ンター	東京	日本	20191031	20191031	20191031	画一的ルールによる道路舗装ネットワークの補修意思決定	水谷大二郎, 中里悠人
3	国内	第60回土木計画学研究発表会	金山 洋一	単名	はい	口頭(招待)	富山国際 会議場	富山	日本	20191129	20191202	20191201	アセットマネジメント研究の最先端:統計的劣化予測と維持管理施策最適化	<u>水谷大二郎</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

研究指導教員として学部4年生1人・修士課程1年生1人の研究指導を行った。また、当該学生も含めた研究室内の学生全員に対して、ゼミにおける研究指導はもちろんのこと、共同研究先の高速道路会社への見学を行わせるなどの教育活動を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	

D. 社会活動

社会活動の概要

インフラアセットマネジメント、リスクマネジメントの普及を目指し、一般社団法人日本アセットマネジメント協会の複数の委員会の委員として活動。また、(これは研究活動に含まれる可能性があるため以下には記載しないが)一般企業などを対象とした講習会で複数回講演を行った。

## 佐藤 大介 准教授

## SATO Daisuke

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	1996	4	東北大学大学院	文学研究科	2003	10	文学博士	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	10	2006	3	東北大学大学院 文学研究科	COEフェロー
2	2006	4	2007	4	東北大学大学院 文学研究科	専門研究員
3	2006	7	2007	3	郡山女子大学 短期大学部	非常勤講師
4	2007	4	2012	3	東北学院大学 文学部	非常勤講師
5	2007	5	2010	3	東北大学 東北アジア研究センター	教育研究支援者
6	2010	4	2012	3	東北大学 東北アジア研究センター	助教
7	2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所	助教
8	2012	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授
9	2013	4	現在		東北大学大学院 環境科学研究科	協力教員
10	2014	4	現在		東北大学大学院 文学研究科	兼務教員

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	東北史学会	日本史研究会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	文化財保存修復学会	日本地球惑星科学連合

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北史学会		理事	20151000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	歴史学	史料保存学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	埋蔵文化財調査室	運営委員会	委員	20140501
2	学術資源研究公開センター	運営専門委員会	委員	20140401
3	東北アジア研究センター審附研究部門 上廣歴史資料科学研究部門		運営諮問委員	20140701
4	附属図書館	齋藤養之助家史料運用委員会	委員	20140701
5	附属図書館	古典籍活用小委員会	委員	20170701
6	歴史文化遺産ネットワーク事業東北大学拠点	実行委員会	委員長	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

1. 歴史文化資料の保全を通じた災害支援に関する研究 臨床心理学者との共同研究による、心理社会的支援としての災害時資料レスキューの意義について、博物館関係者による国際シンポジウムで査読付き講演を行った。2. 文献史料を活用した歴史災害と社会的対応に関する研究 19世紀前半の北上川の洪水を事例に、自然災害としての洪水の発生件数と、当該期の飢饉からの復興・産業振興などによる森林荒廃などの影響について考察し、共同研究として査読付き報告を行った。
---

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	12	現在		旧仙台藩領 東北地方における実践を踏まえた歴史資料保全学の構築	国内
2	2000	8	現在		仙台藩領における地域リーダー層の社会活動の研究	国内
3	2007	4	現在		19世紀仙台藩領における災害と社会史 政治史の研究	国内
4	2012	10	現在		16～19世紀の歴史気候復元と社会的応答に関する研究	国内
5	2015	10	現在		心理社会的支援としての歴史史料保全活動の研究	国内
6	2019	4	現在		歴史学におけるデータインフラストラクチャー構築に関する研究	国内

学会発表

単名	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	3
----	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会 歴史学・地球惑星科学		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉市	日本	20190526	20190529	20190526	江戸時代後期の北上川における自然災害と社会	<u>佐藤大介</u> 、高橋美貴
2	国際	2019 CIDOC annual conference, ICOM2019 (国際博物館会議)		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都国際会館	京都市	日本	20190901	20190907	20190903	Preservation of Cultural Heritages as a form of Disaster Relief	Daisuke Sato, Kamiyama Machiko, Hiroki Takakura, Atsushi Fujisawa, Toshiaki Kimura, J.F. Morris
3	国内	林業経済学会2019年秋季大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東京農工大学	東京都府中市	日本	20191123	20191126	20191123	近世東北の鉄生産と森林・河川 仙台藩領を事例として	<u>高橋美貴</u> 、佐藤大介

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%) (%外邦人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	歴史文化遺産ネットワーク事業東北大学拠点、北海道大学大学院文学研究科	博物館所蔵歴史資料の防災に関するワークショップ	20190826	20190826	北海道大学大学院文学研究科	札幌市	日本	20	人文社会系	企画運営	IRIDeS主催・共同主催	北海道大学大学院文学研究科	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

例年通り全学教育科目、環境科学研究科、文学部・文学研究科での担当講義、また2019年度前期の福島大学行政社会学部での講義を通じて、主に江戸時代の仙台の地域史・環境・災害と社会との関係、歴史資料保全活動の実践について教育を行った。また、本年度は歴史文化遺産ネットワーク事業東北大学拠点の事業の一環として、北海道大学大学院文学研究科・同文学部の日本史研究室と共同で、宮城県丸森町の古文書調査実習を実施した。

D. 社会活動

社会活動の概要

1、2019年台風19号で被災した歴史資料の救済・保全活動を、被災自治体の関係者と共同で実施するとともに、茨城、福島などの関係者との連携による被災地支援を行った。2、各種講演会を通じて宮城県の一部の郷土史および史料保全の普及を図った。3、文献史料のテキストデータ化 現在の岩手県一関市の商家に残された18世紀末から19世紀後半の日記史料のうち、1867年から1872年分、約13万字を解読し、PDF版の報告書としてテキストデータ利用の環境を整備した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	新潟県中越地震15周年シンポジウム「繰り返す災害と長く向き合うために」	招待講演	20191215	20191215	宮城での歴史資料保全活動16年—4度の自然災害を経て	行政	新潟歴史資料救済ネットワーク	新潟大学人文学部	新潟市	日本	30
2	公開講座	政宗講座第二弾 歴代藩主講座 政宗の夢を継承	招待講演	20200215	20200215	11代藩主斉義・12代藩主斉邦 領内の再建、天保の危機	企業	東北福祉大学	東北福祉大学 仙台東口キャンパス	仙台市	日本	300

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク		理事	20140701
2	地方自治体	石巻市	石巻市近代建築保存整備調査研究専門委員会	委員	20140801
3	その他	独立行政法人 人間文化研究機構	災害時歴史文化資料保全システム検討チーム	委員	20160000
4	その他	独立行政法人 国立文化財機構	歴史遺産救済ガイドライン策定ワーキンググループ	委員	20180400

# 川内 淳史 准教授

## KAWAUCHI Atsushi

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	都留文科大学	文学部	2004	3	上越教育大学	学校教育研究科	2006	3	修士(教育学)	2006	3
2					関西学院大学	文学研究科	2012	3	博士(歴史学)	2012	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2012	3	伊丹市立博物館	震災資料調査員
2	2012	1	2012	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術推進研究員
3	2012	6	2013	3	伊丹市資料修史等専門委員会	調査員
4	2013	4	2015	3	大阪市史料調査会	調査員
5	2013	4	2018	9	関西学院大学	非常勤講師
6	2013	4	2018	9	神戸女学院大学	非常勤講師
7	2014	10	2015	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術研究員
8	2015	5	2018	9	神戸大学大学院 人文学研究科	特命講師
9	2018	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5
日本史研究会	大阪歴史学会	大阪歴史科学協議会	弘前大学国史研究会	北海道・東北史研究会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
歴史学	日本近現代史	地域史	アーカイブズ学	資料保存論

### B. 研究活動

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	現在		大正～昭和期の地域医療・保健衛生に関する研究	なし
2	2004	4	現在		地域社会における国家主義思想に関する研究	なし
3	2006	4	現在		戦前～戦後期の国民健康保険と地域社会に関する研究	なし
4	2007	6	現在		大規模自然災害時における歴史資料保全に関する研究	国内
5	2010	6	現在		大規模自然災害時における災害アーカイブに関する研究	国内
6	2018	10	現在		歴史文化資料の保全に関する大学等ネットワーク構築に関する研究	国内
7	2019	4	現在		近現代日本における災害社会史に関する研究	両方

### 論文

単著	2	筆頭 共著	その他の 共著	合計	2
----	---	----------	------------	----	---

うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無	2
----	-----------	-----------	-----------	-----------	---

	記述 言語	区分	所外 連携	国際 学術誌	種別	査読	招待 論文	論文題目名 (原語)	著者氏名 (共著者含)	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日
1	日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	史料紹介 戦地への手紙—ある兵士と女性の文通—	川内淳史	市史研究みき		4	100	120	20190800
2	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論 文掲載)	無	はい	大規模自然災害と資料保存—「資料ネット」活動を中心—	川内淳史	近世・近現代 文書の保 存・管理の歴史			264	283	20191025

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名以外)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点、指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点	公開フォーラム「被災地と史料をつなぐⅡ－令和元年台風19号における被災資料レスキューと現状－」	20200227	20200227	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	40	人文社会系	報告者 コーディネータ	IRIDeS主催・共同主催	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点 指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点	国内

D. 社会活動

社会活動の概要

2019年10月に発生した台風19号に際して、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークと協力しながら、宮城県内で被災した歴史資料・文化財の救出保全活動を実施した。また、それに関連した社会活動が今年度は大きなウェイトを占めた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第62回IRIDeS金曜フォーラム	発表	20190531	20190531	大規模自然災害と歴史文化資料の保全・継承－過去の記憶を、未来へ伝える－	なし	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	
2	講演会	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク講演会	講演	20190706	20190706	神戸からみた東日本大震災－後方支援から広域支援体制へ－	なし	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	東北学院大学	仙台市	日本	50
3	公開講座	令和元年台風19号調査報告会～河川、気象、地盤、史学、災害医療の各分野から～	発表	20200108	20200108	19世紀初頭丸森町の「町場替」と2019年台風19号被害について	なし	名城大学自然災害リスク軽減研究センター	名城大学	名古屋	日本	200
4	その他	第6回全国史料ネット研究交流集会	ディスカッション	20200208	20200209	座談会「史料ネットの25年と資料保全・地域史のあゆみ」	行政	歴史資料ネットワーク 人間文化研究機構	御影公会堂	神戸市	日本	250
5	その他	第6回全国史料ネット研究交流集会	司会	20200208	20200209	座談会「史料ネットと震災史料の25年」	行政	歴史資料ネットワーク 人間文化研究機構	御影公会堂	神戸市	日本	250
6	公開講座	公開フォーラム「被災地と史料をつなぐⅡ－令和元年台風19号における被災資料レスキューと現状－」	講演	20200227	20200227	2019年台風19号における宮城県内での被災資料救済・保全活動	なし	東北大学災害科学国際研究所、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点、指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	40

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	岩沼市	岩沼市史編纂委員会	調査執筆員(震災部会)	20190701

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 5 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	北海道大学大学院文学研究科	白木沢旭見, 谷本晃久	20190825	会議	北海道大学	札幌市	企画	16
2	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	天野真志, 後藤真	20190904	会議	人間文化研究機構本部	東京	その他	15
3	上越教育大学大学院学校教育研究科	浅倉有子	20190911	会議	上越教育大学	上越市	その他	3
4	北海道大学大学院文学研究科	谷本晃久	20190917-19	共同研究	宗眸院	丸森町	運営	40
5	神戸大学大学院人文学研究科	奥村弘, 佐々木和子, 吉川圭太, 水本有香	20200131	その他	神戸大学附属図書館	神戸市	その他	30

# 安田 容子 助教

YASUDA Yoko

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	2002	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2004	3	修士(環境学)	2004	3
2					東北大学大学院	環境科学研究科	2012	3	博士(学術)	2012	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	9	2013	2	株式会社 循環社会研究所	地域調査員
2	2012	10	2016	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	特別教育研究教員
3	2016	4	2017	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	研究支援者
4	2017	4	2018	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	教育研究支援者
5	2018	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	助教

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	ヒトと動物の関係学会	生き物文化誌学会	美術史学会	文化財保存修復学会	日本伝統文化学会	国際浮世絵学会	大正イマジユイ学会	Association for East Asian Environmental History

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	ヒトと動物の関係学会		評議員	20160400
2	生き物文化誌学会		評議員	20190700

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	人と動物の関係史	日本近世近代美術史	地域資料保存

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

被災美術資料のうち、特に地域の個人宅にのこされた地域美術資料保存の課題に取り組みながら、個人コレクションおよび、地方文人・画人ののこした資料の保存と活用に関する研究を行っている。鶴岡市にのこされている松森胤保の著作物から近代科学史における一地方の個人の役割についての研究については、資料の1冊について翻刻資料集を刊行した。兵庫県朝来市にのこされた歴史資料のうち、美術資料に注目し、近世の当地における美術の集積活動とネットワークについての資料調査を行っている。東日本大震災被災のE家資料については掛け軸類について安定化処置を行った。鼠害に関する研究では、安政2年の鼠大発生について調査・研究発表を行った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	3	現在		被災美術資料E家コレクションの保存・継承に関する研究	国内
2	2017	4	現在		松森胤保の著作と博物図譜作成に関する研究	なし
3	2017	4	現在		生野石川家の近世文人ネットワークに関する研究	国内
4	2018	7	現在		地域における被災美術資料の保全に関する研究	国内
5	2019	4	現在		安政2年の鼠大発生と鼠に対する動物観に関する研究	なし

### 著書(監修・編集・単著・共著)

監修	編集	単著	1	筆頭共著	共著	合計	1	うち	国際	国内	1
----	----	----	---	------	----	----	---	----	----	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	松森胤保の蒐集活動『家蔵五玩雑録』巻一の蒐集物	その他	20200331	安田容子	単著	蕃山房	国内	80

学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	文化財保存修復学会第41回大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	帝京大学	八王子	日本	20190622	20190623	20190623	西日本豪雨災害により被災した掛軸類の保全に関する研究	<u>安田容子</u> 、下向井祐子、西向宏介
2	国内	日本伝統文化学会		単名	いいえ	口頭(一般)	CURIOUSITY	大阪	日本	20190914	20190914	20190914	民間所在の水損美術資料の応急処置に関する研究	<u>安田容子</u>
3	国際	The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History	Kuang-chi Hung	単名	いいえ	口頭(一般)	国立成功大学	台南	台湾	20191024	20191027	20191017	The Rats Plagues Japan in 1855: A Study on the Representation of Rats Swarms	<u>Yoko YASUDA</u>
4	国際	The 7th International Symposium on Water Environment Systems ~with Perspective of Global Safety		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20191114	20191116	20191115	Hydrological Analysis for Seasonal Change of Fire event in Edo era in Miyagi Prefecture	<u>Runa Inoue</u> , Yoko Yasuda, Yoshiya Touge
5	国内	生き物文化誌学会第75回例会 東京例会「命を見る目録」	遠藤秀紀	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東京大学	文京区	日本	20191123	20191123	20191123	斑ねずみの誕生とどぶねずみー江戸時代後期のねずみ観一	<u>安田容子</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

No.	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	生き物文化誌学会	生き物文化誌学会第78回例会 気仙沼例会「三陸の生き物文化」	20200208	20200208	リアス・アーク美術館	気仙沼市	日本	27	環境&地球科学	コーディネーター、司会	なし		なし

C. 教育活動

教育活動の概要

他大学の博物館学芸員単位取得課程において、資料保存と地域資料の取り扱いに重点を置いた授業を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

No.	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	文化財論	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	3	前期	15
2	博物館論	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	1	後期	15
3	博物館実習 I	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	2	3Q	15
4	日本史 I	仙台白百合女子大学	全学		1	前期	15
5	日本史 II	仙台白百合女子大学	全学		1	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークと連携し、歴史資料の保全と資料の活用に向けたとらきみを行っている。互理町E家資料調査の一環で、E家の資料を用いた企画展の展示構成に協力した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	3件
----	----

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第四回小さな杜の学び舎	招待講演	20191010	20191010	小池曲江の手紙～十九世紀の仙台絵師と京都	なし	良覚院丁庭園を守る会	良覚院丁庭園 緑水庵	仙台市	日本	40
2	講演会	千支の講演会2020「人とねずみ あなたにとってねずみとは？」	招待講演	20200113	20200113	日本人とねずみー江戸時代のねずみとのつきあい	なし	公益財団法人 東京動物園協会	多摩動物公園 ウォッチングセンター内動物ホール	日野市	日本	260
3	展示会	令和元年度互理町立郷土資料館教育普及事業 春のアーマ展ギャラリートーク	展示解説	20200301	20200301	ギャラリートーク「めでた掛けと宝船～江戸家被災資料から～」	行政	互理町	互理町立郷土資料館	互理町	日本	7

# 丸谷 浩明 教授

## MARUYA Hiroaki

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	経済学部	1983	3					博士(経済学)	2008	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1983	4	1985	7	建設省 住宅局 住宅政策課	係員
2	1985	7	1987	3	建設省 都市局 区画整理課	法規係長
3	1987	4	1988	9	建設省 建設経済局 調査情報課	情報政策係長
4	1988	10	1990	3	経済企画庁 調査局 内国調査第一課	専門調査員、主査
5	1990	4	1994	4	外務省 赴任研修、在シンガポール日本国大使館	二等書記官、一等書記官
6	1994	5	1995	7	建設省 住宅局 住宅政策課	課長補佐
7	1995	7	1997	7	建設省 建設経済局 国際課 国際企画室	課長補佐
8	1997	7	2000	4	阪神高速道路公団 計画部	企画課長
9	2000	4	2002	7	建設省 建設経済局 建設業課	建設市場アクセス推進室長
10	2002	7	2004	7	国土交通省 総合政策局 建設振興課	労働資材対策室長
11	2004	7	2005	7	内閣府政策統括官(防災担当)付	企画官
12	2005	7	2008	7	京都市 経済研究所 先端政策分析研究センター	教授
13	2008	7	2011	11	(財)建設経済研究所	研究理事
14	2009	2	2013	3	兼務(非常勤) 東京工業大学 都市地震工学センター	特任教授
15	2011	11	2012	8	内閣府政策統括官(防災担当)付	参事官
16	2012	9	2013	9	国土交通省 国土交通政策研究所	政策研究官
17	2013	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地域安全学会	都市住宅学会	日本建築学会	日本不動産学会	地区防災計画学会	国際危機管理学会(日本支部)

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	都市住宅学会	東北支部	常議員	20140409

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	事業継続マネジメント(BCM)	防災計画	災害ボランティア	防災法制	復興制度

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	東北大学教育研究評議会	評議員	20150401
2	全学	災害対策推進室	アドバイザー	20150401
3	全学		部局評価責任者	20170401
4	全学	産学連携リエゾンネットワーク	産学連携リエゾン	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

企業の事業継続マネジメント(BCM)及び組織の防災の研究では、所内に事業継続マネジメント(BCM)連携研究センターを立ち上げ、同センター主催でBCP月次オープン講座を6回連続で開催した。2018年の北海道胆振東部地震、2019年の令和元年東日本台風の企業・地域の影響を情報収集し、また、独自の中小企業向けBCP策定マニュアルを各地の講習会等で活用した。大学のBCPの研究としては、東北大学本部のBCPの策定・改善を担い、本部の訓練を踏まえた見直しも行い、災害科学国際研究所のBCPの改定を行った。また、仙台で産官学による勉強会「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」の主事を継続し、毎月会合を開いた。学会活動は、地域安全学会、都市住宅学会を中心に行った。
---



研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	7	現在		事業継続マネジメント(BCM)、事業継続計画(BCP)の研究	両方
2	2005	7	現在		企業・公的組織の防災対策の研究	国内
3	2005	7	現在		災害ボランティアの研究	国内
4	2012	9	現在		防災計画、防災法制の研究	国内
5	2012	9	現在		首都直下地震(特に、帰宅困難者の一時滞在施設)、南海トラフ地震の研究	国内
6	2013	10	現在		産官学民連携による防災の研究	なし
7	2013	10	現在		大学の業務継続計画(BCP)の研究	両方
8	2014	4	現在		災害復興制度(特に、企業、住宅、まちづくりの復興)の研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著		合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	--	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	筆頭共著	国内	いいい	学術雑誌	無	いいい	東日本大震災の被災企業調査も踏まえた熊本でのBCP策定支援(2年目)	丸谷浩明, 寅屋敷哲也, 佐々木宏之, 藤見俊夫	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		29	32	20190800
2	日本語	単著	国内	いいい	学術雑誌	無	はい	事業継続の視点からの積雪時の交通インフラのあり方—企業のBCPから求められる代替ルート、管理体制、通信	丸谷浩明	都市計画	69	1	32	33	20200115

著書(監修・編集・単著・共著)

監修		編集		単著	1	筆頭共著		共著		合計	1	うち	国際		国内	1
----	--	----	--	----	---	------	--	----	--	----	---	----	----	--	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 BCP(Business Continuity Plan)＝事業継続計画とは何か、他組織のBCPと比較した学校のBCP(レジリエントな学校づくり—教育中断のリスクとBCPに基づく教育継続)	編集本(著者・Author)	20190801	丸谷浩明(渡邊正樹、佐藤健)	単著	大修館出版	国内	

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	東北大学災害科学国際研究所 平成30年度共同研究成果報告会	佐藤翔輔	筆頭連名	いいい	口頭(一般)	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20190720	20190720	20190720	熊本地震被災地の公的組織の業務継続力の向上のための実践的研究	丸谷浩明、佐々木宏之、藤見俊夫、寅屋敷哲也
2	国内	地域安全学会 東日本大震災連続WS 2019 in 南相馬	稲垣景子	筆頭連名	いいい	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	東日本大震災の被災企業調査も踏まえた熊本でのBCP策定支援(2年目)	丸谷浩明、佐々木宏之、藤見俊夫、寅屋敷哲也
3	国内	第9回 首都直下地震復興研究会	中林一樹	単名	はい	口頭(一般)	明治大学	東京	日本	20191121	20191121	20191121	首都直下地震における首都中枢機能の継続のBCPと経済の早期復興	丸谷浩明
4	国内	都市住宅学会2019年度大会	島田明夫	単名	はい	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20191130	20191130	20191130	住宅の防災と企業の早期復旧を実現する復興まちづくり	丸谷浩明

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	9件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第56回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第26回	20190405	20190405	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
2	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第57回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第27回	20190510	20190510	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
3	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第58回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第28回	20190607	20190607	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15(1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
4	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第59回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第29回	20190705	20190705	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15(1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内

5	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第60回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第30回	20190906	20180906	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15 (1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
6	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第61回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第31回	20191004	20191004	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15 (1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
7	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第62回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第32回	20191101	20191101	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15 (1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
8	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第63回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第33回	20191206	20191206	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15 (1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
9	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第64回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第34回	20200110	20200110	災害科学国際研究所	仙台市	日本	15 (1)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育での「経済と社会:東日本大震災等の災害と社会の対応」の授業、兼務先の法学研究科公共政策大学院で、「防災法」、「防災政策論演習」の授業、リーディング大学院での授業等を行った。特に、全学教育の授業は135名の履修を得られ、出席率も高かった。演習でのレポートは、個別相談の面談も行って、質の高い議論が行えたと考えている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	防災政策論演	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		後期	30
2	経済と社会(東日本大震災等の災害と社会の対応)	東北大学	全学		1, 2	後期	15
3	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	8
4	公共政策入門	東北大学	全学		1	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

内閣府主催「第4回防災推進国民大会(名古屋)」での災害研主催行事を企画・運営し、当研究所でBCP月次オープン講座を6回連続で開催した。また、事業継続計画や防災の講演を年間21回行った。政府・地方自治体の公的委員会の委員を10件務め、NPO事業継続推進機構の副理事長を務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 7 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	内閣府等主催第4回防災推進国民大会でのセッション「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」	20191019	20191019	名古屋コンベンションホール	名古屋	日本	運営責任者	60	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
2	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第1回「BCPとは何か」	20190607	20190607	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	82	IRIDeS協力	講演会	
3	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第2回「被害想定」	20190705	20190705	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	75	IRIDeS協力	講演会	
4	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第3回「事業影響度分析」	20190906	20190906	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	60	IRIDeS協力	講演会	
5	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第4回「事業継続戦略」	20191004	20191004	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	46	IRIDeS協力	講演会	
6	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第5回「事前対策」	20191101	20191101	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	53	IRIDeS協力	講演会	
7	国内	災害科学国際研究所事業継続マネジメント連携研究センター	BCP月次オープン講座 第6回「訓練・維持管理」	20191206	20191206	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	代表者、講師	46	IRIDeS協力	講演会	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 21 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	栃木県BCP策定支援プロジェクト主催セミナー	招待講演	20190619	20190619	事業継続計画(BCP)の必要性～大規模災害発生時に後悔しないために～	行政	栃木県	栃木県庁	宇都宮市	日本	120
2	講演会	日本電設工業協会経営委員会勉強会	招待講演	20190716	20190716	近年の建設業のBCPの状況について	企業	日本電設工業協会経営委員会	東京電設会館	東京都千代田区	日本	15
3	講演会	東北電力BCP勉強会	招待講演	20190725	20190725	事業継続計画(BCP)の必要性とポイント	企業	東北電力	東北電力本社	仙台市	日本	50
4	講演会	みやぎ生活協 協定締結自治体との懇談会	招待講演	20190806	20190806	行政として大規模災害に対して備えておくべきこと	企業	みやぎ生活協同組合	みやぎ生活協同組合本部	仙台市	日本	40
5	セミナー	静岡県 令和元年度危機管理(BCP)研修	招待講演	20190809	20190809	行政の発災時の対応と業務継続計画	行政	静岡県	静岡県用宗研究所	静岡市	日本	50
6	セミナー	2019年度危機管理士講座2級(自然災害)	招待講演	20190824	20190824	業務継続計画(BCP)	なし	NPO日本危機管理士機構	ちよだプラットフォーラムスクウェア	東京都千代田区	日本	40
7	セミナー	港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー第1回	招待講演	20190822	20190822	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	AP浜松町	東京都港区	日本	45
8	セミナー	港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー第2回	招待講演	20190830	20190830	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	AP浜松町	東京都港区	日本	40
9	セミナー	港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー第3回	招待講演	20190830	20190830	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	AP浜松町	東京都港区	日本	30
10	セミナー	港区芝地区総合支所主催 事業者向け防災セミナー第4回	招待講演	20190903	20190903	BCPの実効性のチェックを踏まえた既存のBCPの見直し	行政	港区芝地区総合支所	AP浜松町	東京都港区	日本	20
11	講演会	(株)丸和運輸機関役員研修	招待講演	20190916	20190916	BCP策定とBCP物流支援事業を進める要点	行政	(株)丸和運輸機関	丸和運輸機関本社	吉川市	日本	60
12	セミナー	人事院第276回行政研修(課長補佐級)	招待講演	20191008	20191008	防災政策講義	行政	人事院	人事院研修所	東京都台東区	日本	50
13	セミナー	中小企業強靱化法セミナー	招待講演	20191210	20191210	「事業継続力強化計画」の認定を受け、取引先から災害対応の信頼を得るには	行政	仙台市	三井住友海上開催仙台ビル	仙台市	日本	20
14	セミナー	BCAO認定事業継続主任・准主任継続教育	招待講演	20191212	20191212	不可欠なリソース重視で事業継続対策の再確認	企業	NPO法人 事業継続推進機構	LMJ東京研修センター	東京都文京区	日本	30
15	セミナー	BCAO12月度月例オープン勉強会(大阪会場)	招待講演	20191213	20191213	南海トラフ地震の「半割れ」に備えた事業継続(BC)	企業	NPO法人 事業継続推進機構	大阪大学中之島センター	大阪市	日本	50
16	セミナー	水道技術管理者研修会	招待講演	20191218	20191218	災害発生時の対応と業務継続計画	行政	日本水道協会 静岡県支部	掛川グランドホテル	掛川市	日本	40
17	セミナー	BCAO12月度月例オープン勉強会(東京会場)	招待講演	20200122	20200122	南海トラフ地震の「半割れ」に備えた事業継続(BC)	企業	NPO法人 事業継続推進機構	国立オリンピック記念青少年総合センター	東京都渋谷区	日本	40
18	セミナー	障害福祉サービス事業者向けセミナー	招待講演	20200130	20200130	身体・生命・資産を守るBCP(事業継続計画)セミナー	行政	仙台市	仙台市福祉プラザ	仙台市	日本	50
19	講演会	高知商工会議所主催講演会	招待講演	20200218	20200218	南海トラフの「半割れ」にも対応できる事業継続計画(BCP)	行政	高知商工会議所	高知商工会議所	高知市	日本	100
20	セミナー	2019年度危機管理士講座2級(自然災害)	招待講演	20200222	20200222	業務継続計画(BCP)	なし	NPO日本危機管理士機構	ちよだプラットフォーラムスクウェア	東京都千代田区	日本	40
21	セミナー	BCAO3月度月例オープン勉強会	招待講演	20200325	20200325	強靱化認定を受けた中小企業にまず取り組んでほしい事業継続力強化策	企業	NPO法人 事業継続推進機構	NPO法人 事業継続推進機構会議室	東京都中央区	日本	50

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	内閣府	政府業務継続に関する評価等有識者会議	委員	20140000
2	国・政府	内閣府	「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会	委員、「災害の備え」コースコーディネーター	20140000
3	国・政府	内閣府	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ	委員	20190100
4	国・政府	国土交通省	企業等の東京一帯集中に関する懇談会	委員	20191209
5	国・政府	内閣官房地域活性化統合事務局	都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG	委員	20110000
6	地方自治体	京都府		危機管理アドバイザー	20090000
7	地方自治体	仙台市		仙台市国土強靱化アドバイザー	20190900
8	地方自治体	岩沼市(宮城県)	防災会議	委員	20180817
9	地方自治体	気仙沼市(宮城県)	新庁舎建設基本構想策定有識者会議	委員長	20181111
10	地方自治体	南相馬市(福島県)	南相馬市職員の公務死亡事案に関する調査委員会	委員	20200302
11	民間・NPO	NPO法人 事業継続推進機構		副理事長	20120500
12	民間・NPO	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会		副理事長	20160300
13	民間・NPO	認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク	休眠預金等に係る資金の活用事業選考委員会	委員	

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 6 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	熊本学園大学付属業経営研究所	吉川晃史	20190614	講演	熊本学園大学	熊本市	講演・発表	40
2	東北大学メディカルメガバンク機構	佐藤義幸	20190729	講演	東北大学メディカルメガバンク機構	仙台市	講演・発表	30
3	茨城大学総務部	佐藤秀雄ほか 2名	20190823	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	その他	4
4	高知商工会議所	佐竹慶生高知商 工会議所情報文 化部会部会長ほ か10名	20190917	会議	高知商工会議所	高知市	講演・発表	20
5	徳島大学環境防災研究センター	湯浅恭史	20191223	共同研究	徳島大学環境防災研究センター	徳島市	その他	3
6	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	磯打千雅子	20191224	共同研究	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	高松市	その他	3

# 佐藤 翔輔 准教授

## SATO Shosuke

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	長岡工業高等学校専攻科	環境都市工学専攻	2005	3	京都大学大学院	情報学研究科	2011	3	博士(情報学)	2011	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2011	3	日本学術振興会(京都大学防災研究所巨大災害研究センター付)	特別研究員(DC2)
2	2011	4	2012	3	東北大学 大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
3	2012	4	2017	10	東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	地域安全学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	日本災害復興学会	土木学会	電子情報通信学会	日本建築学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	社会に役立つ防災情報システム研究小委員会	委員	20120000
2	地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	20160000
3	地域安全学会	学術委員会	学術委員	20160400
4	地域安全学会	学術委員会	学術委員	20180300
5	日本災害情報学会	編集委員会	編集委員(委員→幹事)	20170900
6	日本災害情報学会	企画委員会	企画委員	20190400
7	電子情報通信学会	安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会	幹事補佐→専門委員	20130000
8	電子情報通信学会	電子情報通信学会論文誌安全・安心な生活のための情報通信システム特集号	編集委員	20140000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害社会情報学	災害伝承学	社会システム工学・安全システム	自然災害科学・防災学	復旧・復興工学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

1) 災害伝承に関する研究として、災害の記憶の場、伝承メディア(津波碑、地名等)が被災に及ぼす効果に関する研究を行っている。2) 災害情報に関する研究として、災害アーカイブやテキストデータを始めとするビッグデータを応用した災害対応支援システムに関する研究を行っている。3) 災害復興に関する研究として、東日本大震災における復興計画・復興事業に関する体系的な調査、被災者の生活再建に関する研究を行っている。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2005	3	震災時の生活支障と収容避難所需要に関する研究	国内
2	2005	4	現在		災害の言語資料の可視化・活用に関する研究	国内
3	2011	4	現在		災害伝承の実態把握とその効果に関する研究	国内
4	2011	4	現在		災害発生時の情報リテラシーに関する研究	国内
5	2011	4	現在		災害アーカイブ学の構築(みちのく震録伝)の開発	国内
6	2011	4	現在		被災自治体の災害対応過程の解明	国内
7	2011	4	現在		マスメディアが災害対応に及ぼす影響に関する研究	国内
8	2012	4	現在		津波避難訓練手法の開発	国内
9	2012	4	現在		災害時の「生きる力」の解明	国内
10	2012	4	現在		復興計画・復興事業に関する研究、被災者の生活再建に関する研究	国内
11	2012	4	現在		防災・減災啓発ツールの開発、ブランディング戦略	国内

#### 論文

単著	3	筆頭共著	2	その他の共著	30	合計	35	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	8	国内査読無	22
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響:語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究	佐藤翔輔, 昌本俊亮, 新国佳祐, 今村文彦	地域安全学会論文集	35		115	124	20191100

2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地域住民を対象とした防災情報の理解度等に関する基礎調査と可能最大洪水を想定した防災対応の提案	呉修一, 千村結徳, 地引泰人, 佐藤翔輔, 森口周二, 岡本俊彦	自然災害科学	38	4	449	467	20200200
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Survival-oriented personality factors are associated with various types of social support in an emergency disaster situation	Motoaki Sugiura, Rui Nouchi, Akio Honda, Shosuke Sato, Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura	PLOS ONE	15	2	e0228875		20200200
4	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	仙台市震災復興メモリアル施設の利用実態と利用評価に関する調査分析—せんだい3,11メモリアル交流館と震災遺構仙台市立荒浜小学校—	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集	35		191	198	20191100
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	借り上げ仮設住宅施策はすまいの再建を早めたか—宮城県名取市のデータを用いた因果推論—	川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	地域安全学会論文集	35		217	224	20191100
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波災害における基礎自治体の代替庁舎での業務継続に関する考察—東日本大震災の南三陸町職員の初動対応検証調査より—	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会論文集	35		243	252	20191100
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Psychological processes and personality factors for an appropriate tsunami evacuation, Geosciences	Motoaki Sugiura, Shosuke Sato, Rui Nouchi, Akio Honda, Ryo Ishibashi, Tsuneyuki Abe, Toshiaki Muramoto, Fumihiko Imamura	Geosciences	9	8	11	19	20190700
8	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の津波情報の受容状況と津波避難開始に関する分析	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75		I_1393	I_1398	20191100
9	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波被災後の沿岸観光地における来訪者の津波に対する意識・備え	馬場亮太, 佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75		I_1399	I_1404	20191100
10	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	復興事業区域内に自立再建する被災者の住宅再建に関する意思決定の規定因—宮城県名取市を事例として—	伊藤圭祐, 牧紀男, 立木茂雄, 佐藤翔輔, 松川杏寧	日本建築学会計画系論文集	84	762	1863	1870	20190800
11	日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	1967年羽越水害の伝承と「えちごせきかわしたもん蛇まつり」	佐藤翔輔	第38回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			31	32	20190921
12	日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	学術論文にみる東日本大震災: 関連学会論文を対象にした比較分析	佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		89	92	20190802
13	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災の被災地における語り部・被災地ガイドの実態把握の試み	佐藤翔輔	地域安全学会概集	44		139	140	20190500
14	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災の教訓浸透度の試行評価	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307
15	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	高知県と岩手県における津波碑の比較分析	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307
16	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	発災から50年後の水害被災地の記憶と備えの実態分析: 羽越水害を経験した新潟県関川村	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和元年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20200307
17	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	思考・行動の変化に着目したインタビュー調査による津波避難行動過程の事例分析—東日本大震災時の気仙沼市波路上エリアを対象にして—	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会概集	45		93	96	20191100
18	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	「地域安全学 夏の学校2019—基礎から学ぶ防災・減災—」地域安全学領域における若手人材育成 その4	高山久, 松川杏寧, 寅屋敷哲也, 倉田和己, 杉安和也, 河本尋子, 佐藤翔輔	地域安全学会概集	45		51	54	20191100
19	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	固定発信源と移動発信源による避難情報伝達の効率性の比較	小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会講演論文集			2		20191000
20	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災アーカイブの活用実態と促進要因—岩手県・宮城県・福島県の実態調査—	池田真幸, 佐藤翔輔	日本災害情報学会 第21回学会大会予稿集			80	81	20191000
21	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	災害時の生活支援への評価と対応—北海道胆振東部地震・札幌市民アンケートから—	岩崎雅宏, 佐藤翔輔	日本災害情報学会 第21回学会大会予稿集			154	155	20191000
22	日本語	単著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	UAVIによる三次元点群データを用いた洪水氾濫流の越水地点推定	橋本雅和, 佐藤翔輔, 市川健, 横笛晋, 佐藤慶治, 天谷香織, 那須野新	第38回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			89	90	20190921
23	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その4—災害初動対応拠点および避難施設の立地分析—	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		1	2	20190802
24	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その5—自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察—	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		3	6	20190802
25	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	被災前の世帯の脆弱性がすまい再建に与える影響	川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		51	56	20190802

26	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	生活再建ケースマネジメント支援手法のキーワード分析ー生活再建課題とその対応ー	松川杏寧, 辻岡綾, 川見文紀, 藤本慎也, 佐藤翔輔, 立木茂雄	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		69	72	20190802
27	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災を伝承する官民連携体制のあり方検討	中川政治, 平井邦彦, 山口壽道, 玉木賢治, 福留邦洋, 佐藤翔輔, 浅利満理子, 白戸智, 小田嶋美咲	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		79	84	20190802
28	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	門脇小学校震災遺構の保存に関わる行政・住民の取り組み	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		85	88	20190802
29	英語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	How Do Pre-Disaster Social Vulnerabilities Affect Temporary Housing Residency ?	Fuminori Kawami, Anna Matsukawa, Shosuke Sato, Shigeo Tatsuki	Proceedings of 44th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop					20190700
30	英語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	Statistical analysis of tsunami evacuation behavior complementing tsunami victim's data	Anna Shinka, Shosuke Sato, Daijiro Mizutani, Fumihiko Imamura	Proceedings of IUGG19-2073, The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)					20190700
31	英語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	Analysis of human behaviour patterns in the 2011 Tohoku tsunami focusing on response behaviours	Fumiyasu Makinoshima, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Masaharu Nakagawa	Proceedings of IUGG19-2073, The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)					20190700
32	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災時に発信された災害情報内容の推移とその受容に関する分析	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会梗概集	44		93	94	20190500
33	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その1ー津波到達までの災害初動対応業務および避難行動の分析	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会梗概集	44		67	70	20190500
34	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その2ー震災から2カ月間の対応における教訓の分析	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会梗概集	44		63	66	20190500
35	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その3ー災害対策本部および仮設庁舎のレイアウトに関する分析ー	花田悠磨, 村尾修, 杉安和也, 寅屋敷哲也, 佐藤翔輔	地域安全学会梗概集	44		71	74	20190500

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	2	筆頭共著	0	共著	1	合計	3	うち	国際	0	国内	3
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	ライフライン停止による生活支障の実態 (令和元年度科学研究費助成事業「令和元年 台風15号による停電の長期化に伴う影響と風水害に関する総合調査」研究報告書)	その他	20200300	佐藤翔輔	単著	千葉大学	国内	
2 日本語	検証・震災遺構のあり方を巡る合意形成過程 (震災学, Vol. 14)	編集本 (著者・Author)	20200300	坂口奈央, 佐藤翔輔	共著	東北学院大学/荒蝦夷	国内	
3 日本語	寄稿・オープンディスカッションをふりかえって (ライフミュージアムネットワーク2019活動記録集(オープンディスカッション:災害とミュージアム 何を残し、伝えるのか))	編集本 (著者・Author)	20200300	佐藤翔輔	単著	ライフミュージアムネットワーク実行委員会	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1 日本語	災害記憶の伝承ー東北の今と宮城県庁における災害対応過程の記憶伝承	その他	無	はい	月刊 ガバナンス	227		32	24	20200200	佐藤翔輔	単著	なし
2 日本語	住民と自治体が「情報でつながる」ために	その他	無	はい	日本災害情報学会 News Letter	80		3		20200100	佐藤翔輔	単著	なし
3 日本語	テーマB 防災の伝承の課題ー震災遺構と語り部 第4章 いま、あの日まで、これからの震災伝承	その他	無	はい	「東日本大震災からみる現代日本社会」, 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター					20190700	佐藤翔輔	単著	なし
4 日本語	東北復興研究会	その他	無	はい	日本災害復興学会 News letter	33		4		20190500	佐藤翔輔, 坂口奈央	筆頭共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	21	合計	23
----	---	------	---	--------	----	----	----

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	地域安全学会・2019年度第45回 研究発表会(秋季)	越山健治	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県立大学	静岡	日本	20191101	20191102	20191101	震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響:語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究	佐藤翔輔, 邑本俊亮, 新国佳祐, 今村文彦
2	国内	地域安全学会・2019年度第45回 研究発表会(秋季)	村上正浩	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県立大学	静岡	日本	20191101	20191102	20191101	借り上げ仮設住宅施策はすまいの再建を早めたかー宮城県名取市のデータを用いた因果推論ー	川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄
3	国内	地域安全学会・2019年度第45回 研究発表会(秋季)	佐藤翔輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県立大学	静岡	日本	20191101	20191102	20191102	津波災害における基礎自治体の代替庁舎での業務継続に関する考察ー東日本大震災の南三陸町職員の初動対応検証調査よりー	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
4	国内	第66回海岸工学講演会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191025	「地域安全学 夏の学校2019ー基礎から学ぶ防災・減災ー」地域安全学領域における若手人材育成 その4	馬場亮太, 佐藤翔輔, 今村文彦
5	国内	地域安全学会・2019年度第45回 研究発表会(秋季)		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	静岡県立大学	静岡	日本	20191101	20191102	20191102	「地域安全学 夏の学校2019ー基礎から学ぶ防災・減災ー」地域安全学領域における若手人材育成 その4	自山久, 松川杏寧, 寅屋敷哲也, 倉田和己, 杉安和也, 河本孝子, 佐藤翔輔
6	国内	電子情報通信学会・安全・安心な生活とICT研究会(ICTSSL)	内田理	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	別府国際コンベンションセンター	別府	日本	20191017	20191018	20191017	固定発信源と移動発信源による避難情報伝達の効率性の比較	小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔
7	国内	日本災害情報学会 第21回学会大会	天野教義	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	サンポートホール高松	高松	日本	20191019	20201020	20191019	東日本大震災アーカイブの活用実態と促進要因ー若手県・宮城県・福島県の実態調査ー	池田真菜, 佐藤翔輔
8	国内	日本災害情報学会 第21回学会大会	小林秀行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	サンポートホール高松	高松	日本	20191019	20201020	20191019	災害時の生活支障への評価と対応ー北海道胆振東部地震・札幌市民アンケートからー	岩崎雅宏, 佐藤翔輔
9	国内	第38回日本自然災害学会年次学術講演会	佐藤健	単名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	1967年羽越水害の伝承と「えちごせきかわだしたもん蛇まつり」	佐藤翔輔
10	国内	第38回日本自然災害学会年次学術講演会	大西正光	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	日本	20190921	20190922	20190921	UAVIによる三次元点群データを用いた洪水氾濫流の越水地点推定	橋本雅和, 佐藤翔輔, 市川健, 楢館晋, 佐藤慶治, 天谷香織, 那須野新
11	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	学術論文にみる東日本大震災:関連学論文を対象にした比較分析	佐藤翔輔, 今村文彦
12	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	稲垣景子	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その5ー災害初動対応拠点および避難施設の立地分析ー	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
13	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	稲垣景子	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その4ー自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察ー	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
14	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	被災前の世帯の脆弱性がすまい再建に与える影響	川見文紀, 松川杏寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄
15	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	生活再建ケースマネジメント支援手法のキーワード分析ー生活再建課題とその対応ー	松川杏寧, 辻岡綾, 川見文紀, 藤本慎也, 佐藤翔輔, 立木茂雄
16	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	東日本大震災を伝承する官民連携体制のあり方検討	中川政治, 平井邦彦, 山口壽道, 玉木賢治, 福岡邦洋, 佐藤翔輔, 浅利満理子, 白戸智, 小田嶋美咲
17	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	南相馬	日本	20190802	20190802	20190802	門脇小学校震災遺構の保存に関わる行政・住民の取り組み	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔
18	国際	44th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Omni Interlocken Hotel	Colorado	アメリカ	20190717	20190717	20190717	How Do Pre-Disaster Social Vulnerabilities Affect Temporary Housing Residency ?	Fuminori Kawami, Anna Matsukawa, Shosuke Sato, Shigo Tatsuki
19	国際	The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) 2019		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	モントリオール国際会議場	Montreal	カナダ	20190708	20190718	20190708	Analysis of human behaviour patterns in the 2011 Tohoku tsunami focusing on response behaviours	Fumiyasu Makinoshima, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Masaharu Nakagawa
20	国内	地域安全学会・2019年度第44回 研究発表会(春季)	中林啓修	単名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	木曾	日本	20190524	20190524	20190524	東日本大震災の被災地における語り部・被災地ガイドの実態把握の試み	佐藤翔輔



21	国内	地域安全学会・2019年度第44回 研究発表会(春季)	宇野宏司	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	木曾	日本	20190524	20190524	20190524	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その1-震災から2か月間の対応における教訓の分析	直屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
22	国内	地域安全学会・2019年度第44回 研究発表会(春季)	宇野宏司	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	木曾	日本	20190524	20190524	20190524	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その2-津波到達までの災害初動対応業務および避難行動の分析	杉安和也, 直屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
23	国内	地域安全学会・2019年度第44回 研究発表会(春季)	宇野宏司	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	木曾	日本	20190524	20190524	20190524	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その3-災害対策本部および仮設庁舎のレイアウトに関する分析	花田悠磨, 村尾修, 杉安和也, 直屋敷哲也, 佐藤翔輔

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2 件

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ	20190721	20190721	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	200	人文社会系	運営補助	IRIDeS主催・共同主催	歴史文化資料保全大学間ネットワーク事業東北大学拠点	国内
2	国内	ワークショップ	地域安全学会, 東北大学災害科学国際研究所	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬	20190802	20190803	南相馬市 市民情報交流センター	南相馬	日本	40	工学	運営補助	IRIDeS主催・共同主催	南相馬市	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科土木工学専攻(工学部建築・社会環境工学)の兼務教員として、津波工学研究室の学部4年生2名の卒業論文、修士1年生2名と2年1名の修士論文の研究指導教員をつとめた。ほか、本学にて基幹科目を、他大学の非常勤講師にて災害・防災に関する講義を担当した(東北大学基幹科目「東日本大震災からみる現代日本社会」、石巻専修大学人間学部「復興の社会学」、尚絅学院大学「災害社会学」、東京大学大学院情報学環「災害情報論II」)。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	5セメ	1
2	土木工学修士研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	30
5	社会教育特講	東北大学	教育学研究科			1セメ	2
5	社会の構造	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	基幹科目		通年	2
6	災害情報論II	東京大学	情報学環				1
7	復興の社会学	石巻専修大学	人間学部	学部共通必須	2	3セメ	15
8	地域防災論	石巻専修大学	人間学部	学部共通選択	3	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

国土交通省、復興庁、宮城県、仙台市、石巻市、気仙沼市、東松島市、亘理町、名取市、で地域防災や震災伝承に関するアドバイザーや委員等をつとめている。地域安全学会と電子情報通信学会にて、安全・安心領域に関する学際的な情報研究に関する委員会の委員をつとめている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 10 件

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第29回防災文化講演会	20190608	20190608	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	コーディネーター	45	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第30回防災文化講演会	20190727	20190727	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	運営補助	57	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第31回防災文化講演会	20190928	20190928	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	運営補助	30	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
4	国内	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所・第32回防災文化講演会	20191116	20191116	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	運営補助	29	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
5	国内	東北大学災害科学国際研究所	第5回気仙沼防災フォーラム(兼 東北大学災害科学国際研究所・第33回防災文化講演会)	20200122	20200122	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	企画補助, コメンテーター	170	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
6	国際	宮城県	「心に伝える」経験と教訓の伝承、世界防災フォーラム2019/防災タボス会議 @ 仙台2019・宮城県主催 一般市民向け公開セッション	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台	日本	企画補助, コーディネーター	165	なし	シンポジウム	
7	国内	国土交通省東北地方整備局	東日本大震災の教訓を伝える3.11伝承ロード～産・学・官・民が連携した震災伝承の取り組み～、世界防災フォーラム2019-一般公開セッション	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台	日本	企画補助, コーディネーター	250	なし	シンポジウム	

8	国内	3.11メモリアルネットワーク、東北大学災害科学国際研究所	3.11メモリアルネットワーク・学びあい交流プロジェクト 企画シンポジウム 広島に学ぶ「伝承者を育てる」	20191130	20191130	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	企画、話題提供、コーディネーター	70	IRiDeS主催・共同主催	シンポジウム
9	国内	ライフミュージアムネットワーク実行委員会	オープンディスカッション 災害とミュージアム 何を残し、伝えるのか	20191226	20191226	せんだい3.11メモリアル交流館	仙台	日本	企画補助、モデレーター	40	なし	ワークショップ
10	国内	海上保安庁	海上保安庁音楽隊 3.11 伝承コンサート	20200202	20200202	多賀城市民会館大ホール	多賀城	日本	企画補助、コーディネーター	1000	IRiDeS後援・名義後援	その他

講演・講義等(研究活動以外)

合計 52 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	日本災害情報学会20周年記念シンポジウム	基調講演・パネルディスカッション	20190511	20190511	防災における住民の主体性を「311前後の東北」で考える	なし	日本災害情報学会	東京大学 福武ホール	東京都	日本	184
2	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校・探究的学習	講演	20190515	20190515	今年度の探究的学習について	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	110
3	講演会	日本技術士会宮城県支部 年次大会記念講演会	講演	20190531	20190531	災害対応経験の継承:東北のあの日以来、あの日から	なし	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 宮城県支部	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	50
4	セミナー	人と防災未来センター・2019年度秋期 災害対策専門研修	講演	20190614	20190614	危機対応時の組織論(情報システム)	なし	人と防災未来センター	人と防災未来センター	神戸市	日本	30
5	講演会	令和元年度 国土交通省 東北地方整備局管内業務発表会	講演	20190628	20190628	震災伝承 東北のあの日以来、あの日から	行政	国土交通省 東北地方整備局	東北地方整備局 仙台合同庁舎B棟	仙台市	日本	200
6	講演会	防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」(田高西町内会)	講演	20190603	20190603	水害からいのちを守る	なし	防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」	田高西町内会	仙台市	日本	70
7	講演会	ふらむなとり(関上復興公営住宅)	講演	20190603	20190603	水害からいのちを守る	なし	ふらむなとり	関上復興公営住宅	名取市	日本	30
8	講演会	防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」(増田西町内会) 大人の防災学習	講演	20190707	20190707	水害からいのちを守る	なし	防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」	増田西公民館	名取市	日本	70
9	講演会	名古屋大学減災連携研究センター・防災アカデミー	講演	2019079	2019079	災害が起きたときのSNSとの付き合い方を考えるー東日本大震災発生から8年をふりかえってー	なし	名古屋大学減災連携研究センター	名古屋大学減災館	名古屋市	日本	200
10	小中高との連携	令和元年度東松島市インリターナー研修会	ワークショップ	20190715	20190715	災害につよくなるゲーム	小中高	東松島市子ども会養成連合会・東松島市教育委員会	国立花山青少年自然の家	栗原市	日本	80
11	小中高との連携	気仙沼高等学校・防災講演会	講演	20190717	20190717	災害科学の超基礎+α	小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	250
12	小中高との連携	気仙沼高等学校・ふりかえりワークショップ	ワークショップ	20190717	20190717	ふりかえりワークショップ	小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	250
13	小中高との連携	気仙沼高等学校・SGHプログラムフィールドワーク	アドバイザー	20190719	20190719		小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	10
14	講演会	シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅲー日本の災害文化ー」	報告	20190721	20190721	災害文化はあの日以来どれぐらい伝わっていたのか:陸前高田市と気仙沼市の場合	なし	東北大学 災害科学国際研究所	東北大学 災害科学国際研究所	仙台市	日本	200
15	公開講座	東北大学社会教育主事講習	特別講義	20190723	20190723	これからの防災学習	なし	東北大学	東北大学	仙台市	日本	80
16	その他	東北地域づくり協会・2019年技術支援事業報告会	報告	20190723	20190723	災害伝承の実態・効果に関する実証的研究:津波総合減災の社会実装に関する実践的研究事業	企業	東北地域づくり協会	東北地域づくり協会	仙台市	日本	50
17	講演会	文教と公共の施設フェア2019・第3回教育施設設台展	特別講演講演台展	20190726	20190726	東日本大震災から8年。災害に備える学校防災教育と宮城県の防災主任制度について	企業	一般社団法人 日本能率協会	東京ビッグサイト	東京都	日本	50
18	その他	これからの震災メモリアルを語る	アドバイザー	20190803	20190803	これからの震災メモリアルを語るー東日本大震災の経験を未来につなぐ視点とは	行政	仙台市まちづくり政策局 防災環境都市・震災復興室	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	50
19	その他	指定国立大学災害科学研究拠点企画第1回七ヶ浜町ワークショップ	講演	20190912	20190912	これまで関わった、七ヶ浜での実践的災害科学	なし	東北大学	七ヶ浜町生涯学習センター	七ヶ浜町	日本	50

20	講演会	マスコミ倫理想談会第63回全国大会B分科会	パネルディスカッション	20190917	2019917	切迫する巨大地震への対応「南海トラフ地震臨時情報」	なし	一般社団法人マスコミ倫理想談会全国協議会	高知市「ザクラウンパレス新飯急」	高知市	日本	100
21	講演会	マスコミ倫理想談会第63回全国大会B分科会	基調講演	20190917	20190917	ポスト3111の災害情報をふりかえる	なし	一般社団法人マスコミ倫理想談会全国協議会	高知市「ザクラウンパレス新飯急」	高知市	日本	100
22	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校防災学習・探究的学習	アドバイザー	20191011	20191011		小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	110
23	セミナー	日本映像テレビ技術協会2019年度東北支部秋のセミナー	報告・ディスカッション	20191018	20191018	震災十年 ポスト十年を見据えて	企業	日本映像テレビ技術協会東北支部	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	80
24	その他	ぼうさいこくたい2019 in NAGOYA	報告・ディスカッション	20191019	20191019	TEAM防災ジャパンオンラインミーティング	行政	内閣府	名古屋コンベンションホール	名古屋市	日本	150
25	講演会	ぼうさいこくたい2019 in NAGOYA「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」	講演	20191019	20191019	東日本大震災の「教訓」が伝わる・活かすために	行政	内閣府	名古屋コンベンションホール	名古屋市	日本	60
26	小中高との連携	令和元年度 宮城県気仙沼高等学校「課題研究Ⅰ」中間発表会	コメンテーター	20191025	20191025		小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	760
27	講演会	仙台市・留学生ガイドによる仙台市沿岸部情報発信	講演	20191028	20191028	東日本大震災とその伝承の実態	行政	仙台市まちづくり政策局 防災環境都市・震災復興室	ソノバ	仙台市	日本	20
28	小中高との連携	一関市立川崎中学校・特別授業	講演、ワークショップ	20191031	20191031	ぼくのわたしの防災手帳	小中高	一関市立川崎中学校	一関市立川崎中学校	一関市	日本	20
29	講演会	三島地域区長会 自主防災組織研修会	講演	20191104	20191104	水害からのちを守るために:今・過去の水害とひと・地域づくりから考える	行政	三島地域区長会 自主防災組織研修会	長岡市役所三島支所	長岡市	日本	50
30	講演会	世界防災フォーラム2019・一般公開セッション	ファシリテーター	20191110	20191110	東日本大震災の教訓を伝える3.11伝承ロード〜産・学・官・民が連携した震災伝承の取り組み〜	なし	WBF国内実行委員会及びWBF国際実行委員会	仙台国際センター	仙台市	日本	165
31	公開講座	世界防災フォーラム2019・一般市民向け公開セッション	ファシリテーター	20191110	20191110	「心に伝える」経験と教訓の伝承	なし	WBF国内実行委員会及びWBF国際実行委員会	仙台国際センター	仙台市	日本	250
32	小中高との連携	令和元年度 宮城県気仙沼高等学校「地域社会研究」中間発表会	コメンテーター	20191113	20191113		小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	760
33	講演会	令和元年度 亶理町自主防災リーダー研修会 兼 令和元年度 宮城県防災指導員意見交換会	講演・講評	20191121	20191121	自主防災訓練の優良事例について及び実践(台風19号)の優良事例について	行政	宮城県	亶理町中央公民館	亶理町	日本	100
34	その他	関川村コミュニティ連絡協議会 視察研修	コーディネーター	20191128	20191128		行政	関川村	震災遺構 仙台市立荒浜小学校、せんだい3.11メモリアル交流館	仙台市	日本	30
35	講演会	3.11メモリアルネットワーク・学びあい交流プロジェクト 企画シンポジウム 広島に学ぶ「伝承者を育てる」	コーディネーター	20191130	20191130		なし	3.11メモリアルネットワーク	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	70
36	講演会	3.11メモリアルネットワーク・学びあい交流プロジェクト 企画シンポジウム 広島に学ぶ「伝承者を育てる」	報告	20191130	20191130	「被爆体験伝承者」「被爆体験証言者」養成研修事業に参加して	なし	3.11メモリアルネットワーク	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	70
37	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校・防災学習発表会	講評	20191201	20191201		小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	110
38	講演会	仙台ライフライン防災情報ネットワーク勉強会(防災講演会)	講演	20191205	20191205	災害が起きたときのSNSとの付き合い方を考えるー東日本大震災発生から8年をふりかえってー	なし	ホテル法華クラブ仙台	仙台ライフライン防災情報ネットワーク	仙台市	日本	50
39	講演会	朝日放送・災害映像アーカイブ研究会	講演・コメンテーター	20191206	20191206	3.11契機のアーカイブに由来する問題提起	なし	朝日放送	ABCホール	大阪府	日本	50
40	講演会	仙台市教育生涯学習支援センター・学びのまち仙台市民カレッジ 市民プロデュース講座・令和元年度「防災・減災講座」	講演	20191207	20191207	3.11から学ぶ「災害をのりこえる」	行政	生涯学習支援センター	仙台市生涯学習支援センター	仙台市	日本	30
41	講演会	国土交通省東北地方整備局・令和元年台風19号による大規模浸水被害対策分科会(第1回分科会)	情報提供	20191210	20191210	2019年台風19号吉田川流域における避難行動	行政	国土交通省	国土交通省 鹿島台出張所	大崎市	日本	50

42	小中高との連携	気仙沼高等学校・SGHプログラムフィールドワーク	アドバイザー	20191214	20191214		小中高	気仙沼高等学校	気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	50
43	講演会	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団調査結果速報会	報告	20191214	20191214	避難行動	なし	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	東北学院大学土樋キャンパス	仙台市	日本	300
44	小中高との連携	令和元年度宮城県教育委員会指定志教育支援事業(推進地区指定)多賀城地区東豊中学校区実践事例発表会	基調講演	20191217	20191217	3.11の宮城での防災教育をふりかえる	小中高	宮城県教育委員会	多賀城高校	多賀城市	日本	200
45	小中高との連携	栗駒山麓ジオパーク学習交流会2019・ジオ学習の事例発表に対する講評	講評	20191219	20191219		行政	栗原市	ドリーム・パル(若柳総合文化センター)	栗原市	日本	200
46	講演会	日本学術会議公開シンポジウム 令和元年台風第19号に関する緊急報告会	報告	20191224	20191224	台風19号災害における宮城県内の避難行動	なし	日本学術会議	日本学術会議講堂	東京都	日本	720
47	その他	「オープンディスカッション 災害とミュージアム 何を残し、伝えるのか」	モデレーター	20191226	20191226		なし	ライフミュージアムネットワーク実行委員会	せんだい3.11メモリアル交流館	仙台市	日本	40
48	その他	海上保安庁音楽隊3.11伝承コンサート	コメンテーター	20200202	20200202	震災体験スピーチの総括	行政	海上保安庁	多賀城市民会館大ホール	多賀城市	日本	1000
49	講演会	日本学術振興会 課題設定による先進的人文・社会科学推進事業シンポジウム	講演	20200216	20200216	効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究	なし	日本学術振興会	ベルサール東京日本橋	東京都	日本	100
50	講演会	地域防災を考えるワークショップ「防災にワンチームでトライ」	講演	20200220	20200220	最近おきた宮城の災害と避難実態	なし	石巻震災伝承の会	石巻市防災センター	石巻市	日本	50
51	講演会	3.11みらいサポート語り部勉強会・交流会	講演	20200228	20200228	災害伝承・震災語り部に関する最新研究	なし	3.11みらいサポート	3.11みらいサポート・中央つなぐ館	石巻市	日本	20
52	講演会	3.11みらいサポート語り部勉強会・交流会	講演	20200228	20200228	最近おきた災害のふりかえり	なし	3.11みらいサポート	3.11みらいサポート・中央つなぐ館	石巻市	日本	20

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	宮城県	宮城県「宮城県復興10年総括検証」基礎データ資料作成業務に関する公募型プロポーザル方式選定委員会	委員	20190400
2 地方自治体	宮城県	宮城県震災復興総括検証アドバイザー	アドバイザー	20190400
3 地方自治体	宮城県	宮城県震災伝承関連展示制作監修アドバイザー	アドバイザー	20190400
4 地方自治体	石巻市	石巻市震災伝承事業に関する事項	アドバイザー兼ファシリテーター	20170400
5 地方自治体	石巻市	石巻市旧門脇小学校震災遺構を考えるワークショップ	ファシリテーター兼コメンテーター	20170400
6 地方自治体	石巻市	石巻市本庁地区慰霊碑設置業務プロポーザル方式選定委員会	委員	20170400
7 地方自治体	東松島市	東松島市防災会議	防災会議委員	20120400
8 地方自治体	東松島市		震災伝承館事業アドバイザー	20150400
9 地方自治体	東松島市		震災復興モニュメント検討事業 アドバイザー	20160400
10 地方自治体	亶理町	亶理町防災会議	委員	20130400
11 地方自治体	亶理町	亶理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	アドバイザー	20140400
12 地方自治体	名取市	名取市防災会議	防災会議委員	20140400
13 地方自治体	名取市	名取市震災伝承館(仮称)	アドバイザー	20180400
14 地方自治体	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	アドバイザー	20140400
15 その他	多賀城市立東豊中学校区	多賀城市立東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20160400

16	地方自治体	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	アドバイザー	20160400
17	地方自治体	気仙沼市	けせんぬま震災伝承ネットワーク	アドバイザー	20160400
18	地方自治体	仙台市	仙台市沿岸分メモリアルアドバイザーボード	委員	20170400
19	地方自治体	仙台市	仙台市中心部震災メモリアル拠点検討委員会	委員	20170400
20	国・政府	国土交通省北海道運輸局	「大規模災害等に備えた外国人観光客への情報収集・提供方法に関する実証事業」検討会	委員	20170400
21	国・政府	国土交通省	マイ・タイムライン実践ポイントブック検討会	委員	20170400
22	国・政府	復興庁	被災者支援コーディネーター事業・有識者アドバイザー会議	委員	20170400
23	国・政府	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	復興庁委託事業「東日本大震災復興の事例種集・調査分析事業」	協働・継承部門ワーキンググループ担当委員	20170400
24	地方自治体	青森県	学校と地域が一体になった防災教育推進事業	アドバイザー	20170400
25	民間・NPO	防災教育団体ゆりあけかもめ		アドバイザー	20140700
26	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		外部委員	20171200
27	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		アドバイザー	20171200
28	民間・NPO	みやぎ復興連携センター	TOTOグループ宮城県助成事業「住民主体・復興地域づくり活動および復興活動プロセスの伝承助成」	審査員	20171200
29	その他	気仙沼高等学校		気高応援隊	20160400
30	その他	東豊中学校	東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20170400
31	その他	階上中学校		防災教育アドバイザー	20160300
32	民間・NPO	NHK仙台放送局	ゴジだっちゃ!	「防災研究最前線」コーディネーター	20160400
33	その他	みやぎ防災・減災円卓会議	みやぎ「災害とメディア」研究会	幹事	20180400
34	その他	TEAM防災ジャパン		お世話係(東北)	20181100
35	その他	2020世界災害語り継ぎフォーラム	実行委員会	協力委員	20180400
36	その他	公益財団法人 山の暮らし再生機構		アドバイザー	20180400
37	その他	世界防災フォーラム2019実行委員		事務局長	20180400
38	その他	世界防災フォーラム2019推進会議		委員	20180400

## 自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20130208	多賀城市役所・宮城県多賀城市	国内	東北大学災害科学国際研究所と多賀城市との包括的協定	自治体	多賀城市	20130200	5
2	20130625	亶理町悠里館・宮城県亶理町	国内	東北大学災害科学国際研究所と亶理町との包括的協定	自治体	亶理町	20130600	5
3	20130821	東松島市役所・宮城県東松島市	国内	東北大学災害科学国際研究所と東松島市との包括的協定	自治体	東松島市	20130800	5
4	20170529	石巻市役所・宮城県石巻市	国内	東北大学災害科学国際研究所と石巻市との包括的協定	自治体	石巻市	20170501	5
5	20180727	気仙沼市役所・宮城県気仙沼市	国内	東北大学災害科学国際研究所と気仙沼市との包括的協定 (更新)	自治体	気仙沼市	20180700	5

# フルコフラヴィア 助教

## FULCO Flavia

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Università di Roma La Sapienza	M.A. Humanities	2007	07	Università di Roma la Sapienza	人文学部	2007	7	Master of Humanities		
2	Università di Roma Tre	PhD American Studies	2011	05	Università di Roma Tre	人文学部	2011	5	Ph.D		

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	2014	11	渋谷外語学院・日伊学院	イタリア語教師・事務スタッフ
2	2015	2	2015	5	ミラノ国際博覧会日本館制作コンソーシアム	日伊語翻訳業務
3	2015	11	2018	5	上智大学 比較文化研究所	特別研究員(JSPS Post-Doc Fellow)
4	2018	6	2019	5	富山大学 都市デザイン学部	助教
5	2019	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
災害伝承・記録	集団記憶	語り部	災害メモリアルとミュージアム	防災教育・観光

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

I arrived at IRiDeS in June 2019, during this year, I continued my research on the themes of post disaster recovery, focusing on the Cultural Memory of natural disasters. The primary focus was the practice of Kataribe Storytelling in Tohoku after the Great East Japan Earthquake. Supported by Toshiba Grant 2019, and by the Gender-Equality Start-Up Grant (男女共同参画・女性研究者支援事業(スタートアップ研究費)) I also started an international comparisons and investigation of some international case studies including Italy (L'Aquila Earthquake) and the United States (New York and New Orleans). I also established international collaboration with the University of Washington, attended international conferences and research events, contributing with presentations and publications.

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	11	現在		災害語り部 (東北・日本)	
2	2017	11	現在		防災教育	
3	2017	11	現在		防災・災害観光	
4	2019	7	現在		3.11 / 9.11被災者交流	
5	2020	1	現在		海外・国内災害博物館・資料館	
6	2020	1	現在		災害の女性の経験・語り継ぎ行動	

#### 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	"Voices from Tohoku": from digital archive of oral narratives to scientific application in Disaster Risk Reduction.	Flavia Fulco, Robin O'Day, and David H. Slater	デジタルアーカイブペーシックス第2巻「災害記録未来に生かす」	2	89	115	20190900
2	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	リアルタイムでのデジタル・ヒューマニティーズと災害の記録: 東日本大震災と津波のオーラルナラティブ・アーカイブ	Flavia Fulco, Robin O'Day, and David H. Slater	社会と調査	23	15	23	20190900

#### 学会発表

単名	4	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	Silk Cities 2019: Reconstruction, Recovery and Resilience of Historic Cities and Societies	Dr. Lucia Patrizio Gunning	単名	いいえ	口頭(一般)	L'Aquila University	L'Aquila	Italy	20190710	20190711	20190711	Kataribe-storytelling in post-disaster Japan: rebuilding places and community resilience from personal narratives and local knowledge	<u>Flavia Fulco</u>

2	国際	AIWEST@Sendai 201912th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, Sharing Tohoku Aceh Experience	Prof. Sé bastien Boret	単名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Between Local Knowledge and Disaster Education: How Kataribe-Storytelling Enhances Disaster Risk Awareness and Resilience	Flavia Fulco
3	国際	Resilient living environments in the recovery from the disaster	Prof. Elizabeth Malsh	単名	いいえ	口頭(一般)	神戸大学	神戸	日本	20200204	20200204	20200204	Kataribe-storytelling in post-disaster Japan: rebuilding places and community resilience from personal narratives and local knowledge	Flavia Fulco
4	国際	2nd International Conference Critical Tourism Studies Asia Pacific	Prof. Kumi Kato Prof. Adam Doering Prof. Joseph M. Cheer	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	和歌山大学	和歌山	日本	20200217	2020219	20200218	BOSAI Tourism or BOSAI Education? Exploring Disaster Prevention Educational Practices in the aftermath of the Great East Japan Earthquake	Flavia Fulco Gester Julia
5	国際	Narrative 2020	Prof. Dan Punday Prof. Kelly Marsh	単名	いいえ	口頭(一般)	Intercontin ental Hotel	New Orleans	U.S.A.	20200305	20200307	20200307	Post-disaster storytelling in Japan: From personal oral and written narratives to collective memory	Flavia Fulco

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	Sophia University, University of Washington	Seeking Asylum in Japan: Oral Narratives of Refugees and Strategies of Asylum	20190703	20190703	Sophia University	Tokyo	Japan	30	人文社会 系	Organizer, Presenter	なし		両方

D. 社会活動

社会活動の概要

I published some articles for the general public in Japanese and in Italian to diffuse the lessons of the Great East Japan Earthquake.

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	イタリアのベンネ市役所 で災害とボランティア活動 についてセミナー	招待講演	20190926	20290926	L'Importanza degli Studi Culturali nell'Ambito dei Disastri Naturali	行政	ベンネ市役所	GEPE	ベンネ 市	イタリア	100

# 蝦名 裕一 准教授

EBINA Yuichi

人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岩手大学	教育学部	1998	3	東北大学大学院	国際文化研究科	2010	3	博士(国際文化)	2010	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	10	2007	3	福島県双葉郡双葉町立双葉中学校	常勤講師
2	2007	4	2008	3	宮城学院高等学校	非常勤講師
3	2008	4	2009	7	岩沼市教育委員会 市史編纂室	嘱託職員
4	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
5	2012	4	2015	3	東北大学災害科学国際研究所	助教
6	2015	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	東北史学会	岩手史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	地方史研究協議会	歴史地震研究会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	歴史地震研究会	編集出版委員会	委員	20180901

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	日本近世史	歴史災害研究	歴史資料保全研究

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

今年度は1611年慶長奥州地震津波に関する史料の再検討、安政東海地震や象潟地震を対象として絵図史料に基づく被災状況の研究を中心におこなった。また10月に発生した台風19号被害に際しては、文化財や歴史資料の所在情報をもとに、台風の被害状況に関する各種データを重ね合わせた文化財所在マップを作成して福島県や長野県に情報提供するとともに、宮城県内における被災状況の調査を実施した。この他、文理融合シンポジウムの開催および報告書の発刊と、被災歴史資料の救済技術フォーラムなどの運営に携わった。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		1611年慶長奥州地震津波の歴史資料における記述に関する研究	国内
2	2011	4	現在		災害時における歴史資料・下張り文書の保全に関する研究	国内
3	2013	4	現在		山奈宗真史料にみる岩手県沿岸域の歴史津波についての研究	国内
4	2015	4	現在		絵図・地図史料に基づく歴史的景観復元の研究	国内
5	2016	4	現在		1804年象潟地震に関連する歴史資料の調査	国内
6	2017	4	現在		所在情報を活用した災害発生時の文化財・歴史資料の救済手法の確立	国内

### 論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	東北地方太平洋沿岸の災害文化—記憶と忘却をめぐる—	蝦名裕一	歴史文化資料保全ネットワーク叢書 シンポジウム報告書2019 歴史が導く災害科学の新展開Ⅲ—日本の災害文化—			24	28	20200330
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	安政東海地震(1854)の静岡県海岸での津波の高さ	都司嘉宣, 今井健太郎, 蝦名裕一, 岩瀬浩之	津波工学研究報告			71	105	201907
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	慶長九年十二月十六日(1605 II 3)地震の静岡県以西の津波高さ分布	都司嘉宣, 今井健太郎, 蝦名裕一, 岩瀬浩之, 大林涼子	津波工学研究報告	36		43	70	201907
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災被災地における唐丹村文書保存の取り組み	熊谷誠, 蝦名裕一	災害・復興と資料(11)	11		14	12	2019



学会発表

単名	7	筆頭連名	3	その他の連名	0	合計	10
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	JPGU Meeting 2019 活断層と古地震	小荒井衛	単名	はい	口頭(招待)	幕張メッセ	幕張市	日本	20190526	20190530	20190528	東北地方太平洋沿岸における歴史津波の史料・ 伝承をめぐって	<u>蝦名裕一</u>
国内	JPGU Meeting 2019 歴史学×地球惑星科学	加納靖之	筆頭 連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	幕張市	日本	20190526	20190530	20190527	古絵図から特定する安政東海地震における浜名 湖周辺の津波痕跡について	<u>蝦名裕一</u> 、今井健太 郎、都司嘉直、岩瀬浩 之
国内	シンポジウム 歴史がみ ちびく災害科学の新展 開Ⅲー日本の災害文化 ー	蝦名裕一	単名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台市	日本	20190721		20190721	東北地方沿岸の災害文化ー記憶と忘却をめぐ ってー	<u>蝦名裕一</u>
国内	第36回歴史地震研究 会(徳島大会)	今井健太郎	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	徳島大学	徳島市	日本	20190921	20190923	20190922	岩手県山田町における明治三陸津波以前の 歴史地形復元	<u>蝦名裕一</u> ・行谷祐一・ 今井健太郎
国内	第36回歴史地震研究 会(徳島大会)		筆頭 連名	いいえ	ポスター(一般)	徳島大学	徳島市	日本	20190921	20190923	20190922	秋田県関村における歴史地形と象潟地震被害の 復元	<u>蝦名裕一</u> ・今井健太郎
国内	2019年前近代歴史地 震史料研究会	西山昭仁	単名	いいえ	口頭(一般)	新潟大学	新潟市	日本	20191109		20191109	史料に見る1611年慶長奥州地震津波に関する記 述の継承	<u>蝦名裕一</u>
国内	文化元年(1804)象潟 地震215周年シンポジ ウム	今井健太郎	単名	はい	口頭(招待)	秋田大学	秋田市	日本	20191129		20191129	由利郡関村の歴史的景観復元と象潟地震の被害	<u>蝦名裕一</u>
国内	文化元年(1804)象潟 地震215周年シンポジ ウム	今井健太郎	単名	はい	口頭(招待)	にかほ市 総合福祉 交流セン ター	にかほ市	日本	20191201		20191201	由利郡関村の歴史的景観復元と象潟地震の被害	<u>蝦名裕一</u>
国内	令和元年台風19号調 査報告会		単名	はい	口頭(招待)	名城大学	名古屋	日本	20200108		20200108	台風19号被害における文化財マップと歴史的 教訓	<u>蝦名裕一</u>
国内	第6回全国史料ネット 集会		単名	いいえ	口頭(一般)		神戸市	日本	20200208	20200209	20200208	宮城県における台風19号被害対応	<u>蝦名裕一</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
				開始年月	終了年月									
国内	講演会	東北大学災害科学 研究所	第31回防災文化講演会	201901		東北大学災害科学国 際研究所気仙沼サテ ライト	気仙沼市	日本	30	人文社会 系	運営	IRIDeS共催	気仙沼市	国内
国内	シンポジウム	東北大学災害科学 研究所	歴史が導く災害科学の新展開 Ⅲー日本の災害文化ー	201907	201907	東北大学災害科学国 際研究所	仙台市	日本	130	人文社会 系	運営	IRIDeS主催・ 共同主催	人間文化研 究機構、神戸 大学	国内
国内	セミナー	東北大学災害科学 研究所	被災地と史料をつなぐⅡー令 和元年台風19号における被災 資料レスキューと現状	202002		東北大学災害科学国 際研究所	仙台市	日本	40	人文社会 系	運営	IRIDeS共催		国内

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度の社会活動としては、慶長奥州地震津波と当時の復興に関する研究や歴史地形の復元に基づく災害研究について講演・報告をおこなうとともに、特に台風19号被害に関連しては文化財・歴史資料の所在マップの作成と災害時における活用について、各種メディアでの発信をおこなった。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	6 件
----	-----

学外活動区分	活動名称	活動 内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
			開始年月日	終了年月日							
公開講座	超みんなて翻刻してみた 2019	トーク ショー	20190427		昔の津波のことを考えてみた	企業	ニコニコ超会議 実行委員会	幕張メッセ	幕張市	日本	50
セミナー	平成30年度文化財多 言語解説整備事業報 告会	招待講演	20190820		歴史地形の復元と災害発生要因の分析	なし	仙台明治生年 大学郷土史を学 ぶ会	仙台市生涯学 習支援センター	仙台市	日本	50
公開講座	郷土史を学ぶ会 学習会	招待講演	20190822		伊達騒動を読み直す ー伊達兵部を中心にー	なし	仙台明治生年 大学郷土史を学 ぶ会	仙台市生涯学 習支援センター	仙台市	日本	50
講演会	第31回防災文化 講演会	講演	20190928		東日本大震災からの資料保全活動	行政	IRIDeS	気仙沼市東日 本大震災遺構・ 伝承館	気仙沼市	日本	30
セミナー	第7回古文書講座	セミナー	20191003	20191024	古文書初級講座	行政	川崎町教育委 員会	川崎町公民館	川崎町	日本	
講演会	日本臨床人材事業協 会講演会	招待講演	20191016		政宗が伝えた宝・仙台 ー400年前の震災復興ー	なし	日本臨床人材 事業協会	ホテルモントレ 仙台	仙台市	日本	30

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	理事会	理事、事務局	20150701
2 地方自治体	相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	編さん 執筆委員	20060224

# 岩田 司 教授

## IWATA Tsukasa

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1982	3	東京大学	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1991	9	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	研究員
2	1991	10	1992	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	研究員
3	1992	4	1997	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	主任研究員
4	1995	4	2001	3	筑波大学 第三学群社会工学類	非常勤講師(併任)
5	1997	4	1999	3	建設省建築研究所 第五研究部 設計計画研究室	室長
6	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
7	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
8	2001	1	2001	3	国土交通省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
9	2001	4	2004	3	国土交通省国土技術政策総合研究所建設経済研究室	室長
10	2004	4	2013	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	上席研究員
11	2005	4	2015	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	教授(連携大学院・併任)
12	2013	4	2015	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	主席研究員
13	2015	4	2017	3	国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ	客員研究員
14	2015	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
15	2018	6	現在		同済大学	兼職教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	建築学会	都市計画学会	都市住宅学会	造園学会	リモートセンシング学会	日本建築家協会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	建築学会		代議員	201803

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	地域住宅計画	地域型復興住宅	居住環境計画	地域運営	都市設計

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学際高等研究教育院運営専門委員会	委員	20150401
2	全学	附属図書館商議員	商議員	20180401
3	全学	学術情報整備検討委員会	委員	20180401
4	工学研究科	教務委員会	委員	20180401
5	工学研究科	教務委員会教育・評価WG	メンバー	20180401
7	工学研究科	健康安全管理室運営委員会	委員	20180401
8	人間環境系	設計教育委員会	委員	20170401
9	人間環境系	環境整備委員会	委員長	20180401
10	人間環境系	カリキュラム委員会	委員	20180401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) 2018年5月の住宅地における噴火調査を行い、住宅の被害状況、仮設住宅等の整備状況を視察、整理するとともにハワイ大学において、ハワイにおける災害時の対応手法や保険制度、ハザードマップなどに関するヒアリングを行い、関連資料を収集、整理し、日本、中国、イタリアとの比較研究を行った。(2) 福島県土木部の協力を得て、応急仮設住宅の修繕の記録を解析し、プレハブ、木造の構造工法ごとの比較研究を行った。(3) 四川大震災の歴史的街区の住民参加による復興手法の効果に関する調査を行った。(4) 地域型復興住宅手法を生かした木造災害公営住宅の住民の使い方、住みやすさ調査を行い、クラスター型の住宅配置による高齢者同士の有効性を明らかにした。(5) 地域住宅計画に基づく地域型住宅の特徴を整理し、その実現手法を明らかにした。(6) 昨年度から毎年実施している華中科技大学との国際ワークショップを今年度は山形県金山町で開催した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		住まい・まちの地域性に関する研究	国内
2	2016	4	現在		地域型復興住宅に関する研究	国内

3	2017	4	2019	3	災害や地域の特性に対応した木造応急仮設住宅の供給手法に関する研究	両方
4	2018	4	現在		四川大震災の歴史的街区の復興に関する研究	国外
5	2018	4	現在		街並み環境整備事業の実態とその効果に関する研究	なし
6	2018	4	2019	3	地域型復興住宅が木造災害公営住宅に与えた影響に関する研究	なし
7	2018	4	2019	3	木造応急仮設住宅の修繕に関する研究	国内
8	2018	4	2019	3	地域住宅計画に基づく地域型住宅の特徴に関する研究	なし
9	2018	4	現在		羽州街道における宿場町の活性化手法とその経済効果に関する研究	なし

論文

単著	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	1	国際査読無		国内査読有		国内査読無	3
----	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	--	-------	--	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	宿場町の街並景観を形成する屋根形状に関する研究	星愛、岩田司			467	468	20190900	
2	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地方都市の中心市街地型中規模食料品店の成立可能性と有用性に関する研究 -福島県三春町の商業核整備に着目して-	山崎拓哉、岩田司			999	1000	20190900	
3	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	機械学習を用いた航空写真上の建築物の認識に関する研究	足立佳奈子、岩田司			57	58	20190900	
4	中国語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	はい	A Study on the Townscape Improvement and the Economic Effects in Kaneyama Town, Yamagata Prefecture	岩田司、鎌谷勇輝、岩田左紅	Shanghai Urban Planning	2019	148	37	42	20191000

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著		その他の共著		合計	1	うち	国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無	1
----	---	------	--	--------	--	----	---	----	-------	--	-------	--	-------	--	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語 特集テーマ:「被災しても、この地域で暮らし続ける」 専門家に聞く地域づくりのヒント 元気の源・人々の集い「集まる場」をつくる	その他	無	はい	地域支え合い情報		84	7	7	20191212	岩田司	単著	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2	件
----	---	---

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1	国際	ワークショップ 東北大学工学研究科都市・建築学専攻	都市・建築設計II 金山スタジオ	20191001	20191007	金山町公民館、金山町民ホール	山形県金山町	日本	70	工学	運営委員、主催、パネラー	なし	華中科技大学	両方
2	国内	講演会 東北大学災害科学国際研究所	第66回金曜フォーラム	20200221	20200221	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	工学	運営委員、後援、パネラー	IRIDeS主催・共同主催		なし

C. 教育活動

教育活動の概要

工学部建築・社会環境工学科、及び工学系研究科人間環境系都市・建築専攻において、授業、及び設計演習を担当した。今年度から博士課程への進学1名、社会人から1名加わり、学部4年生、及び修士課程、博士課程の指導を行い、4名が修士号を取得した。また中国からの研究生の指導を行い、2名とも外国人特別選抜で合格し修士課程に進学することとなった。なお修士課程1年生の都市・建築設計IIで指導した3名が都市・建築学専攻の第11回トシク杯で1、2、3位を受賞し、修士論文の副査を務めた1名が都市・建築学専攻の今年度の卒業賞を受賞した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
2 都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3 基礎設計B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	16
4 都市・建築設計B2	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	16
5 居住計画論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	16
6 都市分析学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	16
7 都市・建築設計II	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	16
8 都市・建築計画学特論B	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度もこれまでと同じく国内の講演、テレビ取材などを行った。また高等学校模擬講義などを通じて、大学での勉学の基礎や災害科学国際研究所における研究活動などを紹介し、将来東北大学を目指す若者とふれあうことができた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 …… 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	住宅総合研修	講義	20190514	20190514	地域に根ざした住まい・まちづくり	行政	国土交通大学	国土交通大学	小金井市	日本	35
2	セミナー	北海道住宅研修	基調講演、パネル	20190522	20190522	地域の資源(人・物・技術)を活用したこれからの住まい・まちづくり	行政	北海道	アスティ45	札幌市	日本	50
3	公開講座	三春町職員研修	基調講演、パネル	20190910	20190910	小さな町の住まい・まちづくり	行政	三春町	三春町まほらホール	福島県三春町	日本	50
4	小中高との連携	大学出前講義	講義	20190911	20190911	木造の住まい・まちづくり	小中高	酒田市	酒田東高校	酒田市	日本	69

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	石巻市	石巻市総合計画審議会	会長	20201211

# 寺田 賢二郎 教授

## TERADA Kenjiro

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	名古屋大学	工学部	1990	3	米国ミシガン大学	工学部	1996	3	Ph.D	1996	5

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	1997	6	東京大学 大学院工学系研究科 船舶海洋工学専攻	助手
2	1997	7	1999	6	東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
3	1999	7	2012	6	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	助教授(2007～准教授)
4	2012	7	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

No.	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	材料学会	日本鉄鋼協会	非線形CAE協会	International Association for Computational Mechanics	Asia-Pacific Association for Computational Mechanics

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本計算工学会		監事	20180601
2	International Association for Computational Mechanics	Executive Council	Member	20140501
3	International Association for Computational Mechanics	General Council	Member	20120501
4	非線形CAE協会		理事長	20090601
5	非線形CAE協会	非線形CAE勉強会実行委員会	委員長	20090601
6	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Editorial Board	Associate Editor	20151001
7	Computational Mechanics	Editorial Board	Member	20110000
8	Engineering Computations	Editorial Board	Member	20140000
9	Journal of Mechanics of Materials and Structures	Board of Editors	Member	20180130
10	日本学術会議	総合工学委員会 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	委員	20180401

##### 研究分野・キーワード

No.	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	計算力学	応用力学	構造工学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	広報戦略会議	委員	20180401
2	工学研究科	創造工学センター運営委員会	委員	20180401
3	工学研究科	研究会企画会議	委員	20170401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) MPM(物質点法)と呼ばれる解析手法をベースに、飽和地盤の固体としての挙動から過剰雨水による流体化、そして土砂流動といった一連の現象をシームレスに再現可能な数値シミュレーション手法を開発している。(2) 津波解析や複合材料の応力解析などの様々な数値シミュレーションについて、正規直交分解法を用いた代理モデルを構築する枠組みを開発している。(3) 様々な災害シミュレーションのプラットフォームとしてX-GISの開発を行っている。

研究課題

開始年	期間		研究課題(内容)	所外連携
	月	終了年 月		
1	2006	4 現在	マルチスケール CAE ソフトウェアの開発	国内
2	2012	4 現在	マルチスケール・マルチフィジクス解析手法の開発と CAE の高度化	両方
3	2012	4 現在	地域・都市の安全性評価のための重層的連成解析手法の開発	国内
4	2013	4 2020 3	瀬上津波と構造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	国内
5	2016	4 現在	災害リスク評価のためのマルチステージ破壊シミュレーション手法の開発	国内
6	2017	4 2020 3	地震負荷履歴を受けた鋼構造物の残留強度評価のための二重損傷モデル	国内
7	2017	4 現在	変形・流動解析のための Material Point Method の開発と土砂災害シミュレーションへの応用	国内
8	2019	4 現在	フェーズフィールドき裂モデルによる超ハイテン材をの安定・不安なき製進展の遷移挙動の解析	両方
9	2019	4 現在	数値シミュレーションの次元削減モデルおよび代理モデルの構築	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	13	合計	13
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Isogeometric analysis for numerical plate testing of dry woven fabrics involving	Nishi, S., Terada, K. & Temizer, I.	Computational Mechanics	64	1	211	229	20191010
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	数値材料試験によるCFRTPの熱膨張係数の予測に関する研究	小林大志, 平山紀夫, 山本晃司, 寺田賢二郎	日本複合材料学会誌	45	3	98	104	20190000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	繊維強化熱可塑性樹脂の異方性粘弾性構成則における緩和特性と弾性率の温度依存性に関する数値解析的検討	山本晃司, 石橋慶輝, 染宮聖人, 平山紀夫, 寺田賢二郎	日本機械学会論文集	85	874	19-00058	20190528	20190528
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	超弾性複合材料に対するデータ駆動型マイクロ・マクロ連成マルチスケール解	波多野俊, 松原成志朗, 森口周二, 寺田賢二郎	日本計算工学会論文集	2019			20190015	20191122
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	HPMを用いた骨組構造のマルチステージ破壊シミュレーション	山口清道, 山村和人, 竹内則雄, 寺田賢二郎	土木学会論文集A2(応用力学)	75	2	I_225	I_236	20200206
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Achievements of NEDO durability projects on SOFC stacks in the light of physicochemical properties (diffusion and chemical reactions)	Harumi Yokokawa, Minoru Suzuki, Masakazu Yoda, Takanori Suto, Kazuo Tomida, Kenichi Hiwataasi, Megumi Shimazu, Akira Kawakami, Hiroshi Sumi, Makoto Ohmori, Takashi Ryu, Naoy Mori, Michiaki Iha, Shinichi Yatsuzuka, Katsuhiko Yamaji, Haruo Kishimoto, Katherine Develos-Bagarinso, Taro Shimonsono, Kazumari Sasaki, Shunstake Taniguchi, Tatsuya Kawada, Mayu Muramatsu, Kenjiro Terada, Koichi Eguchi, Toshiaki Matsui, Hiroshi Iwai, Masashi Kishimoto, Naoki Shikazono, Yoshihiro Mugikura, Tohru Yamamoto, Masahiro Yoshikawa, Kenji Yasumoto, Koichi Asano, Yoshio Matsuzaki, Koki Sato, Takaaki Somekawa	Fuel Cells	19	4	311	339	20190603
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Microscopic design and optimization of hydrodynamically lubricated dissipative interfaces	Berkay A Çakal, Ilker Temizer, Junji Kato, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	120	2	153	178	20190526
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Finite thermo-elastic decoupled two-scale analysis	Robert Fleischhauer, Tom Thomas, Junji Kato, Kenjiro Terada, Michael Kaliske	International Journal for Numerical Methods in Engineering	121	3	355	392	20190828
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami risk assessment for multiple buildings by considering spatial correlation of wave height using copulas	Yo Fukutani, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Takuma Kotani, Yu Otake, Toshikazu Kitano	Natural Hazards and Earth System Sciences	19		2619	2634	20191122
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Solid-liquid coupled material point method for simulation of ground collapse with fluidization	Yuva Yamaguchi Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	Computational Particle Mechanics	7		209	223	20200222
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Viscoelastic-viscoplastic combined constitutive model for glassy amorphous polymers under loading/unloading/no-load states	S. Matsubara, K. Terada, T. Kobayashi, R. Maeda, M. Murata, T. Sumiyama, K. Furuichi, C. Nonomura	Engineering Computations					20200215
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Isogeometric topology optimization of anisotropic metamaterials for controlling high-frequency electromagnetic wave	Shinnosuke Nishi, Takayuki Yamada, Kazuhiro Izui, Shinji Nishiwaki, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	121	6	1218	1247	20200320
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	数値解析結果の空間モード分解による津波のリスク評価, 日本計算工学会論文集	外里健太, 小谷拓磨, 波多野俊, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 大竹雄	日本計算工学会論文集	2020			20200003	20200228

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	いまさら聞けない計算力学の定石, 第2 話始める前に知っておこうー構造解析の初歩	編集本(著者・Author)	2020/03/00	車谷麻緒, 寺田賢二郎(土木学会応用力学委員会計算力学小委員会編)	共著	丸善	国内	3000

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	40	合計	42
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	20th International Conference on Fluid Flow Problems (FEF-2019)	Wing Kam Liu, Arif Masud, Scott Roberts	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	The Palmer House	Chicago	USA	20190331	20190403	20190403	Implicit material point method for rainfall-induced slope disasters	<u>Y. Yamaguchi</u> , <u>K. Terada</u> , <u>S. Moriguchi</u> , S. Takase
2	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190529	自動車用高張力鋼板の不安定き裂進展解析	小川 賢介, 生田 佳, 小林 卓哉, 高田 賢治, 寺田 賢二郎, 村松 眞由, 大宮 正毅
3	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190529	全体座標系によるHPMを用いた骨組構造の大変位静的解析	山口清道, 山村和人, 竹内剛雄, 寺田賢二郎
4	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190529	疲労損傷を考慮した結合力を埋め込んだ複合硬化弾塑性構成則の提案	副島克哉, 新宅 勇一, 堤成一郎, 寺田賢二郎
5	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190529	変位の不連続性の近似が異なるき裂進展解析手法の比較検討	金澤 凌平, 新宅 勇一, 寺田 賢二郎
6	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	2変数境界値問題に対する増分エネルギー汎関数の最小化アプローチ	松原成志朗, 寺田賢二郎
7	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	有限変形複合シェル分離型マルチスケール解析のための数値シェル試験の開発	西神之介, 寺田賢二郎
8	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	非弾性複合板の代替アプローチを用いた非定常熱応力解析	佐藤維美, 村松眞由, 西神之介, 寺田賢二郎, 川田達也
9	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	変形場と損傷パラメータ場の連成シミュレーション	村松眞由, 寺田賢二郎
10	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	へき開破壊の異方性挙動を考慮した水素脆性き裂の進展解析	石橋奏, 新宅 勇一, 堤成一郎, 寺田賢二郎
11	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	繊維強化熱可塑性樹脂の異方性粘弾性構成則における緩和特性と弾性率の温度依存性に関する数値解析的検討	山本晃司, 石橋慶輝, 染原成志朗, 寺田賢二郎
12	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	粘弾性・粘塑性・損傷複合モデルによる熱可塑性樹脂の非線形挙動の再現と評価	田口尚輝, 平山紀夫, 松原成志朗, 山本晃司, 寺田賢二郎
13	国内	第24回計算工学講演会	長嶋利夫	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190531	数値材料試験による一方強化CFRPの破壊強度の予測	鷹見凌, 平山紀夫, 田口尚輝, 山本晃司, 石橋慶輝, 寺田賢二郎
14	国際	VIII International Conference on Coupled Problems in Science and Engineering (COUPLED 2019)	Eugenio Oñate, Manolis Papadarakakis, Bernhard A. Schrefler	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Melia Hotel & Resort	Sitges	Spain	20190603	20190605	20190605	An Improved Solid-Liquid Coupled Material Point Method for Simulation of Ground Collapse with Fluidization	<u>K. Terada</u> , <u>Y. Yamaguchi</u> , <u>S. Moriguchi</u> , S. Takase
15	国際	VIII International Conference on Coupled Problems in Science and Engineering (COUPLED 2019)	Eugenio Oñate, Manolis Papadarakakis, Bernhard A. Schrefler	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Melia Hotel & Resort	Sitges	Spain	20190603	20190605	20190605	DEM-based Optimal Design Framework for Rockfall Protection Walls	<u>S. Moriguchi</u> , H. Kanno, <u>K. Terada</u>
16	国際	The Future of Materials Engineering - Dramatic Innovation to the next 100 years International Symposium	Daisuke Ando, Chad Sinclair, Mayu Muramatsu, Yuta Saito	その他の連名	はい	口頭(招待)	Rutsubo Hall	Sendai	Japan	20190624	20190625	20190624	Two-scale viscoelastic analysis of FRP in consideration of dependence of resin's properties on degree of cure	Risa Saito, <u>Yuya Yamaguchi</u> , <u>Shuji Moriguchi</u> , Yasuko Mihara, Takaya Kobayashi, Kenjiro Terada
17	国際	The Future of Materials Engineering - Dramatic Innovation to the next 100 years International Symposium	Daisuke Ando, Chad Sinclair, Mayu Muramatsu, Yuta Saito	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Rutsubo Hall	Sendai	Japan	20190624	20190625	20190624	Multi-scale simulation of ceramic material with microstructural evolution	Mayu Muramatsu, <u>Kenjiro Terada</u> , Tatsuya Kawada
18	国内	第65回理論応用力学講演会・第22回土木学会応用力学シンポジウム	泉典洋	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道工科大学	札幌	日本	20190628	20190630	20190628	HPMを用いた骨組構造のマルチステージ破壊シミュレーション	山口清道, 山村和人, 竹内剛雄, 寺田賢二郎

19	国内	第65回理論応用力学講演会・第22回土木学会応用力学シンポジウム	泉典洋	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道大学工学部	札幌	日本	20190628	20190630	20190629	落石解析における斜面の表面形状と物性値の空間的不確実性に関する解析的検討	森口周二, 上原直秀, 菅野蓮華, 寺田賢二郎
20	国際	12th International Conference on Multiaxial Fatigue and Fracture (ICMFF12)	S. Courtin, M.L. Facchinetti, S. Fouvry, J.-L. Jacquot, A. Koster, F. Lefebvre, H.-P. Lieurade, Y. Nadot, M.-L. Nguyen-Tajan, L. Remy, F. Rezaoui, A. J.-L. Robert, N. Saintier, F. Smzytka, G. Thoquenue	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Universit� de Bordeaux	Bordeaux	France	20190624	20190629	20190629	Influence of hard and soft inclusions inside a ferritic matrix	Riccardo Fincato, Seichiro Tsutsumi, Tatsuo Sakai, Kenjiro Terada
21	国内	第65回理論応用力学講演会・第22回土木学会応用力学シンポジウム	泉典洋	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道大学工学部	札幌	日本	20190628	20190630	20190630	大規模土砂流動解析を目的とした固液混合MPMの開発と適用	山口裕矢, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎
22	国際	15th US National Congress on Computational Mechanics (USNCCM15)	John T. Foster, Tan Bui-Thanh	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	JW Marriott Hotel	Austin, TX	USA	20190728	20190801	20190729	A variational framework for two-scale thermo-mechanical coupled problems	S. Matsubara, K. Terada
23	国際	XV International Conference on Computational Plasticity (COMPLAS 2019)	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti, Eduardo de Souza Neto	その他の連名	はい	口頭(Plenary)	Crowne Plaza	Barcelona	Spain	20190903	20190905	20190905	Exploration of predictive disaster simulations by FEM and MPM	Y. Yamaguchi, S. Suzuki, S. Moriguchi, K. Terada
24	国際	XV International Conference on Computational Plasticity (COMPLAS 2019)	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti, Eduardo de Souza Neto	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Crowne Plaza	Barcelona	Spain	20190903	20190905	20190904	A Variational Framework for Thermo-Mechanical Coupled Two-Scale Boundary Value Problems	S. Matsubara, K. Terada
25	国際	XV International Conference on Computational Plasticity (COMPLAS 2019)	Eugenio Oñate, D. Roger J. Owen, Djordje Peric, Michele Chiumenti, Eduardo de Souza Neto	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Crowne Plaza	Barcelona	Spain	20190903	20190905	20190904	A Seamless Transition Method from Continuity to Discontinuity for Crack in an Elasto-Plastic Material	Y. Shintaku, K. Terada, S. Tsutsumi
26	国際	Computational Modeling of Complex Materials across the Scales (CMCS)	Paul Steinmann, J. Yvonnet	その他の連名	はい	口頭(招待)	Senate Room	Glasgow	UK	20191001	20191004	20191003	PCA-based computational homogenization for nonlinear elasticity	Ryo Hatano, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
27	国際	The Art of Modeling in Computational Solid Mechanics	Paul Steinmann, J. Yvonnet	単名	はい	口頭(招待)	Centre International des Sciences and M�chaniques (CISM)	Udine	Italy	20191007	20191011	20191000	Multi-scale and multi-physics simulations for heterogenous materials and structures	Kenjiro Terada
28	国際	International Workshop on Applications of Materials Integrations	Tomonaga Okabe	その他の連名	いいえ	口頭(招待)	Ceder Hotel	Seattle	USA	20191017	20191018	20191017	Methods of multiscale characterization of macro- and meso-scale mechanical behavior of CFRP	Risa Saito, Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Yasuko Mihara, Takaya Kobayashi, Kenjiro Terada
29	国際	The 5th International Symposium on Visualization in Joining & Welding Science through Advanced Measurements and Simulation (Visual-JW 2019) & The 8th International Conference of Welding Science and Engineering (WSE 2019)	Ninshu Ma	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Hotel Hankyu Expo Park	Osaka	Japan	20191121	20191122	20191122	An Enhanced Gursan Model with Cohesive Traction-Separation Law to Realize Transition from Ductile to Brittle Fracture	Takuya Kagimura, Yuichi Shintaku, Seichiro Tsutsumi, Kenjiro Terada
30	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191018	Methods of multiscale characterization of macro- and meso-scale mechanical behavior of CFRP	Masaki Omiya, Mayu Muramatsu, Kenji Takada, Kensuke Ogawa, Kai Oide, Takaya Kobayashi, Kenjiro Terada
31	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191018	Multiscale simulation of crack propagation due to hydrogen embrittlement with anisotropic behavior of cleavage fracture	So Ishibashi, Yuichi Shintaku, Seichiro Tsutsumi, Kenjiro Terada
32	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191018	Unstable crack propagation simulation for automotive advanced high strength steels	Kensuke Ogawa, Kai Oide, Takaya Kobayashi, Kenji Takada, Kenjiro Terada, Mayu Muramatsu, Masaki Omiya



33	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191018	Development of soil-water-air coupled implicit material point method	Yuya Yamaguchi, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, <u>Kenjiro Terada</u>
34	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191019	Finite Thermo-Elastic Decoupled Two-Scale Analysis	Robert Fleischhauer, Junji Kato, <u>Kenjiro Terada</u> , Michael Kaliske
35	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191019	Multi-scale analysis of plate-shaped solid oxide fuel cell based on substitution approach	Masami Sato, Mayu Muramatsu, Shinnosuke Nishi, <u>Kenjiro Terada</u> , Tatsuya Kawada
36	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191019	Thermo-mechanical coupled Gradient-enhanced Two-scale Variational updates for Thermo-hyperelastic Composites	Seisiro Matsubara, <u>Kenjiro Terada</u>
37	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	はい	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191019	A method of global(2D)-local(3D) numerical analysis for tsunami with coastal forest	Reika Nomura, Shinsuke Takase, <u>Shuji Moriguchi</u> , <u>Kenjiro Terada</u>
38	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191020	Probabilistic risk analysis of building damage caused by earthquake using mode decomposition technique	Shuji Moriguchi, Panon Latcharote, <u>Kenjiro Terada</u> , Chayanon Hansapinyo, Akkachai Ketsap
39	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191020	Verification method of numerical analysis based on spatiotemporal feature extraction by mode decomposition	Yu Otake, Kyohei Shigeno, Yosuke Higo, <u>Kenjiro Terada</u> , Syuji Moriguchi
40	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191020	On multi-stage failure simulation using hybrid-type penalty method	Kiyomichi Yamaguchi, Kazuto Yamamura, Norio Takeuchi, <u>Kenjiro Terada</u>
41	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191020	A cohesive-traction rmbded model with fatigue-induced damage for prediction of crack nucleation and propagation in a metal	Katsuya Soejima, Yuichi Shintaku, Seichiro Tsutsumi, <u>Kenjiro Terada</u>
42	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	YB Yang	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191217	20191222	20191020	A numerical study on discontinuous displacement for crack nucleation and propagation	Ryohei Kanezawa, Yuichi Shintaku, <u>Kenjiro Terada</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

博士課程の学生全員を国際会議にて口頭発表させ、国際的な視点での研究の展開を意識させた。また、土木工学専攻の学部生、大学院生に対する専門教育のほか、リーディング大学院における「実践的防災学V」を提供した。災害の物理化学的メカニズムを解明したり、信頼性の高い予測を行うことで被害の最小化したりするための解析および可視化技術を紹介した。また、安全で安心な社会を創造するための数値シミュレーションの役割と、その手法開発、ならびに可視化(見える化)の意義を解説した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	22.5
2	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
3	実践的防災学V	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

CAE技術者を対象とした勉強会を企画・運営し、有限要素法を中心とした解析理論・技術のセミナーの講師を務めるなど、社会人教育に取り組んだ。また、松島町総合計画審議会および松島町都市計画審議会委員を務め、町の総合計画の調整その他その実施の促進のために必要な調査および審議を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 6 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	NPO法人・非線形CAE協会	第33期非線形CAE勉強会(1・2回)	20190525	20190526	東京大学工学部	東京都・文京区	日本	実行委員長	110	なし	講演会・セミナー	
2	国内	NPO法人・非線形CAE協会	第33期非線形CAE勉強会(3・4回)	20190615	20190616	東京大学工学部	東京都・文京区	日本	実行委員長	110	なし	講演会・セミナー	
3	国内	NPO法人・非線形CAE協会	第34期非線形CAE勉強会(1・2回)	20191130	20191201	新大阪丸ビル別館	大阪市	日本	実行委員長	70	なし	講演会・セミナー	
4	国内	NPO法人・非線形CAE協会	第34期非線形CAE勉強会(3・4回)	20200111	20200112	新大阪丸ビル別館	大阪市	日本	実行委員長	70	なし	講演会・セミナー	
5	国内	日本計算工学会	サマースクール2018 in 東京「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」ペーシクコース	20190910	20190911	中央大学理工学部	東京	日本	実行委員長	60	なし	講演会・セミナー	
6	国内	日本計算工学会	サマースクール2018 in 東京「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」アドバンスコース	20190912	20190912	中央大学理工学部	東京	日本	実行委員長	50	なし	講演会・セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	第12回メカニカルデザインセミナー	基調講演	20190702	20190702	非線形計算力学の現状・課題と今後	企業	株式会社メカニカルデザイン	関東ITソフトウェア健康保険組合・山王健保会館	東京都	日本	100
2	講演会	シミュレーション・フェスタ～(2019 SIMULIA Community Conference Japan)	基調講演	20191029	20191029	計算力学分野における研究動向と今後の課題	企業	ダッソー・システムズ株式会社	ベルサール東京日本橋	東京都	日本	1000

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	松島町	総合計画審議会	委員	20140401
2	地方自治体	松島町	都市計画審議会	委員	20140401

# 森口 周二 准教授

## MORIGUCHI Shuji

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岐阜大学	工学部	2000	3	岐阜大学大学院	工学研究科	2002	3	博士(工学)	2005	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	4	2006	3	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
2	2006	4	2007	3	東京工業大学 原子炉工学研究所	特別研究員
3	2007	4	2009	3	東京工業大学(日本学術振興会特別研究員(PD))	日本学術振興会特別研究員(PD)
4	2008	6	2009	3	Stanford University(日本学術振興会特別研究員(PD)期間中)	Visiting scholar
5	2009	4	2010	5	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
6	2010	6	2013	3	岐阜大学 工学研究科	助教
7	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地盤工学会	日本計算工学会	日本機械学会	土木学会	日本自然災害学会	日本地すべり学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	応用力学委員 V&V小委員会	幹事	20140000
2	地盤工学会	広報委員会	委員	20120000
3	地盤工学会	TC105 国内委員会	幹事長	20120000
4	土木学会	原子力土木委員会	委員	20150000
5	土木学会	計算力学小委員会	幹事長	20160000
6	地盤工学会	Soils and Foundations 編集委員会	委員	20160000
7	地盤工学会	調査研究部	委員	20170000
8	土木学会	C分冊小委員会	幹事	20170000
9	計算工学会	多元災害研究会	委員	20170000
10	計算工学会	不確かさのモデリング・シミュレーションに関する研究会	委員	20180000
11	土木学会, 地盤工学会, 日本地すべり学会	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	幹事	20190000
12	地盤工学会	東北支部	幹事長	20190000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地盤工学	計算工学	斜面災害

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	大学院入試ワーキング	メンバー	20170000
2	工学研究科土木工学専攻	ネットワーク係	メンバー	20180000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

斜面災害シミュレーションについては、個別要素法を用いた落石および土砂流動のシミュレーションに関して、V&Vを達成するための計算条件の分析を進めた。また、津波と地震を対象として、数値解析結果を効果的に活用した確率的危険度評価に関する研究を進めた。また、数値解析の結果から雪崩のハザードマップを作成する手法を提案し、2017年に発生した那須雪崩事故へ適用し有用性を確認した。さらに、広域の土砂災害危険度予測を可能とする手法を開発し、2019年北海道胆振東部地震で発生した土砂災害を対象として検証を行った。災害調査については、台風19号の被害調査及びその分析を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		地盤材料の直接計算に関する研究	国内
2	2009	4	現在		数値流体解析による雪崩危険度評価に関する研究	国内
3	2009	4	現在		個別要素法による斜面災害危険度評価に関する研究	国内
4	2013	4	現在		数値解析に基づく災害の確率論的危険度評価	国内
5	2013	4	現在		津波による建造物の破壊に関する数値解析手法の開発	国内
6	2016	4	現在		災害における情報発信や行政対応に関する研究	国内
7	2018	11	現在		災害シミュレーションから抽出される空間モードを用いた確率論的リスク評価	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	8	合計	9	うち	国際査読有	3	国際査読無	4	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Solid-liquid coupled material point method for simulation of ground collapse with fluidization	Yuya Yamaguchi, Shinsuke Takase, Shuichi Moriguchi, Kenjiro Terada	Computational Particle Mechanics	7		209	223	20190606
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Decoupled two-scale viscoelastic analysis of frp in consideration of dependence of resin properties on degree of cure	R. Saito, Y. Yamaguchi, S. Matsubara, S. Moriguchi, Y. Mihara, T. Kobayashi, K. Terada	International Journal of Solids and Structures	190	1	199	215	20191115
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	超弾性複合材料に対するデータ駆動型マイクロ・マクロ連成マルチスケール解析	波多野 俊, 松原 成志朗, 森口 周二, 寺田 賢二郎	日本計算工学会論文集	2019				20190015 20191122
英語	共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Placement optimization method for rockfall protection structures along a road	H. Kanno, S. Moriguchi, K. Terada, S. Hayashi, Y. Isobe and I. Yoshida	Proceedings of the 7th International Symposium on Geotechnical Safety and Risk			529	534	20191211
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	数値解析結果の空間モード分解による津波のリスク評価	外里健太, 小谷拓磨, 波多野 俊, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田 賢二郎, 大竹 雄	日本計算工学会論文集	2020				20200003 20200228
英語	筆頭共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Simulation-based optimal design approach for rockfall protection walls	S. Moriguchi, H. Kanno, K. Terada, T. Kyoya	Proceedings of the 2019 Rock Dynamics Summit in Okinawa			481	485	20190704
英語	共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Numerical simulation of rock slope failure with dynamic frictional contact based on co-rotational technique	S. Suzuki, T. Kyoya, K. Terada, S. Moriguchi, N. Takeuchi	Proceedings of the 2019 Rock Dynamics Summit in Okinawa			446	446	20190704
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami hazard and risk assessment for multiple buildings by considering the spatial correlation of wave height using copulas	Y. Fukutani, S. Moriguchi, K. Terada, T. Kotani, Y. Otake, T. Kitano	Natural Hazards and Earth System Sciences	19	11	2619	2634	20191122
英語	共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Influence of particle shape of falling rock-mass on the maximum travel distance	T. Kawai, H. Nakase, S. Moriguchi	Proceedings of the 25th Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology					20190804

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	いまさら聞けない計算力学の定石	単行本	20200325	森口周二, 他17名	共著	丸善出版株式会社	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	不確実性を考慮した落石シミュレーション	学術雑誌	有	はい	地盤工学会誌	67	8	64	65	20190801	森口周二, 菅野蓮華, 上原直秀, 寺田賢二郎	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	5	その他の連名	1	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チエア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第9回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム	三好哲也	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	日本学術会議	東京	日本	20191023	20191025	20191025	道路に対する落石の危険度評価に基づいた落石対策工の最適配置の基礎的検討	津田悠人, 吉田郁政, 菅野蓮華, 森口周二
2	国内	第22回応用力学シンポジウム	牛島省	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道大学	札幌	日本	20190628	20190629	20190629	落石解析における斜面の表面形状と物性値の空間的不確実性に関する解析的検討	森口周二, 菅野蓮華, 上原直秀, 寺田賢二郎
3	国内	第26回信頼性設計技術WS & 第39回最適設計研究会	尾崎文宣	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	名古屋大学	名古屋	日本	20190913	20190913	20190913	DEM土砂流動解析におけるパラメータの感度分析	森口周二, 菅野蓮華, 上原直秀, 寺田賢二郎
4	国内	第24回計算工学講演会	長嶋 利夫	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	シニクシディ	大宮	日本	20190529	20190530	20190529	落石解析における斜面の表面形状と物性値の空間分布の影響	森口周二, 奥山大輝, 寺田賢二郎
5	国際	2nd International Symposium on Seismic Performance and Design of Slopes	Jin Sun	筆頭連名	はい	口頭(一般)	The University of Edinburgh	Edinburgh	United Kingdom	20200118	20200122	20200120	Simulation-aided optimal design approach for rockfall protection walls	Shuji Moriguchi, Hasuka Kanno, Kenjito Terada
6	国際	Handover Ceremony to Selangor State Government and Knowledge Sharing Seminar by Flood and Landslide Experts	Takako Izumi	単名	いいえ	口頭(一般)	Shah Alam Convention Centre	Shah Alam	Malaysia	20190824	20190824	20190824	A simulation of Hulu Langat landslide for disaster education	S. Moriguchi
7	国際	Asian Pacific Congress on Computational Mechanics	Yeong-Bin Yang	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei International Convention Center	Taipei	Taiwan	20191218	20191220	20191220	Probabilistic risk analysis of building damage caused by earthquake using mode decomposition technique	S. Moriguchi, P. Latcharote, K. Terada, C. Hansapinyo, A. Ketsap

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のり外人数)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	講演会	土木学会応用力学委員会	応用力学フォーラム東北	20191129	20191129	東北大学人間環境系教育研究棟	仙台市	日本	50 (3)	工学	運営全般	なし		国内
2	国際	ワークショップ	東北大学災害科学国際研究所計算安全工学研究分野	Yonsei University student seminar	20191121	20191121	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	30 (10)	工学	運営全般	IRIDeS後援・ 名義後援		国外
3	国内	研究会	計算工学会	自然災害シミュレーションにおける不確かさモデリングの研究展望	20191227	20191227	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	60 (0)	工学	運営全般	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

プログラミングや力学ベースの講義の他に、リーディング大学院では、「実践的防災学V」の中で地盤災害に関する講義を提供した。また、各講義の中では、これまでに実施した災害調査の結果や災害の教訓などについて説明した。研究室の学生については、特に斜面災害シミュレーション、確率論的リスク評価、空間モード分解に関する研究を中心として指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	15
2	振動解析学	東北大学	全学		3	6セメ	15
3	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	7.5
4	実践的防災学V	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	2
5	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	7.5
6	地盤工学II	宮城大学	食産業学部		3	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

斜面災害や土砂災害に関する防災教育を目的として、新聞やラジオを通じて土砂災害に関する情報を発信した。また、学会等が運営するセミナーや講習会等で、数値解析技術を中心とした講演を行い、技術の普及に務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	土木学会	複雑流体・移動境界現象の応用力学的 問題への挑戦	20190906	20190906	京都大学吉田 キャンパス	京都府	日本	運営委員	80	なし	講演会	
2	国内	土木学会	氾濫等災害現象に対する応用力学研 究の展望	20191204	20191204	土木学会	東京都	日本	運営委員	60	なし	講演会	
3	国内	土木学会東北支部 地盤工学会東北支 部 日本地すべり学会 東北支部 東北大学災害科学 国際研究所	2019年台風第19号災害に関する東北 学術合同調査団調査結果速報会	20191214	20191214	東北学院大学 土樋キャンパス	仙台市	日本	運営とりまとめ	100	IRIDeS共催	講演会	
4	国内	名城大学	令和元年台風19号調査報告会	20200108	20200108	名城大学 天白キャンパス	名古屋 市	日本	運営委員	120	IRIDeS共催	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 10 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	土木学会応用力学委員 会講演会	講演	20190906	20190906	土粒子レベルの直接計算に基づく透水係 数の非線形性の評価	なし	土木学会応用 力学委員会	土木学会	京都市	日本	30
2	講演会	土木学会応用力学委員 会講演会	講演	20191204	20191204	2019年台風19号による宮城県丸森町の被 害について	なし	土木学会応用 力学委員会	土木学会	東京都	日本	60
3	講演会	非線形CAE協会 解析モ デリング分科会講演会	招待講演	20191119	20191119	災害シミュレーションと確率論の融合	企業	非線形CAE協会	東北大学	仙台市	日本	60
4	その他	東北大学オープンキャン パス	講演	20190730	20190731	最先端のシミュレーションで災害を科学 する	なし	東北大学	東北大学	仙台市	日本	80
5	講演会	宮城県土木部復興 フォーラム	招待講演	20200124	20200124	台風第19号に学ぶハード・ソフト対策の あり方	行政	宮城県土木部	宮城県庁	仙台市	日本	100
6	講演会	気仙沼文化講演会	講演	20190723	20190723	地盤災害・土砂災害から命を守るために	行政	東北大学災害 科学国際研究 所(気仙沼分 室)	気仙沼市東日 本大震災遺構・ 伝承館	気仙沼市	日本	57
7	講演会	第31回中部地盤工学シ ンポジウム	招待講演	20190808	20190808	地盤工学会のアカデミックロードマップと人 物史	なし	地盤工学会中 部支部	名古屋大学	名古屋市	日本	80
8	講演会	令和元年台風第19号に 関する調査報告会	講演	20191015	20191015	丸森(阿武隈川)における現地調査報告	なし	東北大学災害 科学国際研究 所	東北大学災害 科学国際研究 所	仙台市	日本	50
9	講演会	保育問題研究会講習会	招待講演	20200209	20200209	近年の地震・豪雨災害に学ぶ	なし	地盤工学会中 部支部	福祉施設「田子 のまち」	仙台市	日本	50
10	講演会	補強土植生のり枠工協 会主催技術講習会	招待講演	20190621	20190621	昨今の災害事例から学ぶ	企業	補強土植生のり 枠工協会主催 技術講習会	食糧会館 べに ばな	山形市	日本	100

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	鹿島建設	大野進太郎	20190920	講演	鹿島建設設計本部	東京	講演・発表	30
2	防災科学技術研究所	上石勲	20190419	会議	防災科学技術研究所	つくば	講演・発表	6
3	第一コンサルタント	右城猛	20190408	講演	第一コンサルタント本社	徳島市	講演・発表	30

# 山口 裕矢 助手

## YAMAGUCHI Yuya

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	2016	3	東北大学大学院	工学研究科	2018	3	修士	2018	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助手

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3
土木学会	日本計算工学会	地盤工学会

### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	応用力学シンポジウム運営小委員会	委員	20191029

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
計算力学	応用力学	地盤工学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

地盤の崩壊～土砂流動発生までの一連の災害現象を捕捉するための数値計算手法開発に関する研究を中心に取り組んだ。時空間的に幅広い土砂災害の解析手法として、精度や安定性、効率性の面でより適する流体解析手法や、幅広い土の挙動を表現する材料モデルの構築に重きを置いた開発を行った。構築した手法を用いて基礎的な例題や実験結果との比較による検証を実施した後、実際の地形を用いたモデルによる再現解析を行い、その表現性能を確認した。複数の国内・国際学会で研究成果を発表し、開発した手法についての意見・評価をいただいた。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	現在		飽和・不飽和地盤の変形・流動の数値シミュレーション	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Solid-liquid coupled material point method for simulation of ground collapse with fluidization	Yuya Yamaguchi, Shinsuke Takase, Shuui Moriguchi, Kenjiro Terada	Computational Particle Mechanics	7		209	223	20190606
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Decoupled two-scale viscoelastic analysis of rp in consideration of dependence of resin properties on degree of cure	R. Saito, Y. Yamaguchi, S. Matsubara, S. Moriguchi, Y. Mihara, T. Kobayashi, K. Terada	International Journal of Solids and Structures	190	1	199	215	20191115

#### 学会発表

単名	0	筆頭連名	5	その他の連名	0	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第22回 応用力学シンポジウム	牛島省	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	北海道大学	札幌	日本	20190628	20190630	20190630	大規模土砂流動解析を目的とした固液混合 MPM の開発と適用	<u>山口 裕矢</u> , 高瀬 慎介, 森口 周二, 寺田 賢二郎
2	国内	第24回計算工学講演会	長嶋 利夫	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシティ	大宮	日本	20190529	20190531	20190529	地盤流動化の数値解析を目的とした MPM の提案と適用性の検討	<u>山口 裕矢</u> , 高瀬 慎介, 森口 周二, 寺田 賢二郎

3	国内	第54回 地盤工学研究発表会	桑野二郎	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	ソニックシ ティ	大宮	日本	20190716	20190718	20190716	固体と流体の遷移領域を対象とした MPMによる土砂流動解析	山口 裕矢, 高瀬 慎介, 森口 周二, 寺田 賢二郎
4	国際	VI International Conference on Particle-Based Methods	Eugenio On ate	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	Technical University of Catalonia	Barcelona	Spain	20191028	20191030	20191028	An Implicit Material Point Method for Unsaturated Soil	Yuya Yamaguchi, Shisuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada
5	国際	7th Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019)	Yeong-Bin Yang	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	Taipei Internation al Conventio n Center	台北	台湾	20191218	20191220	20191218	Development of soil-water-air coupled implicit material point method	Yuya Yamaguchi, Shisuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada

C. 教育活動

教育活動の概要

熱硬化性樹脂の収縮応力を考慮した計算手法の開発についての研究において、材料モデルの構築やプログラムの実装についての指導に関与した。また、崩壊土砂の衝撃力評価や、地盤構造の浸透破壊・流動化などに関する研究で利用する数値計算手法の指導に携わった。



# 村尾 修 教授

## MURAO Osamu

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	横浜国立大学	工学部	1989	3	横浜国立大学大学院	工学研究科	1992	3	博士(工学)(東京大学)	1999	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1996	11	(株)防災都市計画研究所	研究員
2	1996	11	2000	11	東京大学生産技術研究所	助手
3	2000	12	2005	12	筑波大学 社会学系(大学院 システム情報工学研究科)	講師
4	2005	12	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	助教授・准教授
5	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本建築学会	日本都市計画学会	地域安全学会	日本自然災害学会	日本地震工学会	Earthquake Engineering Research Institute

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	理事会	理事	20010500
2	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員長	20150700
3	地域安全学会	理事会	代表理事 (副会長:研究国際交流担当)	20180525
4	日本建築学会	東日本大震災調査報告編集委員会	幹事	20120000
5	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 社交・接遇委員会	委員長	20171100
6	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 展示委員会	委員	20170100
7	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 製作委員会	委員	20180100
8	International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia	Committee	Steering Committee	20170100
9	Asian Conference Earthquake Engineering	Committee	Steering Committee	20180400
10	The Association of Pacific Rim Unibersities (APRU)	Multi-Hazards Program	Chair	20180400
11	Progress in Disaster Science	Editorial Board	Editorial Board Member	20190000
12	日本建築学会	日本建築学会賞選考委員会論文部会専門委員会	委員	20191112

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	都市防災	都市復興	都市の脆弱性評価

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員	20160401
2	工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20170401
3	工学研究科 都市・建築学専攻	工学分館運営委員会	委員	20190401
4	全学	環境安全委員会 環境マネジメント専門委員会	委員	20180401
6	全学	災害科学・安全学国際共同大学院運営委員会	委員	20180000
5	全学	科研費アドバイザー	アドバイザー	20180901
7	全学	情報公開・個人情報開示等委員会委員	委員	20190401
8	全学	全学教育改革検討委員会	委員	20190401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) ヤンゴン(ミャンマー)における地震による建物構造の脆弱性を評価するため、ハザードマップ(脆弱性評価地図) Ver.2を構築するとともにシナリオ地震に対する地震被害を想定し、地域ごとの脆弱性評価を行った。また、ヤンゴン北部・南部・西部における建物倒壊危険度の高い地域の近年の住宅地開発動向について検証した。(2) 東日本大震災後に継続実施している復興モニタリング調査に基づき、過去9年間の復興事業に関する復興過程の定量的分析等を行った。(3) 2019年台風19号での武蔵小杉駅周辺地域の被災したタワーマンションにおける被害分析を行った。(4) 2008年四川大地震後の復興状況調査をもとに区域ごとの経済復興持続性について分析した。(5) Arc-DR3のコアメンバーとして、グラントシラバスの作成など今後の研究体制を整えた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	10	2020	3	ミャンマーの災害対応力システムと産学官連携プラットフォームの構築	国外
2	2015	8	2021	3	バングラデシュにおける都市の急激な高密度化に伴う災害脆弱性を克服する技術開発と都市政策への戦略的展開プロジェクト	国外
3	2018	4	2023	3	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	国内
4	2019	10	2022	9	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR3 Initiative)	両方

論文

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	うち				
															国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	
単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	14	合計	17	国際査読有	3	国際査読無	1	国内査読有	2	国内査読無	11				
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その1ー震災から2ヶ月間の対応における教訓的分析ー	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	2019年地域安全学会梗概集		44	63	66	20190500				
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その2ー津波到達までの災害初動対応業務および避難行動の分析ー	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	2019年地域安全学会梗概集		44	67	70	20190500				
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その3ー災害対策本部および仮設庁舎のレイアウトに関する分析ー	花田悠磨, 村尾修, 杉安和也, 寅屋敷哲也, 佐藤翔輔	2019年地域安全学会梗概集		44	71	74	20190500				
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2011年東日本大震災の名取市閑上地区における震災復興まちづくりの計画策定過程	酒井俊史, 村尾修	都市計画報告集		18-1	58	63	20190607				
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	運動エネルギーを考慮した長周期パルス地震動によるオフィス家具の転倒危険性, Overturning Risk of Furniture due to the Long-period Pulse Ground Motion Considering Kinetic Energy	花田悠磨, 村尾修, 目黒公郎	日本建築学会計画系論文集	84	761	1645	1655	20190700				
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その4ー災害初動対応拠点および避難施設の立地分析ー	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集		8	1	2	20190800				
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その5ー自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察ー	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集		8	3	6	20190800				
8	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	広島における被爆建物の保存・維持管理実態に関する研究	村山勝哉, 村尾修	2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集		F-1	41	42	20190900				
9	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ヤンゴンにおけるスラム居住区の実態についての調査研究	山田隼人, 村尾修	2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集		F-1	491	492	20190900				
10	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	岩手県大鏡町の東日本大震災アーカイブ災害証言集「生きた証」災害時のジェンダーによる差異についての研究	北村美和子, 村尾修	2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集		F-1	891	892	20190900				
11	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	南三陸町における東日本大震災直後の役所体制について	花田悠磨, 村尾修, 杉安和也	2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集		F-1	893	894	20190900				
12	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	日本における災害・被爆遺構の潮流と維持管理に関する比較分析	佐藤真吾, 村尾修	都市計画報告集		18-2	164	171	20190909				
13	英語	単著	なし	はい	国際会議 Proceedings	無	はい	Comparison of Post-disaster Recovery Curves for the 1999 Chi-Chi Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake	Osamu Murao	Proceedings of 5th International Conference on Urban Disaster Reduction (ICUDR)			23	26	20190916				
14	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波災害における基礎自治体の代替庁舎での業務継続に関する考察ー東日本大震災の南三陸町職員の初動対応検証調査よりー, Study on Business Continuity of Municipality Government in Alternative Facility After Tsunami Disaster -Based on Survey for Evaluation of Initial Disaster Response by Minamisanriku Town Officials After the Great East Japan Earthquake-	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会論文集		35	243	252	20191100				
15	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Recovery Curves for Housing Reconstruction from the 2011 Great East Japan Earthquake and Comparison with Other Post-disaster Recovery Processes	Osamu Murao	International Journal of Disaster Risk Reduction	45		101467-1	101467-15	20200108				

16	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Earthquake Building Collapse Risk Estimation for 2040 in Yangon, Myanmar	Osamu Murao, Tomohiro Tanaka, Kimiro Meguro, Shwe Teingi	Journal of Disaster Research, Special Issue on SATREPS Myanmar Project Part2: Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar	15	3	387	406	20200330
17	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Seismic Fragility Analysis of Poor Timber Buildings in Yangon Slum Areas	Khin Myat Kyaw, Chaitanya Krishna, Kyaw Kyaw, Hideomi Gokon, Osamu Murao, Kimiro Meguro	Journal of Disaster Research, Special Issue on SATREPS Myanmar Project Part2: Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar	15	3	407	415	20200330

学会発表

単名	4	筆頭連名	2	その他の連名	5	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	第44回地域安全学会研究発表会(春季)	目黒公郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	長野県木曾町	日本	20190524	20190525	20190524	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究その1ー震災から2ヶ月間の対応における教訓の分析ー	眞屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
国内	第44回地域安全学会研究発表会(春季)	目黒公郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	木曾町文化交流センター	長野県木曾町	日本	20190524	20190525	20190524	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究その2ー津波到達までの災害初動対応業務および避難行動の分析ー	杉安和也, 眞屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
国際	3rd Silk Cities International Conference, (Silk Cities 2019)	Avar Almkhtar	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	University of L'Aquila	ラクイラ	イタリア	20190710	20190712	20190710	Post-tsunami Recovery and Mitigation Effect in the Coastal Areas Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Osamu Murao, Tomohiro Tanaka
国際	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program 2019 Summer School	Osamu Murao	単名	はい	口頭(招待)	東北大学	仙台	日本	20190722	20190725	20190722	Urban Disaster Risk Reduction: Japan as a disaster-prone country and learning from past disasters	Osamu MURAO
国内	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬	目黒公郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	福島県南相馬市	日本	20190802	20190803	20190802	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究その4ー災害初動対応拠点および避難施設の立地分析ー	杉安和也, 眞屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
国内	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬	目黒公郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	南相馬市市民情報交流センター	福島県南相馬市	日本	20190802	20190803	20190802	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究その5ー自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察ー	眞屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
国際	5th International Conference on Urban Disaster Reduction (ICUDR)	Chang Yu Pei	単名	はい	口頭(招待)	Howard Civil Service International House	台北	台湾	20190915	20190917	20190916	Comparison of Post-disaster Recovery Curves for the 1999 Chi-Chi Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake	Osamu MURAO
国際	15th APRU-IRIDeS Multi-Hazards Symposium	Adriana Rojas Martínez	単名	はい	口頭(招待)	National Institute of Genomic Medicine	メキシコシティ	メキシコ	20191029	20191031	20191029	Comparative study of Post-disaster Recovery Curves for Past Catastrophic Disasters in the world	Osamu MURAO
国際	15th APRU-IRIDeS Multi-Hazards Symposium	Adriana Rojas Martínez	単名	はい	口頭(招待)	National Institute of Genomic Medicine	メキシコシティ	メキシコ	20191029	20191031	20191029	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience in APRU Multi-hazards Program	Osamu MURAO
国内	第45回地域安全学会研究発表会(秋季)	目黒公郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県立大学	静岡市	日本	20191101	20191102	20191101	津波災害における基礎自治体の代替庁舎での業務継続に関する考察ー東日本大震災の南三陸町職員の初動対応検証調査よりー, Study on Business Continuity of Municipality Government in Alternative Facility After Tsunami DisasterーBased on Survey for Evaluation of Initial Disaster Response by Minamisanriku Town Officials After the Great East Japan Earthquake-	眞屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修
国際	18th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia	目黒公郎	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Yangon Technological University	ヤンゴン	ミャンマー	20191209	20191210	20191210	Difference in Building Collapse Risk in Yangon Due to Applicable Dataset	O. MURAO, T. Ikeda, M. Koshihara, K. Meguro, and T. Shwe

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	一般社団法人地域 安全学会	東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬	20190802	20190803	南相馬市市民情報 交流センター	南相馬市	日本	60 (2)	工学	議長・企画・ 運営	IRIDeS共催	地域安全学会	国内

C. 専攻活動

教育活動の概要

研究所の所長補佐(教務担当)および教務委員会副委員長として、国際共同大学院「災害科学・安全学」の運営を行った。工学部では兼務教員として、カリキュラム委員(建築系)を務めた。また「防災・復興空間論」の講義を行った。学部生2名の研究指導を実施した。工学研究科都市・建築学専攻の中で「都市・建築デザイン学特論」等の講義を担当した。修士学生8名、博士学生1名の研究指導を実施した。また、全学教育において基礎ゼミを担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
2	都市・建築デザイン学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	DC	前期	1
3	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
4	災害科学概論	東北大学	コンピュータ型災害保健医療人 材の育成プログラム	医学系研究科等	DC, MC	前期	1
5	基礎ゼミ(空間・デザイン演習)	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	1セメ	15
6	地域と都市の防災	放送大学	教養学部	社会と産業コース		通年	15

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動による知見を社会に還元するために、インドネシア政府関係者を対象とした防災に関する講演やJICA専門家としてチリに赴き研究者や学生向けに講義を行った。また、川崎市や大分県佐伯市において、市民を対象とした防災研修会の講師を務め、川崎市における復興および防災に関する委員会にも委員として参加した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	令和元年度佐伯市防災講演会	招待講演	20190929	20190929	南海トラフ巨大地震と佐伯市の都市リスク	行政	大分県佐伯市	保健福祉総合センター 和楽	佐伯市	日本	245
2	その他	インドネシア国家開発企画庁防災研修	特別講義	20191126	20191126	Lessons Learnt from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami and Study on Making Post-disaster Recovery Curves	行政	立命館大学	歴史都市防災研究所	京都市	日本	25
3	講演会	第2回「復興都市づくり」講演会	招待講演	20191128	20191128	川崎市の都市リスクと復興への展望	行政	川崎市	中原区役所	川崎市	日本	250
4	その他	カトリカ大学建築学専攻特別講義	特別講義	20200107	20200107	Disaster Risk Management in Urban Contexts from Current Research Topics	行政	JICA	カトリカ大学	サンティアゴ	チリ	30
5	その他	中南米防災人材育成拠点化支援(KIZUNA)プロジェクト研修	特別講演	20200108	20200108	Disaster Risk Management in Urban Contexts from Current Research Topics	行政	JICA	カトリカ大学	サンティアゴ	チリ	30
6	展示会	「津波のあいだ、生きられた村」出版記念連続イベント「綾里 津波のあいだ展」ギャラリートーク	招待講演	20200111	20200111	わが国における津波防災対策の歴史と沿岸地域の津波リスクの課題	なし	岩手県大船渡市三陸町綾里地区研究会	建築会館	東京都港区	日本	100

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	川崎市	川崎市防災対策検討委員会	委員	20020401
2	その他	一般社団法人産学連携推進協会	産学連携推進専門委員会	委員	20180401
3	その他	地域防災推進機構	設立準備委員会	アドバイザー	20190801
4	その他	独立行政法人国際協力機構(JICA)	チリ共和国海外派遣	専門家	20200100

# 泉 貴子 准教授

## IZUMI Takako

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	西南学院大学	国際文化学部	1991	3	九州大学大学院	比較社会文化研究科 国際社会専攻	1996	3	比較社会文化修士	1996	3
2					京都大学大学院	地球環境学学	2012	9	地球環境学博士	2012	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	8	1999	12	国連ハビタットアジア・太平洋事務所	広報・渉外担当
2	2000	1	2004	12	国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)	人道問題調整官
3	2004	1	2004	12	国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) 兼任	国連防災世界会議調整官
4	2005	1	2006	5	国連アチェ・ニアス復興調整官事務所 (UNORC)	シミュルウ事務所代表
5	2006	6	2006	12	国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)	情報・パブリックアウトリーチユニットチーフ
6	2007	1	2013	3	国際NGO MERCY Malaysia	General Manager for Operations
7	2013	4	2017	9	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	特任准教授
8	2017	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2
九州西洋史学会	日本自然災害学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	UNISDR	UNISDR Asia Science, Technology and Academia Advisory Group (ASTAAG)	委員	20150501
2	土木学会 アジア土木関連学協会 (ACCEC)	TC21 (減災・防災に関する新しい技術委員会) 国内支援委員	委員	20160401
3	日本自然災害学会		評議員	20170401
4	Progress in Disaster Science (an international journal published by Elsevier)		Associate Editor	20181201

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
国際防災戦略	国際人道支援	NGO論

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

APRU (環太平洋大学協会) のネットワークを基盤として、災害研究活動の促進、学術機関および国際機関の連携強化、国際・アジア地域の防災に関する議論への貢献に努めた。アジア防災関係会議、UNISDR アジア科学技防災会議などの国際・アジア地域レベルの議論の場で、APRUマルチハザードプログラムの活動や、キャンパスセーフティの重要性についても発表し、国際的な認知度を高めることに貢献した。APRUマルチハザードプログラムとElsevierの協力により、新しい国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」を発刊し、Associate Editorを務めている。また、「防災イノベーションとSDGs」に関する報告書を慶應大学、東京大学、国連大学、CWSジャパンと協力して作成、発表した。

#### 研究課題

	期間				研究課題 (内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		大学間のマルチハザードプログラムの推進に関する研究～APRU加盟大学を中心に～	
2	2013	4	現在		防災における大学の役割に関する研究	
3	2015	4	現在		企業の防災に関する役割と貢献に関する研究 (途上国を中心に)	
4	2015	4	現在		科学技術の防災に関する役割と貢献に関する研究	
5	2015	4	現在		キャンパスにおける防災対策の向上に関する研究	
6	2016	4	現在		「仙台防災枠組」実現に向けた科学技術の役割に関する研究	
7	2018	6	現在		マレーシアにおける防災能力の向上 (スランゴール州) : 地方自治体と学術の連携	
8	2019	10	現在		自然災害起因の産業事故 (Natech) とキャンパスセーフティ	

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	2	国際査読無		国内査読有		国内査読無	
-------	---	-------	--	-------	--	-------	--

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disasater risk reduction and innovations	Takako Izumi, Rajib Shaw, Mikio Ishiwatari, Riyanti Djalante, Takeshi Komino	Progress in Disaster Science	2				20190704
英語	共著	国外	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Visual Narrative of the Loss of Energy after Natural Disasters	Gerardo Castaneda-Garza, Gabriel Valero-Urena, Takako Izumi	Climate	7	10			20190930

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	2	その他の共著	2	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	0	国際査読無	5	国内査読有	0	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Repot of the APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program: Summer School 2019	国際会議 Proceedings	無	いいえ						2010320	Takako Izumi	単著	国外
英語	30 innovations linking disaster risk reduction with sustainable development goals	その他	無	いいえ						20190229	Takako Izumi, Rajib Shaw, Mikio Ishiwatari, Riyanti Djalante, Takeshi Komino	筆頭共著	国外
英語	Disaster Risk Report: Understanding landslide and flood risks for science-based disaseter risk reduction in the state of Selangor	その他	無	いいえ						20190822	Takako Izumi, Shohei Matsuura, Ahmad Fairuz Mohd Yusof, Khamarrul Azahari Razak et al	筆頭共著	国外
英語	Science and technology status for disaster risk reduction in Asia and Pacific 2020	その他	無	いいえ						20200300	Chatterjee, R., Shaw R., Kumar, A., Izumi, T et al	共著	国外
英語	Towards Mabi's recovery	その他	無	いいえ						20190918	Jessica Alexander, Sangita Das, Takako Izumi, et al	共著	国外

学会発表

単名	13	筆頭連名		その他の連名	0	合計	13
----	----	------	--	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)
										開始年月	終了年月		
1	国際	APRU Multi-Hazards Research Symposium	Jose Manuel Paez	単名	はい	口頭(一般)	モンテレイ 工科大学	モンテレイ	メキシコ	20191028	20191030	20191029	Role of universities and academia in DRR
2	国内	APRU Multi-Hazards Research Symposium	Jose Manuel Paez	単名	はい	口頭(一般)	モンテレイ 工科大学	モンテレイ	メキシコ	20191029	20191031	20191030	Contribution of Science and Technology in DRR
3	国際	Science and Policy Forum for the Implementation of Sendai Framework for DRR	UNDRR	単名	はい	口頭(一般)	ジュネーブ 国際会議場	ジュネーブ	スイス	20190513	20180514	20180513	Challenges of academia in implementation of SFDRR—a need for a new international journal—
4	国際	Global Platform for DRR: Innovations and DRR	Rajib Shaw	単名	はい	口頭(一般)	ジュネーブ 国際会議場	ジュネーブ	スイス	20190514	2019 0517	20190515	30 innovations for DRR
5	国際	APRU data science workshop	John Rundle	単名	はい	口頭(一般)	UC Davis	サクラメント	アメリカ	20190626	20190628	20190627	From the local to the international - Where do we go from here?
6	国際	APRU data science workshop	John Rundle	単名	はい	口頭(一般)	UC Davis	サクラメント	アメリカ	20190626	20190628	20190628	Recovery from the Great East Japan Earthquake and Tsunami
7	国際	World Bosai Forum: Role of NPOs and volunteer organizations in disaster recovery: International and Japan cases		単名	はい	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191110	Great East Japan Earthquake and Tsunami of 2011 : Role of NPOs
8	国際	World Bosai Forum: NATECH		単名	はい	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191110	Strengthening disaster preparedness capacity on campus
9	国際	World Bosai Forum: Transdisciplinary Approach (TDA) for Building Societal Resilience to Disasters - Efforts towards Achieving the Goals of Sendai Framework -		単名	はい	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Role of the TC21 activities towards the implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction

10	国際	防災未来フォーラム		単名	はい	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191110	20191110	20191110	西日本豪雨からの教訓
11	国内	International Humanitarian Conference: BUILDING RESILIENCE, CLIMATE CHANGE ADAPTATION, AND DISASTER RISK REDUCTION		単名	はい	口頭(一般)	Sunway University	クアラルンプール	マレーシア	20190805	20190807	20190805	Climate Change and DRR
12	国内	International Humanitarian Conference: Advancing DRR in Asia and the Pacific		単名	はい	口頭(一般)	Sunway University	クアラルンプール	マレーシア	20190805	20190807	20190806	Lessons learnt from the Great East Japan Earthquake and Tsunami
13	国際	APEC Resilience Week	Wei-Sen Li	単名		口頭(一般)		台湾	台湾	20190930	20191003	2019030	Contribution of academia to adaptation of science and technology in DRR

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 6 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/非個人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	その他	IRIDeS, APRU	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Summer School	20190722	20190725	IRIDeS	仙台市	日本	80		企画・運営・ 講義・ファシリ テーション・ 通訳	IRIDeS主催・ 共同主催	APRU	両方
2	国際	ワークショップ	IRIDeS, APRU	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Campus Safety Workshop	20200212	20200213	IRIDeS	仙台市	日本	30		企画・運営・ 講義・ファシリ テーション・ 通訳	IRIDeS主催・ 共同主催	APRU	両方
3	国際	その他	IRIDeS, UNISDR	Regional meeting for the UNISDR Asia Science, Technology and Academia Advisory Group	20181129	20181201	IRIDeS	仙台市	日本	20		企画・運営・ ファシリテー ション・通訳	IRIDeS主催・ 共同主催	UNISDR	国外
4	国際	シンポジウム	モンテレイ工科大学	APRU Multi-Hazards Symposium	20191028	20191039	モンテレイ工科大学	モンテレイ	メキシコ	300		企画、発表、 ファシリテー ション	なし	APRU	国外
5	国際	シンポジウム	IRIDeS	Handover and knowledge sharing seminar for SeDAR-JAPAN project	20190822	20190822	Shararam会議場	クアラルンプール	マレーシア	150		企画、運営、 発表	IRIDeS主催・ 共同主催	マレーシア工 科大学、JICA	国外
6	国際	その他	IRIDeS	APRU Core Group Meeting	20190726	20190726	IRIDeS	仙台市	日本	20		企画、運営、 ファシリテー ション	IRIDeS主催・ 共同主催	APRU	国外

C. 教育活動

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学 期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	前期	16
2	国際社会論(国際協力)	宮城学院女子大学			3	後期	16
3	プロジェクトマネジメント	東北大学	国際文化研究科	国際環境資源政策論講座		前期	16
4	災害保健医療人材養成プログラム 災害科学概論	東北大学	東北大学病院、災害研			後期	8
5	災害保健医療人材養成プログラム 災害国際協力セミナー	東北大学	東北大学病院、災害研			後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台市との共催である「仙台防災枠組講座(基礎編・応用編)にて、仙台防災枠組に関する一般市民の理解や知識の向上のために講演を引き続き行っている。また、科学技術の防災への貢献の重要性を高めるため、ASTAAG(UNSIDRアジア科学技術アカデミアアドバイザリーグループ)のメンバーとして、国際および地域会議の議論の場で、APRUをはじめとする学術機関の貢献やその役割の重要性についても講演を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	仙台市・IRIDeS	仙台防災枠組講座:多文化防災について学ぼう	20190727	20190727	スタンダード 会議室	仙台市	日本	共催	100	IRIDeS共催	セミナー	
2	国内	仙台市・IRIDeS	仙台防災枠組講座:基礎編	20190927	20190927	スタンダード 会議室	仙台市	日本	共催	70	IRIDeS共催	セミナー	
3	国内	仙台市・IRIDeS	仙台防災枠組講座:基礎編	20190928	20190928	スタンダード 会議室	仙台市	日本	共催	70	IRIDeS共催	セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	仙台防災枠組講座:基礎編	講演	20180518	20180518	基礎から学ぶ仙台防災枠組 for World BOSAI Forum	行政	仙台市	スタンダード会議室	仙台市	日本	100
2	公開講座	仙台防災枠組講座:基礎編	講演	20180519	20180519	基礎から学ぶ仙台防災枠組 for World BOSAI Forum	行政	仙台市	スタンダード会議室	仙台市	日本	100
3	公開講座	仙台防災枠組講座:基礎編	講演	20180825	20180825	基礎から学ぶ仙台防災枠組 for World BOSAI Forum	行政	仙台市	エルパーク仙台	仙台市	日本	70
4	その他	JICAインドネシア防災研修	講義	20190226	20190226	国際防災戦略とステークホルダーの役割	なし	JICA	JICA東北	仙台市	日本	60

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	特定非営利活動法人SEEDS Asia		監事	20140401



# 杉安 和也 助教

## SUGIYASU Kazuya

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群(現:理工学群)	2007	4	筑波大学大学院	システム情報工学研究科	2012	11	博士(社会学)	2012	11

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	11	2013	3	筑波大学 大学院システム情報 工学研究科	非常勤研究員
2	2013	4	2019	3	東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	助教
3	2019	4	2019	5	東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	学術研究員
4	2019	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害科学・安全学国際共同大学院プログラム	助教
5	2019	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	助教
6	2019	11	現在		東北大学 災害科学国際研究所 変動地球共生学卓越大学院プログラム	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	地域安全学会	日本都市計画学会	日本地震工学会	モバイル学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会		20140000
2	安全・安心若手研究会		世話人	20140703
3	I7WCEE	社交・接遇委員会	委員	20190501

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	都市計画	地域防災計画	復興まちづくり	津波避難	災害初動対応

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	災害科学・安全学国際共同大学院プログラム	事務局	専任教員	20190501
2	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	副事務局長	20191101

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

津波避難訓練の運営に参画し、実際の避難訓練の中で、車を用いた避難行動、避難場所の最適配置、ドローン等のIoT機器を活用した津波避難の誘導手法の研究を行っている。特に2016年11月福島県沖地震時を踏まえた避難行動について、いわき市と連携した研究を行っている。屋内避難についても避難誘導サインによる地震・火災時の複合用途施設における避難行動研究に取り組んでいる。また、2017年のインドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究を継続している。2019年1月からは南三陸町での東日本大震災時の初動対応検証、2019年10月からは令和元年台風19号による初動対応検証研究をはじめた。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		効果的な津波避難訓練の実施とフィードバック手法に関する研究	国内
2	2016	1	2018	10	電気自動車(EV)を活用した避難所運営手法の研究	国内
3	2016	6	現在		IoT機器を活用した沿岸部地域向け自律分散型避難行動支援システムに関する共同研究	国内
4	2017	9	現在		2017年インドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究	両方
5	2017	9	現在		東日本大震災以降の震災経験を踏まえたご当地版避難所運営ゲームの開発	国内
6	2017	4	現在		避難誘導サイン整備による屋内避難行動の研究	国内
7	2019	1	現在		南三陸町における東日本大震災時の職員初動対応検証	国内
8	2019	1	現在		いわき市における令和元年台風19号での住民・職員の災害初動対応の検証	国内

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	6	合計	9	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	6
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その1-震災から2ヵ月間の対応における教訓の分析-	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会梗概集	44		63	66	20190524
2	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その2-津波到達までの災害初動対応業務および避難行動の分析-	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会梗概集	44		67	70	20190524
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その3-津波対策本部および仮設庁舎のレイアウトに関する分析-	花田悠磨, 村尾修, 杉安和也, 寅屋敷哲也, 佐藤翔輔	地域安全学会梗概集	44		71	74	20190524
4	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その4-災害初動対応拠点および避難施設の立地分析-	杉安和也, 寅屋敷哲也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		1	2	20190802
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その5-自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察-	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		3	6	20190802
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における在宅避難者への物資支援に関する調査と考察-福島県いわき市を対象として-	佐藤悠司, 小林陽成, ムハンマドサルマンアルファリシイ, 唐万新, 杉安和也, 松本行真	地域安全学会東日本大震災特別論文集	8		19	22	20190802
7	英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Spatial Distribution Extraction of Visible Light IDs for Supporting Robotic Rescue Efforts	Nobuhide Yokota, Hiroshi Yasaka, Kazuya Sugiyasu and Hideyuki Takahashi	2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)-USB			2		20191015
8	英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Method of Decreasing Dead Angle Zone Under the Tsunami Evacuation Patrol Used by UAVs	Kazuya Sugiyasu, Hideyuki Takahashi, Nobuhide Yokota, Kenichi Sugiyama and Kiyomi Onodera	2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)-USB			2		20191018
9	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	津波災害における基礎自治体の代替庁舎での業務継続に関する考察 -東日本大震災の南三陸町職員の初動対応検証調査より-	寅屋敷哲也, 杉安和也, 花田悠磨, 佐藤翔輔, 村尾修	地域安全学会論文集	35		243	252	20191102

学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチャエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	2019年日本建築学会大会(北陸)	竹脇 出 永野 紳一郎	単名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学	野々市	日本	20190903	20190906	20190904	2017年インドネシアアグン山噴火における避難所での住環境	杉安和也
2	国内	令和元年度東北地域災害科学研究集会	風間 基樹	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191226	福島県いわき市における令和元年台風19号での被害と復旧対応	杉安和也, 橋一光, 丹野淳, 松本行真
3	国内	令和元年度東北地域災害科学研究集会	風間 基樹	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	ドローンによる残存者探索を組み込んだ津波避難訓練の取り組み -2019年福島県いわき市薄磯区の事例-	杉安和也, 高橋秀幸, 横田信英, 橋一光, 松本行真

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

No.	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	一般社団法人地域安全学会	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬	20190802	20190803	南相馬市民情報交流センター	南相馬市	日本	40(0)	工学	運営委員	IRIDeS共催	南相馬市	国内
2	国内	研究会	安全・安心若手研究会	安全・安心若手研究会第6回交流会	20190805	20190805	首都大学東京秋葉原サテライト	東京都	日本	50(0)	工学	世話人			国内

C. 教育活動

教育活動の概要

災害科学・安全学国際共同大学院プログラム専任教員として、災害科学・安全学基礎Ⅱの1コマを担当した。また、リーディング大学院、国際共同大学院、卓越大学院の事務局を担当し、東北大学における学位プログラムの運営・推進に尽力している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害科学・安全学基礎Ⅱ	東北大学	国際共同大学院			後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

- (1) 津波避難訓練支援として福島県いわき市の津波避難訓練の企画・運営支援を実施した。  
 (2) 令和元年台風19号の発生に伴い、福島県いわき市における令和元年台風19号災害初動対応検証委員会の副委員長を務めている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	いわき市 薄磯区会	福島県いわき市薄磯区独自避難訓練	20191026	20191026	福島県いわき市 平薄磯区	いわき市	日本	企画運営担当	100	なし	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	日産フリートセミナー (西日本)	基調講演	20190717	20190717	災害初動1週間を生き残るためのBCP	企業	日産自動車 株式会社	ウェスティンホテル 大阪	大阪市	日本	100
2	講演会	FY19地域会連合会下記 決起大会	基調講演	20191105	20191105	災害初動1週間を生き残るためのBCP	企業	日産自動車 株式会社	日産自動車株 式会社グローバ ル本社	横浜市	日本	100
3	展示会	日産試乗会	基調講演	20191119	20191119	災害初動1週間を生き残るためのBCP	企業	日産自動車 株式会社	日産自動車 (株)追浜試験 場 GRANDRIVE	横須賀 市	日本	80
4	展示会	第10回「震災対策技術 展」東北	招待講演	20191111	20191111	令和元年台風19号に関する調査報告会 いわきにおける現地調査	なし	「震災対策 技術展」事 務局 / エグ ジビジョンテ クノロジーズ 株式会社	仙台国際セン ター	仙台市	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	いわき市	令和元年台風19号災害初動対応検証委員会	副委員長	20191224
2	民間・NPO	いわき市薄磯地区復興協議委員会, 薄磯区会		外部有識者(復興・地域防災)	20140401
3	民間・NPO	いわき市四ツ倉区会		外部有識者(復興・地域防災)	20151201
4	民間・NPO	地域防災推進機構		アドバイザー	20191001

## 木戸 元之 教授

## KIDO Motoyuki

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	青山学院大学	理工学部	1991	3	東京大学大学院	理学系研究科	1996	3	博士(理学)	1996	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	2	1996	5	チェコ共和国チャールズ大学 数学物理学部 地球物理学科	研究員
2	1996	5	1996	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
3	1996	9	1996	10	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
4	1996	11	1997	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
5	1997	10	1999	12	東京大学 海洋研究所	日本学術振興会 特別研究員
6	2000	1	2002	3	海洋科学技術センター	科学技術振興事業団 科学技術特別研究員
7	2002	4	2002	12	海洋科学技術センター	日本学術振興会 特別研究員
8	2003	1	2003	3	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
9	2003	4	2003	4	神戸大学 地球惑星科学科	非常勤職員
10	2003	5	2004	3	神戸大学 内海城機能教育研究センター	科学技術研究員
11	2004	4	2006	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
12	2006	4	2006	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
13	2006	6	2007	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
14	2007	4	2010	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
15	2010	4	2010	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
16	2010	6	2011	7	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
17	2011	8	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授
18	2012	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所	准教授
19	2015	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本地震学会	日本測地学会	American Geophysical Union

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本測地学会	評議会	評議員	20190401
2	日本地震学会		代議員	20140000
3	京都大学防災研究所	自然災害研究協議会	1号委員	20170401
4	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会	協議委員	20190401
5	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会 予算委員会	4号委員	20190401
6	海洋研究開発機構	所内利用課題審査委員会	アドバイザー	20160000
7	日本地震学会	若手学術奨励賞選考委員会	選考委員	20191211

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	固体地球惑星物理学	海底測地学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学術資源研究公開委員会	委員	20150401
2	全学	「東北大学サイエンスカフェ」ワーキンググループ	委員	20190521
3	全学	災害科学研究拠点	コアメンバー	20180000

B. 研究活動

研究活動の概要

東北地方太平洋沖地震の地震時震源過程震源過程、および地震後の余効変動を、海底地殻変動観測技術を高度化して正確に計測することにより、海溝型巨大地震の全体像を捉え、今後の周辺領域への波及の可能性、南海トラフでの巨大地震発生予測に役立てる。また、ニュージーランド・トルコ・メキシコ等で国際的な調査観測を実施し、各地域での地震逼迫度を評価する。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携	
	開始年	月	終了年			
1	1991	4	1996	3	マントルダイナミクスに関する研究	国外
2	1996	2	2003	3	マントル粘性構造に関する研究	国外
3	2003	4	2004	3	海底電磁気探査に関する研究	国内
4	2004	4	現在		海底地殻変動観測に関する研究	国内
5	2013	4	現在		ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯に関する測地学的研究	国外
6	2013	4	現在		トルコ・マルマラ海における海底断層活動のモニタリング	国外
7	2017	4	現在		メキシコ・グレロ地震ギャップでの測地観測による地震逼迫度調査	国外

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Effects of disturbance of seawater excited by internal wave on GNSS-acoustic positioning	Matsui, R., <u>M. Kido</u> , Y. Niwa, C. Honsho	Marine Geophysical Research	40	4	541	555	20190920
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Offshore Postseismic Deformation of the 2011 Tohoku Earthquake Revisited: Application of an Improved GPS-Acoustic Positioning Method Considering Horizontal Gradient of Sound Speed Structure	Honsho, C., <u>M. Kido</u> , F. Tomita, N. Uchida	Journal of Geophysical Research	124	6	5990	6009	20190713
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Development of a kinematic GNSS-Acoustic positioning method based on a state-space model	Tomita, F., <u>M. Kido</u> , C. Honsho, R. Matsui	Earth, Planets and Space	71		102		20190923
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Assessment of directional accuracy of GNSS-Acoustic measurement using a slackly moored buoy	Imano, M., <u>M. Kido</u> , C. Honsho, Y. Ohta, N. Takahashi, T. Fukuda, H. Ochi, and <u>R. Hino</u>	Progress in Earth and Planetary Science	6		56		20190812

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	11	合計	14
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	AGU Fall Meeting	H. J. Tobin, G. E. Hilley, E. E. Brodsky	その他の連名		ポスター(一般)	Moscone Center	San Francisco	USA	20191209	20191213	20191213	GNSS-Acoustic Observation Using the Wave Glider to Detect the Seafloor Crustal Deformation Associated with the Temporal Change in the Interplate Locking State	<u>Iinuma, T.</u> , M. Kido, Y. Ohta, T. Fukuda, F. Tomita, R. Hino, I. Ueki
2	国際	AGU Fall Meeting	Chair: S. L. Bilek, and J. Aucan	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Moscone Center	San Francisco	USA	20191209	20191213	20191209	Continuous observation of ocean bottom pressure and sea surface height	<u>Takahashi, N.</u> , K. Imai, M. Kido, Y. Ohta, T. Fukuda, Y. Ishihara, H. Ochi, and R. Hino
3	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	今野美冴, 野徹雄	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	精密な鉛直変位の測位に向けた拡張カルマンフィルタによるキネマティックGNSS音響測位手法の開発	<u>富田史章</u> , 木戸元之, 本荘千枝, 松井凌
4	国内	日本地球惑星科学連合2019大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190527	Accuracy and precision assessment of the real-time kinematic GNSS time series for moored buoy using three-axis programmable moving table	<u>太田雄策</u> , 今野美冴, 木戸元之
5	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	本荘千枝, 石川直史	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	Assessing strike-slip motion at the Shionomisaki Canyon along the Nankai oblique subduction zone using acoustic ranging system	<u>木戸元之</u> , 荒木英一郎, 辻健, 山本龍典, 川田佳史
6	国内	日本地球惑星科学連合2019大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	内部重力波の影響を考慮したGPS-A観測について	<u>木戸元之</u> , 松井凌, 丹羽淑博, 本荘千枝
7	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	本荘千枝, 石川直史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	Offshore Postseismic Deformation of the 2011 Tohoku Earthquake Revisited: Application of an Improved GPS-Acoustic Positioning Method Considering Sloping Sound Speed Structure	<u>本荘千枝</u> , 木戸元之, 富田史章, 内田直希

8	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	有吉 慶介, 木戸 元之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	津波・地殻変動観測システムを用いた海底圧力連続観測	高橋成実, 今井健太郎, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 石原靖久, 越智寛, 鈴木健介, 日野亮太
9	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	今野美苳, 野徹雄	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	DOPを指標とした係留ブイGNSS-A測位精度評価の実データに基づく定量化	今野美苳, 木戸元之, 本荘千枝, 太田雄策, 日野亮太
10	国内	日本地震学会2019秋季大会	縣亮一郎, 木戸元之, 田中優作	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20190916	20190918	20190916	南海トラフの斜め沈み込みによる横ずれ運動の可能性-潮岬海底谷での海底間音響測距観測-	木戸元之, 荒木英一郎, 辻健, 山本龍典, 川田佳史
11	国内	日本地震学会2019秋季大会	福島洋, 渡邊俊一, 熊澤貴雄	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20190916	20190918	20190916	千島海溝南西部根室沖における海底測地観測網の構築	太田雄策, 木戸元之, 東龍介, 佐藤真樹子, 鈴木秀市, 山本龍典, 高橋秀暢, 木村友季保, 大塚英人, 本荘千枝, 日野亮太, 大園真子, 岡田和見, 青田裕樹, 高橋浩晃, 篠原雅尚, 富田史章, 金松敏也, ション・カンシー, 飯沼卓史
12	国内	日本地震学会2019秋季大会	福島洋, 渡邊俊一, 熊澤貴雄	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20190916	20190918	20190916	ウェーブライダーを用いたGNSS-音響測距結合方式の海底地殻変動観測(序報)	飯沼卓史, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 富田史章, 植木巖
13	国内	日本地震学会2019秋季大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20190916	20190918	20190916	リアルタイム津波・地殻変動観測システムの開発と海底圧力連続観測	高橋成実, 今井健太郎, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 石原靖久, 越智寛, 日野亮太
14	国内	日本測地学会第132回講演会	太田雄策, 渡邊俊一	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	富山国際会議場	富山	日本	20191029	20191031	20191030	ウェーブライダーを用いたGNSS音響結合方式による海底地殻変動の検出	富田史章, 木戸元之, 太田雄策

C. 教育活動

教育活動の概要

博士課程3年の学生のトルコおよび日本海溝の地殻変動データ解析、および科学的解釈についての指導をし、学位を取得させた。この成果は学術雑誌に掲載済みである。修士課程1年の学生の、千島海溝での海底地殻変動観測について指導し、調査航海等にも引率した。全学教育で、地球惑星物理学の講義を担当した他、理学研究科の大学院生のセミナー担当をした。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	地球惑星物理学	東北大学	全学		2	3セメ	5
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	測量学	広島大学	理学部	地球惑星システム学科	3,4		15

D. 社会活動

社会活動の概要

高校で地球物理学に関する授業を実施した。政府が発表した宮城県沖地震の長期評価についてのメディア対応を行った。南海トラフ地震臨時情報に関する学会員向け、一般向けの講演を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	逗子開成中学校・高等学校「土曜講座」	招待講演	20191221	20191221	地球科学講座「重力と地球」	小中高	逗子開成中学校・高等学校	逗子開成中学校・高等学校	逗子市	日本	20
2	小中高との連携	逗子開成中学校・高等学校「土曜講座」	招待講演	20200111	20200111	地球科学講座「地球を測る」	小中高	逗子開成中学校・高等学校	逗子開成中学校・高等学校	逗子市	日本	15
3	セミナー	南海トラフ地震臨時情報に関する学際プロジェクト中間報告会	招待講演	20200219	20200219	起こりうる地震発生シナリオと津波リスクの整理	行政	東北大学災害科学国際研究所	公立学校共済組合高知宿泊所 高知会館	高知市	日本	30
4	講演会	日本地震学会特別シンポジウム「南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用」	招待講演	20190915	20190915	臨時情報への組織対応に貢献しうる地震学からのアウトプットについて	なし	日本地震学会	京都大学	京都市	日本	200

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 10 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	海洋研究開発機構	福田達也・他	20190417	共同研究	海洋研究開発機構 本部	横須賀市	その他	6
2	海洋研究開発機構	福田達也・他	20190531	共同研究	海洋研究開発機構 本部	横須賀市	その他	6
3	海洋研究開発機構	福田達也・他	20190604	共同研究	海洋研究開発機構 本部	横須賀市	その他	6
4	海洋研究開発機構	福田達也・他	20190702	共同研究	函館港	函館市	その他	6
5	海洋研究開発機構	福田達也・他	20191129	共同研究	海洋研究開発機構 本部	横須賀市	その他	6
6	海洋研究開発機構	福田達也・他	20191220	共同研究	海洋研究開発機構 本部	横須賀市	その他	6
7	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	今井健太郎／高橋成実・他	20190531	共同研究	海洋研究開発機構	横浜市	その他	8
8	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	今井健太郎／高橋成実・他	20190726	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	8
9	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	今井健太郎／高橋成実・他	20190830	共同研究	海洋研究開発機構 東京事務所	東京	その他	8
10	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	今井健太郎／高橋成実・他	20191009	共同研究	東北大学 災害科学国際研究所	仙台市	その他	8

## 福島 洋 准教授

FUKUSHIMA Yo

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2000	3	理学博士	2000	3
2					パスカル大学(フランス)	基礎科学研究科	2005	12	Ph. D. in Volcanology	2005	12

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	11	2002	8	包括的核実験禁止条約機構準備委員会 国際データセンター	波形アナリスト
2	2006	4	2014	1	京都大学防災研究所 地震予知研究センター	助手→助教
3	2008	11	2010	10	スタンフォード大学	客員研究員 (JSPS 海外特別研究員)
4	2014	2	2016	8	東北大学 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター	特任講師
5	2016	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

所属学会

学会名	1	2	3	4
	日本地震学会	日本測地学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本測地学会	庶務委員会	庶務委員長	20190601
2	日本地球惑星科学連合		代議員	20180401
3	日本地震学会		代議員	20180401

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
地殻変動	モデリング	地震発生メカニズム	火山噴火メカニズム	逆解析

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員会	運営委員	20191000
2	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	事務局長	20191000

## B. 研究活動

研究活動の概要

合成開口レーダ画像を用いた解析(InSAR)を行い、地殻の変形を検出し地震ハザード評価につながる研究を推進した。一例として、レイテ島におけるフィリピン断層の研究を進め、非地震性すべり域には含まれた固着域で2017年にMw6.5の地震が発生したことを明らかにし、さらに、この断層上の領域は70年程度の間隔で繰り返し地震を起こしてきたという仮説を提示した。フランスのグループと、InSARを用いたmmレベルの変動検出手法開発にも着手した。南海トラフ地震臨時情報の社会対応については、研究代表者として研究を進め、2020年2月には高知県において中間報告会を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		衛星合成開口レーダー(SAR)を用いた地殻変動検出手法の研究	国内
2	2006	4	現在		地殻変動データを用いた地震の発生メカニズムの研究	国内
3	2016	9	現在		地殻変動データを用いた地震の発生ポテンシャル評価手法の研究	国内
4	2016	12	現在		地震の予測情報を活用した防災・減災の研究	国内



論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Surface creep rate distribution along the Philippine fault, Leyte Island, and possible repeating of Mw~6.5 earthquakes on an isolated locked patch	Fukushima, Y., M. Hashimoto, M. Miyazawa, N. Uchida, and T. Taira	Earth Planets and Space	71				20191109

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	南海トラフ地震臨時情報:起こる「かもしれない」巨大地震への対応	その他	無	はい	なみふる	119		4	5	20191000	福島洋	単著	なし

学会発表

単名	2	筆頭連名	8	その他の連名	0	合計	10
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	単名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190530	南海トラフ巨大地震に関する見通しの可視化の意義と方法	福島洋
2	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190527	2016年熊本地震の副次的断層すべりによるInSAR地表変位とすべり分布	福島洋, 石村 大輔
3	国内	第39回地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2019	Akira Hirose	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	バシフィコ横浜	横浜	日本	20190727	20190801	20190731	COMPLEMENTARY OCCURRENCE OF FAULT CREEP AND AN MW 6.5 EARTHQUAKE ALONG THE PHILIPPINE FAULT ON LEYTE ISLAND REVEALED BY ALOS AND ALOS-2 SAR INTERFEROMETRY	Yo Fukushima, Manabu Hashimoto
4	国際	日本測地学会第132回講演会	楠本成寿	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	富山国際会議場	富山	日本	20191029	20191031	20191031	レイテ島におけるフィリピン断層のクリープ分布と孤立固着域でのMw~6.5の繰り返し地震の可能性	福島洋, 橋本 学, 宮澤理穂, 内田直希, 平 貴昭
5	国内	日本地震学会2019年度秋季大会	(なし・または不明)	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学吉田キャンパス	京都	日本	20190916	20191018	20190916	レイテ島におけるフィリピン断層クリープ速度と孤立固着域におけるMw~6.5の地震の繰り返し発生の可能性	福島洋, 橋本 学, 宮澤理穂, 内田直希, 平 貴昭
6	国内	World Bosai Forum 2019	(なし・または不明)	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Making use of uncertain earthquake forecast information: Challenges toward disaster risk reduction against the anticipated Nankai Trough Earthquake (M8-M9), western Japan	Yo Fukushima, Fumihiko Imamura, Hiroaki Maruya, Makoto Okumura, Motoyuki Kido, Natsuko Chubachi, Ryota Hino, Kanan Hirano, Shunichi Koshimura, Miwa Kuri, Shuji Moriguchi, Yusaku Ohta, Hiroyuki Sasaki, Motoaki Sugiura, Tetsuya Torayashiki
7	国内	American Geophysical Union Fall Meeting 2019	(なし・または不明)	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Moscone Center	サンフランシスコ	米国	20191209	20191213	20191213	Mw 6.5 Repeater Along a Creeping Section of the Philippine Fault?	Yo Fukushima, Manabu Hashimoto, Masatoshi Miyazawa, Naoki Uchida, and Taka'aki Taira
8	国際	Joint PI Meeting of Global Environment Observation Mission FY2019	(なし・または不明)	単名	いいえ	口頭(一般)	TKP Shinbashi Conference Centre	東京	日本	20200120	20200124	20200123	Measuring strain accumulation around active faults using ALOS-2 data	Yo Fukushima
9	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Koji Okumura	筆頭連名	はい	口頭(招待)	Hokudan Earthquake Memorial Park	淡路	日本	20200113	20200117	20200115	Extremely early recurrence of intraplate fault rupture following the 2011 Tohoku-oki earthquake	Yo Fukushima, Shinji Toda, Satoshi Miura, D. Ishimura, J. Fukuda, T. Demachi, and K. Tachibana
10	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Koji Okumura	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Hokudan Earthquake Memorial Park	淡路	日本	20200113	20200117	20200115	Surface creep rate distribution along the Philippine fault, Leyte Island, and possible repeating of Mw~6.5 earthquakes on an isolated locked patch	Yo Fukushima, Manabu Hashimoto, Masatoshi Miyazawa, Naoki Uchida, and Taka'aki Taira

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の大学院理学研究科地球物理学専攻と地球科学専攻(6月から新たに兼務)において、教務運営業務や講義(英語)を担当。全学教育科目の講義を2回分担当。その他、週一回のセミナー等における研究指導、修士論文審査における論文審査委員等を担当。JICA防災留学プログラムにより派遣されたイラン人留学生(DC)、IGPASプログラムで留学のインドネシア人留学生(MC)を含む3名の学生の指導を担当。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	固体地球物理学特論II	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		前期	3
2	地球物理学セミナー	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		通年	
3	自然界の構造	東北大学	全学		1	後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

南海トラフ地震臨時情報(臨時情報)が発せられた際の対応に関する研究に関連する内容を中心に、多くの社会貢献活動を行った。主要な具体的内容は以下の通りである。文部科学省でのサイエンスカフェの講師を担当し、多様な参加者に対して臨時情報の問題について考える場を設けた。地震学会シンポジウムで、臨時情報を対象としたシンポジウムの企画と当日の司会を担当した。臨時情報について展開している研究について、新聞の意見記事等で広報を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	日本地震学会	シンポジウム「南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用」	20190915	20190915	京都大学理学研究科	京都市	日本	コーディネーター・司会	107	なし	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	文部科学省情報ひろばサイエンスカフェ	講師	20190624	20190624	「地震×社会」「巨大地震の発生可能性が普段より高まった」と言われたら、どうしますか?	行政	文部科学省	文部科学省情報ひろばラウンジ	東京都	日本	35

# 川田 佳史 助教

## KAWADA Yoshifumi

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	広島大学	理学部	1998	3	名古屋大学	大学院理学研究科	2004	3	博士(理学)	2004	3

#### 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			
1	2004	4	2005	3	東京大学 大学院理学系研究科	科学技術振興特任研究員
2	2005	4	2008	3	名古屋大学 大学院環境学研究科	COE研究員
3	2008	4	2008	7	名古屋大学 大学院環境学研究科	博士研究員
4	2008	7	2011	3	海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域	ポスドク研究員
5	2011	4	2014	11	東京大学 地震研究所	特任研究員
6	2014	12	2015	8	海洋研究開発機構 次世代海洋資源調査技術研究開発プロジェクトチーム	特任研究員
7	2015	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4
日本地震学会		東京地学協会	日本地球惑星科学連合	American Geophysical Union

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
沈み込み帯	海底熱水鉱床	海底地殻変動	地殻熱流量

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) 日本海溝に沈み込む古いプレート上にある新しい海底火山「ブチスポット」の周囲において、海底下の温度勾配の測定を行うとともに、回収した堆積物コアの熱伝導率の測定を行った。山体を通じた水循環の存在が明らかになった。(2) 海底熱水鉱床の直上で生じる自然電位の発生メカニズムを探るためのアナログ水槽実験を行った。「鉱体」を模した鉄棒を砂の中に埋め、全体を塩水で浸した系を用意し、暫く放置する。測定の結果、「鉱体」の周囲で主に負の電位異常が生じることが確認された。(3) マントル対流のような遅い流れを効率よく解くための数値計算方法の開発・検証を行っている。

#### 研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	2008	7	現在	沈み込み帯における地殻熱流量観測および数値シミュレーション	国内
2	2014	12	現在	海底熱水鉱床の探査手法の開発	国内
3	2015	9	現在	海底地殻変動の観測および数値シミュレーション	国内
4	2018	4	現在	海底火山のモニタリングに関する観測研究	国内
5	2019	4	現在	流体数値計算方法の開発	国内

#### 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	-------	-------

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Marine DC resistivity and self-potential survey in the hydrothermal deposit areas using multiple AUVs and ASV	Takafumi Kasaya, Hisanori Iwamoto, Yoshifumi Kawada, Tadahiro Hyakudome	Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences					

学会発表

単名	筆頭連名	1	その他の連名	6	合計	7
----	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190526	Assessing strike-slip motion at the Shionomisaki Canyon along the Nankai oblique subduction zone using acoustic ranging system	木戸 元之, 荒木 英一郎, 辻 健, 山本 龍典, 川田 佳史
2	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190527	伊豆半島東部伊東沖の海底火山手石海丘の現状	山中 寿朗, 川田 佳史, 野口 拓郎, 八田 万有美, 岡村 慶
3	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190527	New type of self-potential anomaly observed near a hydrothermal site of Oomuro-dashi volcano, Izu-Ogasawara arc	川田 佳史, 笠谷 貴史
4	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190530	北海道沖千島海溝の海側における熱流量測定	佐々木 肯太, 山野 誠, 川田 佳史, 木下 正高, 川村 喜一郎
5	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190530	海域の断層近傍における熱流量異常に基づく流体流動の推定	山野 誠, 後藤 秀作, 川田 佳史, 濱元 栄起
6	国内	日本微生物生態学会第33回大会	風間ふたば	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	山梨大学	甲府	日本	20190910	20190913	20190911	深海熱水系に形成される電場と電気微生物生態系の関係性	山本 正浩, 川田 佳史, 鹿島 裕之, 設楽 真莉子, 下新井田 康介, 谷崎 明子, 笠谷 貴史, 野崎 達生, 高井 研
7	国内	第56回好塩微生物研究会	森下日出旗	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	海洋研究開発機構	横須賀	日本	20191213	20191213	20191213	天然の発電所である深海熱水噴出域によって形成される電場が微生物叢に与える影響についての調査	下新井田 康介, 山本 正浩, 川田 佳史, 笠谷 貴史, 谷崎 明子, 鹿島 裕之, 高木 善弘, 野崎 達生, 高井 研

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先の理学部付属地質・火山噴火予知研究センターにおけるセミナー等の教育活動に参加した。また、研究活動の一環として参加した観測航海などにも参加し、他大学の大学院生にデータ解析、数値計算、温度観測方法などについての指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

海洋研究開発機構、東京大学、東京海洋大学などの研究者と共同研究を行った。とくに、海洋研究開発機構においては招聘研究員として研究活動に従事した。

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

No.	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	海洋研究開発機構	笠谷貴史 主任技術研究員		共同研究	海洋研究開発機構	横須賀	その他	3
2	東京大学 地震研究所	山野誠 教授		共同研究	東京大学地震研究所	東京	その他	4

# 岡田 真介 助教

## OKADA Shinsuke

災害理学研究部門 長期地殻変形・地質構造研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	金沢大学	理学部	2003	3	東京大学大学院	理学系研究科	2009	3	博士(理学)	2009	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2012	2	独立行政法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門	特別研究員
2	2012	3	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	助教
3	2012	4	2020	2	東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本地震学会	日本活断層学会	日本地質学会	日本地質学会	日本地理学会	東北地理学会	American Geophysical Union	日本写真測量学会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本活断層学会	総務員	委員	20120000
2	国土地理院	全国活断層帯情報整備検討委員	委員	20130000

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	変動地形学	地球物理学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

青森湾西岸断層帯において岩石密度測定の追加調査を行った。得られた密度値を使って重力解析を行い、地下構造の検証を行った。仙台平野南部の伏在活断層においては、CSAMT (Controlled Source Audio-frequency Magneto-Telluric) 探査を行い、断層運動により変形を受けた地下構造を明らかにした。既存反射法地震探査による地下構造とも共整合的であることを確認した。また、鮮新世以降に約300m程度の水平短縮が伏在活断層により生じていることを明らかにした。1804年象潟地震による隆起量を定量化するために、離水地形をGNSS測量により明らかにし、震源断層の推定を行った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		東北日本前弧域仙台湾周辺における中新世以降の地殻伸張および短縮量の推定	なし
2	2017	4	現在		1804年象潟地震に伴った地殻変動とその震源断層	国内
3	2016	4	現在		青森湾西岸断層帯の地下構造調査	国内
4	2015	4	現在		2014年長野県北部の地震に伴って発生した地表地震断層周辺の地下構造	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Paleoearthquake History Along the Southern Segment of the Daliangshan Fault Zone in the Southeastern Tibetan Plateau	Haoyue Sun, Honglin He, Yasutaka Ikeda, Zhanyu Wei, Changyun Chen, Yueren Xu, Feng Shi, Lisi Bi, Yoshiki Shirahama, Shinsuke Okada, Tomoo Echigo	Tectonics	38		2208	2231	20160610

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	1:25,000活断層図「立山」	その他	20190725	金田平太郎, 岡田篤正, 岡田真介, 小山拓志, 宮内崇裕	共著	国土地理院	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	仙台市街地を横切る長町一利府線断層帯の性質と長期評価	その他	無	はい	仙台市医師会報	660	3	10	20190620	岡田真介	単著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	7	合計	10
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	New Development in Active Fault Studies -25 years since the 1995 Kobe earthquake-, Hokudan International Symposium on Active Faulting 2020		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	北淡震災記念公園セミナーハウス	淡路市	日本	20200114	20201417	20200106	Gravity survey and subsurface structure across the Amoriwan-Seigan Fault Zone, Northeast Japan	Shinsuke Okada, Hideki Kosaka, Kyoko Kagohara, Toshifumi Imaizumi, Kohei Abe, Susumu Sakashita, Kota Koshika, Yusuke Oda, Takahiro Miyauchi, Tomoo Echigo
国内	日本地震学会2019年度秋季大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学吉田キャンパス	京都市	日本	20190916	20190918	20190918	活断層詳細デジタルマップ[新編]から見てきた活断層研究の現状と課題	阿部恒平, 立石 良, 下山奈緒, 三輪敦志, 越後智雄, 岡田真介, 今泉俊文
国内	日本地震学会2019年度秋季大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学吉田キャンパス	京都市	日本	20190916	20190918	20190918	高分解能浅層反射法地震探査から見た神城断層先端部の構造と2014年長野県北部の地震の地表地震断層の関係	池口直毅, 松多信尚, 榑原京子, 岡田真介, 廣内大助, 戸田 茂, 石山達也, 小池太郎, 野田克也, 佐藤比呂志
国内	日本地震学会2019年度秋季大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学吉田キャンパス	京都市	日本	20190916	20190918	20190917	GISを用いた沈み込み海洋プレート形状解析手法の検討	塚本勇樹, 岡田真介, 住田達哉, 川畑大作
国内	日本地震学会2019年度秋季大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学吉田キャンパス	京都市	日本	20190916	20190918	20190916	山形盆地北部における変動地形と構造発達史	榑原京子, 岡田真介, 小坂英輝, 三輪敦志, 阿部恒平, 越後智雄, 今泉俊文
国際	The 27th International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) General Assembly 2019		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Palais des Congrès de Montréal	Montréal, Québec	Canada	20190708	20190718	20190713	Reveal for the source mechanism of the 1804 Kiskatawa earthquake on Akita, Japan	Kentaro Imai, Shinsuke Okada, Yuichi Ebina, Narumi Takahashi, Yoshinobu Tsuji
国内	日本地球惑星科学連合2019年大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ国際会議場	千葉市	日本	20190526	20190530	20190527	津波堆積物に基づく津波規模評価の試み:南海トラフ地震の例	菅原大助, 今井健太郎, 岡田真介, 前田拓人
国内	日本地球惑星科学連合2019年大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ国際会議場	千葉市	日本	20190526	20190530	20190527	糸魚川-静岡構造線活断層系神城断層における高解像度極浅層S波反射法地震探査	池口直毅, 松多信尚, 榑原京子, 岡田真介, 廣内大助, 石山達也, 野田克也, 佐藤比呂志
国内	日本地球惑星科学連合2019年大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ国際会議場	千葉市	日本	20190526	20190530	20190527	青森湾西岸断層帯を横断する重力探査とその地下構造(その2:岩石密度測定値を使った地下構造の推定)	岡田真介, 小坂英輝, 榑原京子, 今泉俊文, 阿部恒平, 坂下 晋, 三輪敦志, 小鹿浩太, 小田佑介, 塚本勇樹, 宮内崇裕, 越後智雄
国際	European Geosciences Union (EGU) General Assembly 2019		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Austria Center Vienna (ACV)	Vienna	Austria	20190407	20190412	20190412	Quantifying the crustal deformation across the active fault in the southern part of the Sendai Plain	Shinsuke Okada, Toshifumi Imaizumi, Kyoko Kagohara, Tomoo Echigo

C. 教育活動

教育活動の概要

理学研究科地学専攻地理学教室の兼務教員として、セミナー等に参加し、学部生および大学院生に対する教育活動を行った。また、同教室の授業を分担した。さらに、修士2年の大学院生に対しては、プレート形状の解析手法に関する研究指導および修士論文作成の指導を行った。学部生に対しては、論文購読および研究指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
1	地図学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	2	4セメ	2
2	地形学演習 I	東北大学	理学部	地圏環境科学科	4	5セメ	
3	地形学演習 II	東北大学	理学部	地圏環境科学科	4	6セメ	
4	地球環境史・現代地球科学	東北大学	理学部	地圏環境科学科・地球惑星物質科学科	2	3セメ	1
5	地球の科学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	1	1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台市市民センター各所では、長町-利府線断層帯の活断層やそれに伴う地震についての解説を行い、防災・減災の啓発活動を行った。秋田大学およびにかほ市総合福祉交流センターでは、2017年度から実施してきた秋田県にかほ市象潟町での1804年の象潟地震の調査結果について最新成果を報告した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	令和元年度(公財)仙台ひと・まち交流財団岩切市民センター主催講座	講演	20191207	20191207	長町-利府線断層帯の現状と影響	行政	(公財)仙台ひと・まち交流財団 岩切市民センター	岩切市民センター	仙台市	日本	45
2	公開講座	文化元年(1804)象潟地震215周年シンポジウム	講演	20191130	20191130	象潟湖に刻まれた地殻変動	なし	国立研究開発法人海洋研究開発機構	にかほ市総合福祉交流センター	にかほ市	日本	40
3	公開講座	文化元年(1804)象潟地震215周年シンポジウム	講演	20191129	20191129	象潟湖に刻まれた地殻変動	なし	国立研究開発法人海洋研究開発機構	秋田大学手形キャンパス	秋田市	日本	75
4	公開講座	令和元年度(公財)仙台ひと・まち交流財団田子市民センター主催講座	講演	20191001	20191001	長町-利府線断層帯の現状と影響	行政	(公財)仙台ひと・まち交流財団 田子市民センター	田子市民センター	仙台市	日本	50
5	公開講座	令和元年度(公財)仙台ひと・まち交流財団桂市民センター主催講座	講演	20190831	20190831	長町-利府線断層帯の現状と影響	行政	(公財)仙台ひと・まち交流財団 桂市民センター	桂市民センター	仙台市	日本	23
6	公開講座	令和元年度(公財)仙台ひと・まち交流財団八本松市民センター主催講座	講演	20190824	20190824	長町-利府線断層帯の現状と影響	行政	(公財)仙台ひと・まち交流財団 八本松市民センター	八本末市民センター	仙台市	日本	30

# 遠田 晋次 教授

## TODA Shinji

災害理学研究部門 活断層研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	理学部	1989	3	東北大学大学院	理学研究科	1991	3	理学博士	1999	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1999	6	(財)電力中央研究所 立地部	研究員
2	1999	7	2001	3	東京大学 地震研究所	助手
3	2001	4	2009	3	(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター	研究員
4	2009	4	2012	9	京都大学 防災研究所	准教授
5	2012	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	日本地震学会	日本活断層学会	日本応用地質学会	日本第四紀学会	日本地質学会	米国地球物理学連合	米国地震学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本応用地質学会	東北支部	支部長	20180601
2	日本地震学会	代議員	代議員	20150000
3	日本活断層学会	調査企画委員会	理事	20180601

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	活断層	地震ハザード	内陸地殻内地震	誘発地震	余震

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	六ヶ所村センター構想検討委員会	委員	20140401

### B. 研究活動

研究活動の概要

熊本地震のこれまでの地表地震断層調査・トレンチ調査を総括し、震源断層との関係や断層の特長、余震活動などについて新たな知見を得た。特に、熊本地震などの最近の内陸地震での顕著な誘発性地表地震断層の研究をとりまとめ、短い活断層の評価に関して新知見を得て、「活断層研究」や「第四紀研究」で公表した。地震の連鎖の研究に関しては、東北地方太平洋沖地震、カリフォルニア州の2019年リッジレスト地震、2019年山形県沖の地震などの解析を通じて、歪速度と余震(誘発地震)継続時間との負の相関を見だし、大地震後の周辺地域の長期的地震ハザード評価に関する新たな提言を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	現在		活断層と内陸地震ハザードの研究	国内
2	1995	1	現在		静的応力変化を考慮した余震・誘発地震の研究	国外
3	2012	10	現在		東北地方太平洋沿岸域の長期地殻変動と巨大地震との関係	国外

論文

単著	1	筆頭共著	3	その他の共著	4	合計	8	うち	国際査読有	3	国際査読無	2	国内査読有	2	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	熊本地震地表地震断層の阿蘇カルデラ内の完新世活動履歴—南阿蘇村黒川地区トレンチ調査—	遠田晋次・島井真之・奥野 充・今野明咲香・小野大輝・高橋直也	活断層研究	51		13	25	20191200



2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The 1596 Keicho earthquake, a 5-day, 300-km-long sequential rupture event in the Median Tectonic Line fault zone, southwestern Japan	Ikeda, M., S. Toda, K. Onishi, N. Nishizaka, and S. Suzuki	Journal of Geophysical Research	124					20190000
3	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	はい	熊本地震など内陸大地震で見いだされた誘発性地表地震断層と短い活断層の評価	遠田晋次・石村大輔	第四紀研究	58	2	121	136		20190401
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Three-dimensional surface displacement and surface ruptures associated with the 2014 Mw6.2 Nagano earthquake using differential LiDAR	Ishimura, D., S. Toda, S. Mukoyama, S. Homma, K. Yamaguchi, and N. Takahashi	Bulletin of Seismological Society of America	109			780	796	20190000
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Coulomb pre-stress and fault bends are ignored yet vital factors for earthquake triggering and hazard	Mildon, Z.K., G.P. Roberts, J.P. Faure Walker, and S. Toda	Nature Communications	10					20190621
6	日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	はい	令和元年山形県沖の地震—なぜ日本海東縁で大地震が発生するのか—	遠田晋次	ベース設計資料, 土木編	184		46	50		20200300
7	英語	筆頭共著	国外	いいえ	その他	無	いいえ	Quake Connectivity: 3 January 2019 M=5.1 Japan shock was promoted by the April 2016 M=7.0 Kumamoto earthquake	Toda S. and Stein R.S	Tembler						20190107
8	英語	共著	国外	いいえ	その他	無	いいえ	Magnitude 7.1 earthquake rips northwest from the M6.4 just 34 hours later	Stein, R. S., T. Hobbs, C. Rollins, G. Ely, V. Sevilgen, and S. Toda	Tembler						20190706

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	6	合計	10
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	勝保啓	単名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉市	日本	20190526	20190530	20190528	地震とは無縁の島, 天草上島・下島—非地震域の意味を考える	遠田晋次
2	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	小荒井衛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉市	日本	20190526	20190530	20190529	活断層の地震時変位量は地震サイクル毎にどう変化するのか—糸魚川-静岡構造線活断層帯神城断層における例	高橋直也, 遠田晋次
3	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	小荒井衛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉市	日本	20190526	20190530	20190529	小型UAVを用いたレーザ測量による森林下の微地形取得—2008年岩手宮城内陸地震時の地震断層を例に—	今野明咲香, 鈴木太郎, 遠田晋次
4	国内	日本活断層学会2019年秋季学術大会	青柳恭平	単名	いいえ	口頭(一般)	東京大学地震研究所	東京都	日本	20191005	20191006	20191006	地震の誘発現象からみた活断層の破壊パターン	遠田晋次
5	国際	American Geophysical Union 2019 fall meeting	Sarah Minson	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Moscone Center	San Francisco	USA	20191209	20191213	20191211	Realtime Seismic Hazard Forecast Incorporating Realistic Coulomb Stress Transfer: 2019 Ridgecrest, California, and 2011 Tohoku-Oki Earthquake Tests	Toda, S., R.S. Stein, and V. Sevilgen
6	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Takashi Nakata	その他の連名	はい	口頭(招待)	野島断層保存館 セミナールーム	淡路市	日本	20200114	20200117	20200114	Probing past earthquakes using Coulomb stress transfer modelling - understanding the role of pre-stress and the implications for earthquake clustering.	Mildon, Z.K., Roberts, G.R., Faure Walker, J.P., Toda, S., Beck, J., Papanikolaou, I., Michetti, A.M., Iezzi, F., Campbell, L., McCaffrey, K.J.W., Shanks, R., and Vittori, E.
7	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Takashi Nakata	筆頭連名	はい	口頭(招待)	野島断層保存館 セミナールーム	淡路市	日本	20200114	20200117	20200114	An overview of the 2016 Kumamoto earthquake and recent research updates	Toda, S., Tsutsumi, H., and Kumahara, Y.
8	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Takashi Nakata	その他の連名	はい	口頭(招待)	野島断層保存館 セミナールーム	淡路市	日本	20200114	20200117	20200115	Paleoseismic trenching on the subsidiary surface ruptures associated with the mainshock of the 2016 Kumamoto earthquake sequence	Ishimura, D., Takahashi, N., Tsutsumi, H., Kumahara, Y., Toda, S., and Ichihara, T.
9	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Takashi Nakata	その他の連名	はい	口頭(招待)	野島断層保存館 セミナールーム	淡路市	日本	20200114	20200117	20200115	Extremely early recurrence of intraplate fault rupture following the Tohoku-Oki earthquake	Fukushima, Y., Toda, S., Miura, S., Ishimura, D., Fukuda, J., Demachi, T., Tachibana, K.
10	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Takashi Nakata	その他の連名	はい	口頭(招待)	野島断層保存館 セミナールーム	淡路市	日本	20200114	20200117	20200116	Overview of SSC activities in the Ikata SSHAC project	Kumamoto, T., Okumura, K., Toda, S., Tokuyama, E., Tsukuda, E., and Tsutsumi, H.

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運 営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	Operation Committee of the Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	20200113	20200117	野島断層保存館	淡路市	日本	100	環境 & 地球 科学	運営委員会メン バー、プログラ ム編集委員長	IRIDeS共催	淡路市, 日本 活断層学会, 産業技術総合 研究所	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地球物理学専攻・地学において、14名の学生指導(うち8名は後藤和久研究室の引き継ぎ)を行い、特に地震ハザード、変動地形に関する研究・論文指導を実施した。また、同専攻での「固体地球物理学特殊講義II」講義や各種セミナーにおいて大学院生への指導を行った。また、短期留学生向けの講義「Geophysics」、全学教育「災害の科学」などを担当し、川内キャンパスでの講義も実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	固体地球物理学特殊講義II	東北大学		理学研究科地球物理学専攻		前期	5
2	Geophysics	東北大学	短期留学生			前期	5
3	災害の科学	東北大学	全学		1	後期	1
4	地震の長期評価	建築研究所		国際地震工学センター(留学生)			4
5	島弧系の進化と環境	東北大学	短期留学生			前期	1
6	活断層と内陸地震の科学	復興大学(東北工業大学)				後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

災害や防災関連への社会貢献として、原子力規制庁検討チーム委員、石川県原子力安全専門委員会委員、総合資源エネルギー調査会臨時委員、我が国周辺水域二酸化炭素貯留適地検討委員会など国・地方自治体、民間団体の委員会にて専門的立場から意見を述べた。さらに、各種マスコミへの取材協力等を通じて地震現象や地震防災に関する啓蒙活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	ダム工事総括管理 技術者会総会	特別講演	20190419	20190419	活断層による地震ハザード評価の現状と 課題	なし	ダム工事 総括管理 技術者会	グランドアーク 半蔵門	東京都	日本	200
2	公開講座	復興大学講義	講義	20190706	20190706	活断層と内陸地震の科学	なし	復興大学 (東北工 業大学)	東北工業大学 一番町ロビー	仙台市	日本	50
3	その他	河北新報次世代塾	講義	20190824	20190824	地震のメカニズムと防災	企業	河北 新報社	東北福祉大学	仙台市	日本	100
4	講演会	仙台三桜高校防災 講演会	講義	20191105	20191105	足下に活断層 直下型地震の仕組みと備 え	なし	仙台三桜 高校	仙台三桜高校	仙台市	日本	100
5	セミナー	震災対策技術展	講義	20191111	20191111	2019年6月18日山形県沖の地震について	なし	震災対策 技術展	仙台国際セン ター	仙台市	日本	80
6	講演会	熊本県県南防災講 演会	特別講演	20200110	20200110	平成28年熊本地震が周辺活断層に与え た影響	行政	熊本県県 南広域 本部	やつしろハーモ ニーホール	八代市	日本	200
7	講演会	仙技連セミナー	特別講演	20200202	20200202	大地震発生のメカニズム	行政	仙台市 市民局 生活安全 安心部	仙台サンプラザ	仙台市	日本	100

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	自治体	石川県	石川県原子力安全専門委員会	委員	201900
2	国	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	臨時委員	201900
3	国	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 平成30年度二酸化炭素貯留 適地調査事業に係わる有識者委員会	委員	201900
4	国	原子力規制庁	震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム	委員	201900

# 石澤 堯史 助教

## ISHIZAWA Takashi

災害理学研究部門 活断層研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	信州大学	理学部	2014	3	東北大学	理学部	2019	3	博士(理学)	2019	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	2019	9	北海道大学 大学院理学研究院附属 地震火山研究観測センター	非常勤研究員
2	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	日本地球惑星科学連合	日本地質学会	日本活断層学会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	堆積学	年代学

### B. 研究活動

研究活動の概要

熊本県においてトレンチ調査を実施した。トレンチ壁面から断層活動の痕跡を調査し、その活動時期推定のために年代測定用試料を採取した。採取した試料については来年度分析を実施する予定であり、その分析結果から当該地域における断層活動履歴が復元されることが期待される。また年代測定に関する総説論文を執筆し、年代測定の現状と解決すべき課題についてとりまとめた。本論文では特に地震・津波等、突発的なイベントで形成された堆積物の年代推定法に焦点を当てており、地質記録からそれらの災害履歴を復元する際に指針となる。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		地震・津波による環境変化の評価	国内
2	2014	4	現在		津波堆積物の年代推定手法に関する研究	国内
3	2019	10	現在		活断層の活動時期推定手法に関する研究	国内

### 論文

単著	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無		国内査読有		国内査読無	
----	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	--	-------	--	-------	--

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Dating tsunami deposits: Present knowledge and challenges	Takashi Ishizawa, Kazuhisa Goto, Yusuke Yokoyama, James Goff	Earth-Science Reviews	200			102971	20191030
2	英語	共著	国内	はい	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Historical and geological evidence for the seventeenth-century tsunamis along Kuril and Japan trenches: implications for the origin of the AD 1611 Keicho earthquake and tsunami, and for the probable future risk potential	Hiroshi Tetsuka, Kazuhisa Goto, Yuichi Ebina, Daisuke Sugawara, Takashi Ishizawa	Characterization of Modern and Historical Seismic-Tsunami Events, and Their Global-Societal Impacts	501				20200228

### 学会発表

単名	筆頭連名	2	その他の連名		合計	2
----	------	---	--------	--	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	千葉 崇	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20190526	20190530	20190530	Non-destructive analyzes of sediments to discern tsunami-related mud cap and overlying muds to improve age determination of tsunami deposits	石澤 堯史, 後藤 和久, 横山 祐典, 宮入陽介
2	国際	Hokudan 2020 International Symposium on Active Faulting	中田 高	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	野島断層保存館	兵庫	日本	20200113	20200117	20200116	Statistical Age Correlation of Tsunami Deposits to Estimate Frequency of Subduction Zone Earthquakes	Takashi Ishizawa, Kazuhisa Goto, Yusuke Yokoyama, Yosuke Miyairi

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地学専攻において、研究指導、論文指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	堆積学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	2	4セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

地方自治体と共同で活断層の調査を行った。

# 江川 新一 教授

## EGAWA Shinichi

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1987	3					M. D., Ph. D.	1995	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1990	3	竹田総合病院 外科	医師
2	1990	7	1990	8	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
3	1991	1	1991	2	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
4	1991	4	1991	5	高萩協同病院 外科	医員
5	1991	9	1991	10	高萩協同病院 外科	医員
6	1991	11	1992	3	東北大学医学部 第一外科(この間、1992年2月から3月まで高萩協同病院に医員派遣として出張)	医員
7	1992	4	1993	9	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	リサーチレジデント
8	1993	10	1996	3	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	研究員(厚生技官)
9	1996	4	1996	12	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
10	1997	1	1997	1	米山町国保病院 外科	医長
11	1997	2	1998	1	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
12	1998	2	1998	6	丸森町国保病院 外科	医長
13	1998	7	1999	2	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
14	1999	3	2001	4	アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 腫瘍外科学	客員研究員(助手休職)
15	2001	5	2003	9	東北大学医学部附属病院 肝胆膵外科	助手(文部教官)復職
16	2003	10	2004	3	東北大学病院 肝胆膵外科	助手(配置換)
17	2004	4	2005	3	独立行政法人化に伴い東北大学病院・肝胆膵外科	助手(病院)
18	2005	4	2005	9	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
19	2005	10	2006	5	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
20	2006	6	2007	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	助教授
21	2007	4	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	准教授(職制変更)
22	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野	教授
23	2014	4	2017	3	災害医学研究部門長	

### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本災害医学会	Society of Disaster Medicine and Public Health	World Association for Disaster and Emergency Medicine	日本消化器病学会	日本公衆衛生学会	日本膵臓学会	American College of Surgeons	日本消化器外科学会	日本外科学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本膵臓学会	膵癌登録委員会、膵癌取扱規約委員会	評議員	20050401
2	日本消化器病学会		学会評議員	20071001
3	日本消化器外科学会		評議員	20150501
4	日本災害医学会	WADEM 2021 Tokyo 準備委員会、社会医学系専門医委員会	評議員	20160301
5	日本外科学会	邦文誌編集委員会	委員	20160401
6	Disaster Medicine and Public Health Preparedness		Associate Editor	20151201
7	Tohoku Journal of Experimental Medicine		Associate Editor	20150101

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
被災地医療ニーズ	災害保健医療シミュレーション	病院BCP	オールハザードアプローチ	クラスターアプローチ

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学系研究科	大学院合同運営委員会	委員	20150401
2	大学病院	災害対策委員会	委員	20120401
3	大学病院	緊急被災医療対策委員会	専門委員	20150401
4	大学病院	BCP 委員会	副委員長	20170201
5	ヒューマンセキュリティコース	世話人会	医学系研究科世話人	20140401
6	大学病院	高度医療人育成プログラム	運営企画委員	20181001
7	国際共同大学院 安全と安心の科学 (GP-RSS)	運営委員会	委員	20190401
8	卓越大学院 変動する地球 (SyDE)	運営委員会	委員	20191001
9	指定国立大学 災害科学研究拠点	拠点コア委員会	委員	20180401

B. 研究活動

研究活動の概要

防災における保健医療とその他のセクターの協力関係について研究。科研費基盤研究Aにおいて南三陸町、気仙沼、石巻など被災地の医療ニーズをデータベース化する作業を進め、南三陸町の医療ニーズを論文化した。さらに南三陸町の被災者における睡眠障害の横断的解析を論文化した。システムダイナミクス型、エージェント型のシミュレーションを災害医療に応用することを主眼として、エボラウイルス感染症をモデルにした保健医療従事者の教育と訓練の重要性を論文化した。健康と社会のレジリエンス、わが国の災害医療体制の進化をWHOの研究ガイドブックにケーススタディとして論文化した。インドネシアのバンドン工科大学、ジャクアラ大学とのeHealthを用いた共同研究に着手した。病院の受援力、事業継続計画に関する研究成果を投稿中。アジア太平洋災害医学学会、日本災害医学学会でWHOと共同で災害医学研究の共同研究を開始した。WHOの競争的資金を国際共同研究の分担者として獲得した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		被災地における保健医療ニーズの解析	両方
2	2012	4	現在		災害保健医療コーディネーターの全都道府県調査	国内
3	2013	5	現在		仙台防災枠組に対する保健医療クラスターのあり方の研究	両方
4	2014	6	現在		国際共同での災害医学教育の構築	国外
5	2014	4	現在		災害リスクと健康な社会	両方
6	2015	4	現在		インド洋津波、フィリピン台風、ネパール地震など国際支援を要する災害における保健医療対応	国外
7	2015	4	現在		医療ニーズシミュレーション	両方
8	2016	4	現在		エボラウイルス、COVID-19 など新興感染症の流行に対する保健医療従事者の教育効果シミュレーション	両方
9	2018	4	現在		eHealthを用いた地域住民に対する災害医療教育の効率化	国外
10	2018	4	現在		ドローン・ロボットを用いた災害医療の効率化	国内
11	2016	4	現在		健康危機・災害リスクマネジメントの研究手法の確立	両方
12	2014	4	現在		病院BCP、受援力	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	6	合計	6	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Medical Needs in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake.	Tomomi Suda, Aya Murakami, Yayoi Nakamura, Hirovuki Sasaki, Ichiro Tsuji, Yumi Sugawara, Kazuaki Hatsugai, Masafumi Nishizawa and Shinichi Egawa	Tohoku Journal of Experimental Medicine	248		73	86	20190608

2	英語	共著	国内	はい	学術 雑誌	有	いいえ	Cohort Profile: Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study (TMM BirThree Cohort Study): Rationale, Progress and Perspective	Shinichi Kuriyama, Hirohito Metoki, Masahiro Kikuya, Taku Obara, Mami Ishikuro, Chizuru Yamanaka, Masato Nagai, Hiroko Matsubara, Tomoko Kobayashi, Junichi Sugawara, Gen Tamiya, Atsushi Hozawa, Naoki Nakaya, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Takumi Hirata, Ichiro Tsuji, Fuji Nagami, Nobuo Fuse, Tomohiko Arai, Yoshio Kawaguchi, Shinichi Higuchi, Masaki Sakaïda, Yoichi Suzuki, Noriko Osumi, Keiko Nakayama, Kiyoshi Ito, Shinichi Egawa, Koichi Chida, Eiichi Kodama, Hideyasu Kiyomoto, Tadashi Ishii, Akito Tsuboi, Hiroaki Tomita, Yasuyuki Taki, Hiroshi Kawame, Kichiya Suzuki, Naoto Ishii, Soichi Ogishima, Satoshi Mizuno, Takako Takai-Igarashi, Naoko Minegishi, Jun Yasuda, Kazuhiko Igarashi, Ritsuko Shimizu, Masao Nagasaki, Osamu Tanabe, Seizo Koshiba, Hiroaki Hashizume, Hozumi Motohashi, Teiji Tominaga, Sadayoshi Ito, Kozo Tanno, Kiyomi Sakata, Atsushi Shimizu, Jiro Hitomi, Makoto Sasaki, Kengo Kinoshita, Hiroshi Tanaka, Tadao Kobayashi, The Tohoku Medical Megabank Project Study Group, Shigeo Kure, Nobuo Yaegashi and Masayuki Yamamoto	International Journal of Epidemiology					20190815
3	英語	共著	国内	はい	学術 雑誌	有	いいえ	Study profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study.	Atsushi Hozawa, Kozo Tanno, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Akira Narita, Mana Kogure, Kotaro Nochioka, Ryohei Sasaki, Nobuyuki Takanashi, Kotaro Otsuka, Kiyomi Sakata, Shinichi Kuriyama, Masahiro Kikuya, Osamu Tanabe, Junichi Sugawara, Kichiya Suzuki, Yoichi Suzuki, Eiichi N Kodama, Nobuo Fuse, Hideyasu Kiyomoto, Hiroaki Tomita, Akira Uruno, Yohei Hamanaka, Hirohito Metoki, Mami Ishikuro, Taku Obara, Tomoko Kobayashi, Kazuyuki Kitatani, Takako Takai-Igarashi, Soichi Ogishima, Mamoru Satoh, Hideki Ohmomo, Akito Tsuboi, Shinichi Egawa, Tadashi Ishii, Kiyoshi Ito, Sadayoshi Ito, Yasuyuki Taki, Naoko Minegishi, Naoto Ishii, Masao Nagasaki, Kazuhiko Igarashi, Seizo Koshiba, Ritsuko Shimizu, Gen Tamiya, Keiko Nakayama, Hozumi Motohashi, Jun Yasuda, Atsushi Shimizu, Tsuyoshi Hachiya, Yuh Shiwa, Teiji Tominaga, Hiroshi Tanaka, Kotaro Oyama, Ryoichi Tanaka, Hiroshi Kawame, Akimune Fukushima, Yasushi Ishigaki, Tomoharu Tokutomi, Noriko Osumi, Tadao Kobayashi, Fuji Nagami, Hiroaki Hashizume, Tomohiro Arai, Yoshio Kawaguchi, Shinichi Higuchi, Masaki Sakaïda, Ryujin Endo, Satoshi Nishizuka, Ichiro Tsuji, Jiro Hitomi, Motoyuki Nakamura, Kuniaki Ogasawara, Nobuo Yaegashi, Kengo Kinoshita, Shigeo Kure, Akio Sakai, Seiichiro Kobayashi, Kenji Sobue, Makoto Sasaki, Masayuki Yamamoto	Journal of Epidemiology					20200111

4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Prognostic importance of peritoneal washing cytology in patients with otherwise resectable pancreatic ductal adenocarcinoma who underwent pancreatotomy: A nationwide, cancer registry-based study from the Japan Pancreas Society.	Surgery	166	6	997	1003	20191201
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Risk model for severe postoperative complications after total pancreatotomy based on a nationwide clinical database.	British Journal of Surgery					20200131
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	はい	【外科医とがん登録-NCDから見えてきたわが国のがん治療の実態-】膵がん登録(解説/特集)	日本外科学会雑誌	120	6	676	680	2019011

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	3	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化	学術雑誌	有	はい	地域ケアリング	21	5	50	57	20190501	江川新一	単著	なし
日本語	外科医とがん登録-NCDから見えてきたわが国のがん治療の実態-1.特集によせて	学術雑誌	有	はい	日本外科学会雑誌	120	6	631	631	20191101	江川新一	単著	国内
日本語	津波の広域被害把握技術の進化と災害医療支援システムの革新にむけて	学術雑誌	有	はい	BIO Clinica	35	3	81	90	20200201	江川新一、越村俊二	筆頭共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	5	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	WADEM 2019 Brisbane	Vivienne Tippet	筆頭連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	Brisbane Convention and Exhibition Centre	ブリスベン	オーストラリア	20190507	20190510	20190510	Life expectancy negatively correlates with disaster risk index.	<u>Shinichi Egawa</u> , Yayoi Nakamura, Tomomi Suda, Hirovuki Sasaki
国内	第25回日本災害医学会総会・学術集会	中山伸一	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	神戸国際会議場	神戸	日本	20200220	20200222	20200220	東日本大震災後の南三陸町における睡眠障害	中村 やよい、須田 智美、佐々木 宏之、江川 新一
国内	第119回日本外科学会定期学術集会	土岐 祐一郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	大阪国際会議場	大阪	日本	20190418	20190420	20190418	National clinical database(NCD)による膵全摘術の術後合併症リスクモデル	橋本大輔、水間正道、隈丸 拓、宮田裕章、近本亮、五十嵐久人、糸井隆夫、江川新一、児玉裕三、里井壮平、濱田 晋、水元一博、山上裕機、山本雅一、掛地吉弘、瀬戸泰之、馬場秀夫、海野倫明、下瀬川徹、岡崎和一
国内	第119回日本外科学会定期学術集会	土岐 祐一郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	大阪国際会議場	大阪	日本	20190418	20190420	20190418	新興膵癌に対する腹腔動脈合併切除兼尾側膵切除(DP-CAR)の適応と意義	元井 冬彦、伊関 雅裕、三浦 孝之、島 達夫、高部 達之、有明 恭平、川口 桂、益田 邦洋、石田 晶玄、大塚 英郎、水間 正道、林 洋毅、中川 圭、森川 孝則、内藤 剛、石田 孝宜、亀井 尚、江川 新一、海野 倫明
国内	第119回日本外科学会定期学術集会	土岐 祐一郎	その他の連名	いいえ	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	大阪国際会議場	大阪	日本	20190418	20190420	20190420	National Clinical Database(NCD)膵癌登録の第1回調査	水間 正道、海野 倫明、隈丸 拓、宮田 裕章、五十嵐 久人、糸井 隆夫、江川 新一、児玉 裕三、里井 壮平、濱田 晋、水元 一博、掛地 吉弘、瀬戸 泰之、下瀬川 徹、岡崎 和一



6	国際	The 1st Core Group Meeting of WHO Thematic Platform for Health Emergency and Disaster Risk Management (Health-EDRM) Research Network (TPRN)	Sarah Louise Barber	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	淡路国際センター	淡路市	日本	20191017	20191018	20191018	GHAЕ, GEJE and research	Shinichi Egawa
7	国内	2019年台風19号災害に関する東北学術合同調査団 調査結果速報会	田中 仁	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北学院大学	仙台	日本	20191214	20191214	20191214	台風19号 災害医療対応	江川新一
8	国際	World Bosai Forum 2019	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Sleep disturbance among people in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake	Yayoi Nakamura, Tomomi Suda, Aya Murakami, Hiroyuki Sasaki, Ichiro Tsuji, Yumi Sugawara, Masafumi Nishizawa, Kazuaki Hatsugai, Shinichi Egawa

C. 教育活動

教育活動の概要

留学生を含む大学院生の研究、論文の指導を行い、国際学術雑誌に論文が掲載された。定期的に大学院学生とのミーティングを行い、研究のあり方、進め方に関する教育を行った。与えるだけでなく、問題を発見し、解決していくための教育を行っている。公衆衛生学専攻と協力して公衆衛生学修士の医療ニーズ、避難者の健康、とくに睡眠障害に関する研究、論文指導を行った。ヒューマンセキュリティコースで、巨大災害に対する保健医療の備え、グローバルヘルスとヒューマンセキュリティ、高齢化と社会的支援の講義を英語で担当し、国際共同大学院プログラムGP-RSS、卓越大学院SyDEの運営企画を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	巨大災害に対する保健医療の備え	東北大学	医学系研究科・農学研究科・環境科学研究科・国際文化研究科、国際共同大学院GP-RSS	ヒューマンセキュリティコース		後期	15
2	ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス	東北大学	医学系研究科・農学研究科・環境科学研究科・国際文化研究科、国際共同大学院GP-RSS	ヒューマンセキュリティコース		前期	15
3	高齢化と社会的支援	東北大学	医学系研究科・農学研究科・環境科学研究科・国際文化研究科、国際共同大学院GP-RSS	ヒューマンセキュリティコース		後期	15
4	工学と生命の倫理・生命倫理	東北大学	医工学研究科			前期	1
5	災害科学	東北大学	全学		2	2セメ	1
6	Tohoku University Junior Year Program in English: Disasater Medicine	東北大学	全学		1	前期	1
7	APRUサマースクール 災害医療	東北大学	国際共同大学院GP-RSS		1	前期	1
8	新潟大学医学部災害医療教育センター e-learning	新潟大学	医学部	文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム		通年	1

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台防災枠組に健康が大幅に取り入れられたことを受け、社会にその意義を発信した。東北大学病院の災害対策委員、BCP 委員会副委員長、緊急被ばく医療推進センター副センター長として、東北大学病院のレジリエンス向上に貢献した。TOMODACHI イニシアチブ、ジョンソン&ジョンソン社と共同で、米国での災害看護研修活動を支援した。新潟大学において災害医療に関する講義を提供した。COVID-19 災害に対して東北大学病院のBCP・災害対応活動に貢献した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 …… 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	TOMODACHI Initiative-ジョンソン &ジョンソン	TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム2019	20190609	20190620	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	運営・講義	20	IRIDeS共催	セミナー	
2	国内	TOMODACHI Initiative-ジョンソン &ジョンソン	TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム2019	20190706	20190707	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	運営・講義	20	IRIDeS共催	セミナー	
3	国内	東北大学病院BCP委員会	東北大学病院BCP講演会	20200116	20200116	東北大学医学部	仙台市	日本	企画	30	IRIDeS協力	講演会	

## 佐々木 宏之 准教授

SASAKI Hiroyuki

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山形大学	医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2008	3	医学博士	2008	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	5	2003	3	山形県立中央病院 外科	前期・後期研修医
2	2003	4	2004	3	東北大学病院胃腸外科	医局員
3	2004	4	2008	3	東北大学大学院 医学系研究科 生体調節外科学分野	大学院生
4	2007	10	2010	4	独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 外科	副部長
5	2010	5	2011	4	茨城県厚生連 県北医療センター高萩協同病院 外科	科長
6	2011	5	2011	9	東北大学病院 胃腸外科	特任助手
7	2011	10	2012	3	東北大学病院 胃腸外科	助教
8	2012	4	2013	9	同上(兼東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)	助教
9	2013	10	2019	10	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 胃腸外科)	助教
10	2019	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 総合外科)	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本災害医学会	日本外科学会	日本消化器外科学会	日本消化器病学会	日本大腸肛門病学会	日本大腸癌研究会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本臨床外科学会	日本公衆衛生学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本災害医学会	評議員会	評議員	20160227
2	日本災害医学会	災害医学のあり方委員会	委員	20160226
3	日本災害医学会	社会医学系専門医検討委員会	委員	20170518
4	日本災害医学会	日本集団災害医学会セミナー委員会	インストラクター	20160110
5	日本災害医学会	MCLS委員会	世話人	20171101
6	日本災害医学会		日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチームメンバー	20160515
7	日本災害医学会	BHELP委員会	世話人	20200101

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
1	災害医療	受援計画	事業継続計画	消化器外科学

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学病院	BCP 委員会	委員	20161101
2	東北大学病院	災害対策マニュアル改訂 WG	メンバー	20161101
3	東北大学病院	災害対策本部マニュアル改訂 WG	WG長	20170401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

平成31年度文科省基盤研究C「全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にするBCM診断・支援ツールの開発」に関連し、今年度は昨年度からの継続課題として、BCPに関するレビュー論文を作成し The Tohoku Journal of Experimental Medicineに投稿、revise 中。順天堂大学坪内暁子助教の基盤C分担研究「副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策:4W1Hの把握と対策の見える化」での学校防災研究を実施した。平成30年度文科省採択事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラムを東北大学病院とともに主催し、のべ500名(一般参加者含む)に災害保健医療研修を実施した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		日本の医療機関における受援計画に関する調査	国内
2	2016	11	現在		被災時の医療・保健・福祉支援体制の検討: 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり	国内
3	2018	9	現在		災害時のご遺体と遺品の管理による復旧支援	両方
4	2018	9	現在		コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	国内
5	2019	4	現在		全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にする BCM 診断・支援ツールの開発	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Medical Needs in Minamisanriku Town after the Great East Japan Earthquake.	Suda T, Murakami A, Nakamura Y, Sasaki H, Tsuji I, Sugawara Y, Hatsugai K, Nishizawa M, Egawa S.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	248	2	73	86	20190608

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	東北大学病院BCP策定	その他	無	はい	日本BCP白書2019		2	86	87	20191231	佐々木宏之	単著	なし

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	2	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本放射線安全管理学会第18回学術大会 日本保健物理学会第52回研究発表会 第2回合同大会	渡部浩司	単名	はい	口頭(招待)	東北大学	仙台市	日本	20191205	20191207	20191206	災害時の病院機能継続を考える(病院BCP)	佐々木宏之
2	国内	第25回日本災害医学学会総会・学術集会	中山伸一	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	神戸国際会議場	神戸市	兵庫県	20200220	20200222	20200222	東北大学・福島県立医科大学の災害保健医療教育への取り組み:「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラムの構築	石井正、島田二郎、森野一真、藤田基生、阿部喜子、佐々木宏之
3	国内	第25回日本災害医学学会総会・学術集会	中山伸一	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	神戸国際会議場	神戸市	兵庫県	20200220	20200222	20200222	台風19号被害に係る避難所開設および集約に関する看護職介入の有用性	千葉真也、佐々木宏之

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	14件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム オリエンテーション	20190615	20190615	東北大学医学部6号館	仙台市	日本	30	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
2	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害保健医療コーディネーションセミナー	20190629	20190629	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	150	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
3	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害時組織対応セミナー	20190713	20190713	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	30	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
4	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害科学概論	20190911	20190911	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
5	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム CBRNE 対応実習	20191006	20191006	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	30	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
6	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害公衆衛生実習	20191026	20191027	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	40	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
7	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害国際協力セミナー	20191104	20191104	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	両方
8	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 災害国際協力セミナー(WBF参加)	20191110	20191110	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	両方

9	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コングレッサー型災害保健医療人材の養成プログラム 災害ロジスティックサポート実習	20191116	20191117	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	60	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
10	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コングレッサー型災害保健医療人材の養成プログラム 災害派遣セミナー	20191201 20191207	20191207	福島県立医科大学 東北大学災害科学国際研究所	福島市 仙台市	日本	20	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
11	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コングレッサー型災害保健医療人材の養成プログラム 第1回・第2階宮城 BHELP 標準コース	20191214	20191215	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	100	臨床医学	運営・講師	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
12	国内	セミナー	東北大学病院、東北大学災害科学国際研究所	コングレッサー型災害保健医療人材の養成プログラム ロジスティックサポート実習	20200112	20200113	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	70	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同主催	東北大学病院、福島県立医科大学	国内
13	国内	その他	仙台市消防局	第28回全国救急隊員シンポジウム	20200129	20200131	仙台国際センター	仙台市	日本	8200	臨床医学	運営	IRIDeS協力		国内
14	国内	その他	日本災害医学会	第25回日本災害医学会総会・学術集会 一般演題 ポスター24 台風19号 病院対応1	20200220	20200222	神戸国際会議場	神戸市	兵庫県	2500	臨床医学	運営・座長	なし		なし

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムにおいて医療機関の受援計画に関する講義を行った。東北大学大学院医学系研究科に属する研究室大学院生の研究指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 support-receiving plan	東北大学	全学	human security course			1

D. 社会活動

社会活動の概要

2019年10月に発生した台風19号被害に際し、宮城県災害医療コーディネーター、日本DMAT(統括)として宮城県庁内、災害保健医療調整本部、仙南地域活動拠点本部に出務した。2020年1月以降に発生したCOVID-19に対し、東北大学病院BCP委員会メンバー、専門家として病院機能維持について助言、本部業務を実施した。他に研修会、講演などをつうじ、災害医療の発展に貢献した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 15 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学病院	緊急施設・設備点検訓練	20190517	20190517	東北大学病院	仙台市	日本	運営担当	30	IRIDeS協力	その他	
2	国内	みやぎ防災・減災 円卓会議 みやぎ 「災害とメディア」 研究会	被災者と報道者の「こころ」を守る ワークショップ	20190521	20190521	河北新報社 ホール	仙台市	日本	運営担当	50	IRIDeS協力	ワークショップ	
3	国内	東北大学災害科学 国際研究所	第21回「災害と健康」学際研究推 進セミナー	20190529	20190529	東北大学医学部 6号館	仙台市	日本	企画・運営	50	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	
4	国内	日本災害医学会	第17回宮城 MCLS 標準コース	20190601	20190601	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	運営・講師	100	IRIDeS協力	セミナー	
5	国内	日本災害医学会	第1回宮城 MCLSマナジメント コース	20190531	20190531	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	運営・講師	60	IRIDeS協力	セミナー	
6	国内	宮城県	宮城県総合防災訓練	20190612	20190612	宮城県庁	仙台市	日本	企画・プレー ヤー参加	40	なし	その他	
7	国内	東北大学災害科学 国際研究所	災害科学国際研究所AED講習会	20190617	20190617	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	運営担当 講師	20	IRIDeS主催・ 共同主催	セミナー	
8	国内	日本災害医学会	第2回宮城MCLSマナジメント コース	20190823	20190823	みやぎ県南中 核病院	大河原町	日本	運営・講師	40	なし	セミナー	
9	国内	日本災害医学会	第18回宮城MCLS標準コース	20190824	20190824	みやぎ県南中 核病院	大河原町	日本	運営・講師	70	なし	セミナー	
10	国内	東北大学病院	災害対策本部立ち上げ訓練	20191101	20191101	東北大学病院	仙台市	日本	運営担当	50	なし	その他	
11	国内	東北大学	本部総合防災訓練	20191113	20191113	東北大学片平 キャンパス	仙台市	日本	運営担当	200	IRIDeS協力	その他	
12	国内	東北大学病院	総合防災訓練	20191114	20191114	東北大学病院	仙台市	日本	運営担当	200	なし	その他	
13	国内	大分県中津南 高校	災害研修	20191211	20191211	東北大学災害 科学国際 研究所	仙台市	日本	運営担当	100	IRIDeS共催	ワークショップ	

14	国内	宮城県教育庁	災害時学校再開支援チームみやぎ研修会	20191224	20191224	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営担当	50	IRIDeS共催	セミナー	
15	国内	東北大学病院	第2回東北大学病院BBCP講演会	20200116	20200116	東北大学医学部1号館	仙台市	日本	企画・運営	50	IRIDeS主催・共同主催	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	台風19号に対する災害医療対応	災害派遣実働	20191013	20191023	宮城県災害医療コーディネーター、日本DMAT 隊員(統括)として宮城県庁及び仙南保健所に出務	行政	宮城県	宮城県庁、仙南保健所	仙台市大河原町	日本	500
2	講演会	令和元年台風19号調査報告会～河川、気象、地盤、史学、災害医療の各分野から～	招待講演	20200108	20200108	令和元年台風19号に対する宮城県の災害医療対応について	行政	名城大学、東北大学	名城大学天白キャンパス共通講義棟南	名古屋市	日本	200

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	厚生労働省		日本DMAT隊員(統括)	20180520
2	地方自治体	宮城県		災害医療コーディネーター	20181201

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	名城大学	森口周二、佐々木宏之、蝦名裕一、川内淳史、橋本雅和	20200108	学術交流協定(研究目的)	名城大学天白キャンパス共通講義棟南	名古屋市	講演・発表	200

# 児玉 栄一 教授

## KODAMA Eiichi

災害医学研究部門 災害感染症学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	1990	3	福島県立医科大学大学院	医学研究科博士課程	1994	3	医学博士	1994	3

#### 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	1994	1	1994	3	国立療養所福島病院・内科（現国立病院機構福島病院）	内科医師
2	1994	4	1998	3	福島県立医科大学医学部・微生物学講座	助手(助教)
3	1998	4	1999	8	福島県立医科大学医学部・微生物学講座	講師
4	1999	9	2009	3	京都大学ウイルス研究所 感染免疫学分野	助教
5	2009	4	2012	12	東北大学病院 内科感染症科	助教
6	2013	1	2013	3	東北大学・東北メディカルメガバンク機構	講師
7	2013	4	2013	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
8	2013	8	2013	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
9	2013	12	2014	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
10	2014	8	2014	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
11	2014	12	2015	7	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
12	2015	8	2015	11	宮城県立循環器呼吸器病センター	呼吸器科診療部長
13	2015	12	2016	3	東北大学医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座	講師
14	2016	4	2016	5	東北大学病院 総合地域医療教育支援部	講師
15	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害感染症学分野	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本災害医学会	日本バイオセーフティー学会	日本環境感染学会	日本ウイルス学会	日本感染症学会	日本エイズ学会	抗ウイルス療法学会	日本ケミカルバイオロジー学会

##### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本環境感染学会	災害時感染制御検討委員	災害時感染制御検討委員	20160900
2	日本災害医学会	災害医療教育施設連絡会議	委員	20180000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	ウイルス	治療薬	感染制御	アウトブレイク	地域医療

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	本部	新型コロナウイルス感染症対策専門家会議	委員	20200200
2	大学病院	感染対策委員会	委員長	20160101
3	大学病院	BCP作成委員会	委員	20170900
4	大学病院	新型コロナウイルス感染症 対策本部会議	委員	20200300
5	大学病院	新型コロナウイルス感染症 災害対策本部	委員	20200300
6	メディカルメガバンク	地域支援センター(白石)	センター長	20170701
7	メディカルメガバンク	緊急回付室	副室長	20180401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

本邦から撲滅したはずの麻疹は小規模ながらそのアウトブレイクが継続している。本邦のワクチン接種率の低下と国際化が誘因になっていることから、ワクチンに頼らない治療薬開発を京都大学薬学部と共同開発している。AMED 橋渡し加速ネットワークプログラムの継続として革新的ガン研究に採択され、アジア・アフリカ系人種に頻度の高いウイルス慢性感染によるリンパ腫・白血病に対する治療薬を開発、その臨床応用のために薬毒類・非げっ菌類を用いた安全試験を行っている。インフルエンザ・アデノウイルスアウトブレイク対策研究としてのウイルス培養法の改良を行っている。大学病院BCP作成委員、第1種感染病床の委員、災害時における地域医療機関BCP作成や震災における医療機関の構造的課題点を熊本大学・大東文化大学と共同で解析している。コロナウイルスパンデミックに対応した活動を学内・学外で行った。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外 連携
	開始年	月	終了年 月		
1	1994	4	現在	抗ウイルス薬の開発(抗HBV・抗HIV・抗EB・抗ADV薬等)	国内
2	2013	1	現在	震災後の地域医療の研究	国内
3	2018	4	現在	抗菌剤の開発(AMR対策)	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	3	合計	3	うち	国際 査読有	3	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	-----------	-----------

記述 言語	区分	所外 連携	国際 学術誌	種別	査読	招待 論文	論文題目名 (原語)	著者氏名 (共著者含)	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術 雑誌	有	いいえ	Construction of a Meroterpenoid-like Compounds Library Based on Diversity-Enhanced Extracts.	Haruhisa Kikuchi, Kosuke Kawai, Yota Nakashiro, Takayuki Yonezawa, Kumi Kawaji, Eiichi NKodama, Yoshiteru Oshima.	Chemistry - A European Journal	25	1	1106	1112	20190000
2	英語	共著	国内	はい	学術 雑誌	有	いいえ	Cohort Profile: Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study (TMM BirThree Cohort Study):Rationale, Progress and Perspective.	Shinichi Kuriyama, Hirohito Metoki, Masahiro Kikuya, Taku Obara, Mami Ishikuro, Chizuru Yamanaka, Masato Nagai, Hiroko Matsubara, Tomoko Kobayashi, Junichi Sugawara, Gen Tamiya, Atsushi Hozawa, Naoki Nakaya, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Takumi Hirata, Ichiro Tsuji, Fuji Nagami, Nobuo Fuse, Tomohiko Arai, Yoshio Kawaguchi, Shinichi Higuchi, Masaki Sakaida, Yoichi Suzuki, Noriko Osumi, Keiko Nakayama, Kiyoshi Ito, Shinichi Egawa, Koichi Chida, Eiichi Kodama, Hideyasu Kiyomoto, Tadashi Ishii, Akito Tsuboi, Hiroaki Tomita, Yasuyuki Taki, Hiroshi Kawame, Kichiya Suzuki, Naoto Ishii, Soichi Ogishima, Satoshi Mizuno, Takako Takai-Igarashi, Naoko Minegishi, Jun Yasuda, Kazuhiko Igarashi, Ritsuko Shimizu, Masao Nagasaki, Osamu Tanabe, Seizo Koshiha, Hiroaki Hashizume, Hozumi Motohashi, Teiji Tominaga, Sadao Ito, Kozo Tanno, Kiyomi Sakata, Atsushi Shimizu, Jiro Hitomi, Makoto Sasaki, Kengo Kinoshita, Hiroshi Tanaka, Tadao Kobayashi, the Tohoku Medical Megabank Project Study Group, Shigeo Kure, Nobuo Yaegashi, and Masayuki Yamamoto.	International Journal of Epidemiology					20190000
3	英語	共著	国内	はい	学術 雑誌	有	いいえ	Pyrimidine Analogues as a New Class of Gram-Positive Antibiotics, Mainly Targeting Thymineless-Death Related Proteins.	Chihiro Oe, Hironori Hayashi, Kazushige Hirata, Kumi Kawaji, Fusako Hashima, Mina Sasano, Maaya Furuchi, Emiko Usui, Makoto Katsumi, Yasuhiko Suzuki, Chic Nakajima, Mitsuo Kaku, Eiichi N. Kodama.	ACS Infectious Diseases					20190000

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	災害医療におけるバイオセーフティ	学術雑誌	無	いいえ	The Japanese Biological Safety Association			24	27	2019	児玉 栄一	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	7	合計	7
----	------	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第69回日本薬学会関西支部総会・大会	宮田 興子	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	神戸薬科大学	兵庫	日本	20191012	20191012	20191012	麻疹ウイルス膜融合阻害ペプチドの構造活性相関研究ー抗ウイルス活性に必要な最小配列の同定ー	高原 葵、平田和成、林宏典、河治久実、井貫晋輔、大野浩幸、児玉栄一、大石真也
2	国内	第67回日本ウイルス学会学術集会	倉根 一郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	タワーホール船堀	東京	日本	20191029	2019031	20191029	二量体化HIV-1膜融合阻害剤の作用機序	村上 努、海老原 健人、小早川 拓也、藤野 真之、児玉 栄一、玉村 啓和
3	国内	第37回メディシナルケミストリーシンポジウム	林 良雄	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	八王子芸術文化会館	東京	日本	20191127	20191129	20191128	麻疹ウイルス膜融合阻害ペプチドの最小活性配列の同定と相互作用解析	高原 葵、中津 亨、平田和成、林宏典、河治久実、井貫晋輔、大野浩幸、加藤博章、児玉栄一、大石真也
4	国内	第33回日本エイズ学会学術集会	松下 修三	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	熊本城ホール	熊本	日本	20191127	20191129	20191127	二量体化HIV-1膜融合阻害剤の作用機序	村上 努、海老原 健人、小早川 拓也、藤野 真之、児玉 栄一、玉村 啓和
5	国際	The29th KSCCLM Annual Meeting		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Severance Hospital	ソウル	韓国	20191102	20191102	20191102	The resistant mechanism of measles virus against peptide based fusion inhibitors.	Kazushige Hirata, Aoi Takahara, Kumi Kawaji, Hironori Hayashi, Shinya Oishi, and Eiichi N.Kodama
6	国内	第35回日本環境感染症学会総会・学術集会	金光 敬二	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	パシフィコ横浜	神奈川	日本	20190214	20190215	20190214	熊本地震と東日本大震災の比較分析による精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究	野崎裕之、吉村直仁、村田ひとみ、北田志郎、杉森裕樹、児玉栄一
7	国内	第25回日本災害医学学会総会・学術総会抄録集	中山 伸一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	神戸国際会議場	兵庫	日本	20200220	20200222	20200221	東日本大震災と熊本地震の比較分析による精神科病棟における被災時感染症対策の実態についての研究	野崎裕之、児玉栄一

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名以外人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	災害感染症学分野	感染症リサーチカンファ	20190830	20190830	東北大学星陵会館大会議室	仙台	日本	30	臨床医学	代表	なし	連携講座	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

医学部学生に対する結核やHIV、輸入感染症などのアウトブレイクやその対応方法などについて指導を行った。ヒューマンセキュリティプログラムにおけるアウトブレイク対応、基礎ゼミにおける災害がきっかけになる感染症の講義を行った。また、卒後教育の一環として医療従事者に対する感染症対策の講演会も行った。また医学博士号取得の副主査・副査第一を担当した。その他4つの連携講座の世話教授を担当した。12名の博士課程学生の指導にあたり、うち3名の博士学位論文を指導した。また、コロナウイルス対応の臨時講義を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数90分/コマ
1	隣接医学	東北大学	歯学部	歯学科	5		
2	グローバルヘルス特論	東北大学	医学系研究科	医科学 公衆衛生学		前期	1
3	感染症とヒューマンセキュリティ	東北大学	医学系研究科	医科学 公衆衛生学		後期	1
4	6年生最終講義	東北大学	医学部	医学科	6	後期	1
5	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	医学系研究科	医科学		後期	1
6	災害の科学	東北大学	全学		全	2セメ	2
7	内科通論講義	東北大学	医学部	保健学科	3	後期	1
8	ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス	東北大学	医学系研究科	医科学 公衆衛生学		前期	1
9	血液、免疫、アレルギー感染症ブロック	東北大学	医学部	医学科	4	後期	2



D. 社会活動

社会活動の概要

企業や病院内講習会において災害時を含めた感染症対応の講演を行い、地域で核となる組織での対策支援を行った。厚労省からの依頼で災害時感染対策委員会の委員として対策案の提言などを行った。宮城県、結核医療地域ネットワーク、また仙台市感染症に係る病院ネットワーク構成員として、感染症クイズへの対応を協議している。国際的には、JICAにおける国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会員として兼務している。東北メディカルメガバンク機構を通じた地域医療支援、住民健康調査を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	研修医セミナー	招待講演	20190612	20190612	グローバル感染症対策	行政	公立藤田病院	公立藤田病院	福島県伊達郡	日本	
2	セミナー	血液感染症フォーラム	招待講演	20190618	20190618	ウイルス学的特徴を利用したEBV感染症治療	企業	大日本製薬	良陵会館	仙台市	日本	
3	セミナー	創業懇話会2019	招待講演	20190620	20190621	アカデミアで創業研究を継続させるヒント	企業	公益社団法人日本薬学会医薬化学部会	ホテルクレセント	仙台市	日本	
4	公開講座	青葉ブロック医師学術講演会	招待講演	20191217	20191217	インフルエンザの治療とワクチン	企業	塩野義製薬	ホテルストロベリータン 仙台	仙台市	日本	
5	公開講座	泉ブロック医師学術講演会	招待講演	20200125	20200125	インフルエンザの治療と予防	企業	塩野義製薬	ロイヤルパークホテル	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	独立行政法人 国際協力機構(JICA)	国際緊急援助隊 感染症対策チーム	作業部会員	20141201
2	地方自治体	宮城県	結核医療地域ネットワーク会議	世話人	20160601
3	地方自治体	宮城県	感染症審査協議会委員会	副委員長	20170401
4	地方自治体	仙台市	感染症病院ネットワーク	委員	20160901
5	地方自治体	仙台市	感染症審査協議会「感染症審査部会」	委員	20170401
6	地方自治体	仙台市	エイズ・性感染症対策推進協議会委員	福委員長	20170801
7	その他	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会	専門委員	20171201

# 大江 千紘 助教

## OE Chihiro

災害医学研究部門 災害感染症学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	新潟大学	医学部	2008	3	東北大学	医学部	2019	9	Ph.D	2019	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	4	2010	10	自治医科大学付属病院 内科～後期研修	研修医
2	2010	11	2012	3	新潟県立十日町病院 内科	医員
3	2012	4	2013	3	仙台医療センター 総合診療科	後期研修
4	2013	4	2014	9	東北大学病院検査部 感染症科診療	医員
5	2014	10	2015	3	東北大学病院検査部 感染症診療 (短時間勤務医員)	医員
6	2015	4	2019	9	東北大学病院検査部 感染症科診療	医員
7	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2
日本内科学会	日本感染症学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
内科学	感染症	薬剤耐性菌	核酸代謝	ヒトパピローマウイルス

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

世界的規模で問題となっている薬剤耐性菌を克服するため、抗癌剤として汎用されている pyrimidine analogである 5-fluorouracil をシード化合物として、新しいメカニズムで抗菌活性を発揮する核酸代謝阻害薬の新規開発のための基礎研究を行った。この結果は、ACS infectious diseasesへ投稿しアクセプトされた。現在はこの結果を応用し、purine analogs や葉酸合成阻害薬の抗菌薬としての可能性を研究している。また、子宮頸がんやその原因となるヒトパピローマウイルスに対する新しい治療薬の開発のための基礎研究を行い現在継続中である。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	8	現在		薬剤耐性菌を克服するための核酸代謝を標的とした新規抗菌薬の開発	
2	2017	8	現在		ヒトパピローマウイルス(HPV)に対する新規抗腫瘍薬の開発	

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Pyrimidine analogs as a new class of Gram-positive antibiotics, targeting thymineless-death related proteins	Chihiro Oe, Hironori Hayashi, Kazushige Hirata, Kumi Kawaji, Fusako Hashima, Mina Sasano, Maaya Furuichi, Emiko Usui, Makoto Katsumi, Yasuhiko Suzuki, Chie Nakaji-ma, Mitsuo Kaku and Eiichi N. Kodama	ACS infectious diseases					20191008

### C. 教育活動

#### 教育活動の概要

博士課程の学生1名と医学部医学科学部生基礎修練の学生1名を担当し指導した。

### D. 社会活動

#### 社会活動の概要

仙台市HIV・梅毒休日即日検査・相談会への出席(令和2年2月15日)

# 千田 浩一 教授

## CHIDA Koichi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1					東北大学大学院	医学系研究科	2003	3	博士(障害科学)	2003	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2003	3	東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科	助手
2	2003	4	2007	3	東北大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻	助手
3	2007	10	2008	3	東北大学大学院医学系研究科 放射線技術科学専攻	准教授
4	2008	4	2009	9	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	准教授
5	2009	10	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	教授
6	2012	4	2013	3	東北大学災害科学国際研究所 教授兼任	教授
7	2013	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 教授(東北大学大学院医学系研究科兼任)	教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	日本放射線技術学会	日本医学放射線学会	日本医学物理学会	医用画像情報学会	日本アイトープ協会	医学物理学会	日本消化器がん検診学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線技術学会	評議員会	評議員	20050000
2	日本放射線技術学会	理事会	理事	20150000
3	日本放射線技術学会	東北部会	理事	20130000
4	医学物理学会	試験委員会	委員	20130000
5	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	試験委員会	委員	20130000
6	American Journal of Roentgenology	査読委員	査読委員	20130000
7	日本放射線技術学会	編集委員会	副委員長	20170000
8	日本放射線技術学会	秋季学術大会	大会長	20180000

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	放射線医科学	放射線技術科学	災害放射線医学	医用工学・物理学	内部障害学

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	放射線取扱主任者専門部会	専門部員	20130000
2	医学系研究科	安全衛生委員会	委員	20130000
3	医学系研究科	放射線障害予防委員会	放射線(RI)取扱主任者	20130000
4	医学系研究科	放射線障害予防委員会	X線取扱主任者	20130000
5	医学系研究科	ラジオアイソトープセンタ運営委員会	委員	20130000
6	メディカルメガバンク	運営委員会	委員	20130000
7	保健学科	放射線管理実務部会	責任者	20130000
8	保健学科	放射線技術科学専攻キャリア支援	担当者	20130000
9	全学	研究教育基盤技術センター運営専門委員会	委員	20150000
10	病院	緊急被災医療専門委員会	委員	20150000
11	全学	放射線安全管理責任者	責任者	20130000
12	全学	研究倫理相談窓口	担当者	20160000
13	全学	研究公正アドバイザー	担当者	20160000
14	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会	委員	20150000

B. 研究活動

研究活動の概要

当分野教授の千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、研究教育等を担当している。1. 患者・術者等の被曝評価防護研究、2. 放射線機器の最適化研究、3. 災害放射線医学関連研究、特に「医療被曝関連研究」を今年度も多く行っている。医学に利用される放射線は、大部分が低線量被曝であるため、よって医療被曝関連研究は原子力災害時における低線量被曝研究を行う上で重要な基盤となると考える。さらに「災害放射線医学関連研究」として、①福島原発事故に起因した医用X線写真上に生じた黒点に関する研究。②原発事故相談窓口での電話相談内容の分析や対応策の検討。③低線量被曝スクリーニング法の開発等を継続して実施した。加えて水晶体被曝関連研究及び不均等被曝研究も精力的に行っており、厚労省検討会にて研究成果が活用されたり、規制庁ガイドライン作成に寄与した。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	1990	4	現在	放射線被曝研究	国内
2	1990	4	現在	医用機器 QC・QA	国内
3	2000	4	現在	リン MRS 研究	なし
4	2012	4	現在	災害放射線医学研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	14	合計	14	うち	国際査読有	9	国際査読無	国内査読有	5	国内査読無
----	------	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	-------	---	-------

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Performance of the DOSIRIS™ eye lens dosimeter	Ishii H, Haga Y, Sota M, <u>Inaba Y</u> , <u>Chida K</u>	Journal of Radiological Protection	39		N19	N26	20190000	
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Treatment of internal carotid aneurysms using pipeline embolization devices: measuring the radiation dose of the patient and determining the factors affecting it	Kawauchi S, <u>Chida K</u> , Moritake T, Hamada Y, Matsumaru Y, Tsuruta W, Sato M, Hosoo H, Sun L	Radiation Protection Dosimetry			1	8	20200000	
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Correlation of Radioactivity between Muscle and Peripheral Blood of Live Cattle Depending on Presence or Absence of Radiocontamination in Feed	<u>Suzuki M</u> , Suzuki H, Ishiguro H, Saito Y, Watanabe S, Kozutsumi T, Sochi Y, Nishi K, Urushihara Y, Kino Y, Numabe T, Sekine T, <u>Chida K</u> , Fukumoto M.	Radiation Research	192	6	589	601	20190000	
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	VOLUME CT DOSE INDEX AND DOSE-LENGTH PRODUCT VALUES ACCORDING TO FACILITY SIZE IN JAPAN	Yuta Matsunaga, Yuya Kondo, Kenichi Kobayashi, Masanao Kobayashi, Kazuyuki Minami, Shoichi Suzuki, <u>Koichi Chida</u> , Yasuki Asada	Radiation Protection Dosimetry	Epub ahead of print					20200000
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	生活習慣病検診の胃X線検査における線量評価の基礎的検討	太田洋一, <u>千田浩一</u> , 渋谷大助	日本消化器がん検診学会雑誌	58	2			20200000	
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	X線CT撮影による深部線量測定 錫フィルタの有無による比較	能登義幸, 吉田秀義, 谷藤貴行, <u>千田浩一</u>	臨床放射線	64		1085	1092	20190000	
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	心臓IVR手技における0.75mmPb当量防護眼鏡の遮蔽効果に関する臨床的検討、巻:65巻1号、71-75、2020年 査読:有	遠藤美芽, 芳賀喜祐, 阿部美津也, 加賀勇治, 大友一輝, 村林優樹, 稲葉洋平, <u>千田浩一</u>	臨床放射線	65	1	71	75	20200000	
8	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	脳神経血管および心臓電気生理手技のインターベンションに携わる医師の水晶体線量評価	加藤守, <u>千田浩一</u> , 石田嵩人, 佐々木文昭, 豊嶋英仁, 大阪肇, 木下俊文	日本放射線技術学会雑誌	70	1	26	33	20190000	
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	OCCUPATIONAL RADIATION EXPOSURE OF THE EYE IN NEUROVASCULAR INTERVENTIONAL PHYSICIAN	Mamoru Kato, <u>Koichi Chida</u> , Takato Ishida, Hideto Toyoshima, Yasuyuki Yoshida, Shotaro Yoshioka, Junta Moroi, Toshibumi Kinoshita	Radiation Protection Dosimetry	185	2	151	156	20190000	
10	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	New real-time patient radiation dosimeter for use in radiofrequency catheter ablation	Mamoru Kato, <u>Koichi Chida</u> , Masaaki Nakamura, Hideto Toyoshima, Ken Terata, Yoshihisa Abe	Journal of Radiation Research	60	2	215	220	20190108	

11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	OCCUPATIONAL RADIATION EXPOSURE DOSE OF THE EYE IN DEPARTMENT OF CARDIAC ARRHYTHMIA PHYSICIAN	Mamoru Kato, Koichi Chida, Takato Ishida1, Fumiaki Sasaki, Hideto Toyoshima1, Hajime Oosaka1, Ken Terata, Yoshihisa Abe, Toshibumi Kinoshita	Radiation Protection Dosimetry			1	8	20190000
12	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	わが国の循環器血管撮影領域における医療被ばくの実態調査	石橋 徹, 竹井 泰孝, 坂本 肇, 山下 由香利, 加藤 守, 塚本 篤子, 松本 一真, 水谷 宏, 鈴木 昇一, 加藤 洋, 千田 浩一	日本放射線技術学会雑誌	76	1	64	71	20200100
13	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Breast exposure reduction using organ-effective modulation on chest CT in Asian women.	Ota J, Yokota H, Takishima H, Takada A, Irie R, Suzuki Y, Nagashima T, Horikoshi T, Chida K, Masuda Y, Uno T.	Eur J Radiol	119			108651	20190000
14	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Identification of Potential Biomarkers of Radiation Exposure in Blood Cells by Capillary Electrophoresis Time-of-Flight Mass Spectrometry.	Sun L, Inaba Y, Kanzaki N, Bekal M, Chida K, Moritake T.	Int J Mol Sci.	21			E812	20200100

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	単著	筆頭共著	共著	1	合計	1	うち	国際	国内	1
------	----	------	----	---	----	---	----	----	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	放射線計測学	教科書	202003	齋藤秀敏、千田浩一 ほか	共著	共立出版	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	1	国内査読無
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	---	-------

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	震災から7年 復興と放射線技術学	学術雑誌	有	はい	日本放射線技術学会雑誌	75	8	787	798	201908	千田浩一	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	1	その他の連名	12	合計	13
----	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国内	第75回日本放射線技術学会総合学術大会	石田 隆行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20190411	20190414	20190412	Effectiveness of Additional Lead Shielding and Low Rate Fluoroscopy in Protecting Staff from Scattered Radiation during Cardiac Resynchronization Therapy (CRT)	<u>森島貴顕</u> , 片平 美明, 千田 浩一, 千葉 浩生
2 国内	第75回日本放射線技術学会総合学術大会	石田 隆行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20190411	20190414	20190414	頭頸部及び心臓インターベンションに関わる医師の水晶線量評価	<u>加藤 守</u> , 千田 浩一, 石田 嵩人, 佐々木 文昭
3 国内	第75回日本放射線技術学会総合学術大会	石田 隆行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20190411	20190414	20190414	Evaluation of Patient Dose in Percutaneous Coronary Intervention 冠動脈形成術における患者被ばく線量の評価	<u>坂元 健太郎</u> , 加藤 守, 高橋 規之, 千田 浩一, 笠松 武, 小野 寺 敏彦, 澁美 博人
4 国内	第25回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会	菊谷 武	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	朱鷺メッセ, 万代島多目的広場	新潟	日本	20190906	20190907	20190906	嚥下造影検査(VF)時の術者被ばく防護における自作鉛防護具の効果	<u>森島貴顕</u> , 伊藤 修, 萱場 文, 千田 浩一, 千葉 浩生
5 国内	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	福西 康修	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	グランキューブ大阪	大阪	日本	20191017	20191019	20191017	呼吸器内視鏡検査に携わる医師の水晶線量評価	<u>芳賀 喜裕</u> , 千田 浩一, 加賀 勇治, 曾田 真宏, 荒井 剛, 阿部 美津也
6 国内	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	福西 康修	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	グランキューブ大阪	大阪	日本	20191017	20191019	20191017	3mm線量当量線量計を用いた ERCP に従事するスタッフの水晶線量等価線量評価	<u>森島貴顕</u> , 目黒 義敬, 千田 浩一, 千葉 浩生
7 国際	World BOSAI Forum2019	小野 裕一	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20191110	20191112	20191100	Comprehensive Radiation Assessment of Disaster Affected Animals	<u>Suzuki M</u> , Urushihara Y, Inaba Y, Chida K, Fukumoto M.

8	国内	第10回会津心臓病・心血管疾患研究会	阿部 亘	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	わかまつインターベンションクリニック	会津	日本	20191115	20191116	20191116	医療放射線被ばく管理について	森島 貴顕, 中野 陽夫, 千田 浩一, 千葉 浩生
9	国内	第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会	渡部 浩司, 吉田 浩子	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学青葉山新キャンパス	仙台	日本	20191204	20191207	20191204-7	小学校児童への放射線教育用インタラクティブ教材の試作	太田 洋一, 太田 裕子, 緑川 早苗, 大津 留島, 千田 浩一
10	国際	Radiological Society of North America 105th (RSNA2019)	Valerie P. Jackson	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	McCormick Place	シカゴ	アメリカ	20191129	20191204	20191202	Optimization of Eye Lens Doses for Interventional Radiology and Cardiology Staff: Monitoring and Protection Methods of Eye Lens	Haga Y, Chida K, Kaga Y, Sota M, Kasahara S, Suzuki, S, Arai T, Abe M, Meguro T.
11	国際	European Congress of Radiology (ECR) 2020	Boris Brkljačić	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Austria Center	ウィーン	オーストリア	20200311	20200315	20200313	Occupational eye lens dose measurement using direct eye dosimeters in interventional cardiac electrophysiology procedures	Mamoru Kato, Koichi Chida, Takato Ishida, Fumiaki Sasaki, Hajime Osaka, Toshitomi Kinoshita
12	国際	European Congress of Radiology (ECR) 2020	Boris Brkljačić	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Austria Center	ウィーン	オーストリア	20200311	20200315	20200313	Development of a wireless patient radiation dosimetry/management system for interventional radiology	Koichi Chida, Yohei Inaba, Masayuki Zuguchi
13	国内	第24回東北心臓血管イメージング研究会	片平 美明	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台市立中小企業活性化センター	仙台	日本			20200328	心筋シンチグラムの世界(仮)	森島 貴顕, 中野 陽夫, 千田 浩一, 千葉 浩生

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 3 件

種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1 特許	国内	線量計及びシステム	千田浩一	特願2019-182073	20191002			学外共同の成果	国内
2 特許	国内	放射線検出装置及び線量計	千田浩一	特願2017-151013	2017/08/03	特開2019-028034	2019	学内共同の成果	国内
3 特許	国外	X線診断装置、画像処理装置、及び画像診断支援方法	千田浩一	米国特許取得 US10575811	2016/06/28	(米国特許出願番号 US15/634366)	2019	学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

22名の大学院生(研究生含む)と5名の卒業研究学生を直接指導している。東北大学大学院講義の放射線検査学特論(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。東北大学大学院講義の放射線検査学セミナー(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、多数の大学院講義や学部講義や学生実験などを担当している。また放射線技術科学専攻キャリア支援責任者として、学生面談やマッチングや書類添削や面接指導等を指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
3	応用セミナーI	東北大学	医学研究科				2
4	分野セミナー	東北大学	医学研究科				15
5	分野特論	東北大学	医学研究科				15
6	放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
7	放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
8	放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ	3
9	医用工学	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
10	放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
11	放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
12	医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
13	放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
14	放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
15	放射線機器工学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
16	放射線機器工学実験II	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
17	基礎セミナー	東北大学	医学研究科				2
18	応用セミナー	東北大学	医学研究科				2

19	Paper research & Basic seminar	東北大学	医学研究科									2
20	Doctoral Dissertation Research	東北大学	医学研究科									2
21	Clinical Radiological Technique Seminar I	東北大学	医学研究科									15
22	Technique of clinical Imaging	東北大学	医学研究科									2
23	Clinical Radiological Technique Seminar II	東北大学	医学研究科									15
24	Radiation Dosimetry	東北大学	医学研究科									15
25	Radiation Equipment Engineering	東北大学	医学研究科									15
26	Laws and Regulations for Radiologic Technologist	東北大学	医学研究科									15
27	Radiological Examination and Technology	東北大学	医学研究科									15
28	放射線関係法規	東北大学	医学部			保健学科		3		6セメ		15
29	卒業研究	東北大学	医学部			保健学科		4		8セメ		15
30	災害の科学	東北大学	全学					1		2セメ		1
31	放射線工学概論	東北文化学園大学	科学技術学部			臨床工学科		2		4セメ		15

D. 社会活動

社会活動の概要

原子力規制庁の水晶体被ばく検討会班員としてガイドライン作成に貢献した。厚労省検討会にて法令改正(水晶体線量限度等)に関する意見具申や提言を行った。仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)として、防災計画作成活動を行っている。JST研究成果最適展開支援専門委員やJSTマッチングプランナー専門委員を担当した。また放射線の正しい知識の普及のための講演活動等を行っている。さらに放射線等に対するの正しい知識の普及などのための「パンフレット」の改良と電子教材作成開発や、その他の社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	南相馬市立太田小学校公開講座	招待講演	20191129	20191129	小学校での放射線教育の必要性	小中高	福島県	南相馬市立太田小学校	南相馬市	日本	100
2	小中高との連携	令和元年度地域と共に創る放射線・防災教育推進事業	招待講演	20200115	20200115	地域と一体化した放射線教育	小中高	福島県	杉妻会館	福島市	日本	100
3	講演会	日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会シンポジウム講演会	招待講演	20191007	20191007	水晶体被ばくの現状と課題	なし	日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会	災害研	仙台市	日本	150
4	講演会	令和元年度地域と共に創る放射線・防災教育推進事業	招待講演	20200115	20200115	直観的な放射線教育のための電子教材の開発	行政	福島県	杉妻会館ほか	福島市	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	委員	20120000
2 国・政府	JST研究成果最適展開支援専門委員	JST研究成果最適展開支援専門委員	委員	20150000
3 国・政府	JSTマッチングプランナー専門委員	JSTマッチングプランナー専門委員	委員	20150001
4 国・政府	厚労省	厚労省検討会	有識者	2019
5 国・政府	原子力規制庁	水晶体被ばくガイドライン作成班	班員	2019

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 産総研	孫 略	2019	共同研究	東北大学	仙台	その他	30
2 産業医大	盛武 敬ほか	20190905(ほか)	共同研究	東北大学	仙台	講演・発表	40

## 鈴木 正敏 講師

## SUZUKI Masatoshi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	茨城県立医療大学	保健医療学部	2000	3	長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科	2006	3	博士(学術)	2006	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2008	1	テキサス大学 サウスウェスタンメディカルセンターダラス校	博士研究員
2	2008	2	2012	3	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	博士研究員
3	2011	11	2011	12	オーストラリアクイーンズランド医科学研究所	特別研究員
4	2012	4	2012	6	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	助教
5	2012	7	2017	3	東北大学 加齢医学研究所	助教
6	2017	4	2019	3	東北大学 災害復興新生研究機構	助教
7	2019	4	2019	4	東北大学 災害復興新生研究機構	講師
8	2019	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	講師

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2
	日本放射線影響学会	日本癌学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線影響学会		学術評議員	20130000
2	日本放射線影響学会	広報出版委員会	委員	20160900
3	日本放射線影響学会	論文紹介企画小委員会	委員長	20160000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	放射線生物学	放射線影響学	分子細胞生物学	分子イメージング

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

福島原発事故後に旧警戒区域で被ばくを継続している野生ニホンザルの試料を収集し、組織形態に変化が見られない 緒臓器における放射線応答の有無について分子マーカーを用いて検討した。加えて、放射性セシウム飲水マウスの動物実験による検証を行っている。また、福島原発事故によって放出された放射性微粒子によるヒト正常細胞への影響について検討した。トリチウムによる被ばく影響を検討するために、トリチウム水や有機結合型トリチウムを用いて細胞内局在を制御することによって、トリチウム影響に対して感受性の高い細胞内小器官について検討した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	現在		放射線被ばくによる分子・細胞生物学的影響解析	国内
2	2012	7	現在		福島原発事故で被災した野生動物試料を用いた被ばく線量評価と生物影響解析	国内
3	2013	4	現在		トリチウムによる細胞影響評価	国内
4	2015	4	現在		放射性微粒子による被ばく線量評価と生物影響解析	国内
5	2018	4	現在		放射性セシウム飲水マウス試料を用いた酸化ストレスを中心とする被ばく影響解析	国内



論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	単著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	放射性粒子による生物影響解明に向けた異分野融合研究の必要性	鈴木正敏	素粒子論研究	29		39	43	20191015
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	MiR-7-5p is a key factor that controls radioresistance via intracellular Fe2+ content in clinically relevant radioresistant cells.	Tomita K, Fukumoto M, Itoh K, Kuwahara Y, Igarashi K, Nagasawa T, Suzuki M, Kurimasa A, Sato T.	Biochemical and Biophysical Research Communications	518	4	712	718	20191022
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Correlation of Radiocesium Activity between Muscle and Peripheral Blood of Live Cattle Depending on Presence or Absence of Radiocontamination in Feed.	Suzuki M, Suzuki H, Ishiguro H, Saito Y, Watanabe S, Kozutsumi T, Sochi Y, Nishi K, Urushihara Y, Kino Y, Numabe T, Sekine T, Chida K, Fukumoto M.	Radiation Research	192	6	589	601	20191206

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	1	共著	1	合計	2	うち	国際	2	国内	0
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Perspective on the Biological Impact of Exposure to Radioactive Cesium-Bearing Insoluble Particles (Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystems)	編集本(著者・Author)	20191220	Masatoshi Suzuki, Kazuhiko Ninomiya, Yukihiko Satou, Keisuke Sueki, Manabu Fukumoto (Manabu Fukumoto)	共著	Springer Nature	国内	
英語	Dose Estimation of External and Internal Exposure in Japanese Macaques After the Fukushima Nuclear Power Plant Accident(Low-Dose Radiation Effects on Animals and Ecosystems)	編集本(著者・Author)	20191220	Satoru Endo, Kenichi Ishii, Masatoshi Suzuki, Tsuyoshi Kajimoto, Kenichi Tanaka, Manabu Fukumoto (Manabu Fukumoto)	共著	Springer Nature	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	5	その他の連名	8	合計	13
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチャエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	基礎物理学研究所研究会	坂東昌子	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20190523	20190525	20190523	不溶性セシウム粒子による細胞影響解析	鈴木正敏、遠藤暁、松谷祐輝、二宮和彦、佐藤志彦、末木啓介、福本学
国内	第56回アイソトープ・放射線研究発表会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東京大学	東京	日本	20190703	20190705	20190703	浪江町の野生アライグマの放射性セシウムによる被ばく線量評価	小野拓実、小荒井一真、木野康志、田巻廣明、岡壽崇、高橋温、鈴木敏彦、清水良央、千葉美麗、藤嶋洋平、Valerie Goh Swee Ting、有吉健太郎、中田章史、鈴木正敏、山城秀昭、福本学、関根勉、篠田壽、三浦富智
国内	第6回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	夏堀雅宏	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東京大学	東京	日本	20190801	20190801	20190801	低線量・低線量率放射線被ばくによるマウス血漿中の酸化ストレスマーカーの解析	鈴木正敏、中島裕夫、福本学
国際	International Congress of Radiation Research 2019	Kaye Williams	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	マンチェスター中央会議場	マンチェスター	イギリス	20190825	20190829	20190826	External dose estimation of Japanese macaque and Procyon lotor using electron spin resonance spectroscopy	Toshitaka Oka, Atsushi Takahashi, Kazuma Koarai, Takumi Ono, Hiroaki Tamaki, Yasushi Kino, Tsutomu Sekine, Yoshinaka Shimizu, Mirei Chiba, Toshihiko Suzuki, Jun Aida, Ken Osaka, Keiichi Sasaki, Yusuke Urushihara, Masatoshi Suzuki, Yohei Fujishima, Valerie See Ting Goh, Kentaro Ariyoshi, Akifumi Nakata, Hideaki Yamashiro, Tomisato Miura, Manabu Fukumoto, Hisashi Shinoda

5	国内	日本分析化学会第68年会	藤浪真紀	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学	千葉	日本	20190911	20190913	20190912	福島県で捕獲したニホンザルの電子スピン共鳴法による外部被ばく線量推定	岡壽崇、高橋温、小荒井一真、光安優典、木野康志、関根勉、清水良央、千葉美麗、鈴木敏彦、小坂健、佐々木啓一、漆原佑介、鈴木正敏、篠田壽、福本学
6	国内	日本原子力学会 中国・四国支部第13回研究発表会	山岡聖典	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	岡山大学	岡山	日本	20190920	20190920	20190920	マウスボクセルファントムの作成と外部被曝線量率換算係数の推定	松谷祐輝、遠藤暁、田中憲一、梶本 暁、鈴木正敏
7	国内	2019日本放射化学年会・第63回放射化学討論会	木村貴海	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	いわき産業創造館	福島	日本	20190924	20190926	20190924	電子スピン共鳴法による野生動物の外部被ばく線量推定法の検討	岡壽崇、高橋温、小荒井一真、光安優典、小野拓実、田巻廣明、木野康志、関根勉、清水良央、千葉美麗、鈴木敏彦、小坂健、佐々木啓一、藤嶋洋平、漆原佑介、Valerie See Ting Goh、有吉健太郎、中田章史、鈴木正敏、山城秀昭、福本学、篠田壽、三浦 富智
8	国内	2019日本放射化学年会・第63回放射化学討論会	木村貴海	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	いわき産業創造館	福島	日本	20190924	20190926	20190924	電子スピン共鳴分光法によるニホンザルの被ばく線量の検出限界の推定	光安優典、岡壽崇、高橋温、小荒井一真、木野康志、奥津賢一、関根勉、清水良央、千葉美麗、鈴木敏彦、小坂健、佐々木啓一、漆原佑介、鈴木正敏、福本学、篠田壽
9	国際	世界防災フォーラム2019		筆頭連名	はい	口頭(招待)	仙台国際センター	宮城	日本	20191109	20191112	20191112	Comprehensive radiation assessment of disaster affected animals	Masatoshi Suzuki, Yusuke Urushihara, Yohei Inaba, Koichi Chida, Manabu Fukumoto
10	国内	日本放射線影響学会第62回大会	高田穰	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20191114	20191116	20191115	低線量放射線被ばくマウスの血漿を用いた酸化ストレスマーカーの解析	鈴木正敏、中島裕夫、福本学
11	国際	第6回アジア環境変異原学会・日本環境変異原学会第48回大会合同大会	本間正充	その他の連名	はい	口頭(招待)	一橋大学	東京	日本	20191118	20191120	20191120	The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident: What affected animals told and would tell us	Masatoshi Suzuki, Manabu Fukumoto
12	国内	ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会・フィッシュントラック研究会 2019 年度 合同研究会	末岡茂	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	セラトピア土岐	岐阜	日本	20191127	20191129	20191127	ESR法による帰還困難区域の動物の外部被ばく線量推定	光安優典、岡壽崇、高橋温、小荒井一真、木野康志、奥津賢一、関根勉、清水良央、千葉美麗、鈴木敏彦、小坂健、佐々木啓一、漆原佑介、鈴木正敏、福本学、篠田壽
13	国内	京都大学複合原子力科学研究所専門研究会	五十嵐康人	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	大阪	日本	20191219	20191219	20191219	放射性セシウム粒子を用いた細胞影響評価の概要と生物影響評価に向けた展望	鈴木正敏、遠藤暁、松谷祐輝、二宮和彦、佐藤志彦、末木啓介、福本学

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育カレントトピックスを担当し、放射線災害事故に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学			2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

これまでに実施してきた福島原発事故による生物影響研究について取材を受け、その内容は新聞紙面に掲載された。また、一般向けセミナー1件の依頼を受けていたが、台風19号の影響で中止となった。

# 稲葉 洋平 助教

## INABA Yohei

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部保健学科	2008	3	東北大学大学院	医学系研究科保健学専攻	2015	3	保健学博士	2015	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	2012	12	東北大学病院診療技術部放射線部門	診療放射線技師
2	2013	1	2016	4	東北大学 災害科学国際研究所	助手
3	2016	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本放射線技術学会	日本放射線安全管理学会	日本磁気共鳴医学会	日本医学物理学会	日本IVR学会	日本災害医学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会	大会実行委員会	実行委員	20190000
2	第9回東北放射線医療技術学術大会	大会実行委員会	実行委員	20190001

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	放射線技術学	医学物理学	災害医学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

原子力事故など、放射線が関与する事故や災害の発生時には、多くの市民の中から直ちに治療措置が必要な被曝者の選定が必要である。しかし、大量のスクリーニングが可能なバイオドシメトリ法(生物学的線量測定法)は存在しないのが現状である。我々はこれまでに、電子スピン共鳴(ESR)を利用し、血液サンプル中のフリーラジカルや抗酸化能を総合的に定量することで、簡便に急性被曝をスクリーニングする今までにない新手法の開発を試みてきた。今年度は、放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスに着目して定量を試み、発展させた。また、原子力規制庁採択の水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究が2017年度から開始し、国内法令取入れのための研究を継続して進めた。さらに、震災から7年がたったが、放射線被ばくの正しい理解への普及活動を継続して行った。今年度も去年に引き続き、災害研共同研究として「原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育への提案」を福島医大と遂行した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	現在		各種放射線線量計を用いた患者及び術者の線量測定に関する研究	国内
2	2008	4	現在		多施設心臓IVRにおける患者及び術者の被曝線量調査に関する研究	国内
3	2012	4	現在		MRI による前交通動脈穿通枝描出に関する研究	国内
4	2013	1	現在		大規模放射線災害時における ESR を用いた個人被曝線量の推定に関する研究	国内
5	2014	4	現在		CT ガイド下生検における術者被曝線量に関する研究	国内
6	2015	11	現在		SLE 患者に対する非侵襲的 MRI 脳機能画像診断法に関する研究	国内
7	2016	7	現在		放射線被ばくの正しい理解への普及活動	国内
8	2017	4	現在		放射線検査機器の QA・QC 手法の開発	国内
9	2017	10	現在		水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	国内
10	2018	4	現在		医療従事者や介助者に資する多機能型水晶体被曝防護機器の開発	国内
11	2018	4	現在		原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育への提案	国内
12	2019	4	現在		水晶体被曝を可視化する医療用ウェアラブル防護デバイスの開発	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	3	国際査読無	国内査読有	1	国内査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	-------	---	-------

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Phantom Study to Determine the Optimal Placement of Eye Dosimeters on Interventional Cardiology Staff	Ishii H, Chida K, Satsurai K, Haga Y, Kaga Y, Abe M, Inaba Y, Zuguchi M	Radiation Protection Dosimetry					20190000
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Performance of the DOSIRIS™ eye lens dosimeter	Ishii H, Haga Y, Sota M, Inaba Y, Chida K	Journal of Radiological Protection					20190000
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	心臓IVR手技における0.75mmPb当量防護眼鏡の遮蔽効果に関する臨床的検討	遠藤 美芽, 芳賀 喜裕, 阿部 美津也, 加賀 勇治, 大友 一輝, 村林 優樹, 稲葉 洋平, 千田 浩一	臨床放射線	65	1	71	75	20190000
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Identification of Potential Biomarkers of Radiation Exposure in Blood Cells by Capillary Electrophoresis Time-of-Flight Mass Spectrometry	Lue Sun, Yohei Inaba, Norie Kanzaki, Mahesh Bekal, Koichi Chida, Takashi Moritake	International Journal of Molecular Sciences					20200000

学会発表

単名	筆頭連名	2	その他の連名	8	合計	10
----	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチュア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第117回日本医学物理学会学術大会	養原伸一	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20190412	20190415	20190412	Evaluation of the occupational dose in CT-guided interventions using MDCT-fluoroscopy	稲葉洋平, 千田浩一
2	国内	第75回日本放射線技術学会総会学術大会	石田隆行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20190412	20190415	20190412	Usefulness Evaluation of Image Quality, Radiation Dose and Metal Artifact Reduction in High Resolution Cone Beam CT	竹内孝至, 高野博和, 羽鳥伸哉, 稲葉洋平
3	国内	第35回日本診療放射線技術学術大会	田中宏	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	大宮ソニックシティ	大宮	日本	20190914	20190916	20190916	高校生における放射線に関する知識の特徴と放射線防護へ向けた教育	大葉 隆, 稲葉洋平, 津山 尚宏, 坪倉 正治, 村上 道夫, 千田 浩一, 大津留 晶
4	国内	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	福西康修	その他の連名	いいえ	口頭(一般)		大阪	日本	20191017	20191019	20191017	歯科ポータブルX線撮影時における空間散乱線量分布の評価	高根 侑美, 稲葉洋平, 鈴木 友裕, 西原 拓也, 石塚 真澄, 小野 勝範
5	国内	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	福西康修	その他の連名	いいえ	口頭(一般)		大阪	日本	20191017	20191019	20191017	当協会における胃X線透視検査の被ばく線量と身体測定データの関連調査	板橋 裕禎, 渡邊 晃成, 藤原 実, 松田 夏枝, 穴戸 玲奈, 石川 智美, 池田 有花, 稲葉洋平
6	国内	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	福西康修	その他の連名	いいえ	口頭(一般)		大阪	日本	20191017	20191019	20191017	胃X線透視検査におけるBody Mass Indexを利用した被ばく線量の推定	渡邊 晃成, 板橋 裕禎, 藤原 実, 松田 夏枝, 穴戸 玲奈, 石川 智美, 池田 有花, 稲葉洋平
7	国内	第9回東北放射線医療技術学術大会	坂本博	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191026	20191027	20191027	当協会における胃 X 線透視装置の被曝線量表示値の実態調査	池田 有花, 稲葉洋平, 渡邊 晃成, 板橋 裕禎, 藤原 実, 松田 夏枝, 穴戸 玲奈, 石川 智美
8	国内	第9回東北放射線医療技術学術大会	坂本博	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191026	20191027	20191027	小児の口内法 X 線撮影における撮影者の介助被曝	鈴木 友裕, 高根 侑美, 西原 拓也, 稲葉洋平, 石塚 真澄, 小野 勝範
9	国内	第9回東北放射線医療技術学術大会	坂本博	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191026	20191027	20191027	口内法 X 線撮影時における空間散乱線量分布の基礎的評価	西原 拓也, 高根 侑美, 鈴木 友裕, 稲葉洋平, 石塚 真澄, 小野 勝範
10	国際	EPSM&AOCMP2019		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)		Perth	Australia	20191028	20191030	20191028	Assessment of the Scattered Radiation Dose during CT-guided Interventions using MDCT-fluoroscopy	Inaba Y, Hitachi S, Chida K

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRiDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	学術会議	日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会	第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会	20191204	20191207	東北大学新青葉山キャンパス(災害研含む)	仙台	日本	500	臨床医学	実行委員	IRiDeS共催	東北大学ラジオアイソトープセンターなど	両方
2	国内	学術会議	日本放射線技術学会・日本放射線技術師会	第9回東北放射線医療技術学術大会	20191026	20191027	仙台国際センター	仙台	日本	500	臨床医学	実行委員	なし		国内

教育活動の概要

兼務の医学系研究科保健学専攻放射線検査学分野を合わせると博士大学院生10名(内災害研所属2名)、修士大学院生10名(内災害研2名)、研究生2名、学部卒研生5名の計27名が所属していた。大学院生に対しては、研究・教育指導として学会発表(国内・国外)や論文指導を行ってきた。また、東北大学医学部保健学放射線技術科学専攻の学部生に対しては、2,3年時の放射線領域に関する授業・学生実験や4年時の放射線検査学領域における卒業研究に関わった。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	放射線計測学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
2	放射化学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
3	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	
4	臨床撮影技術学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	8
5	核医学検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
6	核医学物理学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
7	画像工学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	6
8	RI検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	2
9	放射線検査学特論	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	1
10	放射線検査学トレーニング	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	1
11	医用情報学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
12	医用情報学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
13	生体応用科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
14	生体応用科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
15	医用情報技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	15
16	医用情報技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	15
17	生体応用技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	15
18	生体応用技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	15
19	保健学論文研究	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、金曜フォーラムWGとして年間5件のIRIDeS金曜フォーラムを企画運営した。また、展示WGとして震災対策技術展2019および第28回全国救急隊員シンポジウムにて災害科学国際研究所の最新の研究成果および活動に関する展示を展開した。さらに、高校生を対象とした放射線に関する講演も行った。今後も医療従事者のみならず、一般市民に対する放射線教育に対しても重きを置いて、放射線に対する正しい知識の普及に今後も取り組んでいきたい。台風19号時には、東北大学病院DMAT隊員の一人として宮城県庁内にて宮城県DMAT活動拠点本部活動を行い、DMAT隊の運用に加え、病院避難や患者搬送などの調整を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	第62回IRIDeS金曜フォーラム	20190531	20190531	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	40	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	平成30年度共同研究成果報告会 およびプロジェクトエリア・ユニット 報告会	20190720	20190720	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	100	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	第64回IRIDeS金曜フォーラム	20190927	20190927	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	40	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
4	国内	東北大学災害科学国際研究所	第65回IRIDeS金曜フォーラム	20191213	20191213	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	40	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
5	国内	東北大学災害科学国際研究所	第66回IRIDeS金曜フォーラム	20200221	20200221	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営	40	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	宮城県石巻高等学校 PTA 進路講演会	招待講演	20190427	20190427	PTA進路講演会「西高生に伝えたいこと ～Looking back on my life～」	企業	石巻高等学校	石巻高等学校講堂	石巻市	日本	500

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流 年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	産業医科大学、産総研	樺田尚樹、盛武敬、孫略	20190923	共同研究	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻	仙台	運営	20

# 俞志前 助教

YU Zhiqian

災害医学研究部門 災害精神医学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	首都医科大学	歯学部	1999	8	東北大学	歯学研究科	2006	3	Ph.D	2006	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2006	9	東北大学大学院 歯学研究科 口腔診断学分野	博士研究員
2	2006	10	2008	3	東北大学 先進理工学研究機構	特任助教
3	2008	4	2012	3	東北大学大学院 医学研究科 精神神経生物学分野	博士研究員
4	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

### 学会活動

#### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6	7
	日本神経科学大会	日本生物学的精神医学会	Society for Neuroscience	日本統合失調症学会	日本精神神経薬理学会	日本精神神経学会	日本免疫学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本生物学的精神医学会	2020年合同年会プログラム委員	委員	20190313

#### 研究分野・キーワード

専門分野	1	2	3
	神経科学	精神免疫	災害精神医学

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学系研究科	東北大学病院共通機器室	委員	20170401

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

ToMMo コホート研究では産後うつ様症状を呈する妊婦の血漿を対象としたメタボローム解析を行い、妊産婦20,000名の妊娠中、産後の精神状態、生活習慣等の情報解析のためにデータを整理・統合し、顕著な産後うつ状態250名と対照者250名の産中および産後の血漿のメタボローム解析を完了し、論文を作成中である。また、産後うつ様症状を呈する100名の妊産婦を対象として追跡調査を行い、ウェアラブル生体モニターから妊娠中および産後の運動量、睡眠パターン、心拍、生活情報等のデータ集積を行い、産後うつの評価尺度（EPDS）および愛着（MIBS）による心理評価と併せて、機械学習によって予測因子を分析した。さらに、女性のうつ病の生涯有病率が男性より高いにも関わらず、これまで雌マウスのうつ病モデル確立は困難であったが、当グループは雌のうつ病モデルマウスを確立した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	現在		統合失調症における環境要因のエピゲノム解析と分子病態の解明	国内
2	2016	4	現在		栄養・生活習慣・炎症に着目したうつ病の発症要因解明と個別化医療技術開発	国内

### 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	-------	-------

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A single nucleotide polymorphism (-250 A/C) of the GFAP gene is associated with brain structures and cerebral blood flow	Yuta Takahashi, Hikaru Takeuchi, Mai Sakai, Zhiqian Yu, Yoshie Kikuchi, Fumiaki Ito, Hiroo Matsuoka, Osamu Tanabe, Jun Yasuda, Yasuyuki Taki, Ryuta Kawashima, Hiroaki Tomita	Psychiatry and clinical neurosciences	74	1	49	55	20200101

学会発表

単名	筆頭連名	3	その他の連名	合計	3
----	------	---	--------	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第41回日本生物学的精神医学会	岸本 年史	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	朱鷺メッセ	新潟	日本	20190622	20190623	20190623	反復社会挫折ストレスにおける前頭前野の遺伝子発現	<u>愈 志前</u> , 坂井 舞, 小野千晶, 富田 博秋
2	国内	第42回 日本神経科学大会	岡本 仁	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	朱鷺メッセ	新潟	日本	20190725	20190728	20190726	Maternal infection alters epigenome of schizophrenia risk loci in female brain	<u>Zhiqian Yu</u> , Mai Sakai, Chiaki Ono, Yuta Takahashi, Hiroaki Tomita
3	国際	Neuroscience 2019	Diane Lipscombe	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	McCormick Place	シカゴ	アメリカ	20191019	20191023	20191021	373.11. Restraint stress suppresses microglia activation and production of pro-inflammatory cytokines	<u>Zhiqian Yu</u> , Mai Sakai, Chiaki Ono, Hiroaki Tomita

C. 教育活動

教育活動の概要

① 当分野所属する東北大学大学院医学系研究科の博士2年生, および博士1年生の研究活動の指導を行った。② 東北大学医学部 2 年生 3 名および 3 年生 2名の基礎修練の指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

所内・所外の研究者および市民向けセミナーの運営担当を務めた。世界防災フォーラムや市民向けの展示会の展示および運営担当を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	7 件
----	-----

No.	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第21回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20190613	20190613	医学部6号館	仙台市	日本	運営担当	18	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
2	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第22回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20190808	20190808	医学部6号館	仙台市	日本	運営担当	16	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
3	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第23回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20190913	20190913	医学部6号館	仙台市	日本	運営担当	21	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
4	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第24回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20191218	20191218	医学部6号館	仙台市	日本	運営担当	17	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
5	国内	災害科学国際研究所 災害と健康 ユニット	第25回「災害と健康」学際研究推進セミナー	20200212	20200212	医学部6号館	仙台市	日本	運営担当	23	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
6	国際	災害科学国際研究所	第2回 世界防災フォーラム	20191109	20191112	仙台国際センター	仙台市	日本	運営担当	900	IRIDeS主催・共同主催	講演会・セミナー	
7	国内	エグジビジョンテクノロジー株式会社	第10回 震災対策技術展	20201109	20201111	仙台国際センター	仙台市	日本	運営担当	1,000	IRIDeS展示	その他	

## 伊藤 潔 教授

## ITO Kiyoshi

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1986	3					医学博士	1996	9

## 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	1986	5	1986	6	東北大学医学部産科婦人科	医員
2	1986	7	1989	10	福島県郡山市太田総合病院産婦人科	医員(研修医)
3	1989	11	1992	3	東北大学医学部産科婦人科	助手
4	1992	4	1994	3	米国ジョージワシントン大学病理学教室	客員研究員
5	1994	4	1994	7	米国ヴァージニア医科大学病理学教室	客員研究員
6	1994	8	1996	3	東北大学産科婦人科	助手
7	1996	4	1997	3	青森県八戸市立市民病院 産婦人科	医長
8	1997	4	1998	12	青森県十和田市立中央病院 産婦人科	科長
9	1999	1	2002	3	東北大学 産科婦人科	講師
10	2001	2	2012	3	宮城県対がん協会細胞診センター所長(兼務 2012年3月まで)	所長(兼務)
11	2002	4	2009	8	東北大学大学院医学系研究科(婦人科学分野)	助教授
12	2009	9	2012	3	東北大学大学院医学系研究科(産科科学分野)	准教授
13	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本生殖内科学会	American Association for Cancer Research (AACR)	International Gynecologic Cancer Society (IGCS)	The Endocrine Society	日本産科婦人科学会	日本婦人科腫瘍学会	日本臨床細胞学会	日本婦人科がん検診学会	日本癌学会	日本内科学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本産科婦人科学会		代議員	20030401
2	日本婦人科腫瘍学会		評議員	20030401
3	日本婦人科がん検診学会		理事	20030401
4	日本臨床細胞学会		理事	20130401
5	東北臨床細胞学会		理事長	20180701
6	宮城臨床細胞学会		会長	20161001
7	日本がん検診・診断学会		評議員	20110000
8	ホルモンと癌研究会		理事	20130801
9	ホルモンと癌研究会		理事長	20190801
10	日本婦人科腫瘍学会	ガイドライン作成委員会	委員	20130000
11	日本がん治療学会	産婦人科診療ガイドライン作成委員会	委員	20170401
12	日本生殖内科学会		理事	20150401
13	日本臨床細胞学会	地方連絡委員会	委員長	20190401
14	日本産科婦人科学会	災害・復興対策委員会	委員	20171210

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害産婦人科学	婦人科腫瘍学	婦人科内科学	がん疫学	婦人科病理学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	大学院合同運営委員会	委員	20190401
2	医学部	医学部運営委員会	委員	20190401
3	医学部	男女共同参画委員会	委員	20140401
4	東北メディカル・メガバンク機構	人事委員会	委員	20130401
5	東北メディカル・メガバンク機構	運営委員会	委員	20130401
6	全学	安全保障輸出管理委員会	委員	20170401



B. 研究活動

研究活動の概要

1. 東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析:最新の検査法、液状化検体法を従来法に代えて行うことで、精度の高い検診を、被災地のみならず日本全国において提供できる可能性があることを明らかにし、その成果を国際査読誌に発表した。また、沿岸部の被災地では、それ以外の地域に比べて検診受診率の回復率が低いことを明らかにし、その成果を国際査読誌に発表するとともに、プレスリリースを行った。
2. 災害時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析:ストレスホルモンに関連する様々な因子が、婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響を解析し、発表を行った。

研究課題

	期間		研究課題(内容)	所外連携
	開始年	終了年		
1	1999	現在	婦人科腫瘍におけるホルモン調節機構の研究	両方
2	2001	現在	婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
3	2012	現在	災害時およびそれ以降の婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
4	2012	現在	災害ストレスが婦人科腫瘍のホルモン調節機構に及ぼす影響に関する研究	国内
5	2012	現在	災害時の母子保健に関する研究	国内
6	2012	現在	災害後の産婦人科疾患発生率の動向に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cohort Profile: Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study (TMM BirThree Cohort Study): Rationale, Progress and Perspective.	Nakayama K, Ito K, Egawa S, Chida K, Kodama E, Kiyomoto H, Ishii T, Tsuboi A, Tomita H, Taki Y, Kawame H, Suzuki K, Ishii N, Ogishima S, Mizuno S, Takai-Igarashi T, Minegishi N, Yasuda J, Igarashi K, Shimizu R, Nagasaki M, Tanabe O, Koshiha S, Hashizume H, Motohashi H, Tominaga T, Ito S, Tanno K, Sakata K, Shimizu A, Hitomi J, Sasaki M, Kinoshita K, Tanaka H, Kobayashi T, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M; Tohoku Medical Megabank Project Study Group .	Int J Epidemiol.			Epub ahead of print		20190825
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A comparison of liquid-based and conventional cytology using data for cervical cancer screening from the Japan Cancer Society.	Ito K, Kimura R, Konishi H, Ozawa N, Yaegashi N, Ohashi Y, Suzuki M, Kakizoe T.	Jpn J Clin Oncol.	50	2	138	144	20200217
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Study profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study.	Hozawa A, Tanno K, Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Hirata T, Narita A, Kogure M, Nochioka K, Sasaki R, Takanashi N, Otsuka K, Sakata K, Kuriyama S, Kikuya M, Tanabe O, Sugawara J, Suzuki K, Suzuki Y, Kodama EN, Fuse N, Kiyomoto H, Tomita H, Urano A, Hamanaka Y, Metoki H, Ishikuro M, Obara T, Kobayashi T, Kitatani K, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Satoh M, Ohmomo H, Tsuboi A, Egawa S, Ishii T, Ito K, Ito S, Taki Y, Minegishi N, Ishii N, Nagasaki M, Igarashi K, Koshiha S, Shimizu R, Tamiya G, Nakayama K, Motohashi H, Yasuda J, Shimizu A, Hachiya T, Shiwa Y, Tominaga T, Tanaka H, Oyama K, Tanaka R, Kawame H, Fukushima A, Ishigaki Y, Tokutomi T, Osumi N, Kobayashi T, Nagami F, Hashizume H, Arai T, Kawaguchi Y, Higuchi S, Sakaide M, Endo R, Nishizuka S, Tsuji I, Hitomi J, Nakamura M, Ogasawara K, Yaegashi N, Kinoshita K, Kure S, Sakai A, Kobayashi S, Sobue K, Sasaki M, Yamamoto M.	J Epidemiol.			Epub ahead of print		20200111

4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Divergent metabolic responses dictate vulnerability to NAMPT inhibition in ovarian cancer.	Kudo K, Nomura M, Sakamoto Y, Ito S, Morita M, Kawai M, Yamashita Y, Ito K, Yamada H, Shima H, Yaegashi N, Tanuma N.	FEBS Lett.			Epub ahead of print			20200117
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cervical cancer screening rates before and after the Great East Japan Earthquake in the Miyagi Prefecture, Japan.	Miki Y, Tase T, Tokunaga H, Yaegashi N, Ito K.	PLoS One.	15	3	e0229924.			20200311

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	日本の子宮頸がん検診の現状と課題	学術雑誌	無	はい	産婦人科の実際	69	3	213	217	20200301	伊藤 潔、三木康宏、小澤信義、八重樫伸生	共著	なし

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	7	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	国際臨床細胞学会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	シドニー国際会議場	シドニー	オーストラリア	20190505	20190509	20190505	Positive peritoneal cytology is a recurrence risk factor in stage 1 endometrial cancer	Ishibashi M, Tokunaga H, Okamoto S, Shiga N, Shimada M, Ito K, Yaegashi N.
2	国内	第92回日本内分泌学会	笹野公伸	筆頭連名	はい	口頭(招待)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	災害科学、災害医学、そしてホルモンー災害科学国際研究所での取り組みを中心にー	伊藤 潔、三木康宏
3	国内	第92回日本内分泌学会	笹野公伸	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190509	ホルモン依存性癌におけるホルモシグナルの可視化	三木康宏、岩淵英里奈、鈴木貴、笹野公伸、伊藤 潔
4	国内	第92回日本内分泌学会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190509	子宮内膜癌におけるステロイドホルモンとKruppel-like factor5の発現	三木康宏、吉田伶奈、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔
5	国内	第78回日本癌学会	石川冬木	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	国立京都国際会館	京都	日本	20190926	20190928	20190928	Targeting NAD+ Metabolism of Ovarian Cancer as New Therapeutic Strategy(NAD+代謝を標的とした卵巣癌における新しい治療戦略)	工藤敬、坂本良美、野村美有樹、伊藤 潔、山田秀和、島礼、八重樫伸生、田沼延公
6	国内	第115回日本精神神経学会	染谷俊幸	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	朱鷺メッセ	新潟	日本	20190620	20190622	20190620	実践的災害精神医学への学際的取り組みー東北大学精神科と災害科学研究拠点/災害科学国際研究所および地域との連携	奥山 純子、片柳 光昭、鈴木 智美、富本 和歩、東海林 渉、上田 一気、佐久間 篤、松本 和紀、佐藤 翔輔、丸谷 浩明、寺田 賢一郎、坂村 俊一、原玉 栄一、伊藤 潔、今村 文彦、富田 博秋
7	国内	第43回日本女性栄養・代謝学会学術集会	山田秀人	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	神戸国際会議場	神戸	日本	20190905	20190906	20190905	子宮内膜癌発症機序と多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)	伊藤 潔
8	国内	第71回日本産科婦人科学会	吉川史隆	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20190411	20190414	20190412	Targeting Metabolism of Ovarian Cancer as New Therapeutic Strategy	Kudo K, Yamada H, Ito K, Yaegashi N
9	国内	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate	岩淵明	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	いわて県民情報交流センター「アイーナ」	盛岡	日本	20190717	20190719	20190718	Establishment of disaster health databases to provide effective disaster health response and preparedness	J Okuyama, Z Yu, K Ito, S Kuriyama, A Homzawa, I Tsuji, H Tomita

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(のち外観人)	分野	担当	IRIDeSとの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	宮城臨床細胞学会	第34回宮城臨床細胞学会学術集会	20200202	20190202	宮城県医師会館	仙台	日本	120	臨床医学	会長	なし		なし

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学や宮城教育大学で講義を行い、災害と産婦人科疾患あるいはがん検診との関連を講義に取り入れた教育活動を行い、災害科学あるいは災害医学への理解を深めるように指導している。指導学生一人は、本年度に医学博士号を取得した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)題目:産婦人科医療・医学と大震災	東北大学	全学			後期	1
2	人間と健康	宮城教育大学	全学		1	前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築し、さらに発展させるため、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会で役職を務め、積極的に活動している。昨年度より日本対がん協会との共同研究を行い、論文化するとともに、対がん協会報でもその成果が取り上げられた。さらに、日本医師会・関東経済産業局からの依頼で、「そのとき現場で何が起ったかー災害科学国際研究所での取り組みを中心にー」と題して、日本医師会館で講演を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学、 河北新報社、 東北放送	第11回元気！健康！フェア in とうほく	20190406	20190407	仙台市・国際 センター	仙台	日本	実行委員会 委員	10000	なし	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	APRU Multi-Hazards (MH) Summer School	招待講演	20190722	20190722	Overview of the International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	なし	APRU	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	70
2	セミナー	医師主導による医療 機器開発のための ニーズ創出・事業化 支援セミナー	招待講演	20190725	20190725	そのとき現場で何が起ったか ー災害科学国際研究所での取り組みを 中心にー	行政	日本医師会・ 関東経済産業 局	日本医師会館	東京	日本	400
3	講演会	2020年度がん検診 事業説明会並びにがん 予防研修会	招待講演	20191003	20191003	子宮がん ー世界、日本、宮城県の動向ー	行政	宮城県対がん 協会	フォレスト仙台	仙台	日本	150

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	宮城県対がん協会		理事	20020201
2	民間・NPO	宮城県対がん協会	婦人科検診診断委員会	委員長	20120401
3	民間・NPO	宮城県医師会		予備代議員	20080401
4	民間・NPO	宮城県医師会	子宮がん検診精度管理委員会	委員	20080401
5	民間・NPO	宮城県医師会	細胞診検査精度管理委員会	委員	20130401
6	民間・NPO	仙台市医師会	子宮がん検診委員会	委員	20080401
7	民間・NPO	NPO法人婦人科腫瘍関連支援機構		副理事長	20060401

## 三木 康宏 講師

MIKI Yasuhiro

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	酪農学園大学	獣医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2007	3	博士(医学)	2007	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	2001	3	ボソリサーチセンター 第3研究部	研究員
2	2006	4	2007	3	日本学術振興会	特別研究員DC2
3	2007	4	2010	3	東北大学大学院医学系研究科	助教
4	2007	5	現在		東北大学病院	兼務
5	2008	4	現在		東北大学薬学部	非常勤講師
6	2010	4	2012	10	東北大学大学院歯学研究科	助教
7	2012	4	現在		仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科	非常勤講師

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本内分泌学会	日本ステロイドホルモン学会	日本癌学会	日本病理学会	日本組織細胞化学会	日本生殖内分泌学会	科学技術社会論学会	米国内分泌学会	災害動物医療研究会	ホルモンと癌研究会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本ステロイドホルモン学会	評議員会	評議員	20071101
2	日本内分泌学会	評議員会	評議員	20090301
3	日本組織細胞化学会	評議員会	評議員	20200100
4	International Journal of Molecular Sciences	Editorial Board	Guest Editor	20170000
5	Cancers	Editorial Board	Guest Editor	20180000
6	International Journal of Molecular Sciences	Editorial Board	Editorial Board	20200300

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	腫瘍学	内分泌学	毒性学	災害動物医療学

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	遺伝子実験センター		遺伝子組換え実験安全主任者	20190000

## B. 研究活動

研究活動の概要

子宮内膜癌を対象に行った検討において、ストレスホルモンであるコルチゾールや関連ホルモン、関連因子の発現について検討した。特にDHEAは子宮内膜癌の抑制に関与することを明らかにし、正常組織においてストレス防御的に作用するのではと示唆される。ステロイドホルモン濃度をもとにした階層クラスター解析によって、ストレスホルモンの作用を追求するためには、他のホルモン(男性・女性ホルモンおよびその前駆ホルモン)の機能を加味し、包括的な検討が必要であると考えられる。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	4	現在		ヒト組織および疾患(乳癌、肺癌)におけるステロイドホルモン合成・代謝に関する研究	国内
2	2012	8	現在		ストレスホルモンの婦人科疾患におよぼす影響に関する研究	国内
3	2012	10	現在		基礎研究者の研究モチベーションに対する震災の影響に関する研究	国内
4	2013	4	現在		災害とワーキング・ドッグに関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	4	合計	6	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Multiple primary cancers associated with endometrial and ovarian cancers: An analysis based upon the Japan Autopsy Annual Database from 2002 to 2010.	Yasuhiro Miki, Yumi Sugawara, Yukiko Shibahara, Ichiro Tsuji, Hironobu Sasano, Kiyoshi Ito	The journal of obstetrics and gynaecology research.	45	5	1012	1018	20190500
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The significance of lipid accumulation in breast carcinoma cells through perilipin 2 and its clinicopathological significance.	Shimpei Kuniyoshi, Yasuhiro Miki, Akari Sasaki, Erina Iwabuchi, Katsuhiko Ono, Yoshiaki Onodera, Hisashi Hirakawa, Takanori Ishida, Naoki Yoshimi, Hironobu Sasano	Pathology international	69	8	463	471	20190800
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Co-expression of carcinoembryonic antigen-related cell adhesion molecule 6 and 8 inhibits proliferation and invasiveness of breast carcinoma cells	Erina Iwabuchi, Yasuhiro Miki, Yoshiaki Onodera, Yukiko Shibahara, Kiyoshi Takagi, Takashi Suzuki, Takanori Ishida, Hironobu Sasano	Clinical & Experimental Metastasis	36	5	423	432	20191000
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Systemic distribution of progesterone receptor subtypes in human tissues	Teeranut Asavasupreechar, Ryoko Saito, Yasuhiro Miki, Dean P. Edwards, Viroj Boonyaratankornkit, Hironobu Sasano	Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology	199		105599		20200225
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Significance of glucocorticoid signaling in triple-negative breast cancer patients: a newly revealed interaction with androgen signaling	Ayako Kanai, Keely May McNamara, Erina Iwabuchi, Yasuhiro Miki, Yoshiaki Onodera, Fouzia Guestini, Freeha Khalid, Yasuaki Sagara, Yasuyo Ohi, Yoshiaki Rai, Rin Yamaguchi, Maki Tanaka, Minoru Miyashita, Takanori Ishida, Hironobu Sasano	Breast Cancer Research and Treatment	180	1	97	110	20200200
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cervical cancer screening rates before and after the Great East Japan Earthquake in the Miyagi Prefecture, Japan	Yasuhiro Miki, Toru Tase, Hideki Tokunaga, Nobuo Yaegashi, Kiyoshi Ito	PLOS ONE	15	3	e0229924		20200311

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	日本の子宮頸がん検診の現状と課題	学術雑誌	無	はい	婦人科の実際	69	3	213	217	20200300	伊藤 潔, 三木 康宏	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	12	合計	16
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	110TH AACR ANNUAL MEETING	John D. Carpten	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Georgia World Congress Center	Atlanta	USA	20180329	20190403	20190403	The expression of carcinoembryonic antigen-related cell adhesion molecule 6 and 8 in breast cancer	Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Kiyoshi TAKAGI, Yoshiaki ONODERA, Yukiko SHIBAHARA, Takanori ISHIDA, Takashi SUZUKI, Hironobu SASANO
国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	筆頭連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190509	ホルモン依存性癌におけるホルモンシグナルの可視化	三木康宏, 岩淵英里奈, 鈴木 貴, 笹野公伸, 伊藤 潔
国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190509	子宮内腺癌におけるステロイドホルモンと Krüppel-like factor 5 の発現	三木康宏, 吉田侑奈, 高木清司, 鈴木 貴, 伊藤 潔
国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190510	Visualization of estrogen receptor dimers in breast cancer cells	Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Hironobu SASANO
国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	災害科学, 災害医学, そしてホルモン-災害科学国際研究所での取り組みを中心に	伊藤 潔, 三木 康宏
国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	アンドロゲンにより誘導される carcinoembryonic antigen-related cell adhesion 6 は乳癌の薬剤奏効性に関与する	岩淵英里奈, 三木康宏, 金井綾子, 宮下 稔, 石田孝宣, 笹野公伸

7	国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	トリプルネガティブ乳癌におけるグルココルチコイド作用の意義に関する検討	金井綾子, Mcnamara Keely May, 三木康宏, 小野寺好明, 岩淵英里奈, 山口倫, 田中真紀, 相良安昭, 大井恭代, 宮下 穰, 石田孝宣, 笹野 公伸
8	国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	Systemic distribution of Progesterone receptor (PR) subtype in human	Teeranut ASAVASUPREETCHA R, Ryoko SAITO, Yasuhiro MIKI, Viroj BOONYARATANAK ORNKIT, Hironobu SASANO
9	国内	第92回 日本内分泌学会学術集会	笹野公伸	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20190509	20190511	20190511	Grb2 and Progesterone Receptor Interaction Mediated Extracellular Signaling in Breast Cancer Cells	Nattamolphan WITTAYAVIMOL, Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Yoshiaki ONODERA, Prangwan PATEETIN, Hironobu SASANO, Viroj BOONYARATANAK ORNKIT
10	国内	第60回 日本組織細胞化学会総会・学術集会	齋藤尚亮	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	神戸商工会議所	神戸市	日本	20190919	20190921	20190919	乳癌細胞におけるFe65発現の生物学臨床的意義の検索	徐 瑋瑋, 岩淵英里奈, 三木康宏, 石田孝宣, 笹野公伸
11	国内	第78回 日本癌学会学術総会	石川冬木	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都国際会館	京都市	日本	20190926	20190928	20190926	The expression of heterogeneous nuclear ribonucleoprotein K in breast cancer	Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO
12	国内	第78回 日本癌学会学術総会	石川冬木	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都国際会館	京都市	日本	20190926	20190928	20190928	The significance of lipid accumulation in breast carcinoma cells through perilipin 2	Shimpei KUNIYOSHI, Yasuhiro MIKI, Erina IWABUCHI, Yoshiaki ONODERA, Takanori ISHIDA, Naoki YOSHIMI, Hironobu SASANO
13	国内	第27回 日本ステロイドホルモン学会学術集会	緒方勤	単名	はい	その他	アクトシティ浜松	浜松市	日本	20191112	20191112	20191112	Protein-protein interaction 検出技術によるステロイドホルモン・シグナルの可視化	三木康宏
14	国際	Tohoku University Thematic Forum for Creativity: Cancer -from Biology to Acceptance -		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	星陵オーディトリウム	仙台市	日本	20191202	20191203	20191202	Roles of CLEC2D in breast cancer cell proliferation	Yui KURIHARA, Kiyoshi TAKAGI, Yasuhiro MIKI, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO, Takashi SUZUKI
15	国際	Tohoku University Thematic Forum for Creativity: Cancer -from Biology to Acceptance -		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	星陵オーディトリウム	仙台市	日本	20191202	20191203	20191202	Androgen-induced C-C motif chemokine ligand 5 secretion of macrophages promote breast cancer progression by interacting with CCR3	Mio YAMAGUCHI, Kiyoshi TAKAGI, Yasuhiro MIKI, Yoshiaki ONODERA, Takanori ISHIDA, Hironobu SASANO, Takashi SUZUKI
16	国内	第24回 日本生殖内分泌学会学術集会	市川智彦	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	砂防会館	東京	日本	20200111	20200112	20200112	子宮内膜癌におけるKruppel-like factor 5 (KLF5)の発現	三木康宏, 高木清司, 鈴木 貴, 伊藤 潔

C. 教育活動

教育活動の概要

医学系研究科博士課程のアドバイザー教員として、学位論文作成指導(医学科2名、内留学生1名)、保健学科1名)および学位審査(2名、内留学生2名)に携わった。また、協力教員として医学系研究科修士論文、非常勤講師として薬学部学士論文の指導にそれぞれ携わった。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	病理学	東北大学	薬学部	薬学科	4	6セメ	4
2	病理学	仙台青葉学院短期大学	リハビリテーション学科	理学療法専攻/ 理学療法専攻	1	後期	11
3	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

ワーキング・ドッグに関する学会、団体に参加し、災害時におけるペットの同行避難に関する議論を行った。また、それらの情報を補助犬情報センターに提供し、身体障害者補助犬の同伴避難に関する議論を行った。

## 栗山 進一 教授

## KURIYAMA Shinichi

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部物理学科	1987	3					理学士	1987	3
2	大阪市立大学	医学部医学科	1993	3					医学士	1993	3
3	東北大学				東北大学	大学院医学系研究科			博士(医学)	2003	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	5	1993	7	大阪市立大学医学部付属病院 第3内科	医師
2	1993	8	2003	3	大同生命保険相互会社	産業医(診査医長)
3	2003	4	2005	5	東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学分野	助手
4	2005	6	2006	6	東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学分野	講師
5	2006	7	2007	3	東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学分野	助教授
6	2007	4	2010	7	東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学分野	准教授
7	2010	8	2012	6	東北大学大学院 医学系研究科 環境遺伝医学総合研究センター 分子疫学分野	教授
8	2012	7	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害公衆衛生学分野	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本疫学会	日本公衆衛生学会	日本小児神経学会	日本人類遺伝学会	人工知能学会	日本メディカルAI学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本疫学会	理事会	理事	20180201
2	日本疫学会	奨励賞選考委員会	委員	20180524
3	日本疫学会	疫学リソース利用促進委員会倫理問題検討WG	委員長	20180524

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	生活習慣病の疫学	神経疾患の分子疫学研究	大規模災害と健康に関する疫学研究

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北メディカル・メガバンク機構	建物管理委員会	委員長	20150401
2	東北メディカル・メガバンク機構	解析情報管理セキュリティ小委員会	委員	20180000
3	東北メディカル・メガバンク機構	GMRC運営委員会	委員	20180000
4	東北メディカル・メガバンク機構	スーパーコンピュータ運営委員会	委員	20180000
5	東北メディカル・メガバンク機構	情報・システム構築委員会	委員	20180000
6	東北メディカル・メガバンク機構	災害交通医療情報学寄附研究部門運営良い無き	委員	20180000
7	東北メディカル・メガバンク機構	子どもコホートセンター運営委員会	委員	20180401
8	医学部	環境遺伝医学総合研究センター運営委員会	委員	20110201
9	本部	研究大学強化促進事業実施委員会	委員	20150401
10	医学部	ビッグデータメディスンセンター委員会	委員	20150000

B. 研究活動

研究活動の概要

2019年度の研究活動においては、東日本大震災の曝露と低出生体重児の出産および早産との関連を明らかにする研究を主として行った。妊娠初期に2010/3/11を含む妊婦を震災非曝露群、妊娠初期に2011/3/11を含む妊婦を震災曝露群、妊娠初期に2012/3/11を含む妊婦を震災曝露後群として比較したところ、震災曝露後群において震災曝露と低出生体重児の出産との間に有意な関連が認められた。また、妊娠初期の震災曝露と早産との間に、有意ではないものの、点推定値の上昇が認められた。本研究の結果が得られた理由として、震災後のストレスの多い環境が継続していたことや、震災直後の被災地の妊婦に対する専門家による健康相談などの手厚い支援が、時間の経過とともに薄くなっていくことが推測され、今後大規模災害後の支援の在り方に関して政策提言を行った。

研究課題

	期間		研究課題(内容)	所外連携
	開始年	終了年		
1	2009	4 現在	緑茶摂取と健康に関する前向きコホート研究(掛川スタディ)	国内
2	2011	4 現在	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	国内
3	2011	4 現在	妊娠中の大規模災害罹災が児の健康に与える大規模疫学調査	国内
4	2012	4 現在	東日本大震災後の小中学生の健康に関する実態調査(東北メディカル・メガバンク計画・地域子ども長期健康調査)	国内
5	2012	4 現在	大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(東北メディカル・メガバンク計画・三世代コホート調査)	国内
6	2019	4 現在	アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と自閉スペクトラム症の戦略的病態解明	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	18	合計	19	うち	国際査読有	19	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mother-to-infant bonding failure and intimate partner violence during pregnancy as risk factors for father-to-infant bonding failure at 1 month postpartum: an adjunct study of the Japan Environment and Children's Study.	Nishigori H, Obara T, Nishigori T, Metoki H, Mizuno S, Ishikuro M, Sakurai K, Hamada H, Watanabe Z, Hoshiai T, Arima T, Nakai K, Kuriyama S, Yaegashi N; Miyagi Regional Center of Japan Environment & Children's Study Group	Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine					PubMed d PMID: 30563397.	20190415
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Higher prevalence of hypertensive disorders of pregnancy in women who smoke: the Japan environment and children's study.	Tanaka K, Nishigori H, Watanabe Z, Iwama N, Satoh M, Murakami T, Hamada H, Hoshiai T, Saito M, Mizuno S, Sakurai K, Ishikuro M, Obara T, Tatsuta N, Fujiwara I, Kuriyama S, Arima T, Nakai K, Yaegashi N, Metoki H; and Japan Environment & Children's Study Group.	Hypertension Research	42	2	558	566	20190400	
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Respiratory resistance among adults in a population-based cohort study in Northern Japan.	Miura E, Tsuchiya N, Igarashi Y, Arakawa R, Nikkuni E, Tamai T, Tabata M, Ohkouchi S, Irokawa T, Ogawa H, Takai-Igarashi T, Suzuki Y, Kuriyama S, Tamiya G, Hozawa A, Yamamoto M, Kurosawa H.	Respiratory Investigation	57	3	274	281	20190500	
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Examination of the prescription of antiepileptic drugs to prenatal and postpartum women in Japan from a health administrative database.	Ishikawa T, Obara T, Jin K, Nishigori H, Miyakoda K, Suzuka M, Ikeda-Sakai Y, Akazawa M, Nakasato N, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N.	Pharmacoepidemiology and Drug Safety	28	6	804	811	20190600	
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Construction of JRG (Japanese reference genome) with single-molecule real-time sequencing.	Nagasaki M, Kuroki Y, Shibata TF, Katsuoka F, Mimori T, Kawai Y, Minegishi N, Hozawa A, Kuriyama S, Suzuki Y, Kawame H, Nagami F, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Kojima K, Misawa K, Tanabe O, Fuse N, Tanaka H, Yaegashi N, Kinoshita K, Kure S, Yasuda J, Yamamoto M.	Human Genome Variation	6		27		20190607	
6	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	3.5KJPNv2: an allele frequency panel of 3552 Japanese individuals including the X chromosome.	Tadaka S, Katsuoka F, Ueki M, Kojima K, Makino S, Saito S, Otsuki A, Gocho C, Sakurai-Yageta M, Danjoh I, Motoike IN, Yamaguchi-Kabata Y, Shiota M, Koshiba S, Nagasaki M, Minegishi N, Hozawa A, Kuriyama S, Shimizu A, Yasuda J, Fuse N; Tohoku Medical Megabank Project Study Group, Tamiya G, Yamamoto M, Kinoshita K.	Human Genome Variation	6		28		20190618	



7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association of Feeding Practice with Childhood Overweight and/or Obesity in Affected Areas Before and After the Great East Japan Earthquake.	Kuniyoshi Y, Kikuya M, Matsubara H, Ishikuro M, Obara T, Kure S, Kuriyama S, Kuniyoshi Y, Kikuya M, Matsubara H, Ishikuro M, Obara T, Kure S, Kuriyama S.	Breastfeeding Medicine	14	6	382	389	20190600
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Outlier detection for questionnaire data in biobanks.	Sakurai R, Ueki M, Makino S, Hozawa A, Kuriyama S, Takai-Igarashi T, Kinoshita K, Yamamoto M, Tamiya G.	International Journal of Epidemiology	48	4	1305	1315	20190801
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A training and education program for genome medical research coordinators in the genome cohort study of the Tohoku Medical Megabank Organization.	Sakurai-Yageta M, Kawame H, Kuriyama S, Hozawa A, Nakaya N, Nagami F, Minegishi N, Ogishima S, Takai-Igarashi T, Danjoh I, Obara T, Ishikuro M, Kobayashi T, Aizawa Y, Ishihara R, Yamamoto M, Suzuki Y.	BMC Medical Education	19	1	297		20190802
10	英語	著頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cohort Profile: Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study (TMM BirThree Cohort Study): Rationale, Progress and Perspective.	Kuriyama S, Metoki H, Kikuya M, Obara T, Ishikuro M, Yamanaka C, Nagai M, Matsubara H, Kobayashi T, Sugawara J, Tamiya G, Hozawa A, Nakaya N, Tsuchiya N, Nakamura T, Narita A, Kogure M, Hirata T, Tsuji I, Nagami F, Fuse N, Arai T, Kawaguchi Y, Higuchi S, Sakaida M, Suzuki Y, Osumi N, Nakayama K, Ito K, Egawa S, Chida K, Kodama E, Kiyomoto H, Ishii T, Tsuboi A, Tomita H, Taki Y, Kawame H, Suzuki K, Ishii N, Ogishima S, Mizuno S, Takai-Igarashi T, Minegishi N, Yasuda J, Igarashi K, Shimizu R, Nagasaki M, Tanabe O, Koshihara S, Hashizume H, Motohashi H, Tominaga T, Ito S, Tanno K, Sakata K, Shimizu A, Hitomi J, Sasaki M, Kinoshita K, Tanaka H, Kobayashi T, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M; Tohoku Medical Megabank Project Study Group.	International Journal of Epidemiology				pii: dyz169,	20190825
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Psychological Characteristics of Children at Two Years after the Great East Japan Earthquake: Analyses of Telephone Consultation Records.	Sakama R, Yokokawa H, Fujibayashi K, Naito T, Sato Y, Yamanaka C, Kikuya M, Miyashita M, Kuriyama S.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	246	2	85	92	20191000
12	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Interannual Changes in the Prevalence of Intimate Partner Violence Against Pregnant Women in Miyagi Prefecture After the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study.	Tanoue K, Nishigori H, Watanabe Z, Tanaka K, Sakurai K, Mizuno S, Ishikuro M, Obara T, Tachibana M, Hoshiai T, Saito M, Sugawara J, Tatsuta N, Fujiwara I, Kuriyama S, Arima T, Nakai K, Yaegashi N, Metoki H.	Journal of Interpersonal Violence				886260 519881 517.	20191016
13	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Prefabricated Temporary Housing and Eczema or Respiratory Symptoms in Schoolchildren after the Great East Japan Earthquake: The ToMMo Child Health Study.	Kuniyoshi Y, Kikuya M, Miyashita M, Yamanaka C, Ishikuro M, Obara T, Metoki H, Nakaya N, Nagami F, Tomita H, Hozawa A, Tsuji I, Kure S, Yaegashi N, Kuriyama S.	Disaster Medicine and Public Health Preparedness	13	5-6	905	911	20191200
14	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Reduced sleep efficiency, measured using an objective device, was related to an increased prevalence of home hypertension in Japanese adults.	Hirata T, Nakamura T, Kogure M, Tsuchiya N, Narita A, Miyagawa K, Nochioka K, Urano A, Obara T, Nakaya N, Metoki H, Kikuya M, Sugawara J, Kuriyama S, Tsuji I, Kure S, Hozawa A.	Hypertension Research	43	1	23	29	20200100
15	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Multiple measurements of the urinary sodium-to-potassium ratio strongly related home hypertension: TMM Cohort Study.	Kogure M, Hirata T, Nakaya N, Tsuchiya N, Nakamura T, Narita A, Miyagawa K, Koshimizu H, Obara T, Metoki H, Urano A, Kikuya M, Sugawara J, Kuriyama S, Tsuji I, Kure S, Hozawa A.	Hypertension Research	43	1	62	71	20200100

16	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Study profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study.	Hozawa A, Tanno K, Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Hirata T, Narita A, Kogure M, Nochioka K, Sasaki R, Takanashi N, Otsuka K, Sakata K, <u>Kuriyama S</u> , Kikuya M, Tanabe O, Sugawara J, Suzuki K, Suzuki Y, Kodama EN, Fuse N, Kiyomoto H, Tomita H, Uruno A, Hamanaka Y, Metoki H, Ishikuro M, Obara T, Kobayashi T, Kitatani K, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Satoh M, Ohmomo H, Tsuboi A, Egawa S, Ishii T, Ito K, Ito S, Taki Y, Minegishi N, Ishii N, Nagasaki M, Igarashi K, Koshiba S, Shimizu R, Tamiya G, Nakayama K, Motohashi H, Yasuda J, Shimizu A, Hachiya T, Shiwa Y, Tominaga T, Tanaka H, Oyama K, Tanaka R, Kawame H, Fukushima A, Ishigaki Y, Tokutomi T, Osumi N, Kobayashi T, Nagami F, Hashizume H, Arai T, Kawaguchi Y, Higuchi S, Sakaida M, Endo R, Nishizuka S, Tsuji I, Hitomi J, Nakamura M, Ogasawara K, Yaegashi N, Kinoshita K, Kure S, Sakai A, Kobayashi S, Sobue K, Sasaki M, Yamamoto M.	Journal of epidemiology						Pub Med PMID: 31932529.	20200111
17	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Effectiveness of seasonal inactivated influenza vaccination in Japanese schoolchildren: an epidemiologic study at the community level.	Kuniyoshi Y, Obara T, Ishikuro M, Matsubara H, Nagai M, Murakami K, Noda A, Kikuya M, Kure S, <u>Kuriyama S</u> .	Human Vaccines & Immunotherapeutics	16	2	295	300	20200200		
18	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Antidepressant prescriptions for prenatal and postpartum women in Japan: A health administrative database study.	Ishikawa T, Obara T, Kikuchi S, Kobayashi N, Miyakoda K, Nishigori H, Tomita H, Akazawa M, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> , Mano N.	Journal of Affective Disorders	264		295	303	20200300		
19	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluating folic acid supplementation among Japanese pregnant women with dietary intake of folic acid lower than 480 µg per day: results from TMM BirThree Cohort Study.	Kikuchi D, Obara T, Usuzaki T, Yonezawa Y, Yamashita T, Oyanagi G, Noda A, Ueno F, Murakami K, Matsubara H, Ishikuro M, Metoki H, Kikuya M, <u>Kuriyama S</u> .	Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine				Pub Med PMID: 32166991.	20200313		

学会発表

単名	3	筆頭連名	0	その他の連名	33	合計	36
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第122回日本小児科学会学術集会	谷内江昭宏	単名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	ホテル日航金沢	金沢	日本	20190419	20190421	201900419	東北メディカル・メガバンクの三代目コホート調査の概要と収集試料・データの利活用	<u>栗山 進一</u>
2	国内	第55回日本循環器病予防学会学術集会	足達 寿	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	久留米シティプラザ	久留米	日本	20190511	20190512	20190511	非肥満者において肝機能指標の組み合わせと糖尿病の関連は飲酒により異なるか	一迫 美美、平田 匠、土屋 菜歩、中村 智洋、成田 暁、小暮 真奈、中谷 直樹、栗山 進一、呉 繁夫、實澤 篤
3	国内	第55回日本循環器病予防学会学術集会	足達 寿	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	久留米シティプラザ	久留米	日本	20190511	20190512	20190512	新規リスク因子(尿ナトリウム比高値・睡眠効率不良)の高血圧への集団寄与危険割合の検討	平田 匠、中村 智洋、小暮 真奈、宮川 健、小原 拓、中谷 直樹、宇留野 晃、菅原 準一、栗山 進一、實澤 篤
4	国内	第61回日本小児神経学会学術総会	齋藤伸治	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	名古屋国際会議場	名古屋	日本	20190531	20190602	20190531	自閉スペクトラム症研究 東北メディカル・メガバンク計画における三代目コホート調査参加児に対する試み	小林 朋子、小林 美佳、山中 千鶴、栗山 進一、呉 繁夫
5	国内	日本計算機統計学会第33回大会	中村智洋	単名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	東北大学	仙台市	日本	20190602		20190602	東北メディカル・メガバンク計画 三代目コホートの概要とその目指すもの	<u>栗山 進一</u>
6	国内	第68回日本アレルギー学会	相良博典	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	東京国際フォーラム	東京	日本	20190614	20190616	20190615	小児気管支喘息の病態・疫学・診断 宮城県3市町村の小学生を対象としたアレルギー疾患期間有症率と寝具ダニアレルゲン量の解析	<u>釣木 潤尚</u> 、押方 智也子、渡辺 麻衣子、栗山 進一、嶋田 貴志、鎌田 洋一、金子 猛、矢内 勝、呉 繁夫

7	国内	第68回日本アレルギー学会	相良博典	その他の連名	いいえ	公募シンポジウム・ワークショップ・パネル	東京国際フォーラム	東京	日本	20190614	20190616	20190615	小児気管支喘息の病態・疫学・診断 宮城県3市町村の小児の寝具ダニアレルゲン量と真菌叢の地域性の検証	押方智也子、渡辺麻衣子、栗山進一、鎌田洋一、金子猛、矢内勝、呉繁夫、釣木澤尚実
8	国内	宮城県公衆衛生学会	小坂 健	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20190712	20190712	20190712	非喫煙妊婦における教育歴と受動喫煙の関連:東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査	村上慶子、小原拓、石黒真美、上野史彦、野田あおい、大柳元、菊谷昌浩、目時弘仁、栗山進一
9	国内	東北公衆衛生学会	坂田清美	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	岩手県民会館	盛岡	日本	20190726	20190726	20190726	母子保健情報と学校保健情報の連係に基づく発育指標の関連	上野史彦、小原拓、村上慶子、野田あおい、大柳元、石黒真美、目時弘仁、黒川修行、栗山進一
10	国内	第63回日本医真菌学会総会・学術集会	亀井克彦	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オークラ千葉ホテル	千葉	日本	20191011	20191012	20191012	宮城県・神奈川県の4市町村の小学生を対象とした寝具の真菌叢・ダニアレルゲン量測定と地域差の解析	押方智也子、渡辺麻衣子、栗山進一、三神直人、鎌田洋一、金子猛、矢内勝、呉繁夫、釣木澤尚実
11	国際	国際DOHaD学会2019		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Melbourne Convention and Exhibition Centre	メルボルン	オーストラリア	20191015	20191019	20191017	Hypertensive disorders of pregnancy and autistic traits in offspring: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Keiko Murakami, Fumiya Yokozeki, Taku Obara, Mami Ishikuro, Masato Nagai, Hiroko Matsubara, Aoi Noda, Satoshi Mizuno, Junichi Sugawara, Soichi Ogishima, Masahiro Kikuya, Hirohito Metoki, Shinichi Kuriyama
12	国際	国際DOHaD学会2019		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Melbourne Convention and Exhibition Centre	メルボルン	オーストラリア	20191015	20191019	20191018	Fruits and vegetables consumption during early pregnancy and the risk of low birth weight in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study.	Yonezawa Yudai, Yamashita Takahiro, Nagai Masato, Obara Taku, Murakami Keiko, Noda Aoi, Matsubara Hiroko, Ishikuro Mami, Suzuki Shigenori, Suganuma Hiroyuki, Kuriyama Shinichi
13	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191023	TMM計画地域住民コホート調査(宮城)調査票項目と総死亡の関連	寶澤 篤、土屋 菜歩、平田 匠、成田 暁、小暮 真奈、中村 智洋、小原 拓、中谷 直樹、丹野 高三、菅原 準一、栗山 進一、辻 一郎、呉 繁夫、布施 昇男、山本 雅之
14	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191023	6.3万人データ分譲に向けて 東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査	土屋 菜歩、中村 智洋、平田 匠、成田 暁、小暮 真奈、村上 慶子、小原 拓、中谷 直樹、丹野 高三、坂田 清美、菅原 準一、栗山 進一、辻 一郎、寶澤 篤
15	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191023	遺伝因子と飲酒量の交互作用と随時血圧値の関連 東北メディカル・メガバンク事業	成田 暁、中谷 直樹、小暮 真奈、田宮 元、中村 智洋、土屋 菜歩、平田 匠、丹野 高三、清水 厚志、菅原 準一、栗山 進一、辻 一郎、木下 賢吾、呉 繁夫、寶澤 篤
16	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191024	肝機能指標(ALT・GGT)の組み合わせと糖尿病の関連	一迫 美美、平田 匠、土屋 菜歩、中村 智洋、成田 暁、小暮 真奈、中谷 直樹、栗山 進一、呉 繁夫、寶澤 篤
17	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191024	東北メディカル・メガバンク機構三世代コホート調査実施から開発された遺伝教育ツール	小林 朋子、山中 千鶴、永井 雅人、菊谷 昌浩、栗山 進一
18	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191024	Dietary patterns during pregnancy and birth weight in Japan.	Takahiro Yamashita, Yudai Yonezawa, Keiko Murakami, Masato Nagai, Fumihiko Ueno, Shinichi Kuriyama
19	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかろのおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191025	睡眠の測定機器から得られた睡眠状況と心理的苦痛との関連	五十嵐有香、小暮 真奈、中村 智洋、土屋 菜歩、平田 匠、成田 暁、宮川 健、宇留野 晃、中谷 直樹、菅原 準一、栗山 進一、呉 繁夫、寶澤 篤

20	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京王プラザホテル	東京	日本	20191025	20191027	20191025	家庭での受動喫煙および能動喫煙の組み合わせと高血圧の関連	平田匠、小暮真奈、成田暁、土屋菜歩、中村智洋、目時弘仁、中谷直樹、丹野高三、菅原準一、栗山進一、辻一郎、呉繁夫、寶澤篤
21	国内	第78回日本公衆衛生学会総会	安田誠史	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高知市文化プラザかおるおぼーと	高知	日本	20191023	20191025	20191025	配偶者同士の生活習慣の一致性とその年齢の影響 ToMMo 地域住民コホート調査	中谷直樹、土屋菜歩、成田暁、石黒真美、目時弘仁、平田匠、小暮真奈、中村智洋、後岡広太郎、中谷久美、辻一郎、呉繁夫、栗山進一、寶澤篤
22	国内	第42回日本高血圧学会総会	石光敏彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京王プラザホテル	東京	日本	20191025	20191027	20191025	高血圧有病率からみた尿ナトリウム比の目標値と必要測定回数の検討 東北メディカル・メガバンク計画コホート調査の成果から	小暮真奈、平田匠、土屋菜歩、中村智洋、宮川健、小清水宏、小原拓、目時弘仁、宇留野晃、菊谷昌浩、菅原準一、栗山進一、辻一郎、呉繁夫、寶澤篤
23	国内	第42回日本高血圧学会総会	石光敏彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京王プラザホテル	東京	日本	20191025	20191027	20191025	非喫煙者における受動喫煙の有無と家庭高血圧の関連	平田匠、小暮真奈、成田暁、佐藤倫広、土屋菜歩、中村智洋、宇留野晃、小原拓、目時弘仁、中谷直樹、菅原準一、栗山進一、呉繁夫、寶澤篤
24	国内	第42回日本高血圧学会総会	石光敏彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	京王プラザホテル	東京	日本	20191025	20191027	20191027	血漿メタボロームと頸動脈内膜中膜肥厚の関連	寶澤篤、小柴生造、平田匠、中村智洋、土屋菜歩、成田暁、小暮真奈、元池育子、三枝大輔、峯岸直子、栗山進一、田宮元、辻一郎、木下賢吾、呉繁夫
25	国内	第56回日本小児アレルギー学会学術総大会	下条直樹	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20191102	20191103	20191103	宮城県、神奈川県4市町村の小学生を対象としたアレルギー疾患期間有症率と寝具ダニアレルゲン量・真菌叢の解析	押方智也子、渡辺麻衣子、栗山進一、鎌田洋一、金子猛、矢内勝、呉繁夫、釣木澤尚美
26	国際	European Public Health Conference 2019		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	PPalais des Congrès et des Expositions	マルセイユ	フランス	20191120	20191123	20191100	Maternal dietary patterns during early pregnancy and birth weight in Japan:~ The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study~	Takahiro Yamashita, Yudai Yonezawa, Taku Obara, Mami Ishikuro, Takuma Usuzaki, Keiko Murakami, Aoi Noda, Fumihiko Ueno, Hiroyuki Suganuma, Shinichi Kuriyama
27	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200221	東北大学東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査における情報の収集・還元・分譲に関する取り組み	小原拓、石黒真美、村上慶子、上野史彦、野田あおい、大柳元、菊谷昌浩、目時弘仁、栗山進一
28	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200221	母親の社会的要因とボンディング障害の関連、三世代コホート調査	中村伊吹、上野史彦、大柳元、村上慶子、石黒真美、野田あおい、小原拓、栗山進一
29	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200221	非喫煙妊婦における教育歴・所得と受動喫煙の関連:東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査	村上慶子、上野史彦、石黒真美、野田あおい、大柳元、小原拓、栗山進一
30	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	未成年の血圧値と血圧に関連する要因:三世代コホート調査	石黒真美、小原拓、村上慶子、上野史彦、野田あおい、大柳元、目時弘仁、菊谷昌浩、栗山進一
31	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	出生時体重と妊娠糖尿病との関連についての検討:三世代コホート調査	大柳元、村上慶子、石黒真美、上野史彦、野田あおい、小原拓、栗山進一
32	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	三世代コホート調査:母子・学校保健情報の連係による身長・体重の胎生期~学童期と思春期間での相関の検討	上野史彦、小原拓、村上慶子、石黒真美、野田あおい、大柳元、目時弘仁、菅原準一、黒川修行、栗山進一
33	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	産後1年までのうつ症状の推移と心理社会的要因との関連:三世代コホート調査	菊地紗耶、村上慶子、石黒真美、上野史彦、野田あおい、大柳元、小原拓、小林奈津子、菅原準一、富田博秋、栗山進一

34	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	妊娠中の東日本大震災による家屋損壊の程度と低出生体重・早産との関連—三代目コホート調査—	野田あおい、石黒真美、村上慶子、上野史彦、大柳元、小原拓、菅原準一、栗山進一
35	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	バイオバンク利用申請の実際	栗山進一
36	国内	第30回日本疫学会学術総会	中山健夫	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	京都	日本	20200220	20200222	20200222	東北メディカ・メガバンク計画三代目コホート調査	小原拓、石黒真美、村上慶子、上野史彦、野田あおい、栗山進一

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニング I」、などの講義を行い、大学院生3名の指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科	3	通年	4
3	臨床推論・EBM演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科	4	通年	4
4	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス(Health and social resilience for large-scale disaster)	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻修士課程		後期	1
5	ゲノム医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻修士課程		前期	1
6	疫学概論	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		前期	1
7	分子疫学	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		後期	8

D. 社会活動

社会活動の概要

学外の社会活動においては、公益財団法人宮城県対がん協会の宮城県新生物レジストリー委員会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員などを務めている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	学校教育における防災訓練	講話	20190508		未来への絆	小中高	宮城県塩釜高等学校	宮城県塩釜高等学校	塩釜市	日本	200
2	セミナー	未病社会の診断技術研究会	講演	20191107		東北メディカル・メガバンク計画三代目コホートの概要とその目指すもの	なし	未病社会の診断技術研究会	東京大学医科学研究所附属病院トミーホール	東京	日本	200
3	セミナー	AMEDシンポジウム2019—医療研究が未来を変える—	講演	20191213		ライフステージとつながるデータ	行政	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	東京国際フォーラムホールB7	東京	日本	500
4	セミナー	CLOCMiP®レベルIIIステップアップ承認研修 宮城県委託助産師人材育成・復職支援研修事業	講演	20200215		三代目コホート調査進捗・成果報告	なし	一般社団法人宮城県助産師会	宮城県医師会館 大手町ホール	仙台	日本	150

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	一般財団法人 宮城県公衆衛生協会	研修部門企画運営委員会	委員	20130401
2	その他	独立行政法人 国立成育医療研究センター	成育医療研究開発費評価部会委員会	委員	20140401
3	地方自治体	宮城県保健福祉部健康推進課がん対策班	宮城県がん登録情報利用棟審議会	委員	20180701

# 柴山 明寛 准教授

## SHIBAYAMA Akihiro

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東海大学	工学部	1999	3	工学院大学大学院	工学研究科	2006	3	博士(工学)	2006	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2007	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	教育研究支援者
2	2007	4	2008	11	独立行政法人情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター 防災・減災基盤技術グループ	専攻研究員
3	2008	12	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
4	2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	助教
5	2012	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本デジタルアーカイブ学会	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会	編集委員会	委員	20100401

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	災害情報学	地震工学	地域防災	建築工学

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長補	20130000
2	全学	研究推進・支援機構テクニカルサポートセンター運営委員会	委員	20170401
3	全学	情報システム	部局技術担当者	20120401
4	工学研究科建築学専攻	ネットワーク・ホームページ管理	委員	20080000

### B. 研究活動

研究活動の概要

研究活動としては、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」を中心的に実施し、東日本大震災デジタルアーカイブから自然災害デジタルアーカイブへの転換に関する研究を実施した。震災アーカイブの構築支援として、熊本大学や岐阜大学、厚真町などの継続的に支援を行った。さらに、岩手県陸前高田市復興記念公園内の東日本大震災津波伝承館などの施設関係の監修し、防災観光などの震災アーカイブの利活用などを研究を実施した。さらに、台風19号の丸森町などの災害調査や支援なども実施をした。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究	両方
2	2017	4	現在		東日本大震災における防災観光に関する研究	両方
3	2018	4	現在		震災アーカイブの三者間連携システムの構築に関する研究	両方

### 論文

単著	筆頭共著	2	その他の共著	2	合計	4	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	3
----	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	データを活用したリビングラボの実践的研究	赤坂 文弥, 渡辺 浩志, 井原 雅行, 柴山 明寛, 本江 正茂	日本デザイン学会 第66回春季研究発表大会	66		76	77	20190627
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	生活者との共創による「ステルス防災」のデザイン	赤坂 文弥, 渡辺 浩志, 井原 雅行, 柴山 明寛, 本江 正茂	日本デザイン学会 第66回春季研究発表大会	66		384	385	20190627

3	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Transforming the Archives of the Great East Japan Earthquake into Global Natural Disaster Archives	A Shibayama, S Boret	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	273	1	012039	20190601	
4	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	令和元年台風19号における丸森町の被害調査報告	柴山明寛, 森口周二, 橋本雅和	東北地域災害科学研究	56		17	20	20200301

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	単著	1	筆頭共著	共著	合計	1	うち	国際	国内	1
------	----	---	------	----	----	---	----	----	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	デジタルアーカイブ・ベーシック2 災害記録を未来に活かす 第1部第1章震災・災害アーカイブの役割と歴史の変遷と現状	編集本(著者・Author)	20190801	柴山明寛	単著	勉誠出版	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	震災の伝承と防災の～被災地へ向き合う「災害と教育」～	学術雑誌	無	いいえ	自然災害科学	37	4	339	364	20190520	柴山明寛	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	1	その他の連名	3	合計	4
----	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチャエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	東北地域災害科学研究集会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	日中における風水害への応急対策の比較	周晋, 柴山明寛, 佐藤健
2	国内	東北地域災害科学研究集会	片岡 俊一	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形	日本	20191226	20191227	20191227	令和元年台風19号における丸森町の被害調査報告	柴山明寛, 森口周二, 橋本雅和
3	国内	日本デザイン学会 第66回春季研究発表大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	名古屋市立大学	名古屋	日本	20190628	20190629	20190629	データを活用したリビングラボの実践的研究	赤坂 文弥, 渡辺 浩志, 井原 雅行, 柴山 明寛, 本江 正茂
4	国内	日本デザイン学会 第66回春季研究発表大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	名古屋市立大学	名古屋	日本	20190628	20190629	20190629	生活者との共創による「ステルス防災」のデザイン	赤坂 文弥, 渡辺 浩志, 井原 雅行, 柴山 明寛, 本江 正茂

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	自然災害研究協議会東北地区部会, 日本自然災害学会東北支部	令和元年度東北地域災害科学研究集会	20191226	20191226	山形大学	山形	日本	100	工学	運営	なし		国内
2	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所, 国立国会図書館	令和元年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム-震災伝承施設と震災アーカイブ-	20200111	20200111	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	170	工学	幹事	IRIDeS主催・共同主催		国内
3	国内	研究会	筑波大学・図書館情報メディア系, 東北大学災害科学国際研究所みちのく農縁伝	第11回DANワークショップ	20200221	20200221	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	工学	幹事	なし		国内
4	国際	ワークショップ	ハーバード大学ライシャワー日本研究所, 東北大学災害科学国際研究所	ハーバード大学日本災害DIGITALアーカイブ(JDA)-教育現場での活用方法	20200227	20200228	東北大学災害科学国際研究所, 宮城教育大学	仙台	日本	40	工学	幹事	なし		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、兼任である都市・建築学専攻の授業の実施を実施した。また、国際共同大学院の授業において、ハーバード大学でJDArchiveのシステムを利用した震災記録の発表を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	建築学専攻	1	前期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

東日本大震災の概要や避難行動、避難所対応などを小・中・高校を対象とした講演や市民を対象とした講演等を行い、防災意識の向上を図った。さらに、岩手県陸前高田市の東日本大震災津波伝承館の展示監修を行い、2019年9月22日にオープンし、4ヶ月で10万人の来場者を記録した。台風19号の甚大な被害を受けた丸森町の支援を実施し、検証委員会の委員長及び復興推進委員会の副委員長を勤めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	大船渡市、東北大学災害科学国際研究所、宮城学院女子大学、かたりつぎ仙台	東日本大震災語りベシンポジウム「かたりつぎ in 大船渡」	20200307	20200307	大船渡市市民文化会館アスホール	大船渡市	日本	実行委員長	1500	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	無観客インターネット配信

講演・講義等(研究活動以外)

合計 22 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	21世紀の都市を考える会	講演	20190415	20190415	東日本大震災の教訓伝承に必要なこととは～口頭伝承から津波伝承館の役割について～	企業	21世紀の都市を考える会	JALホテル	仙台市	日本	40
2	小中高との連携	神恵内村立神恵内中学校	講演	20190510	20190510	自然災害から身を守るためには	小中高	みちのく震緑伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	9
3	小中高との連携	高山市立東山中学校	講演	20190522	20190522	自然災害から身を守るためには	小中高	みちのく震緑伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	120
4	セミナー	チリ国「ナレッジマネジメント・コミュニティ防災」	講演	20190613	20190615	東日本大震災の震災当時から現在の復興状況について 東日本大震災アーカイブの全体概要	なし	OYOインターナショナル株式会社, JICA	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
5	小中高との連携	二戸市立福岡小学校	講演	20190621	20190621	自然災害から身を守るためには	小中高	みちのく震緑伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	13
6	セミナー	JICA「紛争影響国における地域社会再建にかかる地方行政能力強化」	講演	20190704	20190704	東日本大震災と復旧・復興の取組み	なし	公益財団法人ひろしま国際センター, JICA	JICA東北	仙台市	日本	15
7	講演会	日韓文化交流基金	講演	20190712	20190712	「防災ツーリズム」及び東日本大震災被災地の復興	なし	日韓文化交流基金	災害科学国際研究所	仙台市	日本	40
8	講演会	シンポジウム「東日本大震災から8年～防災・復興の現場から学び取る～」	特別講演	20190828	20190828	東日本大震災の教訓とは？～被災現場から伝える学び	行政	経済産業省関東経済産業局 経済産業省東北経済産業局	ホテルアソシア静岡	静岡市	日本	200
9	講演会	山形県小国町消防団幹部	講演	20190831	20190831	自然災害から身を守るためには	小中高	みちのく震緑伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	13
10	講演会	酒田市山寺コミュニティセンター	講演	20190906	20190906	自然災害から身を守るためには	なし	みちのく震緑伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	19
11	講演会	大分県立中津南高校	講演	20190918	20190918	事前学習 東日本大震災の概要	小中高	大分県立中津南高校	大分県立中津南高校	中津市	日本	197
12	セミナー	JICA課題別研修「災害復興支援」	講演	20191003	20191003	東日本大震災の震災直後から復興に関する概要	なし	JICA, JOCA	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
13	講演会	宮城学院女子大学教育学部	講演	20191005	20191005	自然災害から身を守るためには	なし	みちのく震緑伝	宮城学院女子大学	仙台市	日本	100
14	セミナー	現場対応者向け 外国人観光客受け入れ研修	招待講演	20191008	20191008	災害時に備えた事前準備と初期対応とは	行政	大雪カムインタラDMO, 北海道観光振興機構	旭川市民文化会館	旭川市	日本	40
15	公開講座	防災推進国民大会2019セッション「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」	講演	20191019	20191019	東日本大震災のデジタル・アーカイブ、岩手津波伝承施設について	なし	東北大学災害科学国際研究所	名古屋コンベンションホール	名古屋市	日本	40



16	セミナー	現場対応者向け外国人観光客受け入れ研修	招待講演	20191101	20191101	災害時の外国人観光客に対する具体的な方策	行政	北海道観光振興機構	渡島総合振興局 合同庁舎	函館市	日本	40
17	セミナー	第10回「震災対策技術展」東北	講演	20191111	20191111	令和元年台風第19号 丸森(阿武隈川)における現地調査報告	企業	「震災対策技術展」東北実行委員会	国際センター	仙台市	日本	40
18	セミナー	現場対応者向け外国人観光客受け入れ研修	招待講演	20191118	20191118	災害時に備えた事前準備と初動対応とは	企業	北海道観光振興機構、札幌駅前通地区防災協議会	コンベンション札幌ネットワーク	札幌市	日本	80
19	小中高との連携	大分県立中津南高校	講演	20191211	20191211	自然災害から身を守るためには	小中高	みちのく震録伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	197
20	公開講座	国立国会図書館東日本大震災アーカイブ防災学習ワークショップ	講評	20200227	20200227	防災学習ワークショップの講評	なし	国立国会図書館	アイーナいわて県民情報交流センター	盛岡市	日本	20
21	講演会	第11回DANワークショップ	講演	20200221	20200221	地方創生とデジタルアーカイブ ～災害アーカイブの活用について～	小中高	筑波大学・図書館情報メディア系、東北大学災害科学国際研究所みちのく震録伝	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
22	講演会	東日本大震災語りべシンポジウム「かたりつぎ in 大船渡」	講演	20200307	20200307	かたりつぎとは	なし	大船渡市、東北大学災害科学国際研究所	大船渡市市民文化会館リアスホール	大船渡市	日本	1500

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	国, 岩手県, 陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園有識者懇談会	委員	20170401
2 地方自治体	岩手県	高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	副委員長	20150800
3 地方自治体	岩手県	東日本大震災津波伝承館運営協議会	副会長	20190922
4 地方自治体	岩手県	自主防災組織活性化検討会議	委員	20170401
5 地方自治体	岩手県大船渡市	(仮称)防災学習センター等整備検討官民会議	委員長	20190000
6 地方自治体	岩手県大船渡市	大船渡市防災観光交流センターアドバイザーボード	委員	20180000
7 地方自治体	宮城県丸森町	丸森町復興推進委員会	副委員長	20200000
8 地方自治体	宮城県丸森町	丸森町令和元年台風第19号災害検証委員会	委員長	20200000

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 熊本大学	竹内 裕希子, 山尾 敏孝他	20191019	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	8
2 熊本大学	山尾 敏孝他	20200301	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	2
3 東京家政大学	松田 正巳他	20200307	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	2
4 岐阜大学	小山真紀他	20191222	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	4

## ゲルスタ - ダメーロ ユリア 助教

### GERSTER-DAMEROW Julia

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Freie Universitaet Berlin	B.A East Asian Studies/ Cultural Anthropology	2012	10	Freie Universitaet Berlin	Japanese Studies	2015	7	M.A	2016	1
2					Freie Universitaet Berlin	Japanese Studies	2019	2	Ph.D	2019	4

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	9	2015	9	"Lernwerk" 塾、ベルリン	先生
2	2012	3	2013	9	NHK ベルリン支局	記者、編集スタッフ、アナウンサー
3	2014	8	2015	9	ベルリン自由大学、国際センター	Student Assistant、アジア留学プログラム担当
4	2019	1	2019	9	東北大学 災害アーカイブ	学術研究院
5	2019	10	現在		東北大学 災害アーカイブ	助教

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2
	European Association for Japanese Studies (EAJS)	Ernst-Reuter Gesellschaft

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害復興	コミュニティづくり	災害伝承	リスクコミュニケーション	原子力災害

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

I received the "Start-Up Grant" (研究活動スタートアップ支援) starting from October 2019. The primary focus of the research is on the integration of negative heritage in the collective identity of communities affected by the Great East Japan Earthquake and, in particular, the Fukushima nuclear disaster. Through the lens of tourism (Bosai Kanko or Hope Tourism), I am investigating how the narrative about the disasters is told to "outsiders" and how the affected communities foreground certain aspects of the disasters while others are muted and how the overall narrative affects the recovery process. My Kaken-research project blends with my overall research interest on the memories on disaster and negative heritage. Up until now, I have mainly participated in Bosai Kanko events in Miyagi and Iwate Prefectures to have a comparative basis for the cases in Fukushima. Due to travel restrictions and event cancellations, I could not participate in Bosai tours in Fukushima Prefecture yet. However, I started to work on the literature review and presented preliminary results of the research conducted in the other prefectures at the critical tourism studies conference in Wakayama and started a comparative paper of Bosai tourism in Arahama elementary and Okawa Elementary with Prof. Flavia Fulco. Further, I published several articles based on the research conducted for my PhD and the aforementioned new research topics.

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	9	2019	10	SNSとフィールドワーク	両方
2	2015	10	現在		東日本大震災後、浪江町と名取市のコミュニティづくりの中のローカル的な文化の役割とつながりの変化	両方
3	2015	10	現在		災害リスクのコミュニケーション	両方
4	2016	4	2020	3	写真を撮ることを研究方法として使うこと	両方
5	2019	10	現在		東日本大震災の伝承と負の遺産、防災観光などの役割	両方
6	2019	3	現在		演劇と災害の伝承	両方
7	2019	10	現在		福島原発災害の伝承	両方
8	2020	1	現在		東日本大震災の伝承館	両方

論文

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著		合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無		国内査読有		国内査読無	
----	---	------	---	--------	--	----	---	----	-------	---	-------	--	-------	--	-------	--

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	単著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The Online-Offline Nexus: Social Media and Ethnographic Fieldwork in Post-3.11 Northeast Japan.	Gerster, Julia	ASIEN	149		14	32	20190500
2	英語	単著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Beneath the invisible cloud: Kamishibai after 3.11. Between Disaster Risk Education and Memorialization.	Gerster, Julia	Amfiteater, Journal of performing Arts Theory	7	1	65	82	20190600
3	英語	単著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Hierarchies of affectedness: Kizuna, perceptions of loss, and social dynamics in post-3.11 Japan.	Gerster, Julia	International Journal of Disaster Risk Reduction.	41				20190800
4	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Translocal Matters in a Mobile World. Photography as a method of ethnographic research at a Japanese gathering in Berlin.	Gerster, Julia and Morokhova, Natalia	Contemporary Japan					20200300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集		単著	1	筆頭共著		共著		合計	1	うち	国際	1	国内	
------	--	----	---	------	--	----	--	----	---	----	----	---	----	--

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	英語	The ambiguity of kizuna: The dynamics of social ties and the role of local culture in community building in post 3.11 Japan.	単行本	201904	Gerster, Julia	単著	Freie Universitaet Berlin	国外	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	--	------	--	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	英語	Translation Kataritsugi: Seven People's memories 2020	その他	無	はい	Kataritsugi Translations Handout					20200227	Interviews: Ono Madoka Editor: Rino Suzuki Translation: Gerster Damerow Julia	共著	国内

学会発表

単名	7	筆頭連名	2	その他の連名	3	合計	12
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国内	JICA 発表会	永島	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北大学	仙台	日本	20190704	20190704	20190704	東日本大震災からの復興と復興庁の役割	<u>柴山明寛</u> , <u>ゲルスタ・ユリア</u>
2	国内	The 3rd EAJS Conference in Japan	EAJS	単名	いいえ	口頭(一般)	つくば大学	つくば市	日本	201909014	20190915	20190914	The integration of negative heritage in collective memory: Bosai Tourism after 3.11	<u>ゲルスタ・ユリア</u>
3	国内	JOCA Action Plan 発表会	永島	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台第一生命タワービル	仙台	日本	20191021	20191021	20191021	東日本大震災からの復興と復興庁の役割	<u>柴山明寛</u> , <u>ゲルスタ・ユリア</u>
4	国内	AIWEST Sendai 2019 12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, Sharing Tohoku Aceh Experience	Sebastien Boret	単名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	The power of Disaster Theater in education and social recovery: Theater projects in Northeast Japan after 3.11	<u>Julia Gerster</u> , <u>Sebastien Boret</u> , <u>Akihiro Shibayama</u> , <u>Madoka Ono</u> , <u>Christian Damerow</u>
5	国内	仙台防災未来フォーラム	仙台市, Sentia	その他の連名	はい	口頭(招待)	国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191110	外国人市民から見た災害・防災の課題	<u>ゲルスタ・ユリア</u>
6	国内	ボレー先生のゼミ	ボレー・セバスチャン	単名	はい	口頭(招待)	東北大学	仙台	日本	20191213	20191213	20191213	Migration, Displacement and Disaster	<u>ゲルスタ・ユリア</u>

7	国内	Symposium: Resilient living environments in the recovery from the disaster	Naoko Kuriyama, Liz Maly	単名	はい	口頭(招待)	神戸大学 減災デザインセンター CResD	神戸	日本	20200204	20200204	20200204	Hierarchies of affectedness and social dynamics in post-3.11 Japan	ゲルスタ・ユリア
8	国内	熊本SDGs推進フォーラム	凸版印刷	単名	はい	口頭(招待)	肥後銀行本店ビル	熊本市	日本	20200208	20200208	20200208	みちのく震録伝 SDGsから見た災害アーカイブと伝承の重要性	ゲルスタ・ユリア; 柴山明寛
9	国内	Critical Tourism Studies Conference	Joseph Cheer, Adam Doering, Kumi Kato	単名	いいえ	口頭(一般)	和歌山大学	和歌山市	日本	20200217	20200219	20200219	The integration of negative heritage in collective memory: Bosai Tourism after 3.11	ゲルスタ・ユリア
10	国内	Critical Tourism Studies Conference	Joseph Cheer, Adam Doering, Kumi Kato	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	和歌山大学	和歌山市	日本	20200217	20200219	20200219	BOSAI tourism or BOSAI education? Exploring disaster prevention educational practices in the aftermath of the Great East Japan Earthquake.	Fulco, Flavia; Gerster, Julia
11	国内	世界Kataribeフォーラム	Yamaji Kumiko, Abe Noriko	単名	はい	口頭(招待)	ホテル観洋	南三陸市	日本	20200224	20200215	20200224	語り部を世界へ。ドイツの語り部活動	ゲルスタ・ユリア
12	国際	AAS Conference (中止)	AAS	単名	いいえ	口頭(一般)	Sheraton ホテル	ボストン	アメリカ	20200219	20200222	20200221	Being at home in recovery: Gender roles within home-making practices in temporary and public housing facilities in post 3.11 Japan	ゲルスタ・ユリア

C. 教育活動

教育活動の概要

柴山明寛、ボレー・セバスチャンとともに2か月の授業を指導した。ハーバードで行うデジタルアーカイブワークショップの発表のために様々な背景の東北大学の学生たちを2か月の間に週1回3時間の授業で指導した。学生たちはハーバードのJDAというデジタルアーカイブを使って、自分の研究・専攻と違う立場から日本の災害やメディアリテラシーについて学び、最後に熊本大学生とともに米国のハーバード大学で英語で発表をした。ハーバードのワークショップでは米国の高校や大学の先生たちは学生の発表を見てから、学生と私たちの指導で自分の授業でデジタルアーカイブをどうやって使えるかを考えつつ東日本大震災についての発表を作った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	Preparation for the Digital Archive WS at Harvard University	東北大学/ハーバード大学	多様		多様		
2	Harvard JDA Workshop	東北大学/宮城教育大学	多様				
3	Guest Lecture: Boret Sebastien Anthropology of Disasters	東北大学	文化人類学	文化人類学			1

D. 社会活動

社会活動の概要

社会活動として一般人向けの新聞記事をかいたり、ラジオで出演したりします。特にドイツの新聞のためにドイツ語で日本の復興について情報を発信しています。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・ セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	災害アーカイブ、 JICA	案内と通訳 Jica Study Tour	20190615	20190615	東北大学	仙台市	日本	柴山明寛	40	IRIDeS 主催・共同 主催	その他	
2	国内	仙台市、SENTIA	多文化防災ワークショップ	20190727	20190727	国際センター	仙台市	日本	参加者、発表	40	なし	ワークショップ	
3	国内	災害アーカイブ、 IGARSS	案内と通訳 Study Tour IGARSS	20190803	20190803	東北大学	仙台市	日本	柴山明寛	30	IRIDeS共催	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	防災講演	招待講演	20190628	20190628	東日本大震災の8年後 被災地の今	小中高	長野県木 曽青峰高 等学校	長野県 木曽青峰 高等学校	木曽町	日本	600
2	小中高との連携	ゲストゼミ	ゼミ	20190629	20190629	英語の国際クイズ。ドイツのこ と知ってる？	小中高	長野県木 曽青峰高 等学校	長野県 木曽青峰 高等学校	木曽町	日本	15
3	セミナー	海外から見た東日本 大震災の経験/記録 と伝承	コメンテ ーター	20191024	20191024	通訳、コメンテーター	なし	神戸大学 都市安全 研究セン ター	南三陸ホ テル観洋	南三陸	日本	30

## 佐藤 健 教授

## SATO Takeshi

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	豊橋技術科学大学	建設工学課程	1987	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	修士(工学)	1989	3

## 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1994	3	株式会社フジタ 建築設計部	研究
2	1994	4	1996	3	株式会社フジタ 技術研究所	研究
3	1996	4	1997	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助手
4	1997	4	1999	3	宮城工業高等専門学校建築学科	講師
5	1999	4	2001	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助教授
6	2001	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科	講師
7	2007	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科	准教授
8	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
9	2012	4	現在		静岡大学防災総合センター	客員教授
10	2012	4	現在		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員
11	2019	6	2021	5	宮城教育大学防災教育研修機構	客員教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本建築学会	日本自然災害学会	日本安全教育学会	日本災害医学会	日本地震工学会	地域安全学会	日本災害情報学会	歴史地震研究会

## 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本安全教育学会		常任理事	20110000
2	日本安全教育学会	第20回山形大会実行委員会	委員	20190000
3	日本建築学会東北支部	災害調査連絡会	委員長	20170000
4	京都大学防災研究所自然災害研究協議会	6号委員(データベース)	委員	20180000
5	東京大学地震研究所・京都大学防災研究所	拠点間連携共同研究委員会	委員	20170000
6	日本建築学会東北支部	第40回東北建築賞研究奨励賞選考委員会	委員	20190000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	自然災害科学	構造工学・地震工学・維持管理工学	応用健康科学 安全教育学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長(総長特別補佐)	20140400
2	工学部・工学研究科	入試広報企画室 運営委員会	委員	20160400
3	工学部	入試検討委員会	委員	20160400
4	工学部 人間・環境系	学部入試委員会	委員	20140400
5	工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20160400
6	工学研究科 都市・建築学専攻	将来計画タスクフォース	委員	20160400
7	青葉工学振興会		監事	20190613
8	青葉工業会		常任理事(災害研)	20170000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

自然科学と社会科学の融合に基づいた防災教育モデルの開発、被災地における復興教育モデルの実践、防災教育支援システムの開発など、都市・建築学を基盤とし周辺学問領域との学際的研究に取り組んでいる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		復興教育モデルの開発と実践	国内
2	2012	4	現在		東日本大震災における避難者の発生と推移に関する空間分析	国内
3	2011	4	現在		東日本大震災における学校の被害と対応に関する調査研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	3	その他の共著	9	合計	13	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	10
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地域に根差した災害復興・防災教育プログラムの開発－石巻市立学校での「復興・防災マップづくり」5年間の実践を踏まえて	桜井愛子、北浦早苗、村山良之、佐藤健	安全教育学研究	18	1	23	36	20190614
2	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造－大崎市立岩田山小学校の実践事例	佐藤健、桜井愛子	安全教育学研究	18	1	83	91	20190614
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	Local wikiを活用した地域版防災教育サイトの作成宮城県仙台市福住町を対象に	草薙敏夫、森太郎、定池祐季、佐藤健	日本建築学会北海道支部研究報告集	92		379	382	20190629
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地図リテラシーとハザード理解－教員研修の評価から－	小田隆史、桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗、加賀谷碧	日本安全教育学会第20回山形大会プログラム予稿集			42	43	20190907
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	災害復興教育プログラムの効果検証	桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗	日本安全教育学会第20回山形大会プログラム予稿集			54	55	20190907
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ゲーミングと対話による防災教育の効果とその持続性に関する研究～横浜市港南区片が谷小学校における15ヶ月間の継続調査を事例として～	福本皇、岡野特利、諏訪拓人、江目親利、山口玲子、佐藤健	日本安全教育学会第20回山形大会プログラム予稿集			88	89	20190907
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	私立高の教職員を対象とした防災教育に関する日台比較調査	坪内暁子、Fan Chia-Kwung、佐藤健、仲田悦教、Cheng Po-Ching、Lee Yuarn-Jang、Chou Chia-Mei、佐々木宏之、内藤俊夫、奈良武司	日本安全教育学会第20回山形大会プログラム予稿集			106	107	20190907
8	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	片平子どもまちづくり隊による防災まちづくり	佐藤健、桜井愛子、定池祐季	日本安全教育学会第20回山形大会プログラム予稿集			80	81	20190908
9	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究	佐藤 健	第56回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集			45	52	20190911
10	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	教職員のハザード理解と防災リテラシー向上のための読図演習	小田隆史、村山良之、桜井愛子、佐藤健、北浦早苗、加賀谷碧	2019年度東北地理学会・北海道地理学会秋季学術大会					20190914
11	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東北大学基礎ゼミにおける「ぼうさい宝探しゲーム(東北大学片平キャンパス版)」の開発と実践	佐藤健、定池祐季	第38回日本自然災害学会学術講演会講演梗概集	38		27	28	20190921
12	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	防災のための地形3Dマップ・エッセンシャルズを求めて	村山良之、小田隆史、佐藤健、桜井愛子、北浦早苗、加賀谷碧	日本地理学会発表要旨集2019a			126	126	20190922
13	英語	共著	国外	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Development Of A Teacher Training Program For Understanding Community Disaster Risk By Utilizing Geographic Maps	Aiko sakurai, Takashi Oda, Yoshiyuki Maruyama and Takeshi Sato	AIWEST-DR2019			28	28	20191107

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	1	単著		筆頭共著		共著		合計	1	うち	国際		国内	1
------	---	----	--	------	--	----	--	----	---	----	----	--	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	「レジリエントな学校づくり」4.5学校再開・学校環境に及ぼす影響 ①学校施設の被害 ②学校施設が避難所に占有された場合	編集本(編集者、Editor)	201908	渡邊正樹、佐藤 健	共編	大修館書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	---	------	--------	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	東日本大震災の教訓 災害科学国際研究所からの発信	学術雑誌	無	はい	中央公論	134	3	66	70	20200210	佐藤健	単著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	3	その他の連名	9	合計	14
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチャエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国内	日本地球惑星科学連合2019大会	松本淳	筆頭連名	はい	口頭(招待)	幕張メッセ	千葉市	日本	20190526	20190530	20190526	児童生徒と地域住民のための避難計画	佐藤健、矢崎良明
2	国内	日本建築学会北海道支部研究報告		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	札幌市立大学	札幌市	日本	20190629	20190629	20190629	Local wikiを活用した地域防災教育サイトの作成 宮城県仙台市福住町を対象に	草薙敏夫、森太郎、定池祐季、佐藤健
3	国内	日本安全教育学会第20回山形大会	村山良之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20190907	20190908	20190907	地図リテラシーとハザード理解—教員研修の評価から—	小田隆史、桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗、加賀谷碧
4	国内	日本安全教育学会第20回山形大会	村山良之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20190907	20190908	20190908	片平子どもまちづくり隊による防災まちづくり	佐藤健、桜井愛子、定池祐季
5	国内	日本安全教育学会第20回山形大会	村山良之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20190907	20190908	20190907	災害復興教育プログラムの効果検証	桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗
6	国内	日本安全教育学会第20回山形大会	村山良之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20190907	20190908	20190908	ゲーミングと対話による防災教育の効果とその持続性に関する研究—横浜市港南区葎が谷小学校における15ヶ月間の継続調査を事例として—	福本聖、諏訪拓人、岡野将利、江目親利、山口玲子、佐藤健
7	国内	日本安全教育学会第20回山形大会	村山良之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20190907	20190908	20190908	私立高の教職員を対象とした防災教育に関する日台比較調査	坪内勝子、Fan Chia-Kwung、佐藤健、仲田悦教、Cheng Po-Ching、Lee Yuarn-Jang、ChouChia-Mei、佐々木宏之、内藤俊夫、奈良武司
8	国内	第56回自然災害科学総合シンポジウム	釜井俊孝	単名	いいえ	口頭(一般)	キャンパスプラザ京都	京都市	日本	20190911	20190911	20190911	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究	佐藤健
9	国内	2019年度東北地理学会・北海道地理学会秋季学術大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海学園大学	札幌市	日本	20190914	20190915	20190914	教職員のハザード理解と防災リテラシー向上のための読図演習	小田隆史、村山良之、桜井愛子、佐藤健、北浦早苗、加賀谷碧
10	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	草薙敏夫	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路市	日本	20190921	20190922	20190921	東北大学基礎ゼミにおける「ぼうさい宝探しゲーム(東北大学片平キャンパス版)」の開発と実践	佐藤健、定池祐季
11	国内	2019年度日本地理学会秋季学術大会	堀健彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	新潟大学	新潟市	日本	20190921	20190923	20190922	防災のための地形ミニマム・エッセンシャルズを求めて	村山良之、小田隆史、佐藤健、桜井愛子、北浦早苗、加賀谷碧
12	国内	日本マイクログラフィティ応用学会	塚田隆夫	単名	はい	口頭(招待)	東北大学	仙台市	日本	20191023	20191025	20191024	「特別講演」東日本大震災の経験と災害に強いまちづくり	佐藤健
13	国内	AIWEST-DR2019		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	ジャクアラ大学	バンダアチェ	インドネシア	20191107	20191108	20191107	Development Of A Teacher Training Program For Understanding Community Disaster Risk By Utilizing Geographic Maps	Aiko Sakurai, Takashi Oda, Yoshiyuki Murayama and Takeshi Sato
14	国内	東北地域災害研究集会	村山良之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	山形大学	山形市	日本	20191226	20191227	20191227	グリーンインフラと防災-平地林等既存緑地の機能と課題に関する考察	横山仁、根本征樹、中村一樹、日高達也、飯塚聡、佐藤健

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1	国内	講演会	日本安全教育学会	日本安全教育学会第20回山形大会	20190907	201908	山形大学	山形市	日本	130	工学	実行委員	IRIDeS共催	国内
2	国内	シンポジウム	宮城教育大学	第2回世界防災フォーラム一般公開セッション	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台市	日本	135	工学	討論モデレータ	IRIDeS共催	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災発生時における避難者数の空間分析、都市部における避難抑制効果の評価、福祉避難所に関する防災上の課題等について学生の研究指導を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	2
3	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
4	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
5	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			6
6	サステナブル空間構成学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			1
7	建築防災学	静岡大学		ふじのくに防災フェロー養成講座			
8	地域防災論 I	東北福祉大学		地域減災論 I			

D. 社会活動

社会活動の概要

コミュニティベースの地域防災と学校防災の融合に関する実践と学校教育、生涯学習等の場面における防災啓発に取り組んでいる。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 11 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	仙台管区気象台	平成31年度防災対応等に関する説明会	20190517	20190517	仙台第3合同庁舎	仙台市	日本	運営委員	36	IRIDeS協力	その他	
2	国内	石巻市教育委員会	令和元年石巻市学校防災フォーラム～学校と地域、行政が連携して取り組む防災教育の推進と地域防災体制の充実～	20190806	20190806	遊学館	石巻市	日本	ファシリテータ	100	IRIDeS後援・ 名義後援	シンポジウム	
3	国内	ジュニア・アチーブメント日本	ジュニア・アチーブメント日本 スクールチャレンジ	20190829	20190829	両国高等学校附属中学校	東京都	日本	運営委員	120	IRIDeS協力	講演会	
4	国内	震災対策技術展東北実行委員会	第10回震災対策技術展(東北)	20191110	20191111	仙台国際センター	仙台市	日本	実行委員	3600	IRIDeS後援・ 名義後援	シンポジウム	
5	国内	片平地区まちづくり会	仙台防災未来フォーラム「第四回宝探しゲーム 政宗公からの密令」	20191110	20191110	仙台国際センター、片平地区	仙台市	日本	実行委員	40	IRIDeS協力	その他	
6	国内	福住町町内会	仙台防災未来フォーラム「防火・防災訓練 見学&体験スタディツアー」	20191110	20191110	福住町公園	仙台市	日本	実行委員	20	IRIDeS協力	その他	
7	国内	宮城県教育委員会/防災教育国際協働センター	令和元年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム～多様な協働をとおして～	20191120	20191120	岩沼市民会館	岩沼市	日本	実行委員	535	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	
8	国内	宮城県教育委員会	令和元年度 災害時学校支援チームみやぎ 養成研修III	20191224	20191224	災害科学国際研究所	仙台市	日本	実行委員	40	IRIDeS共催	その他	
9	国内	石巻市教育委員会/災害科学国際研究所	第3回石巻市復興・防災マップコンクール	20200121	20200121	石巻市防災センター	石巻市	日本	実行委員	34	IRIDeS共催	その他	
10	国内	宮城県教育委員会/災害科学国際研究所	令和元年度 みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会/東日本大震災メモリアルday2019	20200125	20200126	多賀城高等学校/多賀城市文化センター	多賀城市	日本	運営委員	141	IRIDeS共催	セミナー	
11	国内	宮城県危機対策課/災害科学国際研究所	宮城県自主防災組織育成・活性化支援モデル事業令和元年度成果報告会	20200218	20200218	災害科学国際研究所	仙台市	日本	実行委員	64	IRIDeS共催	その他	



## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 22件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	第三回仙台ラウンドテーブル	討論	20190423	20190423	地域コアとなる市役所を育む	行政	仙台市	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	100
2	その他	平成31年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第1回運営協議会	講演	20190424	20190424	東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協同センターのご紹介	行政	福島市	杉妻会館	福島市	日本	60
3	その他	令和元年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第2回運営協議会	講演	20190530	20190530	みやぎでの最近の学校防災・地域防災の取組～強度の自然環境の理解促進を中心に～	行政	福島市	杉妻会館	福島市	日本	60
4	小中高との連携	東北大学プロジェクト「結」出前授業	講義	20190603	20190603	「減災ってなあに？」	小中高	東北大学	登米市立佐沼小学校	登米市	日本	113
5	その他	泉区内SBL研修会	講演	20190619	20190619	持続可能なSBLの活動について	行政	仙台市	泉区役所	仙台市	日本	50
6	小中高との連携	東北大学プロジェクト「結」出前授業	講義	20190620	20190620	「減災ってなあに？」	小中高	東北大学	仙台市立幸町小学校	仙台市	日本	52
7	セミナー	令和元年度女性防災指導員等交流セミナー	ファシリテーション	20190701	20190701	女性目線を活かすネットワークづくりで広がる地域防災	行政	宮城県	宮城県本町分庁舎	仙台市	日本	48
8	その他	みやぎボイス2019	討論	20190706	20190706	復興・防災人材の育成～ソフト面に着目して	なし	みやぎボイス連絡協議会	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	100
9	講演会	気仙沼本吉地区婦人防火クラブ連合会「防火のつどい」	講演	20190707	20190707	防災まちづくりを持続発展可能とするための人材育成	行政	気仙沼本吉地区婦人防火クラブ連合会	南三陸町総合体育館	南三陸町	日本	250
10	講演会	「The School Challenge」キックオフ	講演	20190829	20190829	有効に正しく活用される防災技術に求められること	企業	ジュニア・アチーブメント日本	両国高等学校附属中学校	東京都墨田区	日本	120
11	講演会	令和元年度学校安全指導者養成研修	講演	20190909	20190909	「災害安全」の現状と課題、発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動について	行政	独立行政法人教職員支援機構	つくば中央研修センター	つくば市	日本	160
12	講演会	内閣府防災スペシャリスト養成研修「災害への備え」コース	講演	20190910	20190910	防災教育・災害教訓の伝承	行政	内閣府	そなエアリアル東京	東京都江東区	日本	66
13	その他	仙台市地域防災リーダー(SBL)新規養成講習会	講習会	20191026	20191026	自分の住んでいる地域の特性の理解	行政	仙台市	泉消防署	仙台市	日本	50
14	その他	世界防災フォーラム一般公開「いのちを守る教育を支える教員の防災キャパシティ・ディベロップメント」	討論モデレータ	20191110	20191110	<3111のちを守る教育研修機構>の発足を記念して	なし	宮城教育大学	仙台国際センター	仙台市	日本	135
15	その他	防災主任研修会地域別研修会(仙台教育事務所管内)	講演	20191127	20191127	地元学こそ防災教育～地名とプラタモリで自然の二面性を理解する～	行政	教育庁宮城県総合教育センター	教育庁宮城県総合教育センター	名取市	日本	50
16	公開講座	令和元年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座	講演	20191130	20191130	片平キャンパスを通して学ぶ東北大学の歴史	行政	学都仙台コンソーシアム	仙台市市民活動サポートセンター	仙台市	日本	15
17	その他	令和元年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第3回運営協議会	講演	20200115	20200115	持続発展可能な防災教育に向けた参考事例～「将来のよきまち衆の育成」のロールモデル～	行政	福島市	杉妻会館	福島市	日本	60
18	小中高との連携	宮城教育大学附属小学校3年生防災教室	講義	20200117	20200117	家の中にいるとき、地しんが起きたらどうすればいいかを考えてみよう	小中高	東北大学	災害科学国際研究所	仙台市	日本	27
19	公開講座	わがまち防災・減災実践講座	講演	20200118	20200118	自助・共助を高め合う仕組みづくり	行政	仙台市太白区中央市民センター	太白区文化センター	仙台市	日本	100

20	その他	令和元年度 みやぎ防災ジュニア リーダー養成研修会 講義Ⅱ	講演	20200125	20200125	自然災害の基礎と地域における災害対 策	行政	宮城県	多賀城市文 化センター	多賀城市	日本	141
21	講演会	第28回全国救急隊 員シンポジウム	講演	20200131	20200131	防災リーダーとして求められるもの	行政	救急振興財団	仙台国際セ ンター	仙台市	日本	200
22	講演会	内閣府防災スペシャ リスト養成研修(第2 期)「災害への備え」 コース	講演	20200214	20200214	防災教育・災害教訓の伝承	行政	内閣府	そなエリア 東京	東京都 江東区	日本	65

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	内閣府	防災教育チャレンジプラン実行委員会	委員	20150623
2	地方自治体	石巻市	学校防災推進会議	委員長	20150428
3	地方自治体	宮城県	防災教育を中心とした学校安全フォーラム実行委員会	実行委員	20150428
4	民間・NPO	震災対策技術展	第10回「震災対策技術展」東北 実行委員会	委員	20160614
5	地方自治体	宮城県	令和元年度「学校安全教育総合支援事業」推進委員会	推進委員	20170000
6	地方自治体	仙台市	仙台市社会福祉審議会	副会長	20160906
7	民間・NPO	NPO法人防災白熱アカデミー		理事	20140000
8	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20170401
9	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会部会	部会長	20180401
10	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会第3分科会	分科会長	20180401
11	その他	宮城県多賀城高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	委員長	20180000
12	地方自治体	学校安全総合支援事業	推進委員会	委員	20190700
13	国・政府	文部科学省	学校安全に関する教職員の資質・能力の向上のための調 査研究事業有識者会議	委員	20190900
14	地方自治体	仙台市	第15回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実 行委員会	委員	20190401

## 平野 勝也 准教授

HIRANO Katsuya

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1991	3	東京大学大学院	工学系研究科	1993	3	博士(工学)	2000	2

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	4	1994	3	北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 工事一課 工務二係	係員
2	1994	4	1995	1	北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 工務一課 計画係	係員
3	1995	2	2001	8	東北大学 工学部 土木工学科	助手
4	2000	2	2000	12	英国マンチェスター大学 人文学部 計画・造園学科	客員研究員
5	2001	9	2008	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
6	2008	4	2012	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	准教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門	准教授

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	日本都市計画学会	造園学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	土木計画学委員会・海岸工学委員会 減災アセスメント小委員会	委員	20140000
2	土木学会	選奨土木遺産選考委員会	委員	20170000
3	土木学会	東北支部 選奨土木遺産選考委員会	委員	20010000
4	土木学会	景観・デザイン委員会	委員	20190000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	都市景観	土木デザイン	復興まちづくり

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	国際交流・ネットワーク委員会	委員	20130401
2	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会	委員	20160400

## B. 研究活動

研究活動の概要

震災前から培ってきた、都市空間認識や土木デザインの蓄積、さらには行政経験を元に、復興まちづくりに対して、そのあるべき姿を論考しつつ、制度的な問題・課題を実体的に把握し、その解決策を現実の復興計画に反映させ、復興計画のクオリティーを高めるとともに、実践的な復興まちづくりのあり方を探求している。また、その基礎となる都市空間の認識研究も継続している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	2	2000	12	街並みメッセージ論による街路景観に関する研究	国内
2	2000	4	2011	2	記憶から見た街路空間認識に関する研究	国内
3	2008	4	現在		相対性の観点から見た街路空間イメージに関する研究	国内
4	2011	3	現在		復興まちづくりにおける実践的研究	国内
5	2011	3	現在		防潮堤の計画論に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	周辺景観のスキーマに着目した風力発電施設の景観評価特性	平野勝也, 高木 浩樹, 白柳 洋俊	土木学会論文集D1(景観・デザイン)分冊	75	1	28	35	20190820
2	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	チェーン店の景観コントロールにおける構成要素の知覚的統合性と印象形成	真田修志, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		15	344	348	20191207
3	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	街路イメージの認知構造からみる夜の繁華街が有する雰囲気特性	丸山修平, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		15	405	408	20191207
4	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	参道における温度差の存在と空間分節への影響	戸谷百萌, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		15	411	416	20191207

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著		その他の共著		合計	3	うち	国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無	3
----	---	------	--	--------	--	----	---	----	-------	--	-------	--	-------	--	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	令和の時代	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2019年5月号			記事8	記事9	20190501	平野勝也	単著	なし
2	日本語	慣性力	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2019年9月号			記事8	記事9	20190901	平野勝也	単著	なし
3	日本語	統合戦略	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2019年12月号			記事8	記事9	20191201	平野勝也	単著	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	
				開始年月	終了年月										
1	国内	シンポジウム	災害研	実践的防災学シンポジウム	20200115	20200115	災害研	仙台市	日本	60	工学	企画・司会・コーディネーター	IRIDeS主催・共同主催	IRIDeS	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

景観工学・土木デザインを中心に、統合的思考が可能な人材育成を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1 土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	7.5
2 基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	45
3 都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
4 環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	1
5 景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	30
6 都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	30
7 都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
8 都市システム計画研修B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	8セメ	
9 都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
10 地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	

D. 社会活動

社会活動の概要

復興まちづくりの実践を中心に、景観まちづくり及び土木デザインの実践を展開している。また、積極的に土木の魅力若者に伝える活動も行っている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	「SSH総合の時間」(1学年) 東北大学訪問研修	模擬講義	20190419	20190419	津波被災地のまちづくり～復興に向けて～	小中高	福島県立磐城高等学校	東北大学工学研究科	仙台市	日本	50
2	小中高との連携	松本県ヶ丘高校対応	模擬講義	20190819	20190819	津波被災地のまちづくり～復興に向けて～	小中高	長野県立松本県ヶ丘高校	災害研	仙台市	日本	50
3	講演会	日本都市環境デザイン会議総会	基調講演	20191019	20191019	女川の復興まちづくりの特徴	企業	日本都市環境デザイン会議	女川町まちなか交流館	女川町	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	環境省	「まち・暮らし創生」FS委託業務(審査委員会)	委員	20190401
2	国・政府	東北地方整備局	道路計画研究会	座長	20080401
3	国・政府	東北地方整備局	最上川水系流域委員会専門小委員会	委員	20100401
4	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会	委員	20120000
5	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会ワーキンググループ	委員	20120000
6	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会市民検討部会	アドバイザー	20120000
7	国・政府	東北地方整備局 岩手県・陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園 景観検討調整会議	委員	20170400
8	地方自治体	宮城県	環境影響評価技術審査会	会長	20100000
9	地方自治体	宮城県	再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業に係る有識者評価会	委員	20130000
10	地方自治体	宮城県	行政評価委員会 大規模事業評価部会	委員	20140000
11	地方自治体	仙台市	土地利用審査会	委員	20140000
12	地方自治体	仙台市	建築審査会	委員	20190400
13	地方自治体	石巻市	半島拠点検討会	委員	20170400
14	地方自治体	石巻市	中瀬公園検討会	委員	20170400
15	地方自治体	石巻市	名称検討委員会	委員	20170400
16	地方自治体	石巻市	新蛇田南地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
17	地方自治体	石巻市	新蛇田南第二地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
18	地方自治体	名取市	名取市関上地区まちなか再生協議会	会長	20170828
19	地方自治体	名取市	連絡調整会議	会長	20170828
20	地方自治体	陸前高田市	景観審議会	会長	20180000
21	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議	委員長	20130000
22	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議高台検討部会	委員	20130000
23	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会	委員	20130000
24	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議清水公園検討部会	委員	20140000
25	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議川まちづくり検討部会	委員	20140000
26	地方自治体	女川町	女川町立保育所設計業務プロポーザル評価委員会	委員長	20140000
27	地方自治体	南三陸町	南三陸町道の駅整備推進協議会	委員	20160000
28	地方自治体	平泉町	景観形成審議会	委員	20060000
29	地方自治体	平泉町	平泉町社会教育施設整備・運営事業者選定委員会	委員長	20171018
30	地方自治体	平泉町	平泉町空家等対策協議会	副会長	20171018
31	地方自治体	平泉町	重要公共施設デザイン会議	会長	20060000
32	地方自治体	平泉町	おくのほそ道の風景地保存活用計画策定委員会	副委員長	20150400

33	民間・NPO	石巻まちなか創成協議会		委員	20110000
34	民間・NPO	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	支部長	20100000
35	民間・NPO	公益信託オオバまちづくり基金	運営委員会	委員	20150900

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 6 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20190406	共同研究	キャンパスプラザ京都	京都	企画	15
2	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20190425	共同研究	関西大学東京分室	東京	企画	10
3	千葉大学 他	秋田 典子 准教授 他	20190713	共同研究	大阪OMMビル204会議室	大阪	企画	5
4	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20190807	共同研究	関西大学東京分室	東京	企画	20
5	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20191225	共同研究	名古屋工業大学	名古屋	企画	15
6	千葉大学 他	秋田 典子 准教授 他	20200106	共同研究	東京大学	東京	企画	6

# 定池 祐季 助教

## SADAIKE Yuki

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	2002	3	北海道大学大学院	文学研究科	2004	3	修士(文学)	2004	3
2					北海道大学大学院	文学研究科	2011	3	博士(文学)	2011	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	旭川市役所 市民部 資産税課 家屋第1係	事務吏員
2	2006	9	2009	3	特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構 北海道支部	研究員
3	2007	4	2008	3	北海道大学大学院文学研究科	リサーチアシスタント
4	2010	4	2011	3	公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター	研究員
5	2011	4	2014	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	助教
6	2014	4	2015	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	招へい教員
7	2014	4	2017	3	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター	特任助教
8	2015	4	2015	9	山形大学	非常勤講師
9	2015	4	2015	9	東京理科大学	非常勤講師
10	2015	10	2016	3	兵庫教育大学	非常勤講師
11	2016	10	2017	3	兵庫教育大学	非常勤講師
12	2017	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
13	2017	4	2017	9	茨城大学	非常勤講師
14	2017	10	2018	1	兵庫教育大学	非常勤講師

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本社会学会	地域社会学会	日本災害復興学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本安全教育学会	日本建築学会	日本民具学会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	災害社会学	地域社会学	防災教育

### B. 研究活動

研究活動の概要

継続的な研究テーマとして、①「被災地における復興と生活再建に関する研究」、②「地域社会に根ざした防災教育の実践研究」、③「災害情報の伝達と住民行動に関する研究」に取り組んでいるほか、④「災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究」では科研費(若手B)3年目として、北海道奥尻島、有珠山周辺地域などでの継続的なフィールドワークを実施した。また、福島大学のメンバーと防災教育教材「さすけなふる」の改善とファシリテーター養成に参画した。2019年度は③に関する共著論文が発行されたほか、①に関わる内容で日本災害情報学会、寒地技術シンポジウムでの単独の発表を行い、②は共著で日本建築学会北海道支部の発表に関わった。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		被災地における復興と生活再建に関する研究	国内
2	2011	4	現在		地域社会に根ざした防災教育の実践研究	国内
3	2014	4	現在		災害情報の伝達と住民行動に関する研究	国内
4	2017	4	現在		災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	1	国内査読無
----	------	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	---	-------

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	平常時の津波避難行動意図の規定要因と規範意識の影響～汎用的なフレームに基づく高知市の調査結果から～	宇田川真之、三船 恒裕、磯打千雅子、定池 祐季、黄 欣悦、田中 洋	地域安全学会論文電子ジャーナル	36		1	8	20200300

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	2
----	---	------	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	北海道胆振東部地震の支援現場の変化厚真町に続いてII	その他	無	いいえ	震災学	14		76	85	20200327	定池祐季	単著	国内
2	日本語	奥尻復興の秘けつを聞き出す:高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー(1)ー災害復興を考えるシンポジウムの記録ー	大学紀要	無	いいえ	北星学園大学経済学部北星論集	59	2	45	65	20200300	竹田恒規、足立清人、定池祐季、神谷裕一、竹田彰、宮田康宏、渡部和正	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	その他の連名	1	合計	3
----	---	------	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第92回 日本建築学会北海道支部研究報告会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	札幌市立大学	札幌	日本	20190629	20190629	20190629	LocalWikiを活用した地域版防災教育サイトの作成 宮城県仙台市福住町を対象に	<u>葦苅敏去</u> 、森太郎、定池祐季、佐藤健
2	国内	日本災害情報学会第21回学会大会		単名	いいえ	口頭(一般)	サンポートホール高松	高松	日本	20191019	20191020	20191019	地方紙における被災地報道の変化ー北海道胆振東部地震に関する北海道新聞の報道からー	<u>定池祐季</u>
3	国内	第35回寒地技術シンポジウム		単名	いいえ	口頭(一般)	札幌市教育文化会館	札幌	日本	20191127	20191129	20191128	北海道胆振東部地震に関する地方紙の内容分析ー避難所と仮設住宅に注目して	<u>定池祐季</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所平成30年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会ー第63回 IRIDeS金曜フォーラムー	20190720	20190720	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	120		運営	IRIDeS主催・共同主催		国内
2	国内	セミナー	東北大学災害科学国際研究所	第64回 IRIDeS金曜フォーラムシリーズ;災害メモリアル(北海道胆振東部地震1年、新潟県中越地震から15年、台湾集集地震20年)	20190927	20190727	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	30	人文社会系	企画・発表	IRIDeS主催・共同主催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

佐藤健教授と共に1年生の基礎ゼミ「ぼうさい宝探しゲーム(東北大学版)の創造」を担当したほか、佐藤健研究室ゼミでの学生とのディスカッションに加わった。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/コマ
1 「ぼうさい宝探しゲーム(東北大学版)の創造」	東北大学	全学		1	前期	8



D. 社会活動

社会活動の概要

①防災教育の実践、②被災地支援、③研究成果発信・調査対象地への成果還元、④その他防災・被災社会実現に向けた活動を軸に、行事の企画運営、行政等の委員、各種研修などに携わった。①では、福島大学のプロジェクトに継続して参画し、防災教育教材の改善とファシリテーター養成に携わった。また、②については、北海道胆振東部地震の被災地厚真町にて、復興計画や生活再建支援を中心に支援活動を継続している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 11 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・ セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	仙台管区気象台、東北地方整備局、宮城県	宮城県内市町村の防災力向上のため説明会	20190517	20190517	仙台管区気象台	仙台市	日本	企画・WSのファシリテーター	36	IRIDeS協力	ワークショップ	
2	国内	厚真町	厚真町地域防災マスター意見交換会	20190530	20190530	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	コメンテーター	10	なし	セミナー	
3	国内	日本災害復興学会支援委員会	車座トーク in厚真	20190629	20190629	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	企画・運営	20	なし	その他	
4	国内	北星学園大学 経済学部 経済法学科 竹田・足立	奥尻復興の秘けつを聞き出す;高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー	20190727	20190727	北星学園大学	厚真町	日本	パネリスト	20	なし	シンポジウム	
5	国内	厚真町	第1回あつま復興未来会議	20190824	20190824	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	コメンテーター	30	なし	ワークショップ	
6	国内	さすけなぶる研究会・福島大学つくしまふくしま未来支援センター	さすけなぶるファシリテーター養成講座 in 福島	20190921	20191124	ビックバレットふくしま・福島大学	郡山市・福島市	日本	企画・運営	20	なし	セミナー	
7	国内	北海道大学広域複合災害研究センター	平成30年北海道胆振東部地震を振り返り今後の減災・復興を考えるシンポジウム&現地見学会	20191027	20191027	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	コーディネーター	100	なし	シンポジウム	
8	国内	さすけなぶる研究会・福島大学つくしまふくしま未来支援センター	さすけなぶるファシリテーター養成講座 in 東京	20191102	20200112	東京大学	東京	日本	企画・運営	25	なし	セミナー	
9	国内	厚真町	第2回あつま復興未来会議	20191116	20191116	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	コメンテーター	25	なし	ワークショップ	
10	国内	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム～多様な協働をとおして～	20191120	20191120	岩沼市民会館	岩沼	日本	実行委員	600	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
11	国内	厚真町	第3回あつま復興未来会議	20191130	20191130	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	コメンテーター	25	なし	ワークショップ	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 18 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	原子力災害における避難所運営に係る勉強会	講義・ワークショップ	20190523	20190524	「災害支援の基礎 I_制度面からの理解」 「さすけなぶる」	行政	青森県原子力安全対策課	新町キューブ	青森市	日本	20
2	セミナー	厚真町職員研修	講義	20190530	20190530	「災害復興期における役場職員の役割とセルフケアについて」 「室内の安全対策」	行政	厚真町総務課	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	50
3	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20190610	20190610	防災学習と心のサポート	小中高	厚真町立厚南中学校	厚真町立厚南中学校	厚真町	日本	20
4	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20190610	20190610	心のつばやきをキャッチしよう	小中高	厚真町立厚南中学校	厚真町立厚南中学校	厚真町	日本	25
5	小中高との連携	防災学習	ワークショップ	20190712	20190712	ふだんの生活に「備え」の視点を	小中高	奥尻町立奥尻高等学校	奥尻高等学校	奥尻町	日本	60
6	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20190826	20190826	アンバーサリー反応への対応と災害への備え	小中高	厚真町立厚南中学校	厚真町立厚南中学校	厚真町	日本	45
7	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20190904	20190904	防災学習と心のサポート	小中高	厚真町立上厚真小学校	厚真町立上厚真小学校	厚真町	日本	20
8	セミナー	記者セミナー	講義	20191004	20191004	胆振東部地震 被災地取材について	企業	北海道新聞 苫小牧支社有志	北海道新聞 苫小牧支社	苫小牧市	日本	10

9	セミナー	さすけなぶるファミリーテーター養成講座 in 福島 第2クール	講義・ワークショップ	20191026	20191026	法制度・スフィア基準・復興	なし	さすけなぶる研究会	福島大学	福島市	日本	20
10	セミナー	東神楽町職員研修	講義・ワークショップ	20191028	20191028	変化する被災地・被災者の姿と役場の災害対応・演習「クロスロード」	行政	東神楽町総務課	東神楽町役場	東神楽町	日本	55
11	セミナー	さすけなぶるファミリーテーター養成講座 in 東京 第1クール	講義・ワークショップ	20191103	20191103	防災教育と教材について	なし	さすけなぶる研究会	東京大学	東京都	日本	25
12	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20191111	20191111	思いを語り 分かち合おう	小中高	厚真町立厚真中学校	厚真町立厚真中学校	厚真町	日本	75
13	小中高との連携	心のサポート授業	授業	20191122	20191122	親子のコミュニケーションと防災学習	小中高	厚真町立厚真南中学校	厚真町立厚真南中学校	厚真町	日本	45
14	セミナー	さすけなぶるファミリーテーター養成講座 in 福島 第3クール	鼎談	20191123	20191124	支援現場のエピソード	なし	さすけなぶる研究会	福島大学	福島市	日本	20
15	小中高との連携	白糠町チビッツ防災ワーカー	授業	20191202	20191202	「北海道版DOはぐ」(2クラス)	行政	白糠町総務課	庶路学園	白糠町	日本	67
16	セミナー	白糠町職員研修	講義	20191202	20191202	行政の災害対応	行政	白糠町総務課	白糠町役場	白糠町	日本	60
17	セミナー	さすけなぶるファミリーテーター養成講座 in 東京 第2クール	講義・ワークショップ	20191207	20191207	法制度・スフィア基準・復興「さすけなぶる」演習	なし	さすけなぶる研究会	東京大学	東京都	日本	25
18	セミナー	根室防災セミナーin中標津	講義・ワークショップ	20191224	20191224	行政の災害対応と地域防災計画について さすけなぶる	行政	根室振興局	根室北部消防事務組合 中標津消防署	中標津町	日本	40

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	東京都	震災復興検討会議	委員	20141001
2	国・政府	北海道開発局	石狩川流域委員会	委員	20170500
3	国・政府	国土交通省	水防活動活性化調査会	委員	20180300
4	地方自治体	徳島県	復興指針検討委員会	委員	20180901
5	民間・NPO	厚真町社会福祉協議会		スーパーバイザー	20181101
6	地方自治体	北海道厚真町		厚真町地域防災アドバイザー	20190401
7	国・政府	水産庁	水産政策審議会	委員	20190700
8	地方自治体	北海道厚真町	まちづくり委員会	アドバイザー	20190800
9	地方自治体	北海道厚真町	厚真心のサポート・防災学習推進協議会	委員	20191111
10	地方自治体	北海道厚真町	「地産地防」エネルギー6次産業化検討委員会	アドバイザー	20191200

# 小野 裕一 教授

## ONO Yuichi

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	宇都宮大学	教育学部	1989	3	米国ケントステイト大学大学院	地理学研究科	2001	12	地理学博士	2001	12

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1997	1	2000	2	米国ケントステイト大学	非常勤講師
2	2002	1	2003	2	世界気象機関(スイス・ジュネーブ)世界気象観測部	アソシエート・エキスパート
3	2003	2	2004	2	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)	プログラム・オフィサー
4	2004	6	2007	6	国連国際防災戦略事務局早期警戒事務所(ドイツ・ボン)	所長補
5	2007	6	2009	9	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)防災科学技術担当	プログラム・オフィサー
6	2009	10	2012	10	国連アジア太平洋経済社会委員会本部(タイ・バンコク)	防災課・課長
7	2012	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	教授
8	2014	3	2016	3	京都大学防災研究所 水資源環境センター	客員教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
1	日本地理学会	アメリカ地理学会	日本風工学会	地域安全学会

### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本学術会議	国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会	特任連携会員	20140423
2	日本学術会議	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	特任連携会員	20130628
3	日本地理学会	交流専門委員会	委員長	20130401
4	日本学術会議	科学技術を生かした防災・減災に政策の国際的展開に関する検討委員会	会員	20180426
5	2020世界災害語り継ぎフォーラム	2020世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会	委員	20180530
6	国立研究開発法人 科学技術振興機構(SATREPS)	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム防災分野評価会	評価会委員	20180401

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
1	国際防災政策	竜巻災害	早期警報システム

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	国際交流課	国際連携推進機構国際交流委員会	委員	20190401
2	理学部・理学研究室	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員	20180000

### B. 研究活動

研究活動の概要

災害統計グローバルセンター(GCDS)の活動で、ネパールとモルディブを訪問し、国家防災庁等と被害データの収集、分析等について協力を得ることになった。富士通との3年間の共同研究を3月に終了し、グローバルデータベースの受け皿のドラフトを完成した。2020年3月末時点において、インドネシアのデータ(27,173件)の他、カンボジア9,617件、スリランカ43,439件、モルディブ2,073件、ミャンマー26,030件、ネパール24,257件からのデータを収集している。語り継ぎによる災害記憶の継承についてテルネットの企画した国際会議にインプットした。

### 論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
		2	2		2			

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Overview of the Special Issue on the Development of Disaster Statistics Part 2	Daisuke Sasaki Yuichi Ono	Journal of Disaster Research	14	8	1010	1013	20191101

2	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Main features of the existing literature concerning disaster statistics	Daisuke Sasaki Kana Moriyama, Yuichi Ono	International Journal of Disaster Research	43		101382		2019
---	----	----	----	----	------	---	-----	---	--	--	----	--	--------	--	------

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著		その他の共著		合計	3	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	3
----	---	------	--	--------	--	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	世界防災フォーラム2019	その他	無	いいえ	North East Think Tank of Japan	105	66	68	20190701	小野裕一	単著	なし	
2	日本語	世帯別の避難情報提供で防災力を高めよ	その他	無	いいえ	公明	169	16	21	20200101	小野裕一	単著	なし	
3	日本語	「ICOM京都大会2019記念特集」号 被災時の博物館	その他	無	いいえ	別冊博物館研究 vol.55	55	623	31	33	20200320	小野裕一	単著	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	WBF国際実行委員会及びWBF国内実行委員会※事務局(一財)世界防災フォーラム	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@2019	20191109	20191112	仙台国際センター	仙台	日本	900(230)	人文社会系	代表理事	IRIDeS共催	東北大学、仙台市、宮城県、河北新報社、東経連、仙台商工会議所	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

リーディング大学院の講義で、実践的防災学7を担当し、国際防災政策立案の過程についての実践的な講義を行った。卓越大学院の構想にあつて、国連職員養成コースの講座を提唱し、2020年度からの採択に貢献した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	実践的防災学VII	東北大学	リーディング大学院	リーディング大学院			(5/9)
2	日本の人道援助の紹介	国際基督教大学ICU					(9/18)

D. 社会活動

社会活動の概要

2019年11月に「世界防災フォーラム2019」を仙台で開催し、企画運営の総指揮を執った。50のセッション、3つの基調講演、47のポスター発表、33のミニプレゼンテーションが実施され、企業・NGO等による14の展示ブースが出展された。本会議には38の国・地域から871名の会議登録者が参加。主な参加機関は、国連を含む国際機関、国内外の政府・大学等研究機関、地方自治体、企業等。延べ来場者数は8,000人以上となった。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	8件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	JICA研修	講義	20190626	20190626	「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」における「災害統計」	企業	アジア防災センター	JICA東京	東京都	日本	10
2	セミナー	JICA研修	講義	20190709	20190709	「中南米総合防災行政」災害統計	企業	アジア防災センター	東北大学	仙台市	日本	16
3	セミナー	「復興・レジリエンスを考えるフォーラム」	講演およびパネリスト	20190711	20190711	世界防災フォーラムについて～福島から学ぶことの重要性について～	企業	福島イノベーションコースト構想推進企業協議会	ビジョンセンター東京八重洲南口	東京都	日本	50
4	セミナー	JICA研修	講義	20191004	20191004	「アフリカ総合防災行政」災害統計	企業	アジア防災センター	アジア防災センター	神戸市	日本	17
5	セミナー	日ASEANスマートシティ・ネットワークハイレベル会合	講義	20191008	20191008	「水リスク」	企業	国交省	ヨコハマグラウンドインターコンチネンタルホテル	横浜市	日本	45
6	セミナー	社内研修	講演	20191204	20191204	「SDGs」	企業	パシフィックコンサルタンツ(株)	パシフィックコンサルタンツ(株)	東京都	日本	30
7	セミナー	社内研修	基調講演	20191211	20191211	「国際防災アジェンダの動向と防災の聖地Sendaiの価値と有効利用について」	企業	パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社	ウェスティンホテル仙台	仙台市	日本	30
8	セミナー	JICA研修	講義	20200207	20200207	「総合防災統計」	企業	アジア防災センター	アジア防災センター	神戸市	日本	7

# 佐々木 大輔 助教

## SASAKI Daisuke

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	理学部	2004	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2015	9	博士(国際協力学)	2015	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	2	2014	3	株式会社浜銀総合研究所	研究員
2	2014	4	2017	8	横浜市役所	事務職員
3	2016	2	2017	8	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻	客員連携研究員
4	2017	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	国際開発学会	水文・水資源学会	土木学会	公益事業学会	International Studies Association

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会	編集出版委員	20180900
2	土木学会	ACECC TC21国内支援委員会	委員兼幹事	20190900

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	国際関係論	地域研究	自然災害科学・防災学	環境政策・環境社会システム

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	研究所長会議「研究所連携若手交流会」WG	委員	20190401

### B. 研究活動

研究活動の概要

2019年度は、計7篇の査読付き論文(英文誌)を公刊した。そのうち、3篇は災害統計に関連した研究に係る論文である。2019年度も引き続き、当研究所に設置された災害統計グローバルセンターに所属し、災害統計の整備、及び科学的根拠に基づく防災政策に係る研究に従事した(2020年度以降も継続)。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	現在		国際インフラプロジェクト等におけるリスクマネジメント	
2	2012	10	現在		国家間の電力貿易における経済性評価	国内
3	2016	2	現在		気候変動が太平洋島嶼国に与える影響評価	両方
4	2017	9	現在		災害統計の整備、科学的根拠に基づく防災政策に係る研究	両方

論文

単著	1	筆頭共著	3	その他の共著	3	合計	7	うち	国際査読有	7	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Main features of the existing literature concerning disaster statistics	Daisuke Sasaki, Kana Moriyama, Yuichi Ono	International Journal of Disaster Risk Reduction	43		101382	20200200	

2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Bottlenecks of hydropower development in Central Asia: Failure of aid coordination by development banks	Hiroyuki Deguchi, <u>Daisuke Sasaki</u> , Mikiyasu Nakayama	Hydrological Research Letters	14	1	29	33	2020000
3	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Influence of Religion, Culture and Education on Perception of Climate Change and its Implications: Applying Structural Equation Modeling (SEM)	<u>Daisuke Sasaki</u> , Irene Taafaki, Takuia Uakeia, Jennifer Seru, Yolanda McKay, Hermon Lajar	Journal of Disaster Research	14	9	1303	1308	20191200
4	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Climate Change, Migration, and Vulnerability: Overview of the Special Issue	Mikiyasu Nakayama, Scott Drinkall, <u>Daisuke Sasaki</u>	Journal of Disaster Research	14	9	1246	1253	20191200
5	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Analysis of the Attitude Within Asia-Pacific Countries Towards Disaster Risk Reduction: Text Mining of the Official Statements of 2018 Asian Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction	<u>Daisuke Sasaki</u>	Journal of Disaster Research	14	8	1024	1029	20191100
6	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Overview of the Special Issue on the Development of Disaster Statistics Part 2	<u>Daisuke Sasaki</u> , <u>Yuichi Ono</u>	Journal of Disaster Research	14	8	1010	1013	20191100
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Domestic Socioeconomic Barriers to Hydropower Trading: Evidence from Bhutan and Nepal	Kaoru Ogino, Mikiyasu Nakayama, <u>Daisuke Sasaki</u>	Sustainability	11	7		2062	20190407

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Bridging the Gaps in Infrastructure Investment for Flood Protection in Asia (JICA-RI Working Paper)	編集本(著者・Author)	20200200	Mikio Ishiwatari, <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	JICA Research Institute	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	1	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	Civil Engineering Conference in the Asian Region (CECAR) 8	Masayasu Kayano	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Hotel Metropolitan Ikebukuro	Tokyo	Japan	20190416	20190419	20190417	Estimating demand for flood protection infrastructure	<u>Mikio Ishiwatari</u> , <u>Daisuke Sasaki</u>
2	国内	第5回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	菅居 高明	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20190607	20190607	20190607	防災投資便益を加味した際のログンダム(Rogun dam)に係る費用便益分析等	佐々木 大輔, 峠嘉哉
3	国際	12th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST@SENDAI 2019)	Fumihiko Imamura	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Tohoku University	Sendai	Japan	20191107	20191108	20191108	Stakeholder Behavior in Disaster Risk Reduction at the Time of Rehabilitation and Reconstruction in Aceh	<u>Daisuke Sasaki</u> , Muhammad Iqbal, Hizir Sofyan, Nizamuddin Nizamuddin, Muzailin Affan
4	国内	アンサンブルプロジェクトコレクション シンポジウム	菅居 高明	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20191218	20191219	20191219	火山災害における経済被害額の算定手法の精緻化に向けて:インドネシア・クラカタウ火山を事例に	佐々木 大輔, 地引 泰人

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	東北大学附置研究所若手アンサンブルプロジェクト	第5回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	20190607	20190607	東北大学材料科学高等研究所	仙台	日本	100	人文社会系	運営・連絡・調整等	IRIDeS協賛・資金提供		国内
2	国際	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバルセンター(GCDS)	Recent Progress of the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)	20191111	20191111	仙台国際センター	仙台	日本	80	人文社会系	座長	IRIDeS主催・共同主催		両方
3	国際	その他	東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバルセンター(GCDS)	Expert Meeting	20191113	20191114	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	40	人文社会系	運営・連絡・調整等	IRIDeS主催・共同主催		両方
4	国内	シンポジウム	東北大学附置研究所若手アンサンブルプロジェクト	アンサンブルプロジェクトコレクション シンポジウム	20191218	20191219	東北大学加齢医学研究所	仙台	日本	100	人文社会系	運営・連絡・調整等	IRIDeS協賛・資金提供		国内

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

2019年度は、1コマの講義(分担)を担当した。  
2020年度以降も引き続き、講義を担当する予定である。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	実践的防災学Ⅶ(分野横断:国際防災政策)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学教育研究センター		1セメ	分担

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

2019年度は、引き続き、他大学(東京大学など)やJICA研究所等に所属する研究者との共同研究等を積極的に推進した。  
2020年度以降も、これらの共同研究等については、継続的に実施する予定である。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学災害科学 国際研究所	第66回IRIDeS金曜フォーラム	20200221	20200221	東北大学 災害科学国際 研究所	仙台	日本	運営、連絡・調 整等	40	IRIDeS主催・ 共同主催	研究会	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	JICA東北課題別研 修「ジェンダーと多 様性からの災害リス ク削減」	講義	20191016	20191016	「ジェンダー・多様性の視点に立ったICT を活用した防災の可能性」	なし	国際協力機 構東北セン ター(JICA 東北)	東北大学災 害科学国際 研究所	仙台	日本	10

## 自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20190925	JICA研究所	国内	研究プロジェクト「アジアのインフラ需要推計にかかる 研究」	研究機関	JICA研究所	20191001	1

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流 年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	笹川平和財団海洋政策 研究所	前川美湖, 吉岡渚	20200123	会議	笹川平和財団海洋政策研究所	東京	その他	50

ボレー ペンメレン セバスチャン 准教授

BORET Penmellen Sébastien

情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Oxford Brookes University	Department of Anthropology	2003	1	Oxford University	Institute of Social and Cultural Anthropology	2005	6	M.Phil. Social Anthropology	2005	6
2					Oxford Brookes University	Department of Anthropology	2011	3	PhD	2011	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	2014	7	Japan Society for the Promotion of Science, Tohoku University	Post-doctoral fellow
2	2014	8	2018	12	International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University	Assistant Professor
3	2019	1	Present		International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University	Associate Professor

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	Japan Society of Cultural Anthropology	東北民俗の会	Society of Applied Anthropolgy (US)	Japan Anthropology Workshop	European Association of Social Anthropologists	ISCRAM

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Sciencescope, French Researchers in Japan, Japan	Managing Committee	Vice-president	20150120
2	Journal of Disaster Research, Japan Forum, Anthropol, Cultural Anthropology		Reviewer	20120401

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	社会人類学	災害科学	生死学	日本学	インドネシア学

B. 研究活動

研究活動の概要

My research investigates the way in which individuals and societies manage, remember and archive the loss of communities and individuals during disasters. The earlier part of my research focuses on the politics surrounding the construction of memorial monuments among the coastal communities annihilated by the unprecedented tsunami that followed the Great East Japan Earthquake (2011) and fieldwork in the region of Aceh devastated by the Indian Ocean Earthquake and Tsunami (2004). In addition, I am working on disaster archives to improve the use of disaster memories for disaster education and disaster prevention. Finally, I am currently researching the role of memories and memorialization among fishing communities that have been devastated by the Great East Japan Earthquake.

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	9	現在		The Anthropology of Death: Funerals, Burials and Grief	両方
2	2011	8	現在		The Memorialization of Disasters	両方
3	2014	2	現在		Disaster Digital Archives	両方
4	2016	8	現在		The Revitalization of Fishing Communities in Tsunami-hit Areas	国内
5	2017	4	現在		Collective Memory, Narrative and Education in Large Scale Disaster	両方
6	2018	4	現在		Managing Mass Death and Grief in Disaster Communities	両方

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	5	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	------	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	はい	Archiving Disaster Remains: The Case of "sasanao Factory" in Yuriage Village, Natori City, Miyagi Prefecture	Sato, Shosuke, Suppasri, Anawat, Boret, Sébastien Penmellen Nakagawa, M., and Fumihiko Imamura	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	273	1	1	9	20190716



2	英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Preface, Proc. of 11th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Meilianda, Ella, Syamsidik Syamsidik, <u>Boret, Pennmellen Sébastien</u> , Idris, Yunita	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	273	1	1	2	201910716	
3	英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Transforming the Archives of the Great East Japan Earthquake into Global Natural Disaster Archives	<u>Shibayama, Akihiro and Boret, Sébastien Pennmellen</u>	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	273	1	1	6	20190716	
4	英語	共著	国外	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Recent occurrences of serious tsunami damage and the future challenges of tsunami disaster risk reduction	<u>Imamura, Fumihiko Boret Pennmellen, Sébastien and Suppasri, Anawat, and Muhari, Abdul</u>	Progress in Disaster Science	1	1	1	4	20190425	
5	英語	共著	国外	いいえ	単行本 (論文掲載)	有	いいえ	Theodicy of Tsunami: A Study of Commemoration in Aceh, Indonesia	Fukuda, Yu and <u>Boret, Pennmellen Sébastien</u>	Exploring Religio-cultural Pluralism in Southeast Asia: Intercommunion, Localization, Syncretisation and Conflict				227	242	2019

学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	International Workshop on Materialities and Emotions in Times of Disasters	Sandrine Revet	単名	はい	口頭(Plenary)	Science Po and Paris University	Paris	France	20190515	20190516	20190515	Temporality of Disaster Landscapes: Des Lieux de Mémoire for the Dead of the 2011 Tohoku Earthquake	<u>Sébastien P. Boret</u>
2	国際	Carnet du Centre Chine	Katia Le Mentec	単名	はい	口頭(招待)	National Research Center of France	Paris	France	20190519	20190519	20190519	Ecological Immortality and Ideas of the Afterlife in Japanese Tree Burials	<u>Sébastien P. Boret</u>
3	国内	Aceh International Workshop and Expo on Tsunami Recovery	Sébastien P. Boret	単名	はい	口頭(招待)	Tohoku University	Sendai	Japan	20191107	20191108	20191108	Social lives of tsunami walls in japan: concrete culture, social innovation and memory of coastal communities	<u>Sébastien P. Boret, Julia Gerster</u>
4	国内	Born From Disasters	Toshiaki Kimura	単名	はい	口頭(一般)	Tohoku University	Sendai	Japan	20200219	20200222	20200220	Identifying 'Places of Memories' of Fishing Communities after the Great East Japan Earthquake	<u>Sébastien P. Boret</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (内外別)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	ワークショップ	International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Tsunami and Disaster Mitigation Research Center, Syiah Kuala University, Indonesia	Aceh International Workshop and Expo on Tsunami Recovery	20191107	20191108	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	100	災害科学	Organizing Committee, Chair	IRIDeS主催・共同主催	TDMRC	国内
2	国際	ワークショップ	Disaster Humanities Research Unit, Tohoku University & Ministry of Culture	The Practicalities of Dealing with Disaster Remains and Cultural Heritage	20200219	20200222	IRIDeS, Tohoku University	Sendai	Japan	50	人文社会系	Organizing Committee, Co-Chair	IRIDeS主催・共同主催	Ministry of Culture, Japan	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

Boret holds an appointment as associate professor 兼任教員@環境科学研究所. He co-supervise masters and phd students. Boret teaches a one-year graduate seminar course 文化生態保全学ゼミ, a one-semester course on 東北アジア比較社会組織論 and occasional lectures for 環境科学概論. In addition, Boret is very teacher at the laboratory of Cultural Anthropology where I teach a one-semester course on 災害人類学 to graduate students. I also lectured on disaster archives for a course on basic training lead by the International Research Institute of Disaster Science.

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害人類学	東北大学	文学部	人類学研究所	1	1セメ	15

## マリ エリザベス 准教授

### MALY Elizabeth

情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Reed College	B.A. Art	2000	5	University of Washington-Seattle	建築	2008	6	Masters of Architecture	2008	6
2					神戸大学大学院工学部	建築	2013	3	学術博士(建築)	2013	3

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	6	2006	8	ワシントン大学 大学ジャーナル紙 編集委員	編集委員
2	2009	10	2012	3	International Recovery Platform (IRP)	アシスタント研究員
3	2012	4	2014	3	人と防災未来センター	研究員(2013～主任研究員)
4	2014	4	2018	12	東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	助教
5	2019	1	現在		東北大学 情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	日本都市計画学会	日本住宅会議	災害復興学会	地域安全学会

##### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本都市計画学会	国際用語辞典改訂検討小委員会	委員	20180401
2	International Journal of Disaster Risk Reduction		Associate Editor	2018000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	住宅復興	住まい環境	国際比較	土地利用	災害復興政策

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	仙台市	中心部震災メモリアル拠点検討委員会	委員	20190100

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

I continued my research on the themes of post disaster housing recovery and relocation, and the role of NGOs and governments in housing provision, including international comparisons and investigation of several international case studies. This research continued to follow the ongoing process of housing recovery and relocation in Tacloban City, Philippines, after 2013 Typhoon Yolanda (international name Haiyan), and the connection of recovery in the housing and education sectors and community recovery. I was awarded funding for a new 5-year research project through Kaken Grant in Aid (Kiban C), which builds on past research on the roles of NGOs in housing recovery in Philippines and the U.S., to continue to explore a similar topic of NGOs' role in housing recovery in Palu after the Sulawesi tsunami and Houston, Texas after Hurricane Harvey in the U.S. Other international research investigations included projects on pre-disaster recovery planning, and housing recovery after mega disasters, in the United States and Italy. I continued to pursue collaborative research with counterparts in the Philippines, Taiwan, and the U.S. My research in Japan continued to follow the recovery process after the GEJE, with a focus on housing recovery and residential displacement, with several contributions to international and Japanese conferences and publications.

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		東日本大震災後の木造仮設住宅	国内
2	2011	4	現在		東日本大震災後の復興計画と高台移転や土地利用	国内
3	2012	4	現在		自然災害の復興に関する土地利用や移転の国際比較研究	国外
4	2012	10	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興と土地利用 (アメリカ)	国外
5	2012	4	現在		メラピ火山噴火後の住宅復興 (インドネシア)	国外
6	2012	4	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興 (アメリカ)	国外
7	2014	4	現在		インド洋津波後の住宅復興 (インドネシア, タイ)	国外

8	2014	4	現在	台風ハイヤンの復興 (フィリピン)	国外
9	2015	4	現在	住宅復興と教育復刻の連携;国際比較的研究 (フィリピン、インドネシア)	国外
10	2016	4	現在	住宅復興の起るNGO役割	国外

論文

単著	2	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	4	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国外	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	An Investigation of the Reality of Community-Building in Post-Yolanda Relocation Areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi					20191100
2	英語	単著	国外	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	8 Years of Displacement: Evacuation and Recovery Processes for People from Fukushima Since the 2011 Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Nuclear Melt-down.	Elizabeth Maly					20190605
3	英語	筆頭共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Results and problems of localized housing recovery using traditional Japanese construction methods	Elizabeth Maly, Tsukasa Iwata, Satoshi Arikawa			12	12	20190700
4	英語	単著	両方	いいえ	その他	無	はい	Rapido: Bridging the Gap between Temporary and Permanent Housing in the U.S.	Elizabeth Maly					20190900

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国際	Environmental Design Research Association (EDRA) 50th Conference: Sustainable Urban Environments	Linda Nubani, PhD	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	NYU	New York	USA	20190522	20190526	20190524	An Investigation of the Reality of Community-Building in Post-Yolanda Relocation Areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi
2	国際	2019 international i-Rec conference Disrupting the status quo: Reconstructing, recovery and resisting disaster risk creation	Jason Von Meding	単名	いいえ	口頭(一般)	University of Florida	Gainesville, Florida	USA	20190605	20190607	20190606	8 Years of Displacement: Evacuation and Recovery Processes for People from Fukushima Since the 2011 Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Nuclear Melt-down.	Elizabeth Maly
3	国際	Silk Cities 2019: Reconstruction, Recovery and Resilience of Historic Cities and Societies	Dr. Lucia Patrizio Gunning	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	University of L'Aquila	L'Aquila	Italy	20190711	20190711	20190711	Results and problems of localized housing recovery using traditional Japanese construction methods	Elizabeth Maly, Tsukasa Iwata, Satoshi Arikawa
4	国際	AIWEST@Sendai 2019 12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, Sharing Tohoku Aceh Experience	Sebastien Boret	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	An Investigation of the Reality of Community-Building in Post-Yolanda Relocation Areas in Tacloban City, Philippines	Elizabeth Maly, Faustito Aure, Ma. Cristina I. Caintic, Aiko Sakurai, Kanako Iuchi
5	国際	AIWEST@Sendai 2019 12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, Sharing Tohoku Aceh Experience	Sebastien Boret	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	IRIDeS	仙台	日本	20191107	20191108	20191108	Current situation and challenges for disaster survivors: Collective relocation for disaster prevention projects in Ogatsu district, Ishinomaki City, Miyagi Prefecture, after The Great East Japan Earthquake	Akira Miyasada and Elizabeth Maly

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	6件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	
				開始年月	終了年月										
1	国際	研究会	IRIDeS	Accountability of Humanitarian Aid brownbag discussion	20191107	20191108	IRIDeS	仙台	日本	100	工学	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同主催	TDMRC, Shiyah Kuala University	両方

2	国際	シンポジウム	IRIDeS	AIWEST@Sendai 2019 12th Aceh International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery, Sharing Tohoku Aceh Experience	20191107	20191108	IRIDeS	仙台	日本	100	工学	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同主催	TDMRC, Shiyah Kuala University	両方
3	国際	セミナー	IRIDeS	"Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Progress Reports" World Bosai Forum Scientific Session	20191112	20191112	IRIDeS	仙台	日本	50	工学	Chair	IRIDeS主催・共同主催	University of Washington, CIGIDEN	両方
4	国際	シンポジウム	神戸大学減災デザインセンターCResD	Resilient living environments in the recovery from the disaster	20200204	20200204	神戸大学	神戸	日本	30	人文社会系	運営委員	IRIDeS共催	神戸大学減災デザインセンターCResD	両方
5	国際	研究会	福島大学鈴木宏名 誉教授・IRIDe S	Current Situation of Fukushima Nuclear Disaster and Recovery Challenges: Joint Meeting	20191116	20191116	Fukushima City Gender Equality Center	福島	日本	11	人文社会系	Chair	IRIDeS共催	福島大学鈴木宏名 誉教授	両方
6	国際	研究会	IRIDeS	Cascading Disaster Research Meeting	20191108	20191108	IRIDeS	仙台	日本	25	人文社会系	Chair	IRIDeS主催・共同主催		国外

C. 教育活動

教育活動の概要

This year I gave one lecture for the JYPE class "Basics of natural disaster science and its application for BOSAI" in the Engineering Dept

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	自然災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	工学部		3	1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

During this year, I coordinated, organized and participated in various events, including public symposiums, and other presentations and research meetings. Through these events, various information was shared about disaster mitigation and recovery, from experiences in Japan and other countries. I had many occasions to exchange information about Japan and Tohoku recovery with international audiences and colleagues through various public and academic events and lectures. In addition, I was engaged in many activities focusing on building stronger connections between researchers from inside and outside Japan with IRIDeS.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 7 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国際	IRIDeS	Symposium on Yolanda Recovery Reflections and Considerations on the Rebuilding Process	20190801	20190812	Eastern Visayas State University	Tacloban	Philippines	運営委員	100	IRIDeS主催・共同主催	講演会	
2	国内	IRIDeS	第32回防災文化講演会 国内外の災害ミュージアムの現在	20191116	20191116	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	議長	50	IRIDeS主催・共同主催	講演会	
3	国内	IRIDeS	第64回金曜フォーラム シリーズ:災害メモリアル	20191027	20191027	IRIDeS	仙台	日本	運営委員	100	IRIDeS主催・共同主催	講演会	
4	国際	IRIDeS	12th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR2019)	20191107	20191108	IRIDeS	仙台	日本	運営委員	100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム	
5	国際	IRIDeS	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Progress Reports" World Bosai Forum Scientific Session	20191112	20191112	仙台国際センター	仙台	日本	議長	50	IRIDeS主催・共同主催	セミナー	
6	国際	ひょうご震災記念21世紀研究機構	2020 世界災害語り継ぎフォーラム	20200124	20200126	神戸まちづくり会館	神戸	日本	運営委員	71	なし	シンポジウム	
7	国際	神戸大学減災デザインセンターCResD	Resilient living environments in the recovery from the disaster	20200204	20200204	神戸大学	神戸	日本	神戸大学	30	IRIDeS共催	シンポジウム	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 9 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	第3回仙台ラウンドテーブル	講義	20190423	20190423	地域コアとなる市役所(シティホール)を育む	なし	仙台市財政局 理財部 本庁舎建替 準備室	せんだいメディア アテーク	仙台	日本	100
2	セミナー	防災講義	講義	20190626	20190626	防災体制の強化、ポスト復興庁組織、諸外国の防災組織体制等について	行政	宮城県議会 自民党・県民 会議	宮城県庁	仙台	日本	40
3	講演会	みやぎボイス2019	講義	20190706	20190706	アメリカの被災者支援制度について:仮設住宅と連続復興	なし	建築学会東北	せんだいメディア アテーク	仙台	日本	200
4	セミナー	APRU Multi-Hazards Summer School	講義	20190722	20190722	Recovery after the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 3.11.2011	なし	APRU	IRIDeS	仙台	日本	40
5	講演会	Symposium on Yolanda Recovery: Reflections and Considerations on the Rebuilding Process	講義	20190801	20190801	Resettlement in Tacloban North – the Situation until now	なし	IRIDeS	Eastern Visayas State University	Tacloban	Philippines	100
6	セミナー	International Workshop on Social Capital, Resilience and Disaster Recovery	講義	20190805	20190805	Building Back Better with People Centered Housing Recovery	なし	Research Institute of Global Communication, Kansai University of International Studies	Tohoku University Extended Education and Research Building	仙台	日本	30
7	セミナー	第64回金曜フォーラムシリーズ:災害メモリアル	講義	20191027	20191027	台湾集集地震から20年	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	30
8	セミナー	海外から見た東日本大震災の経験/記録と伝承	講義	20191024	20191024	海外の災害博物館	なし	神戸大学都市安全研究センター	南三陸ホテル観洋	南三陸	日本	30
9	セミナー	国際比較法制研究分科会第4回	講義	20200206	20200206	アメリカの復興支援制度について:住宅再建や土地利用と仮設住宅と連続復興	なし	関西大学	関西大学	西宮	日本	10

# 山下 啓 准教授

## YAMASHITA Kei

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	工学部	2009	3	鹿児島大学大学院	理工学研究科	2014	3	博士(工学)	2014	3

## 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			
1	2014	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所 災害リスク研究部門	産学官連携研究員
2	2015	10	2018	1	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助教
3	2018	2	2018	7	ハワイ大学 Department of Ocean & Resources Engineering	客員研究員
4	2018	8	2018	9	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部	学術研究員
5	2018	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	自然災害学会	AGU

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会海岸工学委員会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会WG4	委員	20160304
2	土木学会海岸工学委員会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会WG2	委員	20181001

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	海岸工学	津波工学	自然災害科学	非線形波動	数値シミュレーション

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	環境・安全委員会安全管理専門委員会	危険物質総合管理システム専門部会専門部員	20190401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

1) 津波と土砂移動に関して、気仙沼湾狭窄部海底の現地調査より震災以降の底質や地質構造の実態を明らかにして、海底下基盤分布を用いた数値モデルの検証を行なった。その他、既存の分散性波動モデルと土砂移動モデルを統合し、沿岸でのボアや跳水を伴う津波と土砂移動を解析する先端的シミュレーションツールを開発した。2) 高密度市街地における津波氾濫解析モデルの高度化に取り組み、建物群内での局所的な水理現象と、それらの破壊に伴って変化する建物による遮蔽効果の時間変化を考慮するモデルを提案した。3) SIPリアルタイム高潮高波浸水予測システムの構築と効果的なシステム社会実装に向けた産学連携の研究開発を進めている。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	現在		気仙沼湾における津波による土砂移動・地形変化に関する研究	国内
2	2016	4	現在		津波による建物群の破壊過程を考慮した実用的な津波氾濫モデルに関する研究	国内
3	2018	4	現在		分散性波動モデルと土砂移動モデルのカップリングに関する研究	両方
4	2015	4	現在		非線形分散波理論に基づく津波数値解析モデル(JAGURS)の高度化	両方
5	2015	8	現在		沿岸生態系(藻場・養殖施設)の津波リスク評価手法の構築に関する研究	国内
6	2019	4	現在		リアルタイム高潮高波浸水予測システムの開発と効果的な社会実装に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	6	合計	9	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	6
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高知県における最大クラスの津波による地形変化と潜在的影響の評価	山下啓・菅原大助・門廻充侍・有川太郎・高橋智幸・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	1_685	1_690	20190000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	スマートフォンアプリによるリアルタイム災害情報を活用した津波避難の有効性と課題	大石裕介・古村孝志・今村文彦・三原宜輝・牧野嶋文泰・山下啓・東山孝生・後藤知範・大村誠・永山実幸	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	1_1381	1_1386	20190000
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Modeling of a dispersive tsunami caused by a submarine landslide based on detailed bathymetry of the continental slope in the Nankai trough, southwest Japan	Toshitaka Baba, Yodai Gon, Kentaro Imai, Kei Yamashita, Tetsuo Matsuno, Mitsuru Hayashi, Hiroshi Ichihara	Tectonophysics	768		10 pages		20190822
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	臨海都市部における津波による底質移動に起因した災害リスク評価に向けて	山下啓・大石裕介・古村孝志・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	C8		20190000
日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	タイ・プラトーン島を対象とした2004年インド洋大津波による海浜侵食とその回復要因の検討	椎谷亮太・Anawat SUPPASRI・山下啓・今村文彦・Chris GOURAMANIS・Natt LEELAWAT	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	C7		20190000
日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	宮城県気仙沼市における震災データ活用による犠牲率と黒い津波外力との関係	門廻充侍・山下啓・高橋智幸・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	75	2	C10		20190000
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	高知県広域における南海トラフ巨大地震の津波による土砂移動影響の潜在性評価	山下啓・菅原大助・門廻充侍・有川太郎・高橋智幸・今村文彦	日本地球惑星科学連合2019年大会			HDS13-16		20190000
日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	南海トラフ巨大地震津波による土砂移動解析	齋藤琢也・山下啓・馬場俊孝	日本地球惑星科学連合2019年大会			HDS13-P13		20190000
日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	リアルタイム防災情報を活用した効率的な津波避難の検討	大石裕介・古村孝志・今村文彦・三原宜輝・牧野嶋文泰・山下啓・東山孝生・後藤知範・大村誠・永山実幸	日本地球惑星科学連合2019年大会			HDS15-06		20190000

学会発表

単名	0	筆頭連名	4	その他の連名	7	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	第66海岸工学講演会	後藤仁志	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191025	高知県における最大クラスの津波による地形変化と潜在的影響の評価	山下啓・菅原大助・門廻充侍・有川太郎・高橋智幸・今村文彦
国内	第66海岸工学講演会	後藤仁志	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191024	臨海都市部における津波による底質移動に起因した災害リスク評価に向けて	山下啓・大石裕介・古村孝志・今村文彦
国内	第66海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191024	宮城県気仙沼市における震災データ活用による犠牲率と黒い津波外力との関係	門廻充侍・山下啓・高橋智幸・今村文彦
国内	第66海岸工学講演会	後藤仁志	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	かごしま県民交流センター	鹿児島	日本	20191023	20191025	20191025	スマートフォンアプリによるリアルタイム災害情報を活用した津波避難の有効性と課題	大石裕介・古村孝志・今村文彦・三原宜輝・牧野嶋文泰・山下啓・東山孝生・後藤知範・大村誠・永山実幸
国際	AOGS 16th Annual Meeting Asia Oceania Geosciences Society	後藤仁志	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Convention Centre - SUNTEC Singapore	シンガポール	シンガポール	20190728	20190802	20190729	Evaluation of tsunami risk reduction effect by afforestation area in coastal area of Indonesia	Akihiro Hayashi, Kei Yamashita, Fumihiko Imamura, Takayuki Hayashi, and Ichiro Sato
国際	27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	the Palais des Congrès	モンリオール	カナダ	20190708	20190718	20190713	Coupled non-hydrostatic flow and sediment transport model for Investigation of coastal morphological changes caused by tsunamis	Kei Yamashita, Yoshiki Yamazaki, Yefei Bai, Tomoyuki Takahashi, Fumihiko Imamura, Kwok Fai Cheung
国際	27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	the Palais des Congrès	モンリオール	カナダ	20190708	20190718	20190713	Dispersion effects on generation and propagation of tsunami caused by submarine landslide	Toshitaka Baba, Kentaro Imai, Kei Yamashita
国際	27th IUGG General Assembly	Fiona Darbyshire	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	the Palais des Congrès	モンリオール	カナダ	20190708	20190718	20190713	A pilot tsunami evacuation drill towards efficient tsunami evacuation using a smartphone application	Y. Oishi, T. Furumura, F. Imamura, Y. Mihara, F. Makinoshima, K. Yamashita, T. Higashiyama, T. Gotou, M. Oomura, M. Nagayama
国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	幕張	日本	20190526	20190530	20190529	高知県広域における南海トラフ巨大地震の津波による土砂移動影響の潜在性評価	山下啓・菅原大助・門廻充侍・有川太郎・高橋智幸・今村文彦
国内	日本地球惑星科学連合2019年大会	寶 馨	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	幕張	日本	20190526	20190530	20190529	南海トラフ巨大地震津波による土砂移動解析	齋藤琢也・山下啓・馬場俊孝

11	国内	日本地球惑星科学連合 2019年大会	寶 馨	その他 の連名	いよいよ	口頭(一般)	幕張メッセ	幕張	日本	20190526	20190530	20190529	リアルタイム防災情報を活用した効率的な津波 避難の検討	大石裕介・古村孝志・今 村文彦・三原直輝・牧野 嶋文泰・山下 啓・東山 孝生・後藤知範・大村 誠・永山実幸
----	----	-----------------------	-----	------------	------	--------	-------	----	----	----------	----------	----------	--------------------------------	---

C. 教育活動

教育活動の概要

津波土砂移動をテーマとする修士研究および卒業研究を指導した。前者では、タイ・プラトンの津波堆積物に関する現地調査を行なうとともに、遠浅海岸における巨大津波特性と土砂移動特性の関係性を数値的に検討して、津波堆積物形成過程に関する有用な知見を得ることができた。また後者では、遠地津波による土砂移動特性を数値的に明らかにしようとした。得られた成果は、査読付論文に投稿中である。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

防災推進国民大会や仙台防災未来フォーラムでは津波シミュレーションや防災教育活動等に関する寄附研究部門の取組内容を防災に関心のある多くの方々へ広く発信した。また、多賀城高校生や自衛隊関係会議の方々に津波防災研究を紹介するなどして防災教育・啓発活動を行なった他、テレビや新聞のメディアを通じて津波による土砂移動に関する研究成果を日本国内外に広く発信頂いた。その他、川崎市等と津波避難訓練運営で連携した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	防災推進国民大会 2019実行委員会	第4回防災推進国民大会	20191019	20191020	名古屋 コンベンション ホール	名古屋市	日本	ブース展示		IRIDeS展示	その他	
2	国内	主催:仙台市 後援:東北大学災 害科学国際研究 所・宮城県	仙台防災未来フォーラム	20191110	20191110	仙台国際 センター	仙台市	日本	ブース展示		IRIDeS展示	その他	
3	国際	主催:仙台市 後援:東北大学災 害科学国際研究 所・宮城県	World BOSAI Forum	20191109	20191112	仙台国際 センター	仙台市	日本	シンポジウム会 場運営補佐	900	IRIDeS共催	シンポジウム	
4	国内	主催:川崎区役所 協力:東北大学災 害科学国際研究 所・東京大学地震 研究所・富士通株 式会社、等	川崎市津波避難訓練	20191117	20191117	川崎市	川崎市	日本	運営	211	IRIDeS協力	その他	
5	国内	主催:大分県中津 南高校	大分県中津南高校のワーク ショップ	20191211	20191211	東北大学 災害科学 国際研究所	仙台市	日本	ワークショップ 運営補佐	100	なし	ワークショップ	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動 内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	東北方面総監部防衛 部_危機対策連絡会	招待講演 (代理)	20190618	20190618	東日本大震災の経験と次への備え	行政	東北方面 総監部防衛部	東北方面 総監部防衛部	仙台市	日本	100
2	セミナー	東北大学オープン キャンパス特別講義	講義	20190730	20190730	東日本大震災における津波の実態と教訓	小中高	東北大学	東北大学災害 科学国際研究 所	仙台市	日本	100

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流 年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	国土技術研究センター・ 富士通研究所・沿岸技 術研究センター・気象協 会・川崎市	岡安徹也ら	多数	共同研究	国土技術研究センター	東京	その他	10
2	川崎市・富士通研究所・ 東京大学地震研究所	大石裕介ら	多数	共同研究	川崎市役所	川崎市	その他	10
3	関西大学・中央大学・防 衛大学校・徳島大学・気 象研究所	高橋智幸教授ら	20200323	共同研究	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	その他	10
4	防災科学技術研究所・ 徳島大学・東京大学地 震研究所	近貞直孝ら	20200107	共同研究	防災科学技術研究所	東京	その他	10



## 宮本 龍 助手

## MIYAMOTO Ryu

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	慶應義塾大学	理工学部	2006	3	慶應義塾大学大学院	理工学研究科	2008	3	修士(工学)	2008	3

## 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	4	2011	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 自然災害リスクグループ	研究員
2	2011	4	2014	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産事業部 リスクモデリンググループ	主任研究員
3	2014	4	2017	3	Tokio Marine Insurance (Thailand) PCL. Commercial Lines Underwriting Dept.	Senior Risk Engineer
4	2017	4	2017	6	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産本部 リスク定量化ユニット	シニアリスクアナリスト
5	2017	7	2019	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産本部 リスク定量化ユニット	エキスパートリスクアナリスト
6	2019	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助手

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	土木学会	日本建築学会	自然災害学会	Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地震津波リスク	フラジリティ評価	確率論的リスク定量化

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

産業を対象とした津波リスクの定量評価手法の高度化として、①企業の有形固定資産の津波損傷度曲線に関する研究成果を日本建築学会大会・第2回世界BOSAIフォーラム(WBF)企画セッションにおいて発表した。また建物以外の企業資産を対象とした津波損傷度曲線を構築し、17WCEEへ投稿中である。②任意の建物情報を反映可能な津波損傷度曲線を構築し、自然災害学会学術講演会において成果発表した。③建築年代を考慮した津波被害関数を構築し、土木学会論文集(海岸工学)へ投稿中である。④第4回防災推進国民大会、WBFでの寄附部門+東京海上グループ主催セッション、仙台防災未来フォーラムでのブース出展につき、それぞれ企画・運営・展示対応を担当した。

## 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
	2019	4	現在		産業を対象とした津波リスクの定量評価手法の高度化	国内

## 学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

1	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
	国内	2019年度日本建築学会大会(北陸)	松井徹哉・寺口敬秀	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	金沢工業大学	金沢	日本	20190903	20190906	20190904	企業の有形固定資産を対象とした津波損傷度曲線の構築	宮本龍、佐藤一郎、林晃大、増田聡
	国内	第38回日本自然災害学会学術講演会	能島暢呂	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	日本	20190921	20190922	20190922	任意の建物情報を反映した津波損傷度評価に関する検討	宮本龍、サッパシーアナワット、今村文彦
	国際	World Bosai Forum 2019 企画セッション「Creating a disaster resilient society through industry-academia collaboration」	Anawat SUPPASRI	単名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191110	Advancement of tsunami risk assessment	Ryu Miyamoto
	国際	World Bosai Forum 2019	小野裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Investigation of typhoon no. 19 (2019) induced flood damages and historical characteristics of flood hazards around Yoshida River in Miyagi Prefecture, Japan	Masakazu HASHIMOTO, Shuji SETO, Ryu MIYAMOTO and Saroj KARKI

## 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運 営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のち外題人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	内閣府	第4回防災推進国民大会	20191019	20191020	東京ビッグサイト	東京	日本	15000	工学	展示説明	IRIDeS展示	東京海上日動 火災保険株式 会社・東京海 上日動リスコ ンサルティン グ株式会社	国内
2	国際	シンポジウム	一般財団法人 世界防災 フォーラム	World Bosai Forum 2019 企画セッション「Creating a disaster resilient society through industry-academia collaboration」	20191109	20191112	仙台国際センター	仙台	日本	871	工学	企画・運営担当	IRIDeS主催・ 共同主催	東京海上日動 火災保険株式 会社・東京海 上日動リスコ ンサルティン グ株式会社	国内
3	国内	シンポジウム	仙台市	仙台防災未来フォーラム	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台	日本	3700	工学	展示説明	IRIDeS展示	東京海上日動 火災保険株式 会社・東京海 上日動リスコ ンサルティン グ株式会社	国内

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

①5つのイベントで展示説明、運営、趣旨説明等を担当した。②金曜フォーラムにて新任教員として講演した。③東京海上日動火災保険「防災・減災サイト」の監修を務めた。④経産省・防災ISO事業について、提案・入札対応業務、受託後の事務局業務(事業の趣旨説明と理解を得るための学内外調整、議事・情報共有、WBFイベント参画、WBF企画セッション開催支援、外注対応、防災ISO委員会の企画運営、調査報告書作成、等)を担当した。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・ セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東京海上日動火災 保険	仙台支店 パーソナルビジネス研 究会	20190619	20190619	東京海上日 動火災保険 仙台支店	仙台	日本	企画担当	80	IRIDeS協力	講演会	
2	国内	東北大学災害科学 国際研究所	Bosai Startups in Japan:Building a More Resilient Society	20190930	20190930	ヤフー株式 会社オープン コラボレーシ ョンスプレ ース「LODGE」	東京	日本	主催者代表	51	IRIDeS主催・ 共同主催	ワークショップ	
3	国際	東北大学災害科学 国際研究所	第2回世界防災フォーラム 企画 セッション「Local production for local protection (Chisan Chibo) - Proposing standardized local-level bosai operations from Tohoku/Sendai」	20191109	20191112	仙台国際 センター	仙台	日本	運営担当	871	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	
4	国内	「震災対策技術展」 東北 実行委員会	第10回「震災対策技術展」東北	20191110	20191111	仙台国際 センター	仙台	日本	展示説明	3,603	IRIDeS展示	シンポジウム	
5	国内	仙台市消防局 一般財団法人 救急振興財団	第28回全国救急隊員 シンポジウム	20200130	20200131	仙台国際 センター	仙台	日本	展示説明	8,274	IRIDeS展示	シンポジウム	

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動 内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第62回IRIDeS金曜 フォーラム	講演	20190531	20190531	地震・津波リスク定量評価の実務と課 題認識	なし	東北大学災 害科学国際 研究所	東北大学災 害科学国際 研究所	仙台市	日本	40

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	東京海上日動火災保険	東京海上日動火災保険「防災・減災サイト」監修	監修担当	20190701

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 41 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	東京海上日動火災保険	長村政明理事、他5名	20190409	会議	東京海上日動火災保険本社	東京	その他	12
2	東京海上日動火災保険	河本竜司グループリーダー、他2名	20190410	会議	東京海上日動火災保険仙台支店	仙台	企画	4
3	東京海上日動火災保険	河本竜司グループリーダー、他2名	20190522	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	5
4	東京海上日動火災保険	宮川圭介課長、他4名	20190701	会議	東京海上日動火災保険本社	東京	その他	7
5	東京海上日動火災保険	井澤徹理事・支店長、他2名	20190726	会議	東京海上日動火災保険仙台支店	仙台	その他	5
6	一般社団法人防災ガール	田中美咲代表、他1名	20190808	会議	東北大学災害科学国際研究所(TV会議)	仙台(TV会議)	運営	5
7	経済産業省、三菱商事インシユアランス	迫田章平総括補佐、他1名、小野高宏室長補佐	20190906	会議	経済産業省本館	東京	運営	6
8	内閣府防災担当	中尾晃史参事官、他2名	20190919	会議	内閣府	東京	その他	5
9	経済産業省、多摩大学、日本規格協会	井元尚充室長補佐、市川芳明客員教授、三橋正示高度エキスパート	20190924	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	5
10	サーベイリサーチセンター、東京海上日動火災保険	岩崎雅宏常務取締役、他1名、室谷岳志課長	20191002	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	13
11	仙台市	郡和子市長、他5名	20191011	会議	仙台市本庁舎	仙台	その他	8
12	経済産業省、日本規格協会	迫田章平総括補佐、他1名、古野毅参事	20191021	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	その他	7
13	経済産業省、内閣府、防災科学技術研究所	谷口翔太氏、松尾泰樹統括官、他4名、阿部健一シニアアドバイザー、他2名	20191105	会議	内閣府	東京	運営	11
14	三菱総合研究所	木根原良樹参事、他1名	20191105	会議	三菱総合研究所本社	東京	その他	4
15	サーベイリサーチセンター、東京海上日動火災保険	岩崎雅宏常務取締役、他1名、室谷岳志課長	20191106	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	13
16	経済産業省、日立製作所、多摩大学、日本規格協会	井元尚充室長補佐、木原隆宏チーフアーキテクト、市川芳明客員教授、中川梓理事、他2名	20191125	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	12
17	国土交通省東北地方整備局	西尾崇企画部長、他1名	20191202	会議	国土交通省東北地方整備局	仙台	その他	5
18	サーベイリサーチセンター、サイエンスクラフト	岩崎雅宏常務取締役、他1名、竹本加良子、他1名	20191204	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	12
19	国際協力機構、名古屋大学、三菱総合研究所、ワンテーブル、仙台市、環境省、経済産業省、読売新聞、日本規格協会	竹谷公男上席国際協力専門員、西川智教授、木根原良樹参事、島田昌幸社長、鈴木知基課長、他2名、山口遥香自然保護官、澤田亨工業標準専門職、他3名、本村謙室長、古野毅参事	20191213	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	20
20	経済産業省、三菱総合研究所、日本規格協会	澤田亨工業標準専門職、他1名、木根原良樹参事、古野毅参事	20191213	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	7

21	ISO TC268/SC1ステアリング委員会	ISO TC268/SC1ステアリング委員会委員・事務局・オブザーバ	20191220	会議	ビジョンセンター 田町	東京	その他	26
22	経済産業省	澤田亨工業標準専門職、他1名	20191220	会議	経済産業省別館	東京	運営	5
23	環境省	杉本留三室長、他1名	20191220	会議	環境省本省	東京	企画	5
24	国土交通省	波多野真樹防災企画官、他3名	20191223	会議	国交省防災課	東京	企画	7
25	東京海上日動火災保険	長村政明理事、他5名	20200107	会議	東京海上日動火災保険本社	東京	企画	8
26	サーベイリサーチセンター、東京海上日動火災保険	岩崎雅宏常務取締役、他1名、室谷岳志課長	20200108	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台	運営	13
27	総務省国際戦略局	山口修治課長、他3名	20200123	会議	総務省国際戦略局	東京	企画	7
28	内閣府防災担当	中尾晃史参事官、他1名	20200123	会議	内閣府	東京	その他	6
29	経済産業省、日本品質保証機構	迫田章平総括補佐、他1名、小林善男理事、他1名	20200127	会議	経済産業省別館	東京	その他	7
30	経済産業省、日本規格協会	迫田章平総括補佐、他2名、中川梓理事、他2名、	20200127	会議	経済産業省別館	東京	その他	9
31	経済産業省	迫田章平総括補佐、他10名	20200127	会議	経済産業省別館	東京	その他	14
32	三菱商事インシュアランス	小野高宏室長補佐	20200127	会議	三菱商事インシュアランス本社	東京	その他	4
33	産業技術総合研究所	関山守主任研究員	20200131	会議	産業技術総合研究所 柏センター	柏	企画	4
34	国際協力機構、名古屋大学、名古屋工業大学、日本政策投資銀行、三菱総合研究所、三菱商事インシュアランス、多摩大学、ワンテーブル、環境省、国立健康・栄養研究所、経済産業省、読売新聞、日本品質保証機構、防災科学技術研究所、東京海上日動火災保険、トエネック、日本たばこ産業、日立製作所、日本規格協会	竹谷公男上席国際協力専門員、西川智教授、渡辺研司教授、蛭間芳樹主幹、木根原良樹参与、島田昌幸社長、市川芳明客員教授、山口遥香自然保護官、他1名、笠岡(坪山)宣代室長、澤田亨工業標準専門職、他1名、倉光豊次長、中村一樹主任研究員、他4名、青景史明課長、山本達也副主査、濱田尚マネージャー、木原隆宏チーフアーキテクト、古野毅参事	20200228	会議	東北大学東京分室	東京	運営	31
35	富士通、日本規格協会	周意誠シニアマネージャー、古野毅参事	20200228	会議	日本規格協会本部	東京	企画	4
36	多摩大学、経済産業省	市川芳明客員教授、谷口翔太氏	20200313	会議	東北大学東京分室	東京	運営	4
37	経済産業省、JERA	迫田章平総括補佐、他1名、森崎宏一郎長、他2名	20200313	会議	東北大学東京分室	東京	運営	9
38	三菱総合研究所	木根原良樹参与、他3名	20200313	会議	東北大学東京分室 (TV会議)	東京 (TV会議)	運営	8
39	仙台市経済局	神倉崇、他4名	20200323	会議	仙台市経済局	仙台	運営	7
40	名古屋工業大学、防災科学技術研究所	渡辺研司教授、阿部健一、他1名	20200325	会議	東北大学災害科学国際研究所 (TV会議)	仙台 (TV会議)	その他	6
41	三菱総合研究所	東穂いづみ、他1名	20200330	会議	東北大学災害科学国際研究所 (TV会議)	仙台 (TV会議)	運営	5

## 保田 真理 プロジェクト講師

YASUDA Mari

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	甲南大学	文学部	1980	3					学士	1980	3

## 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			
1	1980	4	1982	12	(株)関西総合電子計算センター 総務部	社員
2	1999	9	2012	9	東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	研究支援員
3	2012	10	2017	3	東北大学災害科学国際研究所	助手
4	2017	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	プロジェクト講師

## 学会活動

## 所属学会

学会名
1
日本自然災害学会

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
自然災害科学	コミュニケーション心理学	児童教育	国際連携	教育ツール開発

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

国内外で減災意識啓発活動に取り組んでいる。今年度は国内30校で出前授業を実施し、対象学校では児童の意識変化を質問紙によって調査を行なった。調査結果は学会で発表し、いくつかのケースは論文化した。研究データを沿岸部と内陸部に分けて解析した結果、意識変化に違いがあることが判明した。大人の地域での防災活動を研究と連携したシティズンサイエンティスト活動としてみた場合、防災活動の裾野を広げる可能性に着目して研究を始めた。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	現在		減災社会構築を促進する意識啓発教育の効果的な手法に関する研究	両方
2	2015	4	現在		効果的な防災教育ツール開発に関する研究	両方
3	2017	4	現在		減災社会を促進する女性の役割に関する研究	国外
4	2019	4	現在		防災活動に従事する集団をシティズンサイエンティストとして定義する研究	国内

## 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	合計
		1	1					1	

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	幼児教育科学生による減災絵本制作の取り組みに関する考察	大学紀要	無	いいえ	令和2年いわき短期大学紀要	第53号	39	64	20200300	鈴木まゆみ, 保田真理	共著	国内

## 学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
4	3		7

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	IUGG2019		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)		Montreal	CANADA	20190708	20190718	20190714	The stamp rally game that make children anticipate the situation at the time of Tsunami disaster"	<u>Mari Yasuda</u> , <u>Toshiaki Muramoto</u> , <u>Rui Nouchi</u>

2	国内	日本心理学会第83回大会	単名	はい	口頭(招待)	立命館大学	茨木	日本	20190912	20190914	20190913	シチズン・サイエンティストとしての防災士の活動 -地区防災計画作成支援を例として-	保田真理
3	国際	921大地震20周年防災教育大会	単名	はい	口頭(基調)	国立自然科学博物館	台中	台湾	20190919	20190921	20190919	東日本大震災から学ぶ自然災害科学と勤い社会 -自分で考え自ら行動する人を育てる-	保田真理
4	国内	日本自然災害学会第38回大会	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	釧路市生涯学習センター	釧路	北海道	20190921	20190922	20190921	災害に対する自己対応意識の変化 -児童の防災学習を通して-	保田真理・邑本俊亮
5	国際	AIWEST2019	単名	いいえ	口頭(一般)	東北大学災害科学国際研究所	仙台	宮城県	20191107	20191108	20191107	Proposal for a new disaster education method using Stamp Rally	Mari Yasuda
6	国際	AIWEST2019	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学災害科学国際研究所	仙台	宮城県	20191107	20191108	20191108	Verification that children can image the Tsunami disaster in stamp rally game	Mari Yasuda 1, Toshiaki Muramoto 1, Rui Nouchi 2, and Anawat Suppasri 1
7	国内	巨大大津波災害に関する合同研究会2019 巨大大津波災害に関する合同研究会2019	単名	いいえ	口頭(一般)	関西大学	大阪	大阪府	20191220	20191221	20191220	津波災害を軽減する シチズンサイエンティストの役割	保田真理

D. 社会活動

社会活動の概要

多発する自然災害に対して、個人レベルの対応力向上を図るべく、どのような教育手法が効果的なのかに着目して災害への減災意識啓発活動を実施している。特に今年度は児童教育に加えて児童の保護者や教員対象の取り組みも増強してきた。災害を科学の目で調査分析する研究者と教育現場における教育実施者とを繋ぐ役割も大きくなってきている。児童や保護者を中心に意識啓発がたやすくできるように人の行動に着目した教育ツールの開発にも力を入れてきた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 35 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	令和元年三木市高齢者ケア研究会総会	招待講演	20190608	20190608	大規模災害に学ぶ家庭や地域の防災・危機管理	行政	三木市高齢者ケア研究会	三木市中央公民館	三木市	日本	200
2	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190603	20190603	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	登米市立佐沼小学校	登米市	日本	113
3	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190606	20190606	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	川崎町立川崎第二小学校	川崎町	日本	9
4	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190611	20190611	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立折立小学校	仙台市	日本	47
5	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190613	20190613	減災ってなあに？	小中高	鳥羽市教育委員会	鳥羽市立加賀三浦小学校	鳥羽市	日本	40
6	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190613	20190613	減災ってなあに？	小中高	鳥羽市教育委員会	鳥羽市立鳥羽小学校	鳥羽市	日本	60
7	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190620	20190620	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立幸町小学校	仙台市	日本	52
8	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190625	20190625	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立松森小学校	仙台市	日本	44
9	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190627	20190627	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	山本町立山下小学校	山元町	日本	28
10	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190704	20190704	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立鶴ヶ丘小学校	仙台市	日本	49
11	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190705	20190705	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	南三陸町立名足小学校	南三陸町	日本	9
12	公開講座	中部サイエンスネットワーク第1回防災・減災ワークショップ	基調講演	20190725	20190725	日本や世界で起こっている自然災害	企業	中部科学芸術センター	三重大学	津市	日本	100
13	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190827	20190827	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立栗生小学校	仙台市	日本	113
14	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190829	20190829	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	亶理町立高屋小学校	亶理町	日本	13
15	セミナー	自主防災会セミナー	講義	20190901	20190901	自然災害に備える	行政	山元町	大平区民センター	山元町	日本	120

16	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201900902	20190902	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	本宮市立白岩小学校	本宮市	日本	32
17	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201900903	20190903	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	玉川村立須釜小学校	玉川村	日本	11
18	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201900905	20190905	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	西会津町立西会津小学校	西会津町	日本	37
19	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201900910	20190910	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	石巻市立山下小学校	石巻市	日本	35
20	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201900918	20190918	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	いわき市立久之浜第一小学校	いわき市	日本	24
21	その他	山形減災フェス	講義	20190929	20190929	減災ってなあに？	企業	NPO法人山形見晴らしの丘防災士会	山形見晴らしの丘公演	山形市	日本	500
22	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20190911	20190911	減災に果たす役割	小中高	白石市	宮城県立白石高等学校	白石市	日本	30
23	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191108	20191108	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	登米市立西郷小学校	登米市	日本	15
24	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201901112	20191112	減災ってなあに？	小中高	岩沼市教育委員会	岩沼市立岩沼南小学校	岩沼市	日本	32
25	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201901113	20191113	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	社のひろば	仙台市	日本	15
26	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	201901114	20191114	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	南相馬市立鹿島小学校	南相馬市	日本	73
27	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191115	20191115	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	涌谷町立涌谷第一小学校	涌谷町	日本	77
28	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191119	20191119	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	東松島市立赤井南小学校	東松島市	日本	45
29	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191126	20191126	減災ってなあに？	小中高	福島県教育委員会	南会津町立伊南小学校	南会津町	日本	7
30	公開講座	田尻社会福祉協議会セミナー	講義	20191207	20191207	減災ってなあに？	行政	大崎市社会福祉協議会	大崎市立田尻体育館	大崎市	日本	150
31	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191212	20191212	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立通町小学校	仙台市	日本	66
32	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20191217	20191217	減災ってなあに？	小中高	仙台市教育委員会	仙台市立東二番丁小学校	仙台市	日本	22
33	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20200115	20200115	減災ってなあに？	小中高	名古屋市教育委員会	名古屋市立なごや小学校	名古屋市	日本	70
34	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	20200218	20200218	減災ってなあに？	小中高	宮城県教育委員会	富谷市立富が丘小学校	富谷市	日本	95
35	展示会	ぼうさいこくたい2019	展示	20191019	20191020	防災教育から見える災害リスクの自己評価と人間の減災行動との関係	なし	東京海上日動(株)	名古屋コンベンションホール	名古屋市	日本	15,000

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	岩沼市	岩沼市防災推進会議	委員	20140000
2	地方自治体	多賀城市	多賀城市防災主任会議		20130000

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	いわき短期大学	田久昌次郎, 鈴木まゆみ	20191130	共同研究	いわき短期大学	いわき市	講演・発表	30
2	中部科学技術センター	坂口正敏, 西沢一敏	20190825	共同研究	三重大学	津市	講演・発表	100

# 中鉢 奈津子 特任助教

## CHUBACHI Natsuko

広報室

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	文学部	1997	3	カナダ クイーンズ大学大学院	地理学研究科	2009	4	Ph.D.	2009	6

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	8	2001	12	アリゾナ州立大学大学院 地理学部	非常勤講師
2	2004	6	2004	7	国際移住機関ジュネーブ本部 移住問題総合政策局	インターン
3	2005	2	2008	2	在ホノルル日本国総領事館 広報文化班	外務省専門調査員
4	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 広報室	特任助教

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2
人文地理学会	アメリカ地理学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
広報	研究成果の社会発信	学術-メディア連携	人文地理学

### B. 研究活動

研究活動の概要

不確実性を伴う災害リスクの市民とのコミュニケーションをテーマに、「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトに参加し、南海トラフ地震想定震源域等におけるパイロット調査を行った。また、「学術-メディア連携を軸とした東日本大震災に関する教訓の他地域・次世代への継承」企画の最終報告書を執筆した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1997	3	京都市における高齢者の外出行動	
2	1997	9	1999	10	日系カナダ人2世の高齢者介護に対する受け止め方:地理学的考察	
3	1999	8	2001	12	場所アイデンティティの社会的構築-アメリカ・アリゾナ州サンシティを事例に-	
4	2002	1	2009	4	カナダにおける日本からの女性移民のジェンダーおよびライフコースの構築	
5	2005	2	2008	2	ハワイ日系人移民資料の収集・整理・保存	
6	2005	2	2008	2	ハワイ日系人社会の特徴	
7	2014	4	現在		災害研究の広報・社会発信について	
8	2015	5	現在		学術-メディア連携について	
9	2016	12	現在		不確実性を伴う災害リスクの市民とのコミュニケーション	

### 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	------	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	学術-メディア連携を軸とした東日本大震災に関する教訓の他地域・次世代への継承	その他	無	いいえ	科学技術コミュニケーション推進事業「問題解決型科学技術コミュニケーション支援」平成28年度採択企画 終了報告書			1	11	20190531	東北大学災害科学国際研究所(小野裕一, 中鉢奈津子)	共著	両方



学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	1	合計	1
----	------	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	World Bosai Forum 2019		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20191109	20191112	20191111	Making use of uncertain earthquake forecast information: Challenges toward disaster risk reduction against the anticipated Nankai Trough Earthquake (M8-M9), western Japan	<u>Yo Fukushima</u> Fumihiko Imamura, Hiroaki Maruya, Makoto Okumura, Motoyuki Kido, Natsuko Chubachi, Ryota Hino, Kanan Hirano, Shunichi Koshimura, Miwa Kuri, Shuji Moriguchi, Yusaku Ohta, Hiroyuki Sasaki, Motoaki Sugiura, Tetsuya Torayashiki

D. 社会活動

社会活動の概要

広報担当として、当該年度も当研究所活動の国内外への社会発信に携わった。具体的には、(1) 広報誌IRIDeS NEWSの取材・記事執筆・編集、メディアから所内研究者への取材依頼調整、プレスリリース、年次活動報告書編集に携わった。(2) Japanese Technologies Showcase Event (アメリカ・アラスカ州アンカレジ)において災害研の研究・実践活動等について紹介し、国際広報活動を行った。(3) 国内外からの災害研訪問者に対し、研究・実践活動を紹介した。(4) 朝日小学生新聞紙における災害研研究者リレー連載「クイズでわかる地球防災ラボ」(9~3月・全25回)の調整役をつとめた。また同連載記事のパネル化を関係者と協働で実施した。(5) 災害研ウェブサイト(日本語)リニューアルの実務を担当し、災害科学の社会発信を行うプラットフォームの整備を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	IRIDeS	オープンキャンパス・IRIDeS見学会	20190730	20190731	IRIDeS	仙台市	日本	運営、展示説明	174	IRIDeS主催・共同主催	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計	3件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	文部科学省情報ひろばサイエンスカフェ	ファンリテーター	20190517	20190517	地震×社会:「巨大地震の発生可能性が普段より高まった」と言われたら、どうしますか?	行政	文部科学省	文部科学省情報ひろばラウンジ	東京都	日本	35
2	セミナー	Japanese Technologies Showcase Event	発表	20190808	20190808	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University and IRIDeS Nankai Earthquake Project	行政、企業	在アンカレジ領事事務所、Anchorage World Trade Center	Sheraton Anchorage Hotel & Spa	アメリカ・アラスカ州アンカレジ	アメリカ合衆国	35
3	セミナー	南海トラフ地震臨時情報に関する学際プロジェクト中間報告会	発表	20200219	20200219	非専門家と災害リスクの不確実性—課題と対応方法—	行政、企業	IRIDeS	高知会館	高知市	日本	28

## 5 教育活動

## 教育活動

### 1. 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会の醸成に資する市民力向上に寄与するための教育活動を推進する責務を有している。このことに関して、小・中・高校との連携を含む学外での教育・啓発活動は4章の「専任教員の活動報告」の中に紹介しているほか、次章の「研究成果の社会発信」において総括している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

#### (1) 教育内容および教育の成果等に関する目標を達成するための措置

- 全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。
- 災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的で開催し、これを大学院の学生に公開する。

#### (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。
- 災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

#### (3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

- 大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。
- 国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、平成25年度に、全学教育の新設科目、リーディング大学院プログラムにおける講義、実習科目を実際に開設し、平成29年度に新規募集を終えた。平成29年度までに募集した履修生が修了するまで講義は継続することとしており、今年度も講義を実施した。

### 2. 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「基礎ゼミ」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。平成30年度は本研究所において3科目を提供した(人間・社会対応研究部門:蝦名裕一准教授/災害医学研究部門:江川新一教授/災害理学研究部門:遠田晋次教授・木戸元之教授・福島洋准教授が担当)。

他方、全学教育講義科目として、本研究所設立時の振替定員に基づき8科目以上の提供が要請されている。このうち6科目はカリキュラムの連続性を維持する観点から、心理学、教育学を2科目(人間・社会対応研究部門:邑本俊亮教授)、歴史学を1科目(人間・社会対応研究部門:佐藤大介准教授)、そしてBCPを1科目(人間・社会対応研究部門:丸谷浩明教授)提供し、残る2科目は本研究所の教育目標に従う講義科目を開講した。

東日本大震災の被災地の中心に存在する東北大学では、自然災害の基本的なメカニズムと対応の考え方について、すべての学生が基本的な知識と自ら考える能力を持つことが望まれる。この目的を達成するため、カレントトピックス科目として「災害の科学」を開講し、「災害の科学－災害の発生と波及－」、「災害の科学－災害対応－」の2科目を提供した。

### 3. 学生の支援と研究指導

東北大学学生生活支援審議会は、毎年4回のFDを開催している。2019年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2月のFDの開催が見送られたが、下記テーマで3回開催された。本研究所からは教務委員会のメンバーと若手教員が中心となってこれらFDに出席した。

第1回 本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について

第2回 学生支援の今日的諸課題

第3回 大学生の不登校・ひきこもりの理解と対応

これらFDでは、ハラスメント防止、不登校学生の支援に関して理解を深めた。

また、本研究所が定期開催している「IRIDeS 金曜フォーラム」は、研究所の専任・兼務教員が各分野の研究視点やプロジェクト研究の成果を報告し討論する場であるが、これを大学院生にも公開し、災害研究の多様な研究方法や研究成果を学ぶ機会として提供している。2019年度は、国内138件、外国54件の大学院生に対する学会やワークショップへの参加および発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を減らすと同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、2019年度の本研究所の教員の学生への研究指導とその成果は、以下のようである。

博士論文指導(主査・副査)： 41件  
修士論文指導(主査・副査)： 88件  
卒業論文指導： 67件  
博士学位取得(学内・学外)： 51件  
留学生受け入れ： 34名(12か国)

## 6 研究成果の社会発信

## (1) 刊行物

2019年度も、IRIDeS NEWSを日・英両語、印刷版・ウェブ版で発出した。基本方針は引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、国内外へ向けて平易な言葉で発信する」と定め、基本的に記事は広報室で執筆した。

### ○ IRIDeS NEWS 2020 印刷版(2020年3月発行)日本語・英語

- ・報告 2019年 台風19号に関する調査報告会を開催
- ・特集 IRIDeSの国際活動
  - 世界防災フォーラム2019
  - 災害統計グローバルセンター
  - インドネシア・アチェと学術交流
- ・研究紹介 感染症治療薬研究の長い道のりを歩む  
「南海トラフ地震臨時情報」を社会の防災に生かす学際プロジェクト始動
- ・IRIDeS Diary “防災まちあるき”に参加しました
- ・活動紹介 IRIDeS に新寄附研究部門設立  
シンポジウムの定期開催を通じて文理融合をはかる  
災害時の補助犬に関する啓発活動に協力
- ・広報室コラム



日本語版



英語版

## (2)IRIDeS 金曜フォーラム

### 概要

IRIDeS 金曜フォーラムは、2012 年度より災害科学国際研究所で行われている研究・活動の情報を所内のみならず学内外・一般の方々と広く共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に開催する、定期的な発表・討論の場である。

### 発表テーマ

主に研究所の教員・スタッフから、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表するほか、災害発生時の調査報告や大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

### 参加方法

東北大学災害科学国際研究所棟 1 階会議・セミナー室、多目的ホール等を会場として実施。事前の申し込み不要、参加費無料。

### 第62回『新任教員が携わる災害科学研究』2019 年 5 月 31 日(金)16 時 30 分～18 時 30 分

1. 地震・津波リスク定量評価の実務と課題認識  
宮本 龍 (地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門)
2. 震災伝承をめぐる連携組織の現状と未来  
武田 真一(地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門)
3. 大規模自然災害と歴史文化資料の保全・継承 ―過去の記憶を、未来へ伝える―  
川内 淳史(人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分)

### 第63回『平成 30 年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会』2019 年 7 月 20 日(土) 9 時 00 分～17 時 15 分

#### 共同研究 口頭発表(午前の部) 第 1 会場:セミナー室

1. 東北地方主要活断層帯の断層変位地形のアーカイブ化  
研究代表者:石村 大輔(首都大学東京 都市環境学部)
2. 阿蘇カルデラ内の熊本地震地層断層の活動史の解明  
研究代表者:鳥井 真之(熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター)
3. 地震災害後の診療継続に向けた連携構築に関する研究～熊本地震並びに東日本大震災を経験した医療施設への質問紙調査から～  
研究代表者:前田 ひとみ(熊本大学大学院 生命科学研究部)
4. 海溝型巨大地震発生予測に資する海底地殻変動場把握のための観測点施設の共同利用およびデータの共有化  
研究代表者:田所 敬一(名古屋大学 環境科学研究科)
5. 携帯電話位置情報を用いた、人の移動行動の災害ダメージとその回復過程の研究  
研究代表者:山口 裕通(金沢大学 自然科学研究科)
6. 岩手県沖で発生する様々な繰り返し地震系列の破壊過程に関する研究  
研究代表者:金 亜伊(横浜市立大学 学術院総合科学群)
7. 阿蘇大橋崩壊地における先阿蘇火山岩類の層序と年代(1):地表設置型合成開口レーダ(GB-SAR)計測地点の地質データ取得  
研究代表者:長谷中 利昭(熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター)
8. 防災対策における地域の相互扶助の機能に関する提案～日本と東南アジアとの保健学的な地域間比較研究～  
研究代表者:松田 正巳(東京家政学院大学 現代生活学部健康栄養学科)

9. 津波デジタルライブラリ管理運用拡張のためのクラウドソーシング技術の応用  
研究代表者:有次 正義(熊本大学大学院 先端科学研究部)

**【プロジェクトエリア・ユニット報告】**

**共同研究 口頭発表(午後の部)**

10. 水損被害を受けた紙媒体資料の歴史情報復旧に向けた検討  
研究代表者:松下 正和(神戸大学 地域連携推進室)
11. 東日本大震災および熊本地震における仙台市の災害対応に関するエスノグラフィー・アーカイブスの構築  
研究代表者:田中 聡(常葉大学 大学院環境防災研究科)
12. 熊本地震の震災アーカイブ構築に関する研究  
研究代表者:山尾 敏孝(熊本大学大学院 先端科学研究部)
13. 岩手県沿岸部における災害資料の整理・アーカイブと災害研究  
研究代表者:奥村 弘(神戸大学大学院 人文学研究科)
14. 広域連携を通じた東日本大震災被災地の歴史文化復元に関する研究  
研究代表者:青柳 周一(滋賀大学 経済学部)
15. 震災アーカイブの防災教育とまちづくりへの活用に関する研究  
研究代表者:竹内 裕希子(熊本大学 大学院先端科学研究部)
16. 判読可能な津波石碑碑文画像の取得  
研究代表者:上梶 英之(国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター)
17. 災害経験情報を軸とした災害アーカイブの統合化手法研究  
研究代表者:池田 真幸(国立研究開発法人防災科学技術研究所)

**共同研究 口頭発表(午前の部) 第2会場:多目的ホール**

1. 放射線災害発生時における放射線被ばくストレス定量法の確立  
研究代表者:盛武 敬(産業医科大学 産業生態科学研究所 放射線健康医学研究室)
2. 東日本大震災の教訓を活かした熊本地震後の精神保健支援活動体制の検討  
研究代表者:山口 喜久雄(熊本県精神保健福祉センター)
3. 副都心新宿の指定避難所近隣町会・学校・行政等との連携で進める災害対策:被災時の医療・保健・福祉体制支援システムの検討  
研究代表者:坪内 暁子(順天堂大学大学院 医学研究科 研究基盤センター)
4. 津波統合モデル解析の高度化  
研究代表者:高橋 智幸(関西大学 社会安全学部)
5. 津波レジリエントな地域防災に向けた地域カスタマイズ型津波解析プラットフォームの検討  
研究代表者:古村 孝志(東京大学 地震研究所)
6. 高詳細な地震・避難解析に基づくオンライン体験シミュレーションのソフト防災への利活用  
研究代表者:浅井 光輝(九州大学大学院 工学研究院)
7. 応答曲面を用いた津波リスク評価手法構築のための基礎的検討  
研究代表者:福谷 陽(関東学院大学 理工学部)
8. 地下レーダーを活用した石巻平野における古津波履歴の解明  
研究代表者:菅原 大助(ふじのくに地球環境史ミュージアム 学芸課)
9. 災害を生きる力因子を特徴づけるパーソナリティ特性の解明  
研究代表者:本多 明生(山梨英和大学 人間文化学部)



## 【プロジェクトエリア・ユニット報告】

### 共同研究 口頭発表(午後の部)

10. ケースマネジメント支援システムを活用した伴走型生活再建支援員の標準的研修プログラムの開発と実践  
研究代表者:立木 茂雄(同志社大学 社会学部)
11. 熊本地震被災地の企業の事業継続計画(BCP)の推進人災の育成  
研究代表者:藤見 俊夫(熊本大学大学院 先端科学研究部)
12. 学校・地域・行政の協働による地域防災力向上のための防災人材育成モデルの開発～宮城県石巻市における「石巻モデル」構築に向けて～  
研究代表者:村山 良之(山形大学大学院 教育実践研究科)
13. 東日本大震災発生後の教育行政の取組による日本の被災地及び被災懸念地域への防災教育・防災管理の改善と課題  
研究代表者:藤岡 達也(滋賀大学 教育学部)
14. 地域再創生学に資する多次元総合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発  
研究代表者:目黒 公郎(東京大学 地震研究所 生産技術研究所)
15. 人の心に訴える3次元可視化コンテンツへの挑戦  
研究代表者:高瀬 慎介(八戸工業大学 工学部)
16. 地域に根ざした学校防災を展開するための学校・家庭・地域の協働モデル構築  
研究代表者:林田 由那(早稲田大学 教育・総合科学学術院)
17. 小学校を核とした地域版 HUG の作成を通じた防災教育効果  
研究代表者:草苺 敏夫(独立行政法人国立高等専門学校機構 釧路工業高等専門学校)

### 第64回『シリーズ:災害メモリアル(北海道胆振東部地震1年、新潟県中越地震15年、台湾集集地震20年)』

2019年9月27日(金)16時30分～18時00分

1. 胆振東部地震1年、被災地の今  
定池 祐季(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)
2. 中越大震災から15年、メモリアル回廊の今  
山崎 麻里子(中越防災安全推進機構 アンバサダー)
3. 台湾集集地震から20年  
マリ エリザベス(情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス)

### 第65回『シリーズ:近年の災害を振り返る』2019年12月13日(金)16時30分～18時00分

1. 近年の災害と緊急調査WGの活動  
森口 周二(地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野)  
サツパシー アナワット(災害リスク研究部門 津波工学研究分野)
2. 最近国内で発生した内陸地震と今後の課題  
岡田 真介(災害理学研究部門 長期地殻変形・地質構造研究分野)
3. 近年の水害を振り返る  
橋本 雅和(災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野)
4. 河川の治水計画と土地利用対策の課題:なぜ洪水被害が防げないのか?  
奥村 誠(人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野)

第66回『「復旧・復興制度の勉強会」成果報告会』 2020年2月21日(金)16時30分～18時30分

1. 区画整理・防災集団移転制度の課題とその改善方向

島田 明夫(人間社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

2. 住まいの復興制度の課題とその改善方向

岩田 司(地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

3. 総合的な復旧・復興制度の課題とその改善方向

平野 勝也(情報管理社会連携部門 災害復興実践学分野)

4. 総合討議

コーディネーター:平野 勝也(情報管理社会連携部門 災害復興実践学分野)

パネリスト: 島田 明夫(人間社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

岩田 司(地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

丸谷 浩明(人間社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

増田 聡(人間社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

姥浦 道生(地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

### (3) 展示

災害研の研究活動を明快・平易に伝えるための展示スペースを、2015 度に発足させ、その後も拡充をはかってきたが、発足以来、所内教職員および幅広い来訪者に活用されている。

また、2018 年度に続き、2019 年度も、朝日小学生新聞紙上における災害研研究者リレー連載を行い、同連載記事のパネル化を実施した。パネルは所内外のイベントで活用され、次世代との科学コミュニケーションに役立っている。



(4) 各種メディアでの紹介(報道・執筆・出演・資料提供など)

(同一記事非表示)

Table with 7 columns: No., Date, Media, Agency, Title, Collaborator, Category. It lists various media appearances and publications related to disaster preparedness and recovery efforts, including news reports, radio broadcasts, and academic contributions.

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
96	2019/6/13	新聞(地方紙)	長崎新聞	ヤフーの全国防災模試/北海道、大阪で参加者増/地震発生で関心高まる	佐藤翔輔	報道・コメント
97	2019/6/13	新聞(地方紙)	徳島新聞	ヤフー防災模試 徳島は13位 全国参加9万人増	佐藤翔輔	報道・コメント
98	2019/6/13	新聞(地方紙)	岩手日報	北海道や大阪参加増 防災模試 地震で関心向上か	佐藤翔輔	報道・コメント
99	2019/6/13	ラジオ	NHK仙台	南海トラフ地震臨時情報について	福島洋	出演
100	2019/6/14	新聞(地方紙)	河北新報社	宮城県沖地震41年リスクの連鎖で強震被害「想定内」の備え徹底を	大野晋	報道・コメント
101	2019/6/16	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:第2回世界防災フォーラムについて	小野 裕一	出演
102	2019/6/17	新聞(地方紙)	新潟日報	「潮流時流」新潟地震55年 津波教訓伝えなければ 体験者防災教育に力 地域の連携強化訴える	佐藤翔輔	報道・コメント
103	2019/6/18	新聞(地方紙)	神戸新聞	防災模試、北海道や大阪で参加者増	佐藤翔輔	報道・コメント
104	2019/6/18	新聞(地方紙)	河北新報社	全国防災模試 受験9万人増/ヤフー主催・74万人参加/北海道と大阪目立つ/地震で関心アップ?	佐藤翔輔	報道・コメント
105	2019/6/19	新聞(全国紙)	産経新聞(他5社)	ひずみが集中、地震の多発地域	遠田晋次	報道・コメント
111	2019/6/19	新聞(その他)	スポニチ	新潟で震度6強 震源は山形県沖 新潟市などで9000戸以上停電 津波も観測	遠田晋次	報道・コメント
112	2019/6/19	新聞(全国紙)	朝日新聞(他2社)	新潟震度6強「数日間は警戒を」未知の断層の可能性も	遠田晋次	報道・コメント
115	2019/6/19	新聞(地方紙)	新潟日報	新潟地震と同タイプの逆断層型か 専門家「今後も警戒を」	遠田晋次	報道・コメント
116	2019/6/19	テレビ	NHK	「てれまさむね」地図記号「自然災害伝承碑」掲載	佐藤翔輔	報道・コメント
117	2019/6/19	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ゴジだっちゃ!!「山形県沖の地震について」	佐藤翔輔	出演
118	2019/6/19	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:発生のメカニズム 液状化現象 専門家に聞く	遠田晋次	報道・コメント
119	2019/6/19	テレビ	テレビユー山形	Nスタみやぎ:地震の特徴は 専門家に聞く	遠田晋次	報道・コメント
120	2019/6/19	テレビ	ミヤギテレビ	news every:海底の地殻変動 専門家に聞くメカニズムは? 宮城への影響は?	木戸元之	報道・コメント
121	2019/6/19	新聞(全国紙)	産経新聞(他1社)	「未知の断層が動いた」政府の地震調査委が見解 ひずみの集中地域	遠田晋次	報道・コメント
123	2019/6/19	テレビ	NHK	<山形県沖地震>津波専門家「海岸付近 絶対に近づかないで」	今村文彦	報道・コメント
124	2019/6/19	テレビ	NHK 日本放送	チャージ:6月18日に発生した山形県沖地震について	木戸元之	報道・コメント
125	2019/6/20	新聞(地方紙)	河北新報社	いのちと地域を守る:地域の防災活動 現状と課題討議 泉でリーダー研修会	佐藤健	報道・コメント
126	2019/6/20	新聞(地方紙)	熊本日日新聞	熊本市でBCP講演会 重要業務 絞り込みを	丸谷浩明	報道・コメント
127	2019/6/20	新聞(全国紙)	朝日小学生新聞	新潟で震度6強、山形で6弱、余震と津波、土砂災害に注意	森口周二	報道・コメント
128	2019/6/20	新聞(地方紙)	下野新聞	災害対応などBCP策定を	丸谷浩明	報道・コメント
129	2019/6/20	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>こんな季節にこそ外に出てみよう	杉浦元亮	企画協力
130	2019/6/21	新聞(全国紙)	日本経済新聞	かかくアゴラ:地震臨時情報、市民も備えを	福島洋	企画協力
131	2019/6/22	新聞(地方紙)	河北新報社	<新潟・山形地震>停電で津波情報送れず 国土理院:非常電源も故障	今村文彦	報道・コメント
132	2019/6/22	テレビ	日本テレビ	ワークアップ! ぶらぶら:山形県沖M6.7一時津波注意報も発表	遠田晋次	報道・コメント
133	2019/6/23	ウェブ	Business Journal	新潟・山形地震を引き起こした”地震の巣”...南海トラフ地震、首都直下地震ばかり注目日は危険	遠田晋次	報道・コメント
134	2019/6/23	ウェブ	exciteニュース	新潟・山形地震を引き起こした”地震の巣”...南海トラフ地震、首都直下地震ばかり注目日は危険	遠田晋次	報道・コメント
135	2019/6/24	テレビ	東北放送	Skip!ニュース:新潟・山形の地震「旧建築法下で建てられた住宅に被害」	柴山明寛	報道・コメント
136	2019/6/24	テレビ	東日本放送(他1社)	ニュース:新潟・山形地震で緊急報告会 東北大災害研専門家が分析結果を報告	災害科学国際研究所、大野晋	報道・コメント
138	2019/6/24	テレビ	ミヤギテレビ	「耐震補強が重要」	災害科学国際研究所	報道・コメント
139	2019/6/24	テレビ	NHK	地震受け東北大が緊急報告会	大野晋、柴山明寛	報道・コメント
140	2019/6/24	新聞(全国紙)	共同通信社(他19社)	新潟・山形地震は「短周期」震度の割に倒壊なし、東北大報告	災害科学国際研究所、大野晋、柴山明寛	報道・コメント
160	2019/6/24	その他	フジサンケイ ビジネスアイ	災害と風評	村尾 修	報道・コメント
161	2019/6/24	その他	科学技術振興機構	(JST共催)「地震×社会」不確実な情報を受けたときに、どう動くか?—情報ひろばサイエンスカフェで研究者と市民がともに考える	福島洋	企画協力
162	2019/6/25	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	<新潟・山形地震>「断層にひずみ増加」東北大災害研が報告会	災害科学国際研究所、遠田晋次、大野晋、柴山明寛	報道・コメント
164	2019/6/25	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	短周期の揺れ、建物被害少なく新潟・山形の地震	災害科学国際研究所、遠田晋次、大野晋、柴山明寛	報道・コメント
165	2019/6/25	テレビ	NHK山形放送局	やままる:震度6弱1週間:津波からの避難浮かび上がった課題	佐藤翔輔	報道・コメント
166	2019/6/25	ラジオ	文化放送	ニュースワイドSAKIDORI!:新潟・山形での地震から1週間	遠田晋次	出演
167	2019/6/26	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(山形版)	308世帯、住宅被害調査着手 余震におびえ夜間避難する住民も	遠田晋次、大野晋	報道・コメント
168	2019/6/27	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:シリーズ防災・減災大雨警戒レベルの現状と課題	佐藤翔輔	報道・コメント
169	2019/6/27	ラジオ	ラジオ石巻	石巻の未来を語るうらなでも座談会 山形の地震津波に学ぶ自然災害座談会	佐藤翔輔	出演
170	2019/6/28	新聞(地方紙)	高知新聞	西日本豪雨 復旧道半ば 危機感共有、どうすれば 最初の特別警報から1年	佐藤翔輔	報道・コメント
171	2019/7/1	新聞(地方紙)	新潟日報	大津波への警戒 常に必要東北大・佐藤翔輔准教授に聞く	佐藤翔輔	報道・コメント
172	2019/7/2	新聞(地方紙)	三陸新報	親子で学べる防災教室	森口周二、保田真理	報道・コメント
173	2019/7/2	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	東北整備局 19年度業務発表会開く 官民77人が成果報告	佐藤翔輔	報道・コメント
174	2019/7/3	新聞(地方紙)	三陸新報	東北大災害研気仙沼分室 伝承館に引っ越し	災害科学国際研究所	報道・コメント
175	2019/7/3	新聞(地方紙)	河北新報社	<杜のひろば>防災意識 講演で再確認	サッパひろば アナワツ、保田真理	報道・コメント
176	2019/7/4	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>スイカ	杉浦元亮	企画協力
177	2019/7/4	新聞(地方紙)	河北新報社(ウェブ版)	Disaster Prevention Seminar at Tsurugaoka Elementary School: Raising the Next Generation	保田真理	報道・コメント
178	2019/7/5	新聞(地方紙)	京都新聞	<西日本豪雨>復旧道半ば 危機感共有、どうすれば 最初の特別警報から1年	佐藤翔輔	報道・コメント
179	2019/7/5	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:西日本豪雨から1年	昌本亮亮	報道・コメント
180	2019/7/7	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:パンダラッシュと日本との「洪水との付き合い方の違い」	橋本雅和	出演
181	2019/7/11	雑誌・機関誌	宮城県	NOW is:求められるのは、人間中心住宅復興	アメリゴザベス	資料提供
182	2019/7/13	新聞(地方紙)	北海道新聞	語り継ぐ恐怖「避難急げ」南西沖地震26年 奥尻の児童訓練	定池祐季	報道・コメント
183	2019/7/15	新聞(地方紙)	河北新報社	「災害文化」学ぼう 仙台でシンポ	災害科学国際研究所、蝦名裕一	報道・コメント
184	2019/7/17	テレビ	東日本放送	チャージ!:母国へ日本の知識を:地震を研究するイン 男性	福島洋	報道・コメント
185	2019/7/18	新聞(全国紙)	朝日新聞社	消える砂浜、対応策は限界 変化予測 先手の対策を	有働恵子	その他
186	2019/7/18	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>海に行こう	杉浦元亮	企画協力
187	2019/7/19	新聞(地方紙)	三陸新報	瀬戸大橋の下で④-鳥わたりの記129岩黒島-	川島秀一	執筆
188	2019/7/20	新聞(地方紙)	三陸新報	瀬戸大橋の下で⑤-鳥わたりの記129岩黒島-	川島秀一	執筆
189	2019/7/21	新聞(地方紙)	河北新報社	仙台で2021年に津波シグ開催 震災10年 各国の防災底上げ	今村文彦	報道・コメント
190	2019/7/21	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:複合災害への備え-避難所への早期避難(水平避難)の重要性	橋本雅和	出演
191	2019/7/24	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	総会、東北建設業青年会/新会長に遠藤康之氏選出	佐藤翔輔	報道・コメント
192	2019/7/26	新聞(その他)	毎日小学生新聞	自由研究お助け隊 新しい地図記号「自然災害伝承碑」(その1)調べてみよう	佐藤翔輔	報道・コメント
193	2019/7/26	新聞(その他)	毎日小学生新聞	自由研究お助け隊 新しい地図記号「自然災害伝承碑」(その2)専門家「暮らしの一部に」	佐藤翔輔	報道・コメント
194	2019/7/27	テレビ	NHK(東北)	ニュース:震災遺構が会場 親子で学ぶ防災	保田真理	報道・コメント
195	2019/7/28	新聞(全国紙)	毎日新聞社	防災教室 命を守る行動学 震災伝承館で小中生ら 気仙沼	森口周二、保田真理	報道・コメント
196	2019/7/28	新聞(地方紙)	北海道新聞	奥尻の復興過程学 南西沖地震後に防潮堤整備、新団地造成	定池祐季	報道・コメント
197	2019/7/29	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	震災伝承へ連携新組織「3.11伝承ロード推進機構」設立へ	今村文彦	報道・コメント
199	2019/7/29	テレビ	フジテレビ	Liev News it!:7月28日に発生した三重県南東沖の深発地震の異常震域について	木戸元之	報道・コメント
200	2019/7/30	新聞(全国紙)	産経新聞	大震災の風化阻止へ新組織「3.11伝承ロード推進機構」近く設立	今村文彦	報道・コメント
201	2019/7/31	テレビ	東日本放送	チャージ!:7月28日に発生した三重県南東沖の深発地震の異常震域について	木戸元之	報道・コメント
202	2019/8/1	テレビ	NHK(東北)	震災経験 東北で連携して伝承を	今村文彦	報道・コメント
203	2019/8/1	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞(北海道・東北版)	「3.11伝承ロード推進機構」設立 東北経済連合会など連携	今村文彦	報道・コメント
204	2019/8/1	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>祭りに参加しよう	杉浦元亮	企画協力
205	2019/8/2	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	「3.11伝承ロード」推進組織が発足	今村文彦	報道・コメント
206	2019/8/2	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	3.11伝承ロード推進機構が発足/産学官民連携による伝承活動が始動	今村文彦	報道・コメント
207	2019/8/4	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:山形県沖地震について	森口周二	出演
208	2019/8/5	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災:震災の記憶、伝承へ 東経連中心に機構設立/青森	今村文彦	報道・コメント
209	2019/8/5	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:東日本大震災の余震 専門家「今後も注意を」石巻・亘理で震度5弱<宮城>	今村文彦	報道・コメント
211	2019/8/5	テレビ	仙台放送(他1社)	ニュース:3.11伝承ロードに支援組織 震災伝承施設つなぐ<宮城>	今村文彦	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
213	2019/8/5	テレビ	東北放送(他1社)	ニュース:宮城で震度5弱 専門家「東日本大震災の余震」	遠田晋次	報道・コメント
215	2019/8/5	テレビ	東日本放送	チャージ! : 8月4日に発生した福島県沖地震について	木戸元之	報道・コメント
216	2019/8/8	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(岩手版)	東日本大震災:記憶伝承新組織を設立 東経連など	今村文彦	報道・コメント
217	2019/8/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大と日本工営、サイバー空間でシミュレートな(災害からの回復力の高い)地域・都市デザインを支援するX-GISを開発	災害科学国際研究所	報道・コメント
218	2019/8/10	新聞(地方紙)	河北新報社	「被災地復旧状況踏まえた評価を」県政策評価部会が答申	佐藤健	報道・コメント
219	2019/8/10	その他	関了復興だより	第56号、防災コミュニティ講座 水害から命を守る ふらむ名取主催	佐藤翔輔	報道・コメント
220	2019/8/11	新聞(地方紙)	河北新報社	いのちと地域を守る:「考える」多様な視点 課題発信 東北復興研究会 活動3年目 出版、芸術関係者もメンバー 祭り創造などメンバー	佐藤翔輔	報道・コメント
221	2019/8/12	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(宮城版)	東日本大震災:遺構活用し伝承 東経連が新組織、災害の備えも	今村文彦	報道・コメント
222	2019/8/15	新聞(地方紙)	河北新報社	伝承の役割期待の一方で...震災遺構維持費に不安 沿岸市町村が持続可能な運営模索	佐藤翔輔	報道・コメント
223	2019/8/15	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト> 残暑見舞いを書こう	杉浦元亮	企画協力
224	2019/8/18	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:西日本豪雨の振り返り	森口周二	出演
225	2019/8/19	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	東北大学、日本工営 街づくり支援ツールを開発 サイバー空間で災害リスクを評価	災害科学国際研究所	報道・コメント
226	2019/8/20	ラジオ	J-WAVE	JAM THE WORLD:その先の話	今村文彦	出演
227	2019/8/22	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:「復興10年の総括検証」記録文書では伝えきれない経験を「生の声」で残し 今後の災害対応に活用	今村文彦	報道・コメント
229	2019/8/22	テレビ	仙台放送(他1社)	台風10号でJR西日本が実施「計画運休」に学ぶ...二次災害を防ぐため、東北でも必要となる場面も	奥村誠	出演
231	2019/8/23	新聞(全国紙)	産経新聞	世界初!スタンプラリーで自身の「防災タイプ」を知ることができる「新しい防災訓練の形」第三弾登場「防災・減災スタンプラリー都市部バージョン」発売	災害科学国際研究所、今村文彦、保田真理	報道・コメント
232	2019/8/23	新聞(その他)	時事通信社	世界初!スタンプラリーで自身の「防災タイプ」を知ることができる「新しい防災訓練の形」第三弾登場「防災・減災スタンプラリー都市部バージョン」発売	災害科学国際研究所、今村文彦、保田真理	報道・コメント
233	2019/8/23	新聞(海外)	New Straits Times (マレーシア)	Using Science for Disaster Risk Reduction	泉貴子	報道・コメント
234	2019/8/24	新聞(地方紙)	新潟日報	新潟、山形地震 避難状況、課題探る 本社アンケートご協力を	佐藤翔輔	報道・コメント
235	2019/8/24	新聞(その他)	Sin Chew Daily (マレーシア)	Disaster Risk Report	泉貴子	報道・コメント
236	2019/8/26	新聞(全国紙)	共同通信社(他16社)	伝承機構、震災遺構の地図作成へ	今村文彦	報道・コメント
253	2019/8/27	新聞(地方紙)	河北新報社	いのちと地域を守る:「3.11伝承ロード」仙台で理事会 被災4県マップ製作を了承	今村文彦	報道・コメント
254	2019/8/27	テレビ	NHK	ニュース:「3.11伝承ロード」初会合	今村文彦	報道・コメント
255	2019/8/29	ラジオ	NHKラジオ大阪	関西ラジオワイド:防災コラム「豪雨災害とツイッター#救助について」	佐藤翔輔	出演
256	2019/8/29	テレビ	仙台放送	FNNニュース:初の理事会 被災4県マップ作成へ「3.11伝承ロード推進機構」	今村文彦	報道・コメント
257	2019/8/29	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>夏の終わりに楽しむ	杉浦元亮	企画協力
258	2019/8/30	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	政府推進WGが宮城県入り、被災地を視察 復興施策の進展確認	梶浦道生	報道・コメント
260	2019/8/30	新聞(地方紙)	河北新報社	311次世代塾第3期第5、6回講座「実践的な訓練大切」受講生、教訓学び意義実感	遠田晋次	報道・コメント
261	2019/8/30	新聞(全国紙)	時事通信社(他2社)	日本の防災アイデアを世界へ! 防災ガールが、東北大学らと連携し世界防災フォーラムに向けたアイディアソンを開催<参加者募集>	災害科学国際研究所、世界防災フォーラム	報道・コメント
264	2019/8/31	新聞(全国紙)	読売新聞	博物館 被災の記憶も残す 国際博物館会議 京都であす開幕	小野裕一	報道・コメント
265	2019/9/1	新聞(地方紙)	東京新聞	災害どうさぐ	佐藤翔輔	報道・コメント
266	2019/9/1	新聞(全国紙)	産経新聞	【被災地を歩く】インドネシア・タイなどの研修員 津波の教訓 母国に伝える	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
267	2019/9/1	新聞(全国紙)	産経新聞	【東北の風】「震災から10年」の先を見据えて	今村文彦	報道・コメント
268	2019/9/1	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:ASEANでの災害医療標準化:ARCHプロジェクト合同災害医療対応訓練報告	江川新一	出演
269	2019/9/2	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ゴジだっちゃ! : 「防災研究最前線」命を守る行動、世界防災フォーラム	佐藤翔輔	出演
270	2019/9/3	新聞(全国紙)	読売新聞(他3社)	SRC自主調査の調査結果について 北海道胆振東部地震における大規模停電などに関するアンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
274	2019/9/4	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	Nらじ:災害時のデマ拡散 加担しないためには	佐藤翔輔	報道・コメント
275	2019/9/4	新聞(地方紙)	北海道新聞	<胆振地震から1年>再建へ道険しく「個々への細やかな支援必要」	定池祐季	報道・コメント
276	2019/9/5	新聞(地方紙)	河北新報社	<北海道地震1年>通信手段に支障6割超 東北大・札幌市民調査、停電やスマホ依存の影響	佐藤翔輔	報道・コメント
277	2019/9/5	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:北海道胆振東部地震1年 6割以上「通信手段に支障」	佐藤翔輔	報道・コメント
278	2019/9/5	新聞(全国紙)	日本経済新聞	日経速報ニュースアーカイブ:北海道地震1年 プラクティスの教訓、進む対策	柴山明寛	報道・コメント
279	2019/9/6	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	<北海道地震1年>奥尻での経験胸に厚真の復興支援 東北大災害研の定池さん	定池祐季	報道・コメント
281	2019/9/6	ウェブ	リスク対策.com(他1社)	フェイスブックが防災ガイドブック	佐藤翔輔	報道・コメント
283	2019/9/6	テレビ	ミヤギテレビ	news every.: 過半数「通信に支障 代替なかった」 胆振地震から1年 東北大など調査	佐藤翔輔	報道・コメント
284	2019/9/6	テレビ	仙台放送	Live News it!: 北海道胆振東部地震から1年 東北地方でもブラックアウトが起きたら...備えは命を守る	丸谷浩明	出演
285	2019/9/6	ウェブ	Impress Watch(他1社)	Facebook、独自の災害対応ガイド。SNS活用方法など	佐藤翔輔	報道・コメント
287	2019/9/6	新聞(全国紙)	日本経済新聞	医療機関、停電対策急ぐ、北海道地震1年、教訓生かす、非常電源に船・EV活用	柴山明寛	報道・コメント
288	2019/9/8	新聞(地方紙)	東海新報社	気仙全体の歴史解明へ 上有任・根原の古文書に光 住田	災害科学国際研究所、蝦名裕一、川内淳史	報道・コメント
289	2019/9/8	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災8年半 高台移転、ぼつんと一軒 資金難、断念相次ぐ	埴田聡	報道・コメント
290	2019/9/8	ラジオ	FM仙台・Date fm	Global Talk	ガルス・コリア	出演
291	2019/9/10	テレビ	NHK	てれまさむね:震災遺構 津波の爪痕どう残し伝えるか	佐藤翔輔	報道・コメント
292	2019/9/11	テレビ	NHK	てれまさむね:震災8年半 課題明らかか「語り部がいなくなる？」	佐藤翔輔	報道・コメント
293	2019/9/11	ウェブ	公明党	東日本大震災8年6カ月 復興の現状と課題	今村文彦	報道・コメント
294	2019/9/11	新聞(地方紙)	河北新報社	産学官民連携で震災の教訓を後世に、3.11伝承ロード推進機構、仙台で設立式典	今村文彦	報道・コメント
295	2019/9/11	その他	NOW IS.	第41号 防災フロンティア:伝承の手法は紙の語り部に学ぶ。	川島秀一	報道・コメント
296	2019/9/12	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	3・11伝承ロード推進機構 仙台で設立式典開く 震災の経験と教訓を後世に	今村文彦	報道・コメント
297	2019/9/12	新聞(その他)	建設新聞社	産学官民連携で震災伝承を推進 設立式典開催 3.11伝承ロード推進機構	今村文彦	報道・コメント
298	2019/9/12	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:「3.11伝承ロード推進機構」設立式 東日本大震災から8年半	今村文彦	報道・コメント
300	2019/9/12	テレビ	NHK	てれまさむね:震災復興ワークショップ セブシ町から復興・防災研究へ	災害科学国際研究所、今村文彦、佐藤翔輔	報道・コメント
301	2019/9/12	新聞(その他)	建設通信新聞	津波浸水、被害推計システム 高知県震災訓練に提供	越村俊一	報道・コメント
302	2019/9/12	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト> 音楽会に行こう	杉浦元亮	企画協力
303	2019/9/13	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	<震災8年半> 東日本大震災復興人:津波犠牲者 次こそ防く かん体験が研究の原点	門廻充侍	報道・コメント
305	2019/9/13	新聞(全国紙)	時事通信社(他3社)	防災にらんだ生活、備蓄をスマホ予備電池も有効 一千葉の停電で専門家	佐藤翔輔	報道・コメント
309	2019/9/15	新聞(地方紙)	秋田魁新報	北海道地震 料理や食事、創意工夫 カセットこんろ活、鍋で炊飯... 札幌市、緊急事態乗り切る	佐藤翔輔	報道・コメント
310	2019/9/15	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:東日本大震災の災害診療記録	江川新一	出演
311	2019/9/16	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	東日本大震災:あの時どう逃げた 石巻100人の証言、教訓探る	災害科学国際研究所	報道・コメント
312	2019/9/17	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災 記憶と教訓、国内外に「3・11伝承機構」設立式	今村文彦	報道・コメント
313	2019/9/17	新聞(地方紙)	新潟日報	新潟、山形地震あす3カ月 アンケート「津波から避難 67% 10分以内完了 5割切る	佐藤翔輔	報道・コメント
314	2019/9/17	新聞(地方紙)	新潟日報	新潟、山形地震アンケート 弱者対応 避難経路に課題 災害への備え 意識高く	佐藤翔輔	報道・コメント
315	2019/9/17	テレビ	テレビ高知	イブニングKOCHI:スパコン活用し震災対応訓練	東北大学	報道・コメント
316	2019/9/17	テレビ	福島テレビ	県内ニュース:【9・19判決 東電旧経営陣強制起訴裁判】証言から見えてきた津波対策	今村文彦	報道・コメント
317	2019/9/18	新聞(地方紙)	河北新報社	原発事故前の大津波予測可能性、「長期評価」の信頼性が鍵 東電旧経営陣に19日判決	今村文彦	報道・コメント
318	2019/9/18	新聞(地方紙)	新潟日報	「浮かぶ津波リスク」上 災害弱者 昼だったら若手いらい 迅速避難に不安感	佐藤翔輔	報道・コメント
319	2019/9/19	テレビ	NHK(山形)	やままる:やままる調査隊「自然災害伝承碑 山形県内では？」	佐藤翔輔	報道・コメント
320	2019/9/19	新聞(全国紙)	共同通信社(他11社)	京アニや代替わり報道議論 マス倫懇の分科会、高知	佐藤翔輔	報道・コメント
332	2019/9/19	新聞(地方紙)	新潟日報	「浮かぶ津波リスク」下 急階段 逃げるの大変 避難場所 土砂災害も懸念	佐藤翔輔	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
333	2019/9/20	新聞(地方紙)	高知新聞	災害から命を守る情報 どう発信 頻繁する豪雨と切迫する巨大地震「事前」に何を伝えるか、どう備えるか-	佐藤翔輔	報道・コメント
334	2019/9/20	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞(高知版)	災害時 SNS発信議論 高知でマスコミ懇談会	佐藤翔輔	報道・コメント
335	2019/9/20	新聞(全国紙)	朝日新聞(他10社)	(Media Times)実名報道、あり方議論 京アニ事件 葛藤報告 マスコミ倫理懇	佐藤翔輔	報道・コメント
346	2019/9/21	新聞(全国紙)	朝日新聞	京アニ事件など巡り、実名報道を議論 マスコミ倫理懇	佐藤翔輔	報道・コメント
347	2019/9/23	新聞(地方紙)	北海道新聞	<胆振東部地震から1年>「電話、ネットに支障」6割 代替策見つけられず 東北大など札幌市民調査	佐藤翔輔	報道・コメント
348	2019/9/23	その他	陸前高田市	東日本大震災津波伝承館「3.11津波シミュレーション」	東北大学災害科学国際研究所	資料提供
349	2019/9/25	新聞(地方紙)	河北新報社	動き出した「3.11伝承ロード」: 教訓を後世に 東北の使命-3.11伝承ロード推進機構設立-	今村文彦	報道・コメント
350	2019/9/26	新聞(全国紙)	朝日新聞	福島事故、問われた「15.7m津波」裁判で科学者は	今村文彦	報道・コメント
351	2019/9/26	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト>秋のスポーツ観戦	杉浦元亮	企画協力
352	2019/9/27	テレビ	仙台放送(他1社)	FNN Live News days: 企業の「災害への備え」... 東北大学災害科学国際研究所が韓国で講演「BCP・事業継続計画」	災害科学国際研究所、丸谷浩明	報道・コメント
354	2019/9/27	新聞(地方紙)	山形新聞	本県沖地震特性や防災・減災対策開く	大野晋	報道・コメント
355	2019/9/30	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ゴジだっちゃ! : 「防災研究最前線」台風15号の被害や情報伝達	佐藤翔輔	出演
356	2019/9/30	新聞(全国紙)	毎日新聞	マスコミ倫理懇談会: 実名めぐる議論、業界外と交わそう マスコミ倫理懇で提言	佐藤翔輔	報道・コメント
357	2019/9/30	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	いのちと地域を守る: 仙台・世界防災フォーラム11月の開催に先駆け都内で関連イベント	災害科学国際研究所	報道・コメント
359	2019/9/30	ウェブ	三報出版	溶接学会、東北大で秋季全国大会	今村文彦	報道・コメント
360	2019/10/1	雑誌・機関誌	鋼構造出版・月間「鉄鋼技術」	ダイナミック・マスダンパーとその応用-質量増幅機構による構造制御-	五十子幸樹	執筆
361	2019/10/1	新聞(地方紙)	河北新報社	災害リスク 地域で共有 仙台で「防災枠組」講座	今村文彦、泉貴子	報道・コメント
362	2019/10/2	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>① 西日本豪雨から学ぶ一歩の回りの「避難スイッチ」考えよう	橋本雅和	執筆
363	2019/10/4	テレビ	NHK	東北ココから: 特集震災8年半「この街で命は守られるか-津波防災はいまへ」	佐藤翔輔	出演
364	2019/10/6	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES: World Robot Summitについて	田所論	出演
365	2019/10/7	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	<新潟・山形地震>津波到達予測時間内に避難場所到着は5割以下	佐藤翔輔	報道・コメント
370	2019/10/8	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ・県内初「レベル4」対応別れた理由は 大崎市・栗原市	佐藤翔輔	報道・コメント
371	2019/10/8	ラジオ	FM仙台・Date fm	Hope for MIYAGI	グルスタ・エリア	出演
372	2019/10/9	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>② 地震があったことがわかる地形-地震を起こす「活断層」の動きに注目-	遠田晋次	執筆
373	2019/10/9	テレビ	NHK(東北)	ニュース: 世界防災フォーラム11月開催へ	今村文彦	報道・コメント
374	2019/10/10	新聞(地方紙)	河北新報社	世界防災フォーラム仙台で来月9日開幕 伝承へ人材育成探る 東北3国立大がシンポ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
375	2019/10/10	新聞(地方紙)	河北新報社(夕刊)	<スマートエイジングネクスト> 目標を持つ	杉浦元亮	企画協力
376	2019/10/11	テレビ	NHK	ニュース: 震災の教訓どう伝えるか学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント
377	2019/10/12	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ニュース: 「台風19号」関連 特別警報とは	佐藤翔輔	報道・コメント
378	2019/10/12	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ニュース: 「台風19号」関連 今この段階で命を守る行動とは	佐藤翔輔	報道・コメント
379	2019/10/13	新聞(全国紙)	日本経済新聞	震災の教訓どう伝えるか学ぶ	災害科学国際研究所	報道・コメント
380	2019/10/14	テレビ	東日本放送	ニュース: 東北大の専門家 吉田川の決壊現場を視察	橋本雅和	報道・コメント
381	2019/10/15	テレビ	NHK	ビジネス特集: 市民のアイデアで防災を変える	災害科学国際研究所、WBF	報道・コメント
382	2019/10/15	テレビ	NHK(他2社)	<台風19号災害>ニュース: 東北大「氾濫抑えるのは困難」川の氾濫状況を調査 専門家ら報告会	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
385	2019/10/16	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	宮城・丸森、複数の浸水形態 内水氾濫や合流地点で増水 東北大災害研が現地調査	災害科学国際研究所、森口周二、橋本雅和	報道・コメント
388	2019/10/16	テレビ	東日本放送	ニュース: 丸森中心部 専門家が上空から検証	橋本雅和	報道・コメント
389	2019/10/16	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>③ 地震に強い場所はどこ? -危険はどんな場所にも 地形の特性を知ろう-	遠田晋次	執筆
390	2019/10/16	新聞(地方紙)	東京新聞	核心: 台風19号被害 ツイッターSOSから救助 長野県50件超把握 現場への個人情報拡散の危険性も	佐藤翔輔	報道・コメント
391	2019/10/16	新聞(地方紙)	中日新聞	ツイッターからSOS 長野県が活用 救助50件超 ハッシュタグで素早く発見	佐藤翔輔	報道・コメント
392	2019/10/17	新聞(全国紙)	毎日新聞	台風19号: 堤防決壊 複合要因 丸森町「山から雨水 排水できず」	森口周二	報道・コメント
393	2019/10/17	テレビ	東北放送(他1社)	Skip! 宮城・専門家が台風について報告「被害防ごう」と困難な雨量	森口周二	報道・コメント
395	2019/10/17	テレビ	日本テレビ	スッキリ: 長野県が初運用 ツイッターで救助要請 消防と連携 50件を救助	佐藤翔輔	報道・コメント
396	2019/10/17	その他	週刊文春	「日本水没」に備える七つの掟「ネットよりラジオ」「長靴よりスニーカー」	佐藤翔輔	報道・コメント
397	2019/10/17	テレビ	仙台放送(他2社)	ニュース: 台風19号で被害を受けた地域を東北大学が調査「山から大量の水が流れ込み浸水要因に」	森口周二、柴山明寛	報道・コメント
400	2019/10/17	テレビ	東日本放送	ニュース: 大郷町稲川地区 専門家が上空から検証	橋本雅和	報道・コメント
401	2019/10/17	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	大量の雨、排水できず 丸森の浸水「内水氾濫」 専門家調査 台風19号	森口周二、柴山明寛	報道・コメント
402	2019/10/18	その他	日経BP	阿武隈川流れる宮城県丸森町、中心部の大規模浸水は「内水氾濫」か	森口周二	報道・コメント
403	2019/10/18	ウェブ	BUSINESS INSIDER(他1社)	武蔵小杉の台風被災で注目。タワマンは災害に弱い? 知っておくべき6つのこと	佐藤健	報道・コメント
405	2019/10/18	新聞(全国紙)	産経新聞(他1社)	【台風19号】阿武隈川「決壊連鎖」南から北への流れ、台風の進路と並行に	森口周二	報道・コメント
407	2019/10/18	テレビ	NHK(東北)	台風19号: 役場が「陸の孤島」に丸森町で何が?	森口周二	報道・コメント
408	2019/10/19	新聞(全国紙)	朝日新聞	丸森の浸水、吉田川の決壊なぜ 専門家調査	柴山明寛、森口周二	報道・コメント
409	2019/10/19	新聞(全国紙)	日本経済新聞	堤防決壊、進む調査 100年に1度超える大雨襲う	森口周二	報道・コメント
410	2019/10/19	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(東京)	クローズアップ: 台風19号きょう1週間 阿武隈流域、避難に迷い	柴山明寛	報道・コメント
411	2019/10/20	新聞(地方紙)	河北新報社	過去の経験 進む治水 夜の雨 避難ためらう要因重なる	柴山明寛	報道・コメント
412	2019/10/20	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES: ImpACTプラットフォーム、ロボティクス・チャレンジについて	田所論	出演
413	2019/10/21	ウェブ	BUILT	GIS: サイバー空間でレジリエントな地域・都市のデザインを支援「X-GIS」開発	災害科学国際研究所	報道・コメント
414	2019/10/21	テレビ	仙台放送(他1社)	FNN PRIMEニュース: 台風19号で土石流が発生か? 「科学的情報も」と避難を「専門家「情報生かして」	森口周二	報道・コメント
416	2019/10/22	新聞(地方紙)	河北新報社(他3社)	宮城・大郷で犠牲者ゼロ 要因は水害に強い危機感や行政・消防団の共助	佐藤翔輔	報道・コメント
420	2019/10/23	新聞(地方紙)	東海新報	「岩手ならでは」目指し 委員らが意見交わす 震災津波伝承館運営協議会 陸前高田	柴山明寛	報道・コメント
421	2019/10/23	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>④ 台風の特徴と進路図の見方-日本に近づくと速く温暖化で強い台風増える-	山崎剛	執筆
422	2019/10/24	テレビ	TBSテレビ(他2社)	ニュース: 台風19号被害、4年前も堤防決壊 なぜ防げなかった?	橋本雅和	報道・コメント
425	2019/10/24	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大・東大・富士通、川崎市津波避難訓練で津波避難におけるAI活用の実証実験を実施	災害科学国際研究所	報道・コメント
426	2019/10/24	ウェブ	JCN NEWSWIRE(他1社)	東北大学災害科学国際研究所・東京大学地震研究所・富士通・川崎市、津波避難におけるAI活用の実証実験を実施	災害科学国際研究所	報道・コメント
428	2019/10/24	ウェブ	マイナビニュース(他1社)	富士通、川崎市、ICT活用による津波被害軽減に向けた共同プロジェクト	災害科学国際研究所	報道・コメント
430	2019/10/25	ウェブ	週刊BCN+(他4社)	川崎市と富士通ら、AIを活用した津波避難の実証実験を開始	災害科学国際研究所	報道・コメント
435	2019/10/25	ウェブ	AMP News	富士通ら、AI活用した津波避難における実証実験を実施	災害科学国際研究所	報道・コメント
436	2019/10/25	新聞(その他)	株式新聞	富士通ら、AI活用した津波避難における実証実験	災害科学国際研究所	報道・コメント
437	2019/10/25	新聞(全国紙)	朝日新聞	台風犠牲者名、相次ぐ非公表 プライバシー保護重視	佐藤翔輔	報道・コメント
438	2019/10/25	テレビ	NHK	ニュース: いわき市・平塚地区で避難行動調査	佐藤翔輔	報道・コメント
439	2019/10/27	テレビ	NHK	ニュース: 洪水ハザード宮城県内の6自治体で作成せず 台風で浸水も	佐藤翔輔	報道・コメント
440	2019/10/28	テレビ	NHK(福島)	はまなかあいつTODAY: 二重被害の相馬市 避難情報のあり方にも課題が	佐藤翔輔	報道・コメント
441	2019/10/28	雑誌・機関誌	週刊現代	検証武蔵小杉の悲劇 地域ナンバーワンのタワマンで何が起きたか	佐藤健	執筆
442	2019/10/30	新聞(全国紙)	毎日新聞	民間参入で「公助」補完 世界初防災ISO制定へ	今村文彦	報道・コメント
443	2019/10/30	新聞(全国紙)	毎日新聞	「暴れ川」氾濫被害の宮城・大郷町 犠牲者ゼロの理由	佐藤翔輔	報道・コメント
444	2019/10/30	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑤ 火山と神話、噴火の仕組み-まぐまのねばり気度で噴火の仕方が変わる	橋本雅和	執筆
445	2019/10/31	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	豪雨と地形が悲劇招く 宮城・丸森に被害集中、11人犠牲	森口周二、柴山明寛	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
448	2019/10/31	新聞(その他)	建設通信新聞	東北六IRDsに寄附研究部門開設/内陸大地震実践的減災案を提示/応用地質	災害科学国際研究所、都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門	報道・コメント
449	2019/10/31	新聞(その他)	建設工業新聞	東北大に寄付講座 首都直下地震対策後押し	災害科学国際研究所、都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門	報道・コメント
450	2019/10/31	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	備蓄拠点、そこは浸水想定域 仙台市「認識していたが…」対策なく2万食無駄に	佐藤翔輔	報道・コメント
453	2019/10/31	新聞(全国紙)	The Mainichi	Northern Japan residents' vigilance saved lives after Typhoon Hagibis flooded river	佐藤翔輔	報道・コメント
454	2019/11/1	新聞(地方紙)	河北新報社	「BOSAI」理念 未だへ 第2回世界防災フォーラム開催 復興の歩み 国内外に	小野裕一、世界防災フォーラム	報道・コメント
455	2019/11/1	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ、堤防決壊で浸水被害 避難遅れた背景	佐藤翔輔	報道・コメント
456	2019/11/1	テレビ	仙台放送	ニュース:増え続ける災害ごみ どうする? 伝言のついでに処理	吉田浩	報道・コメント
457	2019/11/1	ウェブ	リスク対策.com	SDGsと仙台防災枠組の視点から考える企業の防災・減災	今村文彦	報道・コメント
458	2019/11/2	新聞(地方紙)	河北新報社	くいのちと地域を守る>水害、停電備え再確認 仙台大生と住民意見交換 宮城・柴田でむすび塾	保田真理	報道・コメント
459	2019/11/2	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北発防災イノベーション(上)「防災」の国際ルール、東北大学が提唱へ	今村文彦、世界防災フォーラム	報道・コメント
460	2019/11/3	テレビ	TBSテレビ	TBS NEWS:宮城・大崎市鹿島台・堤防決壊で浸水、避難遅れた背景	佐藤翔輔	報道・コメント
461	2019/11/3	新聞(地方紙)	三陸新報	新庁舎候補地 病院跡地の評価高く	丸谷浩明	報道・コメント
462	2019/11/3	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:東日本大震災から8年半 被災地の心の健康の今	冨田博秋	出演
463	2019/11/4	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:水を逃がす洪水対策 浸水は免れる「遊水地」	橋本雅和	報道・コメント
464	2019/11/5	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	<台風19号災害>全力「古文書」救出 個人の思いも修復 宮城・NPO始動	川内淳史	報道・コメント
469	2019/11/5	ウェブ	ウェザーニュース(他2社)	【11月5日は「津波防災の日」】歴史の古い神社が津波に強い理由	今村文彦	報道・コメント
472	2019/11/6	テレビ	NHK(東北)	「れまさむね」都市直下地震専門の研究部門設立	災害科学国際研究所、今村文彦、寄附部門	報道・コメント
473	2019/11/6	新聞(地方紙)	三陸新報	市役所新庁舎 現在地より病院跡地安く	丸谷浩明	報道・コメント
474	2019/11/6	新聞(地方紙)	神戸新聞	日々小論:危ない兆候	池田祐季	報道・コメント
475	2019/11/6	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑥古文書から昔の災害を知る一紙で知った災害の情報を商売にも生かす	佐藤大介	執筆
476	2019/11/7	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	長町・利府断層を調査 都市直下地震に備え 地質調査大手の「応用地質」、東北大災害研に寄付講座	災害科学国際研究所、今村文彦、遠田晋次、寄附部門	報道・コメント
479	2019/11/7	ウェブ	ベンチャーニュース	SDGsと経営、事業の関連性とは?特集・コラム	災害科学国際研究所、災害統計グローバルセンター	報道・コメント
480	2019/11/7	テレビ	NHK(東北)	緊急メール「見返せない」の声	佐藤翔輔	報道・コメント
481	2019/11/7	テレビ	NHK	ニュース:「緊急連絡メール」の落とし穴「見返すことでまず」台風19号の被災地は大規模災害にテクノロジーで立ち向かう、防災に取り組むスタートアップたち	佐藤翔輔	報道・コメント
482	2019/11/7	その他	週刊アスキー	高い減災意識 犠牲ゼロ 決壊前に9割超避難 台風19号 宮城・大郷 中粕川地区	越村俊一	報道・コメント
483	2019/11/7	新聞(地方紙)	静岡新聞	台風19号一減災 宮城・大郷町の浸水地区、避難9割超 決壊前「いざ」の意識 自主防災組織が戸別訪問	佐藤翔輔	報道・コメント
484	2019/11/7	新聞(地方紙)	信濃毎日新聞	台風19号 住宅水没の宮城・中粕川地区 日頃から備え、犠牲ゼロ 自主防災組織 戸別訪問 堤防決壊前に9割避難	佐藤翔輔	報道・コメント
486	2019/11/7	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:堤防決壊も犠牲者なし 専門家「日頃の備えと防災意識が奏功」	佐藤翔輔	出演
487	2019/11/7	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	災害研に「応用地質寄附講座」開設 仙台活断層の対策提言へ	今村文彦、遠田晋次	報道・コメント
488	2019/11/8	ウェブ	NEWS Collect	長町・利府断層を調査 都市直下地震に備え 地質調査大手の「応用地質」、東北大災害研に寄付講座	災害科学国際研究所、今村文彦、遠田晋次、寄附部門	報道・コメント
489	2019/11/8	新聞(その他)	建設通信新聞	応用地質と東北大/都市直下地震災害研究部門開設/長町〜利府断層被害を推定	災害科学国際研究所、今村文彦、寄附部門	報道・コメント
490	2019/11/8	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	東北大学/応用地質寄附講座を開設/内陸地震を共同研究、仙台活断層の対策提言へ	災害科学国際研究所、今村文彦、遠田晋次、寄附部門	報道・コメント
491	2019/11/8	新聞(海外)	The Japan Times(他1社)	World Bosai Forum Special: A resolute pledge for universal disaster preparedness	今村文彦、小野裕一、世界防災フォーラム	報道・コメント
493	2019/11/8	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:丸森町で「想定を超える」被害も...機能したか?「ハザードマップ」その実力は	森口周二、柴山明寛	報道・コメント
495	2019/11/9	新聞(全国紙)	朝日新聞	台風被害から古文書、書画救済 歴史研究者ら奔走	災害科学国際研究所、川内淳史	報道・コメント
496	2019/11/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北発防災イノベーション(上)国際ルール、東北大が提唱	今村文彦	報道・コメント
497	2019/11/9	テレビ	TBSテレビ	<台風19号災害>ニュース:大水害から1か月、見直し迫られる水害対策	橋本雅和	報道・コメント
498	2019/11/9	テレビ	タイ国営テレビ	Don't panic:台風19号について	サブパシー・アナワット	出演
499	2019/11/10	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	「BOSAI」次世代へ 仙台で第2回世界防災フォーラム開幕	今村文彦、WBF	報道・コメント
502	2019/11/10	テレビ	NHK	<台風19号災害>ニュース7:長野県員Twitterで50件救助	佐藤翔輔	報道・コメント
503	2019/11/10	新聞(地方紙)	河北新報社	学生と住民 連携さらに	保田真理	報道・コメント
504	2019/11/11	テレビ	NHK(仙台)	<台風19号災害>てれまさむね:台風で浸水の古文書を守る取り組み	災害科学国際研究所、川内淳史	報道・コメント
505	2019/11/11	テレビ	静岡第一テレビ	everyしずおか:特集「台風19号から1か月」	橋本雅和	資料提供
506	2019/11/11	テレビ	NHK	ニュースウォッチ9:「くずし字」AIが読解 ラマン判別法も応用!	佐藤大介	出演
507	2019/11/11	新聞(全国紙・地方版)	河北新報社	復興の歩み 国内外に	小野 裕一	報道・コメント
508	2019/11/12	新聞(地方紙)	河北新報社	「自宅外に避難」地域差 河北新報社と東北大が台風19号被災者アンケート	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
509	2019/11/12	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	丸森、リスク認識不十分「被害出ると思った」23% 被災者アンケート	災害科学国際研究所	報道・コメント
511	2019/11/12	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	「BOSAI」伝え難く 仙台で世界防災フォーラム、セッション開始	小野裕一、世界防災フォーラム	報道・コメント
514	2019/11/12	新聞(その他)	建設通信新聞	世界防災フォーラム:震災伝承で防災力向上、地域活性化へ	佐藤翔輔	報道・コメント
515	2019/11/12	新聞(その他)	建設通信新聞	教訓生かす防災力強化 震災伝承NW協議会公開セッション	佐藤翔輔	報道・コメント
516	2019/11/12	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	「教訓が、命救う」震災伝承NW協シンポ3.11ロード構築へ	佐藤翔輔	報道・コメント
517	2019/11/12	新聞(その他)	日刊建設産業新聞	教訓が、いのちを救う 震災伝承ネット協Sでパネディス	佐藤翔輔	報道・コメント
518	2019/11/12	その他	日経XTECH	仙台市とノキア、プライベートLTE網上でのノキアドローブの津波避難広報の飛行実証実験を実施	世界防災フォーラム	報道・コメント
519	2019/11/12	テレビ	NHK	News Up:エリアメールの落とし穴	佐藤翔輔	出演
520	2019/11/12	新聞(地方紙)	河北新報社	経験上回る現象 防災の在り方考えて	佐藤翔輔	報道・コメント
521	2019/11/12	新聞(全国紙)	毎日新聞(他3社)	「想定外」に備え連携を 仙台で世界防災フォーラム	今村文彦、柴山明寛、橋本雅和	報道・コメント
525	2019/11/13	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	「BOSAI」伝え難く 仙台世界防災フォーラム閉幕	今村文彦、小野裕一	報道・コメント
530	2019/11/13	テレビ	NHK(東北)	おはよう宮城:土砂災害警戒指定調査対象外で犠牲者が1人1人危機意識を	森口周二	報道・コメント
531	2019/11/13	テレビ	TBS	NEWS 23:台風被災1ヶ月 人知を超えた被害に私たちができること	佐藤翔輔	報道・コメント
532	2019/11/13	新聞(その他)	聖教新聞	「世界防災フォーラム」でSGI代表が登壇	世界防災フォーラム	報道・コメント
533	2019/11/13	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑦重要な施設・設備の地震対策一もしものゆれに備え、工夫をこらす	丸谷浩明	執筆
534	2019/11/13	新聞(地方紙)	河北新報社	台風19号/ぬれた文化財 迅速レスキュー/角田市郷土資料館/土器・古文書 丁寧に乾燥/市民に相談呼び掛け	佐藤大介	その他
535	2019/11/13	新聞(全国紙)	産経新聞	地震被災地の記録考えるシンポ開催 震災8年10か月、仙台	柴山明寛	報道・コメント
536	2019/11/14	テレビ	東北放送	チャージ!:特集 浸水想定区域に備蓄拠点 災害備蓄品どう補充する?	佐藤翔輔	報道・コメント
537	2019/11/17	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:災害後の心の健康に関する学術的取り組みの国際連携	冨田博秋	出演
538	2019/11/20	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑧災害で経済が受ける被害は? - 影響は地域をこえて取引先まで広がる	丸谷浩明	執筆
539	2019/11/20	テレビ	仙台放送	「知識(命を救う)」「安全教育」を考える 学校と地域の安全フォーラム	今村文彦	報道・コメント
540	2019/11/20	テレビ	NHK	災害などの安全を考えるフォーラム	今村文彦	報道・コメント
541	2019/11/21	テレビ	ミヤギテレビ	ミヤギnews every:台風 水害時の危険と避難行動考える	佐藤翔輔	出演
542	2019/11/23	新聞(地方紙)	北海道新聞	<くらら防災>70 台風19号被害 教訓は 現地調査した東北大専門家に聞く	佐藤翔輔、森口周二、柴山明寛	報道・コメント
543	2019/11/23	新聞(地方紙)	中日新聞	水害リスク、先入観ない 台風・豪雨被災地 千葉 洪水より停電、強風を警戒 気象庁発表「狩野川台風級」イメージわかず	佐藤翔輔	報道・コメント
544	2019/11/23	新聞(地方紙)	東京新聞	台風、豪雨に見る避難の「壁」(下) 防災情報どう伝える 教授らが調査 15号の停電印象強く	佐藤翔輔	報道・コメント
545	2019/11/23	テレビ	タイ国営テレビ	Don't panic:台風19号災害について	サブパシー・アナワット	出演
546	2019/11/25	ウェブ	Nest Stage	災害に対して役立つ情報「もしもに備えるFacebook」がリリース	佐藤翔輔	報道・コメント
547	2019/11/25	雑誌・機関誌	マスコミ論理	No. 721、分科会B 頻発する豪雨と切迫する巨大地震 - 「事前」に何を伝えるか、どう備えるか	佐藤翔輔	報道・コメント
548	2019/11/26	新聞(地方紙)	神奈川新聞(他2社)	津波避難促すアプリ 家族所在や避難所到着の確認OK	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント



	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
551	2019/11/27	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑨災害救援と研究とドローン-危険な場所での救助や調査に「空の目」-	マス エリック	執筆
552	2019/11/28	新聞(地方紙)	東海新報	災害伝承と学びの拠点に(仮)防災学習センター整備検討官民会議が初会合 大船渡	柴山明寛	報道・コメント
553	2019/11/28	新聞(全国紙)	産経新聞(他1社)	AIが変える防災 神戸市、LINE、ウェザーニュース、伊勢市、慶応、東北大、東大、富士通...	災害科学国際研究所	報道・コメント
555	2019/11/28	新聞(その他)	建設通信新聞	20年1月に震災アーカイブ国際シンポジウム/IRIDeS	災害科学国際研究所	報道・コメント
556	2019/11/30	テレビ	NHK東北	ニュース:震災をどう伝承 被災地に学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント
557	2019/11/30	テレビ	テレビ岩手	"ぼくのわたしの防災手帳"その活用法 -中学校1年生に配布-	佐藤翔輔	出演
558	2019/12/1	新聞(地方紙)	河北新報社(他3社)	伝承者育成、広島に学ぶ 仙台で原爆や震災の悲惨さと教訓伝えるシンポ	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
562	2019/12/1	雑誌・機関誌	TOSHIN TIMES	大学学部研究会 DIGEST号:言葉と心とコミュニケーション あいまいで気まぐれな「コトバ」の不思議	邑本俊亮	企画協力
563	2019/12/2	テレビ	NHK(東北)	おはよう宮城:被災地中学生が防災の取組発表	佐藤翔輔	報道・コメント
564	2019/12/3	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:阿武隈川の記録的増水の理由と求められる対策は	橋本雅和	報道・コメント
565	2019/12/4	新聞(全国紙)	毎日新聞	<東日本大震災>気仙沼・階上中学生が震災伝承活動 記憶の風化、若者が防ぐ 実態学び、自分たちの言葉で	佐藤翔輔	報道・コメント
566	2019/12/4	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑩津波の予測と最新技術-スーパーコンピュータで素早く被害の把握めざす-	越村俊一	執筆
567	2019/12/4	テレビ	NHK(仙台)	てれまさむね:台風19号 宮城県での歴史資料レスキュー	佐藤大介	出演
568	2019/12/5	新聞(地方紙)	神戸新聞	復興を総括、未来へ提言 2月神戸で震災シンポ	災害科学国際研究所	報道・コメント
569	2019/12/6	新聞(地方紙)	東奥日報(他1社)	土砂災害29% 警戒区域外 台風19号・4県10人死亡 危険箇所把握追い付かず	佐藤翔輔	報道・コメント
571	2019/12/7	テレビ	NHK(東北)	災害時の避難 親子で考える	保田真理	報道・コメント
572	2019/12/8	新聞(地方紙)	気仙沼市新庁舎の旧病院跡地「妥当」有識者会議提言へ	丸谷浩明	報道・コメント	
575	2019/12/11	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	吉田川の浸水被害検証始まる 住民へ情報伝達に課題 災害対策	佐藤翔輔	報道・コメント
577	2019/12/11	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑪マイ・タイムラインを作ろう-洪水から命を守る行動を予定する！-	佐藤翔輔	執筆
578	2019/12/11	テレビ	NHK(東北)	てれまさむね:震災伝承と未来を考えるフォーラム 震災の経験や教訓 どう伝えていくか	今村文彦	報道・コメント
579	2019/12/11	その他	宮城県	防災フロントライン:災害が起きるたびに強くなる、駆けつける医療チーム「DMAT」	佐々木宏之	執筆
580	2019/12/12	新聞(全国紙)	朝日新聞	命救ったツイッター 県職員、とっさに「必ず助けます」	佐藤翔輔	報道・コメント
581	2019/12/12	テレビ	NHK東北	てれまさむね:死者なしは「顔見える関係」から	佐藤翔輔	報道・コメント
582	2019/12/12	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	台風19号 東北整備局北上川下流河川 大規模浸水被害対策分科会が初会合	佐藤翔輔	報道・コメント
583	2019/12/15	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(東北版)	台風被災3県の調査結果を報告 東北学術4団体	災害科学国際研究所	報道・コメント
584	2019/12/15	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	丸森 阿武隈川支流の堤防決壊、原因は陸側の水「通常とは逆に」学術調査団が分析	災害科学国際研究所、森口周二	報道・コメント
586	2019/12/15	新聞(全国紙)	読売新聞	避難場所確認 地域で差 住民アンケート	佐藤翔輔、森口周二	報道・コメント
587	2019/12/15	新聞(地方紙)	河北新報社	<東北の本棚>災害後も教育活動継続 レジリエントな学校づくり	佐藤健	報道・コメント
588	2019/12/15	テレビ	NHK(三重)	ニュース:昭和東南海地震75年でシンポジウム	今村文彦	報道・コメント
589	2019/12/15	新聞(全国紙)	朝日新聞	台風被害 調査報告 合同調査団 決壊や避難を分析	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
590	2019/12/15	新聞(全国紙)	読売新聞	調査団が報告会=宮城	森口周二、佐藤翔輔	報道・コメント
591	2019/12/16	ウェブ	TEAM防災ジャパン	TEAM防災ジャパン リレー投稿	小野 裕一	企画協力
592	2019/12/17	新聞(全国紙)	毎日新聞	東南海地震75年 教訓を次世代に 御浜でシンポ	今村文彦	報道・コメント
593	2019/12/18	新聞(全国紙)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑫災害時の食事どうする?-水・食・物を備蓄 食べ方も考えよう-	保田真理	執筆
594	2019/12/18	テレビ	NHK山形放送局	やままる:鶴岡 地震から半年"被災地はいま"	佐藤翔輔	報道・コメント
595	2019/12/18	テレビ	NHK山形	ニュース:"津波到達までに避難"3分の1	佐藤翔輔	報道・コメント
596	2019/12/18	新聞(その他)	建設通信新聞	【バシコン・復興総括式典】復興への取り組み・今後の災害対応への方向性を盛り込んだ提言書を披露	小野裕一	報道・コメント
597	2019/12/18	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑬災害時の食事どうする?-水・食・物を備蓄 食べ方も考えよう-	保田真理	執筆
598	2019/12/19	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:特集 ニュースの軌跡⑨ 大目撃レベル 理解と効果は	佐藤翔輔	報道・コメント
599	2019/12/19	新聞(全国紙)	読売新聞	【検証 台風19号豪雨災害】(4)SNS(連載)＝長野	佐藤翔輔	報道・コメント
600	2019/12/20	新聞(地方紙)	河北新報社	新潟・山形地震の津波避難場所到着 鶴岡到達予測内3割 東北大災害研「高齢者支援 課題」	佐藤翔輔	報道・コメント
601	2019/12/23	テレビ	NHK	おはよう日本:台風19号 投稿された映像を分析・命を守る行動は	佐藤翔輔	報道・コメント
602	2019/12/24	新聞(地方紙)	いわき民報	台風19号 市の検証委発表 死者9人の事実重く受け止め	杉安和也	報道・コメント
603	2019/12/25	新聞(地方紙)	河北新報社	台風19号 災害発生情報 自治体戸惑い 専門家制度周知求める	佐藤翔輔	報道・コメント
604	2019/12/25	テレビ	NHK北海道	ニュース:根室地方の防災担当者セミナー	定池祐季	報道・コメント
605	2019/12/25	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑭被災者の力をにがす免震建物-地震のゆれを伝えず、建物を守る-	五十子幸樹	執筆
606	2019/12/26	テレビ	仙台放送	台風19号における仮設住宅について	岩田司	企画協力
607	2019/12/27	新聞(地方紙)	河北新報社	旧病院跡地に新庁舎 有識者会議提言 気仙沼市来月中に発表	丸谷浩明	報道・コメント
608	2019/12/29	ラジオ	TBCラジオ	Skip! : ストディエススペシャル2019みやぎの1年「県内での避難行動の特徴は」「薄れで行く記憶をつなぐためにはどうすればいいか」	佐藤翔輔	報道・コメント
609	2019/12/29	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>年末防災力アップ講座SP-大そうじが終わった今こそ 家の防災力の再点検を！-	保田真理	執筆
610	2019/12/30	新聞(全国紙)	毎日新聞	被災地での役割学ぶ 全国の学芸員ら研修会	川島秀一	報道・コメント
611	2019/12/30	新聞(地方紙)	河北新報社	8.5豪雨時の災対本部記録など 大崎市、重要文書保存せず「命を守る資料」専門家警告	佐藤大介	報道・コメント
612	2019/12/30	テレビ	NHK	おはよう日本:台風19号 宮城県での歴史資料レスキュー	佐藤大介	出演
613	2019/12/31	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	災害時学校支援チーム 研修修了28人に宮城県教委が受講証	災害科学国際研究所	報道・コメント
615	2020/1/1	雑誌・機関誌	青葉工業振興会	震害:超高層・免震建物の地震時過大変形に伴う諸問題の解決	五十子幸樹	執筆
616	2020/1/5	その他	笹気出版印刷株式会社	まなのめ第47号「緊急時の避難に心理学は有効か？」	邑本俊亮	企画協力
617	2020/1/5	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:台風19号への対応	巖名裕一	出演
618	2020/1/7	新聞(地方紙)	河北新報社	座標 人生100年次代 学ぶこと一番の財産	保田真理	執筆
619	2020/1/8	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑮言葉や体が不自由な人と防災-災害時、みんなで助けあうことが大切-	フルコ・ラヴィア	執筆
620	2020/1/9	その他	名城大学	名城大学、東北大学連携協定キックオフイベントに200人が参加	災害科学国際研究所、川内淳史、巖名裕一、森口周二、佐々木宏之、橋本雅和	その他
621	2020/1/9	テレビ	NHK名古屋	ニュース845:台風19号教訓に歴史資料守る	巖名裕一	出演
622	2020/1/10	新聞(全国紙)	毎日新聞(他1社)	「内水氾濫」解明目指す 東北大 台風19号の被害写真提供呼びかけ	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
630	2020/1/11	新聞(地方紙)	河北新報社	身元不明遺体の情報提供を 名取で宮城県警が呼び掛け	門庭充侍	報道・コメント
631	2020/1/11	雑誌・機関誌	新聞研究	2020年1-2月号 台風19号による豪雨災害と報道:「命を守る」という原点から-草の根防災が奏功した宮城県大郷町の事例(藤田和彦)	佐藤翔輔	資料提供
632	2020/1/11	新聞(地方紙)	河北新報社	3世代連携研究後押し 東北大メディカル・メガバンク 宮城の158組データ有償提供	栗山進一	報道・コメント
633	2020/1/12	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	学校避難訓練を多角的に評価 宮城県教委と東北大連携しチェックリスト作成	災害科学国際研究所	報道・コメント
636	2020/1/12	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	震災の記録や教訓、どう伝承 東北大でシンポ、国内外の課題報告	柴山明寛	報道・コメント
637	2020/1/13	新聞(その他)	日刊工業新聞	東北大、3世代のゲーム・生活習慣情報提供 遺伝・環境要因を比較	栗山進一	報道・コメント
638	2020/1/14	新聞(その他)	共同通信社	「災害科学」と「氷の文化史」を分かりやすく解説 東北大が一般公開イベント	今村文彦	報道・コメント
639	2020/1/14	新聞(地方紙)	東海新報	教訓伝承へ連携を 太平洋津波博物館館長が来県 陸前高田	マリ、エリザベス、柴山明寛、グレスター、ユリア	報道・コメント
640	2020/1/14	新聞(地方紙)	デーリー東北	震災後、続く地盤隆起	木戸元之	報道・コメント
641	2020/1/14	新聞(地方紙)	東奥日報	沈下一転 続く地盤隆起	木戸元之	報道・コメント
642	2020/1/14	新聞(全国紙)	読売新聞(夕刊)	東北大3世代のゲーム共有 体質係にどう影響	栗山進一	報道・コメント
643	2020/1/15	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(東北)	大地震被災地の記録保存考える 自治体職員ら伝承決 仙台でシンポ	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道・コメント
644	2020/1/15	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑯地震が発生した際の行動-地震が起きたら...ふだんから考えよう-	定池祐季	執筆
645	2020/1/16	テレビ	NHK	Eテレ 学ぼうBOSAI 地球の声を聞こう「津波は どうして起きる？」	保田真理	出演
646	2020/1/16	新聞(全国紙)	日本経済新聞	Opinion 複眼 阪神大震災25年の教訓は 企業の対策、平時も評価	丸谷浩明	報道・コメント
647	2020/1/17	新聞(全国紙)	産経新聞	阪神大震災25年 備えよ 南海トラフ地震	遠田晋次	企画協力

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
648	2020/1/17	新聞(その他)	科学新聞	家計情報付き大規模アンケート調査結果を分譲開始三世代7人家族158組—東北大東北メディカル・メガバンク機構	栗山進一	報道・コメント
649	2020/1/18	新聞(地方紙)	河北新報社	「3.11伝承ロード」と被災地の未来 震災教訓 世界へ発信 命守ることの「信念」養う	今村文彦	報道・コメント
650	2020/1/19	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:丸森町と伊達政宗の軍略	巖倉裕一	出演
651	2020/1/20	テレビ	ミヤギテレビ	ミヤギToTo:3・11語り継ぐミヤギ(やまと語りへの会)	災害科学国際研究所	監修
652	2020/1/20	新聞(その他)	読者日報	宮城・岩手対象の3世代アンケート調査、家系情報付きDB公開	栗山進一	報道・コメント
653	2020/1/21	新聞(地方紙)	河北新報社	宮城県教委が学校防災会議 大川小教訓生かす 専門家交え抜本対策	災害科学国際研究所	報道・コメント
654	2020/1/21	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:大川小判決確定を受け「学校防災のあり方」見直す検討会議設置 宮城県教委	今村文彦	報道・コメント
656	2020/1/21	テレビ	東日本放送(他1社)	ニュース:「学校防災検討会議」県教委が設置 有識者6人が来月初会合へ	今村文彦	報道・コメント
658	2020/1/21	新聞(その他)	Medical & Test Journal	三代目アンケート調査情報を分譲 家系情報付き、東北大機構	栗山進一	報道・コメント
659	2020/1/22	ウェブ	mnsニュース	宮城県教委が学校防災会議 大川小教訓生かす 専門家交え抜本対策	災害科学国際研究所	報道・コメント
660	2020/1/22	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(宮城版)	学校防災検討会議の委員6人を公表 県教委	今村文彦	報道・コメント
661	2020/1/22	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑨応急手当について知ろう-命を救うため、小学生にできること	江川新一	執筆
662	2020/1/23	新聞(地方紙)	三陸新報	気仙沼市の防災フォーラム 中・高生が成果発表	昌本俊亮	報道・コメント
663	2020/1/23	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(和歌山版)	市民翻弄、断水トラブル 検証し「次」へ行かせ	柴山明寛	報道・コメント
664	2020/1/23	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、建設データを用いて東日本大震災の復興過程を定量化	村尾修	報道・コメント
665	2020/1/24	テレビ	仙台放送	FNNニュース:復興推進委員会初会合 被災地区の住民たちも委員に 宮城・丸森町	災害科学国際研究所	報道・コメント
666	2020/1/24	新聞(全国紙)	産経新聞(他4社)	現実路線で防災対策促す 政府の南海トラフ津波確率	今村文彦	報道・コメント
671	2020/1/24	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(福島)	震災の記録や教訓、どう伝承 東北大でシンポ、国内外の課題報告	柴山明寛	報道・コメント
672	2020/1/24	新聞(全国紙)	読売新聞	体質 孫にどう影響? 東北大3世代のゲーム情報提供	栗山進一	報道・コメント
673	2020/1/25	新聞(全国紙)	毎日新聞	クローズアップ:南海トラフ調査委推計「想定内」への備え期待 津波3メートルでも被害大	今村文彦	報道・コメント
674	2020/1/25	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	「住民の安全安心前提」丸森町で復興推進委が初会合	柴山明寛	報道・コメント
676	2020/1/25	新聞(地方紙)	岩手日報	津波試算「空白」に不安 東北北部沖地震	今村文彦	報道・コメント
677	2020/1/26	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(地方)	台風復興計画6月に策定へ	柴山明寛	報道・コメント
678	2020/1/27	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	災害時の行動を中高生が探る 宮城・多賀城などで防災の担い手養成研修会	今村文彦	報道・コメント
681	2020/1/27	新聞(その他)	建設通信新聞	復興過程をグラフィック化 他地域と比較可能に 東北大災害科学国際研究所	村尾修	報道・コメント
682	2020/1/27	新聞(全国紙・北海道版)	毎日新聞(北海道版)	被災前の記憶、途絶えさせず 厚真町職員ら決意 仙台でシンポ	災害科学国際研究所	報道・コメント
683	2020/1/29	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑩在宅避難とは? プライバシーが保たれストレス少ない	佐藤健	執筆
684	2020/1/29	新聞(地方紙)	河北新報社	阪神大震災25年 創造的復興未来へ託す 神戸でシンポ	今村文彦	報道・コメント
685	2020/1/29	新聞(地方紙)	河北新報社	津波伝承施設 地域色を模索 大船渡/「命守る学びの場」目指す	柴山明寛	報道・コメント
686	2020/1/30	テレビ	NHK	ニュース:災害時の救急対応シンポジウム	今村文彦	報道・コメント
687	2020/1/30	新聞(地方紙)	石巻まほく	石巻市復興、防災マップコンクール 最高賞に鮎川小「避難のきつかけに」	災害科学国際研究所	報道・コメント
688	2020/1/30	新聞(地方紙)	河北新報社	学んだ防災 中高生披露 気仙沼でフォーラム	災害科学国際研究所、昌本俊亮	報道・コメント
689	2020/1/30	テレビ	NHK	偉人たちの健康診断「エジソンはなぜ諦めずに発明を続けることができたのか?」	杉浦元亮	企画協力
690	2020/1/31	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	救急需要の変化 対応探る 仙台で全国シンポ開幕	今村文彦	報道・コメント
695	2020/1/31	新聞(地方紙)	河北新報社	神戸と共に教訓伝えて	災害科学国際研究所	報道・コメント
696	2020/1/31	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(東北)	学んだ防災、紙芝居で披露	昌本俊亮	報道・コメント
697	2020/1/31	ウェブ	TEAM防災ジャパン	【普及啓発】救急隊員の災害時の対応などをテーマにシンポジウム	今村文彦	報道・コメント
698	2020/2/1	新聞(地方紙)	読売新聞(他2社)	災害写真をデジタル化「アーカイブさふ」始動	災害科学国際研究所	報道・コメント
699	2020/2/1	ウェブ	Yahoo!ニュース	災害写真をデジタル化「アーカイブさふ」始動	災害科学国際研究所	報道・コメント
700	2020/2/1	ウェブ	docomoニュース	災害写真をデジタル化「アーカイブさふ」始動	災害科学国際研究所	報道・コメント
701	2020/2/1	新聞(地方紙)	河北新報社	座標:家族のつながり 他者への思いやり育む	保田真理	執筆
702	2020/2/1	その他	Toshiba International Foundation Website	Kataribe Seminar	フルコ・フラヴィア	執筆
703	2020/2/2	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:胆振東部地震発生から2回目の冬を迎えて	定池祐季	出演
704	2020/2/4	ウェブ	TEAM防災ジャパン	災害写真をデジタル化「アーカイブさふ」始動	災害科学国際研究所	報道・コメント
705	2020/2/4	新聞(地方紙)	神戸新聞(他1社)	「創造的復興」成果と課題は 神戸でシンポ 阪神・淡路大震災25年	災害科学国際研究所	報道・コメント
707	2020/2/5	新聞(地方紙)	河北新報社(他3社)	阪神大震災25年 創造的復興、未来へ託す 東北大など神戸でシンポ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
711	2020/2/5	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑪災害時トイレはどうなる? -下水配管がこわれ水で流せなくなるかも	佐藤健	執筆
712	2020/2/5	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1社)	大震災25年、浮かぶ課題は 21世紀文明シンポ	災害科学国際研究所	報道・コメント
714	2020/2/5	テレビ	NHK	ニュース:大川小判決受け有識者会議初会合	今村文彦	報道・コメント
715	2020/2/5	テレビ	仙台放送(他1社)	ニュース:「学校防災」見直す検討会議 初会合...大川小津波訴訟「学校側の責任」認める判決の確定うけに宮城	今村文彦	報道・コメント
717	2020/2/5	新聞(全国紙)	産経新聞(他5社)	大川小訴訟判決確定 県が学校防災見直し 有識者会議初会合	今村文彦	報道・コメント
723	2020/2/5	テレビ	NHK	くらしきワ解説:被災史料を後世に	佐藤大介	資料提供
724	2020/2/6	新聞(地方紙)	河北新報社	学校防災検証 多角的に 宮城県教委 検討会議が初会合	今村文彦	報道・コメント
725	2020/2/6	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	水害メカニズム学が 災害とメディア研 丸森町など視察	橋本雅和	報道・コメント
727	2020/2/6	新聞(地方紙)	東海新報	玄関口に「おおふなぼ」と防災学習を官民会議で決定 大船渡	柴山明寛	報道・コメント
728	2020/2/6	新聞(全国紙・地方版)	産経新聞(地方)	台風19号の災害対応 検証委員会が初会合	柴山明寛	報道・コメント
729	2020/2/7	新聞(地方紙)	河北新報社	まちの防災術 学んで納得 仙台・長町実践講座受講者が発表会	佐藤健	報道・コメント
730	2020/2/11	新聞(地方紙)	河北新報社	くいのちと地域を守る? 震災を学び 中高生に伝承 東北大生、都内で出前授業	昌本俊亮	報道・コメント
731	2020/2/12	テレビ	NHK(秋田)	ニュースこまち845:特集・命守る情報すべての人に 戸別受信機など 希望者全員に提供は約半	佐藤翔輔	報道・コメント
732	2020/2/12	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑫ペットと災害-災害起きたらペットもいっしょに避難	三木康宏	執筆
733	2020/2/13	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	被害軽微な農地を復旧優先 丸森町長、農家収入確保探る	災害科学国際研究所	報道・コメント
735	2020/2/13	テレビ	NHK(東北)	ニュース:丸森町で災害検証委員会の初会合	柴山明寛	報道・コメント
736	2020/2/13	ラジオ	NHKラジオ第1放送(仙台放送局)	ゴジだっちゃ! :「防災研究最前線」丸森町の水害の歴史について	川内淳史	出演
737	2020/2/13	新聞(地方紙)	石巻まほく	震災伝承の会がワークショップ	佐藤翔輔	報道・コメント
738	2020/2/14	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	台風への対応振り返り防災体制改善策探る 丸森町の検証委が初会合	柴山明寛	報道・コメント
740	2020/2/14	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞(東京)	丸森町 台風対応検証へ 委員会初会合 避難情報伝達など	柴山明寛	報道・コメント
741	2020/2/15	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞(宮城版)	台風19号の対応検証 被害の丸森町が初会合	柴山明寛	報道・コメント
742	2020/2/15	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:学校防災見直し会議始まる...「マニュアル作りでなく、学校現場・子供の命に未来の方向性を」津波に子どもも奪われた遺族【宮城発】	今村文彦	報道・コメント
744	2020/2/16	新聞(全国紙)	読売新聞	出生時に低出生体重 妊娠高血圧 ご用心	栗山進一	報道・コメント
745	2020/2/16	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:支援のバトン	定池祐季	出演
746	2020/2/17	新聞(地方紙)	河北新報社	宮城・大郷町、自力再建の住宅移転用地を確保 町中心部に約15区画	橋本雅和	報道・コメント
747	2020/2/17	新聞(全国紙)	朝日新聞	復興の教訓生かすには 21世紀文明シンポ「阪神・淡路大震災25年 創造的復興を総括し未来へ提言する」被災経験者防災文化に	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
748	2020/2/17	新聞(全国紙)	朝日新聞	(現場へ!)地震予測に迫る:1「立ち止まって検討する時期」	遠田晋次	報道・コメント
749	2020/2/17	新聞(全国紙)	産経新聞(他2社)	南海トラフ地震、警戒高まる時期 教訓からリスク把握を	遠田晋次	報道・コメント
752	2020/2/17	新聞(地方紙)	河北新報社	インバウンドメニューアワード	ザッパシー・アナワット	報道・コメント
753	2020/2/18	新聞(地方紙)	高知新聞	地震情報に備えBCPを 東北大教授講演 企業対応テーマ	丸谷浩明	報道・コメント
754	2020/2/19	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>⑬避難所の生活って? -水や電気が不十分 体調をくずすことも	大江千紘	執筆
755	2020/2/20	新聞(地方紙)	石巻日日新聞	地域防災に高齢化の壁 市民団体が町内会アンケート 震災伝承7割特にせず	佐藤翔輔	報道・コメント
756	2020/2/20	新聞(地方紙)	石巻日日新聞	東北大の佐藤翔輔准教授講演 石巻で避難開始遅い傾向 津波注意報で行動1割	佐藤翔輔	報道・コメント
757	2020/2/21	新聞(地方紙)	京都新聞	東日本大震災9年 震災遺構 維持費が課題 進捗劣化 入館料徴収も赤字 専門家「地域を守る役割、稼ぐ工夫を」	佐藤翔輔	報道・コメント
758	2020/2/21	新聞(地方紙)	四国新聞	劣化、維持費が課題 専門家「地域を守る役割」東北の震災遺構	佐藤翔輔	報道・コメント
759	2020/2/25	テレビ	NHK	WEB特集「小さい地震」の津波 120年前の教訓を語り継ぐ	今村文彦	報道・コメント
760	2020/2/26	新聞(地方紙)	福島民友新聞	【郡山】災害時の事業継続解説 3月6日、YMC郡山セミナー	丸谷浩明	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
761	2020/2/26	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>21 仮設住宅の暮らしとは?一木造は気候に合い、ぬくもりも好評	岩田司	執筆
762	2020/2/26	新聞(全国紙)	毎日新聞	オピニオン論文:「住む場所」の選び方 災害情報の伝承と収集を	佐藤翔輔	報道・コメント
763	2020/2/28	新聞(地方紙)	北海道新聞(他1社)	<東日本大震災9年>日本発の国際規格「防災ISO」を東北大災害研が提唱	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
765	2020/2/28	新聞(地方紙)	河北新報社	宮城の震災資料発信 県教委ライオンズ研と協定	柴山明寛	企画協力
766	2020/3/1	その他	仙台市	仙台市政だより1781号:政令指定都市・区制移行30周年「これからの仙台」	奥村誠	報道・コメント
767	2020/3/1	新聞(地方紙)	神奈川新聞	継承 3.11 東日本大震災9年/継承/遺構保全 道除し 劣化対策や維持費課題	佐藤翔輔	報道・コメント
768	2020/3/1	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:変動地球共生学卓越大学院プログラム	福島洋	出演
769	2020/3/1	雑誌・機関誌	対がん協会	対がん協会報第686号:子宮頸がん検診「液状化法は従来法より有用」	伊藤 潔	資料提供
770	2020/3/2	ウェブ	TEAM防災ジャパン	<東日本大震災9年>日本発の国際規格「防災ISO」を東北大災害研が提唱	災害科学国際研究所	報道・コメント
771	2020/3/2	新聞(地方紙)	西日本新聞	東日本大震災9年=震災遺構 維持費重く 岩手や宮城 教訓伝承へ苦心 復興交付金は適用外「稼働工夫必要」	佐藤翔輔	報道・コメント
772	2020/3/2	新聞(全国紙)	産経新聞	震災遺構、「維持費」が課題 入館料・交付金だけでは賄えず	佐藤翔輔	報道・コメント
773	2020/3/2	新聞(全国紙)	日本経済新聞	世界初「世界最速! 地震再生直後に津波被害をリアルタイム推計するシステム」~世界屈指のパソコンで社会課題の解決に挑む~	災害科学国際研究所	報道・コメント
774	2020/3/2	新聞(全国紙)	毎日新聞	東日本大震災の死因、12種類に体系化 東北大災害研「息苦」や「頭部損傷」多く	災害科学国際研究所、門廻允侍	報道・コメント
775	2020/3/3	新聞(地方紙)	河北新報社	座標:減災に性善なし 広がれ女性防災士の輪	伊田真理	執筆
776	2020/3/4	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>22 災害に心も備える-自分で考え行動する力を身につけよう	定池祐季	執筆
777	2020/3/5	新聞(全国紙)	読売新聞	震災死因を12に細分化 東北大 津波対策に活用へ	門廻允侍	報道・コメント
778	2020/3/6	テレビ	NHK	おはよう日本:震災9年 なぜ巨大津波が集中?岩手県北部で何が「サイレント津波」の脅威	今村文彦	出演
779	2020/3/7	新聞(地方紙)	大分合同新聞	「震災アーカイブ」で連携 教訓を研究・教育に活用	柴山明寛	報道・コメント
780	2020/3/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	遺体発見状況や死因分析、東北大「犠牲無駄にせず」(災害研、門廻)	災害科学国際研究所、門廻允侍	報道・コメント
781	2020/3/7	テレビ	NHK	NHKスペシャル:東日本大震災9年「40m巨大津波」の謎に迫る「サイレント津波」とは	今村文彦	出演
782	2020/3/7	テレビ	NHKスペシャル	東日本大震災:40m巨大津波の謎に迫る	ザッパシー・アナウツ	資料提供
783	2020/3/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	「黒い津波」防災の課題に増す破壊力、有害ヘドロも	今村文彦	報道・コメント
784	2020/3/7	新聞(全国紙)	産経新聞	死因不詳リアス海岸で多く 東北大、宮城の犠牲者分析	門廻允侍	報道・コメント
785	2020/3/7	その他	共同通信社(他多数)	宮城のリアス海岸で多い死因不詳 東北大、震災犠牲者分析	門廻允侍	報道・コメント
786	2020/3/8	新聞(地方紙)	東海新報	風化させまい 震災の記憶 公演「かたりつぎ」で竹下景子さんが証言朗読 大船渡	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道・コメント
787	2020/3/8	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞(東北版)	竹下景子さん語る被災の記憶 無観客でネット中継	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道・コメント
788	2020/3/8	テレビ	NHK	おはよう日本:「震災9年」震災対応「生の声」をどう伝える? 災害エスノグラフィー	佐藤翔輔	報道・コメント
789	2020/3/8	テレビ	岩手めんこいテレビ(他1社)	FNNニュース:「100坪ルール」でかさ上げ地の活用方法が課題に...東日本大震災から9年【岩手発】	姥浦道生	報道・コメント
791	2020/3/8	新聞(全国紙)	読売新聞社	<震災9年>震災公文書 保存進まず ルール整備 11自治体のみ	川内淳史	報道・コメント
792	2020/3/8	新聞(全国紙)	日本経済新聞	黒い津波 衝撃力2倍 有害ヘドロ巻き上げ重く	今村文彦	報道・コメント
793	2020/3/8	新聞(全国紙)	日本経済新聞	黒い津波 衝撃力2倍	山下啓	資料提供
794	2020/3/9	テレビ	NHK	おはよう日本:「震災9年」街の再生どうなる...被災地が直面する課題	姥浦道生	報道・コメント
795	2020/3/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	地域防災、留学生も一緒に、避難所運営や応急手当の冊子、文化の違い相互理解、母国にノウハウ伝承	佐藤健	報道・コメント
796	2020/3/9	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞(東京)	次の災害「救える命」増やす 東北大、宮城の死因分析 9割溺死「不詳」沿岸で多く	災害科学国際研究所、門廻允侍	報道・コメント
797	2020/3/9	新聞(全国紙)	朝日新聞	津波死9千人分析、リアスと平野部差	災害科学国際研究所、門廻允侍	報道・コメント
798	2020/3/9	新聞(地方紙)	岩手日報(他5社)	被災者の記憶 未来へ 大船渡で竹下景子さんが朗読	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道・コメント
804	2020/3/9	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞	リアス地域、目立つ死因不詳 東北大チーム、震災犠牲者を場所別に解析	門廻允侍	報道・コメント
805	2020/3/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞	次の災害「救える命」増やす 東北大、死因や遺体発見の状況分析	門廻允侍	報道・コメント
806	2020/3/9	新聞(地方紙)	河北新報社	低出生率の割合増 宮城、震災後ストレス影響か 東北大調査	栗山進一	報道・コメント
807	2020/3/9	新聞(全国紙)	朝日新聞	スマホ時代の災害伝承 動画を活かに防災意識向上	今村文彦、柴山明寛	報道・コメント
808	2020/3/10	新聞(地方紙)	河北新報社	<東日本大震災9年>ネット共同調査 若者の視点生かし地域再生を	佐藤翔輔	報道・コメント
809	2020/3/10	新聞(全国紙)	読売新聞	<震災9年>世論調査、リスク知り 意識高めて	佐藤翔輔	報道・コメント
810	2020/3/10	新聞(地方紙)	日本新報社	類見ぬ災害歴史に残す	柴山明寛	報道・コメント
811	2020/3/10	新聞(全国紙)	朝日新聞	被災地「復興期」自殺率高い傾向 宮城・福島で医師分析	栗山進一	報道・コメント
812	2020/3/10	新聞(全国紙)	毎日新聞	特集:防災の国際交流	世界防災フォーラム	報道・コメント
813	2020/3/11	新聞(その他)	時事通信社(他2社)	震災施設結ぶ伝承ロード 風化防止へ、教訓未来につなぐ	今村文彦	報道・コメント
816	2020/3/11	新聞(地方紙)	福井新聞	ネット いのちと地域を守る2020	今村文彦	報道・コメント
817	2020/3/11	テレビ	NHK	おはよう日本:「震災9年」あの日のを忘れない、被災地の朝・子どもたちにどう伝えるか、教育現場の模索、当時3歳の小学生に変化が	佐藤翔輔	報道・コメント
818	2020/3/11	テレビ	NHK	おはよう日本:「震災9年」震災の伝承「子どもが語る意味は...」	佐藤翔輔	報道・コメント
819	2020/3/11	テレビ	NHK	おはよう日本:原発事故の「伝承」福島の課題は	佐藤翔輔	報道・コメント
820	2020/3/11	テレビ	NHK	おはよう日本:「震災9年」震災の悲劇を繰り返さないために	佐藤翔輔	報道・コメント
821	2020/3/11	ウェブ	exciteニュース	東日本大震災から9年「3.11」の教訓	今村文彦	報道・コメント
822	2020/3/11	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>23 災害とボランティア-長い復興の中で必要とされる-	ゲルスタ・ユリア	執筆
823	2020/3/11	テレビ	NHK	ニュース:「震災9年」東北沖「被害もたらす大地震リスクは減っていない」	日野亮太	報道・コメント
824	2020/3/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	<東日本大震災9年>震災 伝承施設がつながる 教訓 東北各地に40カ所以上 風化防ぐ試み	佐藤翔輔	報道・コメント
825	2020/3/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北、高い余震リスク 収束に数十年「無意識・平常心の防災」重要に	佐藤翔輔	報道・コメント
826	2020/3/11	テレビ	TBSテレビ	Nスタスペシャル:「河川津波」新たな脅威が 震災9年の真実「想定外」から命を守れ	今村文彦	報道・コメント
827	2020/3/11	新聞(全国紙)	読売新聞社	<震災9年>災害時 文化財の救出組織「史料ネット」設立相次ぐ 空白島の解消 なお課題	川内淳史、暇名裕一	報道・コメント
828	2020/3/11	雑誌・機関誌	Lavoro Culturale (online)	Appunti dal Giappone, 9 anni dopo lo tsunami	フラヴィア・フルコ	執筆
829	2020/3/11	ラジオ	東北放送	東日本大震災特別番組「絆みやぎ明日へ」	遠田晋次	出演
830	2020/3/11	新聞(海外)	Berliner Zeitung	Leben nach dem Inferno [Life after the inferno]. On the current situation in Fukushima Prefecture. Berliner Zeitung, March 11, 2019	ゲルスタ・ユリア	報道・コメント
831	2020/3/11	新聞(海外)	Lindauer Zeitung	Die Recovery Olympics und der lange Weg der Heilung. Neun Jahre nach dem Ostjapanischen Erdbeben brechen Schüler ihr Schweigen. 「The recovery Olympics and the long path of healing. Pupils break the silence nine years after the Great East Japan Earthquake」	ゲルスタ・ユリア	執筆
832	2020/3/11	テレビ	毎日放送	【異変】黒い津波の恐怖	災害科学国際研究所、山下啓	資料提供
833	2020/3/11	テレビ	CNN	日本の防災・減災技術	災害科学国際研究所、山下啓	資料提供
834	2020/3/12	テレビ	日本テレビ	台風19号 SNSが命つなぐ・長野県 今後の運用検討	佐藤翔輔	報道・コメント
835	2020/3/13	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、東日本大震災後の子宮頸がん検診の受診率回復に地域格差があることを解明	伊藤潔、三木康宏	報道・コメント
836	2020/3/14	テレビ	NHK	ニュース:被災地かさ上げ宅地の利用率 平均6割余	姥浦道生	報道・コメント
837	2020/3/14	新聞(地方紙)	河北新報社	「いのちと地域を守る」防災 柔らかに伝え18年「命救うため息長く」エフエム仙台「SUNDAY MORNING WAVE」	今村文彦	報道・コメント
838	2020/3/15	テレビ	NHK	ニュース:「震災9年」震災の教訓 災害対応に生かそう	今村文彦	報道・コメント
839	2020/3/15	ラジオ	FM仙台・Date fm	東北大学防災UPDATES:大学の国際化と国際貢献	福島洋	出演
840	2020/3/17	新聞(海外)	NIKKEI ASIAN REVIEW	OPINION: Does Japan need an equivalent of the CDC to fight coronavirus?-Country has first-class emergency medical system but it is not without problems-	江川新一	執筆
841	2020/3/18	新聞(地方紙)	河北新報社	避難所感染対策 検診急ぐ 今、災害起きたら大丈夫?「備蓄など自助重要」	佐藤健	報道・コメント
842	2020/3/18	新聞(全国紙)	毎日新聞	「生身の声」で紡ぐ震災の記憶 東北大で進む語り部継承の研究	佐藤翔輔	報道・コメント
843	2020/3/18	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>24 復興の考え方-すべてを同じようにもどさなくてもいい-	平野勝也	執筆
844	2020/3/19	新聞(地方紙)	信濃毎日新聞	地価下落長野の被災地「安心して暮らせる土地」願う、地域づくりの今後見据え	奥村誠	報道・コメント
845	2020/3/21	新聞(地方紙)	河北新報社	「新たな災害に備えを」復興工事関連団体有志6社が3.11伝承ロードに寄附	今村文彦	報道・コメント
846	2020/3/21	新聞(地方紙)	河北新報社	陸で発見、石巻最多3058人 リアス海岸「不詳」割合高く 震災犠牲者東北大災害研調査	門廻允侍	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
847	2020/3/22	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	仙台防災未来フォーラム 講演とパネル討論は無観客 映像収録、3月中公開へ	今村文彦	報道・コメント
849	2020/3/22	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	3.11大震災:陸で発見、石巻最多3058人 リアス海岸「不詳」割合高く 震災犠牲者東北大災害研調査	災害科学国際研究所、門廻充侍	報道・コメント
854	2020/3/23	新聞(全国紙)	毎日新聞	<東日本大震災9年>体験者の肉声、後世に伝わる 東北大准教授「語り部」継承実験 本人以外でも記憶に残りやすく	佐藤翔輔	報道・コメント
855	2020/3/24	新聞(地方紙)	東京新聞	<311メディアネット>活動の裾野に広がり 東北大災害科学国際研究所・今村文彦所長	今村文彦	報道・コメント
856	2020/3/25	新聞(その他)	朝日小学生新聞	<クイズでわかる地球防災ラボ>最終回 震災遺構はどんなもの? 過去の災害や復興を考えるきっかけに	川島秀一	執筆
857	2020/3/25	新聞(海外)	Lindauer Zeitung	"Ich fühle mich in Japan sicherer als in Deutschland. Wie die ehemalige Wasserburgerin die Corona-Krise in Japan erlebt." [I feel safer in Japan than in Germany. How the former Wasserburg citizen Julia Gerster experiences the Corona Crisis in Japan]	ゲルスタ・ユリア	報道・コメント
858	2020/3/25	新聞(地方紙)	河北新報社	集合住宅 浸水に弱さ	佐藤 健	報道・コメント
859	2020/3/27	新聞(地方紙)	河北新報社(他4社)	東北大と新潟大 災害研同士協定 防災・減災 共同研究へ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
864	2020/3/27	テレビ	NHK(仙台)	<東日本大震災>てれまさむね:低体温症の死者は沿岸部に集中	門廻充侍	報道・コメント
865	2020/3/28	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞(東京)	丸森町が2回目 台風19号検証委	柴山明寛	報道・コメント
866	2020/3/29	新聞(全国紙)	朝日新聞DIGITAL	早く冷凍庫を...歴史学者は、災害が起きると走り出す	巖名裕一	報道・コメント
867	2020/3/31	テレビ	NHK	ニュース7: <新型コロナウイルス>緊急事態宣言で暮らしはどうなる? 企業の社会的責任 協力して乗り切る準備を	丸谷浩明	報道・コメント
868	2020/3/31	新聞(地方紙)	河北新報社	<311メディアネット2020>連載の終わりに:「楽しむ」定着のポイント	今村文彦	報道・コメント
869	2019/3-2020/3	ラジオ	FMいわぬま	いわぬま防災のしおり	保田真理	出演

新聞	
全国紙(含地方版)	135件
報道・コメント	128件
執筆	1件
資料提供	3件
企画協力	2件
その他	1件
地方紙	259件
報道・コメント	233件
執筆	6件
資料提供	1件
企画協力	18件
その他	1件
海外	8件
報道・コメント	6件
執筆	2件
その他	64件
報道・コメント	37件
執筆	26件
資料提供	1件
テレビ/ラジオ	178件
報道・コメント	117件
出演	53件
監修	1件
資料提供	5件
企画協力	2件
雑誌・機関誌	10件
報道・コメント	1件
執筆	4件
資料提供	3件
企画協力	2件
ウェブ	199件
報道・コメント	198件
企画協力	1件
その他	16件
報道・コメント	10件
執筆	2件
資料提供	1件
企画協力	2件
その他	1件
報道・コメント	730件
執筆	41件
資料提供	14件
企画協力	27件
出演	53件
監修	1件
その他	3件

## 7 国際交流

## 国際交流

### (1) 国外の研究者と実施している共同研究実績

課 題 名・概 要	本学研究代表者名 所属機関名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
Earthquake and tsunami fragility functions 2011年東日本大震災、2018年スラウェシ島津波、2018年スンダ海峡等における被害関数構築研究	サツパシー・アナワット	Prof. Tiziana Rossetto	ロンドン大学・英国
APRU Multi-hazards program APRUマルチハザードプログラムを通して大学間の災害関連研究を強化、国際レベルの協議へ貢献する。	泉貴子	John Rundle	UC Davis, Chulalongkorn university, National Taiwan University, Tsinghua University, University of Hawaii, University of Chiliなど
Causal realization of rate-independent linear damping using first-order digital filter 長周期構造物の地震時過大変形の抑制に有効な複素減衰を実デバイスとして実装するための研究	五十子幸樹	Brian Phillips	メリーランド大学・米国
SATREPS「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」 メキシコ太平洋側沈み込み帯の地震空白域における地震・測地観測による地震発生リスクの評価	木戸元之	Victor M. Cruz-Atienza	メキシコ国立自治大学・メキシコ
HOBITSS ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯での総合海域観測によるスロースリップイベントの検出	木戸元之	Stuart Henry	GNS Science・ニュージーランド
Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar ミャンマーの災害対応強化と産学官連携プラットフォームの構築を目的とし、地震に対する脆弱性評価を行う。	村尾修	Khin Than Yu	ヤンゴン工科大学・ミャンマー
Global Tsunami Model 世界中の研究者が集まり、津波波源からリスク評価、社会活動まで貢献している	今村文彦 サツパシー・アナワット	Dr. Finn Lovholt	Norwegian Geotechnical Institute (NGI)
タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究(サブ課題ST2-C) 気候変動に伴うタイ国土の将来の砂浜消失予測を行いこれに対する適応策を立案する	有働恵子	Sompratana Ritphring	カセサート大学・タイ
Resilient design and performance-based rehabilitation methodology of structures with damaged energy dissipation devices レジリエントデザインと性能設計に基づくエネルギー吸収部材が損傷を受けた構造物の修復技術開発	五十子幸樹	Songtao Xue	同済大学・中国
Multiscale analysis and optimization for composite materials and structures with decoupling scheme 繊維強化複合材料の分離型マルチスケール解析およびトポロジー最適化に関する新手法の開発	寺田賢二郎	Michael Kaliske	TU Dresden・ドイツ
Developing fragility functions for coastal buildings and facilities 2011年東日本大震災より被災された港周辺の建物被害データを利用し、津波被害関数を構築する	サツパシー・アナワット	Assoc. Prof. Adam Switzer	南洋理工大學・シンガポール
The Project for Technical Development to Upgrade Structural Integrity of Buildings in Densely Populated Urban Areas and its Strategic Implementation towards Resilient Cities ダッカにおける耐災害化を実現するために地震に対する建物の脆弱性評価を行う。	前田匡樹 村尾修	ムハンマド アブ サデク	住宅建築研究所・バングラデシュ
地形乱流場における飛砂メカニズムの解明 飛砂を考慮した長期砂浜変形モデル構築のための国際共同研究を行う	有働恵子	Roshanka Ranashinghe	UNESCO-IHE Delft・オランダ
A tuned viscous mass damper incorporated into coupled wall system 同調粘性マスダンパー制振システムを曲げ変形が卓越する構造物に適用するためのcoupled wall systemの開発	五十子幸樹	Xiaodong Ji	清華大学・中国
Applications of tsunami researches and non-structural measures in Thailand タイにおける津波防災研究・活動	サツパシー・アナワット	Dr. Natt Leelawat	チュラロンコン大学・タイ
Tsunami warning and evacuation in Thailand 2004年インド洋津波の被災地であるタイ南部における津波避難シミュレーションを用いた津波避難研究	サツパシー・アナワット	Prof. Pennung Wanitchai	アジア工科大学院・タイ
よりよい生活再建にむけた移転再定住計画プロセスの解明: 台風ハイアン被災地を対象に フィリピンの防災制度の歴史的進展と、台風ハイアン以降の防災制度・組織強化の研究	井内加奈子	Renato Solidum Jr.	フィリピン地震火山研究所・フィリピン
噴火と原発事故からの広域避難をめぐる住民組織の役割と変容に関する比較社会学的研究 インドネシア・日本での火山噴火や原発事故からの広域避難時の住民組織の役割と変容に関して比較社会学の観点から研究する。	杉安和也	I Made Budiana	ウダヤナ大学・インドネシア
巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化 巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化	今村文彦 山下啓	ルアンラッサミー・アナット	モロトゥワ大学・スリランカ
Tsunami-induced sediment transport 非静水圧津波モデルと土砂移動モデルのカップリングによる津波土砂移動解析の高度化	山下啓	Kwok Fai Cheung	ハワイ大学・米国
レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組構築に向けた研究 ハリケーンサンディによる被災から5年経過のNY都市圏での復興過程を、その他国際的な被災地域での再建と比較対照し、移転・再定住を通して減災を目指す地域復興の計画的枠組みを検討する共同研究	井内加奈子	John Mutter	コロンビア大学・米国
Data-driven approach for microstructure characterization and mechanical performance assessment of composite materials 不確実性を考慮した数値解析の結果に基づく複合材料の材料特性評価について、実務レベルの設計・開発に対して有益な枠組みを提案	寺田賢二郎	Han Tong-Seok	延世大校・韓国

課 題 名・概 要	本学研究代表者名 所内実施者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
POD-based probabilistic disaster risk assessment 固有直交分解を用いた代理モデルを構築し、計算コストが低下した状態でモンテカルロシミュレーションを実施して確率論的リスク評価手法を構築する。	寺田賢二郎	Latcharote Panon	タマサート大学・タイ
Implementation of Technology in Disaster Health Management モバイルデバイスによる災害医療教育、母子保健教育、ワクチン接種推進が災害医療啓蒙に果たす効果の検証	江川新一	Allya Koesoema	バンドン工科大学・インドネシア
ハーバード大学とのAPI連携に関する研究 国内の自然災害に関するアーカイブデータを東北大のサーバシステムで集約し、それをハーバード大とのシステム連携を行う研究である。	柴山明寛	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学・米国
「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」確立に向けた国際共同研究：東京・台北における私立校教職員への調査 「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」の確立を目指し、1)災害発生直後の避難誘導・避難所受入れ、2)避難所生活での関連死・重症化等、特に身体的弱者等の被害減減に向けて、深刻な被害が予測される国際都市「東京・台北の私立校教職員」への感染症等の知識に関する調査を実施する。	佐藤健	Chia-Kwung Fan	台北医学大学・台湾
地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト マレーシアスランゴール州において、災害リスク理解とコミュニティ主体の防災体制の確立を目指す。	泉貴子	Khamarrul Azahari Razak	マレーシア工科大学・マレーシア
エジプトにおける気候変動の沿岸域への影響評価と適応策に関する研究 気候変動に伴うエジプト全土の将来の砂浜消失予測を行いこれに対する適応策を立案する	有働恵子	Mahmoud Sharaan	Suez Canal University・エジプト
Global tsunami risk assessment WRNで世界中の津波において波源から伝播計算、浸水計算、リスク評価まで研究・評価する	今村文彦 サブバシー・アナワット	Makoto Goto	Willis Research Network
第二言語教育に関する認知神経科学研究 第二言語習得の専門家と認知神経科学の専門家の共同研究により、認知神経科学を応用した新しい教育技術を開発	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Kazuya SAITO	University Collage London・UK
Health Emergency and Disaster Risk Management 健康危機・災害リスク管理に対する研究課題探索のためのワークショップ	江川新一	Jonathan Abraham, Ryoma Kayano	世界保健機構(WHO)
Probabilistic risk analysis of building damage under seismic condition using surrogate models obtained from numerical simulations. 数値解析結果から得られる空間モードを利用した地震時の建物被害の確率論的リスク評価	森口周二	Panon Latcharote	マヒドール大学・タイ
Real-time hysteresis identification in structures based on restoring force reconstruction and Kalman filter A new hysteretic loop identification framework is developed upon restoring force reconstruction and the Kalman filter.	郭 佳	Wang Li	中山大学・中国
JST J-Rapid Project Meeting JST J-Rapidプロジェクトの打ち合わせ	越村俊一	Abdul Muhari	National Disaster Management Agency, Indonesia
Study on system's fundamental technologies for agent-based IoT and regional disaster prevention information system 日本と韓国における災害対応を考慮したIoTシステム開発に関する研究ミーティング	杉安和也	Yujin Lim	淑明女子大学校・韓国
Probabilistic risk analysis of tsunami using surrogate models obtained from numerical simulations. 数値解析結果から得られる空間モードを利用した津波リスクの確率論的リスク評価	森口周二	Youngjun Choe	ワシントン大学・米国
ウランバートル市建物の振動特性の分析に関する共同研究 ウランバートル市で実施している建物の地震・微動観測による振動特性評価	大野晋	Tsamba TSOGEREL	モンゴル科学技術大学・モンゴル
Cascading disasters 2011年東日本大震災を事例とした医療機関・学校を注目した連鎖災害の研究	今村文彦 サブバシー・アナワット	Prof. David Alexander	ロンドン大学・英国
震災アーカイブの教育現場での活用方法 ハーバード大開発のJDAシステムを活用した教育現場での活用方法に関するワークショップの開催	柴山明寛	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学・米国
アチェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けた新展開 アチェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用方法等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Hizir Sofyan	Syiah Kuala University・Indonesia
SEGADRES ICT技術を用いた災害対応能力向上技術の開発を目指す10カ国共同研究プロジェクトとしてH2020申請を行った	杉浦元亮	Doris Monjac	Innovation Consultant, Euroquality・France
Enhancing Remote Sensing Technology for Disaster Management 衛星画像からの建物形状情報の抽出と被害把握に向けた打ち合わせ	越村俊一	Ronald Eguchi	ImageCat, Inc.・USA

課 題 名・概 要	本学研究代表者名 所内実施者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
Resarch meeting and discussion about future collaboration about disaster recovery in US and Japan ----- Part of research collaboration on recovery with Kobe University and Texas A&M.	マリ・エリザベス	Dr. Michelle Meyer	Texas A&M・USA
SATREPS Colombia Tsunami Group Meeting ----- SATREPSプロジェクトに関する共同研究の打ち合わせ	越村俊一	Ronald Sanchez	Dirección General Marítima・Colombia
災害避難ワークショップ ----- 住民の避難システムの構築など、災害発生地域の災害管理能力強化策について議論	杉浦元亮	李在永 教授	東儀大学・韓国
東日本大震災3.11被災者と米国同時多発テロ9.11家族会の心の交流 ----- がんばろう東北 復興の折り鶴プロジェクトの8回目で、東日本大震災と9.11テロ事項の被災者の経験交流	フルコ・フラヴィア	Dr. Robert Yanagisawa Dr. Matt Katz	Mount Sinai Medical Center
Novel estimation of structural parameters using a control engineering approach ----- 防災科研とブリストル大学の共同研究に、防災科研の客員研究員として参加している。	榎田竜太	梶原浩一、David Stoten	防災科研・日本、ブリストル大学・UK
SATREPS Colombia Joint Coordinating Committee ----- SATREPSプロジェクトに関する共同研究の打ち合わせ	越村俊一	Marta Lucia Calvache V.	Servicio Geológico Colombiano・Colombia
30 innovations linking DRR with SDGs ----- 防災イノベーションとSDGsをリンクさせ、防災がSDGsの実現にどのように貢献できるかを示した。	泉貴子	Rajib Shaw, Mikio Ishiwatari, Riyanti Djalante, Takeshi Komino	慶應大学、東京大学、国連大学、CWS ジャパン
APAC2019 ----- APAC2019 (アジア太平洋海岸工学会議)の国際運営委員として会議に出席	越村俊一		Thuyloi University・Vietnam
Project Proposal Meeting (2回開催) ----- 国際共同研究プロジェクト提案のための打ち合わせ	越村俊一	Benito M. Pacheco	University of the Philippines Diliman・Philippines
Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR <sup>3</sup> Initiative) ----- 災害のリスク低減とレジリエンス向上のための環境デザインに関する知識を生成し、国際的なプラットフォームを構築することにより、理論(研究)と実践(デザイン)のより効果的な統合を目的とする。	今村文彦 村尾修	阿部仁史	カリフォルニアロサンゼルス校・米国
気候変動による移住の動機に関する研究 ----- マーシャル諸島共和国の人々が気候変動の影響により国外へ移住を決断する際の動機等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Irene Taafaki	The University of the South Pacific (USP) Marshall Islands Campus・Marshall Islands
多様な災害経験を被災地の文化として展開する活動の深蛟・継続・発信に関する研究 ----- 東日本大震災の社会的な復興の調査	マリ・エリザベス フルコ・フラヴィア ゲルスタ・ユリア	Rosemary Du Plessis	Canterbury University・UK
Aceh International Workshop and Expo on Tsunami Recovery, AIWEST-DR 2019 ----- This workshop aims at exchanging the experiences of Indonesia, Japan and beyond in dealing with disaster recover and risk reduction.	ボレー・セバスチャン	Syamsidik	Syiah Kuala University・インドネシア
中部スラウェシ地震後の移転・再定住に関する研究 ----- 中部スラウェシ地震後のコミュニティ移転・再定住、復興に関わる研究	井内加奈子	Robert Olshansky	イリノイ大学・米国
Current Situation of Fukushima Nuclear Disaster and Recovery Challenges: Joint Meeting ----- Part of research collaboration on community recovery with UW and UCL counterparts.	マリ・エリザベス	Dan Abramson	University of Washington・米国
Resarch meeting and discussion about future collaboration on recovery after the Great East Japan Earthquake ----- Planning for research study activities held in 2020 Feb in London.	小野田泰明 マリ・エリザベス	David Alexander	University College London・UK
JST J-Rapid Project Symposium ----- JST J-Rapidプロジェクトのシンポジウムへの参加・成果発表	越村俊一		The Indonesian Science Fund (DIPF)・Indonesia
United Nations University Institute for Environment and Human Security (UNU-EHS) ----- This pleannary session aimed at discussing the possible collaboration between UNU-EHS and Tohoku Unversity in the field of human security.	杉安和也 ボレー・セバスチャン	Szarzynski Joerg	United Nation University・ドイツ
Research meetings to plan future collaboration between various fields and partners at IRIDeS and UCL ----- Research meeings, workshop, collaboration, and planning for future research projects	サンパシー・アナワット マリ・エリザベス	David Alexander	University College London・UK
生きる力質問紙英語版作成 ----- 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の英語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の英語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington・USA
Project Proposal Meeting ----- 国際共同研究プロジェクト提案のための打ち合わせ	越村俊一	Magaly Koch	Boston University・USA
Health workforce development strategy in health-EDRM: evidence from literature review, case studies and expert consultations ----- 健康危機・災害リスク管理に対する保健医療人材育成に関する国際共同研究	江川新一	Kevin Hung, Luca Ragazzoni, Gregory Ciottone	Chinese University of Hong Kong, University of Piemonte Orientale, Harvard University



(2) 国際交流実績 (受入・訪問)  
共同研究

開始年月日	終了年月日	受入訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者・実務者 ( )は所外教員
20190425	20190426	受入	東北大学の先生との打ち合わせや意見交換	仙台	日本	Jessica Alexander	Columbia University	マリ
20190427	20190427	訪問	トルコにおける「ミッドウェイ」減災デバイスの最近状況に関する資料収集	イスタンブール	トルコ	Dr. Fatih Suctu	イスタンブール工科大学	五十子
20190428	20190428	訪問	セミナーに参加	ロンドン	英国	Agathoklis Gialalis 講師	ロンドン大学シティ校	五十子
20190429	20190428	訪問	合同セミナーを実施	ロンドン	英国	Prof. David Wagg	シェフィールド大学	五十子
20190430	20190507	訪問	南太平洋大学、フィジー国立大学との研究打ち合わせおよびビティレブ島の河川・海岸視察	スバ	フィジー	Dr. Poinapen, Mr. Singh	南太平洋大学、フィジー国立大学	有働
20190522	20190522	訪問	NYCの社会歴史についてヒアリング	NYC	USA	Jacob Remes	NYU	マリ
20190529	20190604	訪問	港にある建物被害評価	シンガポール	シンガポール	Assoc. Prof. Adam Switzer	南洋理工大	サッパシー
20190608	20190609	訪問	東北大学・清華大学共同研究プロジェクト「Innovative Earthquake-resilient Structural System and Design Theory for High-Rise Buildings」のダイナミック・マス装置に関する研究打合せ	仙台市	日本	Prof. Ji Xiaodong	清華大学	五十子
20190624	20190628	受入	制振構造国際セミナー	仙台市	日本	Prof. Brian Phillips	フロリダ大学	五十子
20190701	20190725	受入	パンダアチのリングロードの減災効果	仙台市	日本	Syamsidik博士	ジャクアラ大	サッパシー
20190807	20190814	訪問	MJED (JICAモンゴル工学系高等教育支援事業) セミナー・技術指導	ウランバートル	モンゴル	Tsamba TSOGGEREL	モンゴル科学技術大	大野
20190813	20191206	受入	港にある建物被害評価	仙台市	日本	Constance Chua氏	南洋理工大	サッパシー
20190814	20190826	訪問	パンダアチのリングロードの減災効果	パンダアチ	日本	Syamsidik博士	ジャクアラ大	サッパシー
20190910	20190916	訪問	複素減衰モデルの実現による長周期構造物の地震時応答変位・加速度同時低減への挑戦の複素減衰に関する研究打合せ	上海	中国	Prof. Songtao Xue	同済大	五十子
20190918	20190921	訪問	タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究(サブ課題S2-C)	バンコク	タイ	Dr. Riiphing	カセサート大	有働
20190922	20190927	訪問	活断層の非地震性すべりの検出技術高度化の共同研究打合せ	パリ	フランス	Romain Jolivet	パリ師範学校	福島
20190924	20190925	訪問	東北大学・名古屋大学・ドレスデン工科大学の共同研究打ち合わせ	Dresden	Germany	Professor Michael Kaliske	Technische Universität Dresden	寺田
20191016	20191020	訪問	四川大地震の復興状況調査	四川省	中国	Glenn Fernandez	四川大	村尾
20191031	20191031	受入	東北大学・ワシントン大との共同研究打ち合わせ	仙台市	日本	Professor Randall J LeVeque	University of Washington	寺田
20191106	20191112	受入	2018年スラウェシ島津波、スンダ海峡津波	仙台市	日本	Abdul Muhari博士	インドネシアNational Body of Disaster Management (BNPB)	今村・サッパシー
20191112	20191113	受入	Field visit for participants of "Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Progress Reports" World Bosai Forum Scientific Session	仙台、石巻、南三陸	日本	Randall LeVeque	University of Washington	マリ・フルコ
20191114	20191114	受入	Global Centre for Disaster Statistics, Second Regional Meeting 2019	仙台市	日本	Ridwan Yunus	UNDP Indonesia	小野・江川
20191115	20191115	受入	Field visit for Current Situation of Fukushima Nuclear Disaster and Recovery Challenges: Joint Meeting	飯館村	日本	Dan Abramson	University of Washington	マリ・フルコ・ゲルス
20191116	20191116	受入	Current Situation of Fukushima Nuclear Disaster and Recovery Challenges: Joint Meeting	福島	日本	Prof. Dan Abramson	University of Washington	マリ・フルコ・ゲルス
20191119	20191119	訪問	国際共同大学院、APRUマルチハザード大との連携を協議	東京	日本	Riyanti Djalante	国連大	泉
20191125	20191127	訪問	Meeting at University of Montreal with visiting research Tamiyo Kondo	Montreal	Canada	近藤民代	神戸大	マリ
20191205	20191208	訪問	ハーバード大とのAPI連携に関する研究 震災アーカイブの教育現場での活用方法	ボストン	USA	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大	柴山
20191206	20191208	訪問	NTU with Shumei	台北	台湾	Shumei Huang	National Taiwan University	マリ
20200107	20200108	訪問	Research activities applying Geoinformatics for Disaster Management at IRiDES, Tohoku University	オレゴン	USA	Haizhong Wang	オレゴン州大	マス
20200119	20200122	訪問	ニュージーランド GNS Science での研究打ち合わせおよび観測機材の整備	ウェリントン	ニュージーランド	Prof. Stuart Henry	GNS Science	木戸
20200120	20200605	受入	2018年スラウェシ島津波、スンダ海峡津波	仙台市	日本	Elisa Lahcene氏	モンペリエ大	サッパシー
20200204	20200210	訪問	Developing Global Disaster Archives	Aceh	Indonesia	Dr. Muzailin Affan	Syah Kuala University	ホレー
20200205	20200208	訪問	自然災害アーカイブに関する研究	アチェ	インドネシア	ニザムリン先生	ジャクアラ大	柴山
20200212	20200212	受入	生きるカプロジェクトに関する情報交換	仙台市	日本	グレッツェン所長	UNESCO・四川大災害研究所	杉浦
20200215	20200216	訪問	ヤンゴンにおける住宅地開発動向に関する検証	ヤンゴン	ミャンマー	Theingi Shwe	Yangon Technological Institute	村尾
20200217	20200217	訪問	プロジェクト研究報告	ヤンゴン	ミャンマー	Theingi Shwe	Yangon Technological Institute	村尾
20200217	20200217	訪問	プロジェクト研究報告	ヤンゴン	ミャンマー	Theingi Shwe	Yangon City Development Committee	村尾
20200219	20200227	訪問	卓越大学院	ロンドン	英国	Prof. Peter Sammonds	ロンドン大	(中村)・サッパシー
20200304	20200305	訪問	東北大学・ワシントン大との共同研究および卓越大学院に関する打ち合わせ	Seattle	USA	Professor Randall J LeVeque	University of Washington	寺田

国際会議 (研究発表以外)

20190424	20190426	訪問	第7回構造工学世界会議に参加	イスタンブール	トルコ			五十子
20190511	20190517	訪問	Global Platform for Disaster Risk Reduction 2019	ジュネーブ	スイス	官房長官Kirsi氏	UNDRR	小野
20190513	20190517	訪問	2019 Global Platform for Disaster Risk Reduction	Geneva	Switzerland	Mami Mizutori	United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR)	今村・佐々木大輔
20190527	20190528	訪問	75th Session of the Economic and Social Commission for Asia and the Pacific	バンコク	タイ	Tiziana Bonapace	ESCAP	小野
201906021	20190621	訪問	"Dark Tourism" in Japan: Global, National, and Local Perspectives"	東京	日本	Prof. Andrew Gordon, Chool Hee Park, and Shunya Yoshimi	ハーバード大, Seoul National University, 東京大	ゲルス
20190617	20190617	訪問	Expert Dialogue on technologies for averting, minimizing and addressing loss and damage in coastal zones	ドイツ	ボン		UNFCCC	小野
20190619	20190621	訪問	The 14th Annual Meeting of Typhoon Committee Working Group on Disaster Risk Reduction	蔚山	韓国	Kim, Seok-hyun	Acting Director General NDMI	小野
20190619	20190621	訪問	ESCAP 第14回台風委員会年次総会	蔚山	韓国	Mr.him,Seok-hyun	ESCAP	小野
20190622	20190626	訪問	APRU総長会議(UCLA)に出席し、事務局とマルチハザードプログラムの活動について協議	ロサンゼルス	USA		UCLA	泉
20190702	20190706	訪問	International Workshop on Models for Multinational Collaboration on Disaster Resilience.	成都市	中国	Prof. Gretchen Kalonji	四川大	岩田
20190710	20190710	訪問	韓日産業技術協力財団主催の韓日協力セミナーで「事業継続力を高める日本のBCP戦略」と題して講演	ソウル	韓国	深澤すずか	韓日産業技術協力財団	丸谷
20190808	20190808	訪問	2019 Japanese Technologies Showcase Event	アンカレッジ	USA	Greg Wolf Executive Director	World Trade Center Anchorage	小野
20190822	20190824	訪問	GCDS Tripartite Meeting Bangkok Thailand	バンコク	タイ	Sanny Ramos Jegillos	UNDP	小野・佐々木大輔
20190917	20190922	訪問	APRUシニアスタッフ会議(ブリティッシュコロンビア大へ)出席し、APRUプログラムについて発表し、事務局や加盟大とMHプログラムについて議論	バンクーバー	カナダ	Christina Shonleber	APRU事務局	泉
20191014	20191018	訪問	日中分野別ハイレベル研究者交流会2019	四川・北京	中国	周 少丹	中国総合研究・極サイエンスセンター	小野
20191023	20191025	訪問	EXCOM10	ボン	ドイツ	Ms. Dawn PIERRE-NATHONIEL	UNFCCC	小野
20191125	20191127	訪問	Asian Conference on Disaster Reduction 2019 (ACDR2019)	アンカラ	トルコ	Msanori Hamada	Asian Disaster reduction Center	小野
20200124	20200126	訪問	世界災害語り継ぎフォーラム2020	神戸	日本			小野・マリ・ゲルス
20200128	20200128	訪問	International Recovery Forum 2020 Building Back Better through Resilient Infrastructure	神戸	日本		International Recovery Platform	マリ・ゲルス
20200128	20201228	訪問	International Recovery Forum 2020 Building Back Better through Resilience Infrastructure	神戸	日本			マリ
20200223	20200226	訪問	太平洋島嶼国における気候変動移民、及びハワイにおける電力貿易に関してヒアリング等を実施	Honolulu	USA	Prof. Makena Coffman	University of Hawaii at Manoa	佐々木大輔

学会・シンポジウム

20190524	20190524	訪問	第15回GISコミュニティフォーラム	東京	日本	正木千橋 代表取締役社長	ESRIジャパン株式会社	小野
20190819	20190820	訪問	The state of art of research to mitigate Wind Related Disaster(WRD)	中国	上海	曹曙陽	同濟大学	小野
20190828	20190830	訪問	ESCAP Committee on DRR Bangkok	バンコク	タイ	Sanny Ramos Jegillos	ESCAP	小野
20190901	20190907	訪問	第25回 国際博物館会議京都大会 (ICOM京都)	京都	日本	Suay AKSOY 会長	ICOM	小野
20191107	20191108	受入	AIWEST 2019	仙台市	日本	Allya Koesoema	バンドン工科大学	江川
20191109	20191110	受入	World Bosai Forum	仙台市	日本	Mugi Wahidin	インドネシア国立健康研究所	江川
20200111	20200112	受入	東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムの招聘	仙台市	日本	マリー・スー・ムリー館長	ハワイ津波博物館	柴山

視察

20190529	20190529	受入	テキサスA&M大学の東北復興視察	仙台市	日本	Prof. Michelle Meyer	Texas A&M University	マリ・井内
20190806	20190806	受入	Study tour of Tohoku area and local culture in disaster recovery	宮古、大槌	日本	Shumei Huang	National Taiwan University	マリ
20190930	20190930	訪問	フィリピン大学訪問	マニラ	フィリピン	Prof. Benito M.Pachico	University of the Philippines, Diliman	小野
20200116	20200117	訪問	フィリピン大学とのプロジェクト立ち上げに関する打合せ	マニラ	フィリピン		フィリピン大学	小野
20200210	20200210	受入	東北大学災害科学国際研究所視察	仙台市	日本	キム テハン	韓国災難情報学会	村尾
20200210	20200210	受入	福島ロボットテストフィールド視察	南相馬	日本	キム テハン	韓国災難情報学会	村尾

表敬訪問

20190418	20190418	受入	昨年10月のワークショップのフォローアップを行うとともに、災害分野に関する協力について、意見交換を行った。	仙台市	日本	Bambang副学長	インドネシア大学	マリ
20190529	20190529	訪問	台湾国立大学/国家災害防災技術中心での打ち合わせ、表敬訪問	台北	台湾	Prof. Shumei Huan	台湾国立大学	井内
20190704	20190704	受入	広域災害と住民避難に関する日本ワークショップ	仙台市	日本	Younhee Kim	東儀大学	佐藤健
20190825	20190827	訪問	ネパール政府訪問	カトマンズ	ネパール		ネパール政府	小野
20191003	20191003	受入	Model on disaster education through partnerships between school and community	仙台市	日本	劉文惠	教育部資訊及科技教育司	佐藤健

研修

20191112	20191114	受入	Tohoku-Yonsei University Student Seminar	仙台市	日本	Professor Tong-Seok Han	Yonsei University	寺田
20190610	20190610	受入	Northeastern Univのスタディーツアーで、「Disaster Management Policies and Framework in Japan」と題して講演	仙台市	日本	Prof. Daniel Aldrich	Northeastern University	丸谷
20190830	20190830	受入	わが国の災害医療体制に関する講義	仙台市	日本	Shereen Fawaz講師	Ain Sham University	江川

フィールドワーク

20190530	20190601	訪問	台湾・屏東県礼納里村での打ち合わせおよび現地調査	屏東県礼納里村	台湾	撒沙勒 台邦	義守大学	井内
20190608	20190614	訪問	Site visit and field research in Houston Texas area after Hurricane Harvey	Houston, College Station	USA	Michelle Meyer	Texas A & M	マリ
20190618	20190622	訪問	Field Survey: Kilauea Volcano, Disaster Risk and History	Honolulu, Hawaii	USA	Prof. Karl Kim	University of Hawaii	マリ
20190704	20190704	受入	Evacuation Workshop with Korea Study Group Public-Private Partnership in a Time of Disaster」と題して説明	仙台市	日本	李在永	東儀大学	丸谷
20190718	20190719	訪問	岩手大学地域(国際)防災フォーラムと神戸大の留学生研修	陸前高田	日本	北後 明彦	神戸大学	マリ
20190722	20190729	受入	University of Washington Public Health and Nursingからの教員訪問を受け入って意見交換した。	仙台、七ヶ浜	日本	Mayumi Willgerodt 准教授	University of Washington	(奥山)・マリ・フルコ
20190800	20190818	訪問	Visit to disaster affected area 20 years after the Chichi earthquake	壱里鎮	台湾		國立宜蘭國際大學	マリ
20190912	20190916	訪問	プラトーン島の津波堆積物調査と被災地復興状況の視察	プラトーン島	タイ	Ratchaneekorn THONGTHIP	International Tsunami Museum	サッパシー・山下
20190925	20190926	受入	世界銀行GFDRLRハブ東北訪問	気仙沼	日本	Julie Dana Practice Manager	世界銀行 (GFDRLR)	井内
20190925	20190929	訪問	Esercizio Modavi Protezione Civile (Italian Emergency Management Volunteer Drill)	Abruzzo	Italy	Dr. Mariena Esposito	MODAVI/GEPE NPO	フルコ
20191028	20191109	訪問	ニュージーランド GNS Science での研究打ち合わせおよび太平洋沖での調査航海	ウェリントン/太平洋沖	ニュージーランド	Prof. Stuart Henry	GNS Science	木戸
20191206	20191208	訪問	Hawaii Disaster Risk and Recovery Policy survey	Honolulu, Hilo	USA	Mariene Murray	Pacific Tsunami Museum	マリ
20200123	20200127	受入	東日本大震災後の復興状況現地踏査	仙台市	日本	Prof. Kathleen Tierney	University of Colorado, Boulder	井内
20200203	20200205	受入	阪神淡路大震災の地域復興の視察	神戸	日本	Prof. Dan Abramson, Michelle Meyer	University of Washington, Texas A & M	マリ・フルコ
20200301	20200307	訪問	Hurricane Katrina Cultural Memory in New Orleans	New Orleans	USA	Dr. Karen Leatham	Louisiana State Museum	フルコ

協定締結(更新/事前協議含む)

20190625	20190625	受入	仙台・イリノイ復興セミナー(オリンピックタウン)	仙台市	日本	高橋 友貴	仙台市まちづくり政策局	丸谷・フルコ
20191122	20191122	訪問	東日本大震災3.11被災者と米国同時多発テロ9.11家族会の心の交流	New York	USA	Dr. Robert Yanagisawa	Mount Sinai Medical Center	フルコ
20191218	20191219	訪問	Tohoku University Environmental Studies Seminar 2019 at Brawijaya University	マラン	インドネシア	Rector. Nuhfil Hanani	プラビジャヤ大学	(佐野)・杉安
20200111	20200115	受入	自然災害博物館に関する視察、国際交流、意見交換、協定と結ぶ準備	仙台、釜石市、陸前高田	日本	Mariene Murray	Pacific Tsunami Museum	マリ・グルスタ
20200205	20200205	受入	岩手県との三者連携システムの協定	盛岡市	日本	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20200227	20200227	受入	宮城県との三者連携システムの協定	仙台市	日本	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山

教育

20181201	20200331	受入	加齢医学研究所 研究生 受け入れ	仙台市	日本	丁 一	湖北大学	杉浦
20190318	20190831	受入	医学部短期研修生 研究室 受け入れ	仙台市	日本	Vidya Gani Wijaya	Atma Jaya Catholic University of Indonesia	杉浦
20190701	20190701	受入	Tohoku University STEM Summer Program 2019 (TSSP2019)	仙台市	日本	大内二三夫	プリンストン大学	(相壁)・観名
20190729	20190824	受入	医学部短期研修生 研究室 受け入れ	仙台市	日本	Atakan Berk Baloglu	メデニエット大学 医学部	杉浦
20190805	20190809	訪問	International Week 2019 - Disaster Science: Modeling and Applications for Disaster Risk Reduction	リマ	ペルー	Michelle Rodriguez	パシフィコ大学	マス
20191001	20191007	受入	都市・建築設計II 金山スタジオ	山形県金山町		歌紅教授	華中科技大学	岩田
20200205	20200208	訪問	アチエ津波博物館との日本国内の共同展示	アチエ	インドネシア	ハフニダール館長	アチエ津波博物館	柴山
20200218	20200222	受入	生きるカプロジェクトに関するテレビ会議・メール取材	仙台市(web会議)	日本(Australia→US)	Sam Nichols	VICE Media	杉浦
20200228	20200229	受入	震災アーカイブの教育現場での活用方法	仙台市	日本	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山

教育/学生交流プログラム打合せ

20190401	20190930	受入	特別研究学生受入	仙台市	日本	Farman Ullah	Asian Institute of Technology	有働
20190518	20190624	受入	Laidlaw Undergraduate Research and Leadership Scholarship Program	仙台/台北/屏東	日本/台湾	Alena Zhang	Columbia University	井内
20190703	20190703	訪問	Preparation for UW Honors Study Abroad Program 2020 in Rome	東京	日本	Julie Villegas	University of Washington	フルコ
20191125	20191125	訪問	Meeting with Prof. Verena Blechinger-Talcott (FU Berlin)	東京	日本	Prof. Verena Blechinger-Talcott	Freie Universität Berlin	グルスタ
20191204	20191208	訪問	The Use of Disaster Archives by University Students	Cambridge	USA	Prof. Andrew Gordon	Harvard University	柴山・ボレー

その他

20190422	20190422	訪問	Stony Brook Universityでの研究打ち合わせ	仙台市	日本	Prof. Donovan Finn	Stony Brook University	井内
20190618	20190618	受入	河北新報社による取材(生きるカプロジェクトについて)	仙台市	日本	デボン ガンター	ハーバード大学	杉浦

## 8 関係・協力団体

## 関係・協力団体一覧

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである(締結年月日順)。  
 教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については教員の自己評価報告書の項を参照のこと。

### 地方公共団体

締結年月日	団体名
平成25年 2月 8日	宮城県多賀城市
平成25年 6月25日	宮城県亘理町
平成25年 7月12日	宮城県岩沼市
平成25年 7月13日	宮城県気仙沼市
平成25年 8月21日	宮城県東松島市
平成25年12月24日	宮城県山元町
平成26年 1月 9日	宮城県仙台市
平成26年 2月 7日	岩手県陸前高田市
平成27年 8月 5日	宮城県名取市
平成29年 5月29日	宮城県石巻市
平成31年 1月21日	宮城県丸森町

### 学校

締結年月日	団体名
平成26年 9月 8日	独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校
平成28年 6月 1日	宮城県多賀城高校
平成30年 3月11日	国立大学法人宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター
平成30年 7月31日	八戸工業大学インフラ・防災技術社会システム研究センター

### その他(国立機関)

締結年月日	団体名
平成24年 4月 1日	独立行政法人科学技術振興機構(JST)
平成25年 4月24日	国立国会図書館
平成26年 9月10日	独立行政法人港湾空港技術研究所
平成27年 4月 1日	国立保健医療科学院
平成29年 2月 1日	国立研究開発法人防災科学技術研究所
平成29年 6月 7日	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科及び 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
令和 2年 3月26日	国立大学法人新潟大学災害・復興科学研究所

2019 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report 2019

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

令和 2 年 (2020 年) 8 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦

編集 東北大学災害科学国際研究所 寺田賢二郎・伊藤潔・木戸元之

中鉢奈津子・鈴木通江・福島愛子・小森光

印刷 有限会社明倫社



International Research Institute of Disaster Science